
KDDI Smart Mobile Safety Manager

管理サイト リファレンス マニュアル

最終更新日 2024 年 1 月 14 日

Document ver.1.23

(Web サイト ver.9.18.0)

変更履歴

日付	ver	変更箇所	変更内容
2018/6/28	1.0		新規作成
2018/8/20	1.1	4.1.10.2 (情報 - Android) デバイス	表にデバイス管理者権限の説明を追加
		画面 (ログメール通知の新規作成)	デバイス管理者権限の無効化ログの追加
		操作ログ	デバイス管理者権限ログの追加
2018/9/19	1.2	4.12 旧デザイン	章を追加
		Apple MDM ログ	リモートワイプコマンド完了ログを追加
		7.4.1 画面ロック	パスワードポリシーに注記を追加
		7.5.2 アプリケーション配信	Android 8.x 端末において、強制配信(サイレントインストール)ができない場合の回避方法の説明を追加
2018/10/3	1.3	4.1.10.11 (情報 - iOS) デバイス	OS アップデート情報に注記を追加
		4.4.5 [その他▼] タブ/iOS リモート操作	OS アップデートの説明を削除
2018/12/13	1.4	全体	規約に従い、表記揺れ、記号・マーク、レイアウト、参照先など統一
		4.1 一覧	各設定、操作、情報画面に〔同期〕ボタンが追加 機器一覧の機器名リンクできること表示操作に追加 各 OS のデバイス画面の表示位置が変更
		4.1.3 機器の新規作成	ゼロタッチ端末についての注記追加
		4.1.8.9 (設定 - iOS) VPN 設定	接続タイプの変更
		4.1.10.28 (情報 - Windows) セキュリティ	Windows Update、Windows Defender の説明を追加
		4.3 認証手順	Android 用エージェントの認証手順変更
		4.12.15 その他 - VPN 設定 (iOS のみ)	接続タイプの変更
		7.5.1 アプリケーション禁止	注記追加
		7.5.2 アプリケーション配信	ファイルについて説明と注記を追加
		7.6.1 Wi-Fi	詳細設定画面 (EAP 方式) 最新に変更
		7.8.4 CA 証明書管理	サイレントインストールについて注記追加
		7.10 Device Owner Mode	機能概要の説明を変更
		7.10.2 セキュリティ設定 (DOM)	項目追加
		7.10.3 アプリケーション非表示	新規追加
		7.11 ゼロタッチ登録	新規追加
		8.3.1 構成プロファイルアップロード	最新の Apple Configurator に合わせて変更および追加
		8.5.4 オリジナルアプリ登録	ipa ファイルとマニフェストファイルの説明を追加
		10.3.4 システムセキュリティ	Windows Update、Windows Defender の説明を追加
		10.3.8 機能制限/外部デバイス	使い分け方追加、選択肢の詳細変更
		10.4.1 アプリケーション禁止	ホワイトリスト、ブラックリストの説明を追加、変更 エージェントアプリについての注記追加
		10.4.2 アプリケーション配信	新規追加
		10.5.1 Wi-Fi	詳細設定画面最新に変更
		ログメール通知のサンプル	説明の追加
12.2 ログ一覧	新規ログ追加		

日付	ver	変更箇所	変更内容
		7.7.1 連絡先	説明文の修正
2019/4/25	1.5	4.1.10.2 (情報 - Android) デバイス	注記追加 説明の削除
		4.1.10.3 (情報 - Android) エージェント	詳細設定画面最新に変更 説明の追加
		4.1.10.11 (情報 - iOS) デバイス	詳細設定画面最新に変更 説明の追加 上記と重複するため前提条件を削除 説明の削除
		4.1.10.20 (情報 - Mac OS) デバイス	説明の削除
		4.1.10.25 (情報 - Windows) デバイス	説明の追加 説明の削除
		4.1.10.26 (情報 - Windows) エージェント	説明の削除
		4.1.10.28 (情報 - Windows) セキュリティ	詳細設定画面最新に変更 説明および注記の追加
		4.1.10.32 (情報 - Windows 10 Mobile) デバイス	説明の削除
		4.12.1 旧デザインで利用する	説明の削除
		画面 (機器の Apple ID 変更による再度参加依頼)	説明の追加
		7.5.1 アプリケーション禁止	説明の追加 説明の削除
		7.6.3 Web フィルタリング	説明の追加 説明の削除
		7.9.3 ゾーンポリシー構成	説明の削除
		7.10.2 セキュリティ設定 (DOM)	説明の削除
		画面 (エージェント共通管理)	説明の追加
		8.5.1.3 [書籍] タブ	説明の削除
		8.5.3 管理対象アプリポリシー	説明の追加
		8.5.4 オリジナルアプリ登録	説明の追加
		8.5.5 App Configuration	説明の削除
		8.5.8 アプリカタログアプリカタログ	新規追加
		8.5.9 アプリケーション検知	説明の削除
		8.6.1 Web フィルタリング	説明の追加
		8.6.2 Web 閲覧履歴	説明の追加
		8.7.1 ローミング設定	説明の削除
		10.3.2 暗号化	説明の削除
		10.3.9 機能制限 / CD/DVD / ブルーレイ	説明の削除
		10.4.1 アプリケーション禁止	説明の削除
		画面 (ログメール通知の新規作成)	説明の削除
		11.4 ポータル表示	説明の削除
		操作ログ	説明の追加
13.4 Android エージェント個別管理	説明の削除		

日付	ver	変更箇所	変更内容
2019/12/5	1.6	4.1.8.4 (設定 - Android) クライアント証明書	端末側利用条件の修正
		4.1.8.7 (設定 - iOS) クライアント証明書	説明の修正
		4.1.10.2 (情報 - Android) デバイス	注記追加
		4.5 入力項目のカスタマイズ	説明の修正
		4.1.8.13 (設定 - Windows) 設定テンプレートの割り当て	説明の追加
		4.1.9.21 (操作 - Windows) リモートワイプ	項目の追加
		4.1.10.2 (情報 - Android) デバイス	項目の追加
		4.1.10.6 (情報 - Android) 位置	測位情報追加
		4.1.10.11 (情報 - iOS) デバイス	項目の追加
		4.1.10.25 (情報 - Windows) デバイス	項目の追加
		4.10 CSV でクライアント証明書紐付け (iOS のみ)	説明追加
		・ 設定バックアップ	注記追加
		7.4.1 画面ロック	項目追加
		7.4.4 Secure Shield	注記追加
		7.4.7 機能制限/発信先制限	注記削除
		7.5.7 Android Enterprise/個別アプリケーション	説明修正、旧アプリ構成の説明追加
		7.5.9 Android Enterprise/アプリ権限ポリシー	名称変更
		7.6.3 Web フィルタリング	注記追加
		7.10.3 アプリケーション非表示	注記追加
		8.4.2 ADE 定義プロファイル	注記追加
		8.5.8 アプリカタログ	注記、ヒント追加
		8.8.3 クライアント証明書一括削除	説明追加
		10.3.8 機能制限/外部デバイス	説明追加
		10.3.9 機能制限/CD/DVD/ブルーレイ	注記追加
		10.5.3 プロキシ	項目追加
		12.2 ログ一覧	最新に更新
		7.5.6 Android Enterprise/アプリケーション配信	表注記修正
		4.6.3 メッセージの即時配信	表名称修正 (他同様箇所も修正)
		3.3 個人設定	表名称修正 (他同様箇所も修正)
		2019/12/24	1.7
2020/1/30	1.8	全体	Windows 7 の記載削除 Internet Explorer 11 のみに変更
2020/6/18	1.9	全体	機器を端末に変更
		7.12 Samsung Knox	新規追加

日付	ver	変更箇所	変更内容
		本マニュアルの見かた	注記追加
		Apple MDM ログ	ログ追加
		4.1.3 機器の新規作成	注記追加
		4.1.8.9 (設定-iOS) VPN 設定	接続タイプを追加 ◆事前準備に表を追加
		4.1.9.21 (操作-Windows) リモートワイプ	説明追加 注記修正
		4.1.10.2 (情報-Android) デバイス	注記追加
		4.1.10.11 (情報-iOS) デバイス	注記追加
		4.1.10.28 (情報-Windows) セキュリティ	ウイルスバスター削除
		4.1.10.29 (情報-Windows) 位置	位置情報測位契機の条件を追加
		4.4 全機器一括設定	前提条件の事前準備を削除
		4.4.7 [その他▼] タブ/Windows リモート操作	Windows リモート操作の注記追加
		4.12.9.17 リモートワイプを行う (Windows)	注記追加
		4.12.15 その他-VPN設定(iOSのみ)	接続タイプ追加
		4.12.19 その他-Microsoft Update 更新プログラム	注記追加
		7.5.7 Android Enterprise/個別アプリケーション	注記文修正
		7.7.1 連絡先	電話番号に注記追加
		画面 (端末名称変更)	新規追加
		8.3.1.4 [iOS 制限設定] タブ	注記追加 iOS アップデート公開日と遅延期限の一例を追加
		8.4.2 ADE 定義プロファイル	項目追加
		8.5.5.1 エージェント自動認証時の設定値	サーバーURL を管理サイトの URL に変更
		8.5.8 アプリカタログ	注記修正
		10.3.1 画面ロック	注記修正
		10.3.8 機能制限/外部デバイス	注記追加 取り外し可能なデバイスの確認方法を追加
		ホワイトリスト形式の利用に関する重要な注意事項	ホワイトリストへの切り替え方修正
		10.4.2 アプリケーション配信	注意追加
		10.5.2 Wi-Fi フィルタリング	注記追加
		全体	デバイス管理パックの注記や説明を削除
2020/9/17	1.10	はじめに	商標についてに説明追加
		4.1.10.6 (情報-Android) 位置	NETMAP 終了に伴い、地図画像を Google マップに修正
		4.1.10.15 (情報-iOS) 位置	
		4.1.10.29 (情報-Windows) 位置	
		4.1.10.34 (情報-Windows 10 Mobile) 位置	

日付	ver	変更箇所	変更内容
		4.12.7 位置 (Android / iOS / Windows)	
2021/2/21	1.11	全体	各機能に上限値件数を追加
		全体	DEP を ADE に名称変更 VPP を「App とブック」に名称変更
		8.5.3 管理対象アプリポリシー	省データモードについての注記を追加、修正
		8.5.6 アプリケーション配信	
		1.3 管理サイトの役割	機器カスタム項目、ユーザーカスタム項目の記載を変更
		8.4.3 ADE 機器管理	[操作] の説明を追加
		8.3.1 構成プロファイルアップロード	Mac OS 端末につて、注記から削除
		10.5.4 お気に入り	注記追加
		3.1 ダッシュボード	Apple Push 証明書登録、ADE トークン登録の時間切れの項目を削除
		4.4.5 [その他▼] タブ/iOS リモート操作	位置情報取得、紛失モード解除の説明を変更
		4.1.3 機器の新規作成	MAC アドレスについての説明を変更
		4.1.10.11 (情報-iOS) デバイス	
		4.12.1.1 機器を新規作成する	
		10.3.6 SIM 抜き差し監視	機能目的を修正、注意追加
		ロック画面が表示される条件	新規追加
		画面 (カテゴリフィルタリングを使用する場合)	閲覧を禁止するカテゴリの注記を修正
		4.12.12.4 単一の機器に設定セットを適用する	注記修正
		11.8 かんたん初期設定	注記追加
		4.1.10.13 (情報-iOS) アプリケーション	「アップデート可能」について説明追加
		7.5.2 アプリケーション配信	注記追加
		7.5.6 Android Enterprise / アプリケーション配信	アプリ構成適用に関する記述追加と画像の修正
		10.3.5 Windows 情報保護	新規追加
		11.7 Windows 情報保護共通設定	
		13.8 Windows 情報保護イベントログ	
		7.4.5 ウイルス対策機能	端末側利用条件を追加
		7.10.2 セキュリティ設定 (DOM)	アカウント制限に注記追加
		全体	誤字脱字、記載ミスなどの修正 文言、文体などの統一
2021/7/25	1.12	全体	OS バージョンに関わる箇所の以上を以降に修正 OS バージョンに小数点以下を付けることに統一 Windows 10 Mobile 削除
		4.9 CSV で削除	新規追加
		7.10.2 セキュリティ設定 (DOM)	セクション全体を修正
		10.3.2 暗号化	確認手順を追加

日付	ver	変更箇所	変更内容
		10.3.4 システムセキュリティ	Windows Update を修正
		4.3 4.3 認証手順	G Suit について注記追加
		7.5.5 Android Enterprise	端末側利用条件を修正
		7.5.1 アプリケーション禁止	端末の挙動について追加
		7.10.3 アプリケーション非表示	
		8.3.1.4 [iOS 制限設定] タブ	制限の変更を許可(監視対象のみ)に注記追加
		8.3.2 構成プロファイル	操作の注記修正
		Apple MDM ログ	構成プロファイルインストールログに注記追加
		8.5.8 アプリカタログ	カタログ配信対象に注記追加
		10.1 管理アプリの通信と動作	ライセンス認証オプションに注記追加
		8.5.3 管理対象アプリポリシー	アプリのバージョンアップに注記追加
		8.3.1.7 [その他▼] タブ/証明書設定	証明書設定の説明を修正
		12.1 ログ画面の見かた	注記追加
		7.8.1 クライアント証明書管理	注記追加
		4.1.10.11 (情報-iOS) デバイス	Wi-Fi MAC アドレスに注記追加
		7.8.1 クライアント証明書管理	ファイル名について注記追加
		7.8.2 クライアント証明書一括アップロード	
		Android エージェントログ	クライアント証明書ログ追加
		iOS エージェントログ	
		Windows エージェントログ	
		8.5.6 アプリケーション配信	注記追加
		4.4 全機器一括設定	注記追加
		4.7 CSV で追加	CSV ファイルの項目追加
		8.4.2 ADE 定義プロファイル	画面説明の項目追加
		4.1.10.13 (情報-iOS) アプリケーション	注記追加 バージョン説明変更
		4.1.8.8 (設定-iOS) Exchange (ActiveSync) 設定	注記修正 認証に OAuth を使用を追加に伴い、設定項目の詳細を記載
		4.7 CSV で追加	インポート用の CSV ファイルの項目に認証に OAuth を使用を追加
		4.12.14 その他 - Exchange (ActiveSync) 設定	注記追加
		4.1.8.3 (設定-Android) パッケージ	注記追加
		4.12.8.1 オプションパッケージを割り当てる/解除する	注記追加
		4.11.3 アプリケーションレポート (高速版)	セクション追加
		8.5.5 App Configuration	設定値の入力項目追加
		4.1.4 機器の管理情報	エラー一覧追加
		4.1.8.11 (設定-iOS)「App とブック」設定	
		4.7 CSV で追加	
		4.8 CSV で編集	

日付	ver	変更箇所	変更内容
		4.10 CSV でクライアント証明書紐付け (iOS のみ)	
		4.12.17 その他 - 「App とブック」設定 (iOS のみ)	
		画面 (App ライセンスの付与)	
		6.1.1 [管理] タブ	
		6.1.4 [その他▼] タブ / 「App とブック」	
		7.5.1 アプリケーション禁止	
		7.6.3 Web フィルタリング	
		8.4.3 ADE 機器管理	
		8.5.4 オリジナルアプリ登録	
		8.6.1 Web フィルタリング	
		13.3 ネットワーク	
		画面 (ローカルネットワークの編集)	
2021/10/5	1.13	4.1.10.2 (情報 - Android) デバイス	ネットワークに注記追加
2022/1/19	1.14	4.1.10.6 (情報 - Android) 位置	Internet Explorer 11 の Google Maps API サポート終了について注記を追加
		4.1.10.15 (情報 - iOS) 位置	
		4.1.10.29 (情報 - Windows) 位置	
		4.12.7 位置 (Android / iOS / Windows)	
		4.12.7.1 Google マップで位置情報を表示する	
2022/2/20	1.15	7.10.4 OS アップデート (DOM)	セクション追加
		6.1.3 [その他▼] タブ / ユーザー設定	セクション追加
		8.3.1.4 [iOS 制限設定] タブ	Bluetooth 設定の変更を許可(監視対象のみ)に注記追加 ソフトウェア・アップデートの遅延: xx 日間(監視対象のみ)の説明修正
		8.3.1.8 [その他▼] タブ / グローバル HTTP プロキシ設定	グローバル HTTP プロキシ設定の注記修正 コンテンツフィルタ設定のブックマークに注記追加
		8.3.1.9 [その他▼] タブ / コンテンツフィルタ設定	
		4.1.8.11 (設定 - iOS) 「App とブック」設定	注記修正
		8.4.2 ADE 定義プロファイル	MDM 設定の注記修正、追加
		8.3.2 構成プロファイル	削除防止の説明修正
		4.1.9.14 (操作 - iOS) OS アップデート	前提条件の修正
		4.1.10.29 (情報 - Windows) 位置	前提条件を追加 位置情報測位契機の説明追加 位置情報履歴の説明修正
		4.1.10.6 (情報 - Android) 位置	前提条件を追加 位置情報測位契機の説明追加 位置情報履歴の説明修正 位置情報の諸条件に参考を追加

日付	ver	変更箇所	変更内容
		4.1.10.15 (情報-iOS) 位置	位置情報履歴の説明修正
		4.1.9.9 (操作-iOS) リモートワイプ (管理領域)	参考追加
		4.1.10.11 (情報-iOS) デバイス	ネットワーク名に注記追加 グローバル IP アドレスの説明修正
		7.4.1 画面ロック	自動ロックまでの時間に注記追加
		7.4.2 暗号化	前提条件に注記追加
		4.1.5 機器との同期	定期同期の説明修正
		8.5.9 アプリケーション検知	注記追加
		画面 (ログメール通知の新規作成)	注記追加 メール通知対象ログの説明修正
		4.1.10.13 (情報-iOS) アプリケーション	注記修正 アップデート可能に参考追加
		8.5.3 管理対象アプリポリシー	注記修正
		8.5.6 アプリケーション配信	カスタム B2B アプリケーションを配布する場合の参照先を修正
		1.4 管理サイトの動作環境	Microsoft Edge (Windows 版) 追加 Internet Explorer 11 に (2022 年 6 月 16 日サポート終了予定) を追加
		4.12.9.17 リモートワイプを行う (Windows)	URL 修正
		4.1.8.4 (設定-Android) クライアント証明書	ファイル名の項目を修正
		4.1.8.7 (設定-iOS) クライアント証明書	
		4.1.8.14 (設定-Windows) クライアント証明書	
		4.3 認証手順	afw 識別子を修正
		8.7.1 ローミング設定	注記追加
		8.5.4 オリジナルアプリ登録	アプリカタログ設定のアプリ説明文に参考追加 設定のアイコンに注記追加
		4.1.10.4 (情報-Android) アプリケーション	アプリケーションサイズに注記追加
		7.10.2 セキュリティ設定 (DOM)	音量の注記削除
		4.1.9.7 (操作-iOS) リモートロック	注記追加
		4.1.9.17 (操作-Mac OS) リモートロック	注記追加
		4.1.10.8 (情報-Android) ウイルス対策ソフト	説明追加
		Android エージェントログ	スクリーンロックパスワードトークンログに設定状況を保存に失敗を追加 OS アップデート設定(DOM)ログ追加
		4.1.10.27 (情報-Windows) アプリケーション	Windows ユーザーインストールアプリの情報も取得できる説明追加
		4.3 認証手順	Android 6.0 未満の場合 (従来版) の説明を削除

日付	ver	変更箇所	変更内容
		7.5.6 Android Enterprise／アプリケーション配信	一括送信の説明追加 配信アプリに注記追加 参考修正
		7.6.3 Web フィルタリング	カテゴリフィルタリングを使用するの説明修正
		10.3.8 機能制限／外部デバイス	インスタンスパスまたはシリアル ID を確認の手順修正
		10.3.4 システムセキュリティ	WSUS に関する注記追加
		全体	Android 12、Windows 11 についての記載を追加、画像差し替えなど
2022/6/12	1.16	全体	目次構成変更 章表紙一覧削除 全ページ「[[目次] 戻る] ボタン追加 リード文修正 「◆機能概要」「◆機能目的」タイトル削除 「◆前提条件」セクション削除(必要な内容はリード文の注記に追加) OS 共通の設定画面をすべての OS に追加 OS バージョンに関わる箇所の以降を以上に修正
		2.5 CSV ファイルの共通操作	セクション追加
		4.12 旧デザイン	詳細説明のセクション削除
		12.2 ログ一覧	ログ追加
		2.1.1 ログイン	エラー一覧追加
		4.1.5 機器との同期	
		4.7 CSV で追加	
		4.8 CSV で編集	
		4.10 CSV でクライアント証明書紐付け (iOS のみ)	
		7.11.2 機器一覧	
		7.12.2 機器一覧	
		8.4.2 ADE 定義プロファイル	
		8.4.3 ADE 機器管理	
		1.4 管理サイトの動作環境	
		4.1.10.11 (情報-iOS) デバイス	注記修正
		4.1.3 機器の新規作成	特定の OS 種別を選択した場合のシリアル番号の注記修理
		4.1.10.3 (情報-Android) エージェント	「付近のデバイス」の説明追加
		10.3.4 システムセキュリティ	説明修正、注記追加
		8.5.6 アプリケーション配信	注記追加
		7.10.2 セキュリティ設定 (DOM)	注記変更
		8.3.1.3 [パスワード設定] タブ	説明修正
		8.3.1.4 [iOS 制限設定] タブ	説明修正
		8.3.1.13 [その他▼] タブ/Web クリップ設定	説明修正、注記追加
		7.4.1 画面ロック	注記追加
		10.3.8 機能制限／外部デバイス	注記追加、手順変更

日付	ver	変更箇所	変更内容
		7.6.1 Wi-Fi	注記追加
		4.1.10.28 (情報 - Windows) セキュリティ	注記削除
		7.8.4 CA 証明書管理	注記に参照先追加
		8.3 構成プロファイル	注記修正
		8.3.1.1 [管理] タブ	注記追加
		7.10.4 OS アップデート (DOM)	注記追加
		8.5.3 管理対象アプリポリシー	注記追加
		4.1.10.13 (情報 - iOS) アプリケーション	外部バージョン ID の説明変更
		4.1.10.14 (情報 - iOS) プロファイル	注記修正、追加
		4.1.5 機器との同期	同期情報一覧を最新に修正
		14.1 各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作	注記追加 Android 端末の機能追加
		2.4.1 新規作成	規約に従い、同一画面の画像を修正
		2.4.2 編集	
		2.4.3 複製	
		4.1.9.5 (操作 - Android) Google Play ストアのキャッシュ削除	セクション追加
		4.4.4 [その他▼] タブ / Android リモート操作	Google Play のキャッシュ削除追加
		4.12 旧デザイン	FAQ の参照を修正
2022/7/24	1.17	全体	Internet Explorer 11 サポート終了に伴い、記載削除および注記追加 Google Play の表記を Google Play ストアに統一
		10.3.4 システムセキュリティ	◆システムセキュリティ項目に参考を追加
		7.5.8 Android Enterprise / 企業許可アプリ	セクション追加
		7.5.5 Android Enterprise	手順変更に伴い、全体的に修正
		7.5.6 Android Enterprise / アプリケーション配信	
		7.5.7 Android Enterprise / 個別アプリケーション	
		本マニュアルの見かた	注記追加
		12.2 ログ一覧	Android Enterprise 企業許可アプリログ追加
		7.6.5 お気に入り	注記を追加
2022/10/25	1.18	8.5.6 アプリケーション配信	Store ID の上限値を修正
2022/11/20	1.19	はじめに	全改修
		4.1.10.6 (情報 - Android) 位置	ネットワーク接続の説明に 4G/LTE、5G 追加
		4.2.1 ネットワークマップの見かた	
		4.11.1 機器レポート	「レポート作成結果の項目」追加
		7.4.5 ウイルス対策機能	アプリ固有のストレージの注記追加
		7.4.10 機能制限 / Bluetooth	Bluetooth について注記追加
		7.10.2 セキュリティ設定 (DOM)	

日付	ver	変更箇所	変更内容
		4.1.10.13 (情報-iOS) アプリケーション	端末内蔵アプリについて注記修正
		8.5.6 アプリケーション配信	バックアップの説明修正
		8.5.8 アプリカタログ	
		4.1.9.2 (操作-Android) リモートロック	鳴動について注記追加
		7.6.3 Web フィルタリング	カテゴリフィルタリングを使用する場合に参考追加
		8.6.1 Web フィルタリング	
		8.3.1 構成プロファイルアップロード	Apple Configurator に追従 項目名など変更、画像差し替え
		8.3.1.1 [管理] タブ	
		8.3.1.2 [一般] タブ	
		8.3.1.3 [パスコード設定] タブ	
		8.3.1.4 [iOS 制限設定] タブ	
		8.3.1.5 [Wi-Fi 設定] タブ	
		8.3.1.6 [その他▼] タブ/メール設定	
		8.3.1.7 [その他▼] タブ/証明書設定	
		8.3.1.8 [その他▼] タブ/グローバル HTTP プロキシ設定	
		8.3.1.9 [その他▼] タブ/コンテンツフィルタ設定	
		8.3.1.10 [その他▼] タブ/ドメイン設定	
		8.3.1.11 [その他▼] タブ/VPN 設定	
		8.3.1.13 [その他▼] タブ/Web クリップ設定	
		8.4.2 ADE 定義プロファイル	
		8.5.6 アプリケーション配信	セクション追加追加 注記追加
		8.5.7 シングル APP モード(監視対象のみ)	
		4.1.1 機器一覧	
		4.1.7 機器の個別削除	
		4.9 CSV で削除	
		4.12.2 機器を削除する	
		4.12.3 機器をまとめて削除する	
		7.5.6 Android Enterprise/アプリケーション配信	自動アップデート設定の説明追加
		7.5.7 Android Enterprise/個別アプリケーション	アプリケーションへの権限移譲の説明追加
		8.5.5 App Configuration	App Configuration の説明追加
		8.5.6 アプリケーション配信	
		8.5.8 アプリカタログ	
		8.3.1.15 [その他▼] タブ/変数項目と反映状況	セクション追加
		4.11.3 アプリケーションレポート(高速版)	出力情報について説明追加

日付	ver	変更箇所	変更内容
		4.1.10.3 (情報 - Android) エージェント	アプリの権限通知の説明追加
		7.11 ゼロタッチ登録	Wi-Fi 専用端末について注記追加
		7.11.2 機器一覧	
		7.5.2 アプリケーション配信	従来版サポート終了の注意追加
		7.5.4 App Manager	
		4.1.10.5 (情報 - Android) アプリ構成	セクション追加
		4.1.8.4 (設定 - Android) クライアント証明書	アプリ名とプロダクト ID 追加
		7.10.5 ファクトリーリセット保護 (DOM)	セクション追加 ファクトリーリセット保護の項目など追加
		4.1.9.4 (操作 - Android) リモートワイプ	
		4.1.10.2 (情報 - Android) デバイス	
		4.4.4 [その他▼] タブ/Android リモート操作	
		13.6 Android リモートワイプ	
		12.2 ログ一覧	ログ追加
		11.1 通知設定	メール送信先に参考追加
		11.8 かんたん初期設定	サービス企業の注記削除
		7.4.3 位置情報管理	エージェント起動時のみ測位の説明修正
		4.1.5 機器との同期	同期情報一覧に新機能追加
		8.3.1.4 [iOS 制限設定] タブ	App Store からの App のインストールを許可(監視対象のみ)に注記追加
2023/3/26	1.20	4.1.1 機器一覧	表内項番 8 の「電話番号」に説明文を追加
		4.1.4 機器の管理情報	表内項番 5 の「電話番号」に説明文を追加
		4.1.5 機器との同期	注意文の時間を修正 表内 Android 項目と iOS 項目に「SIM 情報」項目を追加
		4.1.10.2 (情報 - Android) デバイス	画像を差替え 表内項番 4 の記載の一部を新設の項番 5 へ移動
		4.1.10.11 (情報 - iOS) デバイス	画像を差替え 表内項番 4 の記載の一部を新設の項番 5 へ移動 表内項番 9 の説明を修正
		4.12 旧デザイン	表内項番 3 の説明を修正
		7.4.1 画面ロック	表内項番 4 の説明を修正 表内項番 4 と 5 の記載位置を変更
		7.4.11 機能制限/USB	パンくずリストを修正
		8.6.2 Web 閲覧履歴	表内項番 3 に説明を追加
		7.4.1 画面ロック	画面、説明とも「すべての通知」を「全ての通知」に変更
		7.5.3 アプリケーション検知	「すべて」を「全て」に変更に伴い、バージョン条件の説明を修正
		4.1.10.3 (情報 - Android) エージェント	エージェント種別の説明変更

日付	ver	変更箇所	変更内容
		4.1.10.16 (情報-iOS) ADE	ユーザー種別による挙動について追加
		8.4.3 ADE 機器管理	
		4.1.10.2 (情報-Android) デバイス	位置情報の説明を変更
		7.9.1 ゾーン	軽度の説明を変更
		10.8.1 ゾーン	
		4.1.1 機器一覧	組織の説明変更
		7.10.2 セキュリティ設定 (DOM)	注記追加、各種項目の説明変更
		4.1.8.11 (設定-iOS)「Appとブック」設定	追加できるアプリ、書籍の上限数を追加
		5.1.3 [「Appとブック」設定] タブ	
		6.1.4 [その他▼] タブ/「Appとブック」設定	
		8.5.2 「Appとブック」設定テンプレート	
		8.5.8 アプリカタログ	
		8.3.1.13 [その他▼] タブ/Web クリップ設定	不要な説明削除
		8.3.1.5 [Wi-Fi 設定] タブ	非公開ネットワーク、キャプティブネットワーク、プロキシ設定、QoS マーキングの説明変更
		4.1.9.21 (操作-Windows) リモートワイプ	Windows 8.1 の説明削除
		4.1.10.29 (情報-Windows) 位置	
		4.4.7 [その他▼] タブ/Windows リモート操作	
		10.1 管理アプリの通信と動作	
		10.3.2 暗号化	
		10.3.3 位置情報管理	
		10.3.4 システムセキュリティ	サポート範囲の注記修正
		10.8 MS-MDM	MS-MDM 機能のサポート終了の注記追加
		14.1 各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作	iOS 端末、Windows 端末に機能名追加
		8.3.1.14 [その他▼] タブ/モバイル通信設定	セクション追加
		8.3.1.4 [iOS 制限設定] タブ	「●Appからのトラッキング要求を許可」を「●Appからのトラッキング要求を禁止」に修正。 説明文中の「許可」を「禁止」に修正。
2023/6/6	1.21	10.8 MS-MDM	セクション削除
		全体	MS-MDM の記載を削除
2023/8/6	1.22	全体	構成変更に伴う参照先の修正 旧 G Suite の記載を削除 G Suite を Google Workspace に修正
		はじめに	名称・呼称、用語集を追加 商標登録修正
		8.3.1.15 [その他▼] タブ/変数項目と反映状況	注記追加

日付	ver	変更箇所	変更内容
		8.3.1.5 [Wi-Fi 設定] タブ	注記追加 セキュリティの種類説明修正
		8.5.5 App Configuration	注記追加
		10.4.2 アプリケーション配信	注記追加
		7.8.2 クライアント証明書一括アップロード	注記追加
		8.8.2 クライアント証明書一括アップロード	注記追加
		10.7.2 クライアント証明書一括アップロード	注記追加
		7.9 Zone Management	参考追加
		10.8 Zone Management	
		8.5.6 アプリケーション配信	表内●管理の記載を修正
		8.5.8 アプリカタログ	
		2.1.4 期限切れパスワードの更新	手順修正
		全体	SIM ステータス変更検知新規追加
		8.3.1.15 [その他▼] タブ/変数項目と反映状況	変数（表項目）追加、画像差し替え
		8.3.1.5 [Wi-Fi 設定] タブ	用語集の参照削除
		10.3.2 暗号化	画像差し替え
		7.10.5 ファクトリーリセット保護 (DOM)	注記修正
		10.3.4 システムセキュリティ	◆システムセキュリティ項目に補足追加
		4 機器	機器名、通信日時、同期の表行削除（4.1.2 機器の詳細画面除く）
2024/1/14	1.23	全体	規約に従い、表記揺れなど統一
		12.2 ログ一覧	ログの追加、修正、削除
		4.1.9.21 (操作 - Windows) リモートワイプ	BitLocker の説明を修正
		4.4.7 [その他▼] タブ/Windows リモート操作	
		10.3.1 画面ロック	
		8.1 管理アプリの通信と動作	「画面 (MDM 構成プロファイル共通管理)」リード文を修正
		7.4.3 位置情報管理	「エージェント起動時のみ測位する」の説明を修正
		4.1.8.4 (設定 - Android) クライアント証明書	注記を修正、画面差し替え 「証明書を使用するアプリ名」に参考を追加
		7.4.1 画面ロック	「自動ロックまでの時間」に注記、参考を追加
		8.3.1.5 [Wi-Fi 設定] タブ	「画面 (エンタープライズ設定 (プロトコル))」の「受け入れた EAP の種類」に参考を追加
		10.3.8 機能制限/外部デバイス	注記を追加
		10.3.4 システムセキュリティ	「Windows Update」の「リリース プレビュー」の説明を修正

日付	ver	変更箇所	変更内容
		7.3 設定バックアップ	「バックアップ・復元項目一覧」の備考に Android 13 以上の制約を追加
		4.1.10.11 (情報-iOS) デバイス	「SIM 情報」「ローミング」「その他情報」パネルの項目の追加、削除、修正
		4.1.10.14 (情報-iOS) プロファイル	「構成プロファイルの詳細」「プロビジョニングプロファイルの詳細」説明の修正、追加
		4.1.10.16 (情報-iOS) ADE	「ADE プロファイル割り当て日時」の項目追加
		8.4.3 ADE 機器管理	
		4.11.2 アプリケーションレポート	「App Configuration」での抽出項目追加
		4.11.3 アプリケーションレポート (高速版)	
		4.11.4 プロファイルレポート	セクション追加
		8.3.1.9 [その他▼] タブ/コンテンツフィルタ設定	画面の注記削除、項目の修正、追加
		8.3.1.11 [その他▼] タブ/VPN 設定	「画面 (接続タイプ: IKEv2)」セクション追加
		4.1.8.9 (設定-iOS) VPN 設定	「IKEv2」追加
		8.5.3 管理対象アプリポリシー	
		8.3.1.12 [その他▼] タブ/通知	セクション追加
		8.3.1.13 [その他▼] タブ/Web クリップ設定	「削除を許可」「マニフェストの範囲を無視」「アプリケーション ID (Bundle Identifier)」項目追加
		4.1.9.15 (操作-iOS) リモート再起動	セクション追加
		4.1.9.16 (操作-iOS) リモートシャットダウン	
		4.4.5 [その他▼] タブ/iOS リモート操作	「リモート再起動」「リモートシャットダウン」追加
		8.5.7 シングル APP モード (監視対象のみ)	iPad についての注意を追加
		8.5.1.2 [アプリケーション] タブ	[更新] に参考を追加
		8.5.1.3 [書籍] タブ	

はじめに

本マニュアルでは、KDDI Smart Mobile Safety Manager（以下、本製品と呼ぶ）の操作ほか、各機能の概要、画面の説明、設定操作について説明しています。

また、要点となる各種の内容を以下に記載しています。これらの内容をご理解のうえ、マニュアルをお読みください。

名称・呼称

本マニュアルに登場する特定の企業、人について、以下の定義で記載しています。

名称	説明
サービス企業	本製品を提供する企業。
管理者	本製品の管理サイト（機器の管理・運用を行う Web サイト）を運用する者。
端末使用者	本製品で管理している端末を使用する者。
システム管理者	企業の社内システム（サーバー・インフラなど）を管理する者。

注意・ポイントマーク

操作を行う場合に注意する点や、操作のポイントとなる点を示す場合は、以下のマークで記載しています。

マーク	説明
	データの破損や消失など、特に注意していただきたい内容を記載しています。
	操作のポイントや知っておくと便利な内容を記載しています。

記号

画面に表示されるボタンやメニュー、キーボードのキーなどを示す場合は、以下の記号で記載しています。

マーク	説明
[]	ボタン、メニュー、タブ、リンク、チェックボックス、ラジオボタンなどの名称を示しています。
「 」	画面名、機能名、項目名、マニュアル内の参照先などを示しています。
『 』	マニュアルや資料などの名称を示しています。
< >	キーボードなどのハードキー名称（スペースキーは〈スペース〉と表記）を示しています。

参照マーク

他のマニュアルや他のページへなどの参照を示す場合は、以下のマークで記載しています。

マーク	説明
	他のページや Web サイトへの参照を示しています。クリックすると該当箇所にジャンプします。
	セクション内の画面への参照を示しています。クリックすると該当の画面にジャンプします。
	他のマニュアルや資料への参照を示しています。

用語集

不明な用語については、『よくあるご質問 (FAQ)』を参照してください。

 <https://smsmfaq.smartmanager.jp/kddiproduct/ausl/web/knowledgeList.html?keyword=%E7%94%A8%E8%AA%9E%E9%9B%86%E4%B8%80%E8%A6%A7&searchMethod=0&searchCondition=0&searchCategory=1&searchItem=1&searchTag=1>

オプション機能

オプション機能は、オプション契約をした場合に使用できる機能です。

本マニュアルでは、オプション機能の説明の見出しに **オプション** (オプションマーク) を表示しています。



免責事項

- 本マニュアルは、ユーザー種別が [管理者] のユーザーを対象としています。[管理者] 以外のユーザー種別でログインした場合は、操作が制限されます。
- iPad OS の操作は iOS と同様です。差異がある場合は iPad OS 用の記載をしています。
- 画面上的バージョン表記は、実際の表示と異なる場合があります。
- 本マニュアルに記載されている Web サイトの URL は、予告なく変更される場合があります。
- OS のバージョンやブラウザにより、一部の画面や操作が異なる場合があります。本マニュアルでは、Google Chrome を例に説明しています。

商標登録

- Apple、iPad、iPadOS、iPhone、Mac、macOS は、米国およびその他の国で登録された Apple Inc.の商標です。
- iOS は、Apple Inc.の OS 名称です。
IOS は、Cisco Systems, Inc.またはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- App Store は、Apple Inc.のサービスマークです。
- Android、Google Chrome、Google Cloud、Google マップ、Google Play、Google Workspace は、Google LLC の商標です。
- Microsoft、Microsoft Edge は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他記載の会社名、製品名は、各社の登録商標および商標です。

目次

[1 KDDI SMSM とは](#)

[2 基本操作](#)

[3 ダッシュボード](#)

[4 機器](#)

[5 ユーザー](#)

[6 組織](#)

[7 設定 - Android](#)

[8 設定 - iOS](#)

[9 設定 - Mac OS](#)

[10 設定 - Windows](#)

[11 サービス環境設定](#)

[12 ログ](#)

[13 サイトマップ](#)

[14 付録](#)

1 KDDI Smart Mobile Safety Manager とは	28
1.1 概要	29
1.2 特徴	29
1.3 管理サイトの役割	30
1.4 管理サイトの動作環境	31
2 基本操作	32
2.1 ログイン／ログアウト	33
2.1.1 ログイン	33
2.1.2 ログアウト.....	37
2.1.3 パスワードの新規発行／再発行	39
2.1.4 期限切れパスワードの更新.....	44
2.2 管理サイト画面の構成	46
2.3 管理サイトの共通操作	48
2.4 設定画面の共通操作	53
2.4.1 新規作成	53
2.4.2 編集	55
2.4.3 複製.....	57
2.4.4 削除.....	59
2.4.5 一括削除	61
2.4.6 一覧項目の操作	63
2.4.7 詳細情報の表示.....	65
2.5 CSV ファイルの共通操作.....	67
3 ダッシュボード	70
3.1 ダッシュボードの画面構成	71
3.2 お知らせ	74
3.3 個人設定	76

4 機器	78
4.1 一覧	79
4.1.1 機器一覧	79
4.1.2 機器の詳細画面	84
4.1.3 機器の新規作成	86
4.1.4 機器の管理情報	93
4.1.5 機器との同期	96
4.1.6 機器検出の情報	109
4.1.7 機器の個別削除	110
4.1.8 機器の設定	111
4.1.8.1 (設定 - Android) 設定の割り当て	112
4.1.8.2 (設定 - Android) 設定テンプレートの割り当て	114
4.1.8.3 (設定 - Android) パッケージ	115
4.1.8.4 (設定 - Android) クライアント証明書	116
4.1.8.5 (設定 - iOS) 設定の割り当て	120
4.1.8.6 (設定 - iOS) 設定テンプレートの割り当て	122
4.1.8.7 (設定 - iOS) クライアント証明書	123
4.1.8.8 (設定 - iOS) Exchange (ActiveSync) 設定	126
4.1.8.9 (設定 - iOS) VPN 設定	131
4.1.8.10 (設定 - iOS) 個別構成プロファイル	135
4.1.8.11 (設定 - iOS) 「App とブック」設定	137
4.1.8.12 (設定 - Windows) 設定セットの割り当て	140
4.1.8.13 (設定 - Windows) 設定テンプレートの割り当て	142
4.1.8.14 (設定 - Windows) クライアント証明書	143
4.1.9 機器の操作	146
4.1.9.1 (操作 - Android) スクリーンロックパスワード変更	146
4.1.9.2 (操作 - Android) リモートロック	148
4.1.9.3 (操作 - Android) ロック解除	151
4.1.9.4 (操作 - Android) リモートワイプ	152
4.1.9.5 (操作 - Android) Google Play ストアのキャッシュ削除	153
4.1.9.6 (操作 - iOS) パスコード削除	154
4.1.9.7 (操作 - iOS) リモートロック	155
4.1.9.8 (操作 - iOS) リモートワイプ	156
4.1.9.9 (操作 - iOS) リモートワイプ (管理領域)	157
4.1.9.10 (操作 - iOS) 紛失モード	158
4.1.9.11 (操作 - iOS) 位置情報取得	160
4.1.9.12 (操作 - iOS) 紛失モード解除	161
4.1.9.13 (操作 - iOS) アクティベーションロック解除	162
4.1.9.14 (操作 - iOS) OS アップデート	163
4.1.9.15 (操作 - iOS) リモート再起動	164
4.1.9.16 (操作 - iOS) リモートシャットダウン	165
4.1.9.17 (操作 - Mac OS) リモートロック	166
4.1.9.18 (操作 - Mac OS) リモートワイプ	167
4.1.9.19 (操作 - Windows) リモートロック	168
4.1.9.20 (操作 - Windows) ロック解除	169
4.1.9.21 (操作 - Windows) リモートワイプ	170
4.1.10 機器の情報	172
4.1.10.1 (情報 - Android) ログ	172
4.1.10.2 (情報 - Android) デバイス	173
4.1.10.3 (情報 - Android) エージェント	178

4.1.10.4	(情報 - Android) アプリケーション.....	179
4.1.10.5	(情報 - Android) アプリ構成.....	182
4.1.10.6	(情報 - Android) 位置.....	184
4.1.10.7	(情報 - Android) Zone Management.....	187
4.1.10.8	(情報 - Android) ウイルス対策ソフト.....	188
4.1.10.9	(情報 - Android) メッセージ.....	190
4.1.10.10	(情報 - iOS) ログ.....	191
4.1.10.11	(情報 - iOS) デバイス.....	192
4.1.10.12	(情報 - iOS) エージェント.....	196
4.1.10.13	(情報 - iOS) アプリケーション.....	198
4.1.10.14	(情報 - iOS) プロファイル.....	201
4.1.10.15	(情報 - iOS) 位置.....	204
4.1.10.16	(情報 - iOS) ADE.....	207
4.1.10.17	(情報 - iOS) メッセージ.....	209
4.1.10.18	(情報 - iOS) 書籍.....	210
4.1.10.19	(情報 - Mac OS) ログ.....	211
4.1.10.20	(情報 - Mac OS) デバイス.....	212
4.1.10.21	(情報 - Mac OS) エージェント.....	214
4.1.10.22	(情報 - Mac OS) アプリケーション.....	215
4.1.10.23	(情報 - Mac OS) プロファイル.....	217
4.1.10.24	(情報 - Windows) ログ.....	219
4.1.10.25	(情報 - Windows) デバイス.....	220
4.1.10.26	(情報 - Windows) エージェント.....	224
4.1.10.27	(情報 - Windows) アプリケーション.....	225
4.1.10.28	(情報 - Windows) セキュリティ.....	228
4.1.10.29	(情報 - Windows) 位置.....	230
4.1.10.30	(情報 - Windows) Zone Management.....	233
4.1.10.31	(情報 - Windows) Microsoft Update 更新プログラム.....	234
4.2	ネットワークマップ.....	235
4.2.1	ネットワークマップの見かた.....	235
4.2.1.1	機器の種類.....	238
4.2.1.2	機器アイコン一覧.....	239

4.2.2	管理外機器を管理対象機器に設定.....	242
4.2.3	管理外機器を除外機器に設定.....	244
4.2.4	除外機器を管理外機器に設定.....	245
4.3	認証手順.....	246
4.4	全機器一括設定.....	248
4.4.1	[Android 設定] タブ.....	250
4.4.2	[iOS 設定] タブ.....	252
4.4.3	[Windows 設定] タブ.....	254
4.4.4	[その他▼] タブ/Android リモート操作.....	256
4.4.5	[その他▼] タブ/iOS リモート操作.....	260
4.4.6	[その他▼] タブ/Mac OS リモート操作.....	264
4.4.7	[その他▼] タブ/Windows リモート操作.....	265
4.5	入力項目のカスタマイズ.....	269
4.5.1	[分類] タブ.....	270
4.5.2	[自由入力] タブ.....	272
4.6	メッセージ通知.....	274
4.6.1	[メッセージ] タブ.....	275
4.6.2	[配信先] タブ.....	277
4.6.3	[スケジュール] タブ.....	278
4.6.4	[配信履歴] タブ.....	279
4.7	CSV で追加.....	280
4.8	CSV で編集.....	283
4.9	CSV で削除.....	285
4.10	CSV でクライアント証明書紐付け (iOS のみ).....	287
4.11	CSV をダウンロード.....	289
4.11.1	機器レポート.....	289
4.11.2	アプリケーションレポート.....	293
4.11.3	アプリケーションレポート (高速版).....	298
4.11.4	プロファイルレポート.....	301
4.12	旧デザイン.....	304
4.12.1	機器を新規作成する.....	307
4.12.2	機器を削除する.....	309
4.12.3	機器をまとめて削除する.....	311
4.12.4	機器と同期する.....	313
5	ユーザー.....	314
5.1	一覧.....	315
5.1.1	[管理] タブ.....	317
5.1.2	[操作] タブ.....	322
5.1.3	[[App とブック] 設定] タブ.....	323
5.1.4	[その他▼] タブ/設定.....	332
5.2	入力項目のカスタマイズ.....	333
5.2.1	[分類] タブ.....	334
5.2.2	[自由入力] タブ.....	337
5.3	CSV で追加.....	339
5.4	CSV で編集.....	341
5.5	CSV をダウンロード.....	342

6 組織	343
6.1 一覧	344
6.1.1 [管理] タブ	346
6.1.2 [Android 設定] タブ / [iOS 設定] タブ / [Windows 設定] タブ	348
6.1.3 [その他▼] タブ / ユーザー設定	351
6.1.4 [その他▼] タブ / 「App とブック」 設定	352
6.2 CSV で追加	356
6.3 CSV で編集	358
6.4 CSV をダウンロード	359
7 設定 – Android	360
7.1 管理アプリの通信と動作	361
7.2 設定テンプレート	364
7.3 設定バックアップ	368
7.4 セキュリティ	372
7.4.1 画面ロック	372
7.4.2 暗号化	377
7.4.3 位置情報管理	378
7.4.4 Secure Shield	380
7.4.5 ウイルス対策機能	384
7.4.6 機能制限	387
7.4.7 機能制限 / 発信先制限	387
7.4.8 機能制限 / カメラ	390
7.4.9 機能制限 / SD カード	391
7.4.10 機能制限 / Bluetooth	393
7.4.11 機能制限 / USB	394
7.5 アプリケーション	395
7.5.1 アプリケーション禁止	395
7.5.1.1 [設定] タブ	396
7.5.1.2 [高度な設定] タブ	399

7.5.2 アプリケーション配信.....	401
7.5.3 アプリケーション検知.....	405
7.5.4 App Manager.....	407
7.5.5 Android Enterprise.....	409
7.5.6 Android Enterprise／アプリケーション配信.....	409
7.5.7 Android Enterprise／個別アプリケーション.....	415
7.5.8 Android Enterprise／企業許可アプリ.....	421
7.5.9 Android Enterprise／アプリ権限ポリシー.....	423
7.6 インターネット.....	425
7.6.1 Wi-Fi.....	425
7.6.2 Wi-Fi フィルタリング.....	434
7.6.3 Web フィルタリング.....	435
7.6.4 Web 閲覧履歴.....	444
7.6.5 お気に入り.....	446
7.7 便利機能.....	448
7.7.1 連絡先.....	448
7.7.2 SIM ステータス変更検知.....	451
7.8 証明書管理.....	452
7.8.1 クライアント証明書管理.....	452
7.8.2 クライアント証明書一括アップロード.....	456
7.8.3 クライアント証明書一括削除.....	458
7.8.4 CA 証明書管理.....	459
7.9 Zone Management.....	461
7.9.1 ゾーン.....	461
7.9.2 ポリシー.....	465
7.9.2.1 [管理] タブ.....	465
7.9.2.2 [Android 設定] タブ.....	466
7.9.3 ゾーンポリシー構成.....	468
7.10 Device Owner Mode.....	470
7.10.1 NFC キットティング (親機を設定).....	470
7.10.2 セキュリティ設定 (DOM).....	472
7.10.3 アプリケーション非表示.....	476
7.10.4 OS アップデート (DOM).....	479
7.10.5 ファクトリーリセット保護 (DOM).....	481
7.11 ゼロタッチ登録.....	484
7.11.1 利用登録.....	484
7.11.2 機器一覧.....	487
7.12 Samsung Knox.....	489
7.12.1 利用登録.....	489
7.12.2 機器一覧.....	493
8 設定 - iOS.....	494
8.1 管理アプリの通信と動作.....	495
8.2 設定テンプレート.....	499
8.3 構成プロファイル.....	504
8.3.1 構成プロファイルアップロード.....	505
8.3.1.1 [管理] タブ.....	505
8.3.1.2 [一般] タブ.....	509
8.3.1.3 [パスコード設定] タブ.....	510

8.3.1.4	[iOS 制限設定] タブ	512
8.3.1.5	[Wi-Fi 設定] タブ	526
8.3.1.6	[その他▼] タブ/メール設定	538
8.3.1.7	[その他▼] タブ/証明書設定	541
8.3.1.8	[その他▼] タブ/グローバル HTTP プロキシ設定	542
8.3.1.9	[その他▼] タブ/コンテンツフィルタ設定	544
8.3.1.10	[その他▼] タブ/ドメイン設定	548
8.3.1.11	[その他▼] タブ/VPN 設定	549
8.3.1.12	[その他▼] タブ/通知	583
8.3.1.13	[その他▼] タブ/Web クリップ設定	585
8.3.1.14	[その他▼] タブ/モバイル通信設定	587
8.3.1.15	[その他▼] タブ/変数項目と反映状況	592
8.3.2	構成プロファイル	594
8.4	ADE	596
8.4.1	ADE トークン登録	597
8.4.2	ADE 定義プロファイル	599
8.4.3	ADE 機器管理	603
8.5	アプリケーション	606
8.5.1	「App とブック」ライセンス	606
8.5.1.1	[管理] タブ	607
8.5.1.2	[アプリケーション] タブ	609
8.5.1.3	[書籍] タブ	610
8.5.2	「App とブック」設定テンプレート	611
8.5.3	管理対象アプリポリシー	614
8.5.4	オリジナルアプリ登録	617
8.5.4.1	[設定] タブ	617
8.5.4.2	[アプリカタログ設定] タブ	620
8.5.5	App Configuration	622
8.5.6	アプリケーション配信	624
8.5.7	シングル APP モード (監視対象のみ)	629
8.5.8	アプリカタログ	636
8.5.9	アプリケーション検知	641
8.6	インターネット	644
8.6.1	Web フィルタリング	644
8.6.2	Web 閲覧履歴	648
8.6.3	お気に入り	650
8.7	便利機能	652
8.7.1	ローミング設定	652
8.7.2	ホーム画面レイアウト (監視対象のみ)	653
8.7.3	SIM ステータス変更検知	659
8.8	証明書管理	660
8.8.1	クライアント証明書管理	660
8.8.2	クライアント証明書一括アップロード	664
8.8.3	クライアント証明書一括削除	666
9	設定 - Mac OS	667
9.1	管理アプリの通信と動作	668

10 設定 – Windows	670
10.1 管理アプリの通信と動作	671
10.2 設定テンプレート	676
10.3 セキュリティ	680
10.3.1 画面ロック	680
10.3.2 暗号化	686
10.3.3 位置情報管理	689
10.3.4 システムセキュリティ	691
10.3.5 Windows 情報保護	700
10.3.6 SIM 抜き差し監視	704
10.3.7 機能制限	708
10.3.8 機能制限／外部デバイス	708
10.3.9 機能制限／CD/DVD/ブルーレイ	719
10.4 アプリケーション	721
10.4.1 アプリケーション禁止	721
10.4.2 アプリケーション配信	730
10.4.3 MS Office ライセンス管理	732
10.5 インターネット	736
10.5.1 Wi-Fi	736
10.5.2 Wi-Fi フィルタリング	739
10.5.3 プロキシ	741
10.5.4 お気に入り	743
10.6 便利機能	745
10.6.1 パフォーマンス最適化／システム設定・診断	745
10.7 証明書管理	747
10.7.1 クライアント証明書管理	747
10.7.2 クライアント証明書一括アップロード	751
10.7.3 クライアント証明書一括削除	753
10.7.4 CA 証明書管理	754
10.8 Zone Management	756
10.8.1 ゾーン	756
10.8.2 ポリシー	759
10.8.2.1 [管理] タブ	759
10.8.2.2 [Windows 設定] タブ	760
10.8.3 ゾーンポリシー構成	761
11 サービス環境設定	763
11.1 通知設定	764
11.2 アカウントポリシー	770
11.3 機器認証制御	772
11.4 ポータル表示	773
11.5 Android Enterprise (企業アカウント登録)	774
11.6 Apple Push 証明書	774
11.7 Windows 情報保護共通設定	775
11.8 かんたん初期設定	778

12 ログ	784
12.1 ログ画面の見かた	785
12.2 ロガー一覧	790
13 サイトマップ	826
13.1 組織図	827
13.2 管理外機器エクスポート	828
13.3 ネットワーク	829
13.4 Android エージェント個別管理	834
13.5 Android リモートロック	835
13.6 Android リモートワイプ	838
13.7 Windows エージェント個別管理	840
13.8 Windows 情報保護イベントログ	841
14 付録	843
14.1 各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作	844

1 KDDI Smart Mobile Safety Manager とは

この章では、製品の概要や動作環境などを説明します。

1.1 概要

本製品は、専門の知識を必要とせずに、機器の管理・運用を行うサポートサービスです。

機器の状態や位置情報を確認したり、管理サイトから端末のリモートロックやリモートワイプ（初期化）をしたりできます。管理サイトは特定のアプリをインストールすることなく、各パソコンのブラウザから操作できます。

🔗 対応するブラウザなどの動作環境は、事前にご確認ください。

🔗 「管理サイトの動作環境」 31 ページ



1.2 特徴

本製品の特徴は、以下のとおりです。

● 機器管理

管理サイトで、機器にユーザーやグループを設定すると、機器の資産管理を容易にできます。また、機器のバッテリー残量、デバイス容量、ハードディスク容量等を管理サイトから確認できます。

● リモートロック

機器を紛失してしまい手元にない場合も、管理サイトからロックできます。

● リモートワイプ

機器を紛失してしまった場合や所有者を変更するときなどに、管理サイトから機器のすべてのデータを削除し、初期化（原則、OSバージョンはそのまま）できます。

● アプリケーション禁止

Android 端末および Windows 端末に、端末の設定画面や端末にインストールされているアプリの起動を禁止できます。

● 連絡先設定

Android 端末に、連絡先を機器で 1 件ずつ登録しなくても、管理サイトから一括で連絡先を登録できます。

1.3 管理サイトの役割

管理サイトの主な役割は、機器にリモートで設定変更や制御を行うことです。管理サイト操作を行う上で主となる要素の概念を以下で説明します。



● 設定セット

- ・機器に対する設定や制御を定義したものです。この定義を「設定セット」と呼びます。
- ・管理サイトから設定セットの作成および対象機器への適用指示を行います。
- ・管理サイトから行った設定セットの適用指示は、管理サーバーと端末が同期を行うことで実際に反映されます。

● 機器

- ・本製品が管理する主な対象です。
- ・機器分類やユーザーカスタム項目を作成しなくても単一指定および全指定での設定セットの適用ができます。

●機器カスタム項目（機器分類）

- ・機器に紐づけることができる情報です。機器カスタム項目単位で設定セットの一括適用ができるようになります。機器カスタム項目の作成については、以下を参照してください。

 「入力項目のカスタマイズ」 269 ページ

●ユーザー

- ・機器に紐づけることができる情報です。ユーザーの作成および機器への紐づけを行っても、ユーザー単位での設定セットの適用は行えませんが、紐づけたユーザーが所属する分類を用いた設定セットの一括適用ができるようになります。

●ユーザーカスタム項目（ユーザー分類）

- ・ユーザーに紐づけることができる情報です。ユーザーに紐づけることによりユーザーカスタム項目単位で設定セットの適用ができるようになります。ただし、紐づけたユーザーが機器に紐づけられている場合に限りです。ユーザーカスタム項目の作成については、以下を参照してください。

 「入力項目のカスタマイズ」 333 ページ

1.4 管理サイトの動作環境

管理サイトは、以下の環境で利用できます。

項番	項目	動作環境
1	対応ブラウザ	以下のブラウザに対応しています。 ●Microsoft Edge (Windows 版) ●Firefox ●Google Chrome <input checked="" type="checkbox"/> Microsoft Edge (Windows 版)、Firefox、Google Chrome は最新版にのみ対応しています。 <input checked="" type="checkbox"/> ディスプレイの解像度は、横 1,250 ピクセル以上の表示を推奨します。 <input checked="" type="checkbox"/> 対応ブラウザのインストール方法や設定など、また OS に依存する設定については、対応いたしかねます。
2	ネットワーク接続	インターネットへ接続し、直接またはプロキシを介して管理サイトと HTTPS 通信 (443 番ポート) ができる環境が必要です。
3	対応言語	以下の言語に対応しています。 ●日本語 ●英語 ●簡体中文 ●繁体中文

2 基本操作

この章では、ログイン／ログアウトの手順やパスワードの設定、管理サイト画面の構成と各画面に共通する操作方法について説明します。

2.1 ログイン／ログアウト

管理サイトのログインやログアウトについて説明します。

2.1.1 ログイン

管理サイトの URL を入力してログイン画面を表示し、管理サイトにログインします。

 ログイン画面

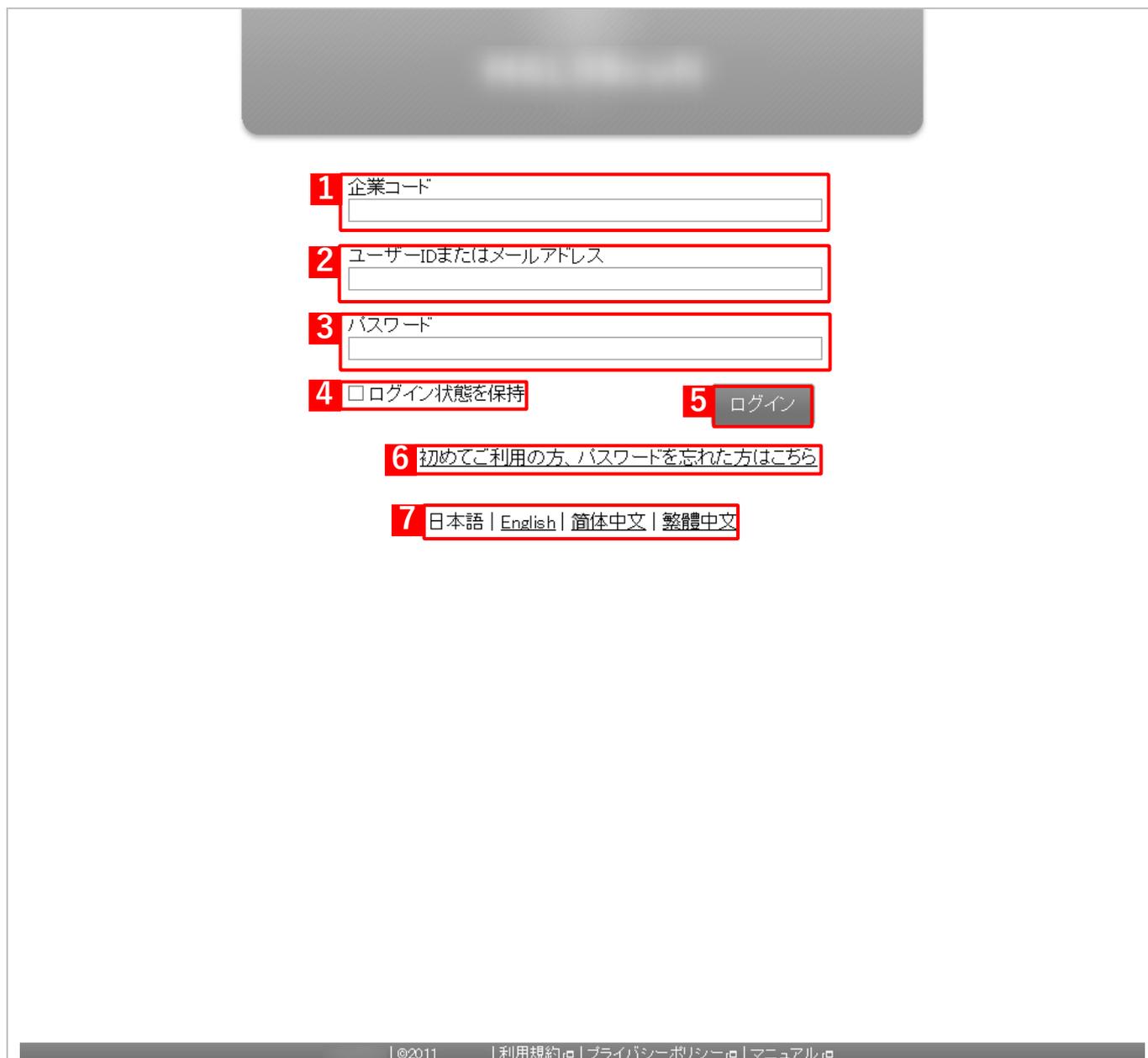
 ログイン画面（初めてご利用の方、パスワードを忘れた方用）

 管理サイトの URL、企業コード、ユーザーID またはメールアドレス、パスワードについては、事前にサービス企業にご確認ください。

 はじめてログインする場合は [初めてご利用の方、パスワードを忘れた方はこちら] をクリックしてください。

 「ログイン画面（初めてご利用の方、パスワードを忘れた方用）」35 ページ

◆ログイン画面



The screenshot shows the login interface with the following elements highlighted by numbered red boxes:

- 1 企業コード (Company Code input field)
- 2 ユーザーIDまたはメールアドレス (User ID or Email Address input field)
- 3 パスワード (Password input field)
- 4 ログイン状態を保持 (Remember me checkbox)
- 5 ログイン (Login button)
- 6 初めてご利用の方、パスワードを忘れた方はこちら (Link for first-time users or those who forgot their password)
- 7 日本語 | English | 简体中文 | 繁體中文 (Language selection menu)

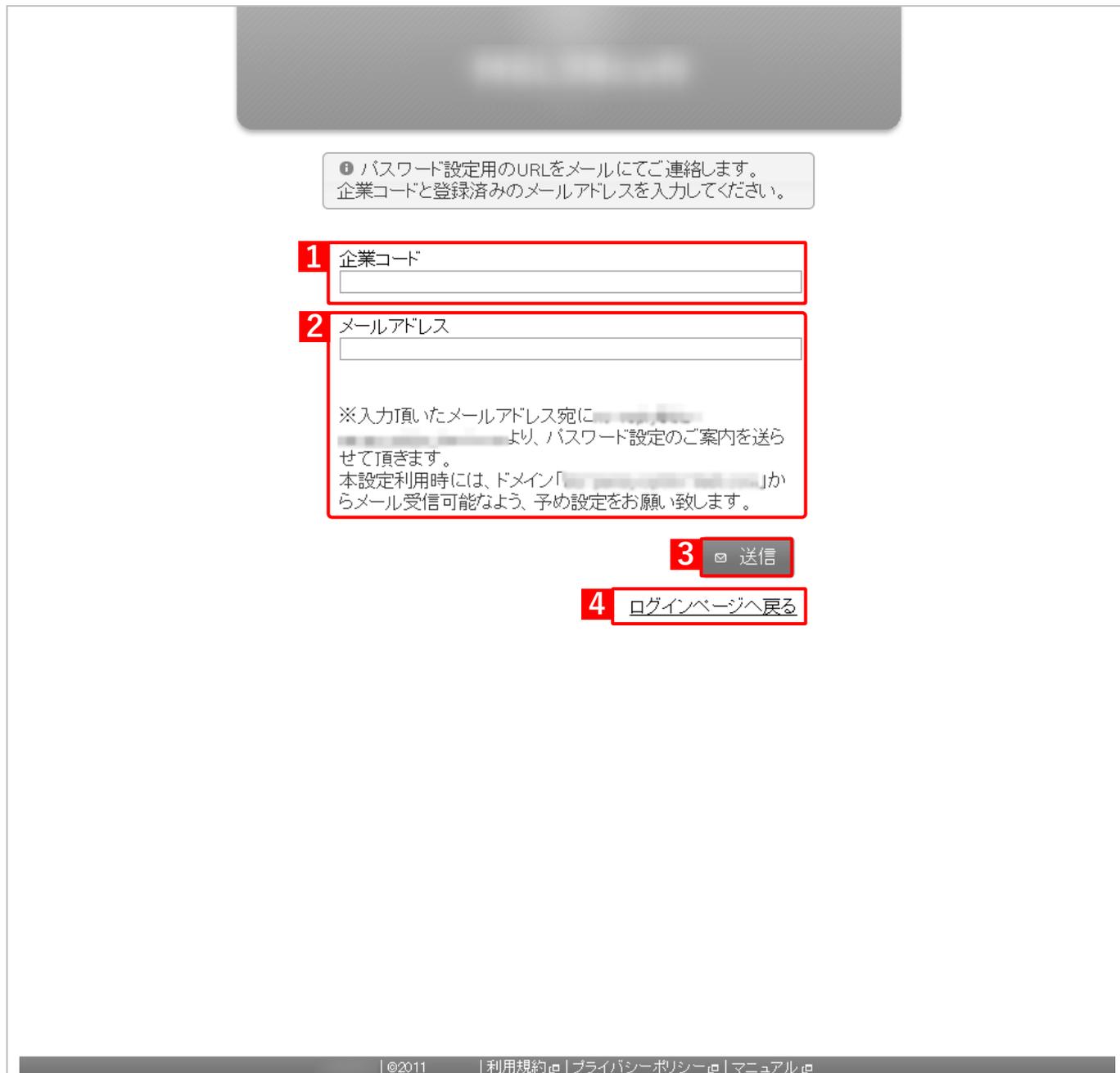
At the bottom of the page, there is a footer with the following text: ©2011 | 利用規約 | プライバシーポリシー | マニュアル

項番	名称	説明
1	企業コード	企業コードを入力します。
2	ユーザーID またはメールアドレス	ユーザーID またはメールアドレスを入力します。
3	パスワード	パスワードを入力します。
4	ログイン状態を保持	チェックすると、ログアウトするまで、一定の期間、ログインを省略され、管理サイトを表示できます。
5	[ログイン]	企業コード、ユーザーID またはメールアドレス、パスワードを入力してからクリックすると、管理サイトにログインし、ダッシュボードが表示されます。  「ダッシュボード」 67 ページ
6	初めてご利用の方、パスワードを忘れた方はこちら	クリックすると、企業コードとメールアドレスを送信する画面に切り替わり、パスワード設定ができるようになります。  システムが企業コードを取得する前のログイン画面には、「アカウントポリシー」の「パスワードリマインダー」の設定に関わらず表示されます。  システムが企業コードを取得すると、ログイン画面の URL に企業コードが入力され、パスワードリマインダーの設定も反映されます。  パスワードリマインダーを[無効]に設定していると、「この企業はパスワードリマインダー機能を利用できません。」と表示され、パスワードを変更することができません。詳細は、以下を参照してください。  「アカウントポリシー」 770 ページ  初期の設定値は「有効」に設定されています。
7	日本語 English 简体中文 繁體中文	利用したい言語をクリックすると、画面の表示が選択した言語に切り替わります。ログインしたあとの管理サイトの画面にも適応されます。

◆ログイン画面（初めてご利用の方、パスワードを忘れた方用）

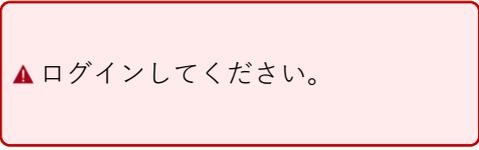
はじめてログインする場合の手順については、以下を参照してください。

🔗 「パスワードの新規発行／再発行」 39 ページ



項番	名称	説明
1	企業コード	企業コードを入力します。
2	ユーザーID またはメールアドレス	ユーザーID またはメールアドレスを入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 注意にしたがって、メールアドレスに案内メールが届くようにメール受信設定をしてください。
3	[送信]	企業コード、メールアドレスを入力してからクリックすると、入力したメールアドレス宛に、パスワード設定用の URL を記載したメールが届きます。メールの内容にしたがって、パスワードを設定してください。 <input checked="" type="checkbox"/> 画面に記載されている注意事項を確認して、メールを受信できるように設定しておいてください。
4	ログインページに戻る	クリックすると、ログイン画面に切り替わります。

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
 <p>▲ ログインしてください。</p>	セッションが切れた状態でログインが必要なページを開いている。	再度ログインした状態でアクセスしてください。

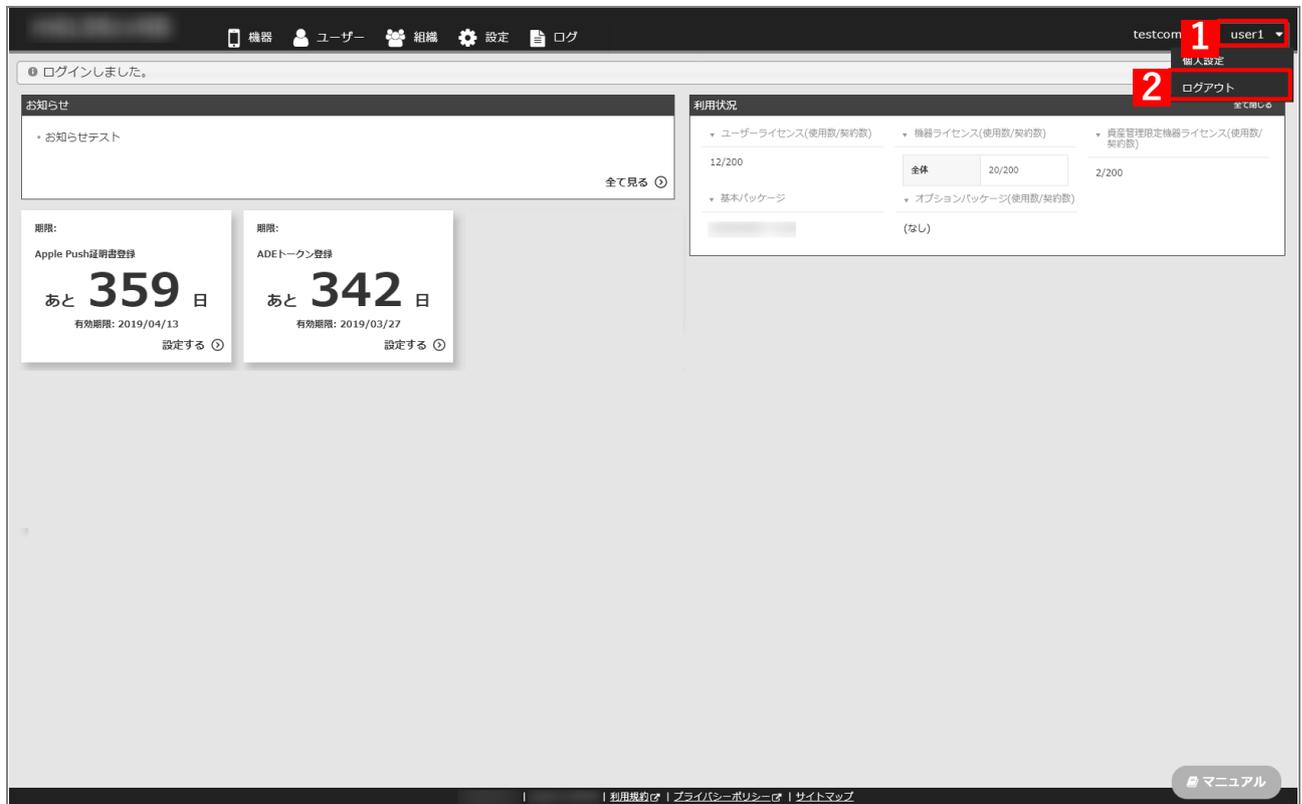
2.1.2 ログアウト

管理サイトからログアウトします。

【1】 画面右上の [ユーザー名] をクリックします。

【2】 [ログアウト] をクリックします。

⇒ ログアウトした旨のメッセージが表示され、ログイン画面に切り替わります。



- 【3】** ログアウトしたあとのログイン画面では、ユーザーID またはメールアドレス、パスワードでログインできます。

ログアウトしました。

企業コード

3 ユーザーIDまたはメールアドレス

パスワード

ログイン状態を保持

日本語 | English | 简体中文 | 繁體中文

プライバシーポリシー | ヘルプ

2.1.3 パスワードの新規発行／再発行

はじめてパスワードを設定する場合や、パスワードを忘れてしまったときは、以下の手順でパスワードの新規発行、または再発行をすることができます。新規発行と再発行の手順は同じです。

- ☑ ユーザーのパスワード変更については、KDDI ビジネスオンラインサポートから操作可能です。詳細は以下を参照してください。

🔍 「KDDI ビジネスオンラインサポート KDDI Business ID 設定マニュアル」の「4.7. パスワードを忘れた場合の復旧手順」

<http://www.kddi.com/business/support/service/business-id/manual/>

- ☑ 管理サイトの URL、企業コード、ユーザーID またはメールアドレスについては、事前にサービス企業にご確認ください。

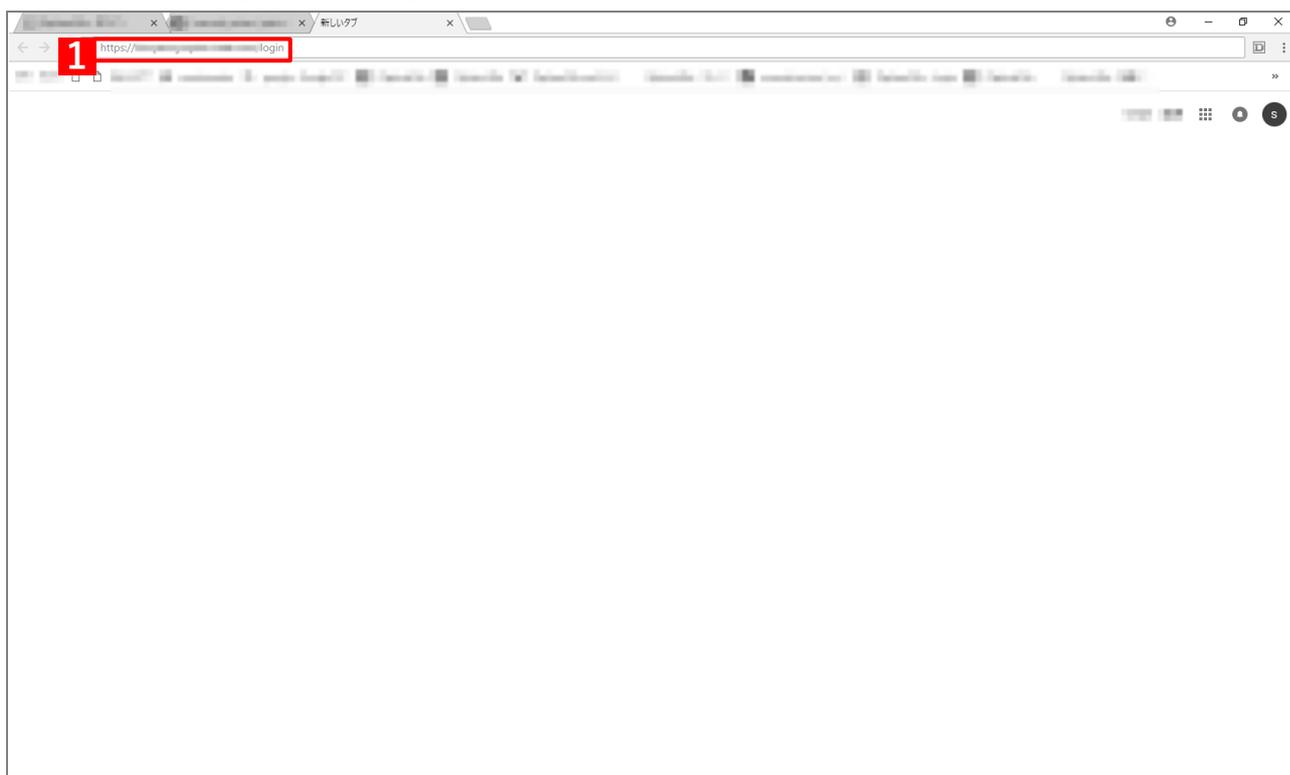
- ☑ 本機能は、アカウントポリシー設定の「パスワードリマインダー」が「有効」に設定されている場合に利用できません。

アカウントポリシーについては、以下を参照してください。

🔗 「アカウントポリシー」770 ページ

[1] 管理サイトの URL を赤枠内に入力し、[Enter] キーを押します。

⇒ ログイン画面が表示されます。



- [2]** [ログイン] ボタンの下の「初めてご利用の方、パスワードを忘れた方はこちら」をクリックします。
⇒ メール送信画面が表示されます。



The screenshot shows a login form with the following elements:

- Enterprise Code (企業コード) input field
- User ID or Email Address (ユーザーIDまたはメールアドレス) input field
- Password (パスワード) input field
- Remember me (ログイン状態を保持) checkbox
- Login (ログイン) button
- A link: **2** 初めてご利用の方、パスワードを忘れた方はこちら (highlighted in red)
- Language selection: 日本語 | [English](#) | [简体中文](#) | [繁體中文](#)

At the bottom of the page, there is a footer with the following text: ©2011 | [利用規約](#) | [プライバシーポリシー](#) | [マニュアル](#)

[3] 「企業コード」と「メールアドレス」を入力します。

☑ 「企業コード」はすでに記入済みの場合があります。

[4] [送信] をクリックします。

⇒ 指定したメールアドレスに、パスワード設定の案内メールが送信されます。

☑ メールが届かない場合は、企業コードとメールアドレスをご確認のうえ、カスタマーサポートセンターへご連絡ください。カスタマーサポートセンターは、本製品の購入元の企業です。

☑ ご利用のメーラーに迷惑メールフィルタなどが設定されている場合、メールが正しく受信できない場合があります。メールが届かない場合、メール設定を確認してください。

① パスワード設定用のURLをメールにてご連絡します。
企業コードと登録済みのメールアドレスを入力してください。

3 企業コード

メールアドレス

※入力頂いたメールアドレス宛に、[パスワード設定のご案内](#)より、パスワード設定のご案内を送らせて頂きます。
本設定利用時には、ドメイン「[XXXXXXXXXX](#)」からメール受信可能なよう、予め設定をお願い致します。

4

[ログインページへ戻る](#)

©2011 | [利用規約](#) | [プライバシーポリシー](#) | [マニュアル](#)

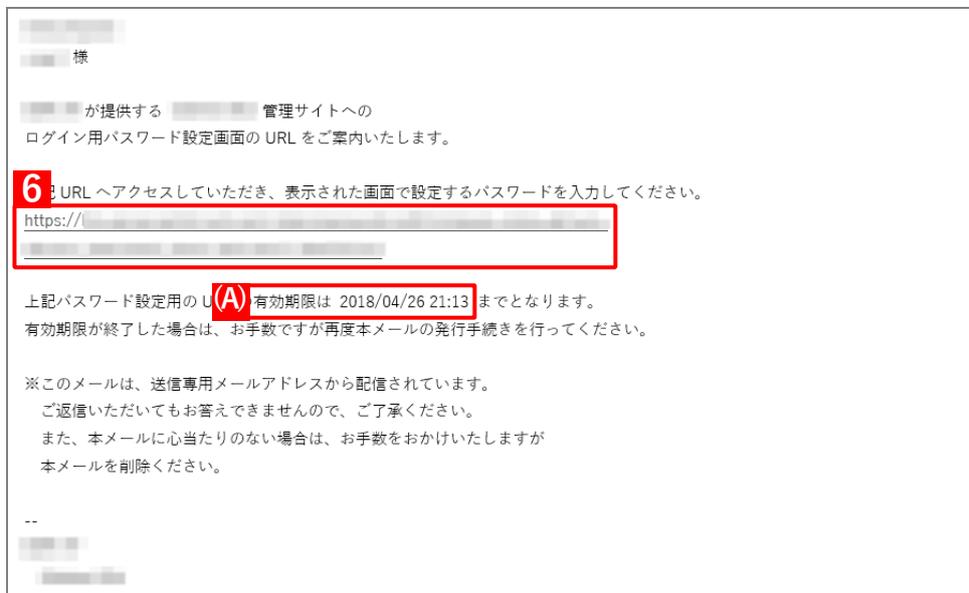
【5】受信したパスワード設定の案内メールを開き、内容を確認します。

- ✎ パスワード再設定用メールの件名、本文、送信元メールアドレスは、サービス企業の設定により異なります。

【6】記述されているリンクをクリックします。

⇒パスワード再設定画面が表示されます。

- ✎ リンクに (A)「有効期限」が設定されています。有効期限を過ぎるとパスワードの再設定ができません。期限が切れた場合は、最初の手順からやり直してください。

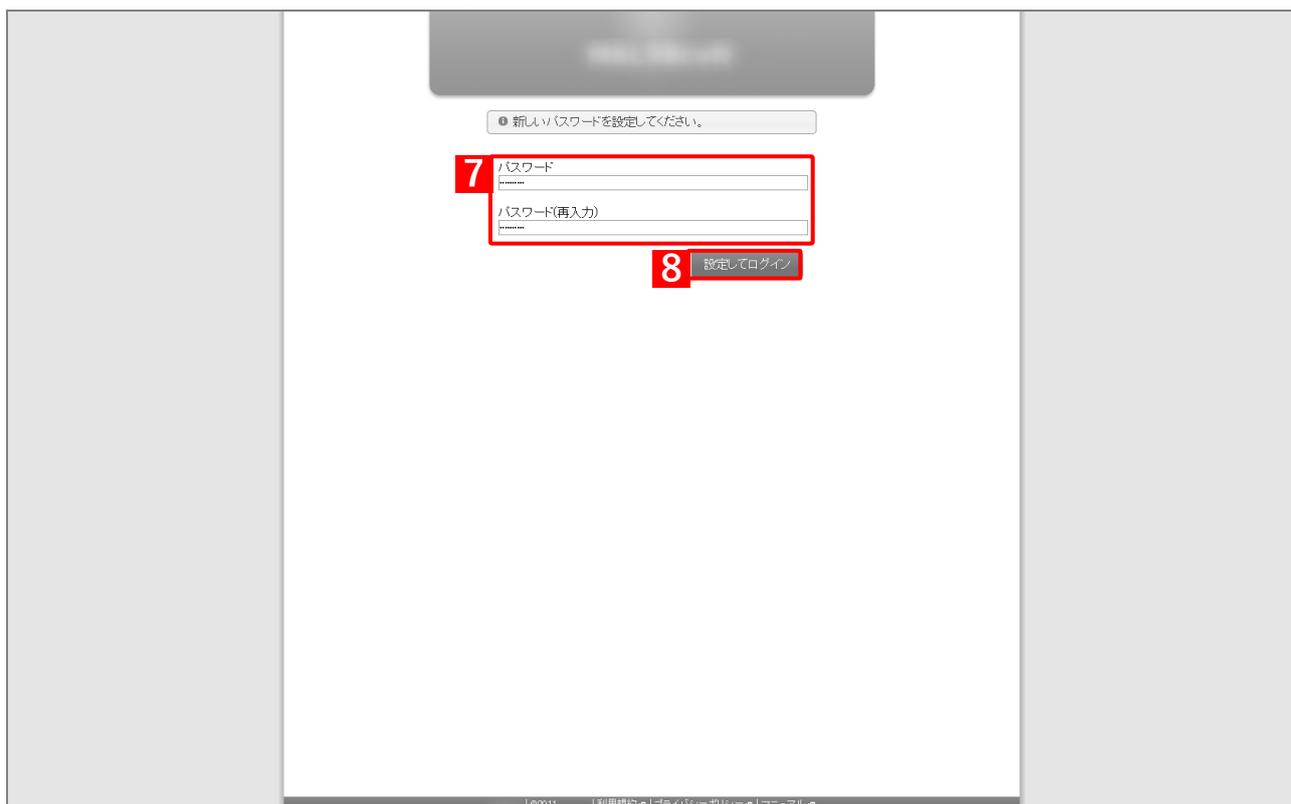


【7】「パスワード」に新しいパスワードを入力し、「パスワード(再入力)」に再度新しいパスワードを入力します。

- ✎ 設定したパスワードは忘れないように管理してください。

【8】[設定してログイン] をクリックします。

⇒管理サイトの画面が表示されます。



- 【9】** 「パスワードを変更してログインしました。」と表示され、管理サイトにログインします。
⇒操作が可能になります。

The screenshot shows a management site interface. At the top, a navigation bar contains icons for '機器' (Devices), 'ユーザー' (Users), '組織' (Organizations), '設定' (Settings), and 'ログ' (Logs). The user is logged in as 'testcompany user1'. A red box highlights a notification message: 「パスワードを変更してログインしました。」 (Password changed and logged in). Below the notification, there are two cards showing expiration dates: 'あと 359 日' (Apple Push証明登録) and 'あと 342 日' (ADEトークン登録). To the right, a '利用状況' (Usage Status) section displays various license and package usage statistics. At the bottom, there are links for '利用規約' (Terms of Use), 'プライバシーポリシー' (Privacy Policy), and 'サイトマップ' (Sitemap), along with a 'マニュアル' (Manual) button.

2.1.4 期限切れパスワードの更新

ユーザーアカウントのパスワードの有効期間が経過するとログイン画面にメッセージが表示され、管理サイトにログインできなくなります。その場合は、新しいパスワードを設定します。

 ユーザーの「パスワードの有効期間」は、アカウントポリシー設定の「パスワードの有効期間」で設定できます。アカウントポリシーについては、以下を参照してください。

 「アカウントポリシー」 770 ページ

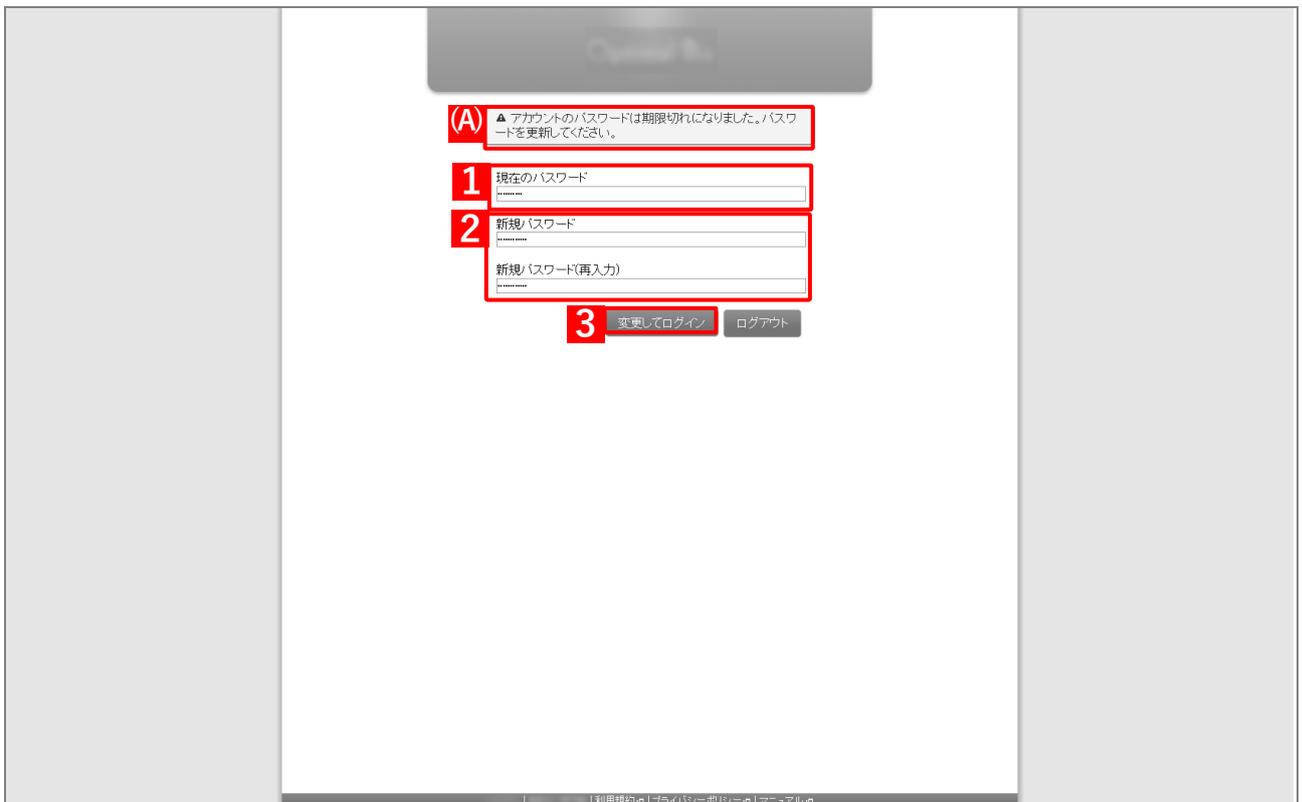
[1] 「現在のパスワード」を入力します。

 (A) パスワード期限切れのメッセージが表示されます

[2] 「新規パスワード」と「新規パスワード（再入力）」を入力します。

 入力した新規パスワードは忘れないように管理してください。

[3] 「変更してログイン」をクリックします。



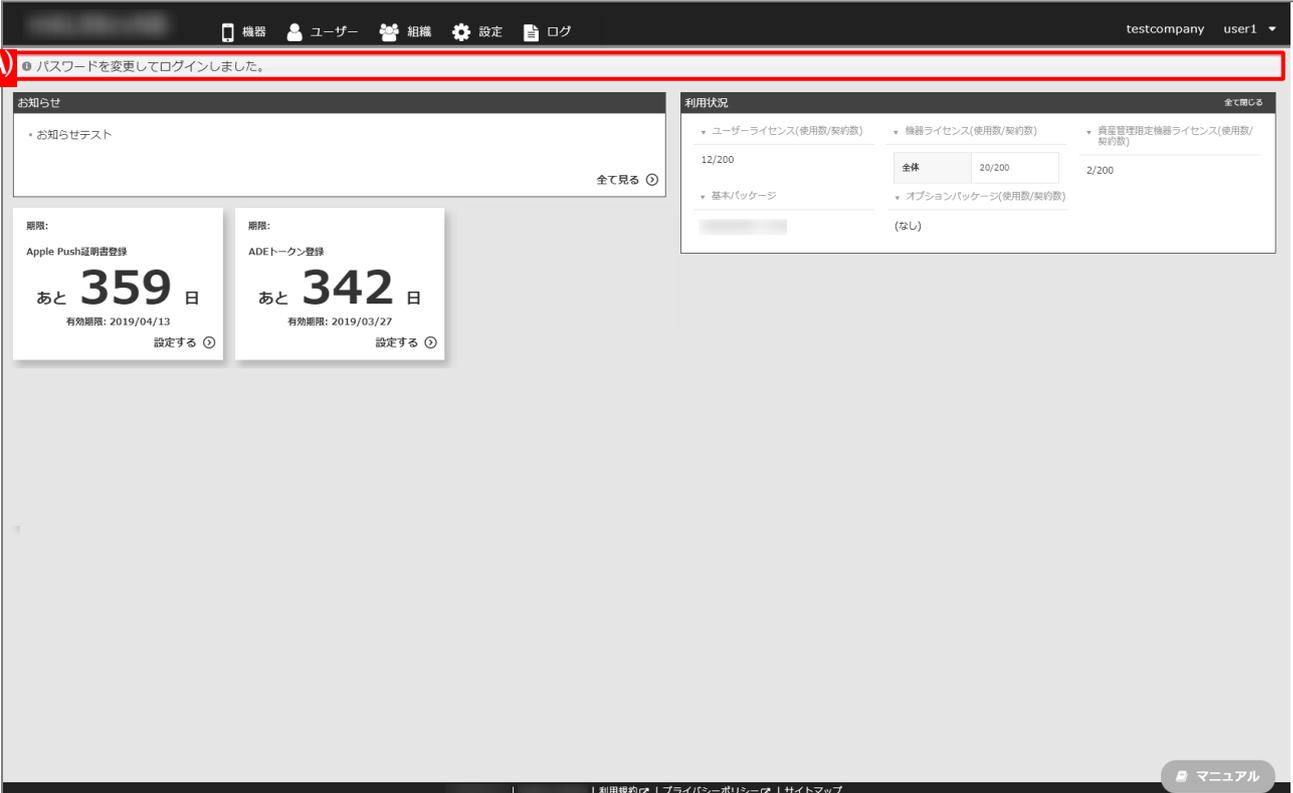
The screenshot shows a password change form with the following elements:

- (A)** A red-bordered message box at the top stating: "▲ アカウントのパスワードは期限切れになりました。パスワードを更新してください。"
- 1** A red-bordered input field labeled "現在のパスワード" (Current Password).
- 2** A red-bordered input field labeled "新規パスワード" (New Password) and another labeled "新規パスワード(再入力)" (New Password (Re-enter)).
- 3** A red-bordered button labeled "変更してログイン" (Change and Log In) and a grey button labeled "ログアウト" (Log Out).

At the bottom of the page, there is a footer with links: [利用規約](#), [プライバシーポリシー](#), and [マニュアル](#).

⇒管理サイトにログインし、ダッシュボードが表示されます。

 (A) 「パスワードを変更してログインしました。」と表示されます。



The screenshot shows a management dashboard with a navigation bar at the top containing icons for 機器 (Devices), ユーザー (Users), 組織 (Organizations), 設定 (Settings), and ログ (Logs). The user is logged in as 'testcompany user1'. A red box highlights a notification: (A) パスワードを変更してログインしました。 (Password changed and logged in).

The dashboard includes several sections:

- お知らせ (Notice):** お知らせテスト (Notice test) with a link to 全て見る (View all).
- 期限 (Expiration):** Two cards showing remaining days: Apple Push証明書登録 (Apple Push Certificate Registration) with 359 days left (valid until 2019/04/13), and ADEトークン登録 (ADE Token Registration) with 342 days left (valid until 2019/03/27).
- 利用状況 (Usage Status):** A table showing usage counts for licenses and packages. The table has columns for category, current usage, and limit.

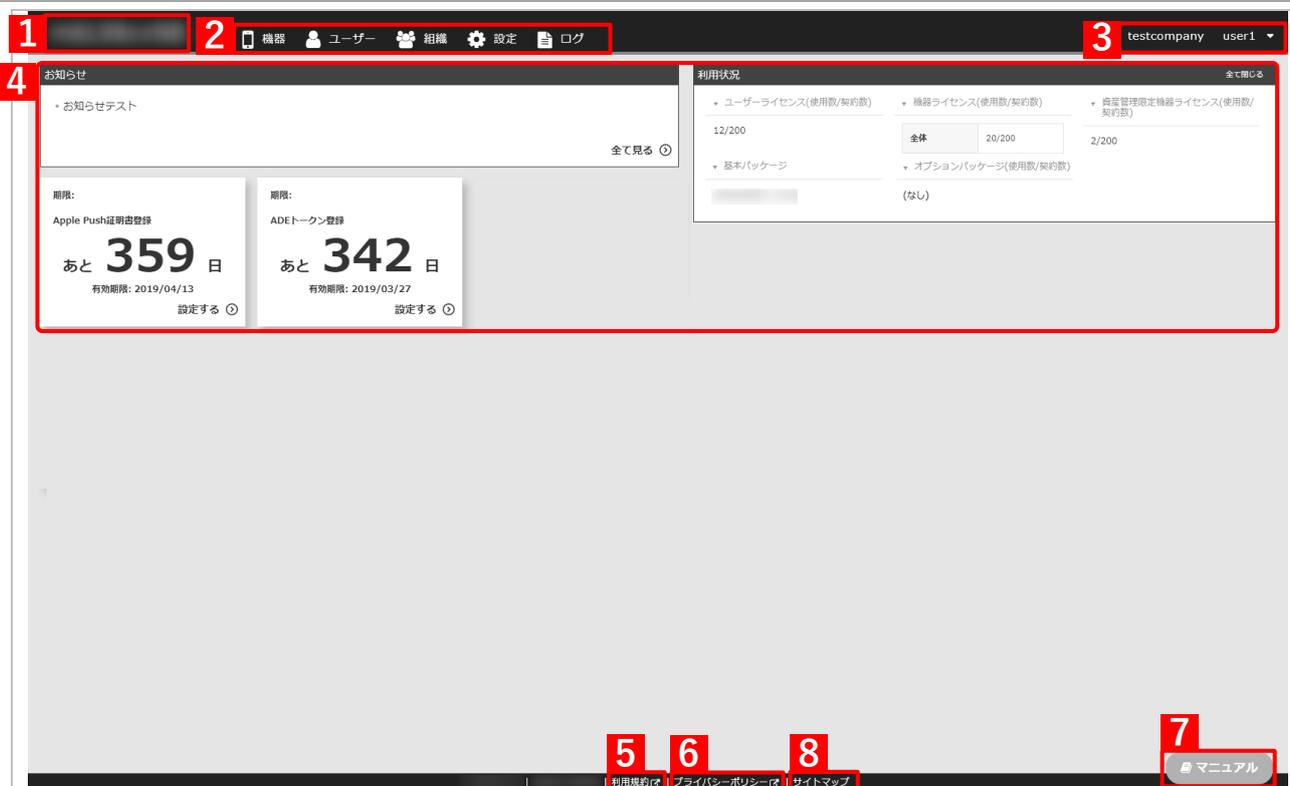
Category	Usage	Limit
ユーザーライセンス(使用数/契約数)	12/200	20/200
機器ライセンス(使用数/契約数)	20/200	2/200
異業管理限定機器ライセンス(使用数/契約数)	(なし)	(なし)
基本パッケージ	(なし)	(なし)
オプションパッケージ(使用数/契約数)	(なし)	(なし)

At the bottom, there are links for 利用規約 (Terms of Use), プライバシーポリシー (Privacy Policy), and サイトマップ (Site Map), along with a マニュアル (Manual) button.

2.2 管理サイト画面の構成

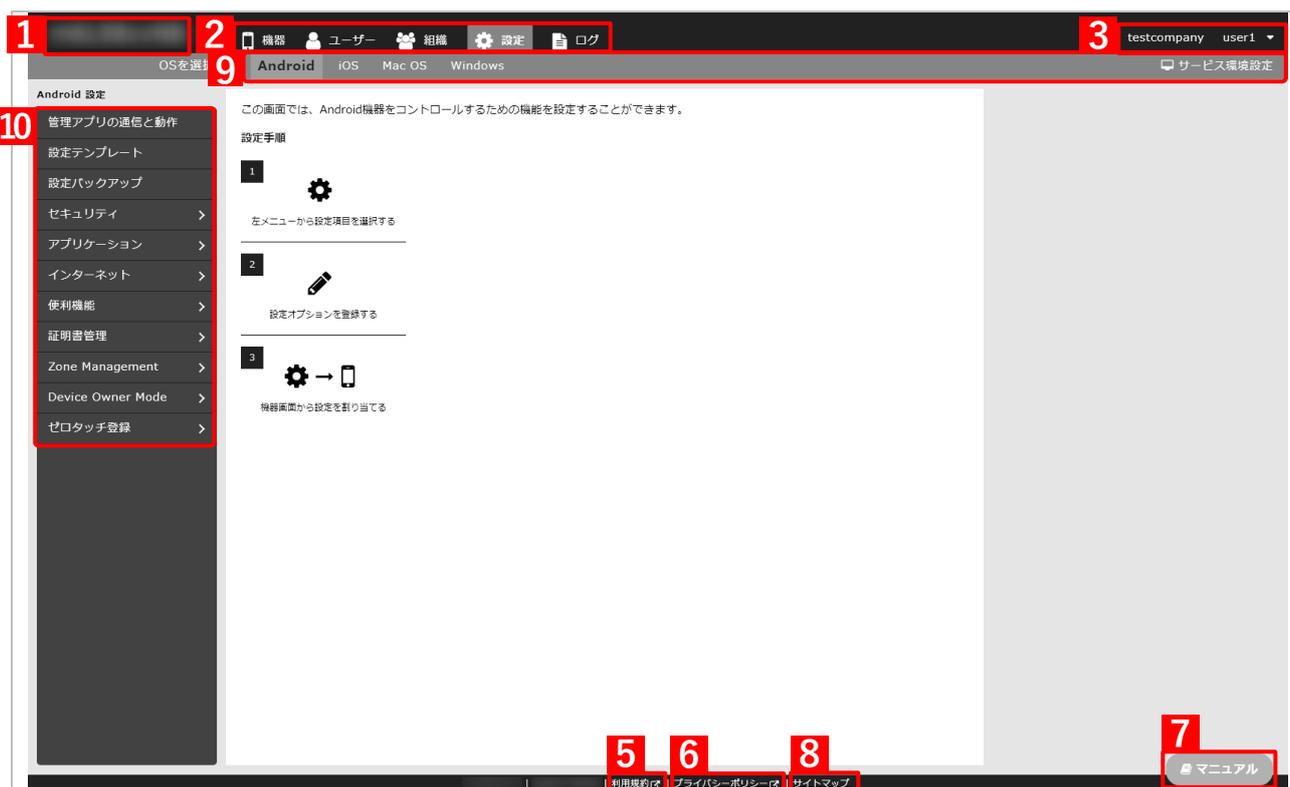
管理サイトの画面は、ダッシュボード画面と各種の設定画面で構成されています。

ダッシュボード



設定画面

画面はヘッダーメニューの「設定」画面を例に説明しています。



項番	名称	説明
1	製品名	製品名が表示されます。製品名をクリックすると、ダッシュボードに切り替わります。 ☞ 「ダッシュボード」 71 ページ
2	ヘッダーメニュー (※1)	[機器]、[ユーザー]、[組織]、[設定]、[ログ] をクリックすると、各カテゴリの画面に切り替わります。
3	ログイン情報	ログイン中の企業コードとユーザー名が表示されます。ユーザー名をクリックすると、「個人設定」と「ログアウト」のメニューが表示されます。 ☞ 「個人設定」 76 ページ ☞ 「ログアウト」 37 ページ
4	ダッシュボード	ログイン後に表示されます。サービス企業からのお知らせや利用状況などを確認できます。 ☞ 「ダッシュボード」 71 ページ
5	利用規約	クリックすると、利用規約の画面が表示されます。
6	プライバシーポリシー	クリックすると、プライバシーポリシーの画面が表示されます。
7	 マニュアル	クリックすると、各種マニュアルへのリンク画面が表示されます。
8	サイトマップ	クリックすると、従来デザインのメニュー画面形式で、各種機能メニューが表示されます。サイトマップの詳細については、以下を参照してください。 ☞ 「サイトマップ」 826 ページ
9	サブヘッダーメニュー (※1)	ヘッダーメニューで [設定] をクリックした場合に表示されます。[Android]、[iOS]、[Mac OS]、[Windows]、[サービス環境設定] をクリックすると、各画面に切り替わります。
10	サイドメニュー (※1)	各カテゴリ、OS の画面のメニューが表示されます。メニューの右側に「>」が表示されている場合は、クリックすると下の階層のメニューが表示されます。

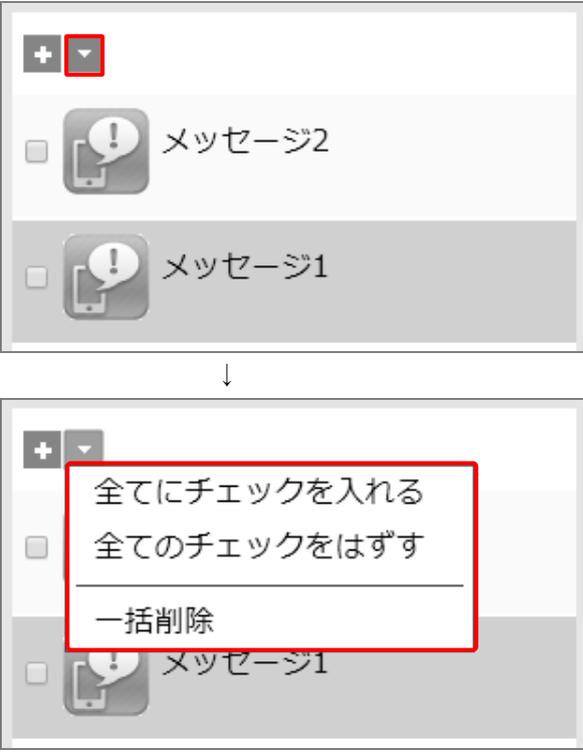
※1：以降、本マニュアルではこの名称を使い説明します。

2.3 管理サイトの共通操作

操作ボタンやメニューなど、共通の操作内容について説明します。

◆リストメニュー

[その他▼]、[操作▼]、 をクリックすると表示されるリストから、項目を選択します。

<p>« [その他▼]、[操作▼] の場合 »</p> 	<p>[その他▼] をクリックすると、リストメニューが表示されます。 メニューをクリックすると、そのメニューの画面に切り替わります。 リストメニューに表示されるメニューは、機能によって異なります。</p>
<p>«  の場合 »</p> 	<p> をクリックすると、リストメニューが表示されます。 メニューをクリックすると、そのメニューが実行されます。 リストメニューに表示されるメニューは、機能によって異なります。</p>

◆ タブの切り替え

複数画面で構成されている画面は、タブをクリックして画面を切り替えます。

	<p>表示する画面のタブをクリックすると画面が切り替わり、現在表示中のタブの色が白色に変わります。</p>
---	---

◆ ラジオボタン

必要な項目を1つだけ選択して設定します。

<p>パスワードの有効期限 ※Android3.x以降対応</p> <p><input checked="" type="radio"/> 端末の設定を変更しない</p> <p><input type="radio"/> 有効期限なし</p> <p><input checked="" type="radio"/> 日数を指定 <input type="text" value="30"/> 日</p>	<p>項目に数値などの入力が必要な場合は、その項目を選択すると入力できるようになります。</p>
---	--

◆ チェックボックス

必要な項目にチェックを入れて設定します。

<p>設定画面の禁止 ※Android 2.3のみ対応</p> <p><input type="checkbox"/> Wi-Fi設定 <input type="checkbox"/> VPN設定 <input type="checkbox"/> APN設定</p> <p><input type="checkbox"/> アプリケーション管理</p>	<p>クリックするたびに、チェックを入れたり、外したりできます。複数の項目にチェックを入れることができます。</p>
--	--

◆ テキストボックス

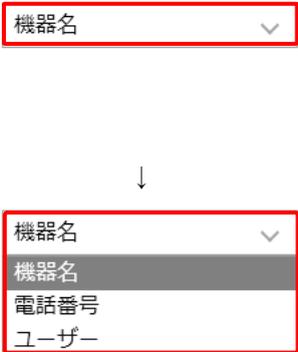
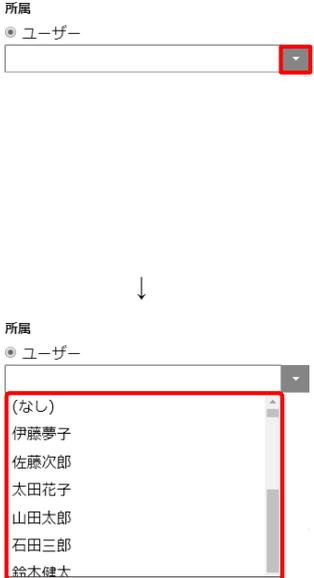
テキストボックス内に文字や数字を入力して設定します。

<p>設定名</p> <p><input type="text"/></p>	<p>テキストボックスの中に、カーソルを置いてから、文字や数字を入力します。</p> <p>入力する文字数や文字の種類は、項目によって異なります。</p> <p>テキストボックスをクリックすると、項目が表示されて、選択できる場合があります。</p>
--	--

◆リストボックス

リストボックスをクリックすると表示されるリストから、項目を選択します。

リストボックスには、以下の2種類があります。

<p>「リストボックス 1」</p>  <p>↓</p>	<p>リストボックスをクリックして、表示される項目から選択します。 文字の入力はできません。</p>
<p>「リストボックス 2」</p> <p>所属 ● ユーザー</p>  <p>↓</p> <p>所属 ● ユーザー</p> 	<p>▼ をクリックして、表示される項目から選択します。 ボックスにキーワードを入力して、選択項目から該当する項目を絞り込んで表示してから選択できます。</p>

◆ ページ切り替え

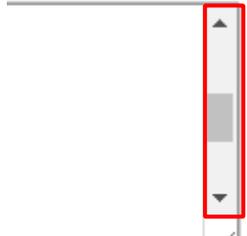
一覧に表示する内容が複数ページに渡る場合は、以下の操作で表示するページを切り替えます。

	<p>◀ をクリックすると前のページが表示されます。</p> <p>▶ をクリックすると次のページが表示されます。</p> <p>◀◀ をクリックすると最初のページが表示されます。</p> <p>▶▶ をクリックすると最後のページが表示されます。</p> <p>2 / 43 では、現在のページと総ページが表示されます。テキストボックスにページを入力し、[Enter] キーを押すと、指定のページが表示されます。</p>
---	--

◆ スクロールバー

画面に表示できない部分がある場合に表示されます。

以下の操作で表示を切り替えます。

	<p>バーの  をスライドしたり、▲ や ▼ をクリックしたりすると、表示する部分を調節できます。</p>
---	--

◆ 検索

キーワードを入力して対象を検索し、該当する項目を一覧に表示します。

 すべての項目を一覧に再表示するには、テキストボックスにキーワードを入れずに  をクリックするか、キーボードの 〈F5〉 キーを押します。

	<p>テキストボックスにキーワードを入力して、キーボードの [Enter] キーを押すか、 をクリックすると、検索できます。</p> <p>機能によっては、テキストボックスをクリックすると入力履歴のリストからキーワードを選択できる場合があります。</p>
---	--

◆操作ボタン

編集、保存、検索、追加、削除などのボタンをクリックすると、画面によって必要な操作を行うことができます。主な操作ボタンは以下のとおりです。

 このほかのボタンについては、各画面の説明を参照してください。

ボタン	説明
 (新規作成)	クリックすると、ユーザー、組織、各種設定などを新規作成画面が表示されます。
 (追加)	クリックすると、設定行などが追加されます。
 (削除)	クリックすると、該当の設定項目などが削除されます。
 (編集)	クリックすると、該当の設定項目が編集できます。
 (保存)	クリックすると、編集した内容が保存されます。
 (取り消し)	クリックすると、編集した内容を取り消して、編集が終了します。
 (検索)	ボタンの左側のテキストボックスにキーワードを入力して、クリックすると該当する項目を検索します。
 (その他の操作)	クリックすると、リストメニューが表示されます。表示されるメニューの種類は機能によって異なります。
	クリックすると、設定内容を保存されます。
	クリックすると、編集画面に切り替わります。
	クリックすると、編集した内容を取り消して、編集が終了します。
	機器一覧で使用します。クリックすると、詳細画面が一覧の右側に表示されます。  「詳細情報の表示」65 ページ
	機器一覧の詳細画面で使用します。クリックすると、詳細画面を閉じます。
	機器一覧の詳細画面でメニューをクリックしたあとの画面で使用します。クリックすると、詳細画面に戻ります。
	カーソルを合わせると、対象の項目について、説明や注記などが表示されます。  Web サイト ver.9.12.0 以上の新機能の画面で表示されます。

2.4 設定画面の共通操作

設定画面で使われる基本的な操作手順について説明します。

各 OS によりボタンの配置などが異なりますが、同様の手順で操作することができます。

2.4.1 新規作成

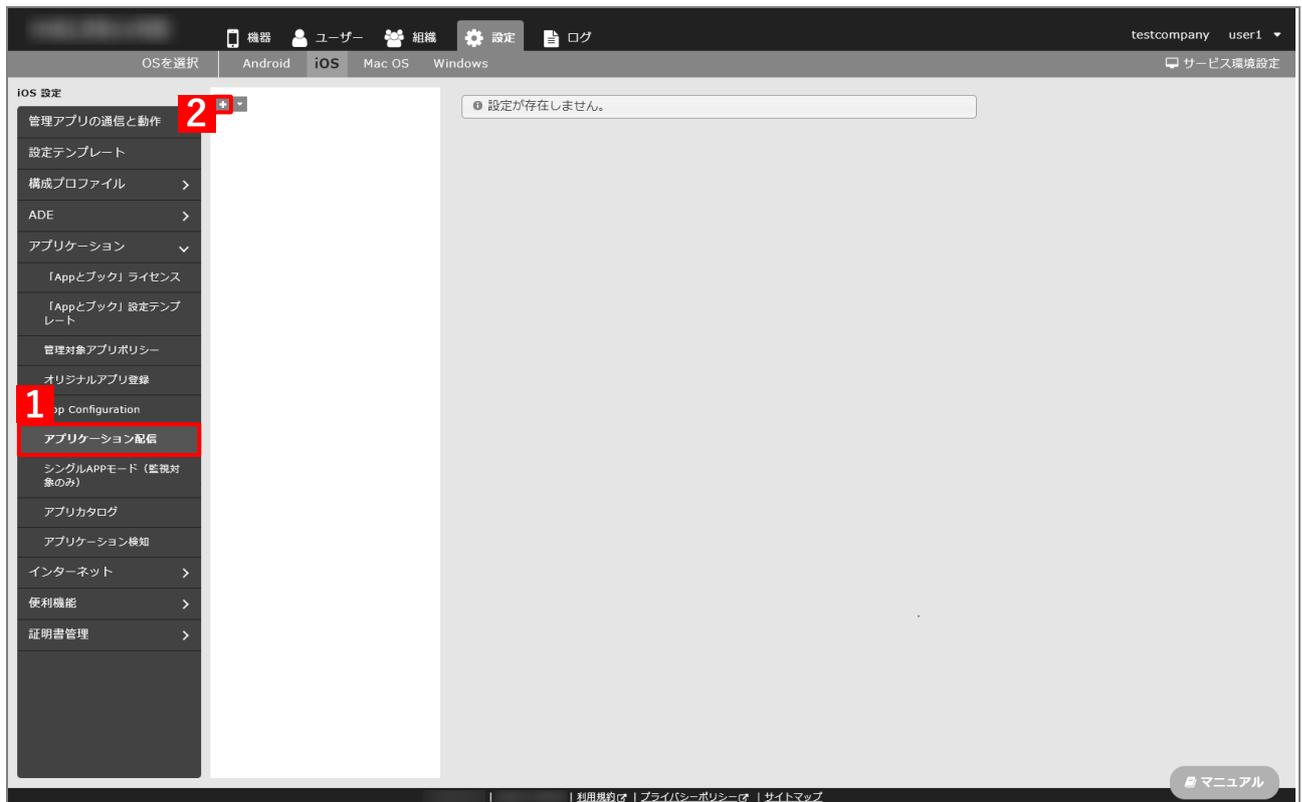
新規に設定を作成する手順について説明します。

ここでは、iOS のアプリケーション配信設定を例にしています。

[1] [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [アプリケーション配信] をクリックします。

[2] **+** をクリックします。

⇒ 新規作成画面が表示されます。



- [3]** 各項目を設定します。
- [4]** 「保存」をクリックします。
⇒設定が作成されます。

新規作成

設定

3 設定 - 編集

設定名

オリジナルアプリ一覧

アプリケーション名	管理	バックアップ	ポリシー	App Configuration
(+ ボタンで追加: 600件まで)				

※事前にオリジナルアプリ登録をおこなってください。「メニュー」→「オリジナルアプリ登録」から、オリジナルアプリを登録できます。
※「管理」および「バックアップ」はiOS 5.0.1以降のみ対応

App Storeアプリ一覧

Store ID	アプリケーション名	管理	バックアップ	ポリシー	App Configuration	更新
	---	<input type="checkbox"/> 有効	<input type="checkbox"/> 許可	管理対象アプリポリシーがありません。	新規追加	App Configurationがありません。

(+ ボタンで追加: 300件まで)

※Store IDには、App StoreアプリケーションのURLに含まれるIDを入力してください。
URL「https://itunes.apple.com/jp/app/example/id<Store ID>?mt=8」の<Store ID>の部分になります。
※インストールするには、機器にApple IDが設定済みである必要があります。
※「管理」および「バックアップ」はiOS 5.0.1以降のみ対応

4 保存

- [5]** 作成された設定が、一覧に追加されたことを確認します。

testcompany user1

OSを選択 Android iOS Mac OS Windows

サービス環境設定

iOS 設定

管理アプリの通信と動作

設定テンプレート

構成プロファイル

ADE

アプリケーション

「Appとブック」ライセンス

「Appとブック」設定テンプレート

管理対象アプリポリシー

オリジナルアプリ登録

App Configuration

アプリケーション配信

シングルAPPモード (監視対象のみ)

アプリカタログ

アプリケーション検知

インターネット

便利機能

証明書管理

5 アプリ配信A

設定を作成しました。

設定

設定名

オリジナルアプリ一覧

アプリケーション名	バージョン	管理	バックアップ	ポリシー	App Configuration
※「管理」および「バックアップ」はiOS 5.0.1以降のみ対応					

App Storeアプリ一覧

Store ID	アプリケーション名	管理	バックアップ	ポリシー	App Configuration
		無効	-	-	-

※「管理」および「バックアップ」はiOS 5.0.1以降のみ対応

編集

マニュアル

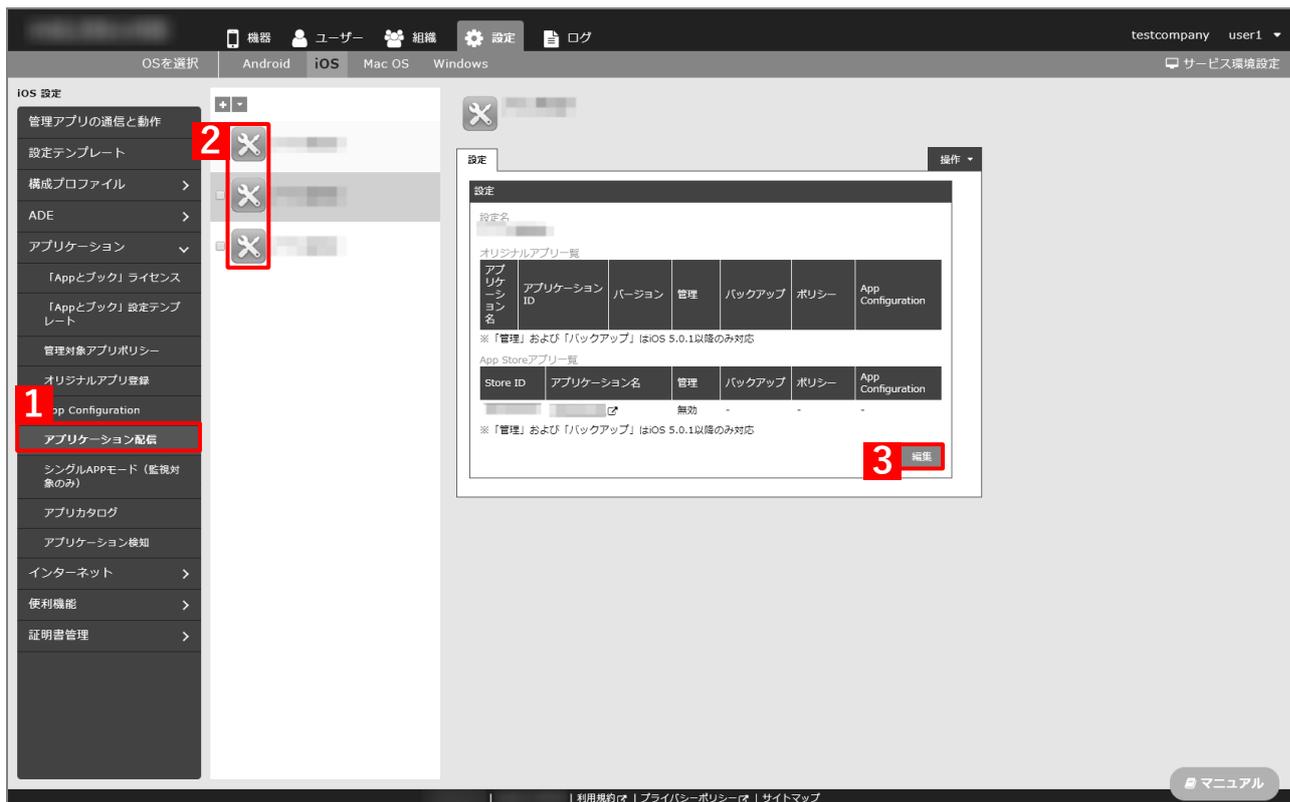
利用規約 | プライバシーポリシー | サイトマップ

2.4.2 編集

作成した設定を編集する手順について説明します。機能によっては、新規作成の画面と設定項目が異なる場合があります。

ここでは、iOS のアプリケーション配信設定を例にしています。

- [1]** [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [アプリケーション配信] をクリックします。
- [2]** 一覧から対象を選択 ( をクリック) します。
⇒ 右側に選択した設定の設定内容が表示されます。
- [3]** [編集] をクリックします。
⇒ 編集画面に切り替わります。



- 【4】** 各項目を編集します。
- 【5】** [保存] をクリックします。
- ⇒設定が保存されます。

✕
新規作成

設定

4
設定 - 編集

設定名

オリジナルアプリ一覧

アプリケーション名	管理	バックアップ	ポリシー	App Configuration
(+ ボタンで追加: 600件まで) +				
<small>※事前にオリジナルアプリ登録をおこなってください。「メニュー」→「オリジナルアプリ登録」から、オリジナルアプリを登録できます。 ※「管理」および「バックアップ」はiOS 5.0.1以降のみ対応</small>				

App Storeアプリ一覧 更新

Store ID	アプリケーション名	管理	バックアップ	ポリシー	App Configuration
<input style="width: 100%;" type="text"/>	---	<input type="checkbox"/> 有効	<input type="checkbox"/> 許可	管理対象アプリポリシーがありません。	<div style="display: flex; align-items: center;"> 新規追加 <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">App Configuration がありません。</div> ✕ </div>
(+ ボタンで追加: 300件まで) +					
<small>※Store IDには、App StoreアプリケーションのURLに含まれるIDを入力してください。 URL「https://itunes.apple.com/jp/app/example/id<Store ID>?mt=8」の<Store ID>の部分になります。 ※インストールするには、機器にApple IDが設定済みである必要があります。 ※「管理」および「バックアップ」はiOS 5.0.1以降のみ対応</small>					

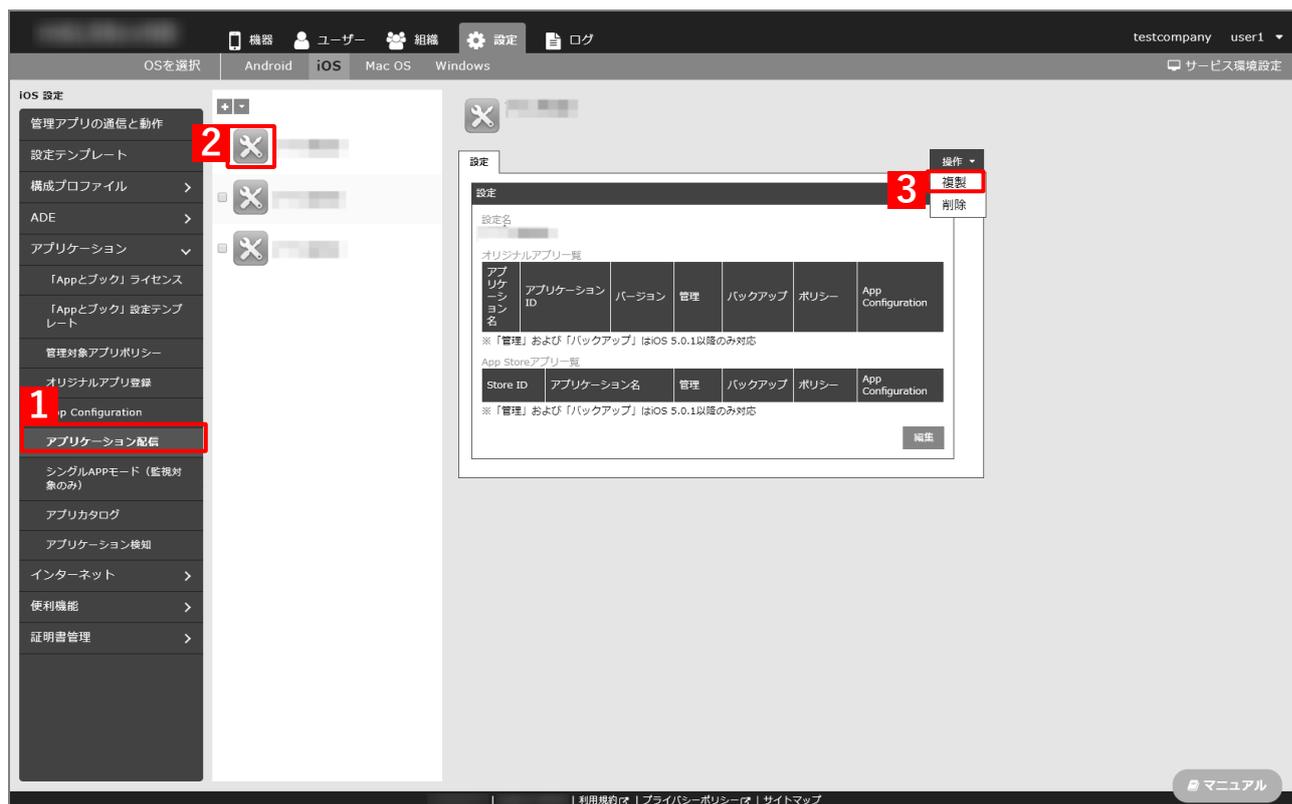
5
保存

2.4.3 複製

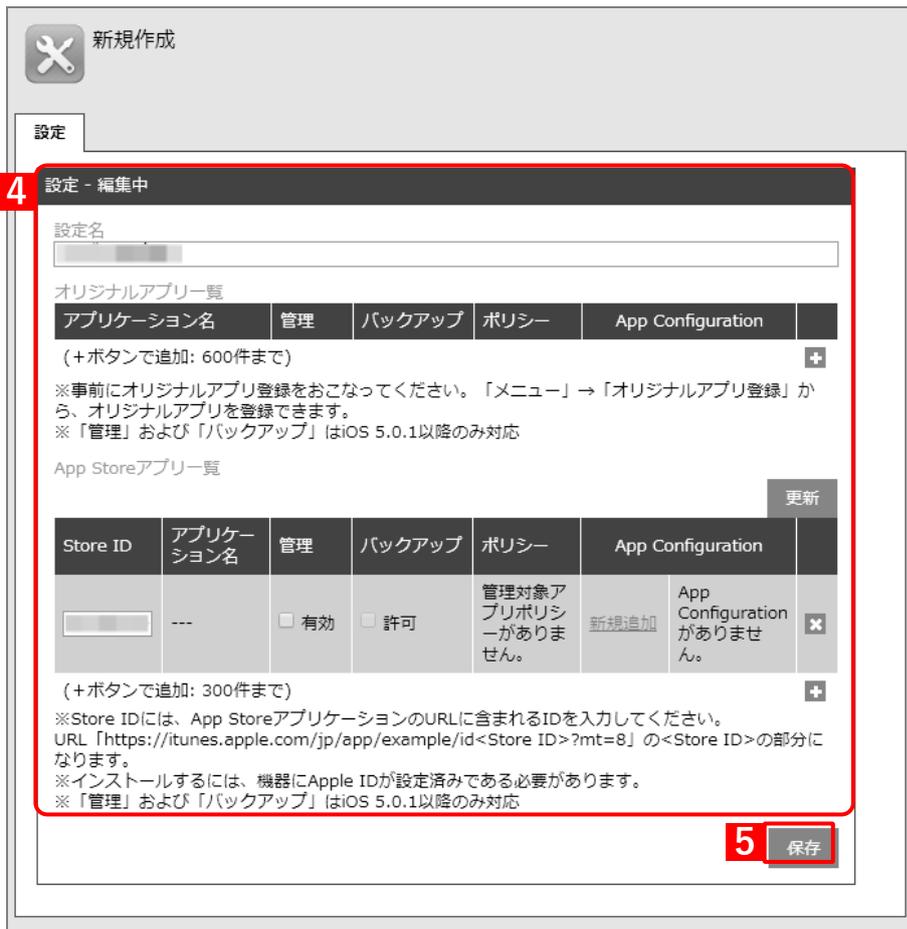
作成した設定を複製し、新しい設定を作成する手順について説明します。

ここでは、iOS のアプリケーション配信設定を例にしています。

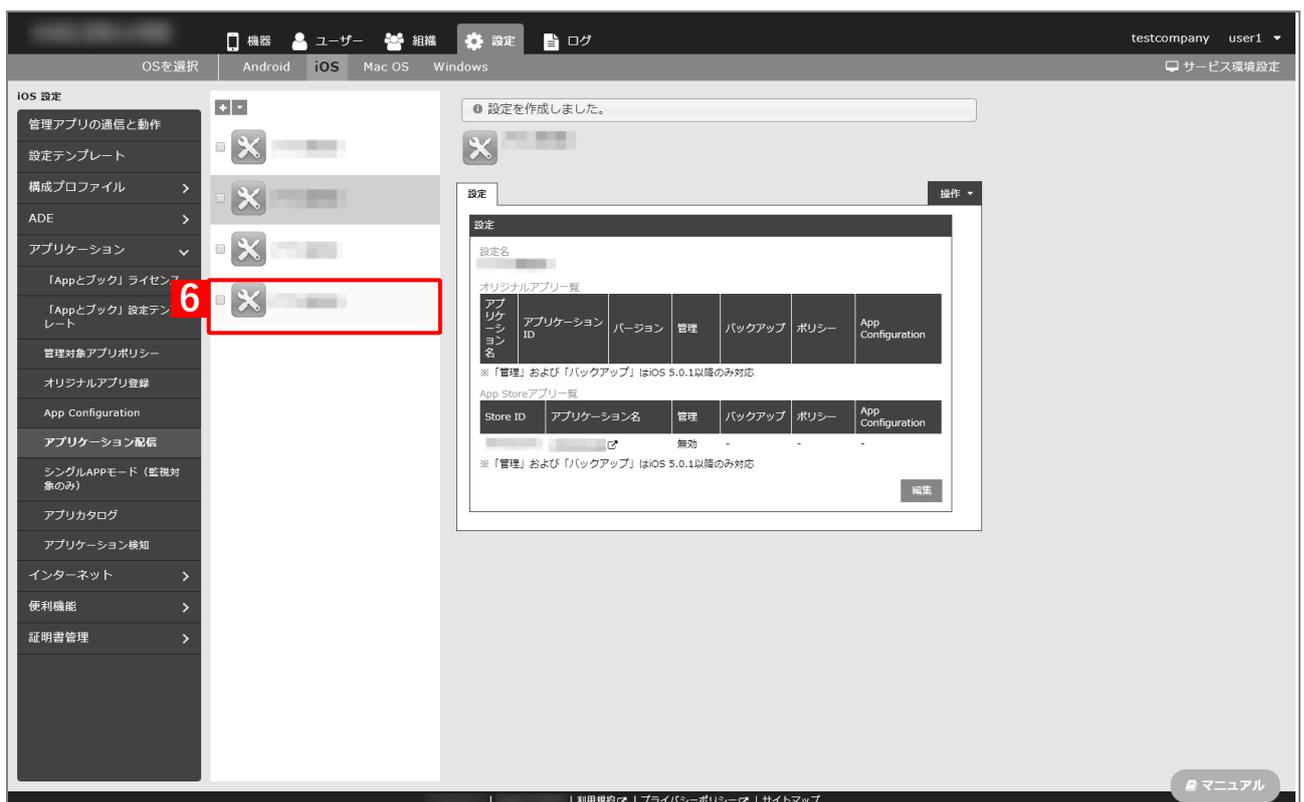
- [1]** [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [アプリケーション配信] をクリックします。
- [2]** 一覧から複製元にする設定を選択（ をクリック）します。
⇒ 右側に選択した設定の設定内容が表示されます。
- [3]** [操作] → [複製] をクリックします。
⇒ 設定を複製し、新規作成画面に切り替わります。



- [4]** 複製された設定内容を編集します。
 - [5]** [保存] をクリックします。
- ⇒設定が作成されます。



- [6]** 作成された設定が、一覧に追加されたことを確認します。

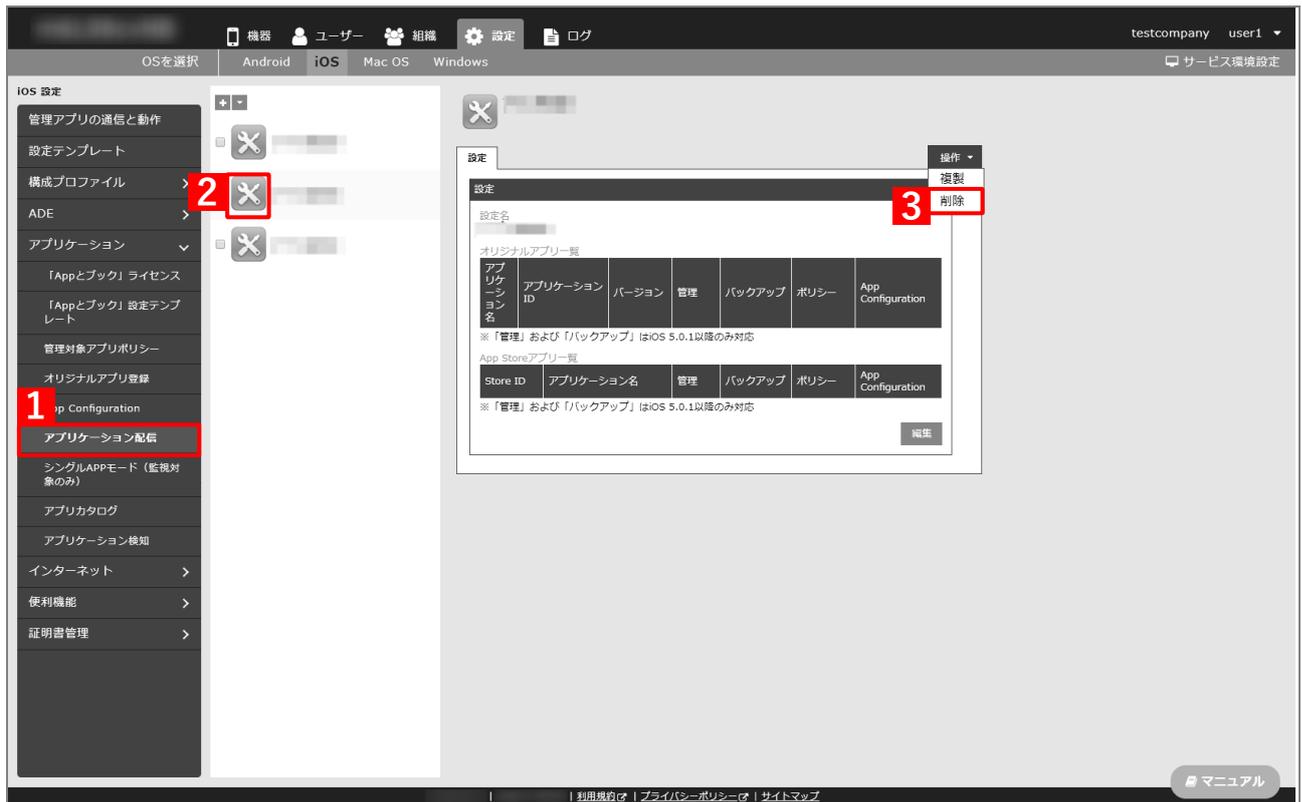


2.4.4 削除

設定を削除する手順について説明します。

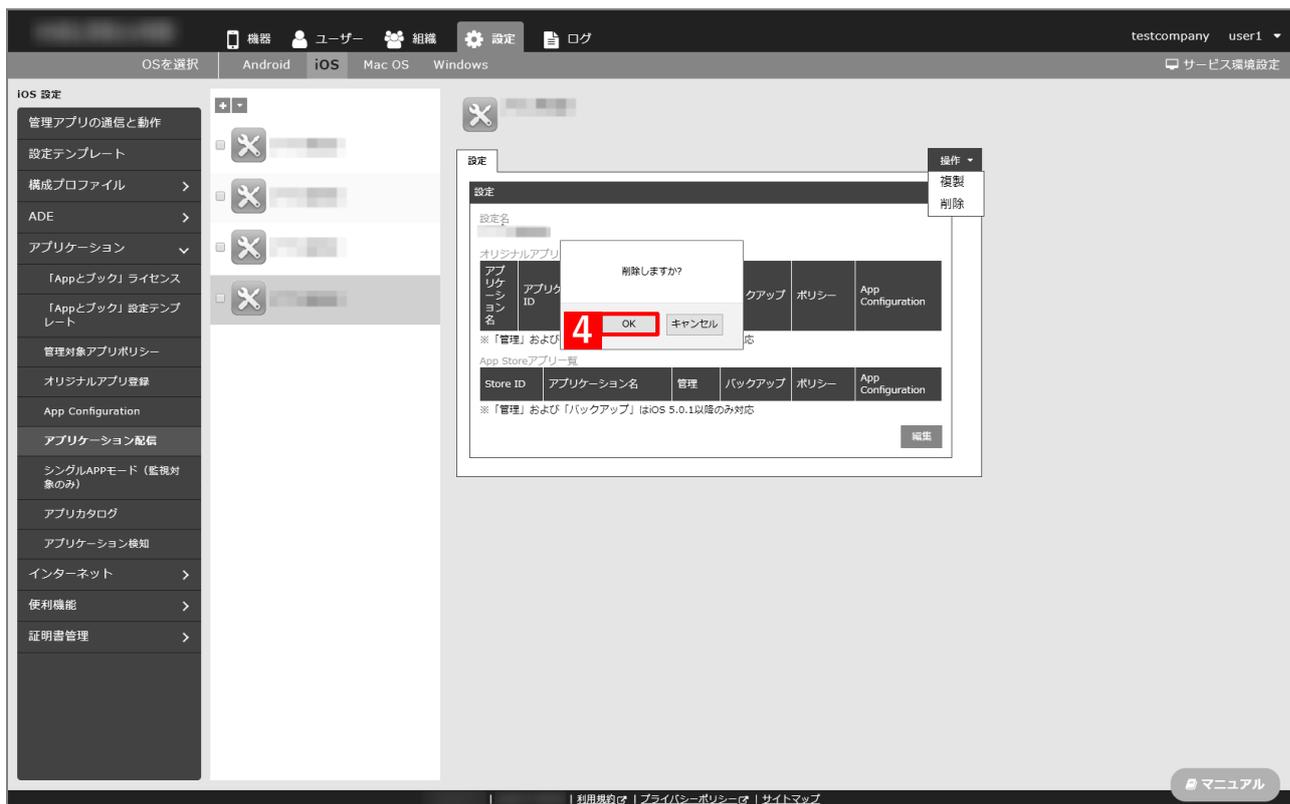
ここでは、iOS のアプリケーション配信設定を例にしています。

- [1]** [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [アプリケーション配信] をクリックします。
- [2]** 一覧から削除する設定の  を選択します。
⇒ 右側に選択した設定の設定内容が表示されます。
- [3]** [操作] → [削除] をクリックします。
⇒ 削除の確認メッセージが表示されます。



[4] [OK] をクリックします。

⇒ 設定が削除されます。



2.4.5 一括削除

不要な設定をすべてを選択し、一括で削除する手順について説明します。

ここでは、iOS のアプリケーション配信設定を例にしています。

[1] [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [アプリケーション配信] をクリックします。

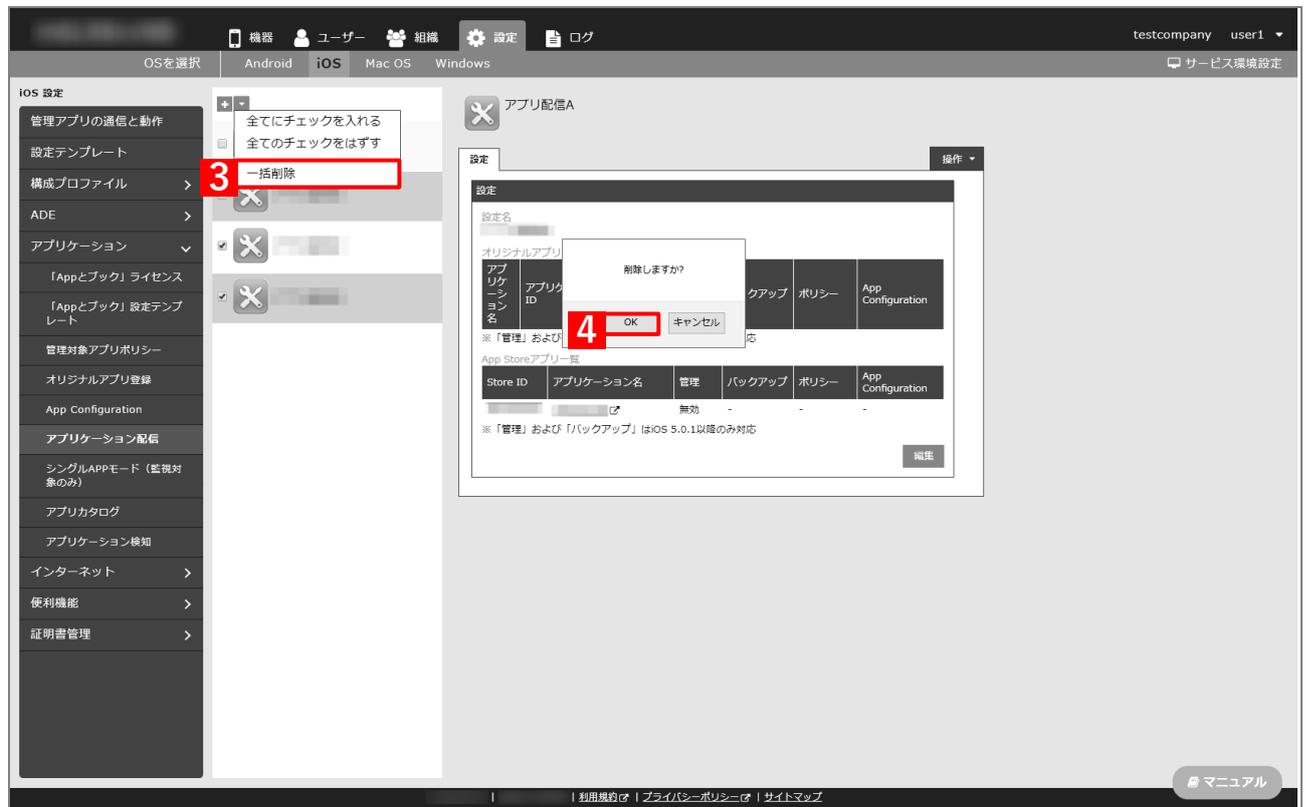
[2] 削除する設定にチェックを入れます。

すべての設定にチェックを入れたり、外したりするには、▼ → [全てにチェックを入れる] または [全てのチェックをはずす] をクリックします。

The screenshot shows the management console interface for iOS settings. The left sidebar contains a list of settings, with 'アプリケーション配信' (Application Distribution) selected and highlighted with a red box and the number '1'. The main content area displays a list of application distribution settings, with checkboxes and 'X' icons for each item. A red box and the number '2' highlight the checkboxes. A modal dialog is open, showing a table of application distribution settings with columns for Store ID, Application Name, Management, Backup, Policy, and App Configuration.

Store ID	アプリケーション名	管理	バックアップ	ポリシー	App Configuration
		無効	-	-	-

- [3]**  → **[一括削除]** をクリックします。
⇒ 削除の確認メッセージが表示されます。
- [4]** **[OK]** をクリックします。
⇒ チェックを入れた設定が、一括で削除されます。



2.4.6 一覧項目の操作

設定画面に表示される、アプリや連絡先などの一覧項目の操作手順について説明します。

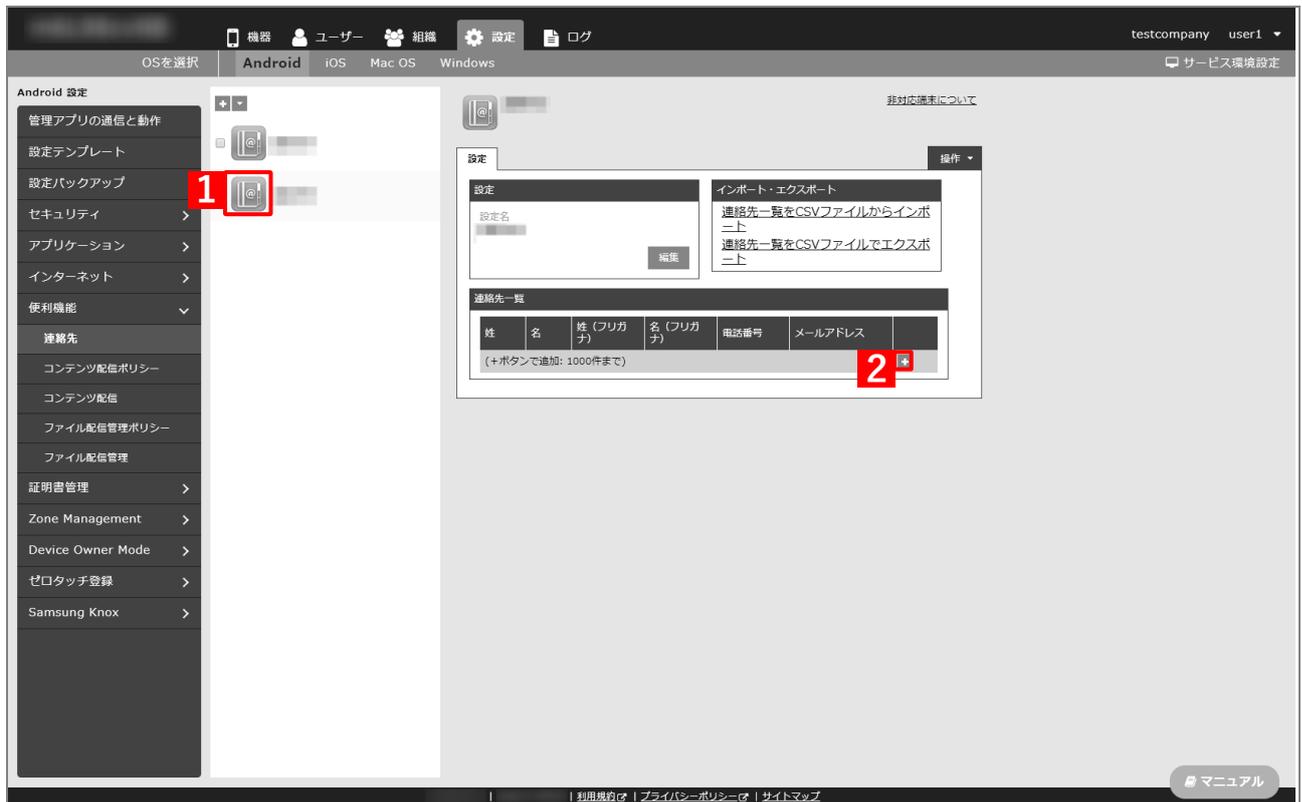
ここでは、Android の連絡先一覧を例にしています。

📌 設定画面によっては、追加と削除だけの場合もあります。

[1] [設定] → [Android] → [便利機能] → [連絡先] → 一覧から対象を選択します。

[2] 「連絡先一覧」の **+** をクリックします。

⇒ 連絡先の登録行が 1 行追加されます。

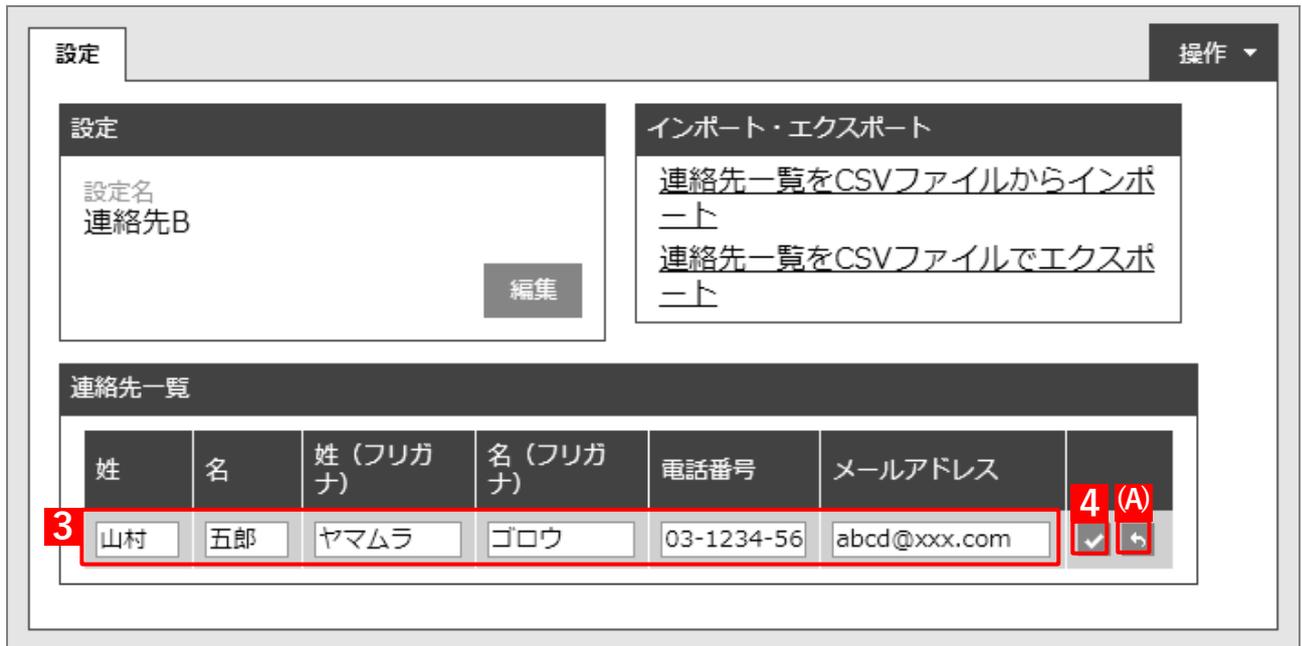


The screenshot shows the 'Android 設定' (Android Settings) screen. The left sidebar lists various settings, with '連絡先' (Contacts) selected. The main content area shows the '連絡先一覧' (Contacts List) section. A red box labeled '1' highlights the '+' button at the top of the list. A second red box labeled '2' highlights the table of existing contacts, which has columns for '姓' (Last Name), '名' (First Name), '姓 (フリガナ)' (Last Name (Kana)), '名 (フリガナ)' (First Name (Kana)), '電話番号' (Phone Number), and 'メールアドレス' (Email Address). Below the table, it says '(+ボタンで追加: 1000件まで)' (Add with + button: up to 1000 items).

[3] 連絡先情報を入力します。

[4] をクリックします。

現在の操作を取り消したい場合は、(A)  をクリックします。
追加登録の場合は追加を取り消し、編集の場合は編集を取り消し、操作する前の状態に戻ります。



設定

設定

設定名
連絡先B

編集

インポート・エクスポート

連絡先一覧をCSVファイルからインポート

連絡先一覧をCSVファイルでエクスポート

連絡先一覧

姓	名	姓 (フリガナ)	名 (フリガナ)	電話番号	メールアドレス	
3 山村	五郎	ヤマムラ	ゴロウ	03-1234-56	abcd@xxx.com	4 (A) <input checked="" type="checkbox"/> 

[5] 保存した連絡先を確認します。

登録した内容を編集するには、(A)  をクリックします。

登録した内容を削除するには、(B)  をクリックし、確認画面で [OK] をクリックします。



設定

設定

設定名
連絡先B

編集

インポート・エクスポート

連絡先一覧をCSVファイルからインポート

連絡先一覧をCSVファイルでエクスポート

連絡先一覧

姓	名	姓 (フリガナ)	名 (フリガナ)	電話番号	メールアドレス	
5 山村	五郎	ヤマムラ	ゴロウ	0312345678	abcd@xxx.com	(A)  (B) 

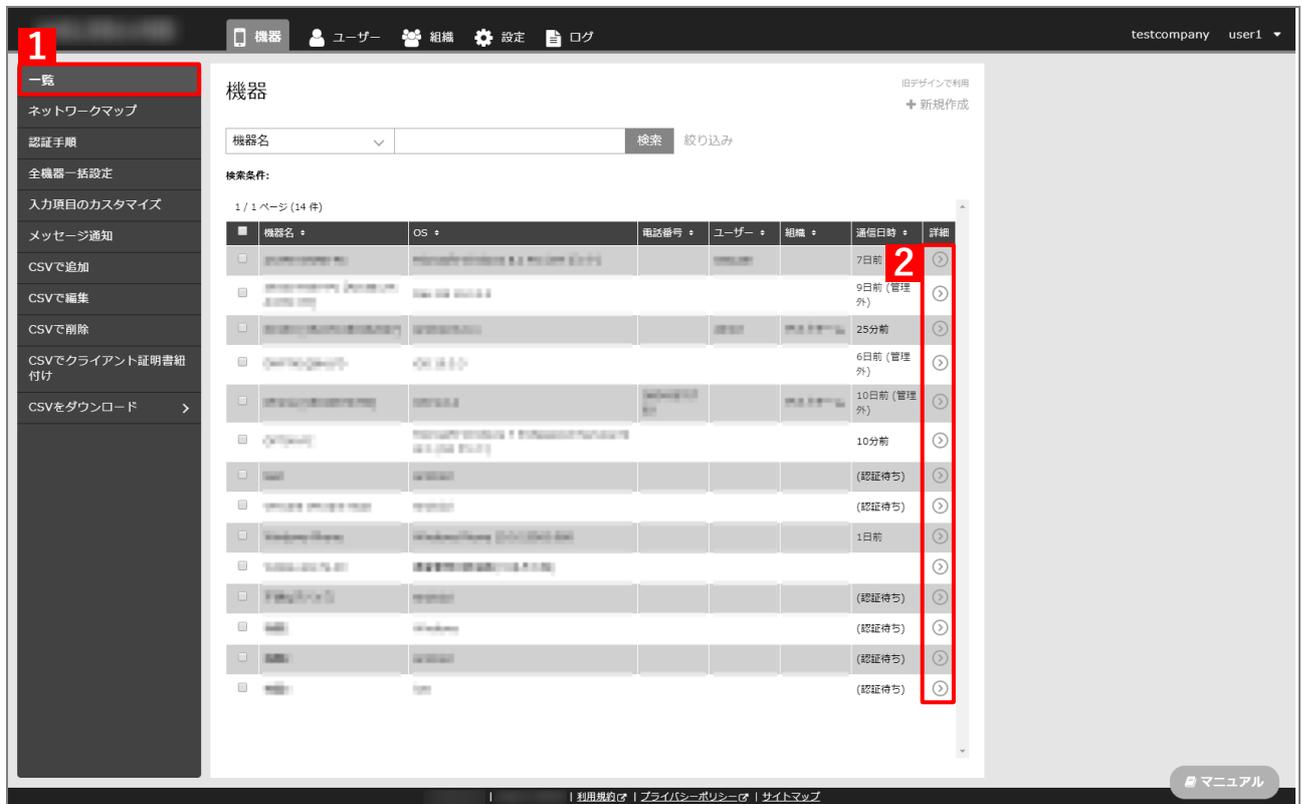
(+ボタンで追加: 1000件まで)



2.4.7 詳細情報の表示

[機器] の [一覧] 画面から詳細画面を表示する手順について説明します。

- [1]** [機器] → [一覧] をクリックします。
- [2]** 詳細を確認する機器の「詳細」の  をクリックします。
⇒ 機器一覧の右側に詳細画面が表示されます。



1

機器

旧デザインで利用
+ 新規作成

機器名

検索 絞り込み

検索条件:

1 / 1 ページ (14 件)

<input type="checkbox"/>	機器名	OS	電話番号	ユーザー	組織	通信日時	詳細
<input type="checkbox"/>	7日前	
<input type="checkbox"/>	9日前 (管理外)	
<input type="checkbox"/>	25分前	
<input type="checkbox"/>	6日前 (管理外)	
<input type="checkbox"/>	10日前 (管理外)	
<input type="checkbox"/>	10分前	
<input type="checkbox"/>	(認証待ち)	
<input type="checkbox"/>	(認証待ち)	
<input type="checkbox"/>	1日前	
<input type="checkbox"/>	(認証待ち)	
<input type="checkbox"/>	(認証待ち)	
<input type="checkbox"/>	(認証待ち)	
<input type="checkbox"/>	(認証待ち)	

2

利用規約 | プライバシーポリシー | サイトマップ

マニュアル

[3] 詳細情報を確認します。

☑表示される項目は、一覧の種類によって異なります。

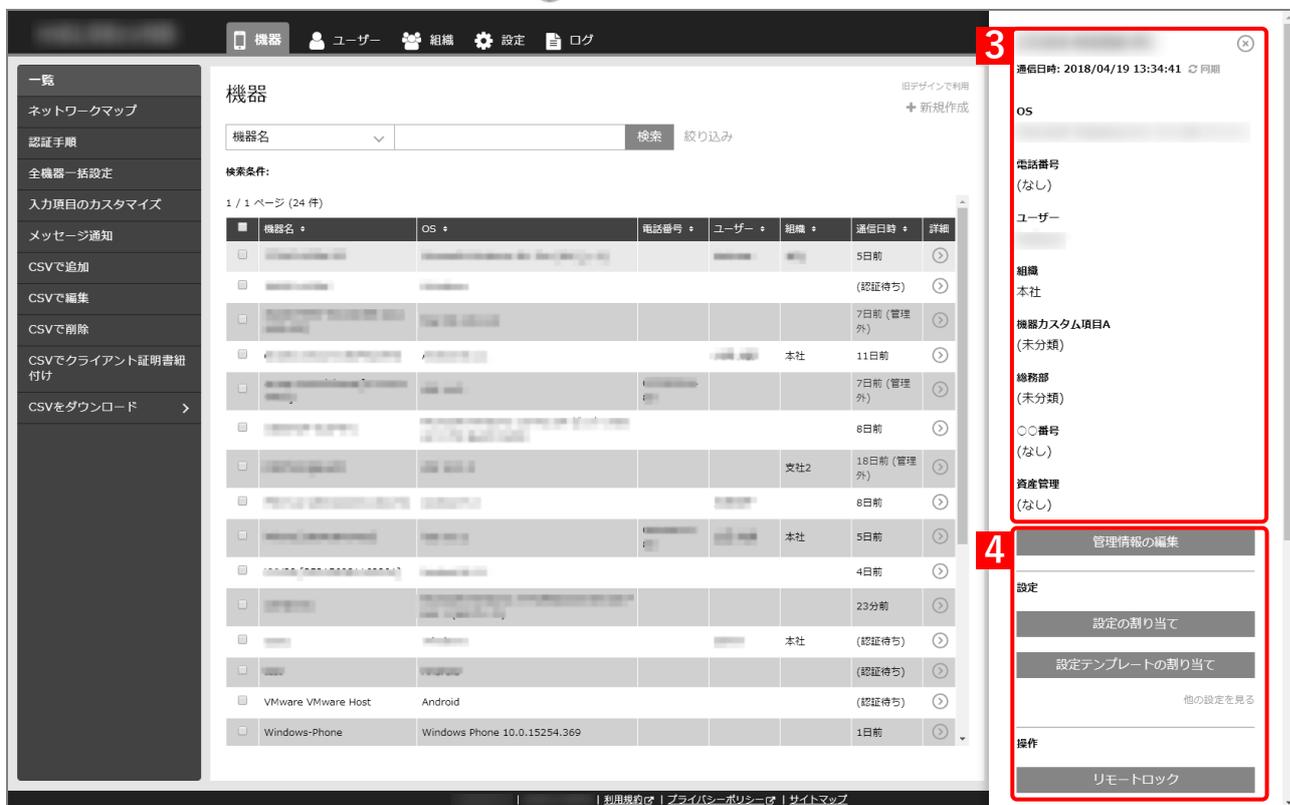
☑詳細画面を閉じる場合は、⊗ をクリックするか、「詳細」の ⌂ を再度クリックします。

[4] 必要に応じて各種操作をします。

☑操作できるメニューは、一覧の種類によって異なります。

☑表示されていないメニューを表示するには、[他の〇〇を見る] をクリックします。

メニューをクリックしたあとの画面で ⏪ をクリックすると、詳細画面に戻ります。



2.5 CSV ファイルの共通操作

CSV ファイルを利用して、複数の情報を一括で管理サイトに登録できます。以下の手順でダウンロードした CSV ファイルを編集し、アップロードします。

- ✔ CSV ファイルは、Excel やメモ帳などで編集してください。
- ✔ アップロードできる CSV ファイルのファイルサイズは 10MB までです。
- ✔ アップロードした機器情報は、次回の同期時に端末に反映されます。
- ✔ VPN の「ユーザーパスワード」にアスタリスク「*」だけで構成された文字列を指定はできません。

≪機器 [CSV で追加] の例≫

- [1]** [機器] → [CSV で追加]
- [2]** [ダウンロード] をクリックします。
⇒ CSV ファイルがダウンロードされます。
- [3]** インポート用の CSV ファイルを作成します。
- [4]** [ファイルを選択] をクリックし、機器情報を入力したインポート用の CSV ファイルを選択します。
- [5]** [アップロード] をクリックします。
⇒ インポート用の CSV ファイルがアップロードされます。アップロードが完了すると、インポート画面が表示されます。

1. CSVファイルを準備します

「ダウンロード」ボタンをクリックしてCSVファイルをダウンロードします。
ダウンロードしたファイルの内容を編集して保存してください。

2 ダウンロード

2. CSVファイルをアップロードします

編集したCSVファイルを指定して「アップロード」ボタンをクリックしてください。
アップロード完了後、インポートの確認画面に移動します。

4 ファイルを選択 選択されていません

5 アップロード

[6] アップロードした CSV ファイルに登録されている情報の一覧が表示されます。内容を確認します。

内容に誤りがある場合は、一覧の最後の「備考」にエラー内容が表示されます。

[インポート実行] をクリックする前に、注意事項を必ず確認してください。

[7] [インポート実行] をクリックします。

インポートする情報を変更する場合は、インポート用の CSV ファイルを再度編集し、(A) [ファイルを選択] をクリックして該当の CSV ファイルを選択します。(B) [アップロード] をクリックすると、編集した CSV ファイルがアップロードされます。

⇒ インポートが開始されます。インポートが完了すると「インポートに成功しました。」とメッセージが表示され、インポート結果が表示されます。

下記内容でよろしければ「インポート実行」をクリックしてください。

7 インポート実行

6 全5件

行	[S]Android機器	[S]iOS機器	[S]Mac OS機器	[S]Windows機器	[S]資産管理対象機器	[F]機器名	[S]種別	[S]ユーザー	[S]組織	[G]テスト
1				ON		テスト機器5				
2				ON		テスト機器6				
3				ON		テスト機器7				
4				ON		テスト機器8				
5				ON		テスト機器9				

インポートする内容を変更する場合は、CSVファイルを編集後再度アップロードしてください。

(A) ファイルを選択 選択されていません

(B) アップロード

◆インポート用の CSV ファイルの構造

形式	<p>CSV ファイルは、改行コードで区切った複数のレコードで構成されています。各レコードは、カンマ (%x2C) で区切った複数のフィールドで構成されています。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> フィールドの値に以下の制御文字が含まれる場合は、フィールドの値全体をダブルクォートで囲むことで、エスケープすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ダブルクォート (%x22) • カンマ (%x2C) • CR (%x0D) • LF (%x0A) <p><input checked="" type="checkbox"/> インポートできる CSV ファイルのフォーマットは、カンマ (,) で定義されています。</p> <p>例 1) エスケープされたフィールドを含まない場合 GUID,[F]名前,[F]フリガナ,[F]ユーザーID,[F]メールアドレス,[F]パスワード,[M]ロール user1,ユーザー1,ユーザー1,user1,user1@example,*****,ロール 1 user2,ユーザー2,ユーザー2,user2,user2@example,*****,ロール 2</p> <p>例 2) エスケープされたフィールドを含む場合 GUID,[F]名前,[F]フリガナ,[F]ユーザーID,[F]メールアドレス,[F]パスワード,[M]ロール user1,ユーザー1,ユーザー1,user1,user1@example,*****,"ロール 1,ロール 2" user2,ユーザー2,ユーザー2,user2,user2@example,*****,"ロール 1,ロール 2"</p>
文字コード	<ul style="list-style-type: none"> ●日本語環境 Shift_JIS (CP932) ●日本語以外の環境 UTF-8 <p><input checked="" type="checkbox"/> Shift_JIS で表示できない文字は「?」に置き換えられて登録されますのでご注意ください。</p>
改行コード	CR+LF (インポート時、エクスポート時)

◆CSV ファイルをインポートできる機能一覧

項目		ページ
機器	CSV で追加	280
	CSV で追加	280
	CSV で削除	285
	CSV でクライアント証明書紐付け (iOS のみ)	287
ユーザー	CSV で追加	339
	CSV で編集	341
組織	CSV で追加	356
	CSV で編集	358
設定 - Android	機能制限 / 発信先制限	387
	アプリケーション禁止	395
	連絡先	448
	クライアント証明書一括削除	458
	アプリケーション非表示	476
設定 - iOS	クライアント証明書一括アップロード	664
設定 - Windows	クライアント証明書一括アップロード	751

3 ダッシュボード

この章では、ダッシュボードに表示される各種の情報やダッシュボードから設定する内容について説明します。

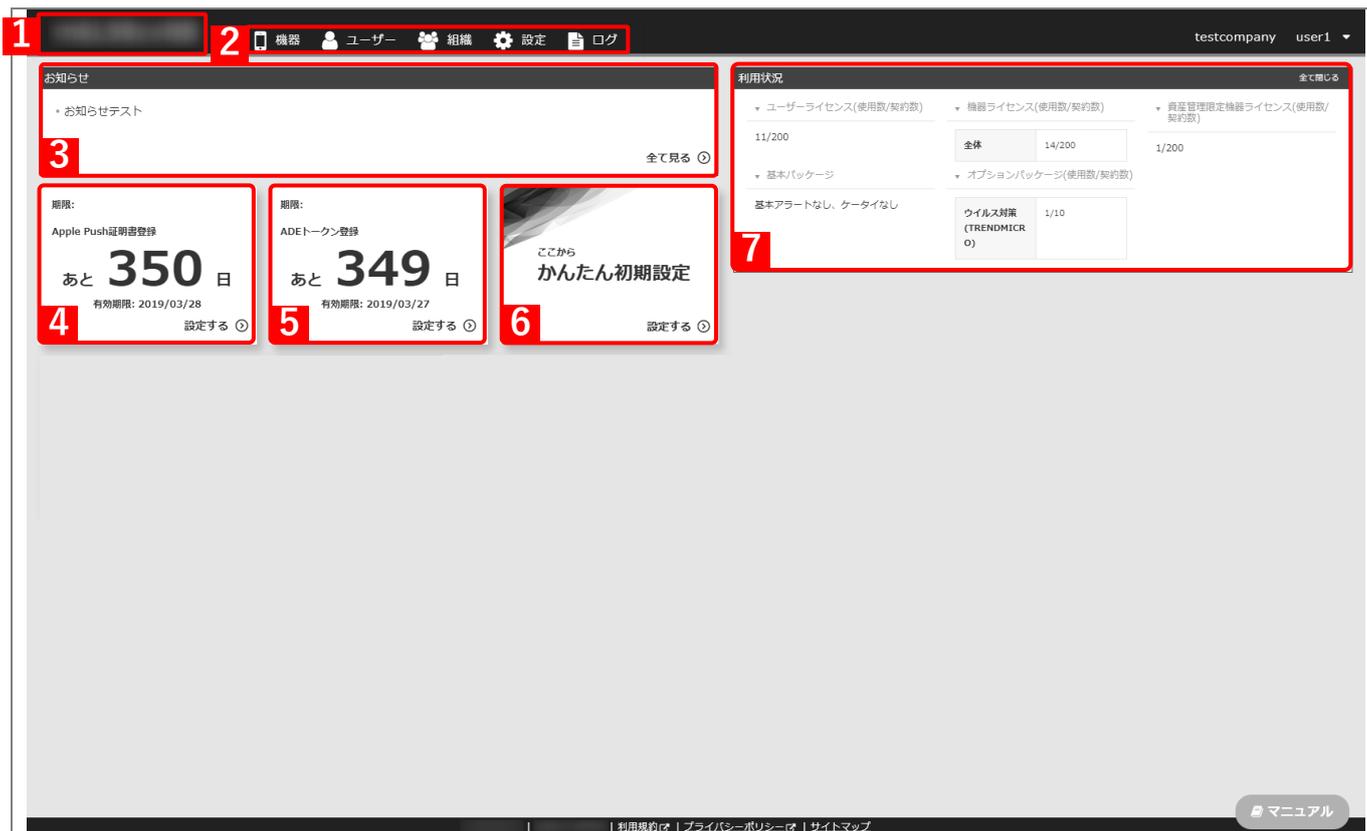
3.1 ダッシュボードの画面構成

ダッシュボードは管理サイトにログインすると表示され、「お知らせ」や「利用状況」など各種の情報を確認できます。また、ヘッダーメニューから、[機器]、[ユーザー]、[組織]、[設定]、[ログ] などの設定画面を表示することができます。

◆画面

表示操作 ログイン画面でログイン情報入力→ [ログイン]

表示操作 ダッシュボード以外の画面で [KDDI Smart Mobile Safety Manager]



項番	項目	説明
1	製品名	製品名が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> ダッシュボード以外の画面で製品名をクリックすると、ダッシュボードに切り替えることができます。
2	ヘッダーメニュー	[機器]、[ユーザー]、[組織]、[設定]、[ログ] をクリックすると、各カテゴリの画面に切り替わります。
3	お知らせ	サービス企業からの連絡内容が表示されます。詳細については、以下を参照してください。 🔗 「お知らせ」 74 ページ <input checked="" type="checkbox"/> サービス企業の設定によっては、お知らせ欄が表示されない場合があります。
4	期限： Apple Push 証明書登録	Apple Push 証明書の状態および有効期限を表示します。 ●状態 Apple Push 証明書の状態が、以下のいずれかで表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・未設定 Apple Push 証明書を登録していない場合に表示されます。 ・あと XXX 日 Apple Push 証明書の有効期限が切れるまでの残日数が表示されます。 ●有効期限 Apple Push 証明書が登録されている場合は、有効期限が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> クリックすると、Apple Push 証明書の登録画面が表示されます。詳しい内容は、以下を参照してください。 🔍 『Apple Push 証明書登録・更新手順 管理者マニュアル』
5	期限： ADE トークン登録	ADE トークンの状態および有効期限を表示します。 ●状態 ADE トークンの状態が、以下のいずれかで表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・未設定 ADE トークンを登録していない場合に表示されます。 ・あと XXX 日 ADE トークンの有効期限が切れるまでの残日数が表示されます。 ●有効期限 ADE トークンが登録されている場合は、有効期限が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> クリックすると、ADE トークンの登録画面が表示されます。詳しい内容は、以下を参照してください。 🔗 「ADE トークン登録」 597 ページ
6	かんたん初期設定	クリックすると本製品導入時の初期設定作業を簡略化する「かんたん初期設定」を開始します。かんたん初期設定の詳細については、以下を参照してください。 🔗 「かんたん初期設定」 778 ページ 以下の条件を満たす場合に表示します。 <ul style="list-style-type: none"> ●認証済みの機器がない場合 ●ログインしているユーザーの種別が「管理者」または「操作」

項番	項目	説明
7	利用状況	<p>以下の状況が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ユーザーライセンス（使用数/契約数） ユーザーの作成状況をグラフと数値で表示します。最大 10,000 ユーザーまで作成できます。ユーザーの新規作成は、以下を参照してください。 📄 「[管理] タブ」 317 ページ ●機器ライセンス（使用数/契約数） 機器の作成状況をグラフと数値で表示します。最大 10,000 機器まで作成できます。機器の新規作成は、以下を参照してください。 📄 「機器の新規作成」 86 ページ ●資産管理限定機器ライセンス（使用数/契約数） 資産管理限定機器の作成状況をグラフと数値で表示します。最大 10,000 機器まで作成できます。機器の新規作成は、以下を参照してください。 📄 「機器の新規作成」 86 ページ ●基本パッケージ 利用できる基本機能です。すべての機器で、ご利用いただけます。 ●オプションパッケージ（使用数/契約数） 利用できるオプション機能と利用状況をグラフと数値で表示します。オプションパッケージを割り当てた機器でのみ、ご利用いただけます。 使用数が契約数に達している場合は、新たにオプションパッケージを割り当てることができません。 機器へのオプションパッケージ割り当ては、以下を参照してください。 📄 「(設定 - Android) パッケージ」 115 ページ

3.2 お知らせ

サービス企業からの連絡内容が表示されます。サービス企業での設定により表示内容は異なります。

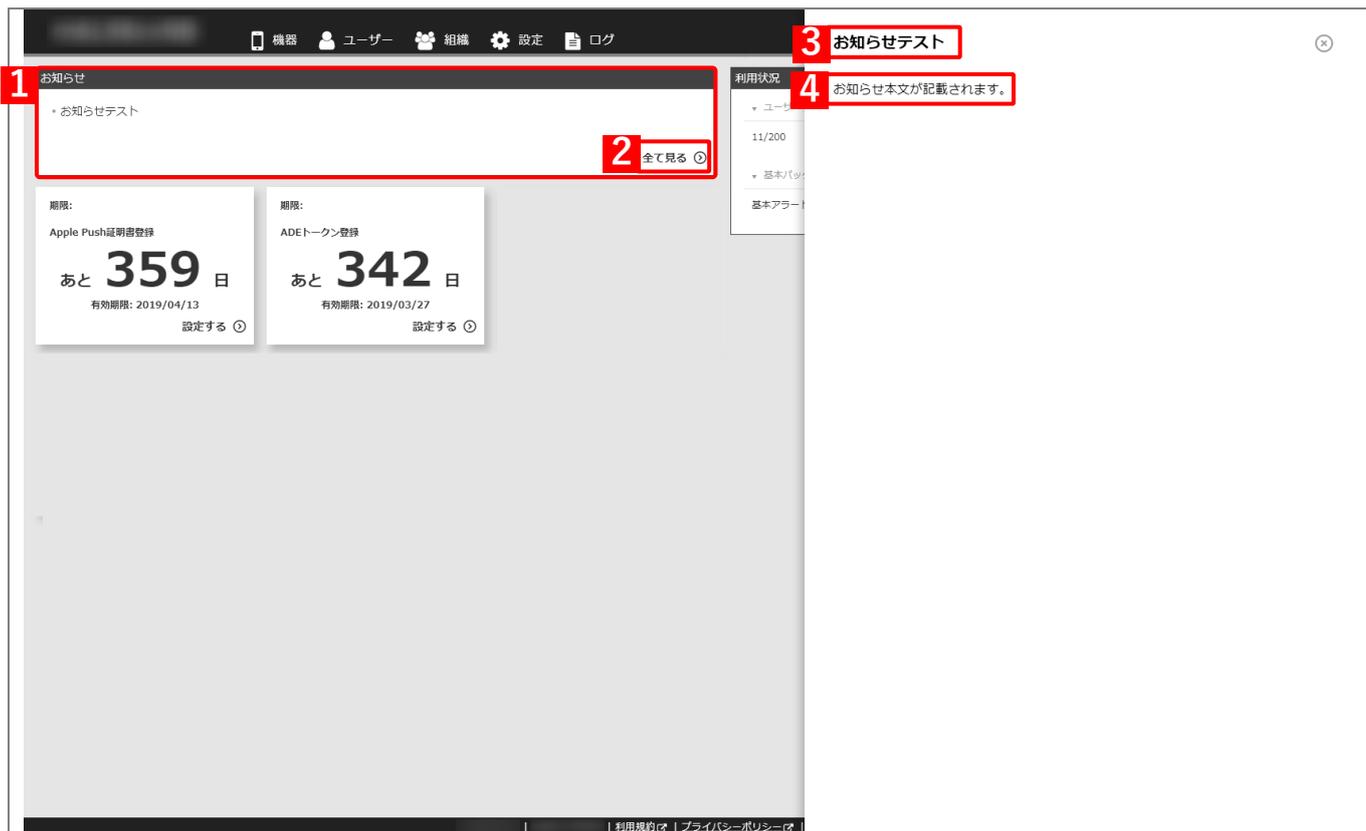
 画面

 画面 (全て見る)

 サービス企業の設定によっては、「お知らせ」が表示されない場合もあります。

◆画面

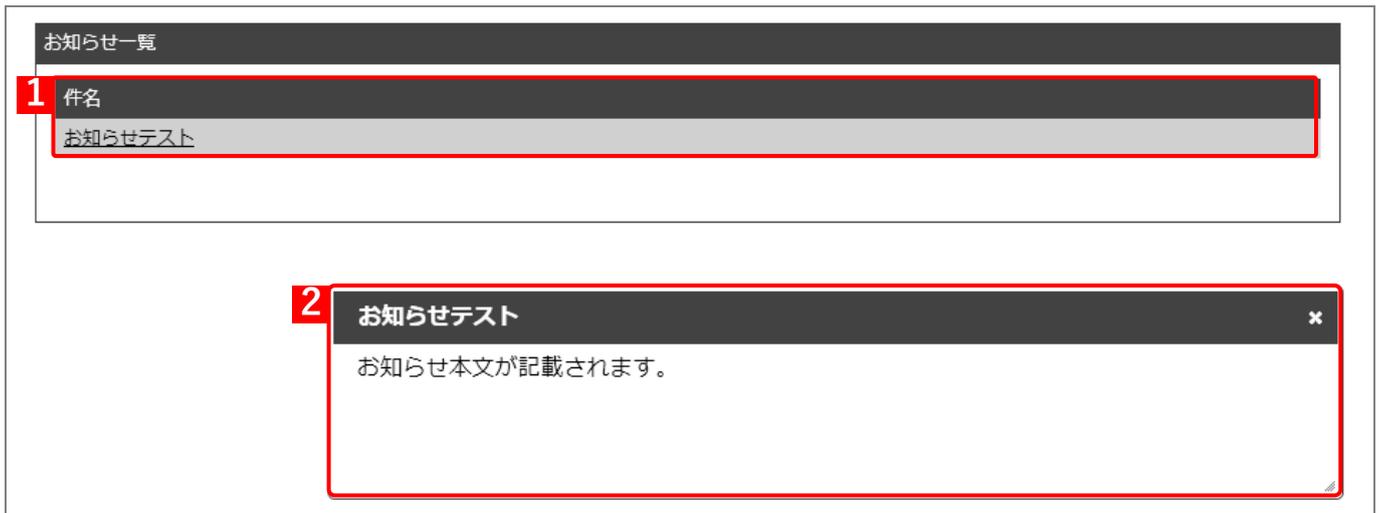
表示操作 ダッシュボードの「お知らせ」でお知らせの件名を選択



項番	項目	説明
1	お知らせ	お知らせの件名が表示されます。件名をクリックすると、お知らせの内容が表示されます。この画面では4件までのお知らせが表示されます。それ以外のお知らせは、「全て見る」をクリックすると確認いただけます。
2	全て見る	クリックすると、すべてのお知らせを表示します。  「画面 (全て見る)」 75 ページ
3	件名	お知らせの件名が表示されます。
4	お知らせ内容	お知らせの内容が表示されます。

◆画面（全て見る）

表示操作 ダッシュボードの「お知らせ」の [全て見る] →お知らせの件名を選択



項番	項目	説明
1	件名	お知らせの件名の一覧が表示されます。件名をクリックすると、お知らせの内容の画面が表示されます。
2	内容	お知らせの件名と内容が表示されます。

3.3 個人設定

ダッシュボード右端のユーザー名をクリックし、表示されるメニューから [個人設定] 選択すると、ログインユーザーごとに以下の項目を設定することができます。

 画面 (個人設定の編集画面)

 画面 (アプリケーションメモのクリア確認画面)

● 環境

管理サイト利用時の言語を設定します。

● パスワード

ログインしているユーザーのパスワードを変更します。

 ベーシックパックプラスをご利用の方は、この機能をご利用いただけません。

ユーザーのパスワード変更については、KDDI ビジネスオンラインサポートから操作可能です。詳細は以下を参照してください。

 「KDDI ビジネスオンラインサポート KDDI Business ID 設定マニュアル」の「4.4. ユーザ」
<http://www.kddi.com/business/support/service/business-id/manual/>

● アプリケーションメモ

「アプリケーション」画面で各アプリのメモ欄にチェックを入れた数を、アプリケーションメモとして表示します。また、[クリア] をクリックすると、アプリケーションメモを一括で削除し、「アプリケーション」画面のメモ欄のチェックを外すことができます。

「アプリケーション」画面の詳細については、以下を参照してください。

 「(情報 - Android) アプリケーション」179 ページ

 「アプリケーション禁止」395 ページ

 別ユーザーでログインした場合、設定は反映されません。また、ユーザー種別が閲覧者のユーザーも設定の変更ができます。

◆ 画面 (個人設定の編集画面)

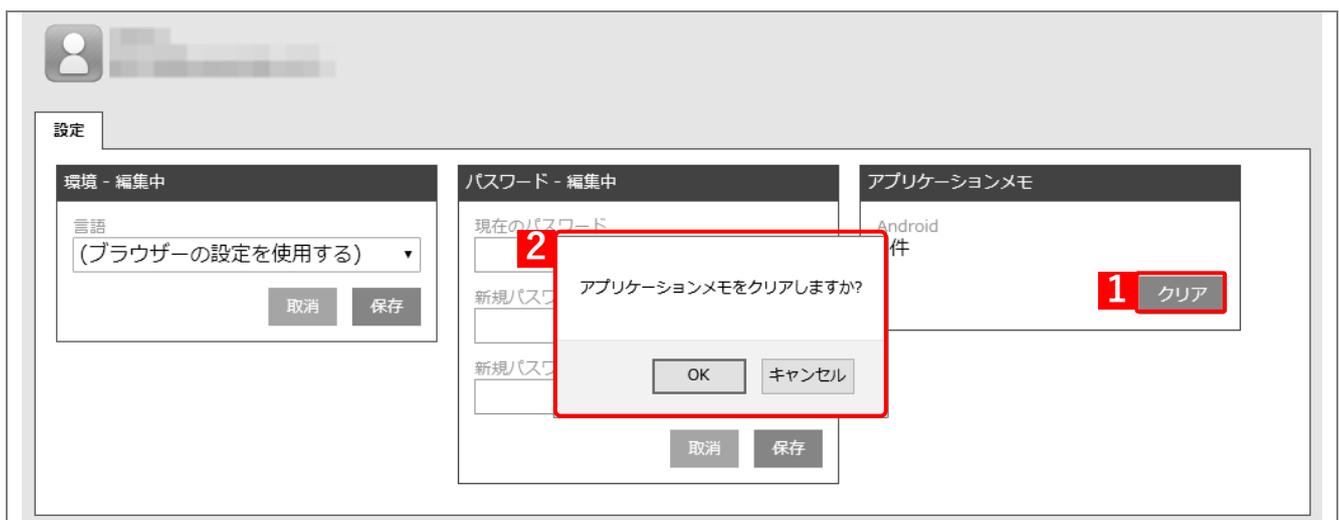
表示操作 管理サイト画面の右上の [ユーザー名] → [個人設定] → [編集]



項番	項目	説明
1	環境	管理サイトを表示する言語を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ●言語 リストボックスから以下のいずれかを選択します。 ・(ブラウザーの設定を使用する) 利用中のブラウザーの言語と同じものを利用する場合に選択します。 ・「日本語」、「English」、「簡体中文」、「繁體中文」
2	パスワード	ログイン中のユーザーのパスワードを変更します。 <ul style="list-style-type: none"> ●現在のパスワード 現在設定しているパスワードを4から20文字の半角英数字で入力します。 ●新規パスワード 変更後のパスワードを4から20文字の半角英数字で入力します。 ●新規パスワード(再入力) 「新規パスワード」で入力したパスワードと同じ値を入力してください。
3	アプリケーションメモ	登録しているアプリケーションメモの数を確認できます。アプリケーションメモの詳細については、以下を参照してください。 📄 「アプリケーション禁止」 395 ページ

◆画面（アプリケーションメモのクリア確認画面）

表示操作 [ダッシュボード] → [ユーザー名] → [個人設定] → [クリア]



項番	項目	説明
1	[クリア]	クリックすると、登録しているアプリケーションメモを削除します。
2	メッセージボックス	アプリケーションメモのクリアの実行確認の画面です。 <ul style="list-style-type: none"> ●OK アプリケーションメモのクリアを実施します。 ●キャンセル アプリケーションメモのクリアを中止します。

4 機器

この章では、ヘッダーメニューの [機器] 画面に表示される、各種の設定について説明します。

4.1 一覧

サイドメニューの [一覧] 画面に表示される、各種の設定について説明します。

4.1.1 機器一覧

[一覧] 画面では、登録されている端末の情報を表示します。

一覧から対象の端末を選択し、各種の設定や操作、情報の確認などを行うことができます。また、検索や絞り込み、並び替え、端末の一括削除、端末の新規登録なども行うことができます。

画面

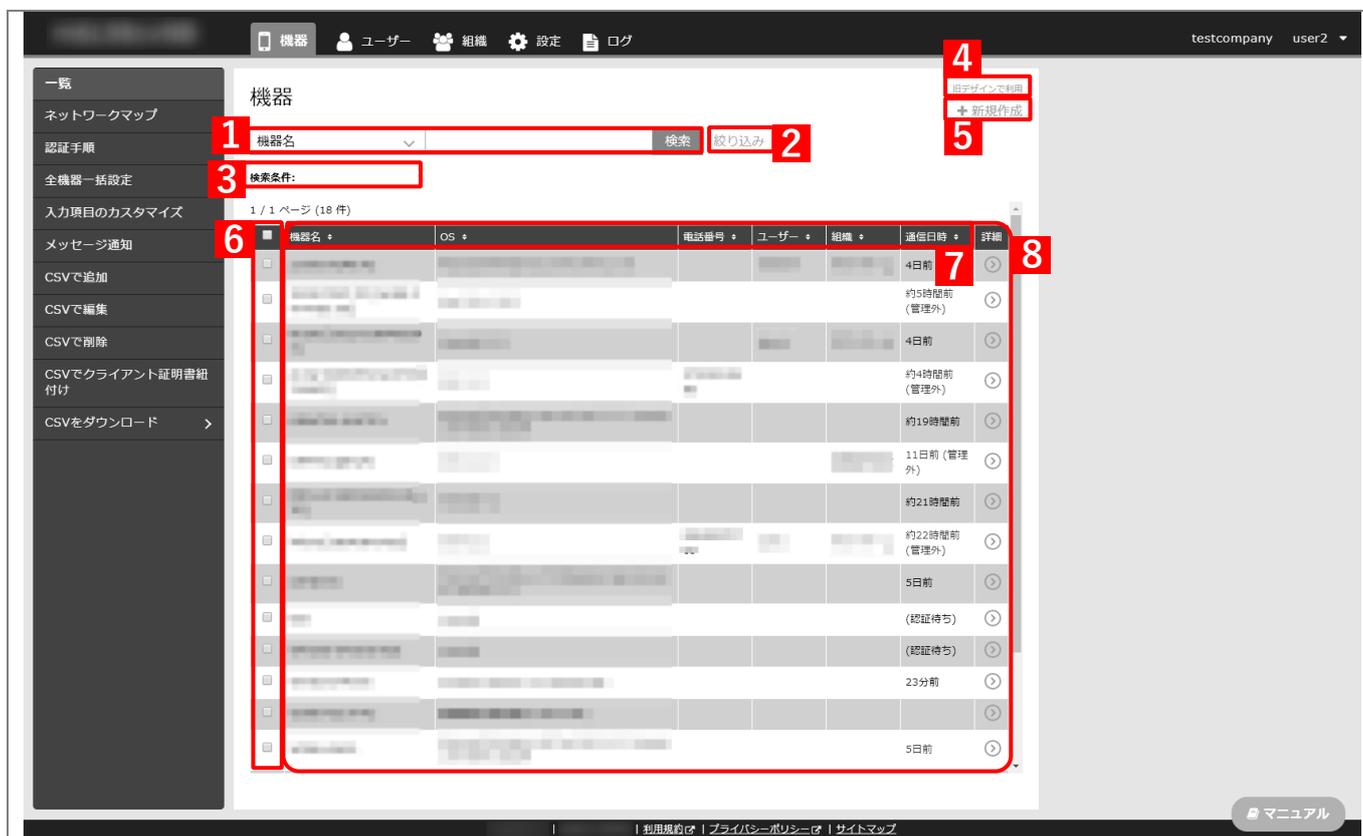
画面 (絞り込み)

画面 (一括削除)

機器一覧では、端末名称 (機器名) が辞書順で表示されます (英字は小文字、大文字の順になります)。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧]



項番	項目	説明
1	機器検索	<p>✓ をクリックして、リストボックスからカテゴリを選択し、テキストボックスに、検索するキーワードを入力して [検索] をクリックします。 検索キーワードに該当する機器のみが一覧に表示されます。</p> <p> 再度、すべての機器を一覧に表示するには、以下のいずれかの操作をしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「検索条件」に表示された をクリックします。 • テキストボックスを空欄にしてから [検索] をクリックします。 • キーボードの [F5] キーを押します。

項番	項目	説明
2	[絞り込み]	クリックすると、絞り込み条件を選択する画面が表示されます。詳細については、以下を参照してください。 🔗 「画面 (絞り込み)」 81 ページ
3	検索条件	機器検索や [絞り込み] をクリックして検索した場合、その条件が表示されます。 ✖ をクリックすると、再度、すべての機器が一覧に表示されます。
4	[旧デザインで利用]	クリックすると、旧デザインの画面が表示されます。詳細については、以下を参照してください。 🔗 「旧デザイン」 301 ページ
5	[新規作成]	クリックすると、機器の新規作成画面が表示されます。詳細については、以下を参照してください。 🔗 「機器の新規作成」 86 ページ
6	チェックボックス	複数の機器をまとめて削除する場合に、対象の機器にチェックを入れます。 ☑ チェックを入れると、一覧画面の下に機器をまとめて削除する画面が表示されます。詳細については、以下を参照してください。 🔗 「画面 (一括削除)」 82 ページ
7	見出し項目	各項目の見出しをクリックするたびに、機器の一覧がその項目の昇順、降順に並び替えられます。
8	機器一覧	以下の項目が表示されます。 ● 機器名 機器の名称が表示されます。 ● OS 該当機器の OS 名が表示されます。 ● 電話番号 登録済みの電話番号が表示されます。 複数の電話番号を持つ端末は、端末が保持している電話番号のうち、いずれか1つが「電話番号」列に表示されます。 表示されていない他の電話番号は、🔍 をクリックすると表示される詳細画面で確認することができます。 ☑ 端末が保持している他の電話番号で検索した場合は、検索結果に検索した電話番号が表示されないことがあります。 ● ユーザー 作成したユーザーに機器が紐づいている場合は、そのユーザー名が表示されます。 ● 組織 以下の組織が表示されます。 ・ 機器が紐づいている組織 ・ 機器に紐づいているユーザーが所属している組織 ● 通信日時 対象の機器と管理サーバーが最後に通信した日時 (○日前、○分前) が表示されます。 ☑ 機器の状態によって、「(管理外)」、「(認証待ち)」などが表示されます。 ● 詳細 🔍 をクリックすると、機器一覧の右側に該当の機器の管理情報の表示や編集、設定、操作、各種情報を表示する詳細画面が表示されます。 🔗 「機器の新規作成」 86 ページ ☑ 🔍 をクリックすると、機器一覧の対象の機器情報の行の背景色の色が変わります。

◆画面（絞り込み）

表示操作 [機器] → [一覧] → [絞り込み]

絞り込み

1 OS
 Android
 iOS
 Mac OS
 Windows
 資産管理対象機器

2 OSバージョン

3 電話番号
 登録済み
 登録なし

4 ユーザー
 登録済み
 登録なし

5 組織
 (なし)
 テストチーム
 機器個別設定
 営業部

6 機器カスタム項目A
 (未分類)
 グループA
 グループB

機器用途
 (未分類)
 社内使用端末
 社外持ち出し用端末

所属（部）
 (未分類)
 営業部
 企画部

役職
 (未分類)
 部長
 課長
 役職なし

7 通信状況
 無通信検知機器
 管理外機器

8 認証状況
 認証待ち機器
 認証待ち機器を含まない

取消
9 絞り込み

項番	項目	説明
1	OS	OS の種別、資産管理対象機器で絞り込みを行う場合に、対象にチェックを入れます。
2	OS バージョン	OS のバージョンで絞り込みを行う場合に、テキストボックスに対象のバージョンを入力します。
3	電話番号	管理情報の電話番号の登録状況で絞り込みを行う場合に、「登録済み」または「登録なし」にチェックを入れます。
4	ユーザー	管理情報の「ユーザー」の登録状況で絞り込みを行う場合に、「登録済み」または「登録なし」にチェックを入れます。
5	組織	作成した組織で絞り込みを行う場合に、対象の組織にチェックを入れます。
6	(カスタマイズ項目)	機器やユーザーの「入力項目のカスタマイズ」で登録した項目、分類がある場合、登録されているグループで絞り込みを行う場合に、対象のグループにチェックを入れます。
7	通信状況	通信状況で絞り込みを行う場合に、「無通信検知機器」または「管理外機器」にチェックを入れます。 <input checked="" type="checkbox"/> 無通信検知については、以下を参照してください。 📖 「通知設定」764 ページ <input checked="" type="checkbox"/> 管理外機器については、以下を参照してください。 📖 「機器の種類」238 ページ
8	認証状況	認証状況で絞り込みを行う場合に、「認証待ち機器」または「認証待ち機器を含まない」にチェックを入れます。
9	[絞り込み]	クリックすると、設定した絞り込み条件に一致した機器が一覧に表示されます。

◆画面（一括削除）

表示操作 [機器] → [一覧] → 削除する機器にチェックを入れる



項番	項目	説明
1	チェックボックス	削除する機器にチェックを入れます。チェックを入れると、一覧の下に操作メニューが表示されます。 見出し行にあるチェックボックスをクリックすると、すべての機器にチェックを入れたり、外したりできます。
2	▼ ▲	クリックするたびに操作メニューを閉じたり、表示したりします。
3	削除	チェックした機器を削除する場合に、「この機器を削除する」を選択します。
4	[実行]	クリックすると確認画面が表示されます。
5	確認画面	[OK] をクリックすると、チェックが入っている機器が一覧から削除されます。 個別に削除する方法については、以下を参照してください。 📄 「機器の個別削除」 110 ページ

🔍 削除した端末は、管理サイトからの設定や確認が一切できなくなります。ただし、既存の設定は端末にそのまま保持されます。端末を削除する場合は、十分に注意してください。

🔍 削除した端末側で、別途以下の操作を行う必要があります。

- ライセンスの解除
- エージェントおよびプロファイルのアンインストール

🔍 iOS 端末にシングル APP モードの設定を適用している場合は、必ずシングル APP モードの割り当てを解除/同期を行い、端末で解除されたことを確認してから、機器を削除してください。シングル APP モードが適用されている状態で機器を削除すると、端末が操作不能になる場合があるので、注意してください。

📄 「シングル APP モード（監視対象のみ）」 629 ページ

◆エラー一覧

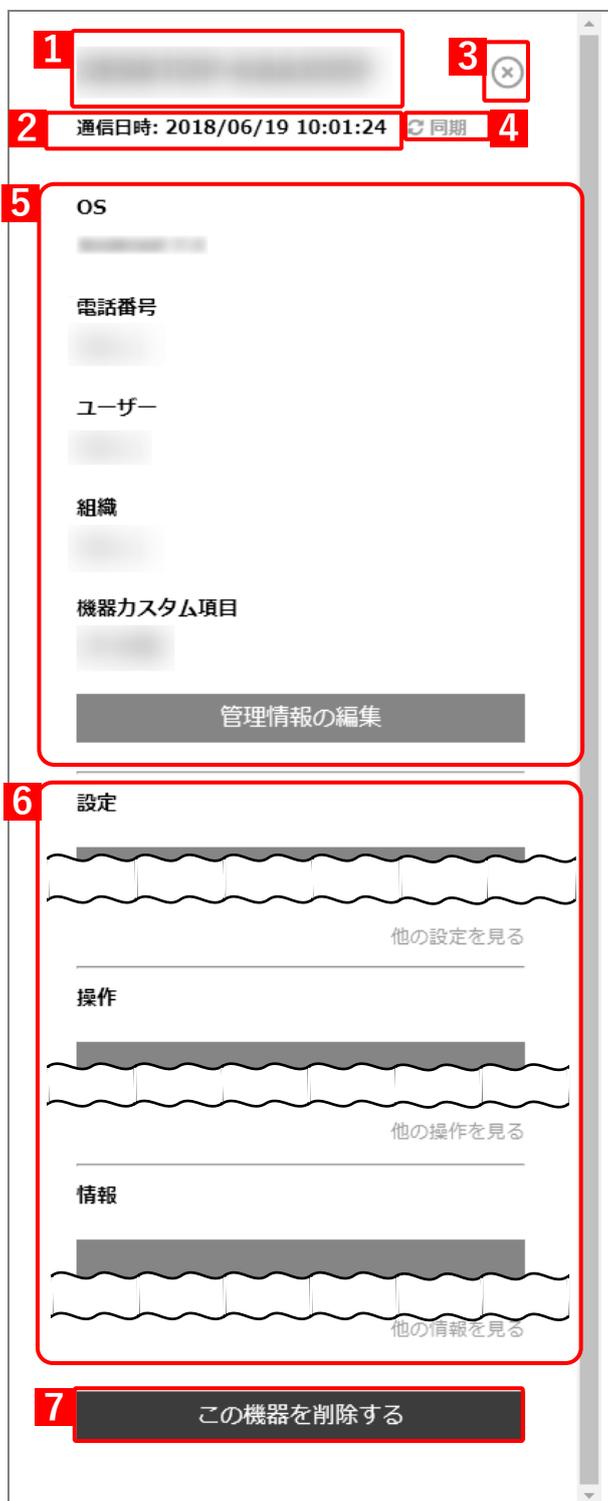
文言	発生契機	対処方法
<p>▲ シングル APP モードの設定が割り当てられているため、削除に失敗した認証済みの iOS 機器があります。</p>	<p>シングル APP モードが適用されている状態で機器を削除しようとしている。</p>	<p>シングル APP モードの割り当てを解除/同期を行い、端末で解除されたことを確認して、再度、削除してください。</p>

4.1.2 機器の詳細画面

[一覧] 画面から詳細画面を表示すると、端末への設定セットの反映や管理情報の確認／編集、各種の設定、操作、情報の確認などを行うことができます。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → 対象の機器の「詳細」の >



項番	項目	説明
1	機器名	対象の端末の名称が表示されます。 ✎機器の管理情報、情報画面すべてに表示されています。

項番	項目	説明
2	通信日時	対象の端末と管理サーバーが最後に通信した日時が表示されます。  機器の情報は、この通信日時の時点の情報が表示されます。最新の情報を表示したい場合は、項番 4  同期 をクリックしてください。  機器の管理情報、設定、操作、情報画面すべてに表示されます。
3		クリックすると、機器の詳細画面が閉じます。  機器の管理情報、設定、操作、情報画面すべてに表示されます。
4	 同期	クリックすると、対象の機器との同期が実行されます。 詳細については、以下を参照してください。  「機器との同期」96 ページ  機器の管理情報、設定、操作、情報画面すべてに表示されます。
5	管理情報	機器の管理情報の表示、編集を行います。 詳細については、以下を参照してください。  「機器の管理情報」93 ページ
6	設定／操作／情報	<ul style="list-style-type: none"> ●設定 機器への設定セットやテンプレートの設定、その他の設定を行うためのメニューが表示されます。表示されているメニュー以外を表示するには [他の設定を見る] をクリックします。 機器の OS の種別によって、設定項目が異なります。 詳細については、以下を参照してください。  「機器の設定」111 ページ ●操作 機器への各種操作を行うためのメニューが表示されます。表示されているメニュー以外を表示するには [他の操作を見る] をクリックします。 います。 機器の OS の種別によって、操作が異なります。 詳細については、以下を参照してください。  「機器の操作」146 ページ ●情報 機器の各種情報の確認を行うためのメニューが表示されます。表示されているメニュー以外を表示するには [他の情報を見る] をクリックします。 機器の OS の種別によって、確認できる情報が異なります。 詳細については、以下を参照してください。  「機器の情報」172 ページ
7	[この機器を削除する]	クリックすると、詳細画面を表示している機器を削除します。 削除については、以下を参照してください。  「機器の個別削除」110 ページ

4.1.3 機器の新規作成

端末側でライセンス認証を行うと、管理サイトへ端末が登録され、機器一覧に端末が表示されますが、ライセンス認証前に、端末を新規作成（手で端末を管理サイトへ登録）することができます。端末を新規作成しておくことで、端末と同期したタイミングで設定内容の反映とライセンス認証が行われるため、認証後に各種の設定を行う手間を省くことができます。

また、管理者が登録したい端末のみを新規作成し、他の端末を認証しないようにすることもできます。

 「機器認証制御」 772 ページ

新規作成した端末は、「通信日時」欄に「(認証待ち)」と表示されます。

 画面（新規作成：OS 選択）

 画面（新規作成：特定の OS 種別を選択した場合）

 画面（新規作成：「資産管理対象機器」を選択した場合）

 ベーシックパックプラスをご利用の方は、ユーザーの新規作成時に利用するデバイスの OS と電話番号を KDDI ビジネスオンラインサポートに登録することで、管理画面に機器情報が登録されます。また、事前登録も可能です。詳細は以下を参照してください。

 「KDDI ビジネスオンラインサポート KDDI Business ID 設定マニュアル」の「4.4.ユーザ」
<http://www.kddi.com/business/support/service/business-id/manual/>

 ゼロタッチ端末の場合は、この画面から端末を新規作成しないでください。ゼロタッチ端末を新規作成する方法については、以下のセクションおよびマニュアルを参照してください。

 「機器一覧」 487 ページ

 『Android キットニングマニュアル』の「Google アカウントでゼロタッチ登録を利用して Android Enterprise 連携を行う」

 『Android キットニングマニュアル』の「Google Workspace でゼロタッチ登録を利用して Android Enterprise 連携を行う」

 Samsung 製の Knox Mobile Enrollment (KME) 端末の場合は、この画面から端末を新規作成しないでください。KME 端末を新規作成する方法については、以下のセクションおよびマニュアルを参照してください。

 「機器一覧」 493 ページ

 『Android キットニングマニュアル』の「Knox Mobile Enrollment (KME) を利用する場合」

 端末とユーザーの紐づけ、または端末と組織の紐づけには、あらかじめユーザーと組織を作成する必要があります。詳細については、以下を参照してください。

 「[[管理] タブ」 317 ページ

 「[[管理] タブ」 346 ページ

◆画面（新規作成：OS 選択）

表示操作 [機器] → [一覧] → [新規作成]

機器の新規作成

1 OS

- ライセンス認証待ちAndroid機器
- ライセンス認証待ちiOS機器
- ライセンス認証待ちMac OS機器
- ライセンス認証待ちWindows機器
- 資産管理対象機器

2 次へ

項番	項目	説明
1	OS	新規作成する機器の OS の種別または「資産管理対象機器」のいずれかを選択します。
2	[次へ]	クリックすると選択した OS の種別または「資産管理対象機器」の登録画面が表示されます。

◆画面（新規作成：特定の OS 種別を選択した場合）

表示操作 [機器] → [一覧] → [新規作成] → 「OS」で特定の OS 種別を選択 → [次へ]

⏪ 機器の新規作成 ⏩

1 機器名

2 所属

ユーザー

組織

3 機器カスタム項目A

(未分類) ▾

MACアドレス (端末識別用)

電話番号 (端末識別用)

IMEI/MEID (端末識別用)

4 保存

項番	項目	説明
1	機器名	<p>機器名を 100 文字以内で入力します。必須入力項目です。</p> <p>機器名は機器画面やログなど、管理サイトのさまざまな箇所で表示されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 重複する名称は登録できません。</p>
2	所属	<p>この機器を所属させる対象を以下から選択します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ベーシックパックプラスをご利用の場合、KDDI Business ID から連携した認証待ち機器や認証済み機器については、機器情報の変更ができません。</p> <p>KDDI Business ID から連携していない認証済み機器については、ユーザー情報は変更可能です。</p> <p>●ユーザー 機器にユーザーを紐づける場合に選択し、リストボックスから登録済みのユーザーを選択します。</p> <p style="text-align: center;"> 「ユーザー」 314 ページ</p> <p>●組織 機器に組織を紐づける場合に選択し、リストボックスから登録済みの組織を選択します。</p> <p style="text-align: center;"> 「組織」 343 ページ</p>
3	(カスタム項目)	<p>機器の「入力項目のカスタマイズ」で登録した項目名が表示されます。</p> <p>必要に応じて、項目を選択したり、入力します。登録内容によって、表示される項目が異なります。</p> <p>入力項目の場合は、1000 文字以内で入力してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> カスタム項目の作成については、以下を参照してください。</p> <p style="text-align: center;"> 「入力項目のカスタマイズ」 269 ページ</p>
	MAC アドレス(端末識別用) (※1)	<p>ライセンス認証した端末と本画面で作成した端末を紐づけるために、端末の MAC アドレスを入力します。</p> <p>「XX:XX:XX:XX:XX:XX」(X は大文字の 16 進数) という形式で入力してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 重複する MAC アドレスは登録できません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> MAC アドレスの確認方法については、機器に付属しているマニュアルを参照してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Android 端末および iOS 端末では、MAC アドレスを新規に入力することができません。すでに登録しているライセンス認証待ち機器は、MAC アドレスを入力していると、保存することができません。</p> <p>Android 端末および iOS 端末で新規作成するときは、「(端末識別用)」の電話番号、IMEI/MEID、シリアル番号のいずれかを入力してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Windows 端末を新規で作成したときに、SIM に割り当てられている MAC アドレスは、端末識別用として使用できません。Windows 端末の「(端末識別用)」の値は、Wi-Fi や Bluetooth などに割り当てられている MAC アドレス、もしくは、電話番号、IMEI/MEID、シリアル番号のいずれかを入力してください。</p>

項番	項目	説明
	電話番号(端末識別用) (※1)	<p>ライセンス認証した端末と本画面で作成した端末を紐づけるために、端末の電話番号を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ハイフンを除いた電話番号を入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> ベーシックパックプラスをご利用の認証待ち機器については、変更はできません。KDDI Business ID によって電話番号が変更された場合は、自動的に更新されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 当項目は Android 端末、iOS 端末、および Windows 端末の場合のみ入力項目として表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 重複する電話番号は登録できません。 <input checked="" type="checkbox"/> 電話番号の確認方法については、機器に付属しているマニュアルを参照してください。 <input checked="" type="checkbox"/> OS 端末では、「+81」から始める国際電話番号が表示されていることがあります。 「0」から始まる日本の電話番号に置き換えて入力してください。 例) <ul style="list-style-type: none"> ・ 090 の場合 国際電話番号：+8190XXXXXXXX 日本の電話番号：090XXXXXXXX ・ 080 の場合 国際電話番号：+8180XXXXXXXX 日本の電話番号：080XXXXXXXX
	IMEI/MEID(端末識別用) (※1)	<p>ライセンス認証した端末と本画面で作成した端末を紐づけるために、100文字以内で IMEI または MEID を入力します。使用できる文字は、半角英数字と記号です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 当項目は Android 端末と Windows 端末の場合のみ入力項目として表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 重複する IMEI または MEID は登録できません。 <input checked="" type="checkbox"/> IMEI/MEID の確認方法については、機器に付属しているマニュアルを参照してください。
	シリアル番号(端末識別用) (※1)	<p>ライセンス認証した端末と本画面で作成した端末を紐づけるために、100文字以内で端末のシリアル番号を入力します。使用できる文字は、半角英数字と記号です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 当項目は iOS 端末、Mac OS 端末、および Windows 端末の場合のみ入力項目として表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> シリアル番号の確認方法については、機器に付属しているマニュアルを参照してください。 <input checked="" type="checkbox"/> 重複するシリアル番号は登録できません。
4	[保存]	機器を登録します。登録した機器は、機器一覧に追加されます。

※1：機器がライセンス認証したときに、事前登録した情報と紐づくように「(端末識別用)」の項目のいずれか1つは必ず設定してください。

◆画面（新規作成：「資産管理対象機器」を選択した場合）

表示操作 [機器] → [一覧] → [新規作成] → 「OS」で「資産管理対象機器」を選択 → [次へ]

◀ 機器の新規作成 ▶

1 機器名

2 種別
その他 ▼

3 所属
 ユーザー
 ▼
 組織
 ▼

4 機器カスタム項目A
(未分類) ▼
MACアドレス (端末識別用)

5

項番	項目	説明
1	機器名	<p>機器名を 100 文字以内で入力します。必須入力項目です。</p> <p>機器名は機器画面やログなど、管理サイトのさまざまな箇所に表示されます。</p> <p> 重複する名称は登録できません。</p>
2	種別	<p>プルダウンメニューから機器の種別を選択します。選択できる種別は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ネット TV 端末、レコーダー、STB、AV アンプ、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、オーディオ、プレイヤー、プロジェクター、フォトフレーム、AV 系その他、デスクトップ、ノート PC、ストレージ、PDA、プリンター、タブレット、スマートフォン、PC 系その他、携帯電話、IP 電話、ルーター、FAX、スイッチングハブ、PLC モデム、無線 LAN モデム、同軸ケーブルモデム、通信系その他、エアコン、冷蔵庫、洗濯機、照明、電子レンジ、Web カメラ、ゲートウェイ、ドアホン、センサー、換気扇、ブラインド、シャッター、雨戸、散水機、給湯器、便座、電気錠、太陽光発電、床暖房、ポット、IH 調理器、炊飯器、掃除機、くらし系その他、据置ゲーム機、ポータブルゲーム機、家庭用ロボット、娯楽系その他、その他
3	所属	<p>この機器を所属させる対象を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ユーザー 機器にユーザーを紐づける場合に選択し、リストボックスから登録済みのユーザーを選択します。  「ユーザー」 3145 ページ ● 組織 機器に組織を紐づける場合に選択し、リストボックスから登録済みの組織を選択します。  「組織」 343 ページ
4	(カスタム項目)	<p>機器の「入力項目のカスタマイズ」で登録した項目名が表示されます。必要に応じて、項目を選択したり、入力したりします。登録内容によって、表示される項目が異なります。入力項目の場合は、1,000 文字以内で入力してください。</p> <p> カスタム項目の作成については、以下を参照してください。  「入力項目のカスタマイズ」 269 ページ</p>
	MAC アドレス(端末識別用)	<p>ライセンス認証が行われた機器と、当画面で登録した機器を紐づけるための MAC アドレスを入力します。</p> <p>「XX:XX:XX:XX:XX:XX」(X は大文字の 16 進数) という形式で入力してください。</p> <ul style="list-style-type: none">  本項目の入力は任意です。  重複する MAC アドレスは登録できません。  MAC アドレスの確認方法については、機器に付属しているマニュアルを参照してください。  Android 端末および iOS 端末では、MAC アドレスを新規に入力することができません。すでに登録しているライセンス認証待ち機器は、MAC アドレスを入力していると、保存することができません。 Android 端末および iOS 端末を新規作成するときは、「(端末識別用)」の電話番号、IMEI/MEID、シリアル番号のいずれかを入力してください。  Windows 端末を新規で作成したときに、SIM に割り当てられている MAC アドレスは、端末識別用として使用できません。Windows 端末の「(端末識別用)」の値は、Wi-Fi や Bluetooth などに割り当てられている MAC アドレス、もしくは、電話番号、IMEI/MEID、シリアル番号のいずれかを入力してください。
5	[保存]	機器を登録します。登録した機器は、機器一覧に追加されます。

4.1.4 機器の管理情報

端末の管理情報の確認と編集を行います。

端末とユーザーとの紐づけ、または端末と組織との紐づけも行うことができます。

 画面

 画面 (編集)

◆ 画面

表示操作 [機器] → [一覧] → 対象の機器の機器名または「詳細」の 



項番	項目	説明
1	OS	対象の機器の OS バージョンが表示されます。
2	電話番号	電話番号が登録されている場合は、電話番号が表示されます。複数の電話番号を持つ端末は、端末が保持している電話番号がすべて表示されます。
3	ユーザー	所属にユーザーが設定されている場合は、ユーザー名が表示されます。
4	組織	所属に組織が設定されている場合は、組織名が表示されます。
5	カスタマイズ項目	機器の「入力項目のカスタマイズ」で登録した項目名が表示されます。登録内容によって、表示される項目が異なります。  「入力項目のカスタマイズ」 269 ページ
6	[管理情報の編集]	クリックすると、管理情報を編集できます。  「画面 (編集)」 94 ページ

◆画面（編集）

表示操作 [機器] → [一覧] → 対象の機器の機器名または「詳細」の ⌕ → [管理情報の編集]

項番	項目	説明
1	機器名	<p>機器名を 100 文字以内で入力します。必須入力項目です。 機器名は機器画面やログなど、管理サイトのさまざまな箇所に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 他の機器名と重複はできません。 ✎ iOS 端末は端末名称変更を設定すると、編集した機器名が端末のデバイス名になります。詳細については、以下を参照してください。 📄 「画面（端末名称変更）」498 ページ ☑ 端末のデバイス名は AirDrop やテザリング時の AP 名などに設定されるため、他の端末から見ることもできるので、電話番号などの個人情報を機器名に設定しないでください。 ☑ 端末のデバイス名は、最大で 63 文字まで表示されます。 ☑ 端末の状態によっては端末のデバイス名に表示されるまで、時間がかかる場合があります。 ☑ 端末のデバイス名は、iOS 端末の「設定」アプリ → [一般] → [情報] → [名前] です。

項番	項目	説明
2	所属	<p>この機器を所属させる対象を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ユーザー 機器にユーザーを紐づける場合に選択し、リストボックスから登録済みのユーザーを選択します。 🔗 「ユーザー」 314 ページ ●組織 機器に組織を紐づける場合に選択し、リストボックスから登録済みの組織を選択します。 🔗 「組織」 343 ページ
3	(カスタマイズ項目)	<p>機器の「入力項目のカスタマイズ」で登録した項目名が表示されます。必要に応じて、項目を選択したり、入力したりします。登録内容によって、表示される項目が異なります。</p> <p>入力項目の場合は、1,000 文字以内で入力してください。</p> <p>カスタム項目の作成については、以下を参照してください。 🔗 「入力項目のカスタマイズ」 269 ページ</p>
4	[保存]	クリックすると、編集した管理情報を保存して編集を終了します。
5	[取消]	クリックすると、編集した内容をキャンセルして編集を終了します。

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
<p>▲ Google Workspace 連携したメールアドレスをユーザーに登録して下さい。</p>	<p>管理サイトの [機器] > [一覧] で機器にユーザーを紐づける際に、Google Workspace アカウントを利用したゼロタッチ登録を行った機器、もしくは KME (Knox Mobile Enrollment) で認証した機器に対して Google Workspace のメールアドレスが含まれていないユーザーを割り当てようとしている。</p>	<p>Google Workspace アカウントを利用したゼロタッチ登録を行った端末、もしくは KME (Knox Mobile Enrollment) で認証した端末に対しては、Google Workspace のメールアドレスを含んだユーザーを紐づけてください。</p>

4.1.5 機器との同期

対象の端末に、管理サイトで行った各種設定を反映します。

また、Web 閲覧履歴や位置情報など、管理サイトで保持している端末情報の更新を行うこともできます。

☑ 対象の端末が認証されている必要があります。

☑ 同期は定期的に行われますが、急ぐ場合は手動で同期を行うことができます。また、同期を行ったあと、設定の反映や端末情報が更新されるまでの時間は、サーバーの通信状況に依存します（ベストエフォート型）。

☑ 定期同期については、OS ごとに以下のとおりです。

- Android 端末、Windows 端末の場合は、「管理サイトの通信と動作」の「管理サーバーとの通信間隔」で定期同期の間隔を設定できます。

🔗 Android：「管理アプリの通信と動作」361 ページ

🔗 Windows：「管理アプリの通信と動作」668 ページ

- iOS 端末、Mac OS 端末の場合は、前回の同期から最短 8 時間後です。

- 定期同期の実施間隔は、サーバーの状況などによって時間間隔が変動する場合があります。

☑ 同期された情報を管理サイト画面に反映させるためには、管理サイト画面の更新が必要です。

☑ 機器の管理情報、設定、操作、情報画面で、同期が必要な操作画面すべてに  **同期** が表示されています。

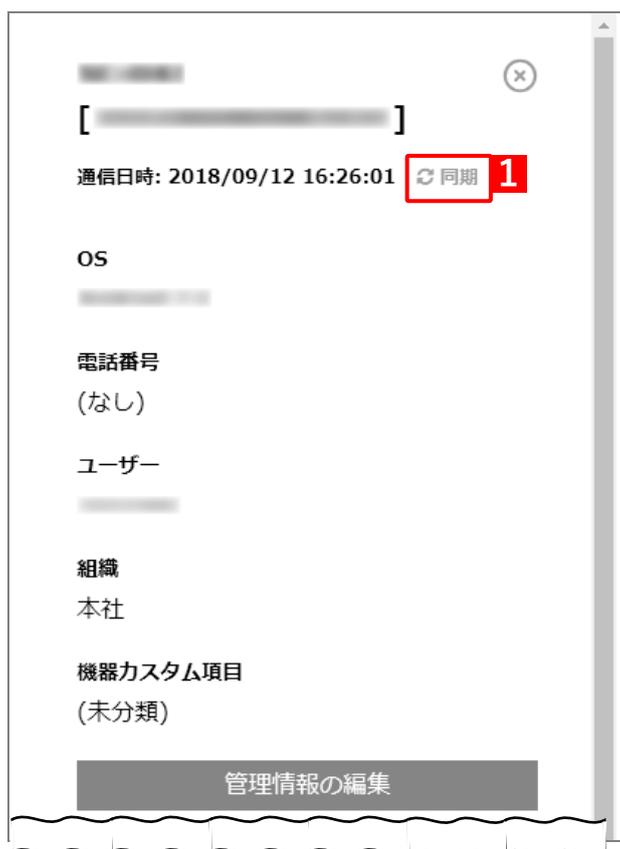
☑ 同期時に管理サイトと端末の間で反映する情報の詳細については、以下を参照してください。

🔗 「同期情報一覧（管理サイト→端末）」98 ページ

🔗 「同期情報一覧（端末→管理サイト）」100 ページ

◆画面（例：機器の管理情報画面）

表示操作 [機器] → [一覧] →対象の機器の機器名または「詳細」の [右向き矢印] → [同期]



項番	項目	説明
1	[同期]	対象の端末と同期したい場合、クリックします。 確認画面で [OK] をクリックすると、同期が実行されます。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
▲ エージェント個別管理で Push 通知が無効になっています。	[設定] → [Android] → [エージェント個別管理] で Push 通知を「利用しない」に選択した設定を割り当て、「同期」をクリックしている。	Push 通知を「利用しない」に選択した設定を外し、同期してください。
▲ 証明書が無効なため通知ができませんでした。メニューの Apple Push 証明書登録から証明書を登録してください。	Apple Push 証明書が登録されていない状態で、認証済 iOS 機器の機器詳細画面で「同期」をクリックしている。	Apple Push 証明書を登録してください。

◆同期情報一覧（管理サイト→端末）

同期時に管理サイトから端末へ受け渡す情報は以下のとおりです。

機器	大項目	中項目	小項目
Android	設定	設定の割り当て	エージェント個別管理
			位置情報管理
			アプリケーション禁止
			USB
			SD カード
			カメラ
			Bluetooth
			スクリーンロック
			リモートロック
			リモートワイプ
			Wi-Fi フィルタリング
			Web フィルタリング
			アプリケーション配信
			Wi-Fi
			お気に入り
			連絡先
			暗号化
			Web 閲覧履歴
			発信先制限
			アプリケーション検知
			Secure Shield
			CA 証明書管理
			ゾーンポリシー構成
		ウイルス対策機能	
		OS アップデート設定(DOM)	
		NFC キットティング設定	
		セキュリティ設定(DOM)	
ファクトリーリセット保護			
アプリケーション非表示設定 (DOM)			
パッケージ	オプションパッケージ		
クライアント証明書	クライアント証明書		
iOS	設定	設定の割り当て	構成プロファイル
			ローミング設定
			アプリケーション配信
			シングル APP モード
			アプリケーション検知
			Web フィルタリング
			Web 閲覧履歴
			お気に入り
ADE 定義プロファイル			

機器	大項目	中項目	小項目		
			ホーム画面レイアウト		
		クライアント証明書	クライアント証明書(デフォルト) クライアント証明書		
		Exchange (ActiveSync) 設定	Exchange ActiveSync ホスト SSL を使用 ドメイン ユーザー情報 ユーザ メールアドレス 認証に OAuth を使用 パスワード 認証資格情報 過去のメールを同期 (日数) メッセージの移動を許可 最近使ったアドレスの同期を許可 Mail Drop を許可 "メール"でのみ使用		
		VPN 設定	接続のタイプ サーバ ユーザー情報 アカウント ユーザ認証 コンピュータ認証 共有シークレット プロキシ設定 備考		
		個別構成プロファイル	構成プロファイル		
		「App とブック」設定	アカウント名 「App とブック」場所のトークンアップロード 備考		
		Windows	設定	設定の割り当て	エージェント個別管理
					アプリケーション禁止
					外部デバイス
					CD/DVD/ブルーレイ
					Wi-Fi フィルタリング
					システム設定・診断
					システムセキュリティ
					暗号化
					プロキシ
					お気に入り
					アプリケーション配信

機器	大項目	中項目	小項目
			Wi-Fi
			CA 証明書管理
			スクリーンロック
			位置情報管理
			SIM 抜き差し監視
			ゾーンポリシー構成
		クライアント証明書	クライアント証明書

◆同期情報一覧（端末→管理サイト）

同期時に端末から管理サイトへ受け渡す情報は以下のとおりです。

機器	大項目	中項目	小項目	
共通	管理情報	機器名		
		通信日時		
		OS		
		電話番号		
		ユーザー		
		組織		
		機器カスタマイズ項目		
Android	エージェント	エージェントバージョン		
		通信日時		
		認証日時		
		位置情報取得		
		付近のデバイス		
		Android エージェント種別		
	ログ	機器ログ		
	デバイス	基本	モデル名	
			電話番号	
			ネットワークモード	
			ネットワークオペレーター	
			IMEI/MEID	
			ファームウェアバージョン	
			ビルド番号	
		シリアル番号		
		SIM 情報	電話番号	
			ネットワークオペレーター	
			IMEI/MEID	
			ICCID	
			SIM 種別	
OS		OS バージョン		
グローバル IP アドレス	グローバル IP アドレス			
ネットワーク	SSID			
	MAC アドレス			

機器	大項目	中項目	小項目
			IP アドレス
		Bluetooth	状態
		位置情報	無線ネットワーク
			GPS 機能
			正確な位置情報を使用
		Device Owner Mode	状態
		Android Enterprise	Android Enterprise ユーザー
		デバイス管理者権限	デバイス管理者権限
		バッテリー	バッテリー残量
			バッテリー状態
		スクリーンロック	パスワードのポリシー
			パスワードの再利用
			パスワードの有効期限
			自動ロックまでの時間
			ロック解除失敗時の設定
			ロック画面の制限
		スクリーンロックパスワード変更の事前設定	状態
		リモートロック	状態
		暗号化	状態
		root 化	状態
			検知内容
		ファクトリーリセット保護	状態
			Google アカウントのメールアドレス
	アプリケーション	アプリケーション名	
		パッケージ名	
		バージョン番号	
		バージョン名	
		アプリケーションサイズ	
		メモリサイズ	
		データサイズ	
		キャッシュサイズ	
		インストール日時	
		アップデート日時	
		位置	位置情報
	Zone Management	ゾーン	
		ポリシー	
	ウイルス対策ソフト	保護状態	
		基本	ウイルス対策ソフト名
			ウイルス対策機能
			アプリケーションバージョン
	パターンファイルバージョン		

機器	大項目	中項目	小項目		
			パターンファイル最終更新チェック日時		
			パターンファイル最終更新日時		
			スキャン最終実行日時		
			状態取得日時		
	メッセージ	ログ	ウイルス対策ソフトのログ		
				配信されるメッセージ	タイトル
					スケジュール
		メッセージボックス		次回配信予定	
				ステータス	
				メッセージ	
iOS	エージェント	エージェントバージョン			
		アクティベーションコード			
		通信日時(MDM 構成プロファイル)			
		通信日時(エージェント)			
		通信日時(ブラウザー)			
		認証日時			
		MDM 構成プロファイル同期不可検知日時			
		エージェント同期不可検知日時			
	ログ	機器ログ			
	デバイス	基本	デバイス名		
			電話番号		
			現在のキャリアネットワーク名		
			ホームのキャリアネットワーク名		
			契約者のキャリアネットワーク名		
			IMEI		
			MEID		
			OS バージョン		
			ビルドバージョン		
			モデル名		
			モデル番号		
			モデルファームウェアバージョン		
			シリアル番号		
		ExchangeActiveSync デバイス ID			
		MDM プロファイルトピック			
		UDID			
		SIM 情報	電話番号		
			現在のキャリアネットワーク名		
契約者のキャリアネットワーク名					
IMEI					
MEID					
ICCID					
EID					

機器	大項目	中項目	小項目
		OS	OS バージョン
		グローバル IP アドレス	グローバル IP アドレス
		ネットワーク	Bluetooth MAC アドレス
			Wi-Fi MAC アドレス
			インターネット共有(テザリング)
		監視対象	監視対象
		バッテリー	バッテリー残量
		ストレージ	デバイス容量
			利用可能なデバイス容量
			iCloud バックアップ
			前回の iCloud バックアップ日時
		スクリーンロック	パスコード保護
			パスコード準拠(デバイス)
			パスコード準拠(プロファイル)
		OS アップデート情報	アップデートの名前
			アップデートのバージョン
			アップデートのビルド番号
			アップデートのステータス
		ローミング	音声ローミング設定
			データローミング設定
			状態
		暗号化	ハードウェア暗号化レベル
		Jailbreak	状態
		その他の情報	iTunesStore アカウント
			iTunesStore アカウントハッシュ
			アクティベーションロック
			Bypass Code
			ロケータサービス
			おやすみモード
			紛失モード
			Shared iPad 設定
			Shared iPad ユーザー最大数
		アプリケーション	アプリケーション名
			アプリケーション ID
			バージョン
			アプリケーションサイズ
			メモリサイズ
			データサイズ
			インストール済み
			実行可能
			外部バージョン ID (iTunes Search API 用)
			App Store 機能を利用可能

機器	大項目	中項目	小項目	
		「App とブック」管理配布		
		ベータ版アプリ		
		アドホックコード署名		
		アップデート可能		
	プロファイル	構成プロファイル	名前	
			識別子	
			組織	
			説明	
			削除を許可	
			暗号化	
			管理対象	
			UUID	
			バージョン	
		プロビジョニングプロファイル	名前	
			有効期限	
			UUID	
		証明書	ID	
	コモンネーム			
	位置	位置情報		
	ADE	ADE	ADE 状態	
			ADE 定義プロファイル(適用済)	
			ADE 定義プロファイル	
			モデル	
			ADE 登録日時	
			端末反映日時	
	メッセージ	配信されるメッセージ	タイトル	
			スケジュール	
次回配信予定				
メッセージボックス		ステータス		
		メッセージ		
書籍	書籍名			
	バージョン			
Mac OS	エージェント	エージェントバージョン		
		通信日時		
		認証日時		
	ログ	機器ログ		
	デバイス	基本	デバイス名	
			OS バージョン	
ビルドバージョン				
モデル名				
モデル番号				
		シリアル番号		

機器	大項目	中項目	小項目
			MDM プロファイルトピック
		OS	OS バージョン
		グローバル IP アドレス	グローバル IP アドレス
		ネットワーク	Ethernet MAC アドレス
			Wi-Fi MAC アドレス
			Bluetooth MAC アドレス
		ストレージ	デバイス容量
			利用可能なデバイス容量
		暗号化	暗号化有無
			パーソナル復旧キー
	所属団体の復旧キー		
	アプリケーション	アプリケーション名	
		アプリケーション ID	
		バージョン	
		アプリケーションサイズ	
	プロファイル	構成プロファイル	名前
			識別子
			組織
			ユーザー名
			説明
			削除を許可
			暗号化
			管理対象
			UUID
		バージョン	
		証明書	ID
	コモンネーム		
Windows	エージェント	エージェントバージョン	
		通信日時	
		認証日時	
	ログ	機器ログ	
	デバイス	基本	コンピューター名
			ワークグループ
			ドメイン
			Windows バージョン
			Windows プロダクト ID
			システム製造元
			システムモデル
			シリアル番号
	コンピューターSID		
OS	OS バージョン		
グローバル IP アドレス	グローバル IP アドレス		

機器	大項目	中項目	小項目
		ネットワーク	NIC 名
			接続方法
			MAC アドレス
			IP アドレス
			デフォルトゲートウェイ
			DHCP
			DHCP サーバー
			DNS サーバー
			DNS サフィックス
			ネットワーク
			電話番号
			現在のキャリアネットワーク
			MEI/MEID
			CCID
		プリンター1~	名前
			ポート
		ハードウェア	種別
			CPU
			メモリ
			マザーボード
			ビデオカード
		TPM	
		BIOS	メーカー
			バージョン
			日付
		ドライブ	パネルタイトル
			総容量
			空き容量
		ログオンユーザー1	ユーザー名
			SID
			既定の Web ブラウザー名前
			既定の Web ブラウザーバージョン
			既定の電子メールプログラム 名前
			既定の電子メールプログラムバージョン
			通常使うプリンター 名前
			通常使うプリンター ポート
		パスワードポリシー	文字数
			有効期間
			履歴記録数
			変更禁止期間
			複雑なパスワードを強制する
		リモートロック	状態

機器	大項目	中項目	小項目	
		リモートデスクトップ	リモートデスクトップ接続の許可	
			コンピュータの接続にネットワークレベル認証の使用を求める	
	アプリケーション	アプリケーション名		
		アプリ種別		
		パッケージファミリー名		
		パッケージ名		
		バージョン		
		アプリケーションサイズ		
		インストール日		
		発行元		
		Windows ユーザー名/ユーザーSID		
		インストール先		
		プロダクト ID		
	セキュリティ	Windows 自動更新		
		Windows Update	項目	
			値	
		Windows Defender	項目	
			状態	
		ファイアウォール	名前	
			状態	
		ウイルス対策ソフト	名前	
			状態	
			定義ファイル	
			エンジンバージョン	
		パターンファイルバージョン	パターンファイルバージョン	
			スパイウェア対策ソフト	名前
				状態
				定義ファイル
		スクリーンセーバー	ログオンユーザー名	
			設定	
			パスワードロック	
			起動までの時間	
		ドライブ暗号化	ドライブ名	
			BitLocker 状態	
	暗号化進捗			
	回復キー			
	SIM 抜き差し監視 登録済み SIM 一覧	ICCID		
		電話番号		
	位置	位置情報		
	Zone Management	ゾーン		
		ポリシー		

機器	大項目	中項目	小項目
	Microsoft Update 更新プログラム	Microsoft Update 更新プログラム	
		製品ファミリー	
		状態	

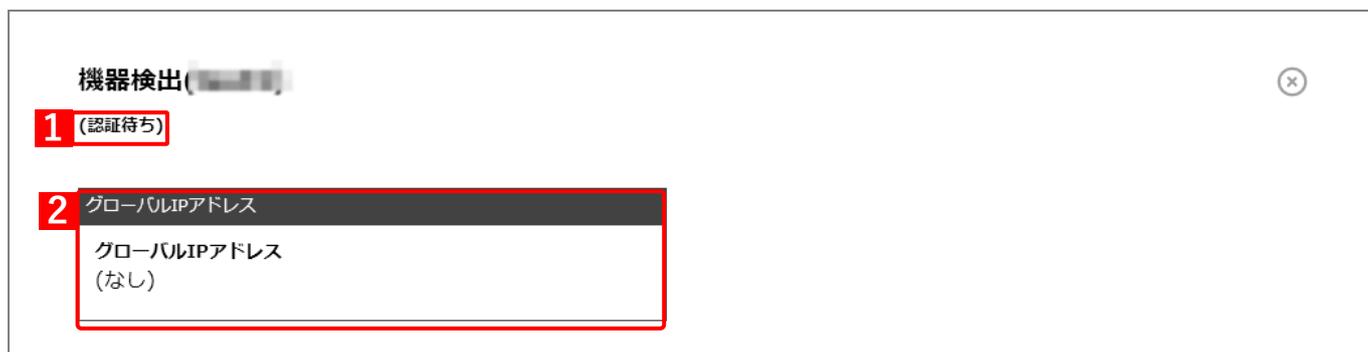
4.1.6 機器検出の情報

エージェントやポータルがインストールできず、ライセンスの認証ができない資産管理対象機器（プリンターやストレージ、ライセンス認証せずに使用する端末）や、ライセンス認証待ち端末のグローバル IP アドレスを表示します。グローバル IP アドレスを管理することで、資産管理対象機器やライセンス認証待ち端末を資産として管理することができます。

-  対象の端末が認証されている必要があります。
-  機器一覧の「OS」項目が「資産管理対象機器 (xxxx)」と表示されている機器や、「通信日時」項目が「(認証待ち)」と表示され端末のみ、情報を確認することができます。
-  表示される情報は、検出された情報の種類によって異なります。
-  「機器の新規作成」で [ライセンス認証待ち Android 機器]、[ライセンス認証待ち iOS 機器]、[ライセンス認証待ち Mac OS 機器]、[ライセンス認証待ち Windows 機器] のいずれかを選んだ場合は、端末がライセンス認証されるまで「(認証待ち)」と表示されます。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → 認証待ち機器の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [機器検出]



項番	項目	説明
1	(認証待ち)	認証待ち機器であることが表示されます。
2	情報	検出された情報が表示されます。  検出結果に、表示される情報が異なります。

4.1.7 機器の個別削除

管理サイトに登録されている端末を削除します。

複数の端末を削除する場合は、以下を参照してください。

🔗 「画面（一括削除）」 82 ページ

❗ 削除した端末は、管理サイトからの設定や確認が一切できなくなります。ただし、既存の設定は端末にそのまま保持されます。端末を削除する場合は、十分に注意してください。

❗ 削除した端末側で、別途以下の操作を行う必要があります。

- ・ライセンスの解除
- ・エージェントおよびプロファイルのアンインストール

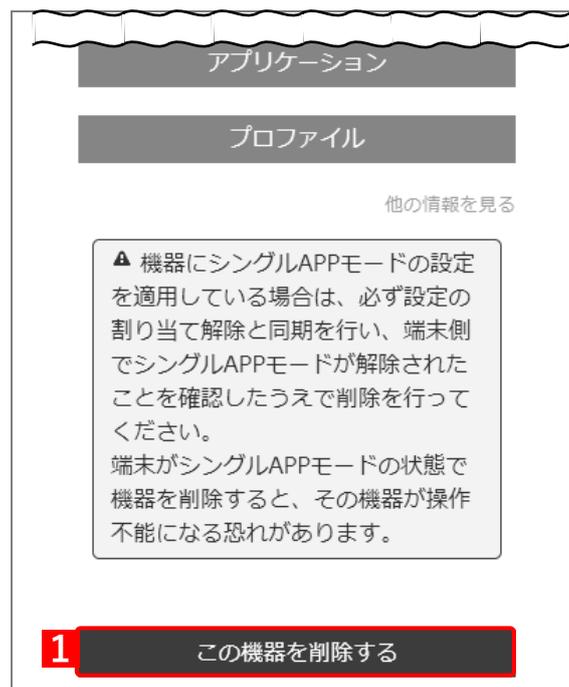
❗ iOS 端末にシングル APP モードの設定を適用している場合は、必ずシングル APP モードの割り当てを解除／同期を行い、端末で解除されたことを確認してから、機器を削除してください。シングル APP モードが適用されている状態で機器を削除すると、端末が操作不能になる場合があるので、注意してください。

iOS 端末にシングル APP モードの設定を適用した状態で、機器を削除しようとした場合は、削除できない旨のメッセージが表示されます。

🔗 「シングル APP モード（監視対象のみ）」 629 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → **対象の機器の機器名または「詳細」の** ⌕ → **詳細画面の末尾を表示**



項番	項目	説明
1	[この機器を削除する]	クリックし、確認画面で [OK] をクリックすると、対象の機器が削除されます。

4.1.8 機器の設定

各端末の詳細画面から、端末ごとの各種設定を行うことができます。

設定内容は OS により異なります。

また、機器の詳細画面の「機器」では OS によりさまざまな設定項目ボタンが表示されますが、各機器への設定セットに割り当てて適用する方法は、機器ごとに設定を割り当てる方法と、OS ごとの全機器に一括で設定する方法の 2 つの方法があります。

🔍 各設定セットにはデフォルトで「所属組織に従う」設定が指定されています。所属組織に設定テンプレートが割り当てられている場合、設定テンプレートの設定が自動的に各端末に適用されます。

🔍 設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合、端末の動作については、以下を参照してください。

🔗 「各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作」 844 ページ

🔍 各種操作が機器に反映されない場合があります。以下は反映されない場合の例です。

- 機器の電源が入っていない
- 機器が電波の入らない場所にある
- エージェントアプリをアンインストールしている
- ライセンス解除を行っている
- 通話停止を行っている

● 機器ごとに設定する場合

OS にあわせて以下を参照してください。

- Android 端末に適用する場合

🔗 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

- iOS 端末に適用する場合

🔗 「(設定 - iOS) 設定の割り当て」 120 ページ

- Windows 端末に適用する場合

🔗 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ

● 全機器に一括設定する場合

以下を参照してください。

🔗 「全機器一括設定」 248 ページ

4.1.8.1 (設定 - Android) 設定の割り当て

各機能で作成した設定セットを Android 端末に反映します。

設定セットの内容は、管理サイトと端末が同期したタイミングで該当の端末に反映されます。

画面

画面 (編集)

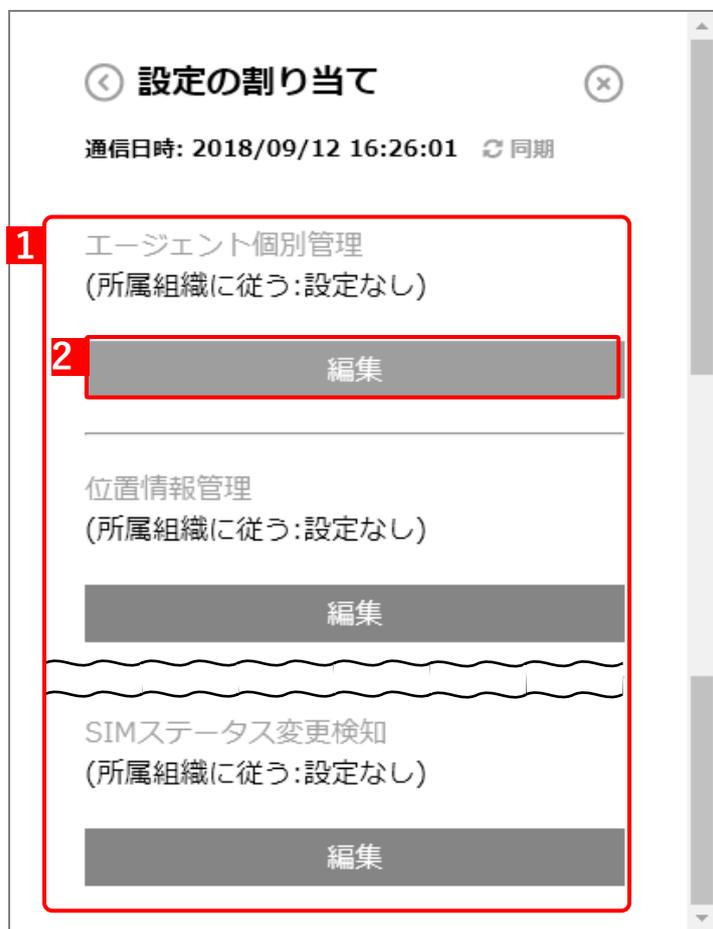
リモートワイプの端末初期化を「初期化する」に設定している設定セットを選択し、[保存] をクリックすることで次回同期時 (手動同期含む) に端末の初期化を行います。ご利用には細心の注意を払ってください。

登録されている Android 端末に一括で設定セットを反映する場合は、以下を参照してください。

「[Android 設定] タブ」 250 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の → 詳細画面の「設定」の [設定の割り当て]



項番	項目	説明
1	設定一覧	Android 端末への各設定機能と設定中の設定セット名などが表示されます。設定機能名をクリックすると、該当の設定画面に遷移します。
2	[編集]	クリックすると、設定機能ごとに、適用する設定を変更できます。 「画面 (編集)」 113 ページ

◆画面（編集）

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「設定」の [設定の割り当て] → 対象の機能の [編集]

項番	項目	説明
1	設定機能	クリックすると、該当の機能の設定セットの一覧画面に遷移します。
2	(所属組織に従う:設定なし)	<p>適用する設定セット名をリストボックスから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●(所属組織に従う:設定なし) 機器ごとに所属している組織の設定が適用されます。組織に所属していない場合は「(設定なし)」が適用されます。 ●(設定なし) 各機能の設定を外します。 <input checked="" type="checkbox"/> 設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合、端末の動作については、以下を参照してください。 📄 「各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作」 844 ページ ●各機能の設定名 各機能で作成済みの設定セットを適用したいときは、その設定名をリストボックスから選択して設定します。ここで設定した設定セットに対する編集および削除が行われた場合、この設定にも反映されます。
3	[保存]	クリックすると、設定内容を保存します。
4	[取消]	クリックすると、編集作業をキャンセルします。

4.1.8.2 (設定 - Android) 設定テンプレートの割り当て

設定テンプレート機能で作成したテンプレートを Android 端末に反映します。

テンプレートは、管理サイトと端末が同期したタイミングで該当の端末に反映されます。

対象の Android 端末に割り当てる設定テンプレートの作成は、以下を参照してください。

🔗 「設定テンプレート」 364 ページ

✍️ リモートワイプの端末初期化を「初期化する」に設定している設定セットを割り当てた設定テンプレートを選択し、[保存] をクリックすることで次回同期時（手動同期含む）に端末の初期化を行います。ご利用には細心の注意を払ってください。

✎ 設定テンプレートを割り当てることで、設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合、端末の動作については、以下を参照してください。

🔗 「各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作」 844 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「設定」の [設定テンプレートの割り当て]

項番	項目	説明
1	テンプレート	適用するテンプレートをリストボックスから選択します。
2	[保存]	クリックすると、設定したテンプレートの設定内容が対象の機器に適用されます。
3	[取消]	クリックすると、設定テンプレートの割り当てをキャンセルします。

4.1.8.3 (設定 - Android) パッケージ

オプション

オプションで契約したアプリを、対象の Android 端末で使用できるようにします。

- ✔ オプションパッケージは、指定した端末でのみ利用できます。
- ✔ 使用数が契約数に達している場合は、新たにオプションパッケージを割り当てることができません。使用数および契約数は、ダッシュボードの「利用状況」で確認してください。

🔗 「ダッシュボードの画面構成」 71 ページ

- ✔ 本製品で提供しているウイルス対策ソフト「Safety Manager AntiVirus」をご利用になる場合は、ご利用になる Android 機器に対してオプションパッケージの割り当てが必要となります。当画面にて割り当てを行ってください。
- ✔ 「Safety Manager AntiVirus」のご利用にはお申し込みが必要となります。なお、お申し込みをいただいていない場合は、[パッケージ] のメニューボタンは表示されません。

◆ 画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「設定」の [他の設定を見る] → [パッケージ] → [編集]



項番	項目	説明
1	オプションパッケージ	利用できるオプションパッケージの一覧が表示されます。 対象の端末で利用するパッケージにチェックを入れます。 利用を解除する場合は、チェックを外します。 ✔ 1つの機器に同じパッケージを複数割り当てて [保存] をクリックすると、エラーメッセージが表示されます。
2	[保存]	クリックすると、オプションパッケージの割り当てや解除の内容が対象の端末に適用されます。
3	[取消]	クリックすると、オプションパッケージの割り当てをキャンセルします。

4.1.8.4 (設定－Android) クライアント証明書

クライアント証明書を対象の Android 端末に配信します。

 画面 (新規設定)

 画面 (編集、削除)

-  本機能はクライアント証明書の配信までを行います。端末内に保存されるクライアント証明書の場所やインストール方法については、端末メーカーへお問い合わせください。
-  配信するクライアント証明書を、あらかじめ管理サイトへアップロードし、本機能で端末に配信するための設定セットを作成してください。クライアント証明書の設定セット作成については、以下を参照してください。
 -  「クライアント証明書管理」 452 ページ
 -  「クライアント証明書一括アップロード」 456 ページ
-  クライアント証明書がアップロードされていない場合は、クライアント証明書の設定画面に [クライアント証明書をアップロードする] が表示され、クリックすると [クライアント証明書管理] 画面が表示されます。
 -  「クライアント証明書管理」 452 ページ
-  クライアント証明書を Android 端末にインストールするには、PIN またはパスワードなどのスクリーンロック設定が必要です。Android 端末でスクリーンロックが設定されていない場合は、設定を要求するメッセージが表示されます。また、クライアント証明書をアンインストールすると、スクリーンロック設定は無効になります。
-  管理サイトでクライアント証明書を削除した場合、Android 端末のクライアント証明書は削除されません。また、管理サイトでクライアント証明書を変更した場合は、新規のクライアント証明書として配信されます。Android 端末のクライアント証明書は、変更および削除されません。
 -  「クライアント証明書管理」 452 ページ

◆画面（新規設定）

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「設定」の [他の設定を見る] → [クライアント証明書] → [編集]

⏪ クライアント証明書
ⓧ

通信日時: 2022/09/16 16:45:08 🔄 同期

1 クライアント証明書

2 証明書を使用するアプリ名

3 プロダクトID
(なし)

※証明書を機器にインストールするためには、PINまたはパスワードなどのスクリーンロック設定が必要です。
機器でスクリーンロック設定がされていない場合には、設定を要求するメッセージが表示されます。
※スクリーンロック設定を無効にするには、証明書をアンインストールする必要があります。

4 保存

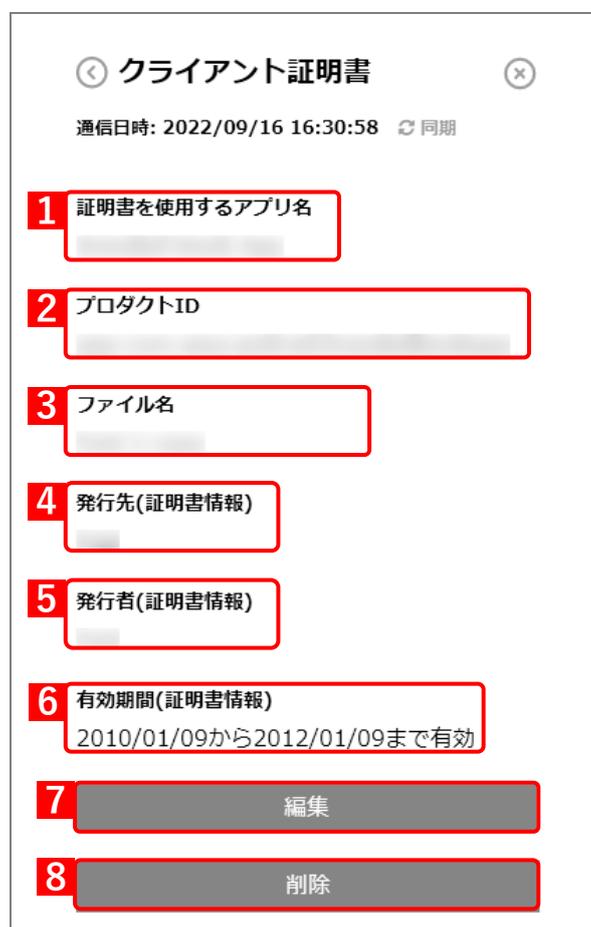
5 取消

項番	項目	説明
1	クライアント証明書	インストールするクライアント証明書をリストボックスから選択します。
2	証明書を使用するアプリ名	項番【1】で選択したクライアント証明書を使用するアプリをリストボックスから選択します。 <input checked="" type="checkbox"/> リストボックスには、個別アプリケーションで登録したアプリが表示されます。使用するアプリは、個別アプリケーションに登録してください。 🔗 「Android Enterprise／個別アプリケーション」 415 ページ
3	プロダクト ID	項番【2】で選択したクライアント証明書を使用するアプリを選択すると、選択したアプリのプロダクト ID が自動で表示されます。

項番	項目	説明
4	[保存]	クリックすると、選択したクライアント証明書が、Android 端末にインストールされます。 <input checked="" type="checkbox"/> クライアント証明書を機器にインストールするためには、PIN またはパスワードなどのスクリーンロック設定が必要です。 機器でスクリーンロック設定がされていない場合は、設定を要求するメッセージが表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> スクリーンロック設定を無効にするには、クライアント証明書をアンインストールする必要があります。
5	[取消]	クリックすると、クライアント証明書の設定をキャンセルします。

◆画面（編集、削除）

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「設定」の [他の設定を見る] → [クライアント証明書]



項番	項目	説明
1	証明書を使用するアプリ名	クライアント証明書を使用するアプリ名が表示されます。
2	プロダクト ID	項番【1】のクライアント証明書を使用するアプリのプロダクト ID が表示されます。
3	ファイル名	クライアント証明書のファイル名が表示されます。
4	発行先（証明書情報）	クライアント証明書の発行先が表示されます。
5	発行者（証明書情報）	クライアント証明書の発行者が表示されます。
6	有効期限（証明書情報）	クライアント証明書の有効期限が表示されます。
7	[編集]	クリックすると、クライアント証明書の編集ができます。

項番	項目	説明
		画面の操作は、新規設定と同様です。
8	[削除]	クリックし、確認画面で [OK] をクリックするとクライアント証明書の設定が削除されます。

4.1.8.5 (設定-iOS) 設定の割り当て

各機能で作成した設定セットを iOS 端末に反映します。

設定セットの内容は、管理サイトと端末が同期したタイミングで該当の端末に反映されます。

画面

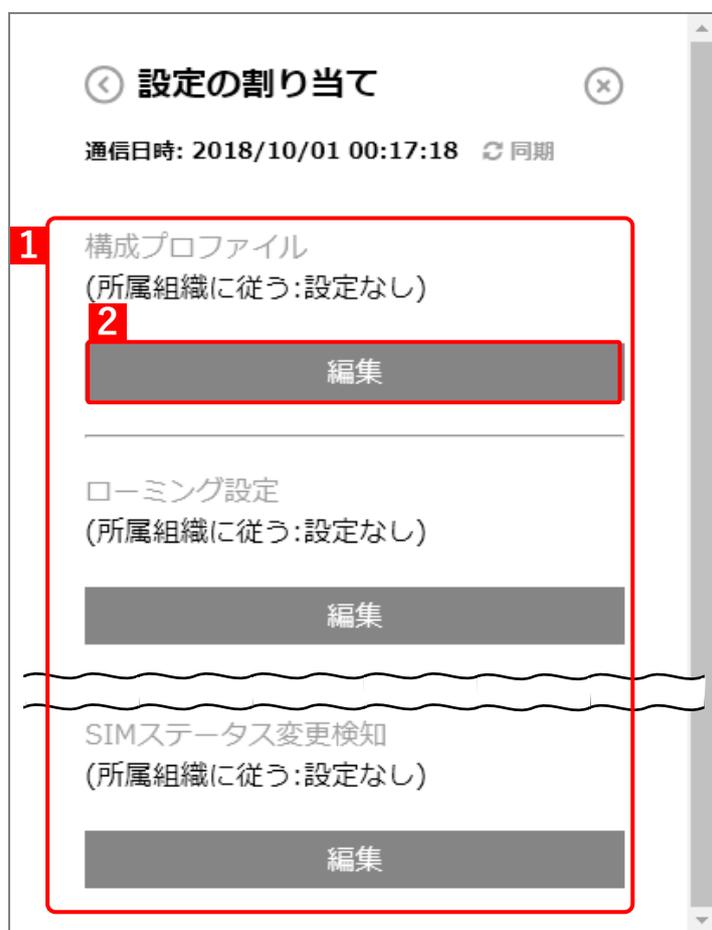
画面 (編集)

登録されている iOS 端末に一括で設定セットを反映する場合は、以下を参照してください。

「[iOS 設定] タブ」 252 ページ

◆画面

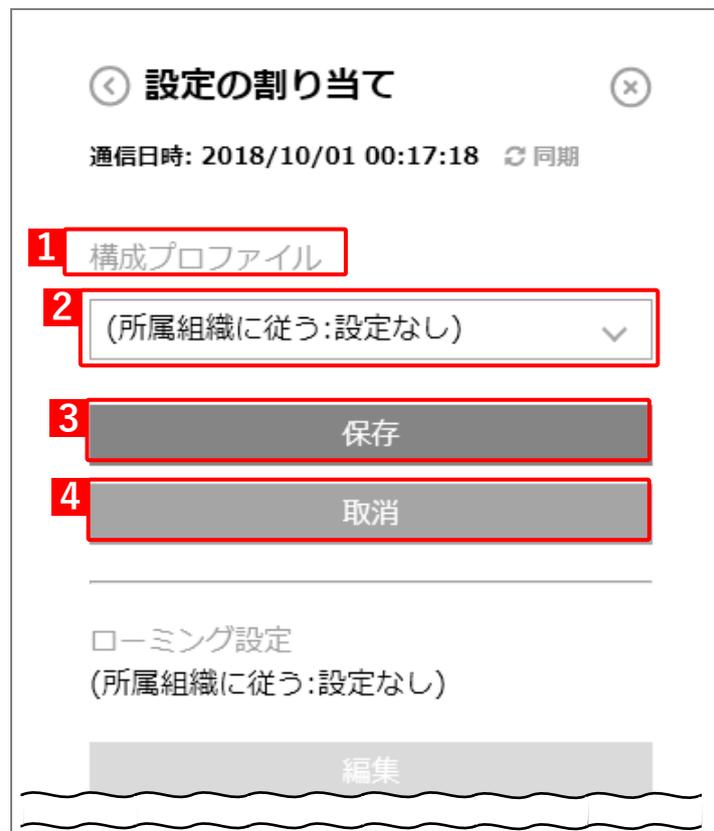
表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の → 詳細画面の「設定」の [設定の割り当て]



項番	項目	説明
1	設定一覧	iOS 端末への各設定機能と設定中の設定セット名などが表示されます。設定機能名をクリックすると、該当の設定画面に遷移します。
2	[編集]	クリックすると、設定機能ごとに、適用する設定を変更できます。 「画面 (編集)」 121 ページ

◆画面（編集）

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「設定」の「設定の割り当て」 → 対象の機能の [編集]



項番	項目	説明
1	設定機能	クリックすると、該当の機能の設定セットの一覧画面に遷移します。
2	(所属組織に従う:設定なし)	適用する設定セット名をリストボックスから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ●(所属組織に従う:設定なし) 機器ごとに所属している組織の設定が適用されます。組織に所属していない場合は「(設定なし)」が適用されます。 ●(設定なし) 各機能の設定を外します。 <input checked="" type="checkbox"/> 設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合、端末の動作については、以下を参照してください。 🔗 「各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作」 844 ページ ●各機能の設定名 各機能で作成済みの設定セットを適用したいときは、その設定名をリストボックスから選択して設定します。ここで設定した設定セットに対する編集および削除が行われた場合、この設定にも反映されます。
3	[取消]	クリックすると、編集作業をキャンセルします。
4	[保存]	クリックすると、設定内容を保存します。

4.1.8.6 (設定-iOS) 設定テンプレートの割り当て

設定テンプレート機能で作成したテンプレートを iOS 端末に反映します。

テンプレートは、管理サイトと端末が同期したタイミングで該当の端末に反映されます。

対象の iOS 端末に割り当てる設定テンプレートの作成は、以下を参照してください。

🔗 「設定テンプレート」 499 ページ

✎ 設定テンプレートを割り当てることで、設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合、端末の動作については、以下を参照してください。

🔗 「各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作」 844 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⏪ → 詳細画面の「設定」の [設定テンプレートの割り当て]

項番	項目	説明
1	テンプレート	適用するテンプレートをリストボックスから選択します。
2	[保存]	クリックすると、設定したテンプレートの設定内容が対象の機器に適用されます。
3	[取消]	クリックすると、設定テンプレートの割り当てをキャンセルします。

4.1.8.7 (設定-iOS) クライアント証明書

対象の iOS 端末にクライアント証明書を紐づけます。クライアント証明書は、各 iOS 端末に最大で 5 つ（デフォルトのクライアント証明書 1 つ、およびその他のクライアント証明書 4 つ）まで紐づけることができます。

 画面（新規設定）

 画面（編集、削除）

 デフォルトのクライアント証明書は、「構成プロファイルアップロード」の VPN 設定などで「機器に設定されたクライアント証明書」と設定されている場合に参照できます。

 「構成プロファイルアップロード」505 ページ

 各端末に紐づける 1 つ目のクライアント証明書は、その端末のデフォルトのクライアント証明書です。

 機器レポートでは、「クライアント証明書」としてデフォルトのクライアント証明書のみ出力されます。

 「機器レポート」289 ページ

 機器に紐づいているすべてのクライアント証明書は、[CSV でクライアント証明書紐付け] からダウンロードできる CSV ファイルで確認できます。

 「CSV でクライアント証明書紐付け (iOS のみ)」287 ページ

 iOS 12.0 以上の端末の場合は、本機能からインストールしたクライアント証明書を VPN アプリから参照できるようにするには、VPN 設定を作成して端末に配信する必要があります。

- [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [VPN 設定] → [新規作成]

このとき、「資格情報」は「(機器に設定されているクライアント証明書)」に設定してください。詳細については、下記を参照してください。

 「[その他▼] タブ / VPN 設定」549 ページ

◆画面（新規設定）

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「設定」の [他の設定を見る] → [クライアント証明書] → [編集]

項番	項目	説明
1	クライアント証明書 (※1)	対象の iOS 端末にインストールするクライアント証明書をリストボックスから選択します。
2	[保存]	クリックすると、選択したクライアント証明書が、iOS 端末にインストールされます。
3	[取消]	クリックすると、クライアント証明書の設定をキャンセルします。

※1：端末に紐づける最初のクライアント証明書の場合は、「クライアント証明書（デフォルト）」と表示されます。

◆画面（編集、削除）

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「設定」の [他の設定を見る] → [クライアント証明書]

項番	項目	説明
1	ファイル名	クライアント証明書のファイル名が表示されます。
2	発行先（証明書情報）	クライアント証明書の発行先が表示されます。
3	発行者（証明書情報）	クライアント証明書の発行者が表示されます。
4	有効期限（証明書情報）	クライアント証明書の有効期限が表示されます。
5	[編集]	クリックすると、クライアント証明書の編集ができます。 画面の操作は、新規設定と同様です。
6	[削除]	クリックし、確認画面で [OK] をクリックするとクライアント証明書の設定が削除されます。  デフォルトのクライアント証明書を、既に紐づけられている他のクライアント証明書に変更できます。その場合は、デフォルトに指定したいクライアント証明書を一旦削除して、「クライアント証明書（デフォルト）」の [編集] - 「クライアント証明書」で該当のクライアント証明書を選択します。

4.1.8.8 (設定-iOS) Exchange (ActiveSync) 設定

Microsoft Exchange を利用する場合に、Exchange ActiveSync の設定を端末ごとに行うことができます。

本画面で行う設定は、Apple Configurator 2 の [Exchange ActiveSync] で行う設定と同様です。

 画面 (新規作成)

 画面 (編集、削除)

- ☑ 配信するクライアント証明書を、あらかじめ管理サイトへアップロードし、本機能で端末に配信するための設定セットを作成してください。クライアント証明書の設定セット作成については、以下を参照してください。

 「クライアント証明書管理」 452 ページ

 「クライアント証明書一括アップロード」 456 ページ

- ☑ クライアント証明書がアップロードされていない場合は、クライアント証明書の設定画面に [クライアント証明書をアップロードする] が表示され、クリックすると [クライアント証明書管理] 画面が表示されます。

 「クライアント証明書管理」 452 ページ

- ☑ 複数の機器に一括して Exchange(ActiveSync)設定を行う場合は、Apple Configurator 2 の [Exchange ActiveSync] で設定をしてください。または CSV ファイルを利用して一括で設定してください。

 「CSV で編集」 283 ページ

- ☑ Apple Configurator 2 の詳細については Apple にお問い合わせください。

- ☑ Microsoft Exchange および Exchange ActiveSync の詳細については Microsoft にお問い合わせください。

- ☑ 各種設定は次回の同期時に端末へ反映されます。端末への反映を急ぐ場合は、手動で同期を行ってください。

◆画面（新規作成）

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「設定」の [他の設定を見る] → [Exchange (ActiveSync) 設定] → [新規作成]

⏪ Exchange (ActiveSync) ⏩

設定

通信日時: 2018/10/01 00:17:18 🔄 同期

1 Exchange ActiveSync ホスト

SSL を使用

使用する 使用しない

ドメイン

ユーザー情報

所属ユーザーの情報を利用

ユーザ

メールアドレス

認証にOAuthを使用

使用する 使用しない

パスワード

"メール"でのみ使用

"メール"でのみ使用する 制限しない

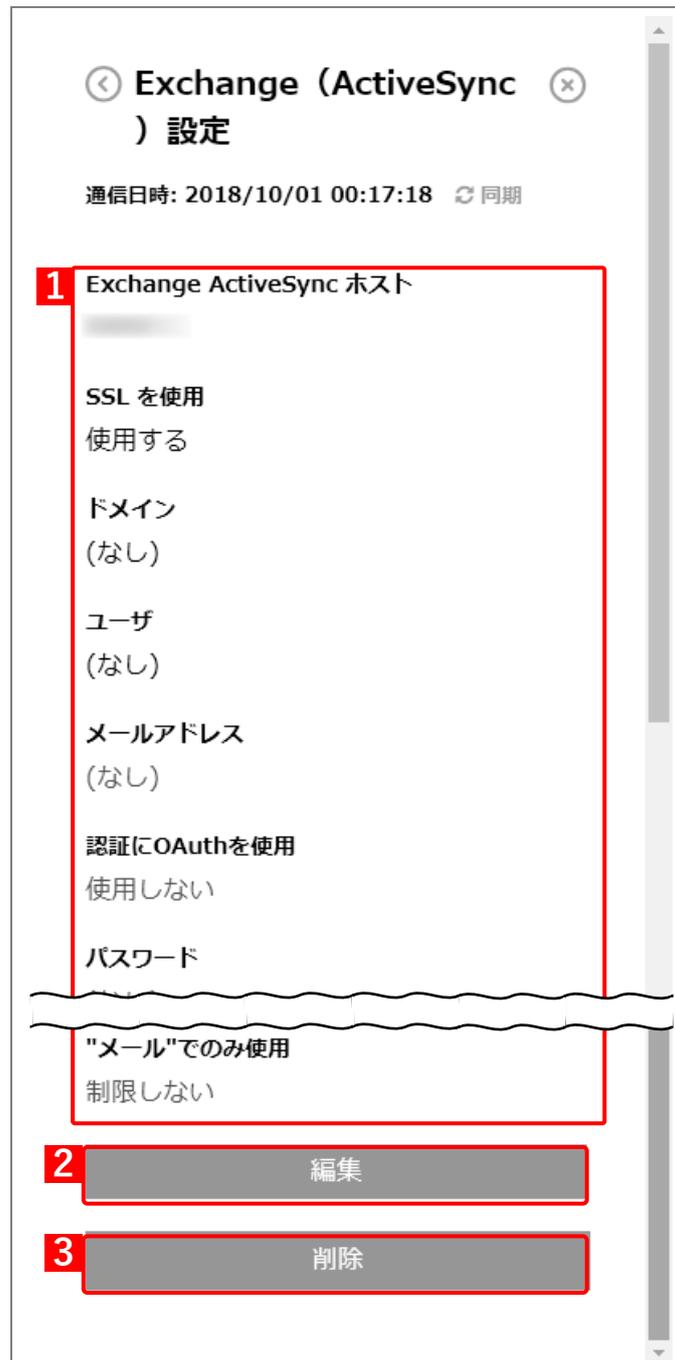
2

3

項番	項目	説明
1	設定項目	<p>以下の項目を設定します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 設定項目の詳細については、Exchange の管理者に問い合わせてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Exchange ActiveSync ホスト Exchange ActiveSync ホスト名を入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> Exchange ActiveSync ホスト名は、Microsoft に問い合わせてください。 ● SSL を使用 「使用する」または「使用しない」を選択します。 ● ドメイン ドメイン名を入力します。 ● ユーザー情報 <ul style="list-style-type: none"> ・ 所属ユーザーの情報を利用 利用する場合は、チェックボックスにチェックを入れてください。 ● ユーザ 「所属ユーザーの情報を利用」が無効の場合は、ユーザー名を入力します。 ● メールアドレス 「所属ユーザーの情報を利用」が無効の場合は、メールアドレスを入力します。 ● 認証に OAuth 使用 「使用する」または「使用しない」を選択します。 <input checked="" type="checkbox"/> 先進認証 (OAuth で認証) する場合は、「使用する」を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「使用する」の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ OAuth サインイン URL を入力します。 ・ OAuth トークンリクエスト URL を入力します。 ・ 「使用しない」の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ パスワードを入力します。 ● 認証資格情報 リストボックスからクライアント証明書を選択します。 ● 過去のメールを同期 (日数) 「無制限」、「1 日」、「3 日間」、「1 週間」、「2 週間」、「1 か月」から選択します。 ● メッセージの移動を許可 「許可する」または「許可しない」を選択します。 ● 最近使ったアドレスの同期を許可 「許可する」または「許可しない」を選択します。 ● Mail Drop を許可 「許可する」または「許可しない」を選択します。 ● "メール"でのみ使用 「"メール"でのみ使用する」または「制限しない」を選択します。
2	[保存]	クリックすると、Exchange の設定内容が対象の機器に適用されます。
3	[取消]	クリックすると、Exchange の設定をキャンセルします。

◆画面（編集、削除）

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「設定」の [他の設定を見る] → [Exchange (ActiveSync) 設定]



項番	項目	説明
1	設定内容	<p>以下の設定内容を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Exchange ActiveSync ホスト ●SSL を使用 ●ドメイン ●ユーザー情報 <ul style="list-style-type: none"> ・ 所属ユーザーの情報を利用 ●ユーザ <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 「所属ユーザーの情報を利用」が無効の場合 ●メールアドレス <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 「所属ユーザーの情報を利用」が無効の場合 ●認証に OAuth 使用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「使用する」の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ OAuth サインイン URL ・ OAuth トークンリクエスト URL ・ 「使用しない」の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ パスワード ●認証資格情報 ●過去のメールを同期（日数） ●メッセージの移動を許可 ●最近使ったアドレスの同期を許可 ●Mail Drop を許可 ●"メール"でのみ使用
2	[編集]	<p>クリックすると、Exchange の設定内容の編集ができます。 画面の操作は、新規作成と同様です。</p>
3	[削除]	<p>クリックし、確認画面で [OK] をクリックすると Exchange の設定が削除されます。</p>

4.1.8.9 (設定-iOS) VPN 設定

VPN を利用する場合の設定を、iOS 端末ごとに行います。

 画面 (新規作成)

 画面 (編集、削除)

本画面で行う設定は、Apple Configurator 2 の [VPN] で行う設定とほぼ同様ですが、接続タイプは以下に対応しています。

- IKEv2
- IPSec
- L2TP
- PPTP (iOS 9 以前と OS X 10.11 以前)
- Cisco AnyConnect
- Cisco Legacy AnyConnect
- Juniper SSL
- Pulse Secure
- F5 SSL
- SonicWALL Mobile Connect
- Aruba VIA
- Check Point Mobile VPN
- カスタム SSL

 Apple Configurator 2 の詳細については Apple にお問い合わせください。

 存在しない識別子を入力した場合、VPN 設定が端末に反映されず構成プロファイルのインストールに失敗することがあります。識別子は VPN 装置ベンダーごとに異なるため、VPN 装置ベンダーへご確認ください。

 クライアント証明書を、あらかじめ管理サイトへアップロードし、本画面の設定項目（「固有名証明書」または「資格情報」）で選択するための設定セットを作成してください。接続タイプにより、設定項目が異なりますので、以下を参照してください。

設定項目	接続タイプ
固有名証明書	<ul style="list-style-type: none"> ● IKEv2 ● IPSec ● L2TP
資格情報	<ul style="list-style-type: none"> ● Cisco AnyConnect ● Cisco Legacy AnyConnect ● Juniper SSL ● Pulse Secure ● F5 SSL ● SonicWALL Mobile Connect ● Aruba VIA ● Check Point Mobile VPN ● カスタム SSL

 クライアント証明書の設定セット作成については、以下を参照してください。

 「クライアント証明書管理」 660 ページ

 「クライアント証明書一括アップロード」 664 ページ

◆画面（新規作成）

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⓘ → 詳細画面の「設定」の [他の設定を見る] → [VPN 設定] → [新規作成]

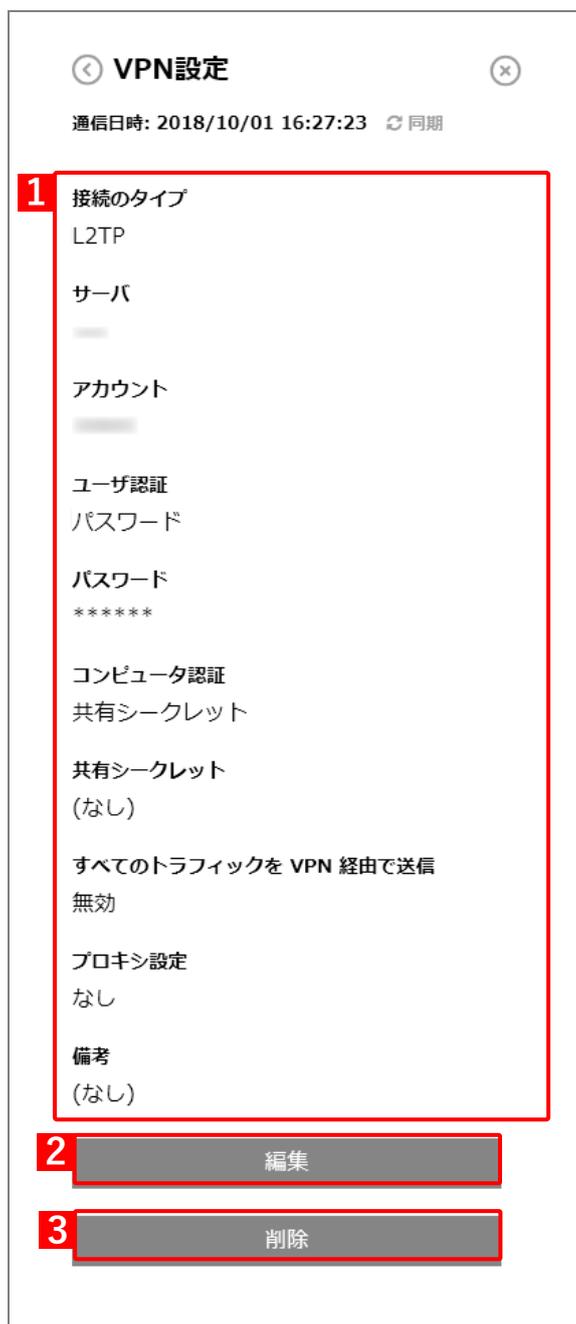
The screenshot shows the 'VPN設定' (VPN Settings) screen for creating a new profile. The interface includes a back arrow, a close button, and a refresh button. The '通信日時' (Communication Date/Time) is 2016/03/14 13:39:11. The screen is divided into several sections, each highlighted with a red box and a numbered callout:

- 1** 接続のタイプ (Connection Type): A dropdown menu currently set to 'L2TP'.
- 2** サーバ (Server): An empty text input field.
- 3** ユーザー情報 (User Information): A section containing several options:
 - 所属ユーザーの情報を利用 (Use information of the user you belong to)
 - アカウント (Account): An empty text input field.
 - ユーザ認証 (User Authentication):
 - パスワード (Password): A password input field with dots.
 - RSA SecurID
 - すべてのトラフィックを VPN 経由で送信 (Send all traffic via VPN)
 - コンピュータ認証 (Computer Authentication): A dropdown menu set to '共有シークレット' (Shared Secret).
 - 共有シークレット (Shared Secret): An empty text input field.
 - プロキシ設定 (Proxy Settings): A dropdown menu set to 'なし' (None).
- 4** 備考 (Remarks): A large empty text area for notes. Below it is a note: ※備考は構成プロファイル出力には含まれません。 (Remarks are not included in the configuration profile output.)
- 5** 保存 (Save): A grey button to save the profile.
- 6** 取消 (Cancel): A grey button to cancel the creation.

項番	項目	説明
1	接続タイプ	<p>接続タイプを以下から選択します。以降の入力項目は接続タイプごとに異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IKEv2 • IPSec • L2TP • PPTP (iOS 9 以前と OS X 10.11 以前) • Cisco AnyConnect • Cisco Legacy AnyConnect • Juniper SSL • Pulse Secure • F5 SSL • SonicWALL Mobile Connect • Aruba VIA • Check Point Mobile VPN • カスタム SSL
2	サーバ	サーバーの名称を 255 文字以内の半角英数字、記号で入力します。入力は必須です。
3	設定項目	<p>入力項目は接続タイプごと表示項目が異なります。 設定項目については以下を参照してください。</p> <p> 「[その他▼] タブ/VPN 設定」 549 ページ</p>
4	備考	必要に応じて、255 文字以内で入力してください。
5	[保存]	クリックすると、VPN の設定内容が対象の機器に適用されます。
6	[取消]	クリックすると、VPN の設定をキャンセルします。

◆画面（編集、削除）

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「設定」の [他の設定を見る] → [VPN 設定]



項番	項目	説明
1	設定内容	設定内容を確認します。接続のタイプによって、項目が異なります。
2	[編集]	クリックすると、VPN 設定の編集ができます。画面の操作は、新規作成と同様です。
3	[削除]	クリックし、確認画面で [OK] をクリックすると VPN 設定が削除されます。

4.1.8.10 (設定-iOS) 個別構成プロファイル

Apple が提供している Apple Configurator 2 で作成した構成プロファイルを、個別にアップロードして iOS 端末にインストールします。iOS 端末で構成プロファイルをインストールすることで端末の制御や設定を行うことができます。構成プロファイルは、あらかじめ Apple Configurator 2 上で作成してください。

 画面 (新規作成)

 画面 (ダウンロード、編集、削除)

 Apple Configurator 2 および構成プロファイルの詳細については Apple 社にお問い合わせください。

 複数の iOS 端末に一括で同じ構成プロファイルをインストールする場合は、必要な構成プロファイルをアップロードし、構成プロファイルの設定セットを作成してから、全端末一括設定を行ってください。

詳細については、以下を参照してください。

 「構成プロファイルアップロード」505 ページ

 「構成プロファイル」594 ページ

 「全機器一括設定」248 ページ

◆画面 (新規作成)

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「設定」の [他の設定を見る] → [個別構成プロファイル] → [新規作成]



項番	項目	説明
1	構成プロファイル	[ファイルを選択] をクリックし、構成プロファイルのファイルを選択します。ファイルを選択すると、選択したファイル名が表示されます。
2	[保存]	クリックすると、選択したプロファイルが、対象の機器に適用されます。
3	[取消]	クリックすると、個別構成プロファイルの設定をキャンセルします。

◆画面（ダウンロード、編集、削除）

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「設定」の [他の設定を見る] → [個別構成プロファイル]



項番	項目	説明
1	設定済み	個別構成プロファイルが設定された日時が表示されます。
2	ダウンロード	クリックすると、設定されている構成プロファイルをダウンロードできます。
3	[編集]	クリックすると、個別構成プロファイルの編集ができます。 画面の操作は、新規作成と同様です。
4	[削除]	クリックし、確認画面で [OK] をクリックすると個別構成プロファイルの設定が削除されます。

4.1.8.11 (設定-iOS)「Appとブック」設定

端末に対する「Appとブック」ライセンスの配布状況を確認・管理します。

 画面 (新規作成)

 画面 (編集、削除)

本機能で割り当てたライセンスは、「[Appとブック]ライセンス」の[アプリケーション]タブで「未割当数」としてカウントされます。この状態で実際にライセンスは付与されていません。詳細については、以下を参照してください。

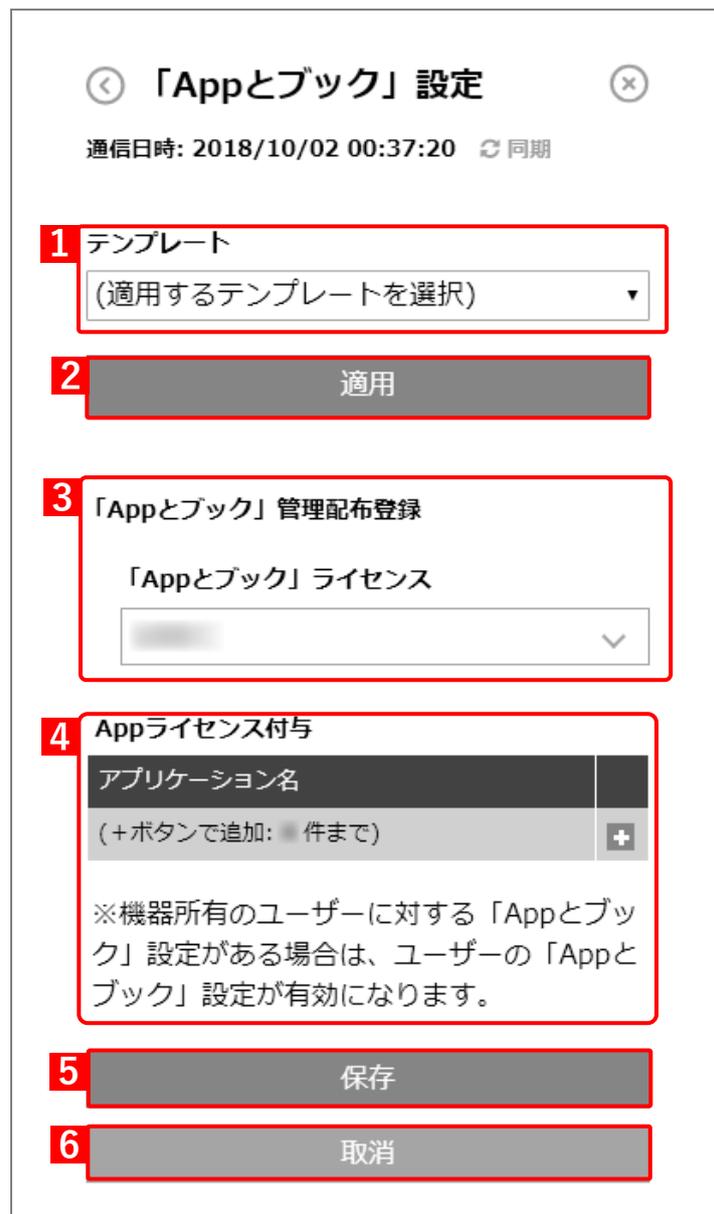
 「[アプリケーション]タブ」609ページ

 ユーザー (または組織) 画面でユーザーに「Appとブック」ライセンスを付与している場合は、ユーザーの付与が優先されるため、本画面を編集できません。また、端末にライセンス付与できないため「割当待ち」と表示されます。ライセンス付与のステータスは、以下を参照してください。

 「画面 (状況確認)」328ページ

◆画面 (新規作成)

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「設定」の [他の設定を見る] → 「Appとブック」設定 → [新規作成]



⏪ 「Appとブック」設定 ⏩

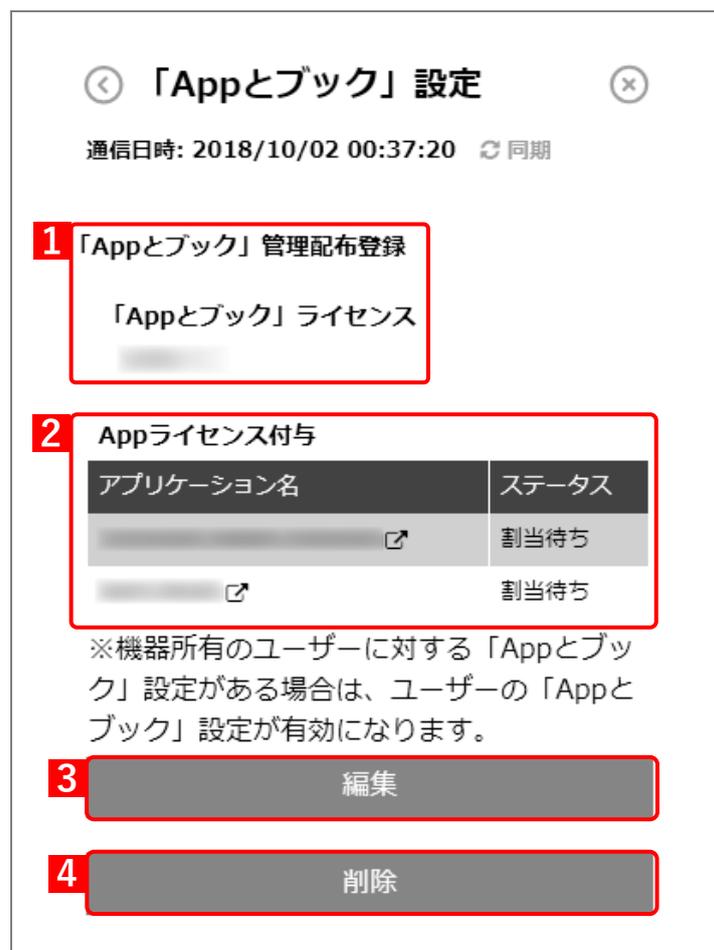
通信日時: 2018/10/02 00:37:20  同期

- 1 テンプレート
(適用するテンプレートを選択) ▼
- 2 適用
- 3 「Appとブック」管理配布登録
「Appとブック」ライセンス
▼
- 4 Appライセンス付与
アプリケーション名
(+ボタンで追加: 件まで) +
※機器所有のユーザーに対する「Appとブック」設定がある場合は、ユーザーの「Appとブック」設定が有効になります。
- 5 保存
- 6 取消

項番	項目	説明
1	テンプレート	登録済みの「App とブック」設定テンプレートを適用して、設定する場合は、リストボックスからテンプレートを選択します。
2	[適用]	クリックすると、選択した「App とブック」設定テンプレートの内容が、【5】と【6】の設定項目に反映されます。
3	「App とブック」管理配布登録	「App とブック」ライセンスで、リストボックスから「App とブック」アカウントを選択します。
4	App ライセンス付与	<ul style="list-style-type: none"> ●アプリケーション名 アプリをリストボックスから選択します。   をクリックすると、入力欄が追加されます。   をクリックすると、入力欄が削除されます。  アプリは、300 件まで追加できます。
5	[保存]	クリックすると、「App とブック」の設定内容が対象の機器に適用されます。
6	[取消]	クリックすると、「App とブック」の設定をキャンセルします。

◆画面（編集、削除）

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「設定」の [他の設定を見る] → [「App とブック」設定]



項番	項目	説明
1	「App とブック」管理配布登録	「App とブック」ライセンスで、リストボックスから「App とブック」アカウントを選択します。
2	App ライセンス付与	以下の情報が表示されます。 ●アプリケーション名 対象のアプリ名が表示されます。クリックすると、アプリのサイトが表示されます。 ●ステータス 機器にライセンス付与できないため、「割当待ち」と表示されます。
3	[編集]	クリックすると、「App とブック」設定の編集ができます。画面は、新規作成と同様です。
4	[削除]	クリックし、確認画面で [OK] をクリックすると「App とブック」設定の内容がすべて削除されます。

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
▲ アプリケーションは重複しないものを入力してください。	「App ライセンス付与」欄で[+]でアプリを追加するときに、アプリ名が重複している。	重複しているアプリを設定から削除し、[保存]をクリックしてください。
▲ 書籍は重複しないものを入力してください。	「ブックライセンス付与」欄で[+]で書籍を追加するときに書籍名が重複している。	重複している書籍を設定から削除し、[保存]をクリックしてください。

4.1.8.12 (設定 - Windows) 設定セットの割り当て

各機能で作成した設定セットを Windows 端末に反映します。

設定セットの内容は、管理サイトと端末が同期したタイミングで該当の端末に反映されます。

画面

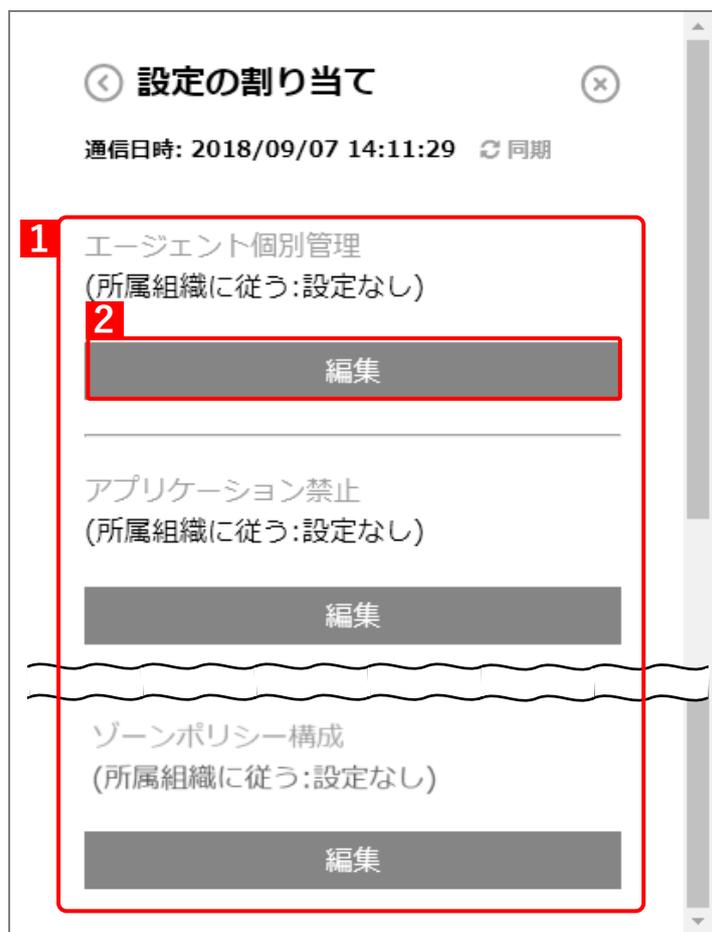
画面 (編集)

登録されている Windows 端末に一括で設定セットを反映する場合は、以下を参照してください。

「[Windows 設定] タブ」 254 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の → 詳細画面の「設定」の [設定の割り当て]



項番	項目	説明
1	設定一覧	Windows 端末への各設定機能と設定中の設定セット名などが表示されます。設定機能名をクリックすると、該当の設定画面に遷移します。
2	[編集]	クリックすると、設定機能ごとに適用する設定を変更できます。 「画面 (編集)」 141 ページ

◆画面（編集）

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「設定」の [設定の割り当て] → 対象の機能の [編集]

項番	項目	説明
1	設定機能	クリックすると、該当の機能の設定セットの一覧画面に遷移します。
2	(所属組織に従う:設定なし)	適用する設定セット名をリストボックスから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ●(所属組織に従う:設定なし) 機器ごとに所属している組織の設定が適用されます。組織に所属していない場合は「(設定なし)」が適用されます。 ●(設定なし) 各機能の設定を外します。 <input checked="" type="checkbox"/> 設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合、端末の動作については、以下を参照してください。 🔗 「各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作」 844 ページ ●各機能の設定名 各機能で作成済みの設定セットを適用したいときは、その設定名をリストボックスから選択して設定します。ここで設定した設定セットに対する編集および削除が行われた場合、この設定にも反映されます。
3	[保存]	クリックすると、設定内容を保存します。
4	[取消]	クリックすると、編集作業をキャンセルします。

4.1.8.13 (設定－Windows) 設定テンプレートの割り当て

設定テンプレート機能で作成したテンプレートを Windows 端末に反映します。

テンプレートは、管理サイトと端末が同期したタイミングで該当の端末に反映されます。

対象の Windows 端末に割り当てる設定テンプレートの作成は、以下を参照してください。

🔗 「設定テンプレート」 676 ページ

✎ 設定テンプレートを割り当てることで、設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合、端末の動作については、以下を参照してください。

🔗 「各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作」 844 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の Ⓞ → 詳細画面の「設定」の [テンプレートの割り当て]

項番	項目	説明
1	テンプレート	適用するテンプレートを作成済みの設定テンプレートから選択します。
2	[保存]	クリックすると、設定したテンプレートの設定内容が対象の機器に適用されます。
3	[取消]	クリックすると、設定テンプレートの割り当てをキャンセルします。

4.1.8.14 (設定 - Windows) クライアント証明書

クライアント証明書を対象の Windows 端末に配信します。

 画面 (新規設定)

 画面 (編集、削除)

 本機能はクライアント証明書の配信までを行います。端末内に保存されるクライアント証明書の場所やインストール方法については、端末メーカーへお問い合わせください。

 配信するクライアント証明書を、あらかじめ管理サイトへアップロードし、本機能で端末に配信するための設定セットを作成してください。クライアント証明書の設定セット作成については、以下を参照してください。

 「クライアント証明書管理」 452 ページ

 「クライアント証明書一括アップロード」 456 ページ

 クライアント証明書がアップロードされていない場合は、クライアント証明書の設定画面に [クライアント証明書をアップロードする] が表示され、クリックすると [クライアント証明書管理] 画面が表示されます。

 「クライアント証明書管理」 452 ページ

◆画面 (新規設定)

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「設定」の [他の設定を見る] → [クライアント証明書] → [編集]

◀ クライアント証明書 ▶

通信日時: 2018/08/06 14:28:46  同期

1 クライアント証明書

2 使用する証明書ストア

ユーザー

インストール先のユーザー名

※クライアント証明書をサイレントインストールする場合、インストール先のユーザー名を入力してください。

コンピューター

3

4

項番	項目	説明
1	クライアント証明書	対象の Windows 端末にインストールするクライアント証明書をリストボックスから選択します。
2	使用する証明書ストア	クライアント証明書のインストール先を以下から選択します。 ●ユーザー ユーザーを選択した場合、「インストール先のユーザー名」としてクライアント証明書を配布するユーザーを指定します。「ユーザー」が空欄の場合、機器のユーザーはクライアント証明書をインストールするときにインストール先のユーザーを選択できます。 この設定は意図しないユーザーにクライアント証明書を付与してしまう原因となりますので、十分に注意して設定してください。 ●コンピューター クライアント証明書のインストール先をコンピューターにする場合に選択します。
3	[保存]	クリックすると、選択したクライアント証明書が、Windows 端末にインストールされます。
4	[取消]	クリックすると、クライアント証明書の設定をキャンセルします。

◆画面（編集、削除）

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の ⓘ → 詳細画面の「設定」の
[他の設定を見る] → [クライアント証明書]

項番	項目	説明
1	ファイル名	クライアント証明書のファイル名が表示されます。
2	発行先(証明書情報)	クライアント証明書の発行先が表示されます。
3	発行者(証明書情報)	クライアント証明書の発行者が表示されます。
4	有効期間(証明書情報)	クライアント証明書の有効期間が表示されます。
5	使用する証明書ストア	クライアント証明書の使用する証明書ストアが表示されます。
6	[編集]	クリックすると、クライアント証明書の編集ができます。画面の操作は新規設定と同様です。
7	[削除]	クリックし、確認画面で [OK] をクリックするとクライアント証明書の設定が削除されます。

4.1.9 機器の操作

各端末の詳細画面から、リモートロックやリモートワイプなど、端末に対する各種操作を行います。

操作可能な機能は OS により異なります。

🔍 「操作」の設定内容は、各項目で [実行] をクリックしたタイミングで端末に反映されます。

🔍 各種操作が機器に反映されない場合があります。以下は反映されない場合の例です。

- 機器の電源が入っていない
- 機器が電波の入らない場所にある
- エージェントアプリをアンインストールしている
- ライセンス解除を行っている
- 通話停止を行っている

4.1.9.1 (操作 – Android) スクリーンロックパスワード変更

対象の端末に Android 標準のスクリーンロック画面のパスワードを設定します。「新規パスワード」を入力せずに本機能を実行した場合は、スクリーンロックが解除されます。

🔍 暗号化している端末には、「新規パスワード」を設定する必要があります。

🔍 Android 5.0 の端末の場合、スクリーンロックパスワード変更にて、パスワードを空に設定してもパスワード入力画面が表示されてしまいます。端末を再起動し、Android 5.1 以降に端末をバージョンアップ後、再度設定し直してください。

Android 5.1 以降にバージョンアップできない場合は、端末を再起動することでパスワード入力画面は表示されなくなります。

🔍 画面ロック機能で設定したパスワードポリシーを満たしていない場合は、スクリーンロックのパスワードを変更することはできません。画面ロックの詳細については、以下を参照してください。

🔍 「画面ロック」372 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「操作」の [スクリーンロックパスワード変更]

⏪ スクリーンロックパスワード ⏩
変更

通信日時: 2018/10/19 14:40:51 🔄 同期

1 新規パスワード

2 新規パスワード(再入力)

⚠ 何も入力せずに変更を実行した場合は、スクリーンロックを解除します。

⚠ 設定済みのスクリーンロックポリシーを満たしていない場合は、変更することができません。

3 実行

項番	項目	説明
1	新規パスワード	パスワードを 16 文字以内の半角英数字、記号で入力します。
2	新規パスワード(再入力)	「新規パスワード」で入力したパスワードを再度入力します。
3	[実行]	端末にスクリーンロックパスワード変更の内容を適用します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。

4.1.9.2 (操作－Android) リモートロック

対象の Android 端末をリモートロックします。

リモートロックを行うとロック画面が表示され、端末を操作できなくなります。

また、ロック画面に表示させるメッセージや、警告音の有無なども設定できます。

☑ 対象の端末が Android 6.0 以上で、エージェントバージョン 9.3 以上の場合は、Android OS 標準のスクリーンロック画面を表示できます。

☑ 「リモートロック」の設定セットを割り当てて、端末をロックすることもできます。ただし、本機能によるロックが優先されるため、「リモートロック」の設定セットで端末をロック中に本機能でリモートロックを行うと、本機能のロック内容に変更されます。また、本機能でロック中に「リモートロック」の設定セットでロックを行っても、設定セットのロック内容は反映されません。

リモートロックの設定セットの作成については、以下を参照してください。

🔗 [「Android リモートロック」835 ページ](#)

☑ Android 5.0～6.0 の場合、Device Owner Mode 化せずにマルチユーザー機能を使用している端末では、本機能を利用できません。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の ⌵ → 詳細画面の「操作」の [リモートロック]

⏪ リモートロック

通信日時: 2018/09/12 16:26:01 🔄 同期

1 ロックメッセージ

2 ロック時の警告音

- 鳴動する
- 鳴動しない

3 解除方法

- リモートロックの解除コード
- 解除させない
- スクリーンロックパスワード

▲ 解除コードを許可しないリモートロックは、対象機器のエージェントバージョンが7.3以降の場合のみ対応です。

▲ エージェントバージョンが7.3未満の場合、対象機器のリモートロック設定が「ロックしない」設定のとき、本画面でのリモートロックも解除されてしまいます。対象機器のリモートロック設定を「設定なし」としてご利用ください。

▲ 端末が暗号化されていない状態であるため、データ損失・流出の危険性があります。

4 実行

項番	項目	説明
1	ロックメッセージ	<p>ロック画面に表示するメッセージを入力します。入力できる文字数は 200 文字以内です。空白類（タブ、改行など）も入力できます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 解除方法で「スクリーンロックパスワード」を選択した場合は、入力したメッセージの文字数にかかわらず、端末に表示されるのは、最大で全角 18 文字までです。</p>
2	ロック時の警告音	<p>リモートロックした端末から警告音を鳴らすかどうかを、以下から選択します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 本機能は Android 4.0 以上に対応しています。</p> <p>● 鳴動する リモートロックされた端末で、警告音を鳴らします。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ロック画面が表示されている間、警告音として端末に設定されている通知音が最大音量で鳴り続けます。本設定にする場合は、十分に注意してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> イヤホン利用時の動作は機種によって異なります。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ハードウェアスイッチによりサイレントモードになっている端末は鳴動しませんのでご注意ください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 項番【3】「解除方法」を「スクリーンロックパスワード」に選択した場合は、鳴動しません。</p> <p>● 鳴動しない リモートロックされた端末で、警告音を鳴らしません。</p>
3	解除方法	<p>リモートロックの解除方法を以下から選択します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> エージェントバージョン 7.3 未満の場合は、対象機器のリモートロック設定が「ロックしない」設定のとき、本画面でのリモートロックも解除されてしまいます。対象機器のリモートロック設定を「設定なし」として利用してください。</p> <p>● リモートロックの解除コード 本製品独自のロック画面を表示してロックします。「リモートロックの解除コード」を端末から入力する、もしくは管理サイトからリモートロック解除を行うことでロック画面を解除することができます。</p> <p>● 解除させない 本製品独自のロック画面を表示してロックします。解除コードの入力で解除できません。管理サイトからリモートロック解除を行うことでロック画面を解除することができます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「解除させない」の設定は、対象機器のエージェントバージョン 7.3 以上の場合にのみ対応しています。</p> <p>● スクリーンロックパスワード Android OS 標準のスクリーンロック画面が表示されます。管理サイトからリモートロック解除を行うことはできず、利用者が事前に設定したスクリーンロックパスワードによって解除できます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 本設定を選択すると、端末にスクリーンロックパスワードを設定していない場合は、端末がロックされていない状態になります。第三者が端末のデータにアクセスするのを防ぐには、必ず「リモートロックの解除コード」または「解除させない」を選択してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ロックメッセージは、端末に表示されるのは、最大で全角 18 文字までです。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 端末の通知の設定が「すべての通知内容を表示する」になっていない場合は、メッセージは表示されません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「スクリーンロックパスワード」の設定項目は、対象の端末が Android 6.0 以上で、エージェントバージョン 9.3 以上の場合にのみ表示されます。</p>
4	[実行]	<p>端末にリモートロックを適用します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。</p>

4.1.9.3 (操作－Android) ロック解除

対象の Android 端末のリモートロックを解除します。

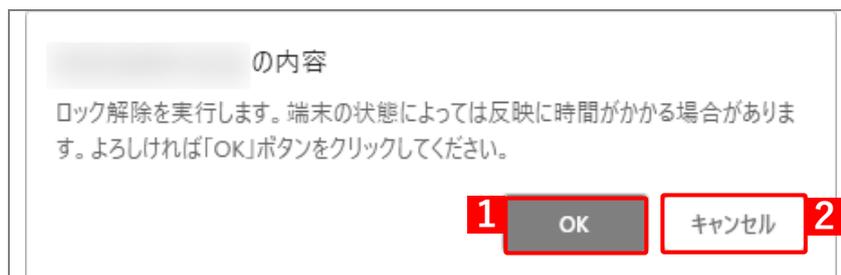
設定セットを利用して行ったリモートロックや、「管理アプリの通信と動作」で設定されたリモートロックを解除します。

🔍 「リモートロック」機能で端末をロックしている場合は、「リモートロック」項目で [ロックしない] を選択した設定セットを作成し、端末に同期しても、ロックは解除されません。

🔗 「Android リモートロック」 835 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「操作」の [他の操作を見る] → [ロック解除]



項番	項目	説明
1	[OK]	クリックすると、対象の端末のリモートロックが解除されます。
2	[キャンセル]	クリックすると、ロック解除の操作をキャンセルします。

4.1.9.4 (操作－Android) リモートワイプ

対象の Android 端末にリモートワイプを行います。

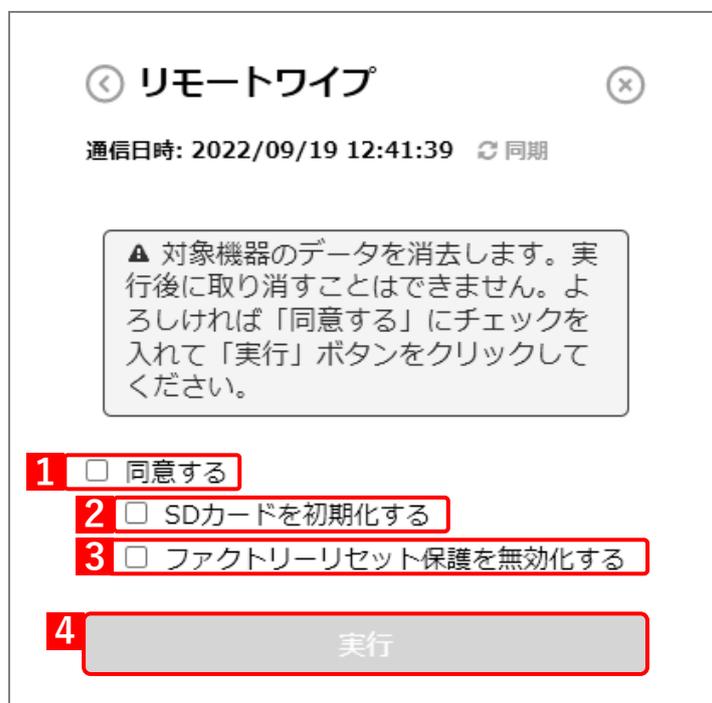
本機能を実行すると対象の端末が初期化されます。

- ☑ 本機能を実行すると操作を取り消すことはできません。十分に注意してください。
- ☑ リモートワイプで端末を初期化した場合、端末の OS は初期化したときと同じバージョンになります。
ただし、アップデートの方法や仕様により、初期化する直前の OS バージョンにならない場合もあります。
- ☑ 設定セットを利用して、リモートワイプができます。
リモートワイプの設定セットの作成については、以下を参照してください。

🔗 「Android リモートワイプ」 838 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「操作」の [他の操作を見る] → [リモートワイプ]



項番	項目	説明
1	同意する	リモートワイプを実行するには、チェックを入れます。チェックを入れると、項番 4 の [実行] がクリックできるようになります。
2	SD カードを初期化する	ワイプの実行のときに、SD カードも初期化したい場合に、チェックを入れます。
3	ファクトリーリセット保護を無効化する	ワイプを実行する場合に、ファクトリーリセット保護を無効化したいときにチェックを入れます。 ☑ ファクトリーリセット保護とは、Android 端末を初期化したとき、Google アカウントの認証が必要になることで、キッキングが完了できないようにすることです。Android 端末の盗難防止になります。
4	[実行]	端末にリモートワイプを適用します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。

4.1.9.5 (操作—Android) Google Play ストアのキャッシュ削除

対象の Android 端末の Google Play ストアのキャッシュを削除します。

Android Enterprise で配信したアプリが、Google Play ストア上で「保留中」の状態からインストールされない場合に、本操作を行ってください。

- ✔ エージェントバージョン 9.14.1 以上かつ Android 9 以上の端末が対象です。
- ✔ 本操作により、「Google Play ストア」アプリ内で変更したすべての設定が初期値に戻ります。設定を初期値から変更している場合は、本操作終了後に端末から再設定してください。「アプリの自動更新」を [アプリを自動更新しない] に設定している場合や、企業で Wi-Fi の使用を制限している場合は、初期値の [Wi-Fi 接続時のみ] に設定されるため、特に注意してください。
- ✔ アプリ配信設定を設定後に本操作を実施すると、端末側に表示されるアプリ配信設定の内容が一時的に変更前の表示になる場合があります。本操作を行う時は注意してください。端末やインストールされたアプリに影響はありません。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の Ⓞ → 詳細画面の「操作」の [他の操作を見る] → [Google Play ストアのキャッシュ削除]



項番	項目	説明
1	[実行]	端末の Google Play ストアのキャッシュを削除します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。

4.1.9.6 (操作-iOS) パスコード削除

対象の iOS 端末に設定されているパスコードを削除します。また、端末のパスコードロックの設定も解除されます。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「操作」の [パスコード削除]

⏪ パスコード削除
ⓧ

通信日時: 2018/10/02 10:17:20 🔄 同期

対象機器のパスコードを削除し、スワイプのみでロックを解除できるようにします。実行後に取り消すことはできません。よろしければ「同意する」にチェックを入れて「実行」ボタンをクリックしてください。

1 同意する

2 実行

項番	項目	説明
1	同意する	パスコードを削除するには、チェックを入れます。チェックを入れると、項番2の [実行] がクリックできるようになります。
2	[実行]	端末のパスコードを削除します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。

4.1.9.7 (操作-iOS) リモートロック

対象の iOS 端末をリモートロックします。

リモートロックを行うとロック画面が表示され、端末を操作できなくなります。

また、ロック画面に表示させるメッセージも設定できます。

- ☑ 端末の設定により、ロックから復帰するときにパスコードの入力を求められることがあります。
- ☑ iOS 端末にパスコードが設定されていない場合、デフォルトのロック解除画面のみが表示されます。このため、「ロックメッセージ」、「電話番号」で設定された連絡情報をユーザーは確認できません。リモートロックを行う前に、詳細画面の「情報」の「デバイス」で「スクリーンロック」の「パスコード保護」が「保護されています」になっているか確認してください。

🔗 「(情報-iOS) デバイス」 192 ページ

- ☑ iOS 7.0 以下の OS では、「ロックメッセージ」と「電話番号」は表示されません。
- ☑ 管理サイトで、ロックを解除することはできません。ロックを解除するときは、端末にパスワードを入力します。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⌵ → 詳細画面の「操作」の [リモートロック]

項番	項目	説明
1	ロックメッセージ	ロック画面に表示するメッセージを入力します。入力できる文字数は 200 文字以内です。空白類（タブ、改行など）も入力できます。
2	電話番号	ロックスクリーンに表示する電話番号を 20 文字以内の半角数字、「-」、「+」、「*」、「#」、「,」で入力します。
3	[実行]	端末にリモートロックを適用します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。

4.1.9.8 (操作-iOS) リモートワイプ

対象の iOS 端末にリモートワイプを行います。

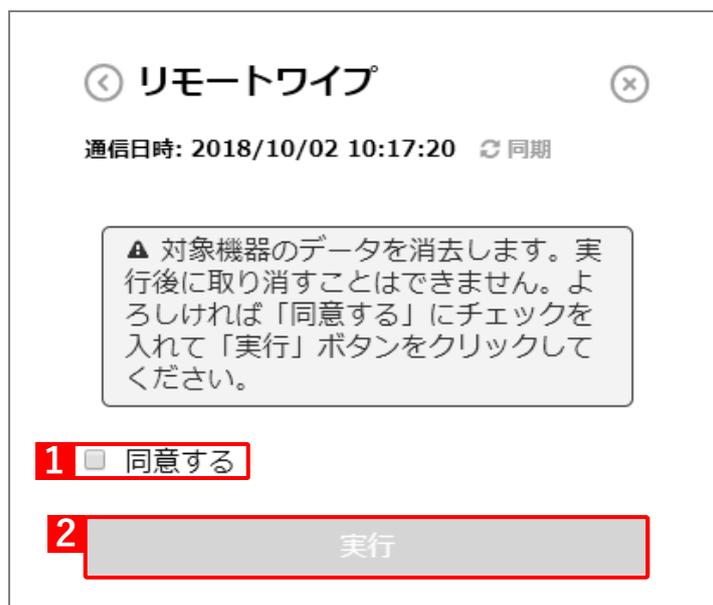
本機能を実行すると対象の端末が初期化されます。

☑ 本機能を実行すると操作を取り消すことはできません。十分に注意してください。

☑ リモートワイプで端末を初期化した場合、端末の OS は初期化したときと同じバージョンになります。ただし、アップデートの方法や仕様により、初期化する直前の OS バージョンにならない場合もあります。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「操作」の [他の操作を見る] → [リモートワイプ]



項番	項目	説明
1	同意する	リモートワイプを実行するには、チェックを入れます。チェックを入れると、項番 2 の [実行] がクリックできるようになります。
2	[実行]	端末にリモートワイプを適用します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。

4.1.9.9 (操作－iOS) リモートワイプ (管理領域)

対象の iOS 端末に管理領域を含むリモートワイプを行います。

インストールされている構成プロファイル、および管理対象のアプリを削除します。本機能を実行すると端末が管理外になり、管理サイトで管理できなくなります。

☑ 本機能を実行すると操作を取り消すことはできません。十分に注意してください。

☑ 本機能を実行しても、「削除防止」を適用している構成プロファイルは端末から削除されません。「削除防止」を適用している構成プロファイルを削除するには、別途 Apple Configurator 2 を使用するか、端末を初期化する必要があります。

構成プロファイルと管理対象アプリについては、以下を参照してください。

🔗 「構成プロファイル」 504 ページ

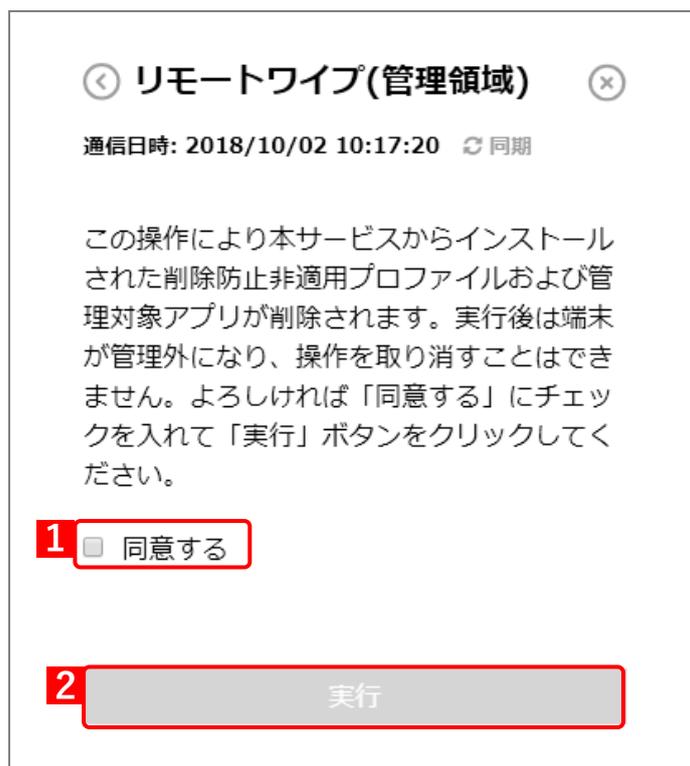
🔗 「アプリケーション配信」 624 ページ

☑ 監視対象端末を初期化せずに監視対象を解除したい場合は、本設定で構成プロファイルおよび管理対象アプリなどを削除すると、監視対象が解除されます。

☑ 端末に表示される「この iPad は～によって監視および管理されています」などのメッセージは、表示されたままになります。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「操作」の [他の操作を見る] → [リモートワイプ (管理領域)]



項番	項目	説明
1	同意する	リモートワイプ (管理領域) を実行するには、チェックを入れます。チェックを入れると、項番 2 の [実行] がクリックできるようになります。
2	[実行]	端末にリモートワイプ (管理領域) を適用します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。

4.1.9.10 (操作-iOS) 紛失モード

Apple が提供している iOS 端末の紛失モードを実行します。

紛失、盗難にあった場合、遠隔ロックをかけることやメッセージを表示できるようになります。また、紛失モードの解除は、管理サイトのみで行えるため、紛失によるデバイスの廃棄リスク、デバイスの不正利用による情報漏えいリスクを低減できます。

☑ 紛失モード中は iOS 端末が低電力モードになります。

☑ iOS 9.3 以上の監視対象端末で有効です。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「操作」の [他の操作を見る] → [紛失モード]

⏪ 紛失モード ⏩

通信日時: 2018/10/02 10:17:20 🔄 同期

※iOS 9.3以上の監視対象端末のみ有効

1 ロックメッセージ

2 電話番号

※ロックスクリーンに表示する電話番号です。

3 脚注

▲ 紛失モード中に端末の再起動を行うと、Wi-Fi通信ができなくなるため、解除するにはモバイルデータ通信が必要になります。よろしければ「実行」ボタンをクリックしてください。

4 実行

項番	項目	説明
1	ロックメッセージ	ロック画面に表示するメッセージを 200 文字以内で入力します。  ロックメッセージを入力しない場合は、電話番号を入力します。
2	電話番号	ロックスクリーンに表示する電話番号を 20 文字以内の半角数字、「-」、「+」、「*」、「#」、「,」で入力します。  電話番号を入力しない場合は、ロックメッセージを入力します。
3	脚注	必要に応じて、脚注を 30 文字以内で入力します。
4	[実行]	端末に紛失モードの設定を適用します。実行するには、確認画面で[OK]をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル]をクリックします。

4.1.9.11 (操作-iOS) 位置情報取得

紛失モード中の iOS 端末から位置情報を取得します。エージェント認証していない端末の場合でも、紛失モードを使用すると、端末の位置情報を取得し、端末の場所を特定できます。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「操作」の [他の操作を見る] → [位置情報取得]



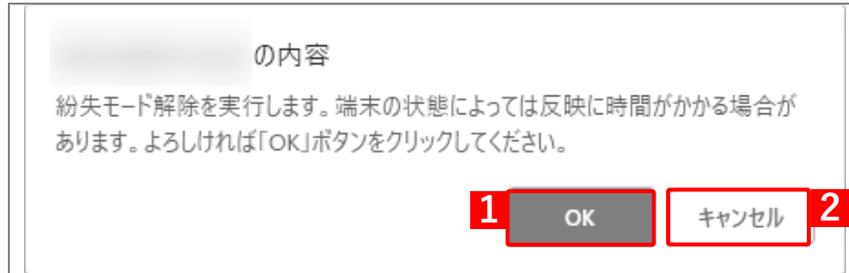
項番	項目	説明
1	[実行]	端末の位置情報を取得します。また、位置情報の取得を端末に通知します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。

4.1.9.12 (操作-iOS) 紛失モード解除

紛失モードの設定を解除します。紛失モード中に位置情報取得を行った場合は、紛失モードを解除したときに、位置情報取得を行ったことを伝えるメッセージが端末の画面に表示されます。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「操作」の [他の操作を見る] → [紛失モード解除]



項番	項目	説明
1	[OK]	クリックすると、対象の端末のリモートロックが解除されます。
2	[キャンセル]	クリックすると、紛失モードの解除の操作をキャンセルします。

4.1.9.13 (操作-iOS) アクティベーションロック解除

アクティベーションロックの設定を解除します。

 本機能は、以下の条件を満たしている場合に操作できます。

- 監視対象端末である。
- 端末のアクティベーションロックの状態が「有効」になっている。
アクティベーションロックの状態は、詳細画面の「情報」の [デバイス] → 「その他の情報」で確認できます。
 「(情報-iOS) デバイス」 192 ページ
- 「管理アプリの通信と動作」の「MDM 構成プロファイル共通管理」でアクティベーションロックの設定が「許可する」になっている。
 「画面 (MDM 構成プロファイル共通管理)」 496 ページ
- 端末の Bypass Code が取得できている。
Bypass Code は、詳細画面の「情報」の [デバイス] → 「その他の情報」で確認できます。
 「(情報-iOS) デバイス」 192 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「操作」の [他の操作を見る] → [アクティベーションロック解除]

 **アクティベーションロック解除** 

通信日時: 2018/10/02 10:17:20  同期

対象機器のアクティベーションロックを解除します。実行後に取り消すことはできません。よろしければ「同意する」にチェックを入れて「実行」ボタンをクリックしてください。

1 同意する

2

項番	項目	説明
1	同意する	アクティベーションロックを解除するには、チェックを入れます。チェックを入れると、項番2の [実行] がクリックできるようになります。
2	[実行]	端末のアクティベーションロックを解除します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。

4.1.9.14 (操作-iOS) OS アップデート

対象の iOS 端末の OS をアップデートします。

iOS 12.3 以上の監視対象端末でアップデートができます。

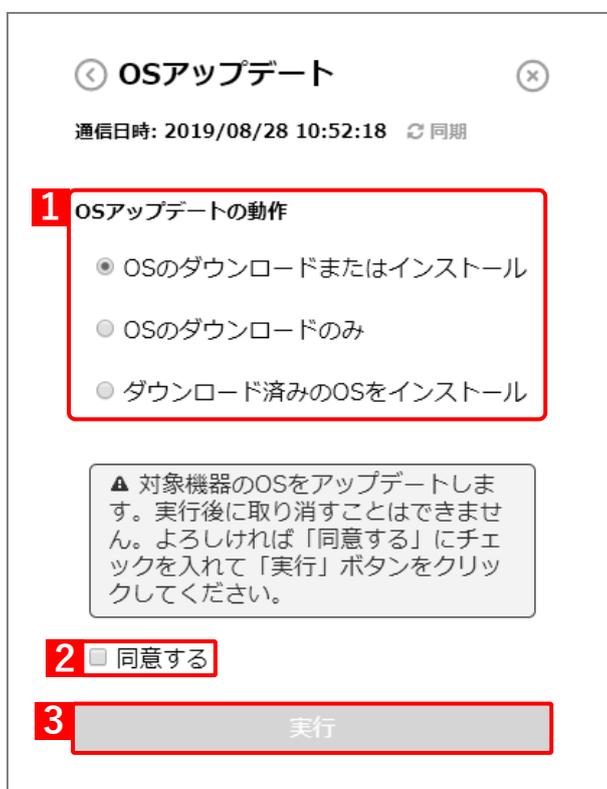
🔴 端末の状態が以下のとき、OS をアップデートできない場合があります。

- ディスク容量が不足している。
- バッテリー残量が少ない。
- Wi-Fi ネットワークが接続できない。
- パスコードが設定されている場合は、端末のロックが解除されていない。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「操作」の [他の操作を見る] → [OS アップデート]

🔴 最新の OS アップデートが存在しない場合は、表示されません。



項番	項目	説明
1	OS アップデートの動作	OS アップデートの動作方法を以下から選択します。 ●OS のダウンロードまたはインストール 🔴 iOS 端末の状態に応じて、ダウンロードまたはインストールが行われます。 ●OS のダウンロードのみ ●ダウンロード済みの OS をインストール
2	同意する	端末に OS をダウンロード、または端末の OS をアップデートするには、チェックを入れます。チェックを入れると、項番 3 の [実行] がクリックできるようになります。

項番	項目	説明
3	[実行]	<p>端末に OS をダウンロード、または端末の OS をアップデートします。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。</p> <p> OS アップデートができなかった場合は、原因がログに表示されますので、機器のログを確認してください。iOS 端末が以下の状態の場合は、アップデートできないことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アップデートをするためパソコンにつなぐ必要がある • ダウンロードまたはインストールに必要な空き容量がない • ダウンロードまたはインストールに必要なバッテリー容量がない • ダウンロード可能なネットワーク接続状態ではない（モバイル通信など） • 通話のためインストールが中断された • 未知のエラーのためインストールに失敗した <p> Shared iPad 端末にログインしている状態では、アップデートできません。ログアウトして再度 OS アップデートを実行してください。</p>

4.1.9.15 (操作 - iOS) リモート再起動

対象の iOS 端末を再起動します。

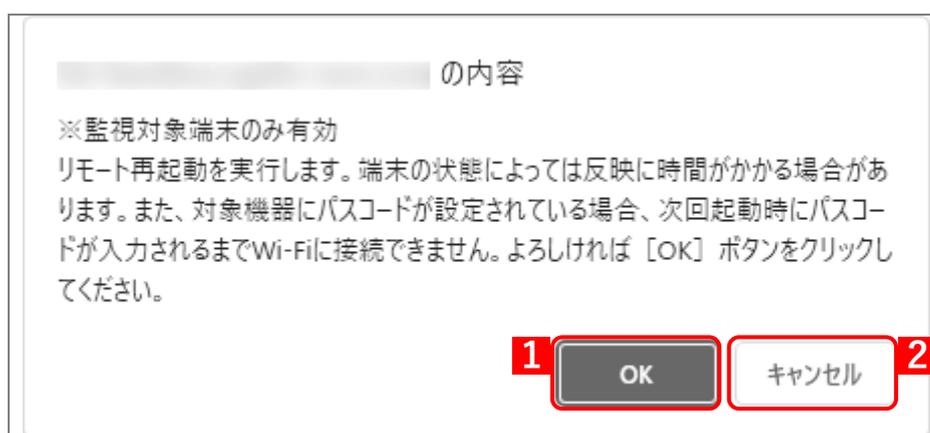
 本機能を実行すると操作を取り消すことはできません。十分に注意してください。

 監視対象端末で有効です。

 端末にパスコードが設定されている場合は、再起動後、パスコードを入力しないと Wi-Fi に接続することができません。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「操作」の [他の操作を見る] → [リモート再起動]



項番	項目	説明
1	[OK]	クリックすると、対象の端末が再起動します。
2	[キャンセル]	クリックすると、再起動の操作をキャンセルします。

4.1.9.16 (操作-iOS) リモートシャットダウン

対象の iOS 端末をシャットダウンします。

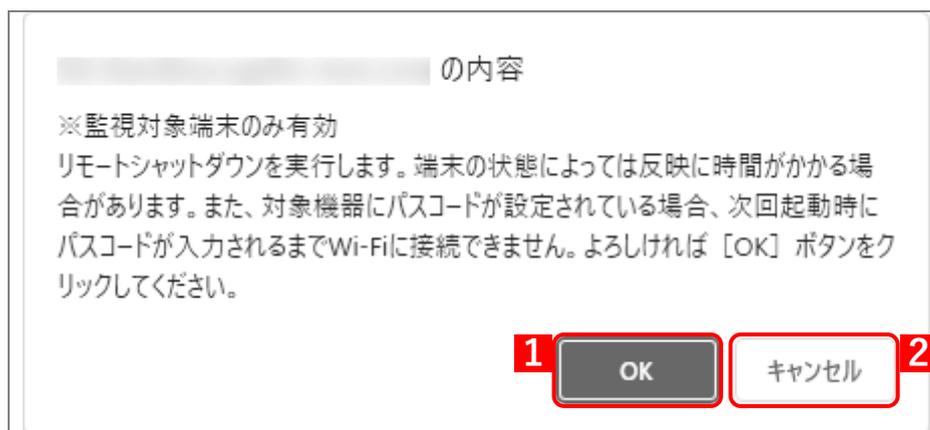
本機能を実行すると操作を取り消すことはできません。十分に注意してください。

監視対象端末で有効です。

端末にパスコードが設定されている場合は、再起動後、パスコードを入力しないと Wi-Fi に接続することができません。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「操作」の [他の操作を見る] → [リモートシャットダウン]



項番	項目	説明
1	[OK]	クリックすると、対象の端末がシャットダウンします。
2	[キャンセル]	クリックすると、シャットダウンの操作をキャンセルします。

4.1.9.17 (操作－Mac OS) リモートロック

対象の Mac OS 端末をリモートロックします。

リモートロックを行うとロック画面が表示され、端末を操作できなくなります。

解除コードを入力すると、Mac OS 端末の本体のログイン画面へ移行します。

- ✔ 端末の設定により、ロックから復帰するときにパスワードの入力を求められることがあります。
- ✔ リモート操作が Mac OS 端末に反映されるまでの時間は、サーバーや端末の通信状態に依存します。
- ✔ リモートロック実施後、解除コードを入力します。解除コードは、「管理アプリの通信と動作」で設定します。詳細については、以下を参照してください。

🔗 「管理アプリの通信と動作」 668 ページ

- ✔ 本画面では単一の端末を対象としています。複数の端末に一括で操作を行う場合は以下を参照してください。

🔗 「[[その他▼] タブ/Mac OS リモート操作」 264 ページ

- ✔ 管理サイトで、ロックを解除することはできません。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Mac OS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「操作」の [リモートロック]



項番	項目	説明
1	[実行]	端末にリモートロックを適用します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。

4.1.9.18 (操作－Mac OS) リモートワイプ

対象の Mac OS 端末にリモートワイプを行います。

本機能を実行すると対象の端末が初期化されます。

- ✔ 本機能を実行すると操作を取り消すことはできません。十分に注意してください。
- ✔ リモートワイプで端末を初期化した場合、端末の OS は初期化したときと同じバージョンになります。ただし、アップデートの方法や仕様により、初期化する直前の OS バージョンにならない場合もあります。
- ✔ リモート操作が Mac OS 端末に反映されるまでの時間は、サーバーや端末の通信状態に依存します。
- ✔ リモートワイプ実施後、解除コードを入力します。解除コードは、「管理アプリの通信と動作」で設定します。詳細については、以下を参照してください。

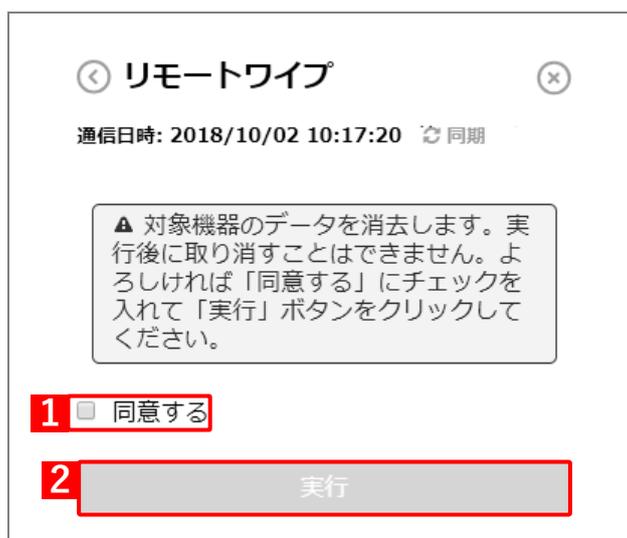
🔗 「管理アプリの通信と動作」 668 ページ

- ✔ 本画面では単一の端末を対象としています。複数の端末に一括で操作を行う場合は以下を参照してください。

🔗 「[[その他▼] タブ/Mac OS リモート操作」 264 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Mac OS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「操作」の [他の操作を見る] → [リモートワイプ]



項番	項目	説明
1	同意する	リモートワイプを実行するには、チェックを入れます。チェックを入れると、項番2の[実行]がクリックできるようになります。
2	[実行]	端末にリモートワイプを適用します。実行するには、確認画面で[OK]をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル]をクリックします。

4.1.9.19 (操作－Windows) リモートロック

対象の Windows 端末をリモートロックします。

リモートロックを行うとロック画面が表示され、端末を操作できなくなります。

端末の状態は、詳細画面の「情報」の [デバイス] で確認できます。

詳細については、以下を参照してください。

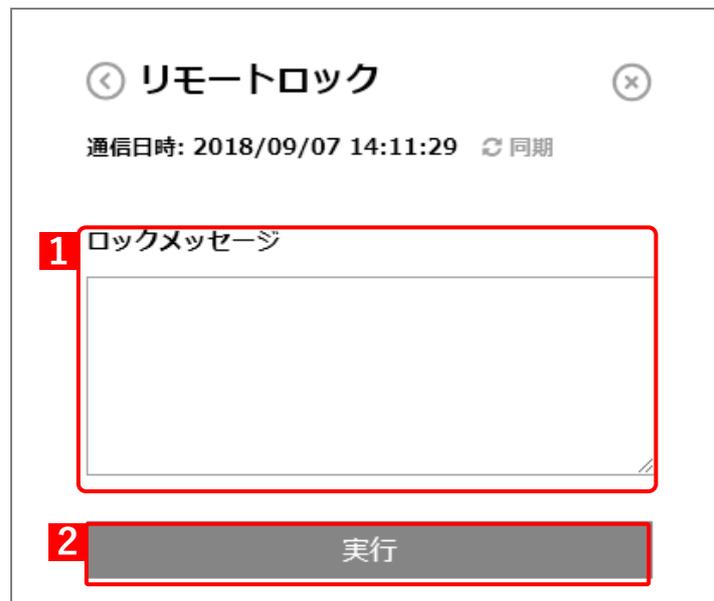
🔗 「(情報－Windows) デバイス」 220 ページ

- ✔️ リモート操作が Windows 端末に反映されるまでの時間は、サーバーや端末の通信状態に依存します。
- ✔️ システムでグループポリシーが設定されている場合は、グループポリシーが優先され、リモートロックを解除できないことがあります。
- ✔️ 本画面では単一の端末を対象としています。複数の端末に一括で操作を行う場合は、以下を参照してください。

🔗 「[[その他▼] タブ/Windows リモート操作」 265 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の ⏪ → 詳細画面の「操作」の [リモートロック]



項番	項目	説明
1	ロックメッセージ	ロック画面に表示するロックメッセージを 200 文字以内で入力してください。
2	[実行]	端末にリモートロックを適用します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。

4.1.9.20 (操作－Windows) ロック解除

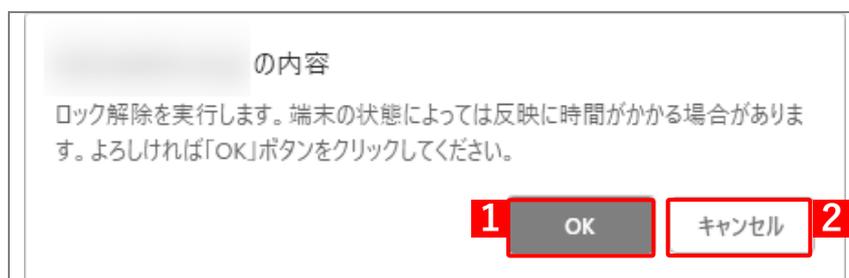
対象の Windows 端末のリモートロックを解除します。

- ✔ リモート操作が Windows 端末に反映されるまでの時間は、サーバーや端末の通信状態に依存します。
- ✔ システムでグループポリシーが設定されている場合は、グループポリシーが優先され、本機能を利用できない場合があります。グループポリシーについては、システム管理者にお問い合わせください。
- ✔ 本画面では単一の端末を対象としています。複数の端末に一括で操作を行う場合は、以下を参照してください。

📖 「[[その他▼] タブ/Windows リモート操作] 265 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の ⏪ → 詳細画面の「操作」の
[他の操作を見る] → [ロック解除]



項番	項目	説明
1	[OK]	端末のロックを解除します。
2	[キャンセル]	端末のロック解除の操作を取り消します。

4.1.9.21 (操作－Windows) リモートワイプ

対象の Windows 端末のリモートワイプを行います。リモートワイプには、「PC 初期化」、「BitLocker」、および「データ削除」の 3 種類の方法があります。

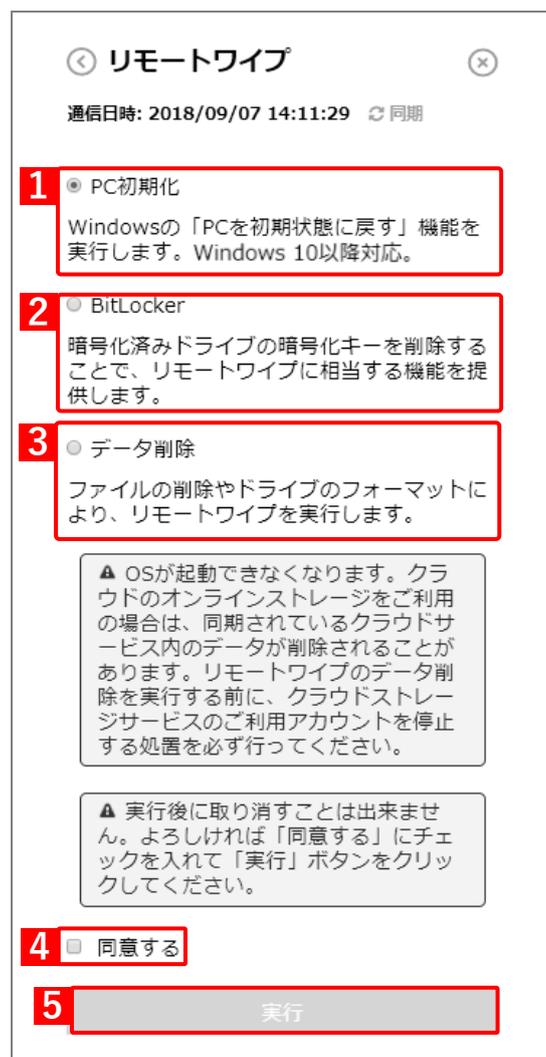
本機能を実行すると、端末の初期化や端末データへの接続を不能にしたり、ドライブをフォーマットすることができます。

- ☑ 本機能を実行すると操作を取り消すことはできません。十分に注意してください。
- ☑ リモートワイプで端末を初期化した場合、端末の OS は初期化したときと同じバージョンになります。ただし、アップデートの方法や仕様により、初期化する直前の OS バージョンにならない場合もあります。
- ☑ システムでグループポリシーが設定されている場合は、グループポリシーが優先され、本機能を利用できない場合があります。グループポリシーについては、システム管理者にお問い合わせください。
- ☑ 本画面では単一の端末を対象としています。複数の端末に一括で操作を行う場合は、以下を参照してください。

🔗 「[その他▼] タブ/Windows リモート操作」 265 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の ⏪ → 詳細画面の「操作」の [他の操作を見る] → [リモートワイプ]



項番	項目	説明
1	PC 初期化	Windows の「PC を初期状態に戻す」機能を実行します。 <input checked="" type="checkbox"/> Windows 10、Windows 11 に対応しています。 <input checked="" type="checkbox"/> 工場出荷時のリカバリー領域が必要です。リカバリー領域がないと、リモートワイブに失敗します。
2	BitLocker	BitLocker で暗号化済みドライブの回復キー以外のキープロテクターを削除します。BitLocker でのワイブを実行したあとは、端末を起動したときに BitLocker の回復キー入力画面が表示されます。回復キーを入力するまでドライブのデータにアクセスできません。 <input checked="" type="checkbox"/> 回復キーのキープロテクターがないドライブは、BitLocker でのワイブができません。 <input checked="" type="checkbox"/> 削除した回復キーを新規で作成するには、以下の URL で「構文」と「パラメーター」を参照してください。回復キーの作成方法については、システム管理者にお問い合わせください。 https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/manage-bde-protectors <input checked="" type="checkbox"/> 本製品の暗号化機能を利用している場合は、暗号化機能の設定セットを無効、有効の順で割り当てて同期すると、回復キーを遠隔で新規作成することができます。 <input checked="" type="checkbox"/> BitLocker 以外の暗号化ツールを使用している場合は、本機能は使用できません。 <input checked="" type="checkbox"/> Windows 10 Pro/Enterprise/Education、Windows 11 Pro/Enterprise/Education、および Windows Server 2012 の端末に対応しています。詳細については、以下を参照してください 「暗号化」 686 ページ <input checked="" type="checkbox"/> BitLocker については、マイクロソフトのサイトを参照してください。 https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows/security/operating-system-security/data-protection/bitlocker/ <input checked="" type="checkbox"/> 回復キーとは、48 桁の文字列です。回復パスワードという場合もあります。詳細については、以下を参照してください。 「(情報 - Windows) セキュリティ」 228 ページ
3	データ削除	ファイルを削除し、ドライブをフォーマットすることにより、リモートワイブを行います。 <input checked="" type="checkbox"/> 本機能を実行すると、OS が起動しなくなることがあります。操作を取り消すことはできません。実行時は、十分に注意してください。
4	同意する	リモートワイブを実行するには、チェックを入れます。チェックを入れると、項番 5 の [実行] がクリックできるようになります。
5	[実行]	端末にリモートワイブを適用します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。

4.1.10 機器の情報

各端末の詳細画面から、端末ごとの各種情報（ログ情報、デバイス情報、エージェント情報、アプリ情報、位置情報）を表示します。

4.1.10.1 (情報 - Android) ログ

対象の Android 端末のログをログ画面に表示します。

ログ画面の詳細については、以下を参照してください。

[🔗 「ログ画面の見かた」 785 ページ](#)

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [ログ]



項番	項目	説明
1	ログ画面	ログ画面に、対象の端末のログだけが表示されます。ログ画面の詳細については、以下を参照してください。 🔗 「ログ画面の見かた」 785 ページ

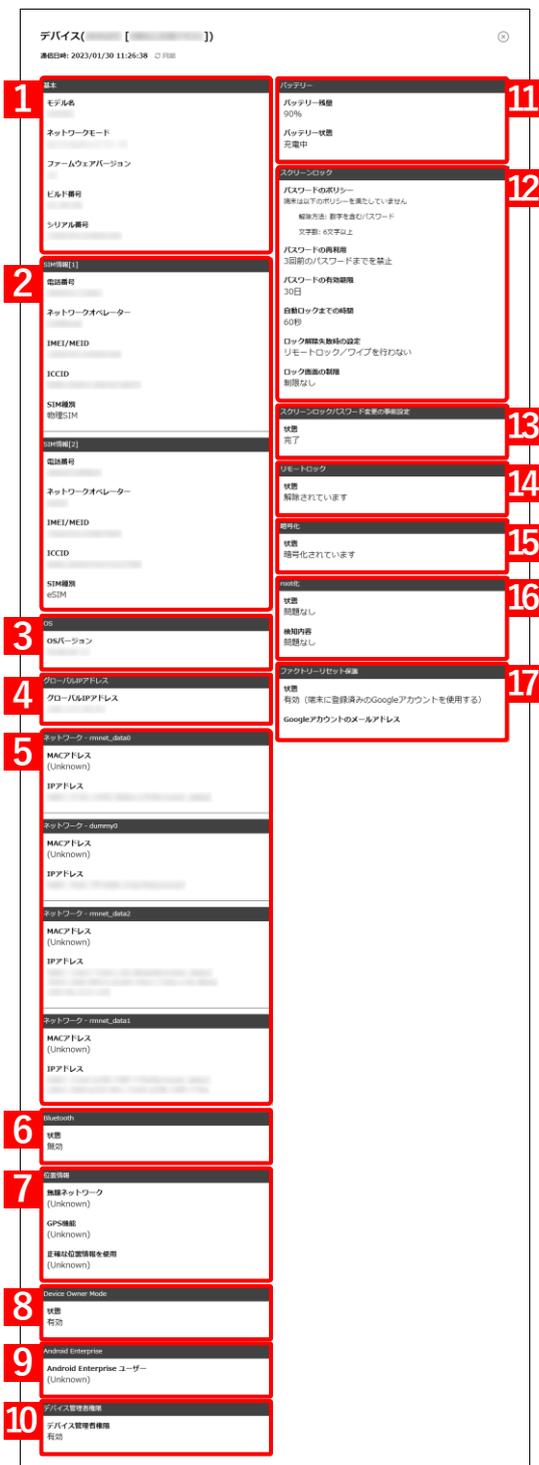
4.1.10.2 (情報 - Android) デバイス

対象の Android 端末の現在の状態を表示します。

情報を取得できない場合は、「(Unknown)」と表示されます。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の ⓘ → 詳細画面の「情報」の [他の情報を見る] → [デバイス]



項番	項目	説明
1	基本	以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ●モデル名 ●ネットワークモード 接続しているネットワーク方式が表示されます。 ●ファームウェアバージョン ●ビルド番号 ●シリアル番号
2	SIM 情報	端末に搭載されている SIM の情報が表示されます。 複数の SIM が搭載されている端末では、パネル名の末尾に番号が付いた SIM 情報パネルが、SIM ごとに表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ●電話番号 SIM に割り振られている電話番号が表示されます。 ●ネットワークオペレーター ネットワークオペレーター（ネットワーク事業者）が表示されます。 ●IMEI/MEID ●ICCID ●SIM 種別 以下のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・「(Unknown)」 ・「物理 SIM」 ・「eSIM」
3	OS	以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ●OS バージョン
4	グローバル IP アドレス	以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ●グローバル IP アドレス 「NNN.NNN.NNN.NNN」形式の IP アドレスが表示されます。
5	ネットワーク	検知されたネットワークごとにパネルが表示され、ネットワークの情報が表示されます。 パネルタイトルにネットワーク表示名が「ネットワーク - 表示名」の形式で表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ●SSID ネットワーク - wlan0 の場合のみ、SSID が表示されます。 ●MAC アドレス 「XX:XX:XX:XX:XX:XX」形式の MAC アドレスが表示されます。 ●IP アドレス IP アドレスが以下のいずれかの形式で表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・形式 (IPv4) : 「NNN.NNN.NNN.NNN/NNN」 ・形式 (IPv6) : 「XX:XX:...:XX」 ・IP アドレスが 0 個の場合は空欄。 <p><input checked="" type="checkbox"/> Android 8.1 以上の端末の位置情報設定が OFF の場合やエージェントの位置情報権限が無効になっている場合は、SSID が <unknown ssid> と表示されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Android 10 以上の端末は、デフォルト設定で Wi-Fi の MAC アドレスがランダム値で表示されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Android 11 以上の端末は、Wi-Fi 以外の MAC アドレスが「(Unknown)」と表示されます。また、位置情報設定が OFF の場合やエージェントの位置情報権限が無効に設定されている場合は、Wi-Fi の MAC アドレスが「(Unknown)」と表示されます。</p>
6	Bluetooth	以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ●状態 Bluetooth の状態が「有効」または「無効」で表示されます。

項番	項目	説明
7	位置情報	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●無線ネットワーク ワイヤレスネットワークから位置情報の測位ができるかどうかの状態を「有効」または「無効」で表示します。 ☑ワイヤレスネットワークとは、基地局測位（モバイルネットワーク）と、Wi-Fi ネットワークのことです。 ●GPS 機能 GPS から位置情報の測位ができるかどうかの状態を「有効」または「無効」で表示します。 ●正確な位置情報を使用 エージェントのアプリ権限「正確な位置情報を使用」の ON/OFF 状態を「有効」または「無効」で表示します。 ☑以下の場合は、「(Unknown)」と表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Android 12 未満 ・ Android 12 以上かつ端末の位置情報設定が OFF
8	Device Owner Mode	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●状態 Device Owner Mode の状態が「有効」または「無効」で表示されます。 Device Owner Mode がサポートされていない場合は「非対応」と表示されます。
9	Android Enterprise	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Android Enterprise ユーザー Android Enterprise のユーザー情報が表示されます。 ☑ユーザーが Android Enterprise と連携されていても、ユーザー情報の表示が「(Unknown)」から「連携済」に変わるまでしばらく時間がかかることがあります。
10	デバイス管理者権限	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●デバイス管理者権限 Android エージェントへのデバイス管理者権限付与状態が、「有効」または「無効」で表示されます。 ☑無効の場合は、以下の機能が動作しません。 <ul style="list-style-type: none"> ・エージェントアンインストール抑止 ・リモートロック（Android 6.0 以上の場合） <ul style="list-style-type: none"> ☑Android 標準ロック画面のみ動作しません。本製品独自のリモートロック画面は無効化されても動作します。 ・リモートワイプ ・スクリーンロックのパスワードポリシー強制 ・管理サイトからのスクリーンロックのパスワード変更/リセット ・カメラ禁止（Android 4.0 以上の場合） ☑デバイス管理者権限が無効化された後、端末上でエージェントを起動すると管理外通知画面が表示されます。画面に従い、デバイス管理者権限を有効化してください。
11	バッテリー	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●バッテリー残量 バッテリーの残量が%で表示されます。 ●バッテリー状態 以下のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・「不明」、「充電中」、「放電中」、「充電していません」、「満タン」

項番	項目	説明
12	スクリーンロック	<p>「スクリーンロック」項目については、画面ロック（スクリーンロック）の設定セットの設定内容（スクリーンロックポリシー）と設定内容（スクリーンロックポリシー）に違反していないかどうかが表示されます。</p> <p> 対象の機器に画面ロック（スクリーンロック）の設定セットが適用されていない場合は、いずれの項目も「制限なし」と表示されます。</p> <p> 画面ロック（スクリーンロック）の設定セットの設定内容（スクリーンロックポリシー）については以下を参照してください。</p> <p style="text-align: center;"> 「画面ロック」372 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パスワードのポリシー <ul style="list-style-type: none"> 以下のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・不特定の場合 「制限なし」 ・ポリシーを満たしている場合 「端末は以下のポリシーを満たしています 解除方法：（ポリシーで設定した解除方法） 文字数：（ポリシーで設定した文字数）」 ・ポリシーを満たしていない場合 「端末は以下のポリシーを満たしていません 解除方法：（ポリシーで設定した解除方法） 文字数：（ポリシーで設定した文字数）」 ● パスワードの再利用 <ul style="list-style-type: none"> ○回前までのパスワード、または「制限なし」が表示されます。 ● パスワードの有効期限 <ul style="list-style-type: none"> 「○日」または「制限なし」が表示されます。 ● 自動ロックまでの時間 <ul style="list-style-type: none"> 「○分」または「自動ロックしない」が表示されます。 ● ロック解除失敗時の設定 <ul style="list-style-type: none"> 以下のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・「○回失敗でリモートロック」 ・「○回失敗でワイプ」 ・「リモートロック／ワイプを行わない」  「○回失敗でリモートロック」が設定されており、ロックメッセージが設定されている場合は、ロックメッセージも合わせて表示されます。 ● ロック画面の制限 <ul style="list-style-type: none"> 以下のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・「制限しない」 ・「全て制限する」 ・「制限機能を指定する」 ・「(Unknown) 」  最新バージョンにアップされたエージェントの端末では「制限しない」が表示されます。  端末で権限が許可されていないと正しい表示になりません。権限許可の詳細については以下のマニュアルを参照してください。 <p style="text-align: center;"> 『Android クライアント リファレンスマニュアル』の「管理サイトからの指示による動作」－「管理外通知画面が表示された場合」</p>

項番	項目	説明
13	スクリーンロックパスワード変更の事前設定	<p>●状態 スクリーンロックパスワード変更用のトークンを端末に配信している場合は、端末の対応状況について、以下のいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理サイトからスクリーンロックパスワードを変更できる状態「完了」 ・管理サイトからスクリーンロックパスワードを変更できない状態「未完了」 ・不明の状態「(Unknown)」
14	リモートロック	<p>以下の情報が表示されます。</p> <p>●状態 「ロックされています」または「解除されています」が表示されます。</p>
15	暗号化	<p>以下の情報が表示されます。</p> <p>●状態 暗号化状態について、以下のいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「端末が非対応です」、「暗号化されていません」、「暗号化中です」、「暗号化されています」 <p> Android 6.0 以上の端末では、デフォルトで暗号化が有効になっています。無効にしたい場合は、以下を参照してください。</p> <p> 「暗号化」 377 ページ</p>
16	root 化	<p>以下の情報が表示されます。</p> <p>●状態 「root 化状態」または「問題なし」が表示されます。</p> <p>●検知内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状態が「root 化状態」の場合 以下のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・「su コマンドが存在します」 ・「setuid されたコマンドが存在します」 ・「root 化アプリケーション(アプリケーション名)がインストールされています」 ・状態が「問題なし」の場合 「問題なし」と表示されます。
17	ファクトリーリセット保護	<p>以下の情報が表示されます。</p> <p>●状態 以下のいずれかが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「無効」 ・「有効 (端末に登録済みの Google アカウントを使用する)」 ・「有効 (Google アカウントを指定する)」 ・「(Unknown)」 <p>●Google アカウントのメールアドレス 状態が「有効 (端末に登録済みの Google アカウントを使用する)」、「有効 (Google アカウントを指定する)」の場合に表示されます。</p> <p> ファクトリーリセット保護の設定セットの設定内容については以下を参照してください。</p> <p> 「ファクトリーリセット保護 (DOM)」 481 ページ</p>

4.1.10.3 (情報 - Android) エージェント

対象の Android 端末のエージェント情報を表示します。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [エージェント]



項番	項目	説明
1	エージェントバージョン	対象の Android 端末のエージェントバージョンが表示されます。
2	通信日時	対象の Android 端末と管理サーバーが最後に通信した日時が表示されます。
3	認証日時	対象の Android 端末が認証された時刻が表示されます。
4	位置情報取得	位置情報取得の許可／不許可の設定状況が表示されます。
5	付近のデバイス	付近のデバイスの許可／不許可の設定状況が表示されます。  Android 12 未満、エージェントバージョン 9.14.0 未満の場合は、「(Unknown)」と表示されます。
6	アプリの通知権限	アプリの通知権限の許可／不許可の設定状況が表示されます。 Android 13 未満、エージェントバージョン 9.16.0 未満の場合は、「(Unknown)」と表示されます。
7	Android エージェント種別	対象の Android 端末のエージェント種別として以下のいずれかが表示されます。 ●ストア版 ●(Unknown)  古いバージョンのエージェントの場合、「(Unknown)」と表示されます。

4.1.10.4 (情報 - Android) アプリケーション

対象の Android 端末にインストールされているアプリの一覧を表示します。また、詳細画面を表示して、アプリの詳細情報を確認することもできます。

 画面

 画面 (アプリの詳細)

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [アプリケーション]

アプリケーション ([機器名] [Android 端末の機器名])

通信日時: 2018/04/13 09:13:00  同期



1 絞り込み

2 絞り込み条件: パッケージ名: を含む 

3 アプリケーション名	パッケージ名	バージョン名	アプリケーションサイズ	インストール日時	4 メモ	5 詳細
android.permission.WRITE_EXTERNAL_STORAGE	com.google.android.gms	6.8.0.100	77.7 MB	1970/05/19 19:05		
android.permission.WRITE_EXTERNAL_STORAGE	com.google.android.gms	51.0.2704.81	0 Byte	2016/09/20 13:39		
android.permission.WRITE_EXTERNAL_STORAGE	com.google.android.gms	1.0.A.0.4	32.0 KB	2016/09/20 13:39		
android.permission.WRITE_EXTERNAL_STORAGE	com.google.android.gms	314.0	8.0 KB	2016/09/20 13:39		
android.permission.WRITE_EXTERNAL_STORAGE	com.google.android.gms	6.0.1	64.2 MB	2016/09/20 13:39		
android.permission.WRITE_EXTERNAL_STORAGE	com.google.android.gms	6.0.1	0 Byte	2016/09/20 13:39		
android.permission.WRITE_EXTERNAL_STORAGE	com.google.android.gms	1.0	0 Byte	2016/09/20 13:39		
android.permission.WRITE_EXTERNAL_STORAGE	com.google.android.gms	1.0.1.8	4.7 MB	2016/09/20 13:39		
android.permission.WRITE_EXTERNAL_STORAGE	com.google.android.gms	1.0	20.0 KB	2016/09/20 13:39		
com.google.android.gms	com.google.android.gms	4.3.15	0 Byte	2016/09/20 13:39		
android.permission.WRITE_EXTERNAL_STORAGE	com.google.android.gms	1.0	0 Byte	2016/09/20 13:39		
com.google.android.gms	com.google.android.gms	1.2	0 Byte	2016/09/20 13:39		
android.permission.WRITE_EXTERNAL_STORAGE	com.google.android.gms	6.0.1	0 Byte	2016/09/20 13:39		
com.google.android.gms	com.google.android.gms	6.0.1	20.0 KB	2016/09/20 13:39		
android.permission.WRITE_EXTERNAL_STORAGE	com.google.android.gms	2.0	0 Byte	2016/09/20 13:39		
com.google.android.gms	com.google.android.gms	1.0.A.1.2	0 Byte	2016/09/20 13:39		
android.permission.WRITE_EXTERNAL_STORAGE	com.google.android.gms	6.0.1	0 Byte	2016/09/20 13:39		
com.google.android.gms	com.google.android.gms	1.0	0 Byte	2016/09/20 13:39		
android.permission.WRITE_EXTERNAL_STORAGE	com.google.android.gms	51.0.2704.81	0 Byte	2016/09/20 13:39		
com.google.android.gms	com.google.android.gms	6.0.1	0 Byte	2016/09/20 13:39		



1 / 20
 


項番	項目	説明
1	[絞り込み]	項番【5】に表示する情報を以下の項目を条件にして絞り込めます。 ●「アプリケーション名」、「パッケージ名」
2	絞り込み条件	[絞り込み] をクリックして検索した場合、その条件が表示されます。  をクリックすると、再度、すべてのアプリが一覧に表示されます。
3	アプリ一覧	対象の機器にインストールされているアプリの一覧に以下の情報が表示されます。 ・「アプリケーション名」、「パッケージ名」、「バージョン名」、「アプリケーションサイズ」、「インストール日時」
4	メモ	 をクリックして  にすると、アプリケーション禁止で「メモから追加」で追加する対象のアプリに設定されます。クリックするたびに  と  が切り替わります。 [メモから追加] の機能については、以下を参照してください。  「アプリケーション禁止」 395 ページ
5	詳細	 をクリックすると、アプリ一覧の右側に対象のアプリの詳細情報が表示されます。  「画面 (アプリの詳細)」 181 ページ

◆画面（アプリの詳細）

アプリの詳細を確認できます。表示される各項目の詳細については、メーカーまたは開発・提供元へご確認ください。

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [アプリケーション] → 一覧から対象のアプリの 



項番	項目	説明
1	アプリケーション名	アプリ名が表示されます。
2	パッケージ名	アプリのパッケージ名が表示されます。
3	バージョン番号	アプリのバージョン番号が表示されます。
4	バージョン名	アプリのバージョン名が表示されます。
5	アプリケーションサイズ	アプリのファイルサイズが表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 「0 Byte」と表示されることがありますが、アプリの使用には問題ありません。 <input checked="" type="checkbox"/> 端末により同じアプリでも値が異なることがあります。
6	メモリサイズ	アプリのメモリサイズが表示されます。
7	データサイズ	アプリのデータサイズが表示されます。
8	キャッシュサイズ	アプリのキャッシュサイズが表示されます。
9	インストール日時	アプリがインストールされた日時が表示されます。
10	アップデート日時	アプリがアップデートされた日時が表示されます。

4.1.10.5 (情報 - Android) アプリ構成

対象の Android 端末に Android Enterprise で配信したアプリのアプリ構成一覧を表示します。また、詳細画面を表示して、アプリ構成の詳細情報を確認することもできます。

画面

画面 (アプリ構成の詳細)

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の → 詳細画面の「情報」の [アプリ構成]

アプリ構成([]) ✕

通信日時: 2022/05/04 18:17:34 同期

アプリ構成の情報取得に成功しました。

1 ステータス更新

2 絞り込み

3 絞り込み条件: アプリケーション名: を含む

1 / 1 ページ (5 件)

アプリケーション名	構成項目名	状態	処理結果	日時	詳細
		成功	Successfully set the screen orientation	2022/05/04 17:40:50	
		成功	Successfully set the number row	2022/05/04 17:40:50	
		失敗	Failed to parse status bar color, default will be used	2022/05/04 17:40:50	
		成功	Valid background url	2022/05/04 17:40:50	
		失敗	Failed to parse serial number color, default will be used	2022/05/04 17:40:50	

項番	項目	説明
1	[スタートス更新]	アプリ構成の一覧を更新します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。 端末の状態によっては反映に時間がかかる場合があります。
2	[絞り込み]	項番【3】に表示する情報を絞り込めます。 絞り込める条件は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・「アプリケーション名」 ・「構成項目名」 ・「状態」
3	絞り込み条件	[絞り込み] をクリックして検索した場合、その条件が表示されます。 をクリックすると、再度すべてのアプリが一覧に表示されます。
4	アプリ構成一覧	対象の機器にインストールされているアプリの一覧に以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・「アプリケーション名」、「構成項目名」、「状態」、「処理結果」、「日時」

項番	項目	説明
5	詳細	 をクリックすると、アプリ構成一覧の右側に対象のアプリ構成の詳細情報を表示する画面が表示されます。  「画面（アプリ構成の詳細）」183 ページ

◆画面（アプリ構成の詳細）

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [アプリ構成] → 一覧から対象のアプリ構成の 

アプリ構成 (x)

- 1** アプリケーション名
[Redacted]
- 2** アプリ設定名
[Redacted]
- 3** 構成項目名
[Redacted]
- 4** 状態
成功
- 5** 処理結果
Successfully set the screen orientation
- 6** 構成値
[Redacted]
- 7** 日時
2022/05/04 17:40:50

項番	項目	説明
1	アプリケーション名	アプリ名が表示されます。
2	アプリ設定名	アプリ構成を設定する設定名が表示されます。  [(設定名)] をクリックすると、アプリ構成を設定する画面が表示されます。
3	構成項目名	アプリ構成のユニーク ID または構成項目名が表示されます。
4	状態	状態が「成功」または「失敗」で表示されます。
5	処理結果	対象の Android 端末にアプリ構成を適用した結果が表示されます。
6	構成値	アプリ構成を設定する構成値が表示されます。
7	日時	対象の Android 端末にアプリ構成を適用した日時が表示されます。

4.1.10.6 (情報 - Android) 位置

Android 端末から送られた位置情報を表示します。

位置情報取得の条件については、以下を参照してください。

 「Android 端末の位置情報の諸条件」 186 ページ

-  位置情報送信を一度も行っていない端末は、[位置] メニューが表示されません。
-  本製品から端末の GPS を ON にすることはできません。
-  取得した位置情報の精度が低いと情報が破棄されるため、管理サイトに反映されません。
-  Android 8.x の場合は、位置情報の取得が 1 時間に 1 回程度へ制限されます。
-  Android 端末に「位置情報管理」の設定セットを適用してください。

 「位置情報管理」 378 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [位置]

-  Google マップは、Internet Explorer 11 のサポートを終了します。2022 年 1 月 21 日以降、地図を表示したとき警告メッセージが表示されます。



位置([redacted])

通信日時: 2019/09/18 22:14:22 同期

1 受信日時: 2019/09/18 21:16:45 測位日時: 2019/09/18 21:14:54 北緯35.65412° 東経139.75366°

測位プロバイダ: Network

2 1/7

3 [Map area]

4 Googleマップで表示

項番	項目	説明
1	測位情報	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●受信日時 管理サイトが端末の位置情報を取得した日時が表示されます。 ●測位日時 端末が保持している位置情報を測位した日時が表示されます。 ●北緯 測位した位置の北緯が表示されます。 ●東経 測位した位置の東経が表示されます。 ●測位プロバイダ 以下のいずれかで表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/>ストア版エージェントのみ表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・GPS ・Network ・(Unknown) <input checked="" type="checkbox"/>エージェントバージョン 9.8.102.0 未満の場合は、「(Unknown)」と表示されます。
2	位置情報履歴	<p>対象の端末が取得した位置情報の履歴を確認できます。 位置情報の履歴は最大 100 件まで表示されます。 例えば、「1/38」と表示されている場合は、履歴が 38 件あるうちの、最新の履歴が表示されていることを示しています。◀ ▶ をクリックして、履歴の表示を切り替えることができます。</p>
3	地図	<p>位置情報が地図で表示されます。 📍 が表示されている位置が、地図上の端末の位置です。</p>
4	[Google マップで表示]	<p>クリックすると、新しいウィンドウで Google マップとして表示されます。</p>

◆Android 端末の位置情報の諸条件

Android 端末から位置情報を受信するための動作条件、位置情報測位契機、位置情報送信契機は以下のとおりです。内容を確認し、位置情報の受信を行ってください。

 測位結果の情報は確実性を保証できる情報ではありません。

 測位条件は端末の仕様に準じます。

 位置情報が取得できない場合は、以下を参照してください。

 https://www.optim.co.jp/promotion/smsm/pdf/location_notice.pdf

項番	項目	条件
1	動作条件	<p>以下の動作条件が満たされている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 端末が管理サイトと通信できる状態である。 ● エージェントの設定で位置情報の取得を許可している。 <ul style="list-style-type: none">  各機器の状況は、デバイス画面の「位置情報取得」から確認できます。  「(情報 - Android) デバイス」173 ページ  許可されていない場合は、位置情報画面の最上部にエラーが表示されます。  Android 12 以上は、正確な位置情報を取得するために、端末の設定で「正確な位置情報を使用」を有効にしてください。 ● 端末で以下のいずれかによる測位を可能にしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・GPS による位置測位 以下の両方に該当する場合のみできます。 <ul style="list-style-type: none"> ・GPS が有効 ・3G、4G/LTE、5G、Wi-Fi いずれかのネットワークでの通信が有効 ・ネットワークによる位置測位 以下の両方に該当する場合のみできます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク位置情報（端末で [位置情報サービス] または [位置情報アクセス] などの表記がある設定）が有効 ・3G、4G/LTE、5G、Wi-Fi いずれかのネットワークでの通信が有効
2	位置情報測位契機	<p>以下のいずれかの契機で測位します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 位置情報管理の「エージェントによる測位」で設定した契機  「位置情報管理」378 ページ ● 他アプリ利用による測位 他アプリが位置情報を測位していた場合、利用条件に合致しなくても位置情報が管理サイトに表示されます。
3	位置情報送信契機	<p>管理サイトと同期時に位置情報を送信します。</p> <p> 同期処理自体にかかる時間は、負荷状態や通信状態に依存します。</p>

4.1.10.7 (情報 – Android) Zone Management

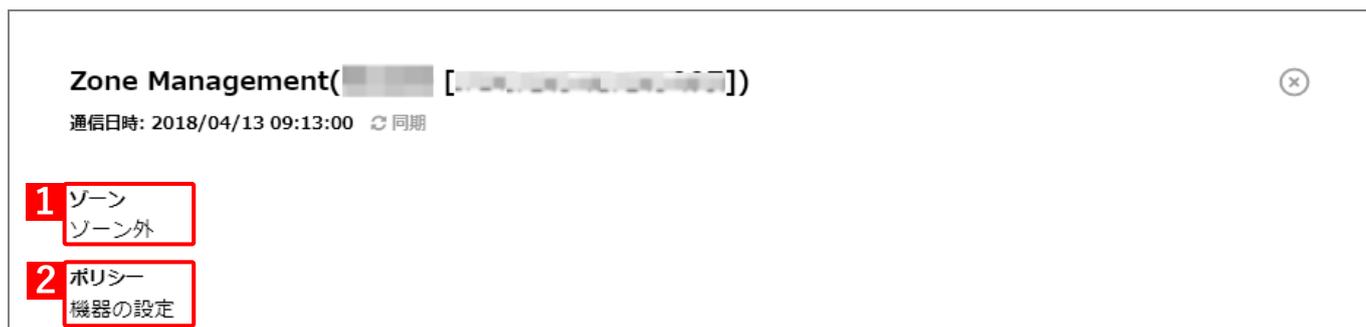
対象の Android 端末に反映されている「ゾーンポリシー構成」の設定セットの登録内容を表示します。登録されている「ゾーン」と「ポリシー」の名称から、「ゾーンポリシー構成」の内容を把握することができます。

詳細については、以下を参照してください。

[🔗 「Zone Management」 461 ページ](#)

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [他の情報を見る] → [Zone Management]



項番	項目	説明
1	ゾーン	対象の Android 端末に適用されているゾーン名が表示されます。 表示されているゾーン名をクリックすると、該当のゾーンの設定内容を確認できます。 🔗 「ゾーン」 461 ページ  ゾーンが適用されていない場合は、「ゾーン外」と表示されます。
2	ポリシー	対象の Android 端末に適用されているポリシー名が表示されます。 表示されているポリシー名をクリックすると、該当のポリシーの設定内容を確認できます。 🔗 「ポリシー」 465 ページ  ポリシーが適用されていない場合は、「機器の設定」と表示されます。

4.1.10.8 (情報 - Android) ウイルス対策ソフト

オプション

対象の Android 端末にインストールされているウイルス対策ソフト「Safety Manager AntiVirus」の各種情報を確認します。

「Safety Manager AntiVirus」の詳細については、以下を参照してください。

 「ウイルス対策機能」 384 ページ

 「Safety Manager AntiVirus」はオプション機能です。オプション契約をしている場合は、オプションパッケージの割り当てを行うと使用することができます。

 「(設定 - Android) パッケージ」 115 ページ

 対象の Android 端末にセキュリティソフト（トレンドマイクロ社も含む）がインストールされている場合は、事前にアンインストールしてください。

 Android 端末での「Safety Manager AntiVirus」のインストールや使用方法などは、以下を参照してください。

 『Android クライアント リファレンスマニュアル』の「関連アプリの使用方法」 - 「ウイルス対策機能」

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [他の情報を見る] → [ウイルス対策ソフト]

ウイルス対策ソフト([]) ✕

通信日時: 2018/04/13 09:13:01 🔄 同期

1 保護状態


保護されています

2 基本

ウイルス対策ソフト名
ウイルス対策 (TRENDMICRO)

ウイルス対策機能
有効

アプリケーションバージョン
2.1

パターンファイルバージョン
2.567.00

パターンファイル最終更新チェック日時
2018/03/30 14:00:01

パターンファイル最終更新日時
2018/03/30 14:00:01

スキャン最終実行日時
2018/03/30 14:27:40

状態取得日時
2018/03/30 14:30:31

3 ログ

ウイルス対策ソフトのログを確認

項番	項目	説明
1	保護状態	<p>ウイルス対策ソフトのインストール状態が表示されます。</p> <p> 保護状態の表示が管理サイトと端末で異なる場合は、以下のような場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none">• 端末でのみ「保護されていません」と表示される場合は、以下のいずれかに該当します。<ul style="list-style-type: none">• リアルタイムスキャンを「無効」とした設定セットを適用している場合• パターンファイルアップデートを「なし」とした設定セットを適用している場合• 手動検索を一度も実行（要完了）していない場合• 管理サイトでのみ「保護されていません」と表示される場合は、以下のいずれかに該当します。<ul style="list-style-type: none">• 「パターンファイル最終更新チェック日時」が「状態取得日時」の 15 日以上前である場合• 「スキャン最終実行日時」が「状態取得日時」の 15 日以上前である場合
2	基本	<p>ウイルス対策ソフトの詳細が表示されます。ウイルス対策ソフトをインストールしていない場合は表示されません。</p>
3	ログ	<p>[ウイルス対策ソフトのログ] をクリックすると、ログ画面に、対象のウイルス対策ソフトのログだけが表示されます。ログ画面の詳細については、以下を参照してください。</p> <p> 「ログ画面の見かた」785 ページ</p>

4.1.10.9 (情報 - Android) メッセージ

対象の Android 端末に配信されるメッセージの予定と、配信済みのメッセージを表示します。

配信するメッセージの詳細については、以下を参照してください。

 「メッセージ通知」274 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Android 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [他の情報を見る] → [メッセージ]

メッセージ (XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX) ✕

送信日時: 2018/04/19 11:15:03  同期

1 配信されるメッセージ

タイトル	スケジュール	次回配信予定
メッセージテスト01	なし	
メッセージテスト02	毎月2日	2018/05/02 14:00:00

2 メッセージボックス

ステータス	メッセージ
	2018/04/19 11:15:14 メッセージテスト01 テスト
	2018/04/19 11:13:26 メッセージテスト02 メッセージテストです。

項番	項目	説明
1	配信されるメッセージ	メッセージについて以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ● タイトル メッセージのタイトルが表示されます。 タイトルをクリックすると、メッセージ通知の該当のメッセージの設定確認や変更ができるようになります。 ● スケジュール スケジュールの設定内容が表示されます。 ● 次回配信予定 次回の配信日時を表示します。
2	メッセージボックス	対象の Android 端末に配信したメッセージ通知の一覧が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ● ステータス 機器側でメッセージ通知が開封済みの場合は  が、未開封の場合は  が表示されます。 ● メッセージ 配信したメッセージ通知の配信日時、タイトル、本文が表示されます。

4.1.10.10 (情報-iOS) ログ

対象の iOS 端末のログをログ画面に表示します。

ログ画面の詳細については、以下を参照してください。

[🔗 「ログ画面の見かた」 785 ページ](#)

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [ログ]

機器: [REDACTED] [REDACTED]

1 オプション: 通知対象のみ

期間: [発生日時] から [REDACTED] から [REDACTED] まで

検索:

種別	通知	発生日時	受信日時	概要	詳細
		2018/04/17 22:40:50	2018/04/17 22:40:50	機器「[REDACTED]」のMDM構成プロファイルが削除され管理から外れました。	
		2018/04/17 22:21:13	2018/04/17 22:21:13	機器「[REDACTED]」に参加依頼を送付しました。	
		2018/04/17 22:21:03	2018/04/17 22:21:03	機器「[REDACTED]」に参加依頼を送付します。	
		2018/04/17 22:21:03	2018/04/17 22:21:03	機器「[REDACTED]」に組織情報の設定を行いました。	
		2018/04/17 22:21:03	2018/04/17 22:21:03	機器「[REDACTED]」に組織情報の設定を行います。	
		2018/04/17 22:15:20	2018/04/17 22:15:20	機器「[REDACTED]」に構成プロファイル「VPN」をインストールしました。	
		2018/04/17 22:15:20	2018/04/17 22:15:20	機器「[REDACTED]」に構成プロファイル「VPN」をインストールします。	
		2018/04/17 22:15:20	2018/04/17 22:15:20	機器「[REDACTED]」に構成プロファイル「Exchange ActiveSync」をインストールしました。	
		2018/04/17 22:15:18	2018/04/17 22:15:18	機器「[REDACTED]」に構成プロファイル「Exchange ActiveSync」をインストールします。	
		2018/04/17 22:15:18	2018/04/17 22:15:18	機器「[REDACTED]」に構成プロファイル「クライアント証明書」をインストールしました。	
		2018/04/17 22:15:17	2018/04/17 22:15:17	機器「[REDACTED]」に構成プロファイル「クライアント証明書」をインストールします。	
		2018/04/17 22:15:12	2018/04/17 22:15:12	機器「[REDACTED]」を認証しました。	
		2018/04/17 10:46:33	2018/04/17 10:46:33	機器「[REDACTED]」のMDM構成プロファイルが削除され管理から外れました。	
		2018/04/17 10:44:51	2018/04/17 10:44:51	機器「[REDACTED]」のエージェントを認証しました。	
		2018/04/17	2018/04/17		

1 / 2

項番	項目	説明
1	ログ画面	ログ画面に、対象の端末のログだけが表示されます。ログ画面の詳細については、以下を参照してください。 🔗 「ログ画面の見かた」 785 ページ

4.1.10.11 (情報-iOS) デバイス

対象の iOS 端末の現在の状態を表示します。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「情報」の [他の情報を見る] → [デバイス]

The screenshot shows the 'デバイス' (Device) information page for an iOS device. The page is divided into several sections, each highlighted with a red box and a number from 1 to 14:

- 1** 基本 (Basic): Includes fields for Device Name, OS Version, Build Version, Model Name, Model Number, Modem Firmware Version, Serial Number, ExchangeActiveSync Device ID, MDM Profile Pick, and UDID.
- 2** SIM情報 [1] (SIM Information [1]): Includes fields for Phone Number, Current Carrier Network Name, Contract Carrier Network Name, IMEI, MEID, ICCID, EID, and Roaming Status (Roaming is not active).
- 3** OS (OS): Includes the OS Version field.
- 4** グローバルIPアドレス (Global IP Address): Includes the Global IP Address field.
- 5** ネットワーク (Network): Includes fields for Bluetooth MAC Address, Wi-Fi MAC Address, and Internet Sharing (Disabled).
- 6** 監視対象 (Monitoring Target): Includes the Monitoring Target field (Active).
- 7** バッテリー (Battery): Includes the Battery Level field (57%).
- 8** ストレージ (Storage): Includes fields for Device Storage (64.000 GB), Usable Device Storage (51.829 GB), iCloud Backup (None), and Last Backup Date (Unknown).
- 9** スクリーンロック (Screen Lock): Includes fields for Passcode Protection (Protected), Passcode Standard (Device), Passcode Standard (Profile), and Passcode Standard (Profile) (Enabled).
- 10** OSアップデート情報 (OS Update Information): Includes fields for Update Name (iOS 16.3), Update Version (16.3), Update Build Number (20D47), and Update Status (Not Downloaded).
- 11** ローミング (Roaming): Includes fields for Voice Roaming (Disabled) and Data Roaming (Disabled).
- 12** 暗号化 (Encryption): Includes the Hardware Encryption Level field (Data Protection is active).
- 13** Jailbreak (Jailbreak): Includes the Status field (No problem).
- 14** その他の情報 (Other Information): Includes fields for iTunes Store Account (Signed in), iTunes Store Account Refresh, Activation Lock (Disabled), Bypass Code, 'Hold' setting (Enabled), Sleep Mode (Disabled), Lost Mode (Disabled), Shared iPad Setting (Disabled), and Shared iPad User Limit (Unknown).

項番	項目	説明
1	基本	<p>以下の項目が表示されます</p> <ul style="list-style-type: none"> ●デバイス名 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 端末名称を変更するに設定すると、機器の管理情報画面で編集した機器名が端末のデバイス名になります。詳細については、以下を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">  「機器の管理情報」 93 ページ  「画面（端末名称変更）」 498 ページ ●OS バージョン ●ビルドバージョン ●モデル名 ●モデル番号 ●モデムファームウェアバージョン ●シリアル番号 ●ExchangeActiveSync デバイス ID ●MDM プロファイルトピック ●UDID
2	SIM 情報	<p>端末に搭載されている SIM の情報が表示されます。</p> <p>複数の SIM が搭載されている端末では、パネル名の末尾に番号が付いた SIM 情報パネルが、SIM ごとに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電話番号 <ul style="list-style-type: none"> SIM に割り振られている電話番号が表示されます。 ●現在のキャリアネットワーク名 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 端末や iOS のバージョン、キャリアの組み合わせによっては、「現在のキャリアネットワーク名」が「(Unknown)」と表示される場合があります。 <input checked="" type="checkbox"/> 仮想移動体通信事業者が表示される場合があります。 ●契約者のキャリアネットワーク名 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 端末や iOS のバージョン、キャリアの組み合わせによっては、「契約者のキャリアネットワーク名」が「(Unknown)」と表示される場合があります。 <input checked="" type="checkbox"/> 仮想移動体通信事業者が表示される場合があります。 ●IMEI ●MEID ●ICCID ●EID ●ローミング状態 <ul style="list-style-type: none"> 「ローミング中です」または「ローミングしていません」が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> エージェントのバージョン 9.16.0 未満で認証、または 9.16.0 リリース後、一度も同期していない iOS 端末の場合は、項番 11「ローミング」に「状態」として表示されます。
3	OS	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●OS バージョン <ul style="list-style-type: none"> 対象の iOS 端末の OS バージョンが表示されます。
4	グローバル IP アドレス	<p>対象の iOS 端末が接続しているネットワークのインターネットサービスプロバイダ、またはモバイルデータ通信の場合は、通信事業者の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グローバル IP アドレス <ul style="list-style-type: none"> 「NNN.NNN.NNN.NNN」形式の IP アドレスが表示されます。

項番	項目	説明
5	ネットワーク	<p>以下のネットワークの情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Bluetooth MAC アドレス 「XX:XX:XX:XX:XX:XX」形式の MAC アドレスが表示されます。 ●Wi-Fi MAC アドレス 「XX:XX:XX:XX:XX:XX」形式の端末固有の MAC アドレスが表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 「プライベートアドレス (ランダム MAC アドレス)」は、取得および表示することはできません。 ●インターネット共有(テザリング) インターネット共有 (テザリング) が、「有効」または「無効」で表示されます。
6	監視対象	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●監視対象 Apple Configurator 2、または Automated Device Enrollment (ADE) で iOS 端末を監視対象に設定している場合は「有効」と表示されます。また、監視対象に設定されていない場合は「無効」と表示されます。
7	バッテリー	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●バッテリー残量 端末のバッテリー残量が「%」で表示されます。
8	ストレージ	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●デバイス容量 デバイス容量がギガバイト単位で表示されます。 ●利用可能なデバイス容量 利用できるデバイス容量がギガバイト単位で表示されます。 ●iCloud バックアップ iCloud のバックアップが有効の場合は「有効」、無効の場合は「無効」と表示されます。 ●前回の iCloud バックアップ日時 前回の iCloud バックアップ日時が「HH:MM:SS」形式で表示されます。
9	スクリーンロック	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●パスコード保護 端末にパスコードが設定されている場合は「保護されています」と表示され、設定されていない場合は「保護されていません」と表示されます。 ●パスコード準拠 (デバイス) 構成プロファイルを含むすべてのパスコードポリシー設定 (Apple 社が定めたものを含む) と、実際のパスコード設定が合致している場合は「準拠しています」と表示され、異なっている場合は「準拠していません」と表示されます。 ●パスコード準拠 (プロファイル) 構成プロファイルのパスコードポリシー設定と、実際のパスコード設定が合致している場合は「準拠しています」と表示され、異なっている場合は「準拠していません」と表示されます。
10	OS アップデート情報	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アップデートの名前 「アップデートの名前」または「(Unknown)」が表示されます。 ●アップデートのバージョン 「アップデートのバージョン」または「(Unknown)」が表示されます。 ●アップデートのビルド番号 「アップデートのビルド番号」または「(Unknown)」が表示されます。 ●アップデートのステータス 以下のいずれかが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・「未ダウンロード」 ・「ダウンロード中」 ・「ダウンロード済」 ・「(Unknown)」

項番	項目	説明
11	ローミング	以下の情報が表示されます。 ●音声ローミング設定 「有効」または「無効」が表示されます。 ●データローミング設定 「有効」または「無効」が表示されます。
12	暗号化	以下の情報が表示されます。 ●ハードウェア暗号化レベル パスコードが設定されている場合は「データ保護は有効です」と表示され、設定されていない場合は「データ保護は無効です」と表示されます。
13	Jailbreak	以下の情報が表示されます。 ●状態 「Jailbreak 状態」または「問題なし」が表示されます。
14	その他の情報	以下の情報が表示されます。 ●iTunesStore アカウント 「サインイン済み」または「未設定」が表示されます。 ●iTunesStore アカウントハッシュ iTunesStore アカウントハッシュが表示されます。 ●アクティベーションロック アプリ「iPhone を探す」のアクティベーションロックの状態を「有効」または「無効」で表示します。 ●Bypass Code Bypass Code が表示されます。 ●「探す」設定 位置情報を使ったサービスの設定状況を示します。「有効」または「無効」が表示されます。  「iPhone を探す」などの位置情報を使用するサービスです。 ●おやすみモード 「有効」または「無効」が表示されます。 ●紛失モード 「有効」または「無効」が表示されます。 ●Shared iPad 設定 「有効」または「無効」が表示されます。 ●Shared iPad ユーザー最大数 Shared iPad (共有 iPad) 設定が「有効」の場合、ユーザー最大数が表示されます。

4.1.10.12 (情報-iOS) エージェント

対象の iOS 端末のエージェント情報を表示します。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [エージェント]

エージェント([]) ⓧ

通信日時: 2018/10/02 19:37:19 🔄 同期

- 1** エージェントバージョン
- 2** アクティベーションコード
- 3** 通信日時(MDM構成プロファイル)
2018/10/02 19:37:19
- 4** 通信日時(エージェント)
2018/10/01 15:55:42
- 5** 通信日時(ブラウザー)
(なし)
- 6** 認証日時
2018/09/14 17:00:50
- 7** MDM構成プロファイル同期不可検知日時
(なし)
- 8** エージェント同期不可検知日時
(なし)

項番	項目	説明
1	エージェントバージョン	機器を管理、運用するためのアプリのバージョンです。  iOS エージェントがインストールされていないとエージェントバージョンは表示されません。
2	アクティベーションコード	本製品のエージェント認証時に必要な英数字のコードです。  ライセンス認証後にエージェント認証を行う場合や、ポータル画面からエージェント認証を行う場合はアクティベーションコードの入力は不要です。
3	通信日時(MDM 構成プロファイル)	MDM 構成プロファイルの通信日時が表示されます。  通信日時が赤字で表示されている場合、無通信検知されています。  通信日時が赤字で表示かつ、末尾に「(管理外)」または「(同期不可)」と表示されている機器は、管理外検知されています。管理外検知された機器の詳細については、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> •管理外 端末から構成プロファイルが手動で削除された場合に表示されます。 •同期不可 端末の MDM 構成プロファイルまたはエージェントが継続的に管理サイトとの通信ができない場合に表示されます。

項番	項目	説明
4	通信日時(エージェント)	iOS エージェントの通信日時が表示されます。iOS エージェントがインストールされていない場合は「(なし)」と表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 管理外検知されても赤字で表示されません。
5	通信日時(ブラウザー)	+ browser Safety Manager の通信日時が表示されます。+ browser Safety Manager がインストールされていない場合は「(なし)」と表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 管理外検知されても赤字で表示されません。
6	認証日時	iOS 端末を認証した日時が表示されています。
7	MDM 構成プロファイル同期不可検知日時	管理サイトと MDM 構成プロファイルが同期できない状態と検知された場合に、検知した日時が表示されます。管理サイトと同期ができていない場合は「(なし)」と表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 同期不可検知日時が表示された場合は、同期不可検知の種類によって対応が異なります。(※1)
8	エージェント同期不可検知日時	管理サイトとエージェントが同期できない状態と検知された場合に、検知した日時が表示されます。管理サイトと同期ができていない場合、もしくは管理外検知されている場合は「(なし)」と表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 同期不可検知日時が表示された場合は、同期不可検知の種類によって対応が異なります。(※1)

※1：同期不可検知の種類によって対応が異なります。該当の手順にしたがって対応してください。

《MDM 構成プロファイル同期不可検知日時または管理外検知が表示された場合》
再認証以外に復旧方法はありませので、再度認証を行ってください。

《エージェント同期不可検知日時が表示された場合》
iOS 端末からエージェントを立ち上げ、同期を行うことで復旧できます。

4.1.10.13 (情報-iOS) アプリケーション

対象の iOS 端末にインストールされているアプリの一覧を表示します。また、詳細画面を表示して、アプリの詳細情報を確認することもできます。

画面

画面 (アプリの詳細)

iOS 端末に内蔵されているアプリは、本画面では確認できません。Apple のサイトで対象の iOS 端末の情報から確認してください。ただし、Apple 製の無料アプリは、本画面で確認できます。

本画面で表示されるアプリ名は、AppStore で表示されているアプリ名と異なることがあります。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の → 詳細画面の「情報」の [アプリケーション]

アプリケーション (iPhone11,2 [iPhone11,2]) ✕

通信日時: 2018/10/02 19:37:19 🔄 同期

1 絞り込み

2 絞り込み条件: 表示されないアプリケーションについて

アプリケーション名	アプリケーションID	バージョン	アプリケーションサイズ	詳細 4
...	64.4 MB	
...	241.1 MB	
...	1.9 MB	
...	79.6 MB	
...	2.3 MB	
...	17.3 MB	
...	9.7 MB	
...	4.6 MB	
...	95.3 MB	
...	22.1 MB	
...	97.4 MB	
...	5.9 MB	
...	78.9 MB	

項番	項目	説明
1	[絞り込み]	項番 【5】 に表示する情報を以下の項目を条件にして絞り込みます。 ● 「アプリケーション名」、「アプリケーション ID」
2	絞り込み条件	[絞り込み] をクリックして検索した場合、その条件が表示されます。 をクリックすると、再度、すべてのアプリが一覧に表示されます。
3	アプリ一覧	対象の機器にインストールされているアプリの一覧に以下の情報が表示されます。 ● 「アプリケーション名」、「アプリケーション ID」、「バージョン」、「アプリケーションサイズ」
4	(詳細)	クリックすると、アプリ一覧の右側に対象のアプリの詳細情報が表示されます。 「画面 (アプリの詳細)」 199 ページ

◆画面（アプリの詳細）

アプリの詳細を確認できます。表示される各項目の詳細については、メーカーまたは開発・提供元へご確認ください。

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の (⊙) → 詳細画面の「情報」の [アプリケーション] → 一覧から対象のアプリの (⊙)



項番	項目	説明
1	アプリケーション名	アプリ名が表示されます。
2	アプリケーション ID	アプリケーション ID が表示されます。
3	バージョン	アプリの CFBundleVersion が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> CFBundleVersion とは、「1.2」や「3.4.5」のようにピリオドで区切られるバージョン表記です。
4	アプリケーションサイズ	アプリのファイルサイズが表示されます。
5	メモリサイズ	アプリのメモリサイズが表示されます。
6	データサイズ	アプリのデータサイズが表示されます。
7	インストール済み	アプリがインストール済みか表示されます。
8	実行可能	アプリが実行可能か表示されます。
9	外部バージョン ID (iTunes Search API 用)	アプリの自動バージョンアップを判定する情報として、外部バージョン ID が表示されます。
10	App Store 機能を利用可能	App Store 機能を利用可能かどうか表示されます。
11	「App とブック」管理配布	「App とブック」管理配布があるかどうか表示されます。
12	ベータ版アプリ	ベータ版アプリがあるかどうか表示されます。
13	アドホックコード署名	アドホックコード署名が表示されます。
14	アップデート可能	アプリが AppStore でアップデートできるか以下のとおり表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「はい」または「AppStore 機能：はい」 現在、アップデートができます。 <input checked="" type="checkbox"/> 配信方法が App Store 配信、手動 App インストールおよび App とブック（ユーザー）の場合は、「AppStore 機能：はい」と表示されます。 ● 「いいえ」または「AppStore 機能：いいえ」 現在、アップデートができません。 <input checked="" type="checkbox"/> 配信方法が App とブック（機器）の場合は、「AppStore 機能：いいえ」と表示されます。 ● 「(なし)」 以下の理由により、アップデートができません。 <ul style="list-style-type: none"> ・ アプリをサポートしていない端末を利用しているため ・ アプリの最終通信日時が、本機能が追加される以前のため

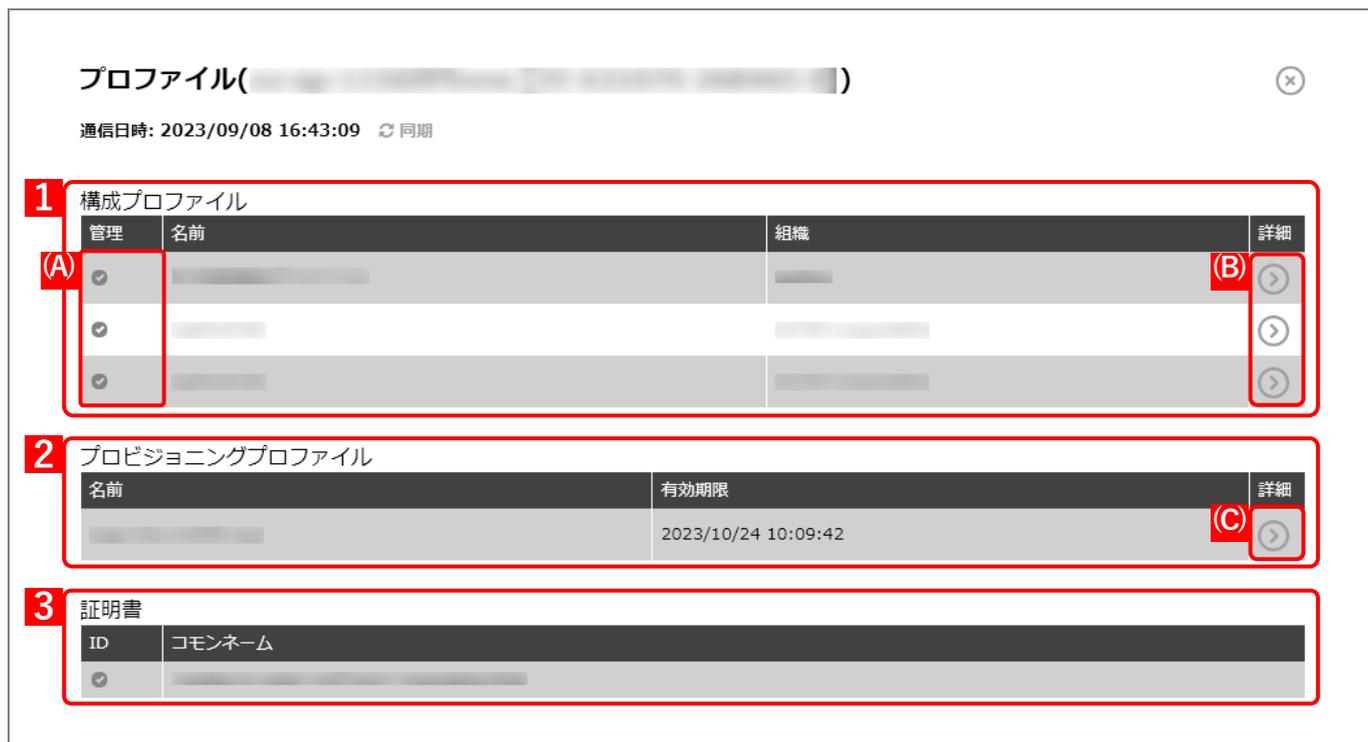
4.1.10.14 (情報-iOS) プロファイル

対象の iOS 端末にインストールされているプロファイル情報を表示します。

-  画面
-  画面 (構成プロファイルの詳細)
-  画面 (プロビジョニングプロファイルの詳細)

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [プロファイル]



項番	項目	説明
1	構成プロファイル	<p>対象の iOS 端末にインストールされている構成プロファイルが表示されます。</p> <p> 本製品からインストールした構成プロファイルは、(A)「管理」にチェックマークが表示されます。ただし、削除防止を設定している構成プロファイルは、チェックマークが表示されません。チェックマークの有無は関係なく、構成プロファイルの挙動は同じです。構成プロファイルの詳細については、以下を参照してください。</p> <p> 「構成プロファイル」594 ページ</p> <p> (B)「詳細」の  をクリックすると、構成プロファイルの詳細が確認できます。詳細については、以下を参照してください。</p> <p> 「画面 (構成プロファイルの詳細)」202 ページ</p>
2	プロビジョニングプロファイル	<p>対象の iOS 端末にインストールされているプロビジョニングプロファイルが表示されます。</p> <p> プロビジョニングプロファイルは、本製品からは削除できません。Apple Configurator 2 から削除してください。</p> <p> (C)「詳細」の  をクリックすると、プロビジョニングプロファイルの詳細が確認できます。詳細については、以下を参照してください。</p> <p> 「画面 (プロビジョニングプロファイルの詳細)」203 ページ</p>

項番	項目	説明
3	証明書	対象の iOS 端末にインストールされている TLS 証明書が表示されます。  (D) 「コモンネーム」は、プロファイルレポートを作成するときに必要な入力値です。  「画面（[証明書] 選択時）」302 ページ

◆画面（構成プロファイルの詳細）

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [プロファイル] → 一覧から対象の構成プロファイルの 

詳細


1 名前

(A) 識別子

組織

説明

プロファイル削除用パスコード

削除を許可

暗号化

管理対象

(B) ペイロードコンテンツ

(C) UUID

バージョン

項番	項目	説明
1	(詳細)	<p>構成プロファイルの各項目の詳細情報が表示されます。</p> <p> 各項目については、Apple にお問い合わせください。</p> <p> (A) 「識別子」は、OS バージョンやキッティング方法によって異なります。</p> <p> (B) 「ペイロードコンテンツ」、(C) 「UUID」は、プロファイルレポートを作成するときに必要な入力値です。</p> <p> 「画面（[構成プロファイル] 選択時）」 301 ページ</p>

◆画面（プロビジョニングプロファイルの詳細）

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [プロファイル] → 一覧から対象のプロビジョニングプロファイルの 



項番	項目	説明
1	(詳細)	<p>プロビジョニングプロファイルの各項目の詳細情報が表示されます。</p> <p> 各項目については、Apple にお問い合わせください。</p> <p> (A) 「UUID」は、プロファイルレポートを作成するときに必要な入力値です。</p> <p> 「画面（[プロビジョニングプロファイル] 選択時）」 302 ページ</p>

4.1.10.15 (情報-iOS) 位置

iOS 端末から送られた位置情報を表示します。

位置情報取得の条件については、以下を参照してください。

 「iOS 端末の位置情報の諸条件」 205 ページ

- 位置情報送信を一度も行っていない端末は、[位置] メニューが表示されません。
- 本製品から端末の GPS を ON にすることはできません。
- 取得した位置情報の精度が低いと情報が破棄されるため、管理サイトに反映されません。
- エージェントバージョン 5.9.0 以上の端末に対応しています。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [位置]

- Google マップは、Internet Explorer 11 のサポートを終了します。2022 年 1 月 21 日以降、地図を表示したとき警告メッセージが表示されます。



位置([redacted]) 

通信日時: 2019/09/18 22:14:22 

1 位置情報を更新 ※iOS7.0以降 / エージェントバージョンが5.9.0以降の端末でのみ対応

2 受信日時: 2019/09/18 21:16:45 測位日時: 2019/09/18 21:14:54 北緯35.65412° 東経139.75366° **3** 1/3

4 

5 Googleマップで表示

項番	項目	説明
1	[位置情報を更新]	クリックすると、位置情報の更新を実行します。 確認画面が表示されますので、位置情報の更新を行う場合は、[OK] をクリックすると、位置情報の更新を実行します。 取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。 <input checked="" type="checkbox"/> 端末の状態によっては反映に時間がかかる場合があります。 <input checked="" type="checkbox"/> エージェントバージョン 5.9.0 以上の端末に対応しています。
2	測位情報	以下の情報が表示されます。 ●受信日時 管理サイトが端末の位置情報を取得した日時が表示されます。 ●測位日時 端末が保持している位置情報を測位した日時が表示されます。 ●北緯 測位した位置の北緯が表示されます。 ●東経 測位した位置の東経が表示されます。
3	位置情報履歴	対象の端末が取得した位置情報の履歴を確認できます。 位置情報の履歴は最大 100 件まで表示されます。 例えば、「1/38」と表示されている場合は、履歴が 38 件あるうちの、最新の履歴が表示されていることを示しています。 <input type="button" value="◀"/> <input type="button" value="▶"/> をクリックして、履歴の表示を切り替えることができます。
4	地図	位置情報が地図で表示されます。  が表示されている位置が、地図上の端末の位置です。
5	[Google マップで表示]	クリックすると、新しいウィンドウで Google マップとして表示されます。

◆iOS 端末の位置情報の諸条件

iOS 端末から位置情報を受信するための動作条件、位置情報測位契機、位置情報送信契機は以下のとおりです。内容を確認し、位置情報の受信を行ってください。

- 測位結果の情報は確実性を保証できる情報ではありません。
- 測位条件は端末の仕様に準じます。

項目	エージェント利用で AppSwitcher 上にある (推奨)	エージェント利用で AppSwitcher 上にない (非推奨)	紛失モード
動作条件	以下の動作条件が満たされている必要があります。 ●エージェントがインストールされている。 ●エージェントの認証が済んでいる。 ●エージェントが起動している (AppSwitcher 上にある)。 ●端末の「プライバシー」以下の「位置情報サービス」でアクセスが許可されている。 ●端末の設定内の「App のバックグラウンド更新」で、本製品が「有効」になっている。 ●iOS 9.0 以上の端末の場合、「低電力モード」が無効に設定されている (この設定を有効にすると、「App のバックグラウンド更新」が強制的に無効になるため)。	以下の動作条件が満たされている必要があります。 ●エージェントがインストールされている。 ●エージェントの認証が済んでいる。 ●エージェントが起動していない (AppSwitcher 上にない)。	以下の動作条件が満たされている必要があります。 ●iOS 9.3 以上で、監視対象状態の端末である。 <input checked="" type="checkbox"/> 紛失モードの場合は、エージェントアプリの有無に関係なく利用できません。

項目	エージェント利用で AppSwitcher 上にある (推奨)	エージェント利用で AppSwitcher 上にない (非推奨)	紛失モード
位置情報 測位契機	以下のいずれかの契機で測位します。 ●バックグラウンドで動作している ●エージェント起動時 ●エージェント同期ボタン押下時 ●メッセージ配信受信後にメッセージ画面を表示したとき ●基地局変更時 (※2) ●管理サイトの位置情報更新ボタン押下時 ●Background Fetch (※1) ●他アプリ利用による測位	iOS の大幅位置情報変更サービスが位置情報の更新を検知したときに測位します。(※3)	端末が紛失モード中で、管理サイトのリモート操作の「位置情報取得」の操作がされたときに測位します。(※5)
位置情報 送信契機	端末のロックの状態にかかわらず、以下の契機で位置情報を送信します。 ●エージェント認証時 ●エージェント同期ボタン押下時 ●メッセージ配信受信後にメッセージ画面を表示したとき ●基地局変更時 (※2) ●管理サイトの位置情報更新ボタン押下時 ●Background Fetch (※1)	端末がロックされていない状態で位置情報を送信します。(※4)	端末のロックの状態にかかわらず、端末が紛失モード状態で、管理サイトのリモート操作の「位置情報取得」の操作がされて、端末がその情報を受信したあとに位置情報を送信します。

- ※1：Background Fetch は、Apple 社から提供されている機能で iOS 7.0 以上に搭載されています。この機能を使用すると iOS 側が日々のユーザーの使用状況を学習し、適切なタイミングで対象のアプリを呼び起こすことができます。詳細については、Apple 社にお問い合わせください。
- ※2：基地局の境界で通信が頻発することを防ぐため、前回の送信時間からおよそ 1 分以上経過した場合のみ送信します。また、OS 仕様の制約上、そのときに取得した位置情報は送信できませんので、そのときに端末内に保有していた位置情報のみを送信します。
- ※3：大幅位置情報変更サービスの動作条件は Apple の仕様に準じます。また、大幅位置情報変更サービスによる動作条件仕様は Apple により非公開となっています。
- ※4：ロック解除後の画面になっている状態です。大幅位置情報変更サービスによる送信条件は Apple の仕様に準じます。また、大幅位置情報変更サービスによる送信条件仕様は Apple により非公開となっています。
- ※5：紛失モード中は低電力モードになります。

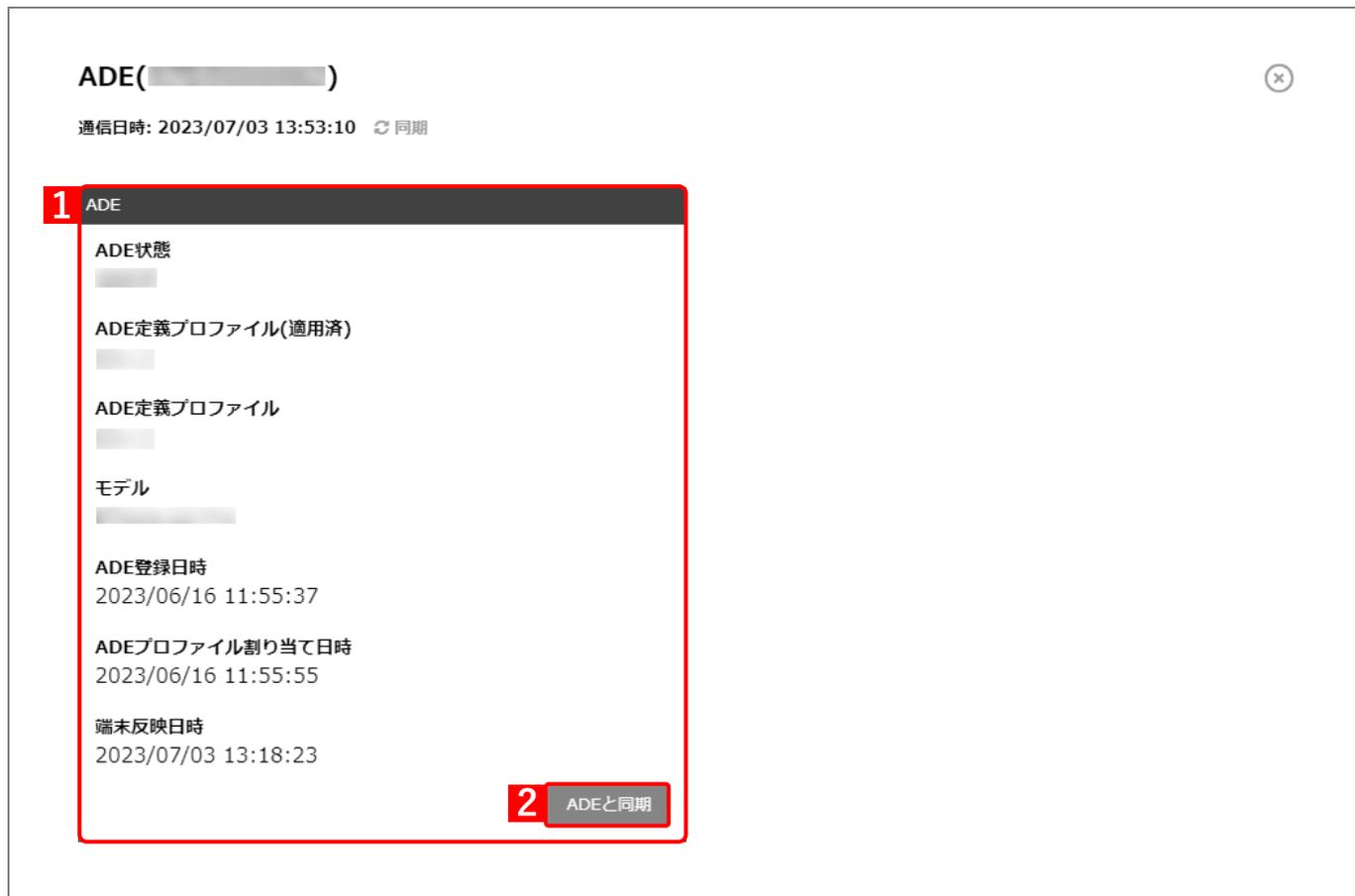
4.1.10.16 (情報-iOS) ADE

対象の iOS 端末の ADE の情報を表示します。詳細については、以下を参照してください。

🔗 「ADE 機器管理」 603 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⓘ → 詳細画面の「情報」の [他の情報を見る] → [ADE]



項番	項目	説明
1	ADE	ADE に関する以下の情報が表示されます。 ●ADE 状態 ●ADE 定義プロファイル(適用済) ●ADE 定義プロファイル ●モデル ●ADE 登録日時 ●ADE プロファイル割り当て日時 ●端末反映日時

項番	項目	説明
2	[ADE と同期] または [ADE から機器情報を取得]	<p>ADE と同期します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。</p> <p> ログインしているユーザー種別によって、表示されるボタン名、処理が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none">• ユーザー種別が管理者および操作の場合 [ADE と同期] と表示されます。 ADE サーバーから ADE トークンに紐づいている機器一覧の差分を取得します。また、ADE 定義プロファイル（適用済）と ADE 定義プロファイルが異なる機器について、ADE 定義プロファイルを ADE 機器に紐づける処理を行います。• ユーザー種別が閲覧者の場合 [ADE から機器情報を取得] と表示されます。 ADE サーバーから ADE トークンに紐づいている機器一覧の差分を取得します。

4.1.10.17 (情報-iOS) メッセージ

対象の iOS 端末に配信されるメッセージの予定と、配信済みのメッセージを表示します。

配信するメッセージの詳細については、以下を参照してください。

 「メッセージ通知」 274 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [他の情報を見る] → [メッセージ]

メッセージ() ✕

通信日時: 2018/10/02 19:37:19  同期

1 配信されるメッセージ

タイトル	スケジュール	次回配信予定
メッセージテスト01	なし	
テストメッセージ通知A	なし	

2 メッセージボックス

ステータス	メッセージ
	2018/04/19 11:15:14 メッセージテスト01 テスト
	2018/04/19 11:00:39 メッセージテスト01 テスト
	2018/04/19 11:00:31 メッセージテスト02 メッセージテストです。
	2018/04/18 14:52:37 テストメッセージ通知A メッセージ通知のテストを行っています。

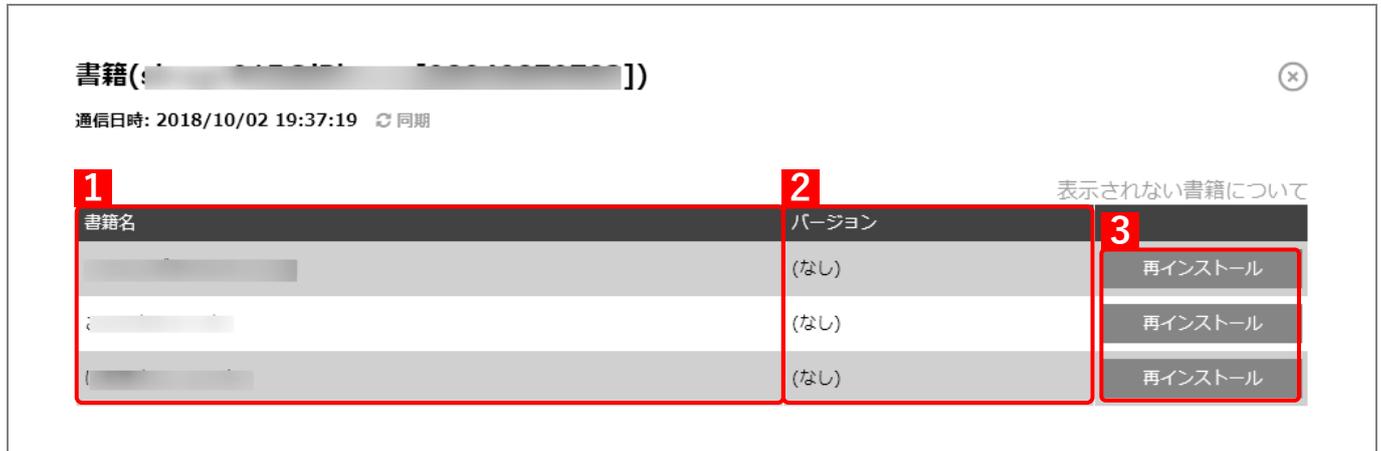
項番	項目	説明
1	配信されるメッセージ	<p>配信されるメッセージ通知の一覧が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●タイトル メールの件名に該当するタイトルが表示されます。 タイトルをクリックすると該当メッセージの詳細画面に移動し、内容を編集できます。詳細については、以下を参照してください。  「メッセージ通知」 274 ページ ●スケジュール 設定されているスケジュールが表示されます。 ●次回配信予定 次回の配信予定スケジュールが表示されます。
2	メッセージボックス	<p>対象の iOS 端末に配信したメッセージ通知の一覧が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ステータス 機器側でメッセージ通知が開封済みの場合は  が、未開封の場合は  が表示されます。 ●メッセージ 配信したメッセージ通知の配信日時、タイトル、本文が表示されます。

4.1.10.18 (情報-iOS) 書籍

「App とブック」で配信した書籍を一覧表示します。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → iOS 端末の機器名または「詳細」の ⌕ → 詳細画面の「情報」の [他の情報を見る] → [書籍]



項番	項目	説明
1	書籍名	「App とブック」で配信された書籍名が表示されます。
2	バージョン	すでにインストールされている書籍のバージョンが更新された場合にバージョン情報が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 書籍のバージョンが更新されていない場合は「(なし)」と表示されます。
3	[再インストール]	クリックすると、書籍が iOS 端末に再インストールされます。新しいバージョンがある場合は、更新されたバージョンの書籍がインストールされます。

4.1.10.19 (情報 – Mac OS) ログ

対象の Mac OS 端末のログをログ画面に表示します。

ログ画面の詳細については、以下を参照してください。

[🔗 「ログ画面の見かた」 785 ページ](#)

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Mac OS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [ログ]

機器:

1 オプション: 通知対象のみ

期間: 発生日時 から まで

検索:

種別	通知	発生日時	受信日時	概要	詳細
		2018/04/17 10:32:12	2018/04/17 10:32:12	機器「XXXXXXXXXX-XXXXXXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX」のMDM構成プロファイルが削除され管理から外れました。	
		2018/04/17 10:29:12	2018/04/17 10:29:12	機器「XXXXXXXXXX-XXXXXXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX」を認証しました。	
		2018/04/03 11:34:27	2018/04/03 11:34:27	機器「XXXXXXXXXX-XXXXXXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX」のMDM構成プロファイルが削除され管理から外れました。	
		2018/04/02 13:16:08	2018/04/02 13:16:08	機器「XXXXXXXXXX-XXXXXXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX-XXXXXX」を認証しました。	

項番	項目	説明
1	ログ画面	ログ画面に、対象の端末のログだけが表示されます。ログ画面の詳細については、以下を参照してください。 🔗 「ログ画面の見かた」 785 ページ

4.1.10.20 (情報 - Mac OS) デバイス

対象の Mac OS 端末の現在の状態を表示します。

情報を取得できない場合は、「(Unknown)」と表示されます。

 暗号化情報の取得は、OS X 10.9 以上の Mac OS 端末のみ有効です。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Mac OS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [他の情報を見る] → [デバイス]

デバイス([REDACTED] [REDACTED])

通信日時: 2018/10/02 19:37:19  同期



<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px 5px; font-weight: bold;">1 基本</div> <div style="padding: 5px;"> <p>デバイス名 [REDACTED]</p> <p>OSバージョン [REDACTED]</p> <p>ビルドバージョン [REDACTED]</p> <p>モデル名 [REDACTED]</p> <p>モデル番号 [REDACTED]</p> <p>シリアル番号 [REDACTED]</p> <p>MDMプロファイルトピック [REDACTED]</p> </div>	<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px 5px; font-weight: bold;">5 ストレージ</div> <div style="padding: 5px;"> <p>デバイス容量 464.438 GB</p> <p>利用可能なデバイス容量 389.501 GB</p> </div>
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px 5px; font-weight: bold;">2 OS</div> <div style="padding: 5px;"> <p>OSバージョン Mac OS [REDACTED]</p> </div>	<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px 5px; font-weight: bold;">6 暗号化</div> <div style="padding: 5px;"> <p>暗号化有無 暗号化されていません</p> <p>パーソナル復旧キー (Unknown)</p> <p>所属団体の復旧キー (Unknown)</p> </div>
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px 5px; font-weight: bold;">3 グローバルIPアドレス</div> <div style="padding: 5px;"> <p>グローバルIPアドレス [REDACTED]</p> </div>	
<div style="background-color: #333; color: white; padding: 2px 5px; font-weight: bold;">4 ネットワーク</div> <div style="padding: 5px;"> <p>Ethernet MACアドレス [REDACTED]</p> <p>Wi-Fi MACアドレス [REDACTED]</p> <p>Bluetooth MACアドレス [REDACTED]</p> </div>	

項番	項目	説明
1	基本	以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ●デバイス名 ●OS バージョン ●ビルドバージョン ●モデル名 ●モデル番号 ●シリアル番号 ●MDM プロファイルトピック
2	OS	以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ●OS バージョン
3	グローバル IP アドレス	以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ●グローバル IP アドレス 「NNN.NNN.NNN.NNN」形式の IP アドレスが表示されます。
4	ネットワーク	以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ●グローバル IP アドレス 「NNN.NNN.NNN.NNN」形式の IP アドレスが表示されます。 ●Ethernet MAC アドレス 「XX:XX:XX:XX:XX:XX」形式の MAC アドレスが表示されます。 ●Wi-Fi MAC アドレス 「XX:XX:XX:XX:XX:XX」形式の MAC アドレスが表示されます。 ●Bluetooth MAC アドレス 「XX:XX:XX:XX:XX:XX」形式の MAC アドレスが表示されます。
5	ストレージ	以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ●デバイス容量 デバイス容量がギガバイト単位で表示されます。 ●利用可能なデバイス容量 利用できるデバイス容量がギガバイト単位で表示されます。
6	暗号化	以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ●暗号化有無 「暗号化されています」または「暗号化されていません」が表示されます。 ●パーソナル復旧キー ●所属団体の復旧キー

4.1.10.21 (情報 - Mac OS) エージェント

対象の Mac OS 端末のエージェント情報を表示します。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Mac OS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [エージェント]

エージェント(XXXXXXXXXX-XXXX-XXXX-XXXX-XXXXXXXXXX) ⓧ

通信日時: 2018/04/13 09:13:01 🔄 同期

1 エージェントバージョン
(なし)

2 通信日時
2018/04/13 09:13:00

3 認証日時
2018/04/09 13:11:00

項番	項目	説明
1	エージェントバージョン	機器を管理、運用するためのアプリのバージョンです。
2	通信日時	<p>通信を確認できた最新の日時が表示されています。</p> <p> 通信日時が赤字で表示されている場合は、無通信検知されています。</p> <p> 通信日時が赤字で表示かつ、末尾に「(管理外)」または「(同期不可)」と表示されている機器は、管理外検知されています。管理外検知された機器の詳細については、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 管理外 端末から構成プロファイルが手動で削除された場合に表示されます。 • 同期不可 端末の構成プロファイルが継続的に管理サイトとの通信ができない場合に表示されます。
3	認証日時	Mac OS 端末を認証した日時が表示されています。

4.1.10.22 (情報 - Mac OS) アプリケーション

対象の Mac OS 端末にインストールされているアプリの一覧を表示します。また、詳細画面を表示して、アプリの詳細情報を確認することもできます。

 画面

 画面 (アプリの詳細)

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Mac OS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [アプリケーション]

アプリケーション (XXXXXXXXXX (XXXXXXXXXX)) ✕

通信日時: 2018/10/02 19:37:19 🔄 同期

1 絞り込み

2 絞り込み条件:

アプリケーション名	アプリケーションID	バージョン	アプリケーションサイズ	詳細
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	11.4	0 Byte	
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	1.1.0	0 Byte	
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	7.0.0.485	0 Byte	
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	3.0.64.0	0 Byte	
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	9.0.0.213	1.1 MB	
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	9.0.0.235	0 Byte	
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	9.0.0.235	349.0 KB	
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	9.0	65.0 KB	
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	4.1	0 Byte	
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	2.0.0.734	1.1 MB	
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	11.0.0	0 Byte	
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	10.11	0 Byte	
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	11.4	0 Byte	
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	9.0	33.8 KB	
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	9.0	53.2 KB	

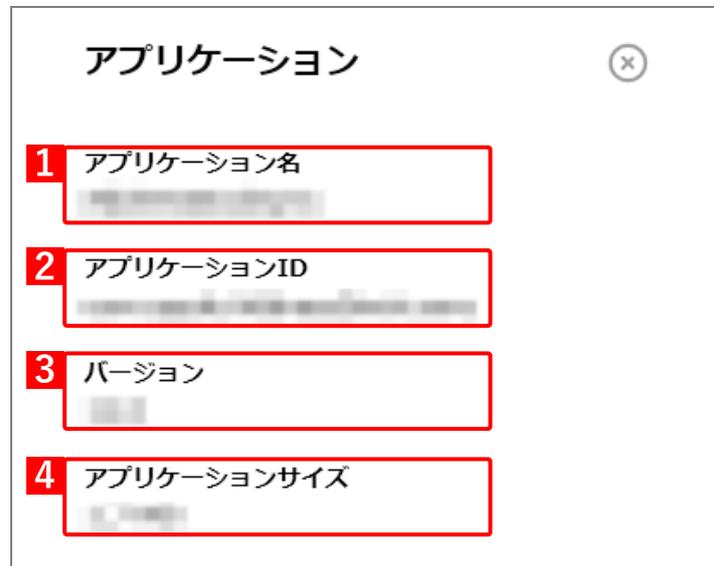
⏪ ⏩ 1 / 20 ▶ ▶▶

項番	項目	説明
1	[絞り込み]	項番【5】に表示する情報を以下の項目を条件にして絞り込みます。 ● 「アプリケーション名」、「アプリケーション ID」
2	絞り込み条件	[絞り込み] をクリックして検索した場合、その条件が表示されます。  をクリックすると、再度、すべてのアプリケーションが一覧に表示されます。
3	アプリ一覧	対象の機器にインストールされているアプリの一覧に以下の情報が表示されます。 ● 「アプリケーション名」、「アプリケーション ID」、「バージョン」、「アプリケーションサイズ」
4	 (詳細)	クリックすると、アプリ一覧の右側に対象のアプリの詳細情報が表示されます。  「画面 (アプリの詳細)」 216 ページ

◆画面（アプリの詳細）

アプリの詳細を確認できます。表示される各項目の詳細については、メーカーまたは開発・提供元へご確認ください。

表示操作 [機器] → [一覧] → Mac OS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [アプリケーション] → 一覧から対象のアプリの 



項番	項目	説明
1	アプリケーション名	アプリ名が表示されます。
2	アプリケーション ID	アプリケーション ID が表示されます。
3	バージョン	アプリのバージョンが表示されます。
4	アプリケーションサイズ	アプリのファイルサイズが表示されます。

4.1.10.23 (情報 - Mac OS) プロファイル

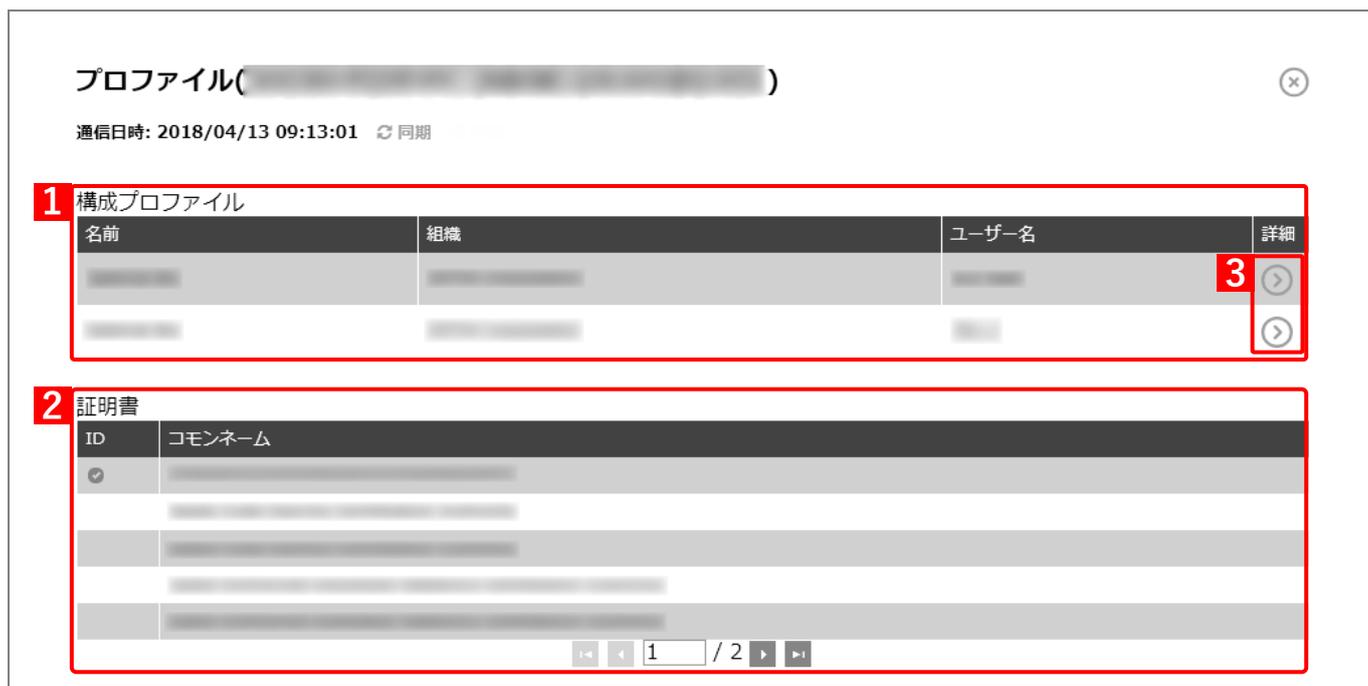
対象の Mac OS 端末にインストールされているプロファイル情報を表示します。

画面

画面 (プロファイルの詳細)

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Mac OS 端末の機器名または「詳細」の → 詳細画面の「情報」の [プロファイル]

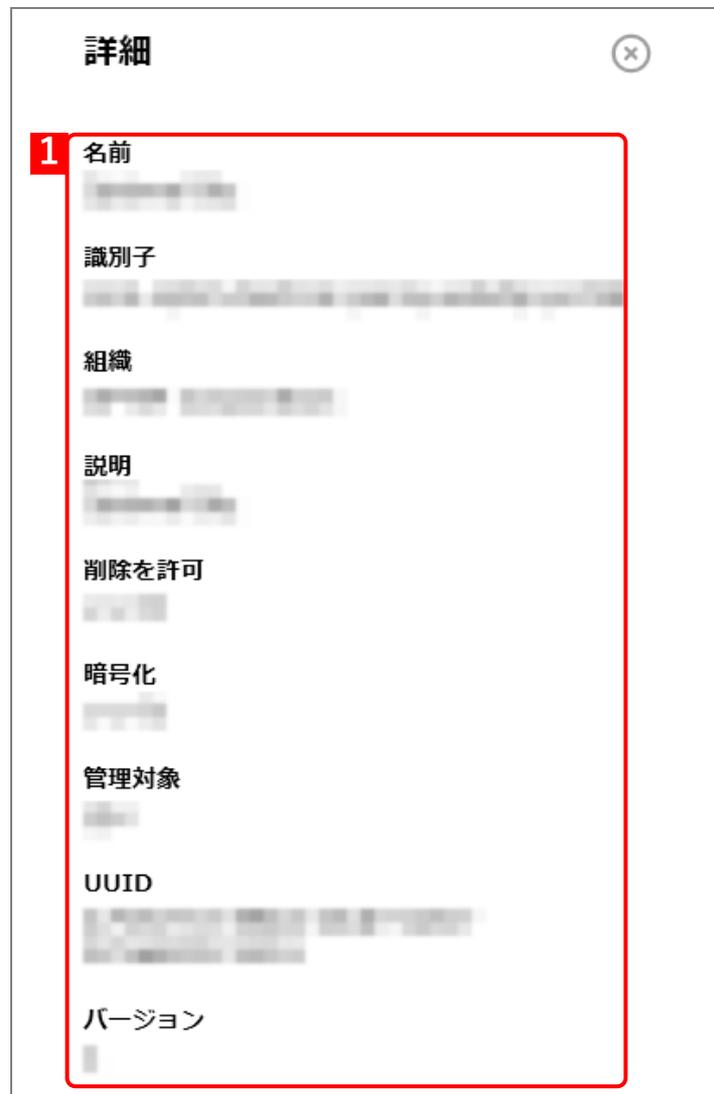


項番	項目	説明
1	構成プロファイル	インストールされている構成プロファイルが表示されます。
2	(詳細)	クリックすると、プロファイルの詳細を確認できます。詳細については、以下の項目を参照してください。 「画面 (プロファイルの詳細)」 218 ページ
3	証明書	インストールされている TLS 証明書が表示されます。

◆画面（プロファイルの詳細）

プロファイルの詳細を表示します。

表示操作 [機器] → [一覧] → Mac OS 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [プロファイル] → 一覧から対象のプロファイルの 



項番	項目	説明
1	(詳細)	構成プロファイルの各項目の詳細情報が表示されます。  各項目については Apple 社にお問い合わせください。

4.1.10.24 (情報 - Windows) ログ

対象の Windows 端末のログをログ画面に表示します。

ログ画面の詳細については、以下を参照してください。

[🔗 「ログ画面の見かた」 785 ページ](#)

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [ログ]

機器:

1 オプション: 通知対象のみ

期間: 発生日時 ▾ から まで

検索:

種別	通知	発生日時	受信日時	概要	詳細
		2018/03/28 16:55:02	2018/03/28 16:55:02	機器「XXXXXXXXXX」の通信が2018/02/26 16:47:43から30日以上ありませんでした。	
		2018/02/26 17:03:58	2018/02/26 17:03:58	機器「XXXXXXXXXX」のエージェントの認証を解除しました。	
		2018/02/26 11:42:11	2018/02/26 12:12:37	機器「XXXXXXXXXX」のエージェントで「Windows更新プログラムの未適用」がなくなりました。	
		2018/02/23 14:24:23	2018/02/23 14:54:21	機器「XXXXXXXXXX」のエージェントで「Windows更新プログラムの未適用」が存在します。	
		2018/02/23 14:24:23	2018/02/23 14:54:21	機器「XXXXXXXXXX」のエージェントで「Office更新プログラムの未適用」が存在します。	
		2018/02/23 14:23:09	2018/02/23 14:23:39	機器「XXXXXXXXXX」のエージェントがスクリーンロックの設定を行いました。	
		2018/02/23 14:23:06	2018/02/23 14:23:06	機器「XXXXXXXXXX」のエージェントを認証しました。	

項番	項目	説明
1	ログ画面	ログ画面に、対象の端末のログだけが表示されます。ログ画面の詳細については、以下を参照してください。 🔗 「ログ画面の見かた」 785 ページ

4.1.10.25 (情報 - Windows) デバイス

対象の Windows 端末の現在の状態を表示します。

情報を取得できない場合は、「(Unknown)」と表示されます。

 ドメインに参加している PC の場合は、パスワードポリシーのパネルに「(Unknown)」と表示されます。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [他の情報を見る] → [デバイス]

デバイス()

通信日時: 2018/04/13 15:37:21

1 **基本**

- コンピューター名
- ワークグループ: WORKGROUP
- Windowsバージョン: Microsoft Windows
- WindowsプロダクトID
- システム製造元
- システムモデル
- シリアル番号
- コンピューター-SID

2 **OS**

- OSバージョン: Microsoft Windows

3 **グローバルIPアドレス**

- グローバルIPアドレス

4 **ネットワーク - WiFi**

- NIC名
- 接続方法: 無線
- MACアドレス
- IPアドレス
- デフォルトゲートウェイ
- DHCP: 有効
- DHCPサーバー
- DNSサーバー

5 **ネットワーク - イーサネット**

- NIC名: Intel(R) 82579LM Gigabit Network Connection
- ネットワーク - ローカル エリア接続
- NIC名: Intel(R) Centrino(R) WiMAX 6250

6 **ハードウェア**

- 種類: ノートPC
- CPU: Intel(R) Core(TM) i5-3230M CPU @ 2.60GHz (1.20GHz)
- メモリ: 3.88 GB
- マザーボード
- ビデオカード: Intel(R) HD Graphics 4000
- TPM: (Unknown)

7 **BIOS**

- メーカー
- バージョン: V3.11L10
- 日付: 2012/12/27

8 **ドライブ**

- 総容量: 221.706 GB
- 空き容量: 172.341 GB

9 **ログインユーザー**

- ユーザー名
- SID
- 既定のWebブラウザ名前: Google Chrome
- 既定のWebブラウザバージョン
- 既定の電子メールプログラム名前
- 既定の電子メールプログラムバージョン
- 通常使うプリンター名前
- 通常使うプリンターポート

10 **パスワードポリシー**

- 文字数: 8文字以上
- 有効期間: 999日
- 複雑性要件: 24個
- 変更禁止期間: 0日
- 複雑なパスワードを強制する: 無効

11 **リモートロック**

- 状態: 解除されています

12 **リモートデスクトップ**

- リモートデスクトップ接続の許可: 無効
- コンピュータの接続にネットワークレベル認証の使用を求める: 無効

項番	項目	説明
1	基本	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●コンピューター名 ●ワークグループ <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> コンピューターがワークグループに参加しているときのみ表示されます。 ●ドメイン <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> コンピューターがドメインに参加しているときのみ表示されます。 ●Windows バージョン ●Windows プロダクト ID ●システム製造元 ●システムモデル ●シリアル番号 ●コンピューターSID
2	OS	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●OS バージョン
3	グローバル IP アドレス	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グローバル IP アドレス <ul style="list-style-type: none"> 「NNN.NNN.NNN.NNN」形式の IP アドレスが表示されます。
4	ネットワーク	<p>検知されたネットワークごとにパネルが表示され、ネットワークの情報が表示されます。</p> <p>パネルタイトルにネットワーク表示名が「ネットワーク -表示名」の形式で表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●NIC 名 ●接続方法 <ul style="list-style-type: none"> 以下のいずれかの接続方法が表示されます。 ・「有線」、「無線」、「モバイル」、「Bluetooth」 ●MAC アドレス <ul style="list-style-type: none"> 「XX:XX:XX:XX:XX:XX」形式の MAC アドレスが表示されます。 ●IP アドレス <ul style="list-style-type: none"> ・形式 (IPv4) : 「NNN.NNN.NNN.NNN/NNN」 ・形式 (IPv6) : 「XX:XX:...:XX」 ・IP アドレスが 0 個の場合は空欄。 ●デフォルトゲートウェイ <ul style="list-style-type: none"> ・0 個の場合は「(なし)」 ●DHCP <ul style="list-style-type: none"> 「有効」または「無効」が表示されます。 ●DHCP サーバー <ul style="list-style-type: none"> DHCP サーバーの IP アドレスが表示されます。 ●DNS サーバー <ul style="list-style-type: none"> DNS サーバーの IP アドレスが表示されます。 ・0 個の場合は「(なし)」 ●DNS サフィックス <ul style="list-style-type: none"> ・0 個の場合は「(なし)」 ●ネットワーク <ul style="list-style-type: none"> グローバルネットワーク名が表示されます。グローバルネットワーク名をクリックすると、ネットワーク画面へリンクします。 外部ネットワークに繋がっていない NIC の場合は、「(なし)」と表示され、外部ネットワークに繋がっているが当該のネットワークがネットワーク画面で登録がされていない場合は、「未作成」と表示されます。詳細については、以下を参照してください。 <p style="text-align: center;"> 「ネットワーク」 829 ページ</p>

項番	項目	説明
		<p> 「ネットワークマップ」 235 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電話番号 SIM カード情報が存在する場合は、電話番号が表示されます。 ●現在のキャリアネットワーク SIM カード情報が存在する場合は、キャリアネットワークが表示されます。 ●IMEI/MEID SIM カード情報が存在する場合は、IMEI/MEID が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 検知されたネットワークごとに表示されます。 ●ICCID SIM カード情報が存在する場合は、SIM カード/UIM カードごとに固有な認識番号が表示されます。
5	プリンター1～	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●名前 プリンター名が表示されます。 ●ポート ポート番号が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 検知されたプリンターごとに表示されます。
6	ハードウェア	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●種別 機種の種類が以下の項目から表示されます。 ・「デスクトップ」、「ノート PC」、「タブレット」、「その他」 ●CPU CPU 名、クロック数 (GHz 単位で小数点以下 2 桁まで) が表示されます ●メモリ メモリサイズが小数点以下 2 桁まで表示されます。 ●マザーボード マザーボード名が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 検知されたマザーボードごとに表示されます。 ●ビデオカード ビデオカード名が表示されます。 ●TPM TPM のバージョンが表示されます。
7	BIOS	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●メーカー メーカー名が表示されます。 ●バージョン バージョンが表示されます。 ●日付 日付が「YYYY/mm/dd」形式で表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> タイムゾーンに関係なく取得した日付を表示します。
8	ドライブ	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●パネルタイトル ドライブ名が表示されます。 ●総容量 総容量が小数点以下 2 桁まで表示されます。 ●空き容量 空き容量が小数点以下 3 桁まで表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 検知されたドライブごとに表示されます。
9	ログオンユーザー1	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ユーザー名 ●SID ●既定の Web ブラウザー名前

項番	項目	説明
		<ul style="list-style-type: none"> ●既定の Web ブラウザーバージョン ●既定の電子メールプログラム 名前 ●既定の電子メールプログラムバージョン ●通常使うプリンター 名前 ●通常使うプリンター ポート ☑検知されたユーザーごとに表示されます。
10	パスワードポリシー	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文字数 パスワードポリシーの文字数が表示されます。 ●有効期間 パスワードポリシーの有効期間の日数が表示されます。 ●履歴記録数 パスワードポリシーの履歴記録数が表示されます。 ●変更禁止期間 パスワードポリシーの変更禁止期間が表示されます。 ●複雑なパスワードを強制する 「有効」または「無効」が表示されます。
11	リモートロック	<p>以下の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●状態 リモートロック状態が「ロックされています」または「解除されています」で表示されます。
12	リモートデスクトップ	<p>対象の Windows 端末のリモートデスクトップ接続設定の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●リモートデスクトップ接続の許可 「有効」または「無効」が表示されます。 ●コンピュータの接続にネットワークレベル認証の使用を求める 「有効」または「無効」が表示されます。

4.1.10.26 (情報 - Windows) エージェント

対象の Windows 端末のエージェント情報を表示します。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [エージェント]

エージェント() ✕

通信日時: 2018/04/19 13:34:41  同期

- 1** エージェントバージョン
9.2.100.0
- 2** 通信日時
2018/04/19 13:34:41
- 3** 認証日時
2018/04/03 15:48:26

項番	項目	説明
1	エージェントバージョン	機器を管理、運用するためのアプリのバージョンです。
2	通信日時	通信を確認できた最新の日時が表示されています。  通信日時が赤字で表示されている場合は、無通信検知されています。
3	認証日時	Windows 端末を認証した日時が表示されています。

4.1.10.27 (情報 - Windows) アプリケーション

対象の Windows 端末にインストールされているアプリの一覧を表示します。また、詳細画面を表示して、アプリの詳細情報を確認することもできます。

 画面

 画面 (アプリの詳細)

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [アプリケーション]

アプリケーション() ✕

通信日時: 2021/08/03 08:55:09 🔄 同期

1 絞り込み

2 絞り込み条件:

1 / 7 ページ (127 件)

アプリケーション名	パッケージファミリー名	Windows ユーザー名	バージョン	アプリケーションサイズ	インストール日	詳細
				0 Byte	(Unknown)	
				429.0 MB	2021/07/29	
				0 Byte	2021/07/29	
				0 Byte	(Unknown)	
				0 Byte	(Unknown)	
				0 Byte	(Unknown)	
				0 Byte	(Unknown)	
				0 Byte	(Unknown)	

⏪ ⏩ 1 / 7 ⏪ ⏩

項番	項目	説明
1	[絞り込み]	項番【2】に表示する情報を以下の項目を条件にして絞り込みます。 ● 「アプリケーション名」、「パッケージファミリー名」、「Windows ユーザー名」、「ユーザーSID」
2	絞り込み条件	[絞り込み] をクリックして検索した場合、その条件が表示されます。  をクリックすると、再度、すべてのアプリが一覧に表示されます。
3	アプリ一覧	対象の機器にインストールされているアプリの一覧に以下の情報が表示されます。 ● 「アプリケーション名」、「パッケージファミリー名」、「Windows ユーザー名」、「バージョン」、「アプリケーションサイズ」、「インストール日」
4	 (詳細)	クリックすると、アプリ一覧の右側に対象のアプリの詳細情報が表示されます。  「画面 (アプリの詳細)」 226 ページ

◆画面（アプリの詳細）

アプリの詳細を確認できます。表示される各項目の詳細については、メーカーまたは開発・提供元へご確認ください。

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [アプリケーション] → 一覧から対象のアプリの 

アプリケーション

- 1 アプリケーション名
- 2 アプリ種別
- 3 パッケージファミリー名
- 4 パッケージ名
- 5 バージョン
- 6 アプリケーションサイズ
- 7 インストール日
- 8 発行元
- 9 Windowsユーザー名/ユーザーSID
- 10 インストール先
- 11 プロダクトID

項番	項目	説明
1	アプリケーション名	アプリ名が表示されます。
2	アプリ種別	アプリの種別が以下のどちらかで表示されます。 ●デスクトップアプリ ●ストアアプリ
3	パッケージファミリー名	アプリのパッケージファミリーが表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 項番2の「アプリ種別」がデスクトップアプリの場合は、表示されません。
4	パッケージ名	アプリのパッケージ名が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 項番2の「アプリ種別」がデスクトップアプリの場合は、表示されません。
5	バージョン	アプリのバージョンが表示されます。
6	アプリケーションサイズ	アプリのファイルサイズが表示されます。
7	インストール日	アプリをインストールした日付が表示されます。
8	発行元	アプリの発行元が表示されます。
9	Windows ユーザー名/ユーザーSID	ユーザーにインストールされているアプリの Windows ユーザー名とユーザーSIDが表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> システムにインストールされた全ユーザー対象のアプリの場合は、表示されません。
10	インストール先	アプリのインストール先が表示されます。
11	プロダクト ID	アプリのプロダクト ID が表示されます。

4.1.10.28 (情報 - Windows) セキュリティ

更新プログラムの自動設定やファイアウォールの状態など、Windows 端末のセキュリティに関する機能の設定状態を表示します。

 Windows Server では、ウイルス対策ソフト、スパイウェア対策ソフトの状況は取得できません。

 「セキュリティ」画面では、設定状態の確認はできますが、設定の変更はできません。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [セキュリティ]

セキュリティ (XXXXXXXXXX) ✕

通信日時: 2018/10/02 19:37:19 🔄 同期

- 1 Windows自動更新**
 更新プログラムを自動的にインストールする (毎日)
- 2 ファイアウォール**

名前	状態
Windows ファイアウォール	有効
- 3 ウイルス対策ソフト**

名前	状態	定義ファイル	エンジンバージョン	パターンファイルバージョン
Windows Defender	無効	最新		
F-Secure PC Protection	有効	最新		
- 4 スパイウェア対策ソフト**

名前	状態	定義ファイル
Windows Defender	無効	最新
F-Secure PC Protection	有効	最新
- 5 スクリーンセーバー**

ログオンユーザー名	設定	パスワードロック	起動までの時間
XXXXXXXXXX	有効	有効	300秒
- 6 ドライブ暗号化**

ドライブ名	BitLocker 状態	暗号化進捗	回復キー
C	無効	暗号化されていません	(Unknown)
- 7 SIM抜き差し監視 登録済みSIM一覧**

ICCID	電話番号
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX

項番	項目	説明
1	Windows 自動更新	機器に設定されている Windows 自動更新の設定値を表示します。  OS が Windows 10 未満の場合、もしくは、Windows Update と Windows Defender に対応していない場合に表示されます。詳細な対応条件については、以下を参照してください。  「Windows Update」 694 ページ  「Windows Defender」 696 ページ
	Windows Update	機器に設定されている Windows Update の設定値を表示します。  OS が Windows 10 以上で Windows Update に対応している場合に表示されます。詳細な対応条件については、以下を参照してください。  「Windows Update」 694 ページ

項番	項目	説明
	Windows Defender	機器に設定されている Windows Defender の設定値を表示します。 <input checked="" type="checkbox"/> OS が Windows 10 以上で Windows Defender に対応している場合に表示されます。詳細な対応条件については、以下を参照してください。 📄 「Windows Defender」 696 ページ
2	ファイアウォール	機器に導入されているファイアウォールの状態を表示します。
3	ウイルス対策ソフト	機器に導入されているウイルス対策ソフトの状態を表示します。エンジンバージョンおよびパターンファイルバージョンの表示については、以下の製品のみに対応しています。 ●Windows Defender
4	スパイウェア対策ソフト	機器に導入されているスパイウェア対策ソフトの状態を表示します。
5	スクリーンセーバー	機器に設定されているスクリーンセーバーの設定値を表示します。
6	ドライブ暗号化	各ドライブの暗号化状況および回復キーを表示します。 回復キーはパスワードを忘れた場合やコンピューターの構成が変更された場合に用いるパスワードです。詳細については、Microsoft へお問い合わせください。 <input checked="" type="checkbox"/> ドライブ暗号化については、以下を参照してください。 📄 「暗号化」 686 ページ
7	SIM 抜き差し監視 登録済み SIM 一覧	登録済み SIM の ICCID と電話番号が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 登録済み SIM が存在しないときは、「(なし)」と表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 登録済み SIM が存在するときは、表示されます。

4.1.10.29 (情報 – Windows) 位置

Windows 端末から送られた位置情報を表示します。

- 以下を参照し、位置情報取得の条件を確認してください。
🔗 「Windows 端末の位置情報の諸条件」 232 ページ
- あらかじめ、Windows 端末に「位置情報管理」の設定セットを反映してください。
🔗 「位置情報管理」 689 ページ
- ご利用の Windows 端末で位置情報の設定をオンにしてください。
位置情報の設定方法については、Windows 端末の取扱説明書、または Microsoft 社の Web サイトを参照してください。

<https://privacy.microsoft.com/ja-jp/windows-10-location-and-privacy>

- ❗ 位置情報送信を一度も行っていない端末は、[位置] メニューが表示されません。
- ❗ 本製品から端末の GPS を ON にすることはできません。
- ❗ 取得した位置情報の精度が低いと情報が破棄されるため、管理サイトに反映されません。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [位置]

 Google マップは、Internet Explorer 11 のサポートを終了します。2022 年 1 月 21 日以降、地図を表示したとき警告メッセージが表示されます。

位置 (XXXXXXXXXX PC) ✕

通信日時: 2019/09/18 22:14:22  同期

1 受信日時: 2019/09/18 21:16:45 測位日時: 2019/09/18 21:14:54 北緯35.65412° 東経139.75366° **2** 1/6 

3 

4 Googleマップで表示

項番	項目	説明
1	測位情報	以下の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ●受信日時 管理サイトが端末の位置情報を取得した日時が表示されます。 ●測位日時 端末が保持している位置情報を測位した日時が表示されます。 ●北緯 測位した位置の北緯が表示されます。 ●東経 測位した位置の東経が表示されます。
2	位置情報履歴	対象の端末が取得した位置情報の履歴を確認できます。 位置情報の履歴は最大 100 件まで表示されます。 例えば、「1/38」と表示されている場合は、履歴が 38 件あるうちの、最新の履歴が表示されていることを示しています。   をクリックして、履歴の表示を切り替えることができます。

項番	項目	説明
3	地図	位置情報が地図で表示されます。 📍 が表示されている位置が、地図上の端末の位置です。
4	[Google マップで表示]	クリックすると、新しいウィンドウで Google マップとして表示されます。

◆Windows 端末の位置情報の諸条件

Windows 端末から位置情報を受信するための動作条件、位置情報測位契機、位置情報送信契機は以下のとおりです。内容を確認し、位置情報の受信を行ってください。

 測位結果の情報は確実性を保証できる情報ではありません。

 測位条件は端末の仕様に準じます。

項番	項目	条件
1	動作条件	以下の動作条件が満たされている必要があります。 ●端末が管理サイトと通信できる状態である必要があります。 ●端末の設定で位置情報の取得を許可している必要があります。
2	位置情報測位契機	以下のいずれかの契機で測位します。 ●端末の位置情報設定が OFF から ON に変更したとき ●管理サイトと同期時 ●端末を移動したときなど、OS が位置情報の測位をしたとき ●位置情報管理の「エージェントによる測位」で設定した契機  「位置情報管理」689 ページ ●他アプリが位置情報を測位したとき  同期処理自体にかかる時間は、負荷状態や通信状態に依存します。
3	位置情報送信契機	管理サイトと同期時に位置情報を送信します。  同期処理自体にかかる時間は、負荷状態や通信状態に依存します。

4.1.10.30 (情報 – Windows) Zone Management

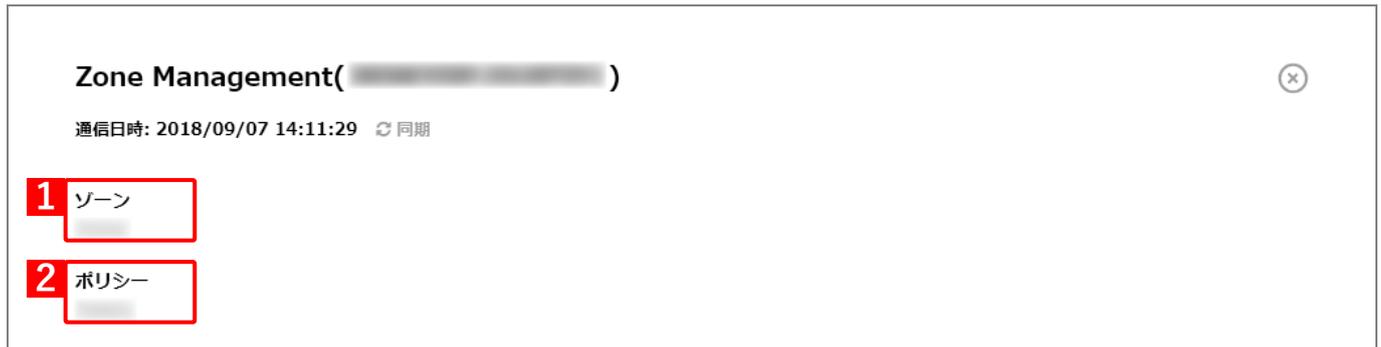
対象の Windows 端末に反映されている「ゾーンポリシー構成」の設定セットの登録内容を表示します。表示された「ゾーン」と「ポリシー」の名称から、「ゾーンポリシー構成」の内容を把握することができます。

詳細については、以下を参照してください。

 「Zone Management」756 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 機器の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [他の情報を見る] → [Zone Management]



項番	項目	説明
1	ゾーン	ゾーンの状態が表示されます。
2	ポリシー	ゾーンに適用されているポリシーが表示されます。

4.1.10.31 (情報 – Windows) Microsoft Update 更新プログラム

対象の Windows 端末に行われた Microsoft Update の更新状態と、更新プログラムの内容を確認することができます。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の機器名または「詳細」の  → 詳細画面の「情報」の [他の情報を見る] → [Microsoft Update 更新プログラム]



項番	項目	説明
1	Microsoft Update 更新プログラム	Microsoft Update 更新プログラム名が表示されます。
2	製品ファミリー	製品ファミリー名が以下のいずれかで表示されます。 ● 「Windows Update」、「Office Update」、「その他」
3	状態	アップデートの状態が以下のいずれかで表示されます。 ● 「適用済み」、「未適用」、「失敗」

4.2 ネットワークマップ

各端末の IP アドレスを表示して、どのネットワークの配下で利用しているかをマップ上で確認することができます。

4.2.1 ネットワークマップの見かた

ネットワークマップでは、ネットワーク別に端末のアイコン（機器アイコン）をマップ上に表示しており、目的の端末がどのネットワークに属しているかを確認することができます。

また、機器アイコンをクリックすると、端末の詳細情報を表示することができます。

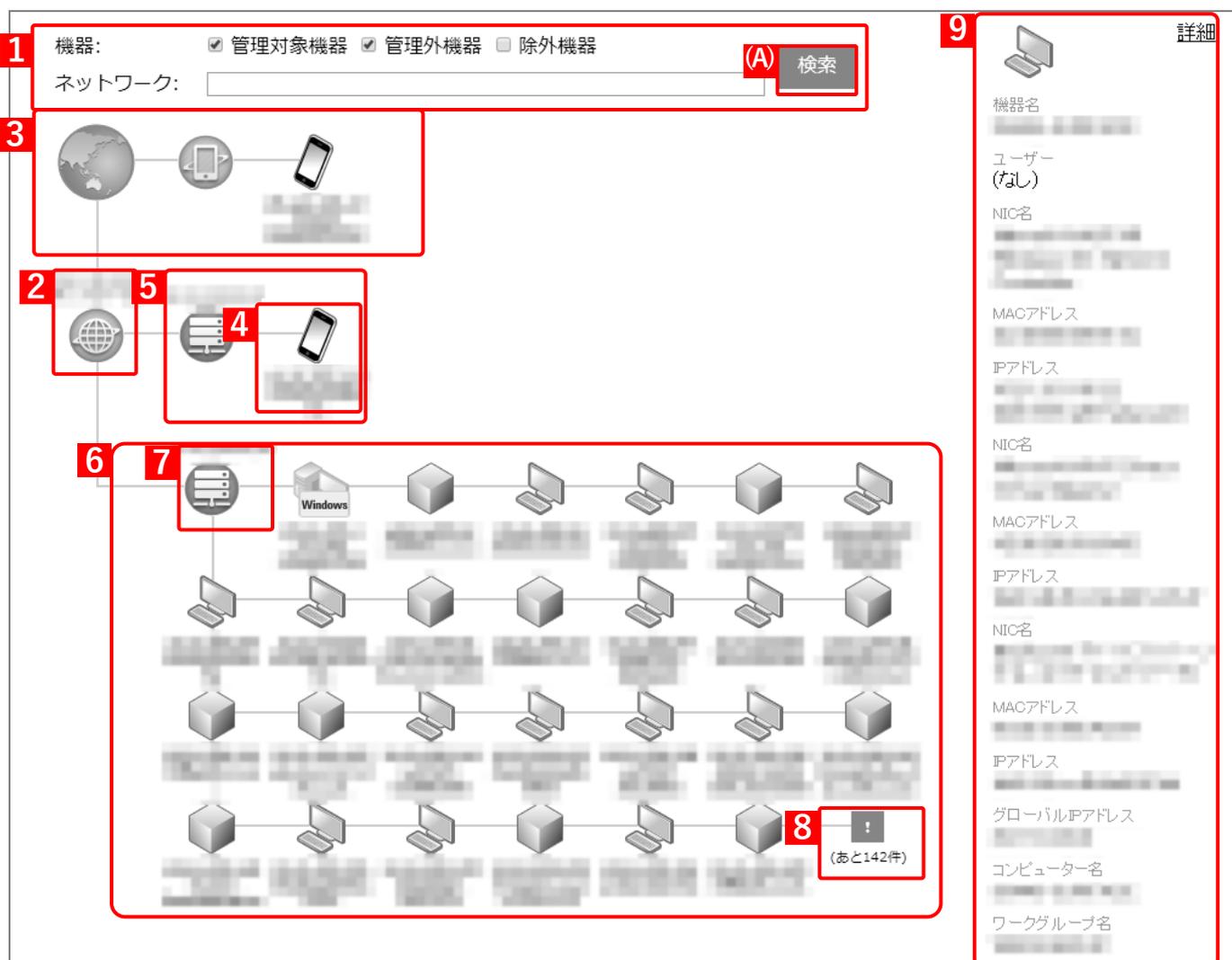
その他のマップ上の各要素の詳細については、以下を参照してください。

 「機器アイコン一覧」 239 ページ

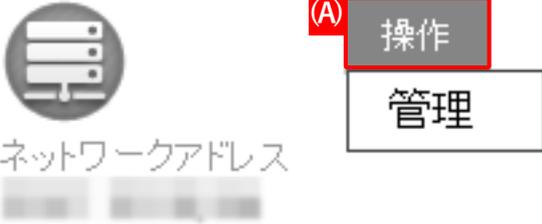
-  管理外機器は、Windows エージェントがインストールされている端末がネットワーク内に存在する場合に検出されます。
-  ARM 64 ビット版では、同一ネットワーク内の機器情報の収集は動作しません。
-  USB 無線 LAN アダプターを使用してネットワークに接続している Windows 端末は、検出されない場合があります。
-  ネットワークで「管理外機器の検出」が無効になっている場合、そのネットワーク配下の管理外機器は検出されません。また、管理外機器で 2 日以上通信がない機器はマップ上から削除されます。
-  機器の検出に時間がかかる場合があります。ネットワークの状況によっては、すべての機器が検出できない場合もあります。
-  USB LAN アダプターや、仮想ネットワークアダプターを使用してネットワークに接続している場合、機器が正しく検出されない場合があります。

◆画面

表示操作 [機器] → [ネットワークマップ]



項番	名称	説明
1	検索機能	<p>検索機能を利用し、表示するネットワークマップを絞り込みます。機器の種類を選択、または、ネットワーク名を入力し、(A) [検索] をクリックします。どちらか片方だけの入力でも検索できます。再度すべてのネットワークを表示するにはブラウザを再読み込み、または機器、ネットワーク名入力欄を空欄にし、(A) [検索] をクリックします。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 管理対象機器、管理外機器、除外機器の説明については、以下を参照してください。</p> <p>📖 「機器の種類」 238 ページ</p>
2	グローバルネットワークアイコン	<p>グローバルネットワークの IP アドレスとネットワーク名が表示されます。クリックすると詳細情報が【9】に表示されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ネットワーク名は設定した場合のみ表示されます。ネットワーク名の設定方法は、以下を参照してください。</p> <p>📖 「ネットワーク」 829 ページ</p>

項番	名称	説明
3	モバイルネットワーク	以下の端末が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・3G、4G/LTE、5G、Wi-Fi 接続されている Android 端末 ・3G、4G/LTE、5G、Wi-Fi 接続されている iOS 端末 ・3G、4G/LTE、5G、Wi-Fi および有線で接続されている Windows 端末  iOS 端末は Wi-Fi 接続の場合でも、3G、4G/LTE、5G 接続ができる端末であればモバイルネットワークに表示されます。
4	機器アイコン	機器アイコンをクリックすると詳細情報が【9】に表示されます。
5	iOS/Mac OS ローカルネットワーク	3G、4G/LTE、5G 接続ができない iOS や Mac OS は、ローカルネットワーク (IP アドレスなし) に表示されます。
6	ローカルエリアネットワーク	ローカルエリアネットワークに接続されている機器が表示されます。
7	ローカルエリアネットワークアイコン	ローカルエリアネットワークの IP アドレスとネットワーク名が表示されます。クリックすると詳細情報が【9】に表示されます。ネットワーク名は設定した場合のみ表示されます。ネットワーク名の設定方法は、以下を参照してください。  「ネットワーク」829 ページ
8	[さらに読み込む]	機器は 4 行表示されています。4 行以上ある場合は、[さらに読み込む] をクリックすると、表示行数が倍になります。
9	詳細情報	マップ上でクリックされた機器やネットワークの詳細情報が表示されます。表示される情報は機器やネットワークによって異なります。[詳細] をクリックすると、機器やネットワークの詳細画面が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ●機器の場合 [詳細] をクリックすると、機器画面が表示され、機器情報の編集や設定の変更などを行えます。機器画面については、詳細は以下を参照してください。  「機器の管理情報」93 ページ ●管理外機器の場合 (A) [操作] が表示されます。管理外機器を管理対象機器に設定する場合は、以下を参照してください。  「管理外機器を管理対象機器に設定」242 ページ ●ネットワークの場合 <ul style="list-style-type: none"> ・詳細 [詳細] をクリックすると、ネットワーク画面が表示され、ネットワーク名などの変更を行えます。ネットワーク画面でまだ登録を行っていないネットワークの場合は、(A) [操作] が表示されます。[管理] をクリックし、[管理] を選択すると、ネットワーク画面が表示されます。ネットワーク画面の詳細については、以下を参照してください。  「ネットワーク」829 ページ 

4.2.1.1 機器の種類

管理サーバーで管理される端末の種類とその状態を説明します。

機器の種類	説明
ライセンス認証済み機器	機器にエージェントがインストールされており、ライセンス認証済みの機器。
ライセンス認証待ち機器	これからライセンス認証を行う予定がある機器で、機器検出機能により検出され、ライセンス認証待ち機器と登録されたもの。 <input checked="" type="checkbox"/> 管理外機器をライセンス認証待ち機器へ登録する方法については、以下を参照してください。 👉 「管理外機器を管理対象機器に設定」 242 ページ
ライセンス認証対象機器	「ライセンス認証済み機器」と「ライセンス認証待ち機器」の総称。
資産管理対象機器	機器検出機能により検出された機器のうち、資産管理対象機器と登録されたもの。ラベリングのみができます。 <input checked="" type="checkbox"/> 管理外機器を資産管理対象機器へ変更する方法については、以下を参照してください。 👉 「管理外機器を管理対象機器に設定」 242 ページ
管理対象機器	「ライセンス認証対象機器」と「資産管理対象機器」の総称。
管理外機器	機器検出機能により検出された、マップ上表示のみができる機器。 ・マップに表示されただけで、機器ライセンスを使用することはありません。管理対象機器へ変更すると機器ライセンスが使用されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 管理外機器を管理対象機器へ変更する方法については、以下を参照してください。 👉 「管理外機器を管理対象機器に設定」 242 ページ <input checked="" type="checkbox"/> 管理外機器を除外機器へ変更する方法については、以下を参照してください。 👉 「管理外機器を除外機器に設定」 244 ページ <input checked="" type="checkbox"/> 1 企業あたりの管理外機器の上限は 10,000 までです。上限を超えて検出された場合は、最終検出日時が新しい管理外機器を優先してマップに表示します。 <input checked="" type="checkbox"/> 管理外機器は機器レポートに表示されません。機器レポートについては、以下を参照してください。 👉 「機器レポート」 289 ページ <input checked="" type="checkbox"/> 管理外機器は無通信検知の対象外です。無通信検知については、以下を参照してください。 👉 「通知設定」 764 ページ
除外機器	管理外機器をマップ上非表示の指定とした機器。 <input checked="" type="checkbox"/> 除外機器を管理外機器に戻す方法については、以下を参照してください。 👉 「管理外機器を除外機器に設定」 244 ページ

4.2.1.2 機器アイコン一覧

管理サイトのネットワークマップに表示される各種の機器アイコンについて説明します。

◆Android 端末

アイコン	端末	アイコン	端末
	GALAXY Tab		スマートグラス
	FOLIO 100		その他
	LifeTouch		

◆iOS 端末

アイコン	端末	アイコン	端末
	iPhone		その他
	iPad		

◆Windows 端末

アイコン	端末	アイコン	端末
	タブレット		ノート PC
	デスクトップ PC		その他

◆Mac OS 端末

アイコン	端末
	Mac

◆資産管理限定機器 (AV 系)

アイコン	端末	アイコン	端末
	ネット TV 端末		オーディオ

アイコン	端末	アイコン	端末
	レコーダー		プレイヤー
	STB		プロジェクター
	AV アンプ		フォトフレーム
	デジタルカメラ		AV 系その他
	デジタルビデオカメラ		

◆資産管理限定機器（PC系）

アイコン	端末	アイコン	端末
	デスクトップ		プリンター
	ノート PC		タブレット
	ストレージ		スマートフォン
	PDA		PC 系その他

◆資産管理限定機器（娯楽系）

アイコン	端末	アイコン	端末
	据置ゲーム機		家庭用ロボット
	ポータブルゲーム機		娯楽系その他

◆資産管理限定機器（通信系）

アイコン	端末	アイコン	端末
	携帯電話		PLC モデム
	IP 電話		無線 LAN モデム
	ルーター		同軸ケーブルモデム
	FAX		通信系その他
	スイッチングハブ		

◆資産管理限定機器（くらし系）

アイコン	端末
	くらし系その他

 くらし系は、資産管理限定機器を新規作成し、種別で以下の項目を選んだ場合に表示されるアイコンです。
 エアコン、冷蔵庫、洗濯機、照明、電子レンジ、Web カメラ、ゲートウェイ、ドアホン、センサー、換気扇、ブラインド、シャッター、雨戸、散水器、給湯器、便座、電気錠、太陽光発電、床暖房、ポット、IH 調理器、炊飯器、掃除機、くらし系その他

 「画面（新規作成：「資産管理対象機器」を選択した場合）」91 ページ

◆資産管理限定機器（その他）

アイコン	端末
	その他

4.2.2 管理外機器を管理対象機器に設定

管理対象外機器を管理対象機器に設定します。

機器の種類については、以下を参照してください。

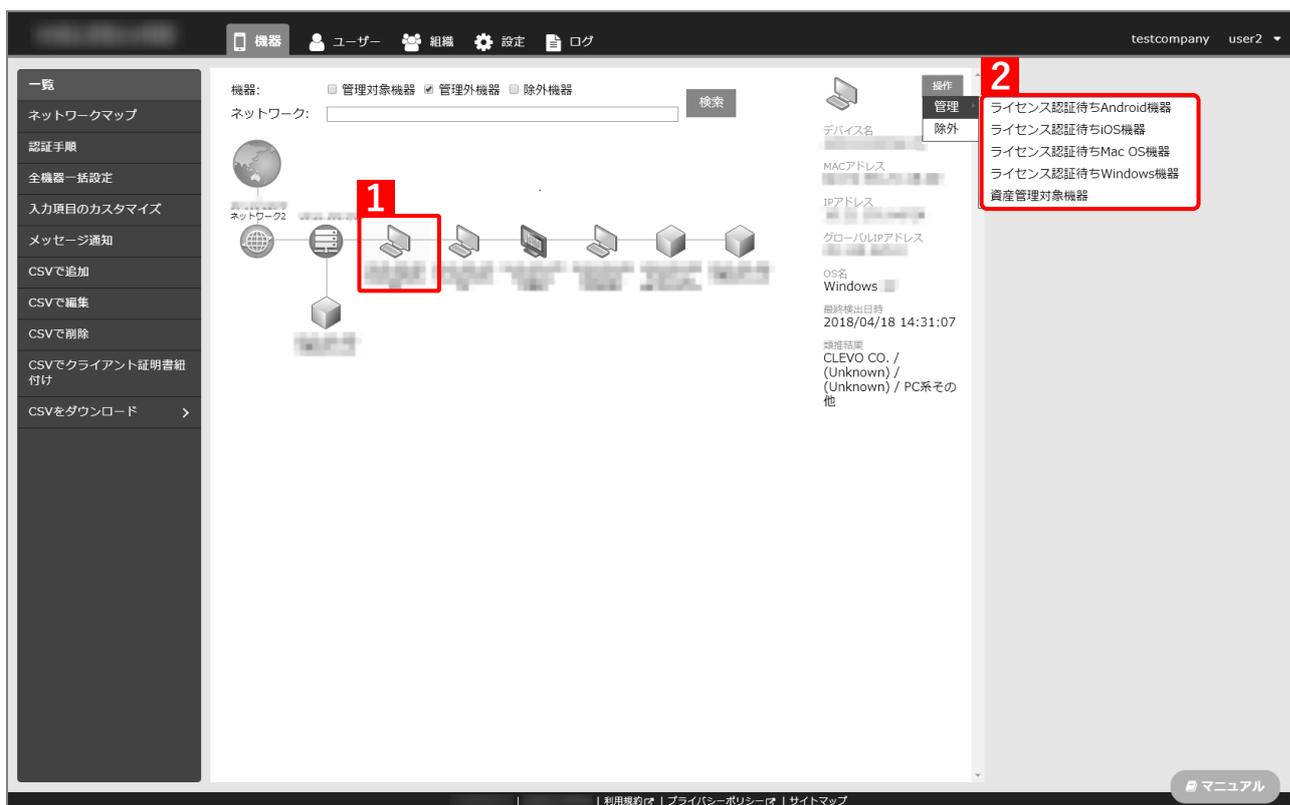
 「機器の種類」 238 ページ

[1] [機器] → [ネットワークマップ] → 管理外機器をクリックします。

 管理外機器が表示されていない場合は、検索機能で「管理外機器」にチェックを入れて、[検索] をクリックしてください。

[2] 詳細情報の [操作] → [管理] → [ライセンス認証待ち XXXX 機器] または「資産管理対象機器」を選択します。

⇒ 機器の新規作成画面が表示されます。



The screenshot displays the management console interface. On the left, a sidebar contains navigation options such as 'ネットワークマップ' (Network Map) and '管理外機器' (External Devices). The main area shows a network map with a red box labeled '1' highlighting a specific device. To the right, a detailed view of the selected device is shown, with a red box labeled '2' highlighting the '操作' (Action) menu, specifically the '管理' (Manage) option. Below the '管理' option, a list of device types is displayed, including 'ライセンス認証待ちAndroid機器' (Android device pending license authentication), 'ライセンス認証待ちiOS機器' (iOS device pending license authentication), 'ライセンス認証待ちMac OS機器' (Mac OS device pending license authentication), 'ライセンス認証待ちWindows機器' (Windows device pending license authentication), and '資産管理対象機器' (Asset management target device).

[3] 機器情報を入力します。

[4] [保存] をクリックします。

⇒対象の機器が管理対象機器に変更されます。

The screenshot displays the '機器' (Devices) management interface. The main content area shows a table of devices with columns: 機器名 (Device Name), OS, 電話番号 (Phone Number), ユーザー (User), 組織 (Organization), 通信日時 (Communication Time), and 詳細 (Details). The table lists 21 items. On the right, the '機器の新規作成' (New Device Creation) modal is active, containing the following fields:

- 機器名 (Device Name): [Input field]
- 所属 (Affiliation):
 - ユーザー (User)
 - 組織 (Organization)
- 機器カスタム項目A (Device Custom Item A): (未分類) (Unclassified)
- MACアドレス (端末識別用) (MAC Address (Device Identification)): [Input field]
- 電話番号 (端末識別用) (Phone Number (Device Identification)): [Input field]
- IMEI/MEID (端末識別用) (IMEI/MEID (Device Identification)): [Input field]

A red box labeled '3' highlights the form fields, and another red box labeled '4' highlights the '保存' (Save) button at the bottom of the modal.

4.2.3 管理外機器を除外機器に設定

管理対象外機器を管理対象機器に設定します。

機器の種類については、以下を参照してください。

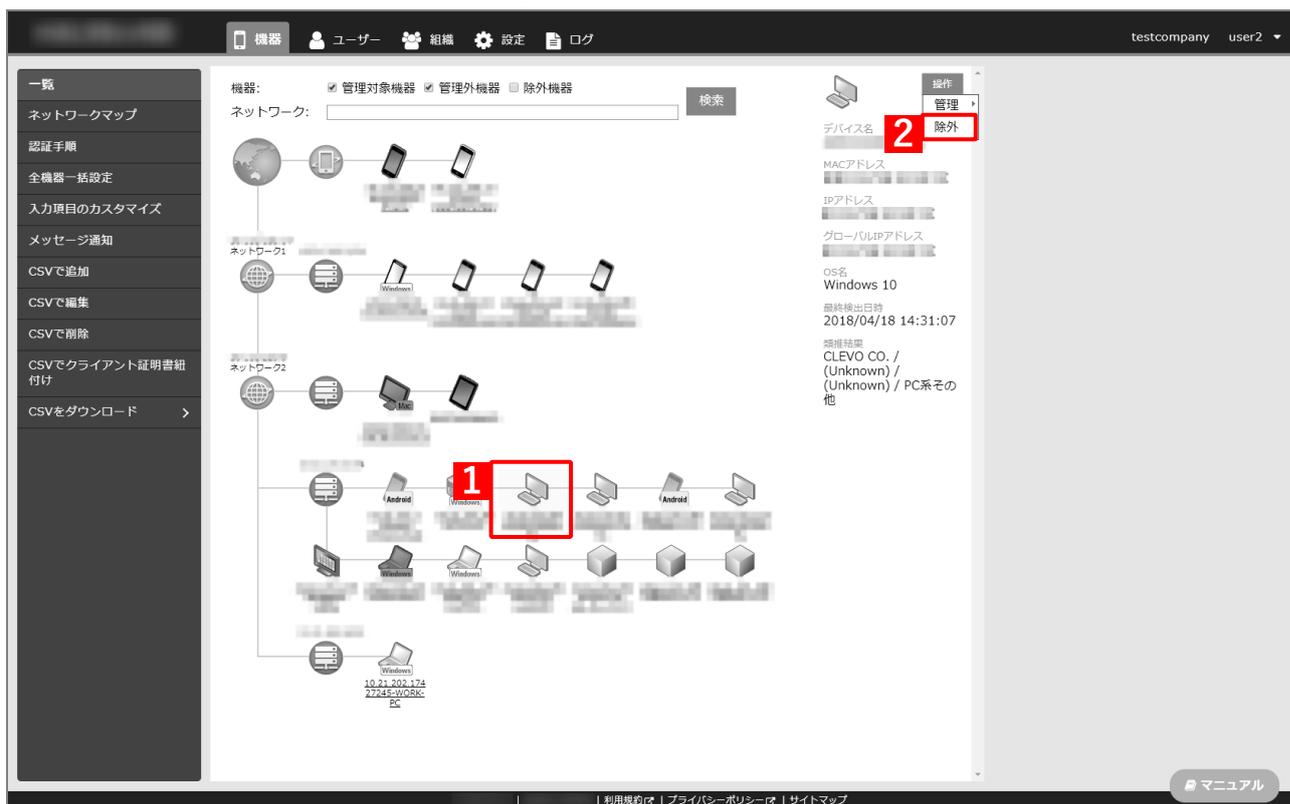
 「機器の種類」 238 ページ

[1] [機器] → [ネットワークマップ] → 管理外機器をクリックします。

 管理外機器が表示されていない場合は、検索機能で「管理外機器」にチェックを入れて、[検索] をクリックしてください。

[2] 詳細情報の [操作] → [除外] を選択します。

⇒ 対象の機器が除外機器に変更されます。



The screenshot displays a web-based interface for device management. On the left, a sidebar contains navigation options such as '一覧' (List), 'ネットワークマップ' (Network Map), and '認証手順' (Authentication Procedure). The main area shows a network map with various devices connected. A red box labeled '1' highlights a specific device in the map. On the right, a detailed view of the selected device is shown, including fields for 'デバイス名' (Device Name), 'MACアドレス' (MAC Address), 'IPアドレス' (IP Address), 'グローバルIPアドレス' (Global IP Address), 'OS名' (OS Name), '最終検出日時' (Last Detection Time), and '検出結果' (Detection Result). A red box labeled '2' highlights the '操作' (Action) menu, which includes options like '管理' (Manage) and '除外' (Exclude).

4.2.4 除外機器を管理外機器に設定

除外機器を管理外機器に設定します。

機器の種類については、以下を参照してください。

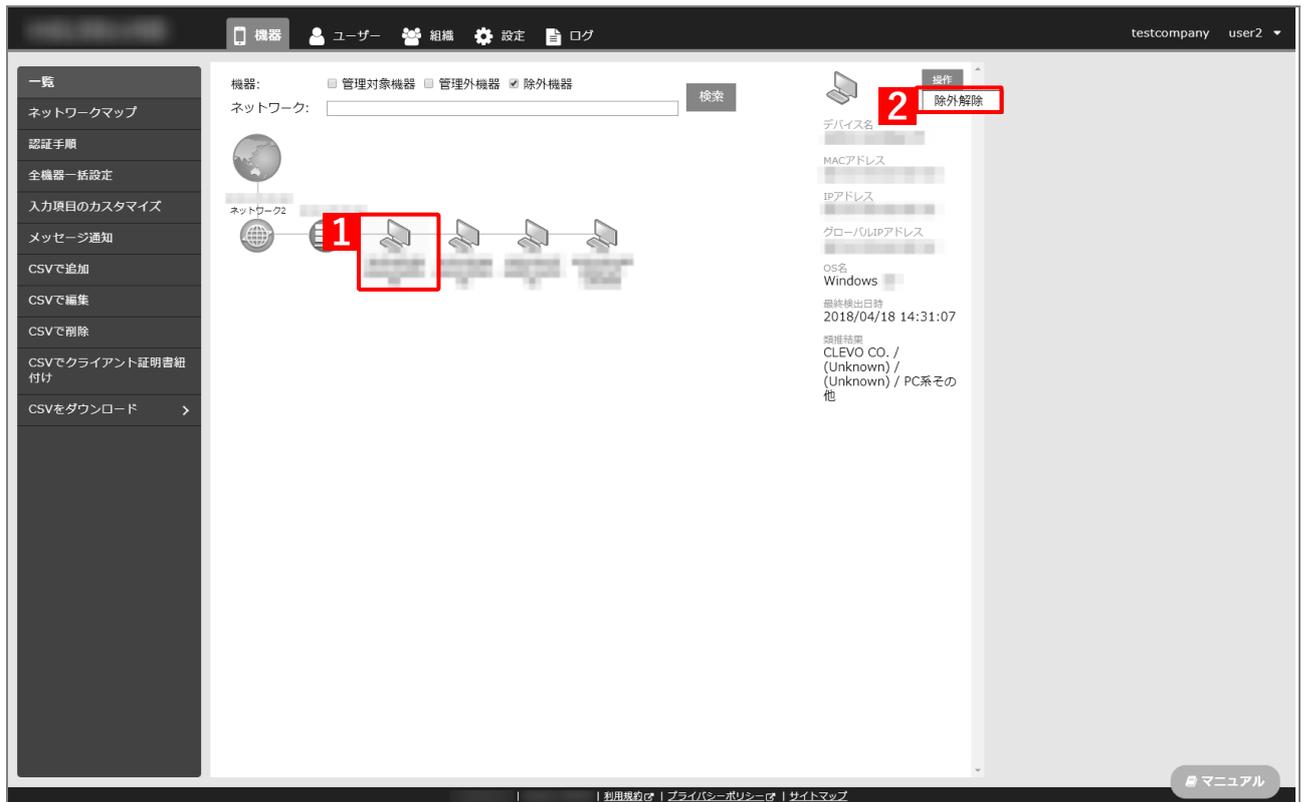
 「機器の種類」 238 ページ

[1] [機器] → [ネットワークマップ] → 除外機器を選択します。

 除外機器が表示されていない場合は、検索機能で「除外機器」にチェックを入れて、[検索] をクリックしてください。

[2] 詳細情報の [操作] → [除外解除] をクリックします。

⇒ 対象の機器が、対象外機器に変更されます。



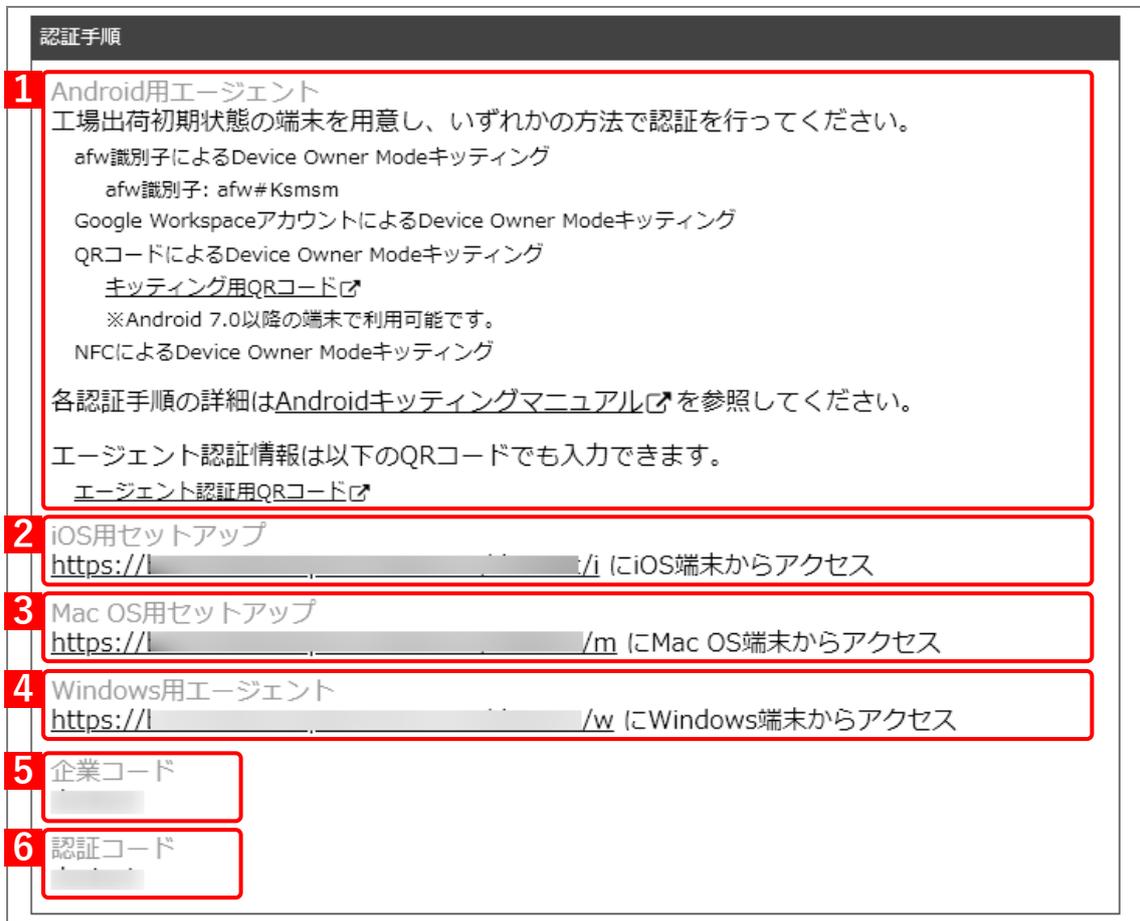
The screenshot displays the '機器' (Devices) management page. The left sidebar contains navigation options such as 'ネットワークマップ' (Network Map) and '除外機器' (Excluded Devices). The main area shows a network map with a red box labeled '1' highlighting a specific device. The right panel displays details for the selected device, including 'デバイス名' (Device Name), 'MACアドレス' (MAC Address), 'IPアドレス' (IP Address), 'グローバルIPアドレス' (Global IP Address), 'OS名' (OS Name), and '最終検出日時' (Last Detection Time). A red box labeled '2' highlights the '除外解除' (Remove Exclusion) button in the '操作' (Action) column.

4.3 認証手順

各 OS のエージェントアプリのダウンロード先や、企業コード、認証コードを確認することができます。

◆画面

表示操作 [機器] → [認証手順]



項番	項目	説明
1	Android 用エージェント	<p>Android エージェントの認証方法が表示されます。</p> <p> 各認証手順の詳細については以下を参照してください。</p> <p> 『Android キットティングマニュアル』</p> <p>以下のいずれかの方法で認証を行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●afw 識別子による Device Owner Mode キットティング <ul style="list-style-type: none"> afw 識別子は「afw#ksmsm」です。 ●Google Workspace アカウントによる Device Owner Mode キットティング ●QR コードによる Device Owner Mode キットティング <ul style="list-style-type: none"> [キットティング用 QR コード] をクリックし、表示された QR コードを読み込むことで、Device Owner Mode キットティングを行えます。 Android 7.0 以上の端末で利用できます。 ●NFC による Device Owner Mode キットティング <ul style="list-style-type: none"> Android 6.0～9 の NFC 対応端末で利用できます。
2	iOS 用セットアップ	<p>iOS エージェントのライセンス認証先の URL が表示されます。iOS 端末でライセンス認証先の URL を表示して、エージェントのライセンス認証をします。iOS 端末の操作については、以下を参照してください。</p> <p> 『iOS キットティングマニュアル』</p>

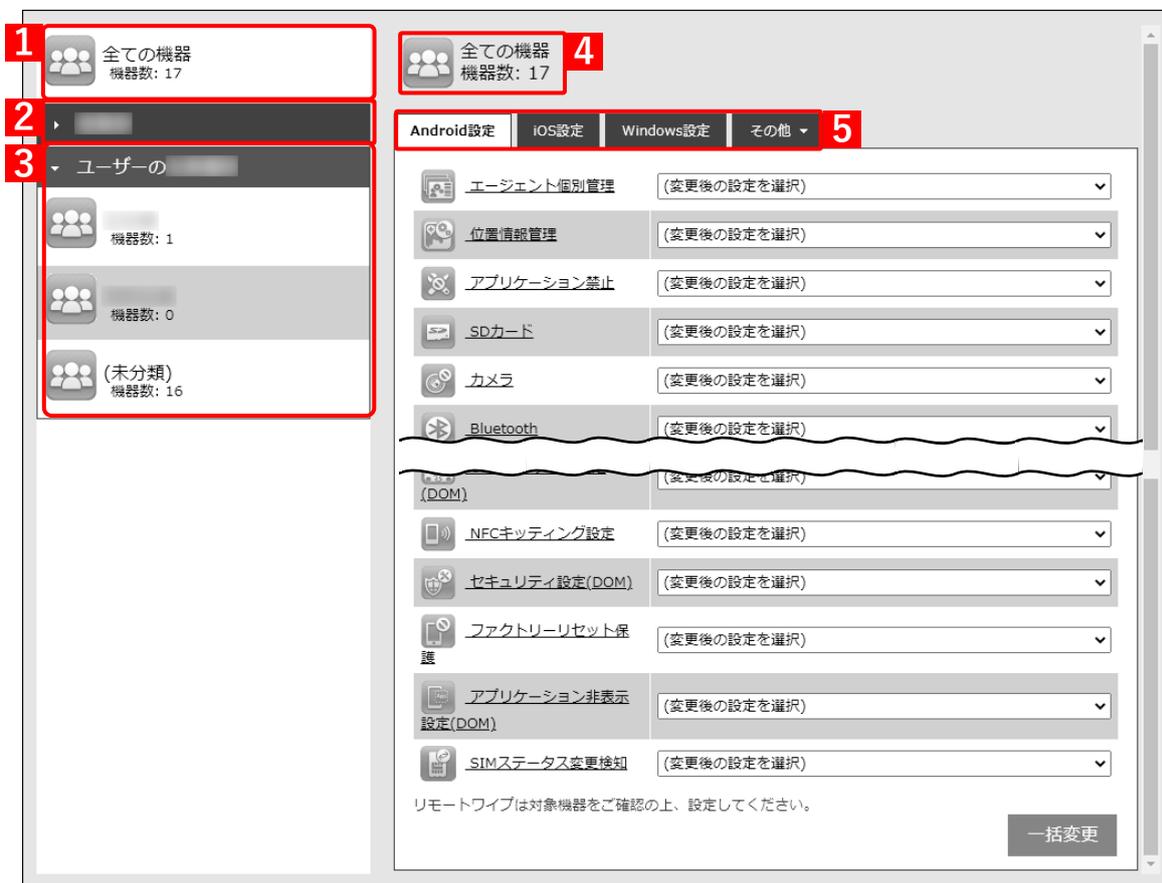
項番	項目	説明
3	Mac OS 用セットアップ	Mac OS エージェントのライセンス認証先の URL が表示されます。Mac OS 端末でライセンス認証先の URL を表示して、エージェントのライセンス認証をします。Mac OS 端末の操作については、以下を参照してください。  『Mac OS キットティングマニュアル』
4	Windows 用エージェント	Windows エージェントのダウンロード先の URL が表示されます。Windows 端末でダウンロード先の URL を表示して、エージェントをダウンロードします。Windows 端末の操作については、以下を参照してください。  『Windows キットティングマニュアル』
5	企業コード	企業コードが表示されます。各エージェントの認証操作で使用するコードです。
6	認証コード	認証コードが表示されます。各エージェントの認証操作で使用するコードです。

4.4 全機器一括設定

OS ごとに設定した各機能の設定セットを、対象の機器に一括で反映することができます。
また、各種のリモート操作を、対象の機器に一括で行うこともできます。

◆画面

表示操作 [機器] → [全機器一括設定]



項番	項目	説明
1	対象機器条件	クリックすると、対象となるすべての機器に、設定セットを反映します。 [機器] や [ユーザー] の [入力項目のカスタマイズ] で項目を追加していない場合は、この条件のみ表示されます。
2	対象機器条件 (機器)	[機器] の [入力項目のカスタマイズ] で、[分類] タブの項目を追加した場合に表示されます。 リストメニューから条件を選択すると、対象となるすべての機器に設定セットを反映します。 ✎ [入力項目のカスタマイズ] の [分類] タブの詳細については、以下を参照してください。 📖 「[分類] タブ」 270 ページ

項番	項目	説明
3	対象機器条件（ユーザー）	<p>[ユーザー] の [入力項目のカスタマイズ] で、[分類] タブの項目を追加した場合に表示されます。</p> <p>リストメニューから条件を選択すると、対象となるすべての機器に設定セットを反映します。</p> <p> ユーザーの対象機器条件を表示するには、ユーザーと機器を紐づけする必要があります。ユーザーと機器の紐づけの詳細については、以下を参照してください。</p> <p> 「機器の新規作成」 86 ページ</p> <p> [入力項目のカスタマイズ] の [分類] タブの詳細については、以下を参照してください。</p> <p> 「[分類] タブ」 334 ページ</p>
4	対象機器	項番 1、2、3 で選択した機器の条件と数が表示されます。
5	OS タブ	各 OS に適用する設定セットの選択や、リモート操作の内容を設定します。

4.4.1 [Android 設定] タブ

◆画面

表示操作 [機器] → [全機器一括設定] → [Android 設定] タブ

全ての機器
機器数: 21

Android設定 iOS設定 Windows設定 その他 ▾

1	エージェント個別管理	(変更後の設定を選択) ▾	2
	位置情報管理	(変更後の設定を選択) ▾	
	アプリケーション禁止	(変更後の設定を選択) ▾	
	Secure Shield	(変更後の設定を選択) ▾	
	CA証明書管理	(変更後の設定を選択) ▾	
	ゾーンポリシー構成	(変更後の設定を選択) ▾	
	ウイルス対策機能	(変更後の設定を選択) ▾	
	OSアップデート設定 (DOM)	(変更後の設定を選択) ▾	
	NFCキッティング設定	(変更後の設定を選択) ▾	
	セキュリティ設定(DOM)	(変更後の設定を選択) ▾	
	ファクトリーリセット保 護	(変更後の設定を選択) ▾	
	アプリケーション非表示 設定(DOM)	(変更後の設定を選択) ▾	
	SIMステータス変更検知	(変更後の設定を選択) ▾	

リモートワイプは対象機器をご確認の上、設定してください。

3 一括変更

項番	項目	説明
1	機能名	各機能名が表示されます。アイコンまたは機能名のリンクをクリックすると、該当の設定に切り替わります。
2	(変更後の設定を選択)	<p>一括で適用したい機能がある場合、適用する設定セットを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各機能の設定名 各機能で作成済みの設定セットを適用したいときは、その設定名をリストボックスから選択して設定します。 ●(設定なし) 各機能の設定を外します。 <input checked="" type="checkbox"/> 設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合、端末の動作については、以下を参照してください。  「各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作」 844 ページ ● (変更後の設定を選択) この項目が設定されている機能に対しては、一括変更は行われません。 <input checked="" type="checkbox"/> 「各機能の設定名」または「(設定なし)」を設定して、項番 3 [一括変更] を実行したあとは、初期値の「(変更後の設定を選択)」に戻ります。
3	[一括変更]	<p>クリックして、確認画面で [OK] をクリックすると、「(変更後の設定を選択)」で選択した設定セットが、一括で Android 端末に適用されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 機器に反映されるまでの時間は、サーバーや機器の通信状態に依存するため、お急ぎの場合は、機器ごとに設定をし、同期を行ってください。  「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ  「機器との同期」 96 ページ</p>

4.4.2 [iOS 設定] タブ

◆画面

表示操作 [機器] → [全機器一括設定] → [iOS 設定] タブ

全ての機器
機器数: 21

Android設定 iOS設定 Windows設定 その他 ▾

1	構成プロファイル	(変更後の設定を選択) ▾	2
	ローミング設定	(変更後の設定を選択) ▾	
	アプリケーション配信	(変更後の設定を選択) ▾	
	シングルAPPモード	(変更後の設定を選択) ▾	
	アプリケーション検知	(変更後の設定を選択) ▾	
	Webフィルタリング	(変更後の設定を選択) ▾	
	Web閲覧履歴	(変更後の設定を選択) ▾	
	お気に入り	(変更後の設定を選択) ▾	
	ADE定義プロファイル	(変更後の設定を選択) ▾	
	ホーム画面レイアウト	(変更後の設定を選択) ▾	
	SIMステータス変更検知	(変更後の設定を選択) ▾	

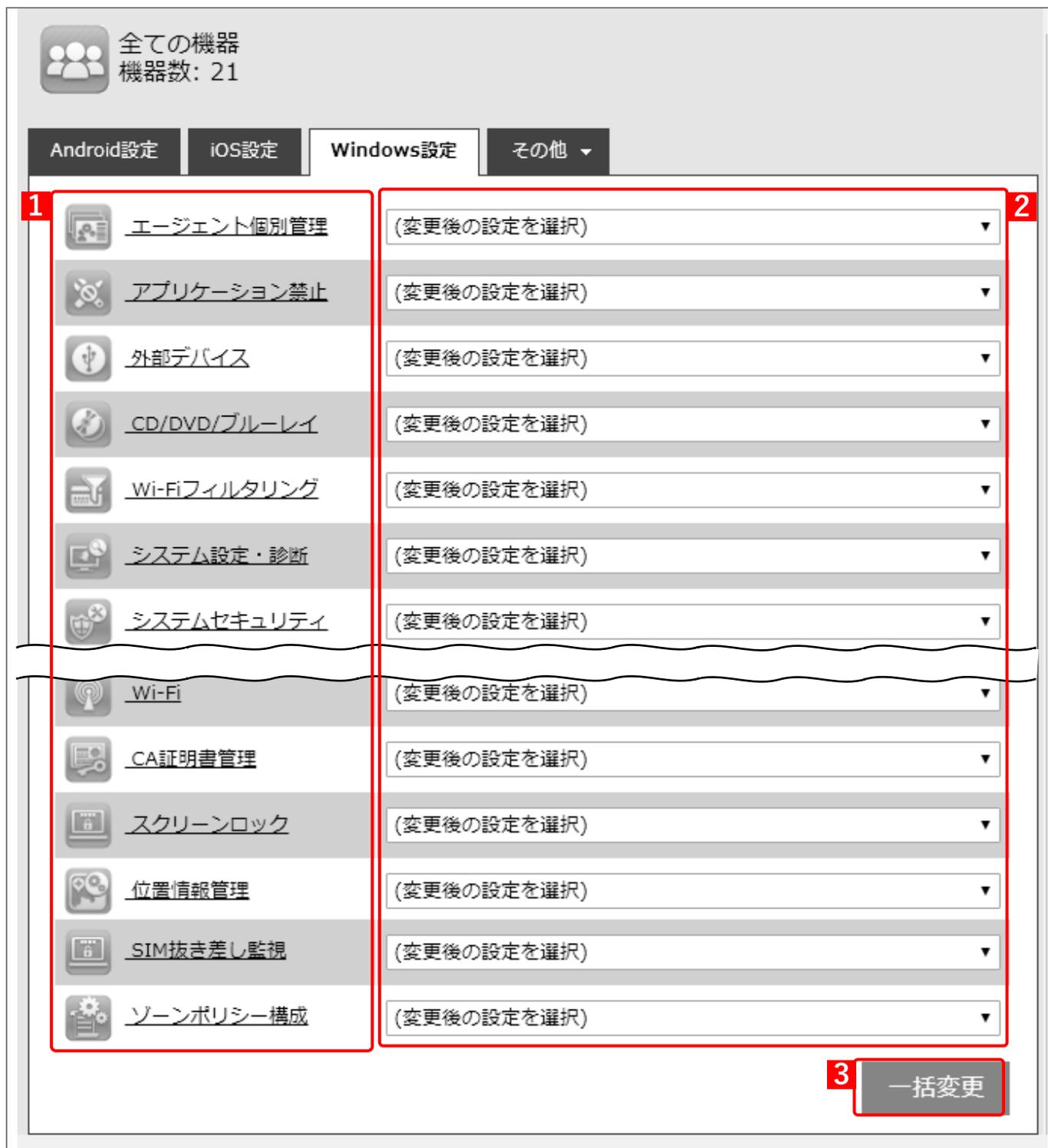
3 一括変更

項番	項目	説明
1	機能名	各機能名が表示されます。アイコンまたは機能名のリンクをクリックすると、該当の設定に切り替わります。
2	(変更後の設定を選択)	<p>一括で適用したい機能がある場合、適用する設定セットを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各機能の設定名 各機能で作成済みの設定セットを適用したいときは、その設定名をリストボックスから選択して設定します。 ●(設定なし) 各機能の設定を外します。 <input checked="" type="checkbox"/> 設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合、端末の動作については、以下を参照してください。  「各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作」 844 ページ ● (変更後の設定を選択) この項目が設定されている機能に対しては、一括変更は行われません。 <input checked="" type="checkbox"/> 「各機能の設定名」または「(設定なし)」を設定して、項番 3 [一括変更] を実行したあとは、初期値の「(変更後の設定を選択)」に戻ります。
3	[一括変更]	<p>クリックして、確認画面で [OK] をクリックすると、「(変更後の設定を選択)」で選択した設定セットが、一括で iOS 端末に適用されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 機器に反映されるまでの時間は、サーバーや機器の通信状態に依存するため、お急ぎの場合は、機器ごとに設定をし、同期を行ってください。  「(設定 - iOS) 設定の割り当て」 120 ページ  「機器との同期」 96 ページ</p>

4.4.3 [Windows 設定] タブ

◆画面

表示操作 [機器] → [全機器一括設定] → [Windows 設定] タブ



項番	項目	説明
1	機能名	各機能名が表示されます。アイコンまたは機能名のリンクをクリックすると、該当の設定に切り替わります。

項番	項目	説明
2	(変更後の設定を選択)	<p>一括で適用したい機能がある場合、適用する設定セットを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各機能の設定名 各機能で作成済みの設定セットを適用したいときは、その設定名をリストボックスから選択して設定します。 ●(設定なし) 各機能の設定を外します。 <input checked="" type="checkbox"/> 設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合、端末の動作については、以下を参照してください。 <input type="checkbox"/> 「各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作」 844 ページ ● (変更後の設定を選択) この項目が設定されている機能に対しては、一括変更は行われません。 <input checked="" type="checkbox"/> 「各機能の設定名」または「(設定なし)」を設定して、項番 3 [一括変更] を実行したあとは、初期値の「(変更後の設定を選択)」に戻ります。
3	[一括変更]	<p>クリックして、確認画面で [OK] をクリックすると、「(変更後の設定を選択)」で選択した設定セットが、一括で Windows 端末に適用されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 機器に反映されるまでの時間は、サーバーや機器の通信状態に依存するため、お急ぎの場合は、機器ごとに設定をし、同期を行ってください。</p> <p><input type="checkbox"/> 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ</p> <p><input type="checkbox"/> 「機器との同期」 96 ページ</p>

4.4.4 [その他▼] タブ／Android リモート操作

すべての Android 端末に、以下のリモート操作を行うことができます。

- リモートロック
- ロック解除
- リモートワイプ
- スクリーンロックパスワード変更
- Google Play ストアのキャッシュ削除

◆画面

表示操作 [機器] → [全機器一括設定] → [その他▼] タブ → [Android リモート操作]

全ての機器
機器数: 2

Android設定 iOS設定 Windows設定 その他 ▼

1

リモートロック

ロックメッセージ

ロック時の警告音

鳴動する

鳴動しない

解除方法

リモートロックの解除コード

解除させない

スクリーンロックパスワード

▲ 解除コードを許可しないリモートロックは、対象機器のエージェントバージョンが7.3以降の場合のみ対応です。

▲ エージェントバージョンが7.3未満の場合、対象機器のリモートロック設定が「ロックしない」設定のとき、本画面でのリモートロックも解除されてしまいます。対象機器のリモートロック設定を「設定なし」としてご利用ください。

▲ 端末が暗号化されていない状態であるため、データ損失・流出の危険性があります。

実行

2

ロック解除

実行

3

リモートワイブ

SDカードを初期化する

ファクトリーリセット保護を無効化する

▲ 対象機器のデータを消去します。実行後に取り消すことはできません。よろしければ「同意する」にチェックを入れて「実行」ボタンをクリックしてください。

同意する

実行

4

スクリーンロックパスワード変更

新規パスワード

新規パスワード(再入力)

▲ 何も入力せずに変更を実行した場合は、スクリーンロックを解除します。

実行

5

Google Play ストアのキャッシュ削除

▲ 本機能はAndroid 9以上の端末のみ対応しています。

▲ 本操作により、「Google Play ストア」アプリ内で変更したすべての設定が初期値に戻ります。設定を初期値から変更している場合は、本操作終了後に端末から再設定してください。

▲ アプリ配信設定を変更後に本操作を実施すると、端末側に表示されるアプリ配信設定の内容が一時的に変更前の表示になる場合があります。本操作を行うときは注意してください。端末やインストールされたアプリに影響はありません。

実行

257

項番	項目	説明
1	リモートロック	<p>Android 端末にリモート操作で画面ロックをかけます。以下の項目を設定したあとに、[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると対象の機器にロックがかかります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロックメッセージ <ul style="list-style-type: none"> リモートロックがかかったときに、端末に表示するメッセージを 200 文字以内で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 解除方法で「スクリーンロックパスワード」を選択した場合は、入力したメッセージの文字数にかかわらず、端末に表示されるのは、最大で全角 18 文字までです。 ●ロック時の警告音 <ul style="list-style-type: none"> リモートロックした端末から警告音を鳴らすかどうかを以下から選択します。 <input checked="" type="checkbox"/> 警告音は、端末で設定している通知音を利用します。音量は、最大です。 <input checked="" type="checkbox"/> 本機能は Android 4.0 以上に対応しています。 ・鳴動する <ul style="list-style-type: none"> リモートロックした端末を鳴動させます。リモートロック画面が表示されている間は鳴動が続きます。 <input checked="" type="checkbox"/> イヤホン利用時の動作は機種によって異なります。 <input checked="" type="checkbox"/> ハードウェアスイッチによりサイレントモードになっている端末は鳴動しませんのでご注意ください。 ・鳴動しない <ul style="list-style-type: none"> リモートロックした端末を鳴動させません。 ●解除方法 <ul style="list-style-type: none"> 解除コードによるロック解除を許可するかどうかを以下から選択します。 <input checked="" type="checkbox"/> エージェントバージョン 7.3 未満の場合は、対象機器のリモートロック設定が「ロックしない」設定のとき、本画面でのリモートロックも解除されてしまいます。対象機器のリモートロック設定を「設定なし」として利用してください。 ・リモートロックの解除コード <ul style="list-style-type: none"> 本製品独自のロック画面を表示してロックします。「リモートロックの解除コード」を端末から入力する、もしくは管理サイトからリモートロック解除を行うことでロック画面を解除することができます。 ・解除させない <ul style="list-style-type: none"> 本製品独自のロック画面を表示してロックします。管理サイトからリモートロック解除を行うことでロック画面を解除することができます。 <input checked="" type="checkbox"/> 「解除させない」の設定は、対象機器のエージェントバージョン 7.3 以上に対応しています。 ・スクリーンロックパスワード <ul style="list-style-type: none"> Android OS 標準のスクリーンロック画面が表示されます。管理サイトからリモートロック解除を行うことはできず、利用者が事前に設定したスクリーンロックパスワードによって解除できます。 <input checked="" type="checkbox"/> パスワードがかかっていない場合は第三者が自由にデータへアクセスできてしまうため、パスワードポリシー設定を行っていない環境では、必ず「リモートロックの解除コード」または「解除させない」を選択してください。 <input checked="" type="checkbox"/> ロックメッセージは、端末に表示されるのは、最大で全角 18 文字までです。 <input checked="" type="checkbox"/> 端末の通知の設定が「すべての通知内容を表示する」になっていない場合は、メッセージは表示されません。 <input checked="" type="checkbox"/> 「スクリーンロックパスワード」の設定項目は、対象の端末が Android 6.0 以上で、エージェントバージョン 9.3 以上に表示されます。
2	ロック解除	<p>[実行] をクリックすると、リモートロックがかかっているすべての Android 端末のロックが解除されます。</p>

項番	項目	説明
3	リモートワイプ	<p>すべての Android 端末のデータを消去します。</p> <p>以下の項目を設定したあとに、[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると次回同期時（手動同期含む）に機器の初期化を行います。ご利用には細心の注意を払ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●SD カードを初期化する 端末に挿入されている SD カードも一緒に初期化する場合は、チェックを入れます。 ●ファクトリーリセット保護を無効化する ファクトリーリセット保護を無効化したい場合は、チェックを入れます。 <input checked="" type="checkbox"/>ファクトリーリセット保護とは、Android 端末を初期化したとき、Google アカウントの認証が必要になることで、キッティングが完了できないようにする機能です。Android 端末の盗難防止になります。 ●同意する リモートワイプを実行する場合は、必ずチェックを入れます。 <input checked="" type="checkbox"/>端末のデータ消去が開始されると、途中で中止できません。
4	スクリーンロックパスワード変更	<p>スクリーンロックの解除用パスワードを変更します。以下の項目を設定してから、[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると、パスワードが変更されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新規パスワード 新しいパスワードを 16 文字以内の半角英数字、記号で入力します。 ●新規パスワード(再入力) 「新規パスワード」で入力したパスワードと同じパスワードを入力します。 <input checked="" type="checkbox"/>「新規パスワード」と「新規パスワード(再入力)」に何も入力しないでパスワードの変更を行った場合は、スクリーンロックが解除されます。 <input checked="" type="checkbox"/>端末にパスワードの変更が適用されると、その旨のメッセージが表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/>Android 5.0 の端末の場合、スクリーンロックパスワード変更にて、パスワードを空に設定してもパスワード入力画面が表示されてしまいます。端末を再起動し、Android 5.1 以上に端末をバージョンアップ後、再度設定し直してください。Android 5.1 以上にバージョンアップできない場合は、端末を再起動することでパスワード入力画面は表示されなくなります。
5	Google Play ストアのキャッシュ削除	<p>Android 端末の Google Play ストアのキャッシュを削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/>エージェントバージョン 9.14.1 以上かつ Android 9 以上の端末が対象です。 <input checked="" type="checkbox"/>本操作により、「Google Paly ストア」アプリ内で変更したすべての設定が初期値に戻ります。設定を初期値から変更している場合は、本操作終了後に端末から再設定してください。「アプリの自動更新」を [アプリを自動更新しない] に設定している場合や、企業で Wi-Fi の使用を制限している場合は、初期値の [Wi-Fi 接続時のみ] に設定されるため、特に注意してください。 <input checked="" type="checkbox"/>アプリ配信設定を変更後に本操作を実施すると、端末側に表示されるアプリ配信設定の内容が一時的に変更前の表示になる場合があります。本操作を行うときは、注意してください。端末やインストールされたアプリに影響はありません。

4.4.5 [その他▼] タブ/iOS リモート操作

すべての iOS 端末に、以下のリモート操作を行うことができます。

- リモートロック
- リモートワイプ
- リモートワイプ (管理領域)
- パスコード削除
- 紛失モード
- 位置情報取得
- 紛失モード解除
- アクティベーションロック解除
- OS アップデート
- リモート再起動
- リモートシャットダウン

 「紛失モード」を設定すると、エージェント認証をしていない端末でも、端末の場所を特定できます。

◆画面

表示操作 [機器] → [全機器一括設定] → [その他▼] タブ → [iOS リモート操作]

全ての機器
機器数: 5

Android設定 iOS設定 Windows設定 その他▼

1 リモートロック

ロックメッセージ

電話番号

※ロックスクリーンに表示する電話番号です。

実行

2 リモートワイプ 同意する 実行

▲ 対象機器のデータを消去します。実行後に取り消すことはできません。よろしければ「同意する」にチェックを入れて「実行」ボタンをクリックしてください。

3 リモートワイプ(管理領域) 同意する 実行

▲ この操作により本サービスからインストールされた削除防止非運用用プロファイルおよび管理対象アプリが削除されます。実行後は端末が管理外になり、操作を取り消すことはできません。よろしければ「同意する」にチェックを入れて「実行」ボタンをクリックしてください。

4 パスコード削除 同意する 実行

▲ 対象機器のパスコードを削除し、スワイプのみでロックを解除できるようにします。実行後に取り消すことはできません。よろしければ「同意する」にチェックを入れて「実行」ボタンをクリックしてください。

5 紛失モード ※iOS 9.3以上の監視対象端末のみ有効

ロックメッセージ

電話番号

※ロックスクリーンに表示する電話番号です。

脚注

▲ 紛失モード中に端末の再起動を行うと、Wi-Fi通信ができなくなるため、解除するにはモバイルデータ通信が必要になります。よろしければ「実行」ボタンをクリックしてください。

実行

6 位置情報取得 ※紛失モード中のみ有効 実行

7 紛失モード解除 実行

8 アクティベーションロック解除 同意する 実行

▲ 対象機器のアクティベーションロックを解除します。実行後に取り消すことはできません。よろしければ「同意する」にチェックを入れて「実行」ボタンをクリックしてください。

9 OSアップデート 同意する 実行

OSアップデートの動作

- OSのダウンロードまたはインストール
- OSのダウンロードのみ
- ダウンロード済みのOSをインストール

▲ 対象機器のOSをアップデートします。実行後に取り消すことはできません。よろしければ「同意する」にチェックを入れて「実行」ボタンをクリックしてください。

10 リモート再起動 同意する 実行

▲ リモート再起動を実行します。実行後に取り消すことはできません。また、対象機器にパスコードが設定されている場合、次回起動時にパスコードが入力されるまでWi-Fiに接続できません。よろしければ「同意する」にチェックを入れて「実行」ボタンをクリックしてください。

11 リモートシャットダウン 同意する 実行

▲ リモートシャットダウンを実行します。実行後に取り消すことはできません。また、対象機器にパスコードが設定されている場合、次回起動時にパスコードが入力されるまでWi-Fiに接続できません。よろしければ「同意する」にチェックを入れて「実行」ボタンをクリックしてください。

項番	項目	説明
1	リモートロック	<p>すべての iOS 端末にリモート操作で OS 標準のロック画面を表示します。以下の項目を設定したあとに、[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると対象の機器にロック画面が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロックメッセージ リモートロックがかかったときに、端末に表示するメッセージを 200 文字以内で入力します。 ●電話番号 リモートロックがかかったときに、端末に表示する電話番号を 20 文字以内の半角数字、記号（「-」、「+」、「*」、「#」、「,」）で入力します。 <p> iOS 端末にパスコードが設定されていない場合、デフォルトのロック解除画面だけが表示されます。このため、「ロックメッセージ」、「電話番号」で設定された連絡情報をユーザーが確認できません。リモートロックを行う前に、対象の機器の詳細画面の「情報」の「デバイス」で「スクリーンロック」の「パスコード保護」が有効になっていることを必ず確認してください。</p> <p> 「(情報-iOS) デバイス」192 ページ</p> <p> iOS 7.0 以下の OS では、「ロックメッセージ」と「電話番号」は表示されません。</p>
2	リモートワイプ	<p>すべての iOS 端末のデータを消去します。</p> <p>以下の項目を設定したあとに、[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると次回同期時（手動同期含む）に機器の初期化を行います。ご利用には細心の注意を払ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●同意する リモートワイプを実行する場合は、必ずチェックを入れます。 <p> 端末のデータ消去が開始されると、途中で中止できません。</p>
3	リモートワイプ (管理領域)	<p>すべての iOS 端末の管理領域のデータだけを消去します。この操作を行うことで、本製品からインストールされた削除防止が適用されていない構成プロファイルおよび管理対象アプリが削除されます。以下の項目を設定したあとに、[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると、端末の管理領域のデータ消去が開始されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●同意する リモートワイプ（管理領域）を実行する場合は、必ずチェックを入れます。 <p> 端末の管理領域のデータ消去が開始されると、途中で中止できません。</p>
4	パスコード削除	<p>iOS 標準のロック画面から復帰するときにパスコードが設定されている場合は、その設定を無効にします。以下の項目を設定したあとに、[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると、端末のパスコードの設定がオフに変更されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●同意する パスコード削除を実行する場合は、必ずチェックを入れます。
5	紛失モード	<p>Apple が提供している iOS の紛失モードに対応します。</p> <p>紛失、盗難にあった場合は、遠隔ロックをかけることやメッセージを表示できます。以下の項目を設定したあとに、[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると、端末が紛失モード中になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロックメッセージ 紛失モード中になったときに、端末に表示するメッセージを 200 文字以内で入力します。 ●電話番号 紛失モード中になったときに、端末に表示する電話番号を 20 文字以内の半角数字、「-」、「+」、「*」、「#」、「,」で入力します。 ●脚注 ロックメッセージや電話番号以外に表示する内容があれば、30 文字以内で入力します。 <p> iOS 9.3 以上の監視対象端末のみ有効です。</p> <p> 「ロックメッセージ」または「電話番号」のいずれかは入力必須です。</p> <p> 紛失モード中は低電力モードになります。</p>

項番	項目	説明
6	位置情報取得	<p>紛失モードを実行したあとに、[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると、紛失モード中の iOS 端末から位置情報を取得します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 位置情報取得を実行する場合は、紛失モードを実行する必要があります。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> エージェント認証をしていない端末でも端末の位置情報を取得します。</p>
7	紛失モード解除	<p>紛失モードを実行したあとに、[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると、紛失モードが解除されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 紛失モード解除を実行する場合は、紛失モードを実行する必要があります。</p>
8	アクティベーションロック解除	<p>アクティベーションロックの設定を解除します。以下の項目を設定したあとに、[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると、端末のアクティベーションロックが解除されます。</p> <p>●同意する アクティベーションロック解除を実行する場合は、必ずチェックを入れます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 以下の4つの条件を満たしている場合に表示され、解除ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・監視対象端末である。 ・端末の機器タブに表示されるアクティベーションロックステータスが「有効」になっている。 ・エージェント共通管理のアクティベーションロックの設定が「許可する」になっている。 ・端末の Bypass Code が取得できている（機器タブの Bypass Code が表示されている）。
9	OS アップデート	<p>すべての iOS 端末の OS をアップデートします。以下の項目を設定したあとに、[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると対象の機器の OS がダウンロードのみ、もしくはアップデートがされます。</p> <p>●OS アップデートの動作</p> <p>●OS のダウンロードまたはインストール</p> <p>●OS のダウンロードのみ</p> <p>●ダウンロード済みの OS をインストール</p> <p>●同意する OS のアップデートを実行する場合は、必ずチェックを入れます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> OS アップデートができなかった場合は、原因がログに表示されますので、機器のログを確認してください。iOS 端末が以下の状態の場合は、アップデートできないことがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アップデートをするためパソコンにつなが必要がある ・ダウンロードまたはインストールに必要な空き容量がない ・ダウンロードまたはインストールに必要なバッテリー容量がない ・ダウンロード可能なネットワーク接続状態ではない（モバイル通信など） ・通話のためインストールが中断された ・未知のエラーのためインストールに失敗した <p><input checked="" type="checkbox"/> Shared iPad 端末にログインしている状態では、アップデートできません。ログアウトして再度 OS アップデートを実行してください。</p>
10	リモート再起動	<p>「同意する」にチェックを入れて [実行] をクリックすると、iOS 端末を一括で再起動します。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 本機能を実行すると操作を取り消すことはできません。十分に注意してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 監視対象端末で有効です。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 端末にパスコードが設定されている場合は、再起動後、パスコードを入力しないと Wi-Fi に接続することができません。</p>

項番	項目	説明
11	リモートシャットダウン	<p>「同意する」にチェックを入れて[実行]をクリックすると、iOS 端末を一括でシャットダウンします。実行するには、確認画面で [OK] をクリックします。取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none">  本機能を実行すると操作を取り消すことはできません。十分に注意してください。  監視対象端末で有効です。  端末にパスコードが設定されている場合は、再起動後、パスコードを入力しないと Wi-Fi に接続することができません。

4.4.6 [その他▼] タブ / Mac OS リモート操作

すべての Mac OS 端末に、以下のリモート操作を行うことができます。

- リモートロック
- リモートワイブ

◆ 画面

表示操作 [機器] → [全機器一括設定] → [その他▼] タブ → [Mac OS リモート操作]



項番	項目	説明
1	リモートロック	<p>すべての Mac OS 端末にリモート操作で画面ロックをかけます。[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると対象の機器にロックがかかります。</p> <ul style="list-style-type: none">  ロックがかかった端末では、解除コードを入力したあとに、Mac 本体のログイン画面に移行します。ログイン画面でパスワードの入力を求められるかどうかは、機器の設定に依存します。
2	リモートワイブ	<p>すべての Mac OS 端末を初期化します。以下の項目を設定したあとに、[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると、端末の初期化が開始されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 同意する リモートワイブを実行する場合は、必ずチェックを入れます。  端末の初期化が開始されると、途中で中止できません。

4.4.7 [その他▼] タブ／Windows リモート操作

すべての Windows 端末に、以下のリモート操作を行うことができます。

- リモートロック
 - ロック解除
 - リモートワイプ
-  リモートワイプは、[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすることで次回同期時（手動同期含む）に機器の初期化を行います。ご利用には細心の注意を払ってください。
-  各種操作が機器に反映されない場合があります。以下は反映されない場合の例です。
- ・機器の電源が入っていない
 - ・機器が電波の入らない場所にある
 - ・エージェントアプリをアンインストールしている
 - ・ライセンス解除を行っている
 - ・通話停止を行っている

◆画面

表示操作 [機器] → [全機器一括設定] → [その他▼] タブ → [Windows リモート操作]

全ての機器
機器数: 21

Android設定 iOS設定 Windows設定 その他 ▼

1 リモートロック

ロックメッセージ

実行

2 ロック解除

実行

3 リモートワイブ

- PC初期化
Windowsの「PCを初期状態に戻す」機能を実行します。Windows 10以降対応。
▲ 非対応のOSの場合はワイブできません。
- BitLocker
暗号化済みドライブの暗号化キーを削除することで、リモートワイブに相当する機能を提供します。
▲ 非対応のOSの場合や、BitLockerが有効でない場合はワイブできません。
- データ削除
ファイルの削除やドライブのフォーマットにより、リモートワイブを実行します。
▲ OSが起動できなくなります。クラウドのオンラインストレージをご利用の場合は、同期されているクラウドサービス内のデータが削除されることがあります。リモートワイブのデータ削除を実行する前に、クラウドストレージサービスのご利用アカウントを停止する処置を必ず行ってください。
▲ 実行後に取り消すことは出来ません。よろしければ「同意する」にチェックを入れて「実行」ボタンをクリックしてください。

同意する 実行

項番	項目	説明
1	リモートロック	<p>すべての Windows 端末にリモート操作で画面ロックをかけます。以下の項目を設定したあとに、[実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると対象の機器にロックがかかります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロックメッセージ リモートロックがかかったときに、端末に表示するメッセージを 200 文字以内で入力します。 ☑システムでグループポリシーが設定されてる場合は、そのグループポリシーが優先され、本機能を利用できない場合があります。グループポリシーについては、システム管理者にお問い合わせください。
2	ロック解除	<p>[実行] をクリックすると、リモートロックがかかっているすべての Windows 端末のロックが解除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☑システムでグループポリシーが設定されてる場合は、そのグループポリシーが優先され、本機能を利用できない場合があります。グループポリシーについては、システム管理者にお問い合わせください。
3	リモートワイプ	<p>対象の Windows 端末に、特定の 방법으로端末内のデータを保護したり、通常の使用ができないように厳しく制限したりします。以下の項目を設定したあと [実行] をクリックし、確認画面で [OK] をクリックすると、端末のリモートワイプが開始されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ワイプの方法 ワイプの方法を以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • PC 初期化 Windows の「PC を初期状態に戻す」機能を実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ☑Windows 10、Windows 11 に対応しています。 ☑工場出荷時のリカバリー領域が必要です。リカバリー領域がないと、リモートワイプに失敗します。 • BitLocker BitLocker で暗号化済みドライブの回復キー以外のキープロテクターを削除します。 BitLocker でのワイプを実行したあとは、端末を起動したときに BitLocker の回復キー入力画面が表示されます。回復キーを入力するまでドライブのデータにアクセスできません。 <ul style="list-style-type: none"> ☑回復キーのキープロテクターがないドライブは、BitLocker でのワイプができません。 ☑削除した回復キーを新規で作成するには、以下の URL で「構文」と「パラメーター」を参照してください。回復キーの作成方法については、システム管理者にお問い合わせください。 https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/manage-bde-protectors ☑本製品の暗号化機能を利用している場合は、暗号化機能の設定セットを無効、有効の順で割り当てて同期すると、回復キーを遠隔で新規作成することができます。 ☑BitLocker 以外の暗号化ツールを使用している場合は、本機能は使用できません。 ☑Windows 10 Pro/Enterprise/Education、Windows 11 Pro/Enterprise/Education、および Windows Server 2012 の端末に対応しています。詳細については、以下を参照してください。 「暗号化」686 ページ ☑BitLocker については、マイクロソフトのサイトを参照してください。 https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows/security/operating-system-security/data-protection/bitlocker/ ☑回復キーとは、48 桁の文字列です。回復パスワードという場合もあります。詳細については、以下を参照してください

項番	項目	説明
		<p style="text-align: center;">🔑 「(情報 - Windows) セキュリティ」 228 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> • データ削除 ファイルの削除とドライブのフォーマットによりリモートワイプを行います。データ削除が実行されるため、OS が起動しなくなることがあります。 ● 同意する リモートワイプを実行する場合は、必ずチェックを入れます。 ☑ データ削除によるリモートワイプ後も、復元技術により第三者にデータが閲覧されてしまう可能性があります。 ☑ ドライブのフォーマットは、ドライブ文字・ボリュームラベルを持つドライブが対象です。キャッシュ用途のドライブや、メーカーが設置したリカバリーディスク領域にドライブ文字・ボリュームラベルが割り当てられていると、場合は削除される可能性があります。この場合は、フォーマットしたあとで、PC 機器が再利用できなくなることがあります。 ☑ アプリの実行中にリモートワイプ（データ削除）が発生した場合、実行中のアプリにより開かれているファイルやアプリの実行ファイルが削除されずに残ってしまう可能性があります。また、これらのファイルやフォルダーが含まれるフォルダー構造も削除されない可能性があります。 ☑ ドライブレターが割り当てられていないドライブの場合、リモートワイプ（データ削除）を行うことができません。ドライブレター設定後に、リモートワイプ（データ削除）を行ってください。 ☑ 端末の初期化が開始されると、途中で中止できません。

4.5 入力項目のカスタマイズ

詳細画面に表示される管理情報に、任意の項目を追加することができます。

 「機器の詳細画面」 84 ページ

追加できる項目には、リストボックスから項目を選択する [分類] と、テキストボックスに文字を直接書き込む [自由入力] があります。

また、[分類] で追加した項目は、[全機器一括設定] 画面に表示され、対象機器の選択条件として使用することもできます。

 「全機器一括設定」 248 ページ

●追加した入力項目で一括設定を行う使用例

- ① [分類] タブで、項目名に「営業部」、グループ名に「営業 1 課」と「営業 2 課」を設定して新規作成します。

 「画面（新規作成）」 271 ページ

- ② 各機器の管理情報に表示される「営業部」の項目で「営業 1 課」と「営業 2 課」のいずれかを選択し、機器を分類項目に紐づけます。

 「機器の管理情報」 93 ページ

- ③ 全機器一括設定で、「営業部」をクリックして表示されるメニューから「営業 1 課」または「営業 2 課」を選択し、機能を一括適用します。

 「全機器一括設定」 248 ページ

4.5.1 [分類] タブ

詳細画面にリストボックスを追加することができます。

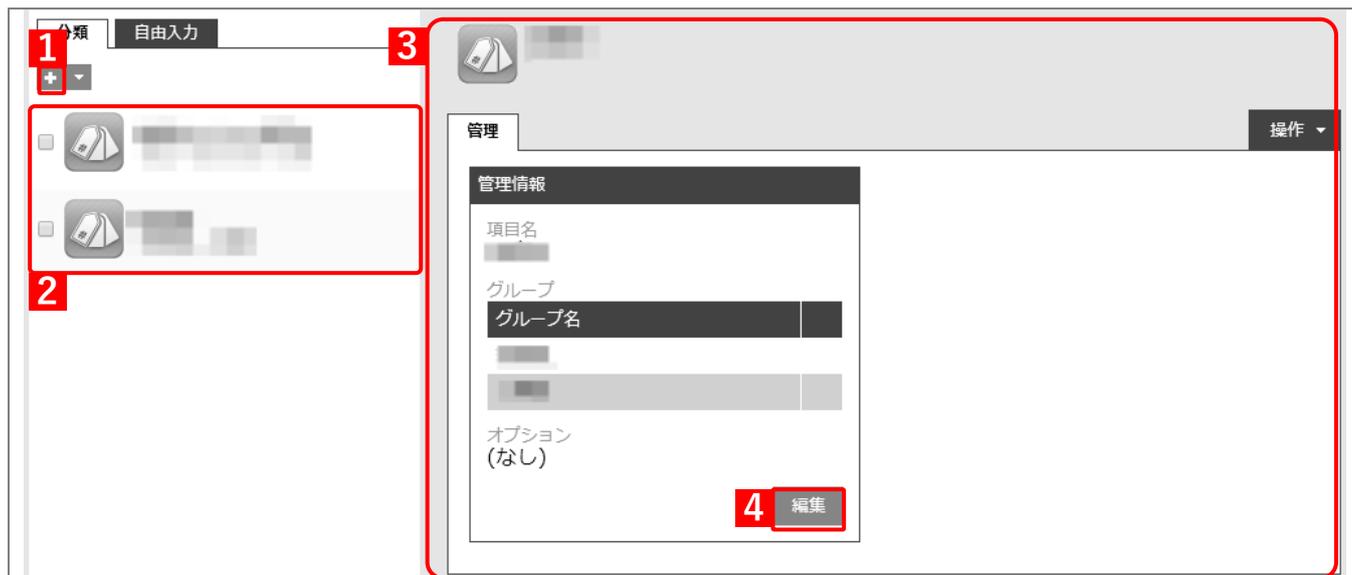
営業部の 1 課から 5 課など、追加したい情報の項目が決まっている場合に有効です。

 画面

 画面 (新規作成)

◆画面

表示操作 [機器] → [入力項目のカスタマイズ] → [分類] タブ



項番	名称	説明
1		クリックすると、分類の新規作成画面が表示されます。分類は、最大 50 件まで作成できます。カスタマイズ項目の新規作成は、以下を参照してください。  「[自由入力] タブ」 272 ページ
2	分類一覧	登録されているカスタマイズ項目の項目名が表示されます。
3	管理情報	分類一覧から選択した項目の登録内容が表示されます。
4	[編集]	クリックすると、登録されている入力項目のカスタマイズ情報を編集できます。編集できる項目は、新規作成時と同じです。

◆画面（新規作成）

表示操作 [機器] → [入力項目のカスタマイズ] → [分類] タブ → +

項番	項目	説明
1	項目名	分類の項目名を 30 文字以内で入力します。重複する項目名は登録できません。 例) 営業部
2	グループ	項目名で指定した分類の下にグループを作成します。項目内で重複するグループ名は登録できません。+ をクリックして、グループ名を 30 文字以内で入力します。最大 300 件指定できます。 例) 営業 1 課、営業 2 課
3	オプション	「機器から入力可」にチェックを入れると、端末の機器情報の変更で、項目を入力できます。

4.5.2 [自由入力] タブ

詳細画面にテキストボックスを追加することができます。

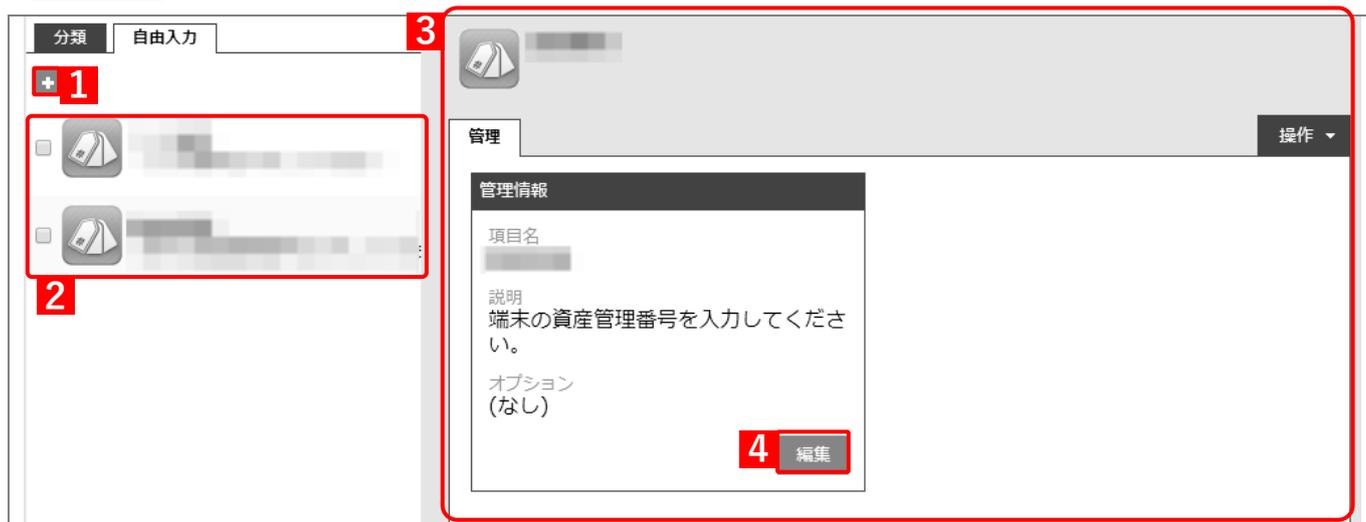
端末の資産管理番号など、追加したい情報を、任意に入力したい場合に有効です。

 画面

 画面 (新規作成)

◆画面

表示操作 [機器] → [入力項目のカスタマイズ] → [自由入力] タブ



項番	名称	説明
1		クリックすると、自由入力の新規作成画面が表示されます。自由入力は最大 50 件まで作成できます。カスタマイズ項目の新規作成は、以下を参照してください。  「[分類] タブ」 270 ページ
2	自由入力一覧	登録されている自由入力の項目名が表示されます。
3	管理情報	自由入力一覧から選択した自由入力の登録内容が表示されます。
4	[編集]	クリックすると、表示されている入力項目の管理情報を編集できます。編集できる項目は、新規作成時と同じです。

◆画面（新規作成）

表示操作 [機器] → [入力項目のカスタマイズ] → [自由入力] タブ → +

項番	項目	説明
1	項目名	入力欄の項目名を 30 文字以内で入力します。重複する項目名は登録できません。 例) 資産管理番号
2	説明	入力欄についての説明などがあれば、100 文字以内で入力します。 ☑入力した説明文は、各機器の管理情報の該当項目の入力欄の下に「※」付きで表示されます。
3	オプション	「機器から入力可」にチェックを入れると、端末の機器情報の変更で、項目を入力できます。

4.6 メッセージ通知

[オプション](#)

任意のメッセージを作成し、Android 端末と iOS 端末に配信します。

登録されているすべての Android 端末と iOS 端末への配信や、グループ単位、端末ごとの配信を行うことができます。

また、スケジュールを作成して、定期的なメッセージの配信や配信履歴の確認をすることもできます。

- グループの作成については、以下を参照してください。

 「入力項目のカスタマイズ」 269 ページ

- [機器] → [一覧] の詳細情報で、端末ごとに配信予定、または配信済みのメッセージを確認できます。

 「(情報 - Android) メッセージ」 190 ページ

 「(情報 - iOS) メッセージ」 209 ページ

 メッセージ通知は、Android 端末、iOS 端末にのみ配信することができます。選択されたグループに紐づけされている端末が Android 端末、または iOS 端末以外の場合は、配信されません。

 iOS 端末にメッセージを配信する場合は、端末に iOS エージェントのインストールが必要です。

 メッセージは、最大 50 件まで作成できます。

4.6.1 [メッセージ] タブ

オプション

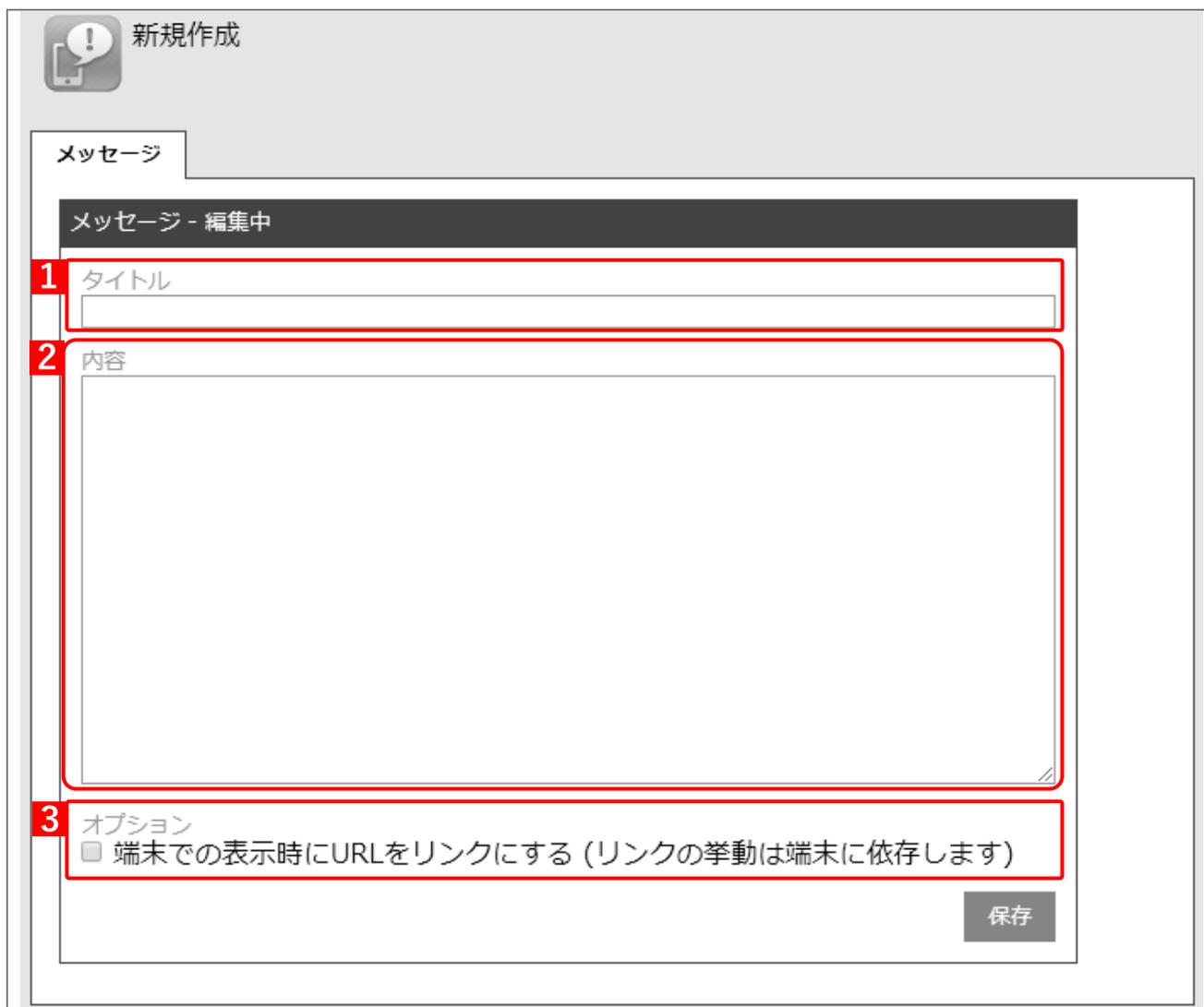
Android 端末や iOS 端末に配信するメッセージを作成、編集します。

 画面 (新規作成)

 画面

◆画面 (新規作成)

表示操作 [機器] → [メッセージ通知] → **+** (一覧から対象を選択 → [編集])



項番	項目	説明
1	タイトル	メッセージのタイトルを 30 文字以内で入力します。タイトルはメールの件名に該当します。重複したタイトルは登録できません。
2	内容	メッセージの内容を 250 文字以内 (空白、タブ、改行など含む) で入力します。内容はメールの本文に該当します。特殊文字は入力できません。
3	オプション	「端末での表示時に URL をリンクにする (リンクの挙動は端末に依存します)」にチェックを入れると、メッセージの内容に URL が含まれている場合、機器で表示したときに URL 部分がハイパーリンクとして表示されます。

◆画面

表示操作 [機器] → [メッセージ通知] → 一覧から対象を選択



項番	名称	説明
1	[配信]	<p>クリックすると配信の確認画面が表示され、確認画面で [OK] をクリックすると、登録されているメッセージをただちに配信します。</p> <p>スケジュールの指定に関係なく、必要なときに配信することができます。</p> <p> メッセージ通知が端末に配信されるまでの時間は、サーバーや端末の通信状態に依存します。</p>
2	[編集]	<p>クリックするとメッセージ内容を編集することができます。</p> <p>編集内容は新規作成と同じです。</p> <p> 「画面 (新規作成)」 275 ページ</p>

4.6.2 [配信先] タブ

オプション

メッセージの配信先を設定します。

登録されているすべての Android 端末、iOS 端末に配信するか、指定したグループ、または個別の端末に配信するかを選択できます。

☑ 「機器のグループを指定」 で設定する場合は、事前にグループを登録してください。

🔗 「入力項目のカスタマイズ」 269 ページ

☑ 「機器を指定」 で設定する場合は、メッセージを通知する Android 端末、または iOS 端末の登録が必要です。

◆画面

表示操作 [機器] → [メッセージ通知] → 一覧から対象を選択 → [配信先] タブ → [編集]

項番	項目	説明
1	一括で指定	「全ての機器」にチェックを入れると、すべての機器が配信先に指定されます。チェックされている間は、ほかの指定は行えません。 ☑ 「全ての機器」にチェックが入っている場合は、「機器のグループを指定」と「機器を指定」の指定はできません。
2	機器のグループを指定	配信先にグループを指定する場合は、 + をクリックして、リストボックスから対象のグループを選択します。最大 100 件指定できます。
3	機器を指定	配信先に機器を指定する場合は、 + をクリックして、リストボックスから対象の機器を選択します。最大 100 件指定できます。
4	[配信]	クリックすると、択中のメッセージを指定した配信先に配信します。 🔗 「画面」 276 ページ

4.6.3 [スケジュール] タブ

オプション

スケジュールを作成し、定期的にメッセージを配信します。
毎月の指定日や毎週の指定曜日ごとに配信することができます。

◆画面

表示操作 [機器] → [メッセージ通知] →メッセージを選択→ [スケジュール] タブ→ [編集]

項番	項目	説明
1	スケジュール	スケジュールを以下から選択します。 ●なし スケジュールを設定しません。 ●毎月 毎月指定した日付に配信します。「日」に1から31の半角数字を入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「日」に29以降を入力した場合は、その日付が存在しない月は月末が配信日です。 ●毎週 毎週指定した曜日に配信します。配信する曜日にチェックを入れます。複数の曜日を指定できます。
2	配信時刻	目安となる配信時刻を0から23の半角数字で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 厳密な配信時刻ではありません。通知メッセージが機器に届くまでの時間は、サーバーや機器の通信状態に依存します。
3	[配信]	クリックすると、選択中のメッセージを指定した配信先に配信します。 🏠 「画面」276 ページ

4.6.4 [配信履歴] タブ

メッセージ通知の配信履歴を確認します。配信日時ごとに、対象機器数／未受信数／未読数／既読数を確認できます。

◆画面

表示操作 [機器] → [メッセージ通知] →メッセージを選択→ [配信履歴] タブ

配信日時	対象機器	未受信	未読	既読
2018/04/18 14:52:37	2	1	0	1
2018/04/18 14:51:57	1	0	0	1

項番	項目	説明
1	配信日時	メッセージを配信した日時が表示されます。
2	対象機器／未受信／未読／既読	メッセージを配信した機器の数、そのうちの未受信、未読、既読の機器の数が表示されます。機器数をクリックすると、対象の機器の一覧画面が表示されます。
3	[配信]	クリックすると、選択中のメッセージを指定した配信先に配信します。 👉 「画面」 276 ページ

4.7 CSV で追加

CSV ファイルを利用して、複数の端末情報を一括で管理サイトに登録できます。

操作手順については、以下を参照してください。

 「CSV ファイルの共通操作」 67 ページ

 ベーシックパックプラスをご利用の認証待ち機器については、電話番号（端末識別用）、所属の変更はできません。

◆画面

表示操作 [機器] → [CSV で追加]

1. CSVファイルを準備します

「ダウンロード」ボタンをクリックしてCSVファイルをダウンロードします。
ダウンロードしたファイルの内容を編集して保存してください。

1 ダウンロード

2. CSVファイルをアップロードします

編集したCSVファイルを指定して「アップロード」ボタンをクリックしてください。
アップロード完了後、インポートの確認画面に移動します。

2 ファイルを選択 選択されていません

3 アップロード

項番	項目	説明
1	[ダウンロード]	CSV ファイルがダウンロードされます。ダウンロードした CSV ファイルに機器情報を入力し、インポート用の CSV ファイルを作成します。機器情報の入力方法については、以下を参照してください。  「インポート用の CSV ファイルの項目」 281 ページ
2	[ファイルを選択]	機器情報を入力したインポート用の CSV ファイルを選択します。
3	[アップロード]	インポート用の CSV ファイルがアップロードされます。アップロードが完了すると、インポート画面が表示されます。

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
 データの確認を中断しました。	アップロード処理中に [中断] をクリックしている。	再度アップロードを実施し、アップロード中は [中断] をクリックしないでください。
 各種エラーメッセージ ※エラーが発生している列により、エラー文言が異なります。	CSV 内の項目いずれかで、不正な値が入った状態でアップロードを行っている。	アップロード失敗画面の表内、一番右の欄のコメントに従い CSV を修正してください。

◆インポート用の CSV ファイルの項目

機器情報を CSV ファイルからインポートして追加、編集する場合、CSV ファイルに以下の項目を入力、編集して作成します。

-  CSV ファイルの 1 行目に項目名が表示されています。登録する情報は、2 行目以降に入力してください。
-  変更を使用する CSV ファイルには、登録されている機器の情報が表示されています。列と行の追加や削除は行わず、内容の修正のみ行ってください。
-  CSV ファイルの構造については、以下を参照してください。

 「インポート用の CSV ファイルの構造」68 ページ

項目名	入力方法
GUID	変更しないでください。  この項目は「CSV で編集」でダウンロードした CSV ファイルに表示されます。
[S]Android 機器	Android 端末を追加する場合は、「ON」と入力します。
[S]iOS 機器	iOS 端末を追加する場合は、「ON」と入力します。
[S]Mac OS 機器	Mac OS 端末を追加する場合は、「ON」と入力します。
[S]Windows 機器	Windows 端末を追加する場合は、「ON」と入力します。
[S]資産管理対象機器	資産管理対象機器を追加する場合は、「ON」と入力します。
[F]機器名	機器名を制御文字を含まない 100 文字以内で入力します。  すでに登録されている機器と同じ機器名にならないことを確認してください。
[S]種別	[S]資産管理対象機器を「ON」にした場合は、種別を入力します。種別については、以下を参照してください。  「画面（新規作成：「資産管理対象機器」を選択した場合）」91 ページ
[S]ユーザー	登録済みのユーザー名を入力します。
[S:iOS]構成プロファイル	登録済みの構成プロファイルの設定名を入力します。
[G]から始まる項目	「入力項目のカスタマイズ」の「分類」で登録した項目です。項目に該当する内容を入力します。  「入力項目のカスタマイズ」の「分類」で何も登録していない場合は、項目は表示されません。
[C]から始まる項目	「入力項目のカスタマイズ」の「自由入力」で登録した項目です。項目に該当する内容を入力します。  「入力項目のカスタマイズ」の「自由入力」で何も登録していない場合は、項目は表示されません。
[I]から始まる項目	変更できません。値を修正しても機器情報に反映されません。  この項目は「CSV で編集」でダウンロードした CSV ファイルに表示されます。
[P]から始まる項目	オプションパッケージを使用する場合は「ON」、使用しない場合は「空白（入力なし）」にしてください。
[S:iOS:Exchange]SSL を使用	「使用する」または「使用しない」を入力します。
[S:iOS:Exchange]過去のメールを同期	以下のいずれかを入力します。 ・「0」（無制限）、「1」（1 日）、「3」（3 日間）、「7」（1 週間）、「14」（2 週間）、「31」（1 ヶ月）
[S:iOS:Exchange]認証に OAuth を使用	「使用する」または「使用しない」を入力します。
その他の[S:iOS:Exchange]から始まる項目	項目名に該当する値を入力します。

項目名	入力方法
その他の[S:から始まる項目	設定名（設定セットの名称）を入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 設定テンプレートと競合した場合は、設定テンプレートが優先されます。

4.8 CSV で編集

登録されている機器情報をまとめて編集（変更）したい場合に使用します。

操作手順については、以下を参照してください。

 「CSV ファイルの共通操作」 67 ページ

-  ベーシックパックプラスをご利用の認証待ち機器については、電話番号（端末識別用）、所属の変更はできません。
-  あらかじめすべての機器情報が記載されている CSV ファイルをダウンロードし、Excel やメモ帳などのアプリを使用して、機器情報を編集したファイルを作成してください。

◆画面

表示操作 [機器] → [CSV で編集]

1. CSVファイルを準備します

「ダウンロード」ボタンをクリックしてCSVファイルをダウンロードします。
ダウンロードしたファイルの内容を編集して保存してください。

※項目を選択してダウンロードしたい場合は、[機器レポート](#) のCSVダウンロードを使用してください。

1 **ダウンロード**

2. CSVファイルをアップロードします

編集したCSVファイルを指定して「アップロード」ボタンをクリックしてください。
アップロード完了後、インポートの確認画面に移動します。

▲ CSVファイルをダウンロードした時点からアップロードするまでの間に、ログインしているユーザーの情報が変更された場合、変更可能な範囲や内容が変わってしまう恐れがあります。アップロードを行うユーザー自身がダウンロードした最新のCSVファイルを使っての更新を推奨します。

2 **ファイルを選択** 選択されていません

3 **アップロード**

項番	項目	説明
1	[ダウンロード]	登録されているすべての機器情報が記載されている CSV ファイルをダウンロードします。ダウンロードした CSV ファイルの編集方法については、以下を参照してください。  「インポート用の CSV ファイルの項目」 281 ページ
2	[ファイルを選択]	機器情報を編集したインポート用の CSV ファイルを選択します。
3	[アップロード]	機器情報をアップロードします。アップロードが完了すると、インポート画面が表示されます。

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
<p>▲ データの確認を中断しました。</p>	アップロード処理中に [中断] をクリックしている。	再度アップロードを実施し、アップロード中は [中断] をクリックしないでください。
<p>▲ 各種エラーメッセージ ※エラーが発生している列により、エラー文言が異なります。</p>	CSV 内の項目いずれかで、不正な値が入った状態でアップロードを行っている。	アップロード失敗画面の表内、一番右の欄のコメントに従い CSV を修正してください。

4.9 CSV で削除

CSV ファイルを利用して、複数の端末情報を一括で管理サイトから削除できます。

操作手順については、以下を参照してください。

 「CSV ファイルの共通操作」 67 ページ

 あらかじめすべての機器情報が記載されている CSV ファイルをダウンロードし、Excel やメモ帳などのアプリを使用して、機器情報を編集したファイルを作成してください。

 本機能を実行したあと、実際に機器が削除されるまで数日かかります。本機能では、削除の予約をすることになります。削除の予約をした機器は、機器一覧に取り消し線が表示されます。取り消し線が表示されている機器は、削除の予約を取り消すことができます。機器一覧の詳細については、以下を参照してください。

 「機器一覧」 79 ページ

 削除の予約をしている機器は、実際に削除されるまで機器数およびライセンスの変更はありません。

 削除の予約をしている機器は、機器レポートの「[I]削除状況」に「D」が表示されます。

 「機器レポート」 289 ページ

 削除の予約をしている機器は、シングル APP モードの設定を割り当てることはできません。

 iOS 端末にシングル APP モードの設定を適用している場合は、必ずシングル APP モードの割り当てを解除/同期を行い、端末で解除されたことを確認してから、機器を削除してください。シングル APP モードが適用されている状態で機器を削除すると、端末が操作不能になる場合があるので、注意してください。

 「シングル APP モード (監視対象のみ)」 629 ページ

◆ 画面

表示操作 [機器] → [CSV で削除]

1. CSV ファイルを準備します

「ダウンロード」ボタンをクリックして CSV ファイルをダウンロードします。

1  ダウンロード

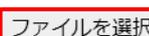
2. CSV ファイルを編集します

CSV ファイルを開き、削除したい機器の「削除フラグ」カラムには「D」を、削除を取り消したい機器の「削除フラグ」カラムには「C」を入力してください。
CSV ファイルを編集後、保存してください。

▲ 認証済みの iOS 端末にシングル APP モードの設定を適用している場合は、必ず設定の割り当て解除と同期を行い、端末側でシングル APP モードが解除されたことを確認したうえで削除を行ってください。
端末がシングル APP モードの状態でも機器を削除すると、その機器が操作不能になる恐れがあります。

3. CSV ファイルをアップロードします

編集した CSV ファイルを指定して「アップロード」ボタンをクリックしてください。
アップロード完了後、インポートの確認画面に移動します。

2  ファイルを選択 選択されていません

3  アップロード

項番	項目	説明
1	[ダウンロード]	<p>任意の場所に機器を削除するための CSV ファイルを保存します。保存した CSV ファイルを Excel やメモ帳で開き、削除したい機器名の右側にある「[S]削除フラグ」列に「D」と入力して保存します。</p> <p>すでに本機能でインポートした機器には、「[S]削除フラグ」列に「D」と入力されています。「D」を「C」に変更すると、削除の予約を取り消すことができます。</p> <p>機器名に絵文字など Shift_JIS で表示できない文字を使用していた場合は、対象の文字が「?」に変換されて、CSV ファイルがダウンロードされます。本機能を使用するうえで問題はなく、該当の機器は削除の予約ができます。</p>
2	[ファイルを選択]	項番 1 で保存した CSV ファイルを選択します。
3	[アップロード]	CSV ファイルのアップロードが開始されます。アップロードが完了すると、インポート画面が表示されます。

4.10 CSV でクライアント証明書紐付け (iOS のみ)

CSV ファイルを利用して、iOS 端末と複数のクライアント証明書を一括で紐づけることができます。

詳細は、以下を参照してください。

 「CSV ファイルの共通操作」 67 ページ

-  紐づけたいクライアント証明書を、あらかじめ管理サイトにアップロードしてください。
-  クライアント証明書は、各 iOS 端末に最大 5 つ（デフォルトのクライアント証明書 1 つ、およびその他のクライアント証明書 4 つ）まで紐づけることができます。
-  端末に紐づけられているクライアント証明書を削除した場合は、端末に割り当てられている設定が動作しなくなることがあります。
-  削除対象のクライアント証明書は、管理サイトおよび iOS 端末からも削除されます。

◆画面

表示操作 [機器] → [CSV でクライアント証明書紐付け]

この画面では、iOS 機器にクライアント証明書を紐づけることができます。

1. CSV ファイルを準備します

「ダウンロード」ボタンをクリックして CSV ファイルをダウンロードします。
ダウンロードしたファイルの内容を編集して保存してください。

1  ダウンロード

2. CSV ファイルをアップロードします

編集した CSV ファイルを指定して「アップロード」ボタンをクリックしてください。
アップロード完了後、インポートの確認画面に移動します。

2  ファイルを選択 選択されていません

3  アップロード

項番	項目	説明
1	[ダウンロード]	iOS 端末にクライアント証明書を紐づけるための CSV ファイルを任意の場所に保存します。保存した CSV ファイルを Excel やメモ帳で開き、機器名の右側にある「[S]クライアント証明書 (デフォルト)」列、および「[S]クライアント証明書[1]」～「[S]クライアント証明書[4]」列に紐づけたいクライアント証明書名を入力して保存します。
2	[ファイルを選択]	項番 1 で保存した CSV ファイルを選択します。
3	[アップロード]	CSV ファイルのアップロードが開始されます。アップロードが完了すると、インポート画面が表示されます。

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
▲ 証明書「(証明書名)」は存在しません。	管理サイト上に存在しない名前の証明書が CSV 内に記載されている状態でアップロードを実行している。	管理サイト上に存在している名前の証明書を指定して、アップロードを行ってください。
▲ 1 機器に対して証明書「(証明書名)」を 2 つ以上割り当てることができません。	CSV 内で 1 機器に対して同じ名前のクライアント証明書を複数指定した状態で、アップロードを実行している。	1 機器に対して同じ名前のクライアント証明書を複数指定しないでください。
▲ GUID の一致する iOS 機器が存在しません。	CSV ダウンロード後に、機器画面から機器を削除している。	もう一度 CSV をダウンロードし、最新の CSV 情報を編集してください。
▲ CSV ファイルのカラム名、またはカラム数を変更されています。	CSV のカラム名がデフォルトの値から書き換えられた状態で、アップロードを行っている。	再度 CSV をダウンロードし、カラム名をデフォルトの値から書き変えずに編集したものをアップロードしてください。
▲ CSV ファイルの行数の上限は（上限件数）です。	行数の上限（50,000 行）を超過した CSV ファイルをアップロードしている。	CSV ファイルの行数は 50,000 行を超えないように編集し、アップロードを行ってください。
▲ データの確認を中断しました。	処理中に [中断] をクリックしている。	再度アップロードを実施し、アップロード中は [中断] をクリックしないでください。
▲ 各種エラーメッセージ ※エラーが発生している列により、エラー文言が異なります。	CSV 内の項目いずれかで、不正な値が入った状態でアップロードを行っている。	アップロード失敗画面の表内、一番右の欄のコメントに従い CSV を修正してください。

4.11 CSV をダウンロード

機器情報のレポートや、機器にインストールされているアプリのレポートを作成し、作成したレポートを CSV ファイルとしてダウンロードすることができます。

4.11.1 機器レポート

管理情報や機器情報、設定状況を一覧で確認できます。

作成した機器レポートは、CSV ファイルとして出力することができます。

 画面

 画面 (レポート作成結果)

◆画面

表示操作 [機器] → [CSV をダウンロード] → [機器レポート]

1 レポートに含める項目 ▼

管理 位置 機器検出

Android: 機器 ネットワーク Bluetooth 位置情報 バッテリー ロック 暗号化 root化
 Device Owner Mode Android Enterprise ウイルス対策ソフト 設定 クライアント証明書
 スクリーンロックパスワード変更の事前設定

iOS: 機器 ネットワーク 監視対象 バッテリー ストレージ ロック OSアップデート情報 ローミング
 暗号化 Jailbreak その他の情報 設定 Exchange設定 VPN設定 ADE クライアント証明書
 「Appとブック」設定

Mac OS: 機器 ネットワーク ストレージ 暗号化

Windows: 機器 ネットワーク プリンター ハードウェア BIOS ストレージ ログオンユーザー ロック
 セキュリティ 設定 クライアント証明書 リモートデスクトップ

2 オプション

機器インポートで使用可能な形式にする

ライセンス認証待ちの機器を含める

「Appとブック」アカウント: (選択なし) ▼

3 **レポート作成** 選択した項目で機器レポートを作成します。

※レポート作成後、CSVダウンロードが可能です。

項番	項目	説明
1	レポートに含める項目	<p>レポートに含めたい項目にチェックを入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●管理 管理している機器の情報をレポートに含める。 ●位置 取得した位置情報をレポートに含める。 ●機器検出 機器検出した機器の情報をレポートに含める。 ●Android Android の機器レポートの条件にする項目にチェックを入れます。 ●iOS iOS の機器レポートの条件にする項目にチェックを入れます。  「Jailbreak」は iOS エージェントがインストールされていない場合は表示されません。 ●Mac OS Mac OS の機器レポートの条件にする項目にチェックを入れます。 ●Windows Windows の機器レポートの条件にする項目にチェックを入れます。   をクリックすると、メニューから OS ごとのすべての項目にチェックを入れたり、すべての項目のチェックを入れたり、外したりする操作ができます。
2	オプション	<p>必要に応じて、以下のオプションを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●機器インポートで使用可能な形式にする チェックを入れると作成したレポートを CSV ファイルに出力し、機器インポートで使用できます。 ●ライセンス認証待ちの機器を含める チェックを入れるとライセンス認証待ちの機器を含めてレポートを作成します。 ●「App とブック」アカウント 登録済みの「App とブック」ライセンスを選択すると、その「App とブック」ライセンスを保持する機器だけのレポートを作成します。
3	[レポート作成]	<p>クリックすると、レポート作成が開始されます。レポート作成が完了すると、レポート結果が画面下部に一覧表示されます。</p> <p> 「画面 (レポート作成結果)」 291 ページ</p> <p> レポート作成に時間がかかる場合があります。</p>

◆画面（レポート作成結果）

表示操作 [機器] → [CSV をダウンロード] → [機器レポート] → [レポート作成]

① レポートを作成しました。

レポートに含める項目 管理 位置 機器検出

Android: 機器 ネットワーク Bluetooth 位置情報 バッテリー ロック 暗号化 root化
 Device Owner Mode Android Enterprise ウイルス対策ソフト 設定 クライアント証明書
 スクリーンロックパスワード変更の事前設定

iOS: 機器 ネットワーク 監視対象 バッテリー ストレージ ロック ローミング 暗号化
 Jailbreak アプリカスタムモード その他の情報 設定 Exchange設定 VPN設定 ADE
 クライアント証明書 「Appとブック」設定

Mac OS: 機器 ネットワーク ストレージ 暗号化

Windows: 機器 ネットワーク プリンター ハードウェア BIOS ストレージ ログオンユーザー ロック
 セキュリティ 設定 クライアント証明書 リモートデスクトップ

オプション
 機器インポートで使用可能な形式にする
 ライセンス認証待ちの機器を含める
 「Appとブック」アカウント: (選択なし)

1 レポート更新 選択した項目で機器レポートを再度作成します。

2 CSVダウンロード 現在表示中のレポートをCSVとしてダウンロードします。

3 機器数: 11 **4** 更新日時: 2021/06/07 17:21

[I]Android機器	[I]iOS機器	[I]Mac OS機器	[I]Windows機器	[I]資産管理対象機器	[I]OSバージョン	[F]機器名	[S]種別	[I]削除
ON								
ON								
ON								

項番	項目	説明
1	[レポート更新]	対象や抽出条件を変更してからクリックすると、変更した条件でレポートを再作成できます。
2	[CSV ダウンロード]	クリックすると、現在のレポート作成結果の CSV ファイルをダウンロードします。 <input checked="" type="checkbox"/> レポート作成結果が CSV ファイルに保存されるときは文字コードは、日本語環境で SHIFT-JIS (cp932)、その他の環境で UTF-8 です。
3	機器数	レポートした機器数が表示されます。
4	更新日時	レポートの更新日時が表示されます。
5	(レポート作成結果)	対象の機器レポートの一覧が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> レポートに表示される項目は設定された条件や機器カスタム項目によって異なります。詳細については、以下を参照してください。 📄 「レポート作成結果の項目」 292 ページ

◆レポート作成結果の項目

項目名	説明
[I]または[I:から始まる項目	端末もしくは本製品の情報です。 ✎本製品の情報は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">・ユーザー氏名・ユーザー社員番号・エージェントバージョン・ゾーン・ポリシー
[S]または[S:から始まる項目	本製品で設定した情報です。
[F]から始まる項目	本製品で設定した情報です。
[G]から始まる項目	本製品で設定した情報です。
[C]から始まる項目	本製品で設定した情報です。

4.11.2 アプリケーションレポート

端末にインストールされているアプリを一覧で確認します。作成したアプリケーションレポートは、CSV ファイルとして出力することができます。

-  画面
-  画面 (App Configuration の設定値を対象にする場合)
-  画面 (レポート作成結果)

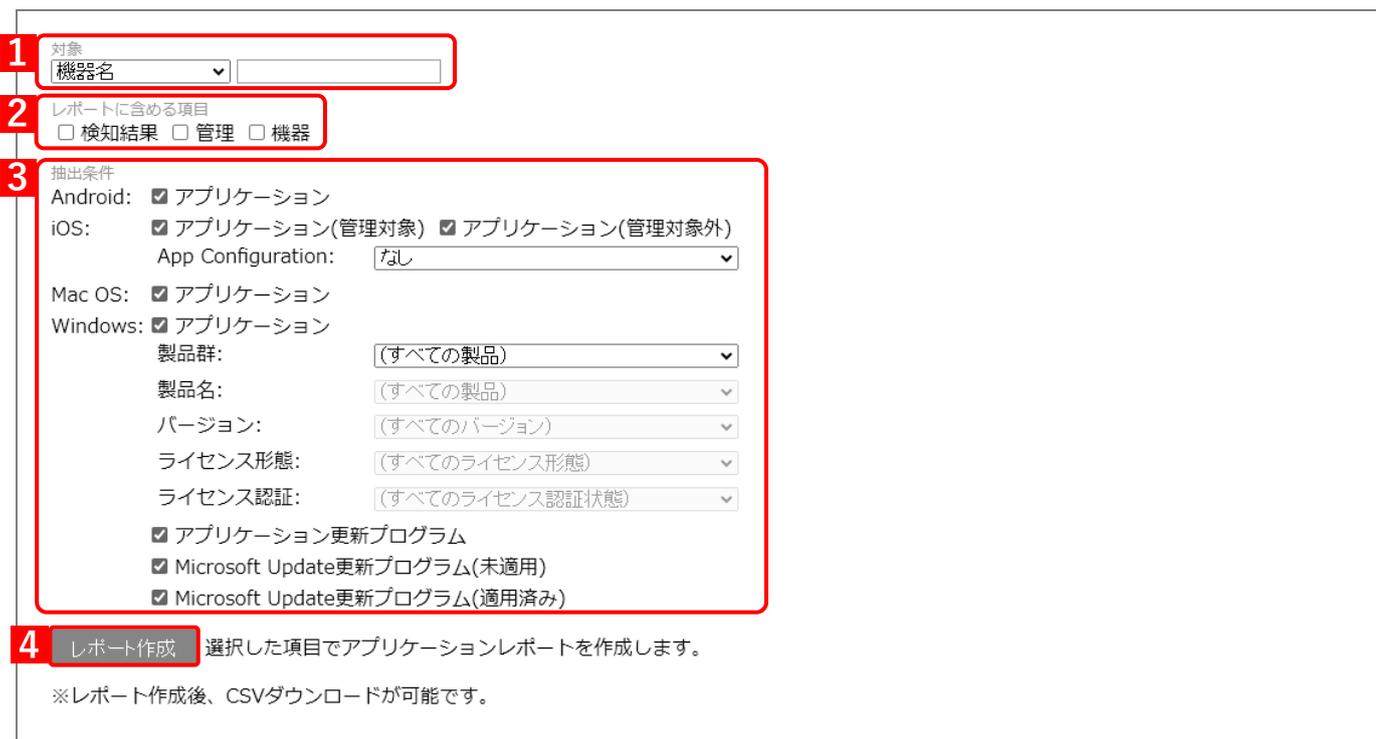
また、対象を指定すると、以下のようなアプリを確認できます。

- アプリケーション検知を設定している場合は、「インストール推奨アプリケーション」に設定はされているが、まだインストールされていないアプリや、「インストール非推奨アプリケーション」に設定はされているが、すでにインストールされているアプリの一覧を閲覧することができます。
- 「アプリケーション名」、「パッケージ名」を対象に指定してレポート作成を行うと、脆弱性が明らかになったアプリなどのインストール数を確認することができます。
- 🔍 アプリケーションレポートの作成には、時間がかかることがあります。そのような場合は、アプリケーションレポート (高速版) をすると、抽出条件や出力項目が少なくなりますが、時間がかからず CSV ファイルを出力することができます。

 「アプリケーションレポート (高速版)」 298 ページ

◆ 画面

表示操作 [機器] → [CSV をダウンロード] → [アプリケーションレポート]



The screenshot shows the configuration interface for generating an application report. It includes the following elements:

- 1** Target selection: A dropdown menu set to "機器名" (Device Name).
- 2** Report items: Checkboxes for "検知結果" (Detection Results), "管理" (Management), and "機器" (Devices).
- 3** Extraction conditions: A section with checkboxes for "アプリケーション" (Applications) on Android, iOS, Mac OS, and Windows. It also includes dropdown menus for "製品群" (Product Groups), "製品名" (Product Names), "バージョン" (Versions), "ライセンス形態" (License Types), and "ライセンス認証" (License Certifications). There are also checkboxes for update programs.
- 4** Report creation: A button labeled "レポート作成" (Create Report) with the instruction "選択した項目でアプリケーションレポートを作成します。" (Create application report with selected items).

※レポート作成後、CSVダウンロードが可能です。

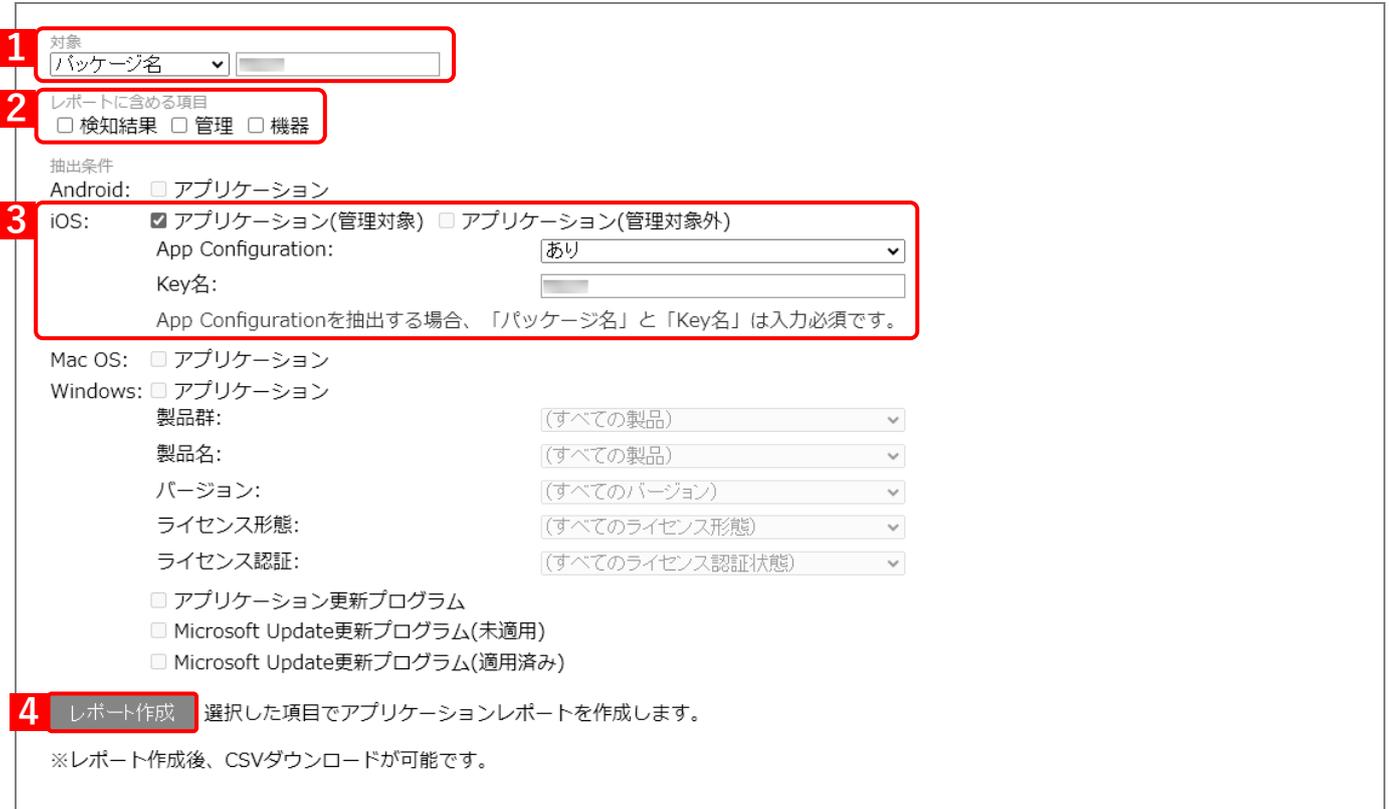
項番	項目	説明
1	対象	アプリケーションレポートの対象の種別を指定します。リストボックスから、「機器名」、「アプリケーション名」、「パッケージ名」「機器分類」、「ユーザー分類」を指定できます。右側のテキストボックスにキーワードを指定すると、指定した種別で、キーワードに該当するアプリを対象にしてレポートを作成します。

項番	項目	説明
2	レポートに含める項目	<p>レポートに含めたい項目にチェックを入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 検知結果 アプリケーション検知結果を出力したい場合に、チェックを入れます。 ● 管理 管理している機器の情報をレポートに含める。 ● 機器 機器に設定している情報を含める。
3	抽出条件	OS ごとに抽出条件を設定します。
	Android	Android のアプリを対象にする場合は、[アプリケーション] にチェックを入れます。
	iOS	<p>iOS のアプリを対象にする場合は、[アプリケーション (管理対象)]、[アプリケーション (管理対象外)] のいずれか、または両方にチェックを入れます。</p> <p> iOS 端末にインストールされているアプリの App Configuration の設定値を対象にする場合は、「App Configuration」のリストボックスから [あり] を選択します。詳細については、以下を参照してください。</p> <p> 「画面 (App Configuration の設定値を対象にする場合)」 295 ページ</p>
	Mac OS	Mac OS のアプリを対象にする場合は、[アプリケーション] にチェックを入れます。
Windows	<p>Windows のアプリを対象にする場合は、必要に応じて、以下の項目にチェックを入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [アプリケーション] <ul style="list-style-type: none">  「製品群」、「製品名」、「バージョン」、「ライセンス形態」、「ライセンス認証」のリストボックスから選択して、対象のアプリを絞り込むことができます。 ● [アプリケーション更新プログラム] ● [Microsoft Update 更新プログラム (未適用)] ● [Microsoft Update 更新プログラム (適用済み)] 	
4	[レポート作成]	<p>クリックすると、レポート作成が開始されます。レポート作成が完了すると、レポート結果が画面下部に一覧表示されます。</p> <p> 「画面 (レポート作成結果)」 296 ページ</p> <p> レポート作成に時間がかかる場合があります。</p>

◆画面 (App Configuration の設定値を対象にする場合)

表示操作 [機器] → [CSV をダウンロード] → [アプリケーションレポート] → 抽出条件 iOS の App Configuration [あり] を選択

 iOS 端末にインストール済みの管理対象アプリのみ出力します。



The screenshot shows a web interface for generating reports. It is divided into several sections:

- 1 対象 (Target):** A dropdown menu labeled 'パッケージ名' (Package Name) is highlighted with a red box.
- 2 レポートに含める項目 (Items to include in report):** Three checkboxes are shown: '検知結果' (Detection Results), '管理' (Management), and '機器' (Devices). '検知結果' is checked.
- 3 抽出条件 (Extraction conditions):** This section is highlighted with a red box. It includes:
 - Android: アプリケーション
 - iOS: アプリケーション(管理対象) アプリケーション(管理対象外)
 - App Configuration: A dropdown menu with 'あり' (Yes) selected.
 - Key名: An input field.
 - A note: 'App Configurationを抽出する場合、「パッケージ名」と「Key名」は入力必須です。'
 - Mac OS: アプリケーション
 - Windows: アプリケーション
 - 製品群: (すべての製品)
 - 製品名: (すべての製品)
 - バージョン: (すべてのバージョン)
 - ライセンス形態: (すべてのライセンス形態)
 - ライセンス認証: (すべてのライセンス認証状態)
 - アプリケーション更新プログラム
 - Microsoft Update更新プログラム(未適用)
 - Microsoft Update更新プログラム(適用済み)
- 4 レポート作成 (Report creation):** A button labeled 'レポート作成' is highlighted with a red box. Below it, text says '選択した項目でアプリケーションレポートを作成します。' and '※レポート作成後、CSVダウンロードが可能です。'

項番	項目	説明
1	対象	パッケージ名を入力します。  パッケージ名が入力されていないと、項番 4 [レポート作成] はクリックできません。  項番 3「抽出条件」の「App Configuration」のリストボックスから [あり] を選択すると、[パッケージ名] のみ対象になります。  完全一致するものが抽出対象です。
2	レポートに含める項目	レポートに含めたい項目にチェックを入れます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 検知結果 アプリケーション検知結果を出力したい場合に、チェックを入れます。 ● 管理 管理している機器の情報をレポートに含める。 ● 機器 機器に設定している情報を含める。
3	抽出条件	以下の項目を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● [アプリケーション(管理対象)] にチェックを入れます。 ● 「App Configuration」のリストボックスから [あり] を選択します。 ● Key 名を入力します。  Key 名が入力されていないと、項番 4 [レポート作成] はクリックできません。  完全一致するものが抽出対象です。

項番	項目	説明
4	[レポート作成]	クリックすると、レポート作成が開始されます。レポート作成が完了すると、レポート結果が画面下部に一覧表示されます。 🏠 「画面（レポート作成結果）」 296 ページ 📌 レポート作成に時間がかかる場合があります。

◆画面（レポート作成結果）

表示操作 [機器] → [CSV をダウンロード] → [アプリケーションレポート] → [レポート作成]

🔔 レポートを作成しました。

対象
 機器名

レポートに含める項目
 検知結果 管理 機器

抽出条件
 Android: アプリケーション
 iOS: アプリケーション(管理対象) アプリケーション(管理対象外)
 App Configuration:

Mac OS: アプリケーション
 Windows: アプリケーション

製品群:
 製品名:
 バージョン:
 ライセンス形態:
 ライセンス認証:

アプリケーション更新プログラム
 Microsoft Update更新プログラム(未適用)
 Microsoft Update更新プログラム(適用済み)

1 レポート更新 選択した項目でアプリケーションレポートを再度作成します。

2 CSVダウンロード 現在表示中のレポートをCSVとしてダウンロードします。

アプリケーション数: 408 **3** 更新日時: 2023/09/08 10:10 **4**

5

[1]アプリケーション名	[1]パッケージ名/アプリケーションID	[1]バージョン番号	[1]バージョン名	[1]インス

項番	項目	説明
1	[レポート更新]	対象や抽出条件を変更してからクリックすると、変更した条件でレポートを再作成できます。
2	[CSV ダウンロード]	クリックすると、現在のレポート作成結果の CSV ファイルをダウンロードします。 📌 レポート作成結果が CSV ファイルに保存されるときは文字コードは、日本語環境で SHIFT-JIS (cp932)、その他の環境で UTF-8 です。

項番	項目	説明
3	アプリケーション数	<p>レポートしたアプリの件数が表示されます。</p> <p> 「レポートに含める項目」で「検知結果」にチェックを入れてレポートを作成した場合は、以下の項目が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">•全〇件 レポートしたすべてのアプリの件数が表示されます。リンクをクリックすると、すべてのアプリを表示します。•推奨〇件 アプリケーション検知で「推奨アプリケーション」に設定されているアプリの件数が表示されます。インストールされているアプリだけでなく、「推奨アプリケーション」に設定されているが、まだインストールされていないアプリも表示され、「バージョン番号」に「未インストール」と表示されます。リンクをクリックすると、対象のアプリだけが表示されます。•非推奨〇件 アプリケーション検知で「非推奨アプリケーション」に設定されているアプリで機器にインストールされているアプリの件数が表示されます。リンクをクリックすると、対象のアプリだけが表示されます。
4	更新日時	レポートの更新日時が表示されます。
5	(レポート作成結果)	<p>対象のアプリケーションレポートの一覧が表示されます。</p> <p> レポートに表示される項目は設定された条件によって異なります。</p>

4.11.3 アプリケーションレポート (高速版)

「パッケージ名」をレポートの対象にして、アプリケーションレポートを CSV ファイルとして出力します。

 画面

 画面 (App Configuration の設定値を対象にする場合)

 画面 (出力範囲選択)

端末にインストールされているアプリの以下の情報を一覧で確認することができます。

- アプリケーション名
- パッケージ名/アプリケーション ID
- バージョン番号
- バージョン名 (※1)
- インストール日時 (※2)
- アップデート日時 (※1)
- 機器名
- App Configuration Key (※3)
- App Configuration Value (※3)
- App Configuration 最終取得日 (※3)

※1: Android のアプリのみ出力されます。

※2: Android と Windows のアプリのみ出力されます。

※3: iOS の「App Configuration」 ありの場合のみ出力されます。

 上記以外の情報を確認したい場合は、時間がかかりますが、アプリケーションレポートを利用してください。

 「アプリケーションレポート」 293 ページ

◆ 画面

表示操作 [機器] → [CSV をダウンロード] → [アプリケーションレポート (高速版)]

機器にインストールされているアプリケーションの一覧をcsvファイルに出力します。
アプリケーションレポートに比べて抽出条件、出力項目が簡素なため高速です。

1

2 抽出条件
 Android
 iOS
 App Configuration:
 Mac OS
 Windows

3

項番	項目	説明
1	パッケージ名	対象のアプリのパッケージ名を入力します。  パッケージ名は、最大 255 文字まで入力できます。 256 文字以上入力して、項番 3 [CSV ダウンロード] をクリックすると、エラーメッセージが表示され、CSV ファイルは出力されません。  検索方式は、部分一致です。 入力したパッケージ名の一部でも一致したアプリが抽出されます。  パッケージ名が空白の場合は、すべてのアプリが対象になります。

項番	項目	説明
2	抽出条件	<p>対象の OS を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Android ●iOS <input checked="" type="checkbox"/> iOS 端末にインストールされているアプリの App Configuration の設定値を対象にする場合は、「App Configuration」のリストボックスから [あり] を選択します。詳細については、以下を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> ☞ 「画面 (App Configuration の設定値を対象にする場合)」 299 ページ ●Mac OS ●Windows <p><input checked="" type="checkbox"/> 1つ以上設定していないと、項番 3 [CSV ダウンロード] をクリックできません。</p>
3	[CSV ダウンロード]	<p>クリックすると、CSV ファイルがダウンロードされます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 対象のアプリが 100,000 件を超える場合は、出力範囲選択画面が表示されます。</p> <p>☞ 「画面 (出力範囲選択)」 300 ページ</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> CSV ファイルの文字コードは、日本語環境で SHIFT-JIS (cp932)、その他の環境で UTF-8 です。</p>

◆画面 (App Configuration の設定値を対象にする場合)

表示操作 [機器] → [CSV をダウンロード] → [アプリケーションレポート (高速版)] → 抽出条件 iOS にチェックを入れる → App Configuration [あり] を選択

iOS 端末にインストール済みの管理対象アプリのみ出力します。

機器にインストールされているアプリケーションの一覧をcsvファイルに出力します。アプリケーションレポートに比べて抽出条件、出力項目が簡素なため高速です。

1 パッケージ名

抽出条件

Android

2 iOS

App Configuration:

Key名:

App Configurationを抽出する場合、「パッケージ名」と「Key名」は入力必須です。

Mac OS

Windows

3 csvダウンロード

項番	項目	説明
1	パッケージ名	<p>アプリのパッケージ名を 255 文字以内で入力します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> パッケージ名が 256 文字以上入力された状態で項番 3 [CSV ダウンロード] をクリックすると、エラーメッセージが表示され、CSV ファイルは出力されません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> パッケージ名が入力されていないと、項番 3 [CSV ダウンロード] はクリックできません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 完全一致するものが抽出対象です。</p>

項番	項目	説明
2	抽出条件	以下の項目を設定します。 ● [iOS] にチェックを入れます。 ● 「App Configuration」 のリストボックスから [あり] を選択します。 ● Key 名を入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> Key 名が 256 文字以上入力された状態で項番 3 [CSV ダウンロード] をクリックすると、エラーメッセージが表示され、CSV ファイルは出力されません。 <input checked="" type="checkbox"/> Key 名が入力されていないと、項番 3 [CSV ダウンロード] はクリックできません。 <input checked="" type="checkbox"/> 完全一致するものが抽出対象です。
3	[CSV ダウンロード]	クリックすると、CSV ファイルがダウンロードされます。 <input checked="" type="checkbox"/> 対象のアプリが 100,000 件を超える場合は、出力範囲選択画面が表示されます。 📄 「画面（出力範囲選択）」 300 ページ <input checked="" type="checkbox"/> CSV ファイルの文字コードは、日本語環境で SHIFT-JIS (cp932)、その他の環境で UTF-8 です。

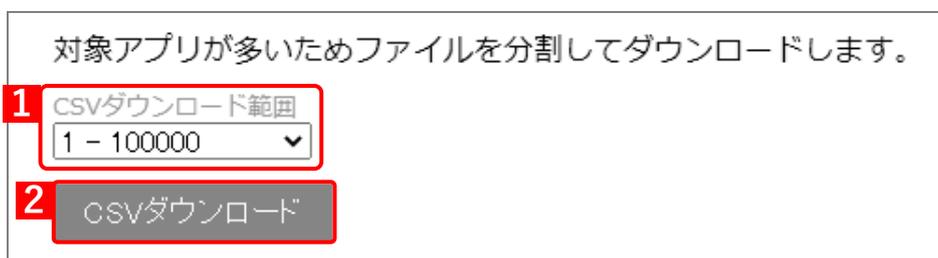
◆画面（出力範囲選択）

対象のアプリが 100,000 件を超える場合は、出力範囲選択画面が表示されます。範囲を分割して CSV ファイルに出力します。

タイミングによっては、出力データに増減が発生することがあります。

- 100,000 件を超える場合は、範囲を変更している間に同期などにより、データが増減すると出力されるデータにずれが発生する可能性があります。
- 表示されるはずのデータが表示されない場合は、再度他の範囲のファイルをダウンロードし直してください。
- 同じデータが複数の CSV ファイルに表示されていても、重複してデータが保存されている訳ではありません。別途操作は必要ありません。
- 出力されたデータが予想と異なっていた場合は、再度「アプリケーションレポート（高速版）」からダウンロードし直すと解消されます。

表示操作 [機器] → [CSV をダウンロード] → [アプリケーションレポート（高速版）] → [CSV ダウンロード]



項番	項目	説明
1	CSV ダウンロード範囲	抽出結果から CSV ファイルにダウンロードしたい範囲（行数）を選択します。
2	[CSV ダウンロード]	クリックすると、項番 1「CSV ダウンロード範囲」で選択した範囲の CSV ファイルがダウンロードされます。 <input checked="" type="checkbox"/> CSV ファイルの文字コードは、日本語環境で SHIFT-JIS (cp932)、その他の環境で UTF-8 です。

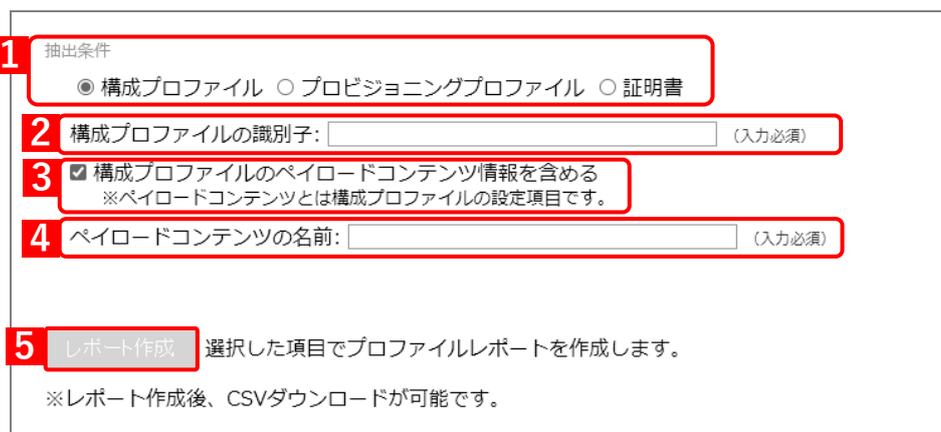
4.11.4 プロファイルレポート

iOS 端末にインストールされている構成プロファイル、プロビジョニングプロファイル、証明書を一覧で確認します。作成したプロファイルレポートは、CSV ファイルとして出力することができます。

-  画面 ([構成プロファイル] 選択時)
-  画面 ([プロビジョニングプロファイル] 選択時)
-  画面 ([証明書] 選択時)
-  画面 (レポート作成結果)

◆画面 ([構成プロファイル] 選択時)

表示操作 [機器] → [CSV をダウンロード] → [プロファイルレポート]



1 抽出条件
 構成プロファイル プロビジョニングプロファイル 証明書

2 構成プロファイルの識別子: (入力必須)

3 構成プロファイルのペイロードコンテンツ情報を含める
※ペイロードコンテンツとは構成プロファイルの設定項目です。

4 ペイロードコンテンツの名前: (入力必須)

5 レポート作成 選択した項目でプロファイルレポートを作成します。
※レポート作成後、CSVダウンロードが可能です。

項番	項目	説明
1	抽出条件	[構成プロファイル] を選択します。
2	構成プロファイルの識別子	対象の iOS 端末の構成プロファイル詳細画面に表示される UUID の値を入力します。  「画面 (構成プロファイルの詳細)」 202 ページ  構成プロファイル識別子を入力していないと、項番 5 [レポート作成] がクリックできません。
3	[構成プロファイルのペイロードコンテンツ情報を含める]	構成プロファイルのペイロードコンテンツ情報を含める場合は、チェックを入れます。  チェックを入れると、項番 4「ペイロードコンテンツの名前」が表示されます。
4	ペイロードコンテンツの名前	対象の iOS 端末の構成プロファイル詳細画面に表示されるペイロードコンテンツの名前の値を入力します。  「画面 (構成プロファイルの詳細)」 202 ページ  ペイロードコンテンツの名前を入力していないと、項番 5 [レポート作成] がクリックできません。  項番 3 [構成プロファイルのペイロードコンテンツ情報を含める] にチェックを入れる则表示されます。
5	[レポート作成]	クリックすると、レポート作成が開始します。レポート作成が完了すると、レポート結果が画面下部に一覧表示されます。  「画面 (レポート作成結果)」 303 ページ  レポート作成に時間がかかる場合があります。

◆画面（ [プロビジョニングプロファイル] 選択時）

表示操作 [機器] → [CSV をダウンロード] → [プロファイルレポート] →抽出条件から [プロビジョニングプロファイル] を選択

項番	項目	説明
1	抽出条件	[プロビジョニングプロファイル] を選択します。
2	プロビジョニングプロファイルの UUID	対象の iOS 端末のプロビジョニングプロファイル詳細画面に表示される UUID の値を入力します。 🔗 「画面（プロビジョニングプロファイルの詳細）」 203 ページ ✍️ プロビジョニングプロファイルの UUID を入力していないと、項番 3 [レポート作成] がクリックできません。
3	[レポート作成]	クリックすると、レポート作成が開始します。レポート作成が完了すると、レポート結果が画面下部に一覧表示されます。 🔗 「画面（レポート作成結果）」 303 ページ ✍️ レポート作成に時間がかかる場合があります。

◆画面（ [証明書] 選択時）

表示操作 [機器] → [CSV をダウンロード] → [プロファイルレポート] →抽出条件から [証明書] を選択

項番	項目	説明
1	抽出条件	[証明書] を選択します。
2	ID 証明書	リストボックスから [はい] または [いいえ] を選択します。

項番	項目	説明
3	証明書の共通ネーム	対象の iOS 端末のプロファイル画面に表示される証明書の共通ネームの値を入力します。 ④ 「(情報-iOS) プロファイル」 201 ページ ④ 証明書の共通ネームを入力していないと、項番 4 [レポート作成] がクリックできません。
4	[レポート作成]	クリックすると、レポート作成が開始します。レポート作成が完了すると、レポート結果が画面下部に一覧表示されます。 ④ 「画面 (レポート作成結果)」 303 ページ ④ レポート作成に時間がかかる場合があります。

◆画面 (レポート作成結果)

表示操作 [機器] → [CSV をダウンロード] → [プロファイルレポート] → [レポート更新]

① レポートを作成しました。

抽出条件

構成プロファイル プロビジョニングプロファイル 証明書

構成プロファイルの識別子: (入力必須)

構成プロファイルのペイロードコンテンツ情報を含める
※ペイロードコンテンツとは構成プロファイルの設定項目です。

1 レポート更新 選択した項目でプロファイルレポートを再度作成します。

2 CSVダウンロード 現在表示中のレポートをCSVとしてダウンロードします。

4 更新日時: 2023/09/08 13:26

機器数: **3**

⑤ [I]機器名	[I]機器GUID	[I:構成プロファイル]名前	[I:構成プロファイル]識別子

項番	項目	説明
1	[レポート更新]	抽出条件を変更してからクリックすると、変更した条件でレポートを再作成できます。
2	[CSV ダウンロード]	クリックすると、現在のレポート作成結果の CSV ファイルをダウンロードします。 ④ CSV ファイルの文字コードは、日本語環境で SHIFT-JIS (cp932)、その他の環境で UTF-8 です。
3	機器数	レポートした機器の件数が表示されます。
4	更新日時	レポートの更新日時が表示されます。
5	(レポート作成結果)	対象のプロファイルレポートの一覧が表示されます。 ④ レポートに表示される項目は設定された条件によって異なります。

4.12 旧デザイン

[機器] の [一覧] の表示を旧デザインに切り替えて利用できます。

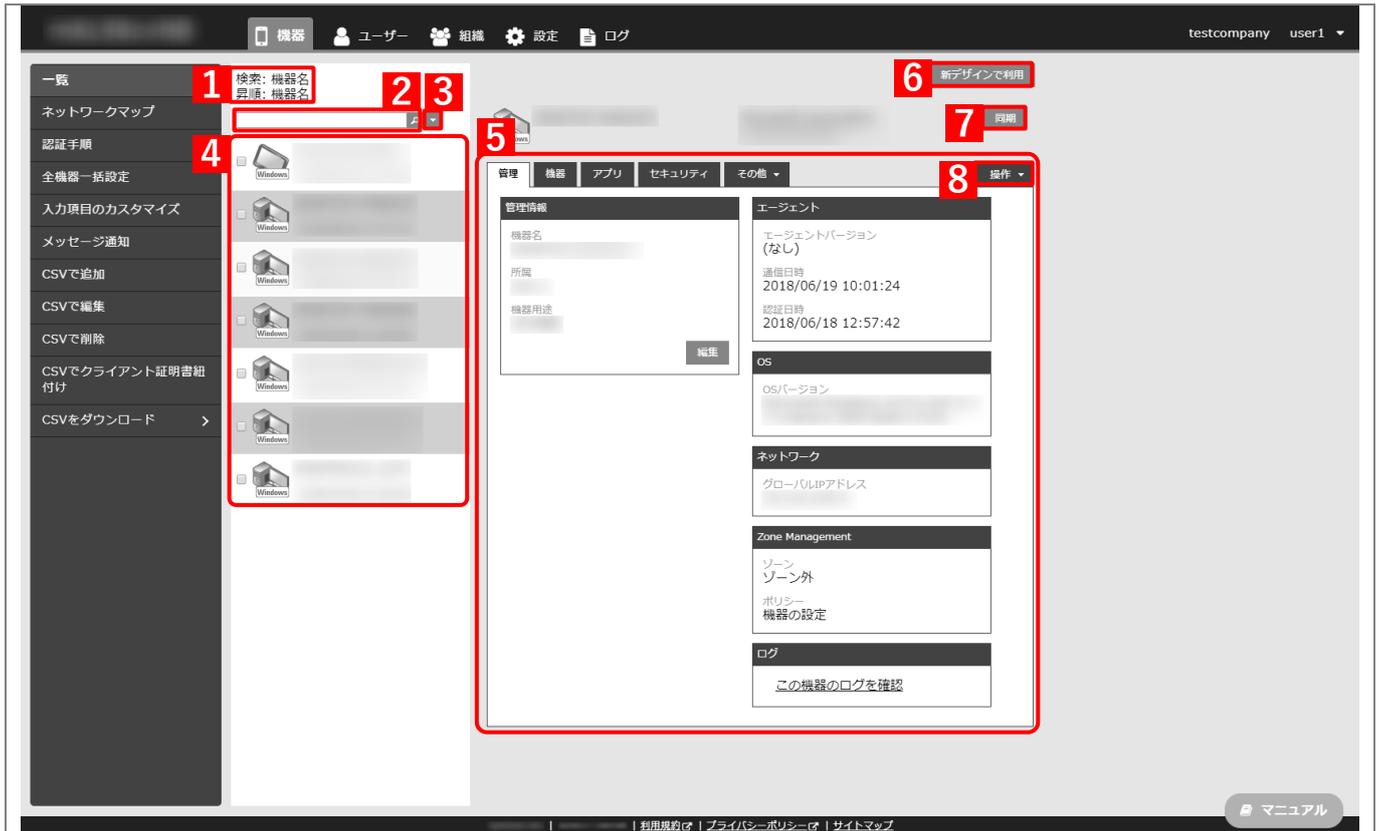
旧デザインでは、新デザインの詳細画面に表示される内容が、各タブの画面に表示されます。

 本機能は今後利用できなくなる予定です。また、新しい機能は、旧デザインでは提供されないことがあります。

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → [旧デザインで利用]

以下の画面は、特定の端末を一覧から選択すると表示されます。



The screenshot displays the 'Old Design' interface for the 'Devices' section. The interface is divided into several sections:

- Header:** Includes navigation icons for '機器' (Devices), 'ユーザー' (Users), '組織' (Organizations), '設定' (Settings), and 'ログ' (Logs). The user is logged in as 'testcompany user1'.
- Left Sidebar:** Contains navigation options such as '一覧' (List), 'ネットワークマップ' (Network Map), '認証手順' (Authentication Steps), '全機器一括設定' (Configure All Devices), '入力項目のカスタマイズ' (Customize Input Fields), 'メッセージ通知' (Message Notifications), 'CSVで追加' (Add via CSV), 'CSVで編集' (Edit via CSV), 'CSVで削除' (Delete via CSV), 'CSVでクライアント証明書紐付け' (Bind Client Certificates via CSV), and 'CSVをダウンロード' (Download CSV).
- Main Content Area:**
 - Search:** A search bar with filters (1) and a search button (2, 3).
 - Device List:** A list of devices (4) with a 'Windows' icon and a selection box (5).
 - Device Details:** A detailed view of a selected device (6) with a '新デザインで利用' (Use Old Design) button (7) and an '操作' (Action) dropdown menu (8).
- Footer:** Includes a 'マニュアル' (Manual) button and a footer with links for '利用規約' (Terms of Use), 'プライバシーポリシー' (Privacy Policy), and 'サイトマップ' (Site Map).

項	項目	説明
1	検索・昇順	項番 3 の  で指定した検索や昇順の条件が表示されます。
2	機器検索	<p>検索するキーワードを入力して  をクリックします。</p> <p>検索キーワードに該当する機器のみが一覧に表示されます。</p> <p> 再度、すべての機器を一覧に表示するには、以下のいずれかの操作をしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストボックスを空欄にしてから  をクリックします。 ・キーボードの [F5] キーを押す。
3	 (その他の操作)	<p>クリックすると、以下のメニューが表示されます。</p> <p>複数の SIM を搭載している端末では、SIM ごとに割り振られている電話番号や IMEI で検索することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全てにチェックを入れる ● 全てのチェックをはずす ● 検索対象 <ul style="list-style-type: none"> ・機器名 ・OS バージョン <ul style="list-style-type: none"> ・Android ・iOS ・Mac OS ・Windows ・モデル名 ・電話番号 ・IMEI/MEID ・シリアル番号 ・ユーザー ・機能パッケージ ・組織 ・(入力項目のカスタマイズで作成した項目がある場合)  検索キーワードに複数指定する場合、空白区切りで入力します。  Android 端末の端末認識番号は、IMEI/MEID から検索できます。 ● 並べ替え 昇順 <ul style="list-style-type: none"> ・機器名 ・エージェントバージョン ・通信日時 ・認証日時 ● 並べ替え 降順 <ul style="list-style-type: none"> ・機器名 ・エージェントバージョン ・通信日時 ・認証日時 ● 新規作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ライセンス認証待ち Android 機器 ・ライセンス認証待ち iOS 機器 ・ライセンス認証待ち Mac OS 機器 ・ライセンス認証待ち Windows 機器 ・資産管理対象機器 ● 一括削除

項	項目	説明
4	機器一覧	<p>以下の項目が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●機器名 ●並び替え対象の機器情報 <ul style="list-style-type: none"> 通信日時が赤字で表示されている機器は、無通信検知された機器です。 通信日時が赤字で表示かつ、末尾に「(管理外)」または「(同期不可)」と表示されている機器は、管理外検知された機器です。管理外検知された機器の詳細については、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・管理外 端末から構成プロファイルが手動で削除された場合に表示されます。 ・同期不可 端末の MDM 構成プロファイルまたはエージェントが、継続的に管理サイトとの通信ができない場合に表示されます。また、表示されてしまった場合の対応方法については、『よくあるご質問 (FAQ)』ナレッジ番号 818 を参照してください。 <p> https://smsmfaq.smartmanager.jp/kddipproduct/ausl/web/knowledge818.html</p>
5	機器詳細	<p>項番 4 で選択した機器の詳細が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> iOS 機器のみ、通信日時 (エージェント) および通信日時 (ブラウザー) が表示されます。iOS 機器の通信日時の詳細は、以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ・通信日時 (エージェント) iOS エージェントの通信日時が表示されます。iOS エージェントがインストールされていない場合は(なし)と表示されます。 ・通信日時 (ブラウザー) + browser Safety Manager の通信日時が表示されます。+ browser Safety Manager がインストールされていない場合は、(なし)と表示されます。
6	[新デザインで利用]	<p>クリックすると、新デザインに切り替えます。</p>
7	[同期]	<p>クリックすると、選択している機器との同期が実行されます。詳細については、以下を参照してください。</p> <p> 「機器と同期する」 313 ページ</p>
8	[操作]	<p>クリックすると以下のメニューが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●削除 機器を削除します。詳細については、以下を参照してください。 <p> 「機器を削除する」 309 ページ</p>

4.12.1 機器を新規作成する

旧デザインで端末を新規作成する手順について説明します。

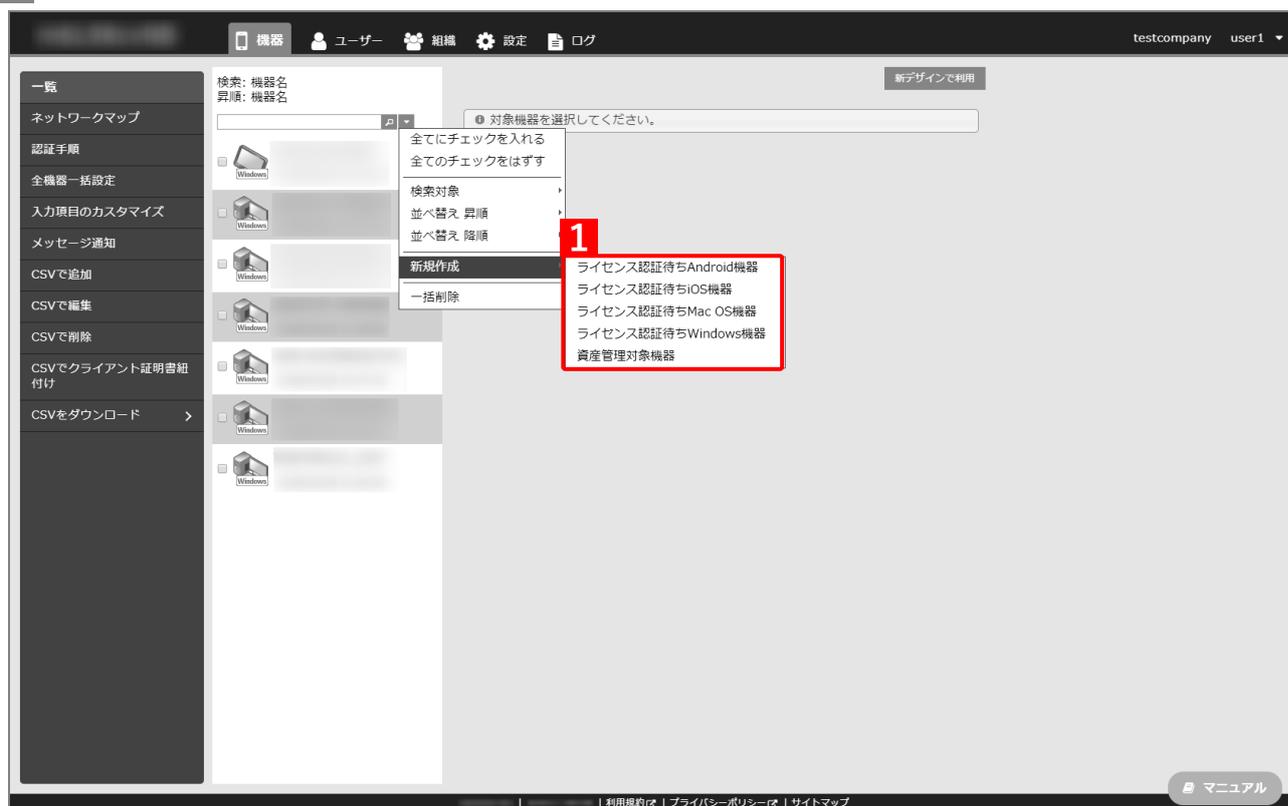
新規作成時の入力項目については、以下を参照してください。

📖 「機器の新規作成」 86 ページ

📌 ベーシックパックプラスをご利用の方は、ユーザーの新規作成時に利用するデバイスの OS と電話番号を KDDI ビジネスオンラインサポートに登録することで、管理画面に機器情報が登録されます。また、事前登録も可能です。詳細は以下を参照してください。

🔍 「KDDI ビジネスオンラインサポート KDDI Business ID 設定マニュアル」の「4.4.ユーザ」
<http://www.kddi.com/business/support/service/business-id/manual/>

[1] ▼ (その他の操作) → [新規作成] → 作成対象とする機器を選択します。



[2] 必要事項を入力します。

- 端末をライセンス認証するときに紐づく情報として、必ず「(端末識別用)」の項目をいずれか1つを設定してください。
- Windows 端末の場合は、SIM に割り当てられている MAC アドレスを端末識別用に使用できません。そのため、「(端末識別用)」には Wi-Fi や Bluetooth などに割り当てられている MAC アドレス、電話番号、IMEI/MEID、シリアル番号のいずれかを入力してください。
- Android 6.0 以上および iOS 14.0 以上の端末の場合は、MAC アドレスを取得できません。そのため、「(端末識別用)」には MAC アドレスではなく、電話番号または IMEI/MEID を入力してください。
- 作成する機器により入力項目は異なります。適宜入力および設定を行ってください。
- 画面上の「機器用途」は「入力項目のカスタマイズ」で作成した項目です。入力項目のカスタマイズを登録していない場合は表示されません。
- iOS 端末では、「+81」から始める国際電話番号が表示されていることがありますが、「0」から始まる日本の電話番号に置き換えて入力してください。

例)

090 の場合：

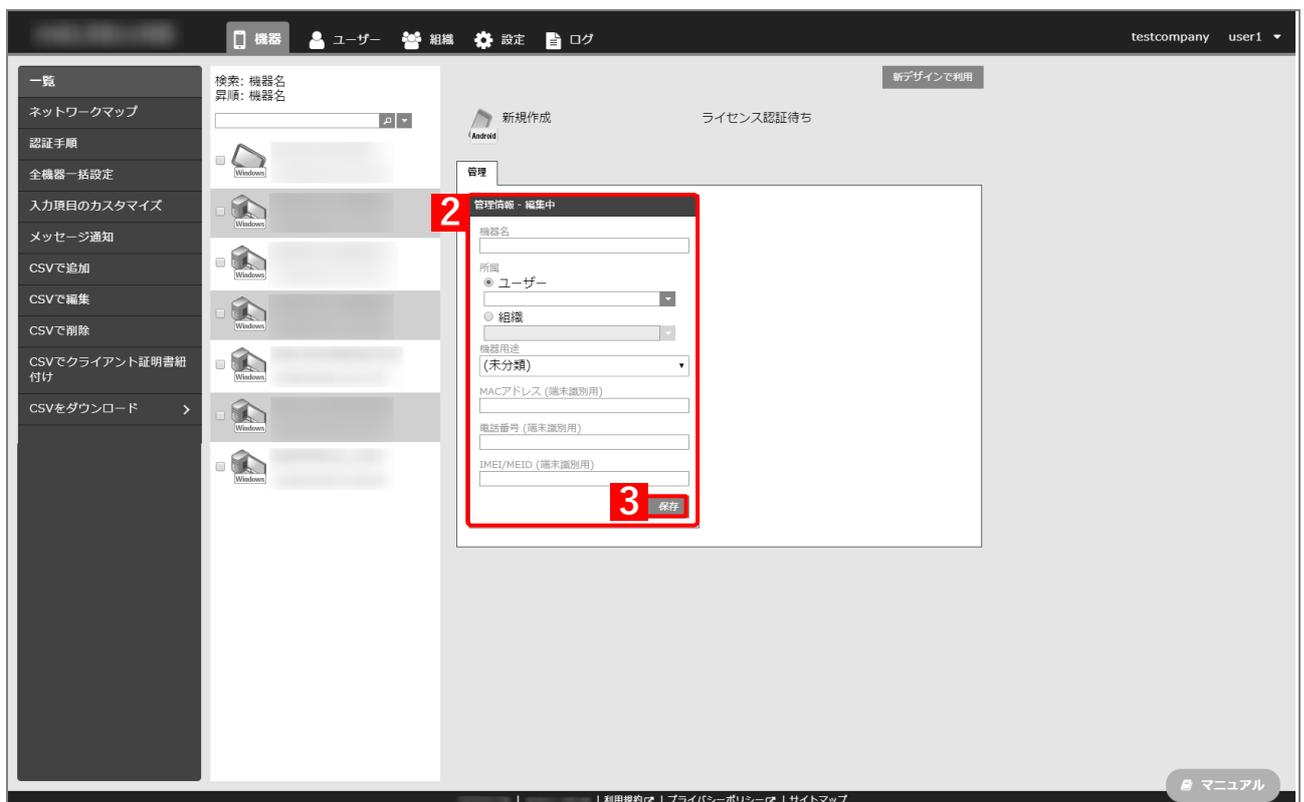
国際電話番号：+8190XXXXXXXX

日本の電話番号：090XXXXXXXX

080 の場合

国際電話番号：+8180XXXXXXXX

日本の電話番号：080XXXXXXXX

[3] [保存] をクリックします。

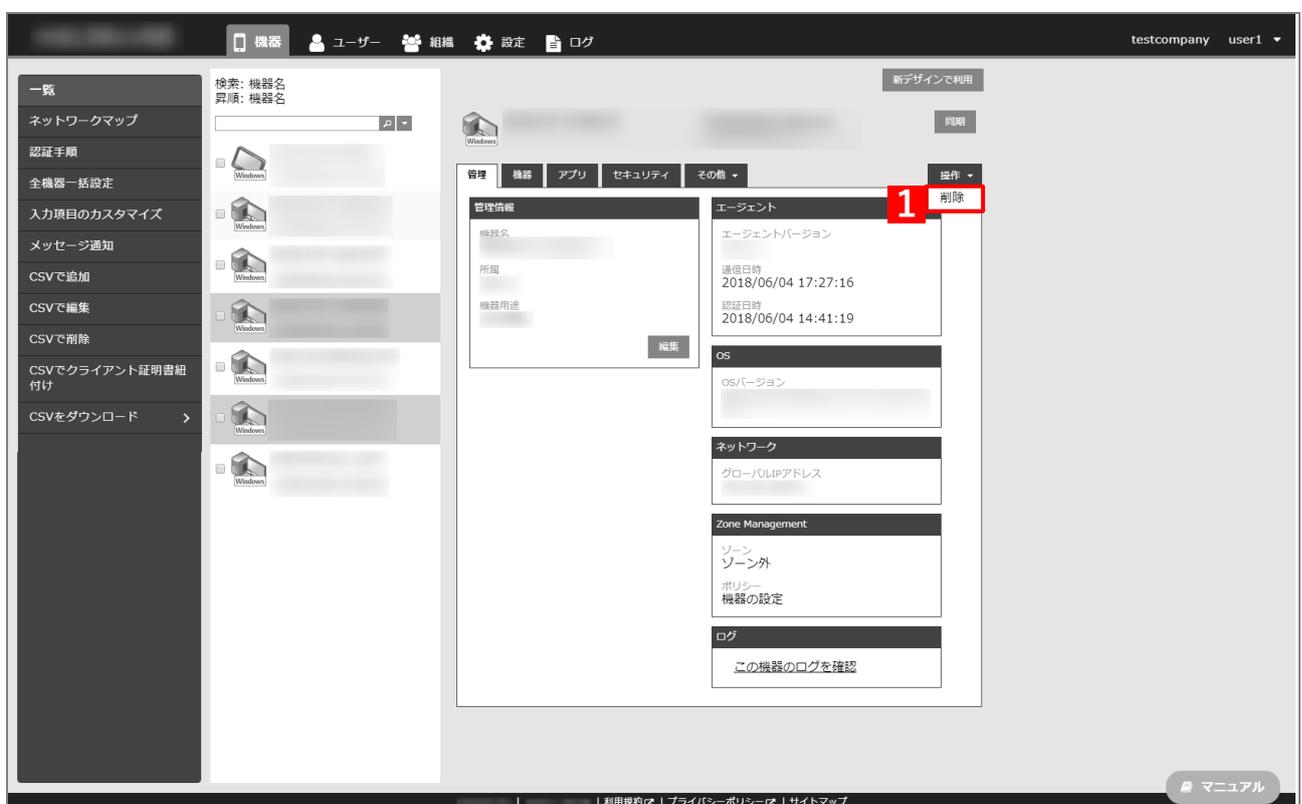
4.12.2 機器を削除する

旧デザインで端末を削除する手順について説明します。

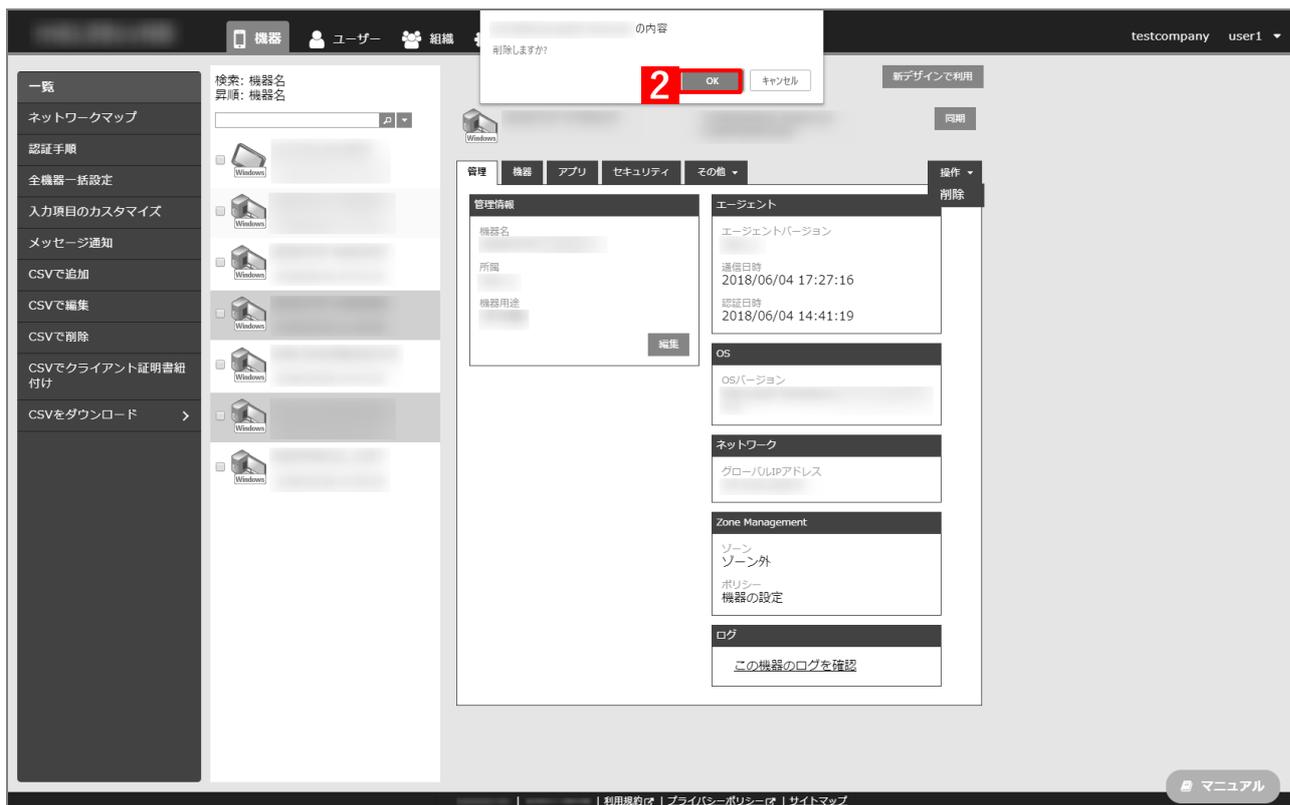
- ❏ 削除した端末は、管理サイトからの設定や確認が一切できなくなります。ただし、既存の設定は端末にそのまま保持されます。端末を削除する場合は、十分に注意してください。
- ❏ 削除した端末側で、別途以下の操作を行う必要があります。
 - ・ライセンスの解除
 - ・エージェントおよびプロファイルのアンインストール
- ❏ iOS 端末にシングル APP モードの設定を適用している場合は、必ずシングル APP モードの割り当てを解除/同期を行い、端末で解除されたことを確認してから、機器を削除してください。シングル APP モードが適用されている状態で機器を削除すると、端末が操作不能になる場合があるので、注意してください。

📖 「シングル APP モード (監視対象のみ)」 629 ページ

- [1]** [機器] → [一覧] → 一覧より対象 → [操作] → [削除] をクリックします。



[2] 表示されたメッセージを確認し、[OK] をクリックします。



◆ エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
<p>▲ シングル APP モードの設定が割り当てられているため、削除できません。</p>	<p>シングル APP モードが適用されている状態で機器を削除しようとしている。</p>	<p>シングル APP モードの割り当てを解除／同期を行い、端末で解除されたことを確認して、再度、削除してください。</p>

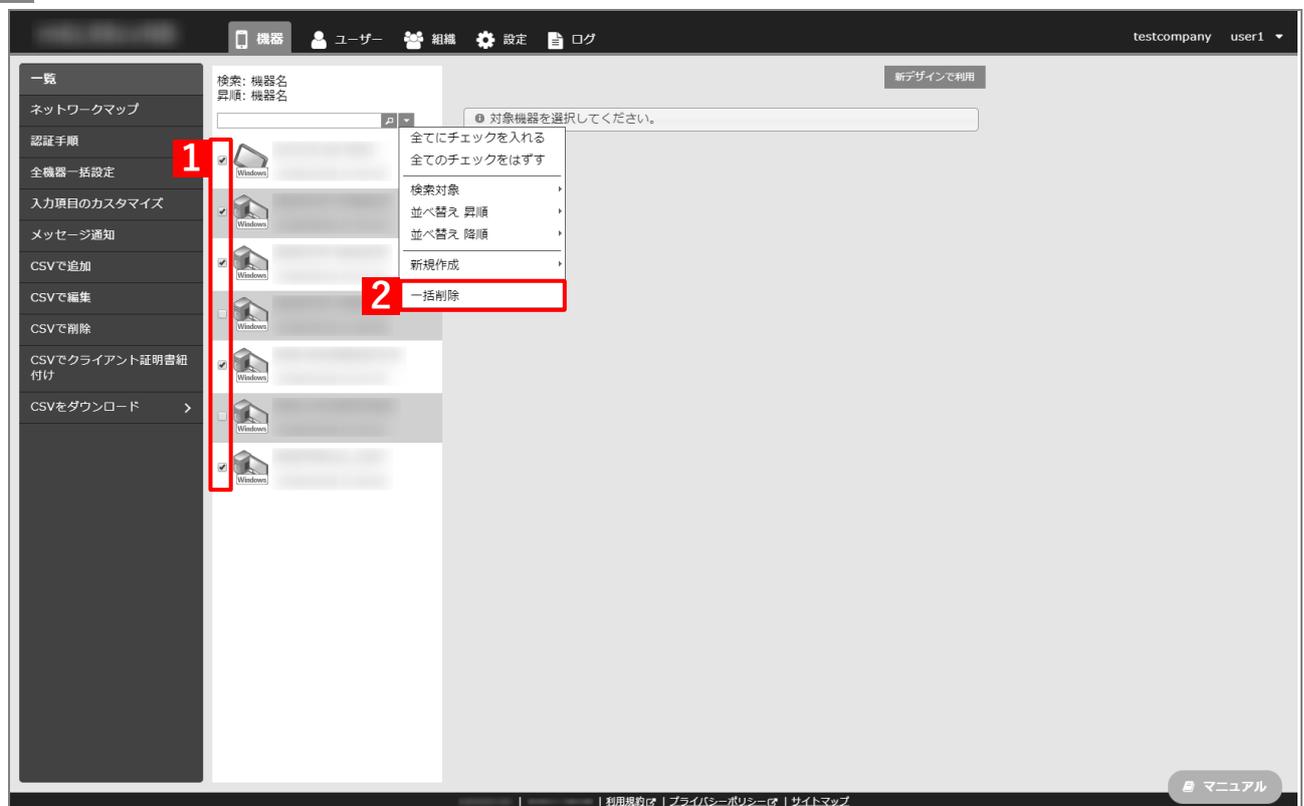
4.12.3 機器をまとめて削除する

旧デザインで複数の端末を削除する手順について説明します。

- ❏ 削除した端末は、管理サイトからの設定や確認が一切できなくなります。ただし、既存の設定は端末にそのまま保持されます。端末を削除する場合は、十分に注意してください。
- ❏ 削除した端末側で、別途以下の操作を行う必要があります。
 - ・ライセンスの解除
 - ・エージェントおよびプロファイルのアンインストール
- ❏ iOS 端末にシングル APP モードの設定を適用している場合は、必ずシングル APP モードの割り当てを解除/同期を行い、端末で解除されたことを確認してから、機器を削除してください。シングル APP モードが適用されている状態で機器を削除すると、端末が操作不能になる場合があるので、注意してください。

🔗 「シングル APP モード (監視対象のみ)」 629 ページ

- [1]** [機器] → [一覧] → 一覧より複数対象のチェックボックスにチェックを入れます。
- [2]** ☑ → [一括削除] をクリックします。



[3] 表示されたメッセージを確認し、[OK] をクリックします。



◆ エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
<p>▲ シングル APP モードの設定が割り当てられているため、削除に失敗した認証済みの iOS 機器があります。</p>	<p>シングル APP モードが適用されている状態で機器を削除しようとしている。</p>	<p>シングル APP モードの割り当てを解除/同期を行い、端末で解除されたことを確認して、再度、削除してください。</p>

4.12.4 機器と同期する

旧デザインで端末と同期する手順について説明します。

機能の詳細については、以下を参照してください。

📄 「機器との同期」 96 ページ

🔗 同期時に管理サイトと端末の間で反映する情報の詳細については以下を参照してください。

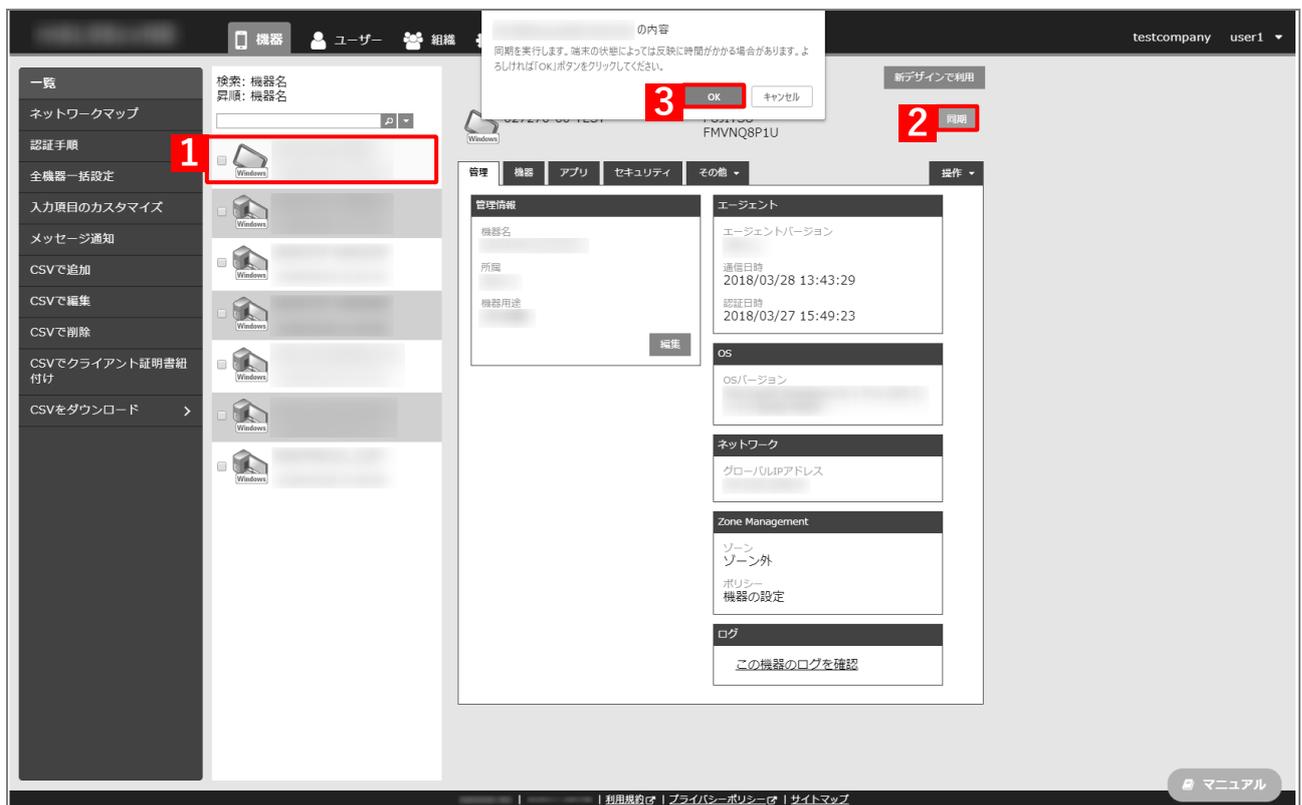
📄 「同期情報一覧（管理サイト→端末）」 98 ページ

📄 「同期情報一覧（端末→管理サイト）」 100 ページ

🔗 ベーシックパックプラスをご利用の方は、ユーザーの新規作成時に利用するデバイスの OS と電話番号を KDDI ビジネスオンラインサポートに登録することで、管理画面に機器情報が登録されます。また、事前登録も可能です。詳細は以下を参照してください。

🔗 「KDDI ビジネスオンラインサポート KDDI Business ID 設定マニュアル」の「4.4.ユーザ」
<http://www.kddi.com/business/support/service/business-id/manual/>

- [1]** [機器] → [一覧] → 一覧から対象を選択します。
- [2]** [同期] をクリックします。
- [3]** 表示されたメッセージを確認し、[OK] をクリックします。



5 ユーザー

この章では、ヘッダーメニューの [ユーザー] 画面に表示される、各種の設定について説明します。

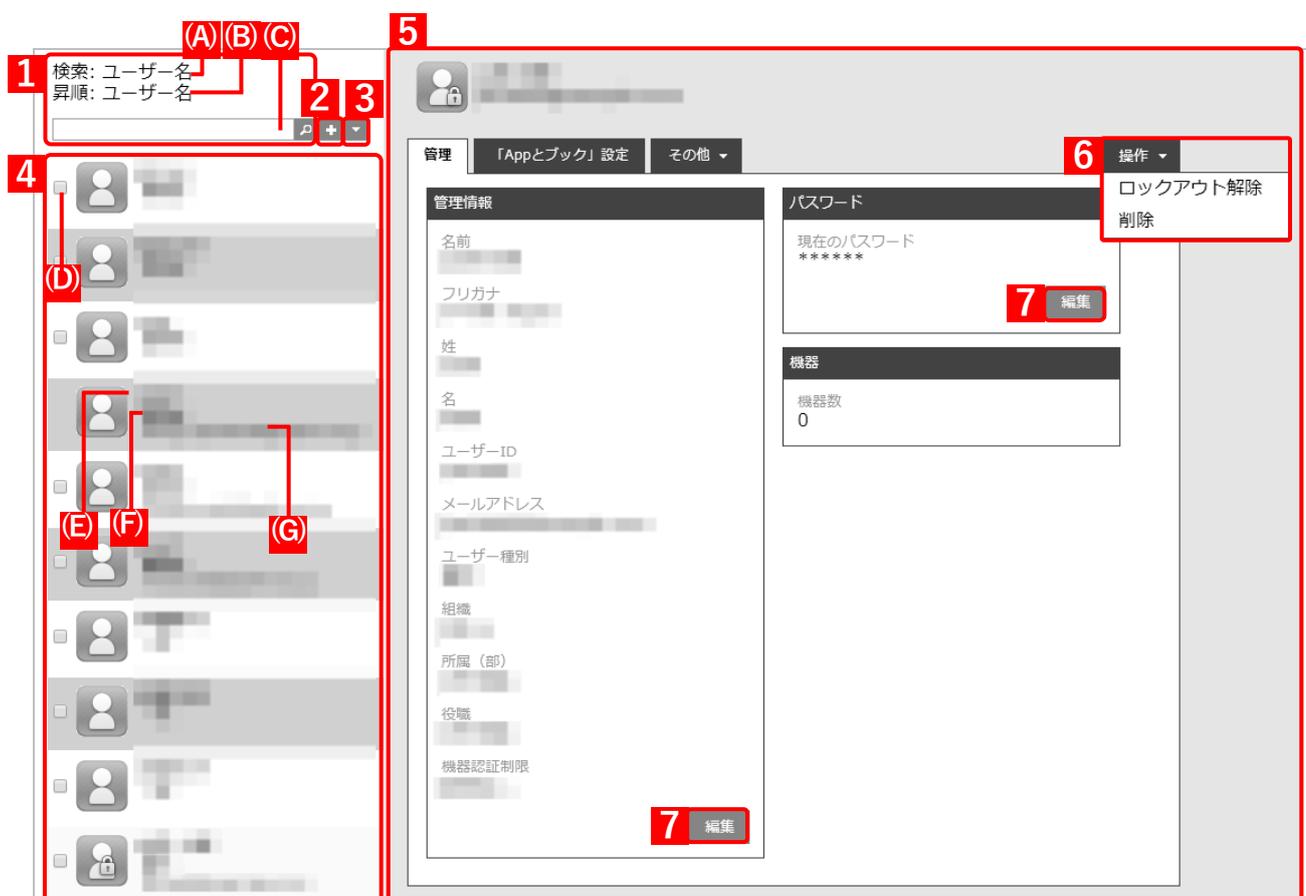
5.1 一覧

[ユーザー] の [一覧] 画面では、ユーザーの新規作成、情報確認、編集、削除のほか、ユーザーに対する「App とブック」ライセンスの付与や、アクセス制限、Android 端末へのアプリケーション配信の設定などを行うことができます。

- 🔍 ユーザーアカウントのユーザー種別が「管理者」権限を持つ場合は、「管理者」本人のユーザー種別を変更できません。また「操作者」権限を持つ場合は上位の「管理者」権限を持つユーザーの編集はできません。
- 🔍 ベーシックパックプラスをご利用の方は、ユーザーの変更および削除はできません。また、KDDI Business ID 側でユーザーが削除された場合には、管理サイト側のユーザーは削除されます。

◆画面

表示操作 [ユーザー] → [一覧]



項番	名称	説明
1	検索／並び替え	<ul style="list-style-type: none"> ● (A) 検索の対象項目が表示されます。 ● (B) 並び替えの対象項目が表示されます。 ● (C) 検索する場合は、検索するキーワードを (C) に入力し、🔍 をクリックします。検索後、すべてのユーザーを再表示するにはブラウザを再読み込みする、または (C) を空欄にし、あらためて 🔄 をクリックします。
2	[新規作成]	<p>➕ をクリックすると、項番【5】「ユーザー情報」に入力欄が表示されます。ユーザーの新規作成方法については、以下を参照してください。</p> <p>🏠 「[管理] タブ」 317 ページ</p>

項番	名称	説明
3	▼ (その他の操作)	<p>▼ をクリックすると、以下のメニューを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全てにチェックを入れる すべてのチェックボックスにチェックが入ります。 ● 全てのチェックをはずす すべてのチェックボックスからチェックを外します。 ● 検索対象 選択した以下の項目から検索を行います。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ユーザー名」、「フリガナ」、「ユーザーID」、「メールアドレス」、「ユーザー種別」、「組織」、「登録した入力項目のカスタマイズ」 ● 並び替え 昇順 選択した項目でユーザー一覧を昇順に並び替えます。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ユーザー名」、「ユーザーID」、「メールアドレス」 ● 並び替え 降順 選択した項目でユーザー一覧を降順に並び替えます。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ユーザー名」、「ユーザーID」、「メールアドレス」 ● 一括削除 (※1) クリックして、確認画面で [OK] をクリックするとユーザー一覧にチェックボックスにチェックが入っているユーザーをまとめて削除します。
4	ユーザー一覧	<p>登録されているユーザーの一覧が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● (D) 一括削除の対象にするユーザーにする場合にチェックを入れます。 ● (E) 「名前」が表示されます。 ● (F) 検索対象のユーザー情報（検索対象がユーザー名の場合はユーザー種別が表示されます）が表示されます。 ● (G) 並び替え対象のユーザー情報（並び替え対象がユーザー名の場合はメールアドレスが表示されます）が表示されます。
5	ユーザー情報	ユーザー一覧で選択したユーザーの情報が表示されます。
6	[操作]	<p>クリックすると、以下のメニューが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ロックアウト解除 このメニューは、ロックアウトしている（ログインに複数回失敗しログインできない状態）ユーザーだけに表示されます。クリックすると、ロックアウトの解除が行われ、ログインできるようになります。 なお、ロックアウトされたユーザーのアイコンは鍵付きの状態が表示されます。  <p>👉 「[操作] タブ」 322 ページ</p> <p>👉 「アカウントポリシー」 770 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 削除 (※1) クリックして、確認画面で [OK] をクリックすると、表示されているユーザーが削除されます。
7	[編集]	<p>クリックすると、管理情報またはパスワードの編集ができます。編集項目については、以下を参照してください。</p> <p>👉 「[管理] タブ」 317 ページ</p>

※1：ログイン中のユーザーは削除できません。また、チェックボックスも表示されません。

5.1.1 [管理] タブ

ユーザーを新規に作成します。作成したユーザーは、端末の管理情報として利用されます。

また、ユーザーにはすべての操作ができる [管理者] から、管理サイトへのログインをできなくする [一般] まで、多様な権限を付与することができます。

 画面 (新規作成)

 画面 (編集)

 ベーシックパックプラスをご利用の方は、KDDI ビジネスオンラインサポートから操作可能です。

詳細は以下を参照してください。また、KDDI Business ID によって更新された場合は、管理サイトに同期が行われます。

 「KDDI ビジネスオンラインサポート KDDI Business ID 設定マニュアル」の「4.4.ユーザ」

<http://www.kddi.com/business/support/service/business-id/manual/>

 ユーザーを作成すると、[「App とブック」設定] タブ、[その他] タブが表示されます。

◆画面（新規作成）

表示操作 [ユーザー] → [一覧] → +

作成できるユーザー数は、契約によって異なります。

 新規作成

管理

管理情報 - 編集

- 名前
- フリガナ
- 姓
- 名
- ユーザーID
- メールアドレス
- ユーザー種別
 - 管理者 (全ての操作ができます)
 - 操作
 - 閲覧者 (変更操作ができません)
 - ロック・ワイプ
 - ログイン (個別に権限を設定)
 - 一般 (ログインできません)
- 組織
- 所属 (部)
(未分類)
- 役職
(未分類)
- 機器認証制限
 - 制限なし
 - 制限あり 台
 - 認証禁止
- パスワード
- パスワード(再入力)

保存

項番	名称	説明
1	名前 (※1)	<p>ユーザーの名称を 30 文字以内で入力します。重複はできません。名前を入力していない状態で [保存] をクリックすると「姓」と「名」に入力されている情報が「名前」に自動的に反映されます。そのとき、姓と名の間に半角スペースが入ります。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「名前」に入力がなく、「姓」と「名」にも入力がない場合、「名前」の入力を求められます。</p>
2	フリガナ	<p>フリガナを 30 文字以内で入力します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 半角カタカナで入力しても全角カタカナに変換され、全角空白は半角空白に変換されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「名前」、「姓」、「名」を入力しても、「フリガナ」は自動的に反映されません。手動で入力します。</p>
3	姓 (※1)	姓を 20 文字以内で入力します。
4	名 (※1)	名を 20 文字以内で入力します。
5	ユーザーID (※1)	ユーザーID を 255 文字以内の半角英数字、半角記号で入力します。重複するユーザーID は登録できません。
6	メールアドレス (※1)	メールアドレスを 255 文字以内の半角英数字、半角記号で入力します。「@」の前後にそれぞれ 1 文字以上入力してください。重複するメールアドレスは登録できません。
7	ユーザー種別 (※1)	<p>ユーザーに付与する権限を以下から選択します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ユーザー種別により管理サイトの操作範囲が異なります。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 編集時は、ログイン中のユーザーのユーザー種別は変更できません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> KDDI Business ID に管理者として登録したユーザーは「管理者」と設定します。「ユーザ」として登録したユーザーは「一般」になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●管理者 管理サイトのすべての操作を行えます。 ●操作 ロック・ワイプの操作およびロック・ワイプ設定内容の閲覧以外、管理サイトのすべての操作を行えます。 ●閲覧者 管理サイトの閲覧のみ行えます。新規作成、編集、削除などの変更操作はできません。 ●ロック・ワイプ ロック・ワイプの操作およびロック・ワイプ設定内容の閲覧、ユーザー情報の閲覧 (位置情報を含む)、機器の管理情報の編集のみ行えます。ロック・ワイプ以外の機能についての情報の閲覧および編集は行えません。 ●ログイン 「ダッシュボード」と「個人設定」の閲覧、編集のみ行えます。主に「入力項目のカスタマイズ」を用いて追加権限を付与する場合に指定します。「ダッシュボード」と「個人設定」の詳細については、以下を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">  「ダッシュボード」 67 ページ  「個人設定」 76 ページ  「入力項目のカスタマイズ」 333 ページ ●一般 管理サイトへのログインはできません。
8	組織	<p>ユーザーに所属させる組織がある場合は、リストボックスから登録されている組織を選択します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> リストボックスで表示される組織は 100 までとなり、100 を超える (リストに表示されない) 組織にユーザーを割り当てる場合の手順については、以下を参照してください。</p> <p> 「CSV で編集」 341 ページ</p>

項番	名称	説明
9	(カスタマイズ項目)	<p>「入力項目のカスタマイズ」で分類や自由入力の項目を登録している場合に表示されます。</p> <p> カスタマイズ項目の作成方法については、以下を参照してください。</p> <p> 「入力項目のカスタマイズ」 333 ページ</p>
10	機器認証制限	<p>ユーザーが認証できる機器の制限を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●制限なし すべての機器を認証できます。 ●制限あり 選択した場合は、機器の台数は入力必須です。最大機器台数は 0 から 10,000 の間を半角数字で指定してください。すでにユーザーに紐づいている機器がある場合は、その台数以上の値を指定してください。 ●認証禁止 機器の認証はできません。
11	パスワード (※1)	<p>ログインユーザーとして利用する場合は、パスワードを 4 文字から 32 文字以内の半角英数字、半角記号で入力します。</p> <p> 入力を省略するとランダムなパスワードが設定されますがパスワードは確認できないため、ログインユーザーとして利用する場合はパスワードを設定してください。</p>
12	パスワード(再入力)	確認のため、パスワードを再入力します。

※1：ベーシックパックプラスをご利用の方は、編集、削除および一括削除はできません。ユーザー情報の編集については、KDDI ビジネスオンラインサポートから操作可能です。詳細は以下を参照してください。また、KDDI Business ID によって更新された場合は、管理サイトに同期が行われます。



「KDDI ビジネスオンラインサポート KDDI Business ID 設定マニュアル」の「4.4.ユーザ」

<http://www.kddi.com/business/support/service/business-id/manual/>

◆画面（編集）

表示操作 [ユーザー] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → [管理] タブ → 「管理情報」の [編集]

表示操作 [ユーザー] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → [管理] タブ → 「パスワード」の [編集]



項番	名称	説明
1	管理情報	<p>管理情報を編集します。詳細については、以下を参照してください。</p> <p>📄 「画面（新規作成）」318 ページ</p> <p>📌 ベーシックパックプラスをご利用の方は、名前、姓、名、ユーザーID、メールアドレス、ユーザー種別の変更はできません。</p> <p>📌 ユーザー情報の編集については、KDDI ビジネスオンラインサポートから操作可能です。詳細は以下を参照してください。 また、KDDI Business ID によって更新された場合は、管理サイトに同期が行われます。</p> <p>📖 「KDDI ビジネスオンラインサポート KDDI Business ID 設定マニュアル」の「4.4.ユーザ」 http://www.kddi.com/business/support/service/business-id/manual/</p>
2	パスワード	<p>パスワードを編集します。詳細については、以下を参照してください。</p> <p>📄 「画面（新規作成）」318 ページ</p>

5.1.2 [操作] タブ

ロックアウト状態（ログインに複数回失敗しログインできない状態）の解除や、ユーザーの削除を行うことができます。

 ロックアウトの解除は、ロックアウトされたユーザー以外のユーザーがログインして操作してください。

◆画面（ロックアウトされたユーザーの解除）

表示操作 [ユーザー] → [一覧] → 一覧から対象（ロックアウト中のユーザー）を選択 → [操作] → [ロックアウト解除]

The screenshot shows a user management interface. On the left, there is a list of users. One user with a lock icon is highlighted with a red box and labeled '1'. The main area shows the details of the selected user. At the top right, there is a '操作' (Action) dropdown menu with a red box and label '2', containing 'ロックアウト解除' (Unlock) and '削除' (Delete). A confirmation dialog box is overlaid on the screen with a red box and label '3', asking 'ロックアウトを解除してよろしいですか?' (Are you sure you want to unlock the user?). The dialog has 'OK' and 'キャンセル' (Cancel) buttons.

項番	名称	説明
1	ユーザー一覧	対象とするユーザーをクリックします。
2	[操作]	クリックし、表示されたリストメニューから「ロックアウト解除」を選択します。  ロックアウトしていないユーザーは、「ロックアウト解除」は表示されません。
3	—	ロックアウトされたユーザーの解除について確認する画面です。 ●OK ユーザーのロックアウトを解除します。 ●キャンセル ユーザーのロックアウト解除を中断します。

5.1.3 「App とブック」 設定」 タブ

ユーザーに対する「App とブック」ライセンスの付与設定や、設定状況などを確認することができます。

「App とブック」設定」タブでは、状態によって表示される項目が異なります。

-  画面（新規作成）
-  画面（App ライセンスの付与）
-  画面（ブックライセンスの付与）
-  画面（状況確認）
-  画面（ユーザー個別設定）
-  画面（機器の Apple ID 変更による再度参加依頼）

 「App とブック」設定」タブは、ユーザーを作成すると表示されます。

 構成プロファイルアップロードで App Store を表示させないようにする制限項目（「App のインストールを許可」または「App Store からの App インストールを許可」）を有効にしていると、「App とブック」の参加依頼を完了できませんのでご注意ください。

◆画面（新規作成）

ユーザーに対する「App とブック」ライセンスの付与を行うための設定画面を、新規に表示します。

 「App とブック」ライセンス」のアカウント登録が必要です。

 「App とブック」ライセンス」606 ページ

 ユーザーが所属している組織に、すでに「App とブック」設定が適用されている場合は、「App とブック」設定画面に組織で設定した「App とブック」の設定が表示されます。

 「画面（ユーザー個別設定）」329 ページ

表示操作 [ユーザー] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → 「App とブック」設定」タブ



項番	名称	説明
1	[新規作成]	クリックすると、ライセンス付与の画面が表示されます。ライセンス付与は、App ライセンスとブックライセンスがあります。それぞれの詳細については、以下を参照してください。  「画面（App ライセンスの付与）」324 ページ  「画面（ブックライセンスの付与）」326 ページ

◆画面 (App ライセンスの付与)

ユーザーに対する App ライセンス付与の設定を行います。

- ☑ 本設定でユーザーに割り当てた App ライセンスは、「[App とブック] ライセンス」の [アプリケーション] タブで、「未割当数」としてカウントされます。
- ☑ この状態では実際にライセンスは、付与されていません。ライセンスの付与については、以下を参照してください。

🔗 「アプリケーション配信」 624 ページ

表示操作 [ユーザー] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → [[App とブック] 設定] タブ → [新規作成]
または [編集] → [アプリケーション]

管理 「Appとブック」設定 その他 操作

テンプレート

1 (適用するテンプレートを選択) 適用

Appとブック - 編集

2 「Appとブック」管理配布登録
「Appとブック」ライセンス

参加依頼
 自動送信
 手動送信

(A) アプリケーション 書籍

3 Appライセンス付与
アプリケーション名
(+ボタンで追加: 件まで)

取消 保存

項番	名称	説明
1	テンプレート	「App とブック」設定のテンプレートを適用する場合は、リストボックスからテンプレートを選択して「適用」をクリックすると、テンプレートの内容が適用されて、「App とブック」設定が完了します。
2	「App とブック」管理 配布登録	<p>「App とブック」ライセンスと参加依頼の方法を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「App とブック」ライセンス 「App とブック」アカウントを選択します。 ● 参加依頼 「App とブック」のアプリや書籍を配布するには、ユーザーの参加が必要です。「App とブック」への参加を求める確認画面をユーザーの端末に表示します。参加依頼の送信方法を以下の項目から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・自動送信 自動で送信します。 ・手動送信 選択した場合、「参加依頼を送付する機器」に参加依頼を送付するデバイスをリストボックスから選択します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> ユーザーに機器が紐づいていない場合、「手動送信」は表示されません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 編集画面の場合は、選択済の送信方法が表示され、変更できません。</p>
3	App ライセンス付与	<p>(A) 「アプリケーション」をクリックすると表示されます。</p> <p>App ライセンスを割り当てるアプリを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アプリケーション名 <input checked="" type="checkbox"/> をクリックして、リストボックスからアプリを選択します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「App とブック」ライセンスに登録しているアプリが設定できます。画面に表示される件数は、「App とブック」ライセンスに登録しているアプリの数です。 <input checked="" type="checkbox"/> 「App とブック」設定が保存されたあとは、アプリの名前のリンクをクリックすると、iTunes Store の該当アプリの紹介ページを表示します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> アプリは、300 件まで追加できます。</p>

◆画面（ブックライセンスの付与）

ユーザーに対するブックライセンス付与の設定を行います。

- ☑ 本画面でユーザーに割り当てたブックライセンスは、「[Appとブック] ライセンス」の [書籍] タブで、「未割当数」としてカウントされます。
- ☑ この状態では実際にライセンスは、付与されていません。ライセンスの付与については、以下を参照してください。

🔗 「[書籍] タブ」 610 ページ

表示操作 [ユーザー] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → 「[Appとブック] 設定」 タブ → [新規作成]
または [編集] → [書籍]

管理 「Appとブック」設定 その他 ▾ 操作 ▾

テンプレート

1 (適用するテンプレートを選択) ▾

適用

Appとブック - 編集

2 「Appとブック」管理配布登録
「Appとブック」ライセンス
参加依頼
 自動送信
 手動送信

アプリケーション (A) 書籍

3 ブックライセンス付与

書籍名
(+ボタンで追加: 件まで) +

※ユーザーに設定を作成すると機器に作成した設定は適用されないため、アプリケーションのライセンスが回収される恐れがあります。

取消 保存

項番	名称	説明
1	テンプレート	ユーザーに「App とブック」テンプレートを適用します。
2	「App とブック」管理配布登録	<p>「App とブック」ライセンスと参加依頼の方法を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「App とブック」ライセンス 「App とブック」アカウントを選択します。 ●参加依頼 「App とブック」のアプリや書籍を配布するには、ユーザーの参加が必要です。「App とブック」への参加を求める確認画面をユーザーの端末に表示します。参加依頼の送信方法を以下の項目から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・自動送信 自動で送信します。 ・手動送信 選択した場合、「参加依頼を送付する機器」に参加依頼を送付するデバイスをリストボックスから選択します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> ユーザーに機器が紐づいていない場合、「手動送信」は表示されません。</p>
3	ブックライセンス付与	<p>(A) [書籍] をクリックすると表示されます。 ブックライセンスを割り当てる書籍を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●書籍名 <input checked="" type="checkbox"/> をクリックして、リストボックスから書籍を選択します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「App とブック」ライセンスに登録している書籍が設定できます。画面に表示される件数は、「App とブック」ライセンスに登録している書籍の数です。 <input checked="" type="checkbox"/> 「App とブック」設定が保存されたあとは、書籍の名前のリンクをクリックすると、iTunes Store の該当書籍の紹介ページを表示します。 <input checked="" type="checkbox"/> 書籍は、300 件まで追加できます。

◆画面（状況確認）

「Appとブック」設定の参加依頼のステータス、ライセンス付与したアプリや書籍のステータスを確認できます。

表示操作 [ユーザー] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → 「Appとブック」設定 タブ

項番	名称	説明
1	参加依頼のステータス	参加依頼の現在のステータスが表示されます。
2	[アプリケーション]	クリックすると App ライセンス付与の割り当て状況を確認できます。
3	[書籍]	クリックすると書籍ライセンス付与の割り当て状況を確認できます。
4	アプリケーション名/ 書籍名	アプリ名や書籍名をクリックすると、iTunes Store の該当アプリや書籍の紹介ページを表示します。
5	ステータス	現在のライセンス付与の割り当て状況が表示されます。

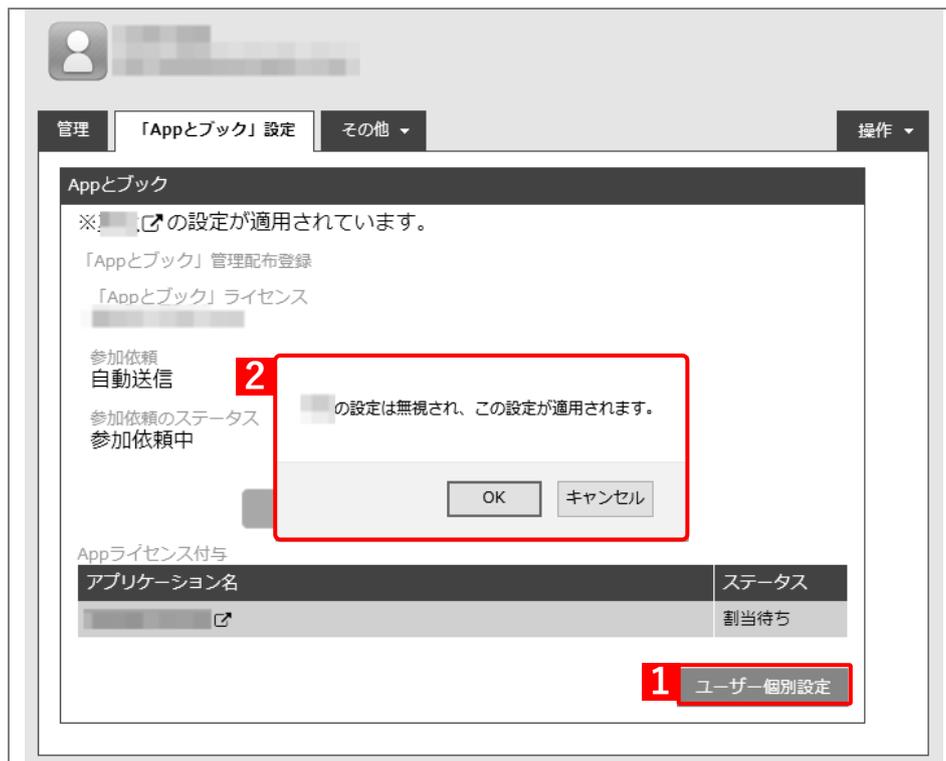
◆画面（ユーザー個別設定）

ユーザーが所属している組織で「App とブック」の設定が行われている場合は、組織で設定した「App とブック」設定が表示されます。

そのため、組織の設定を無視してユーザー個別の「App とブック」を設定したい場合は、本設定を行います。

 [ユーザー個別設定] は、ユーザーが所属している組織で「App とブック」設定が行われている場合に表示されます。

表示操作 [ユーザー] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → [「App とブック」設定] タブ



項番	名称	説明
1	[ユーザー個別設定]	組織の設定を無視してユーザー個別の設定を行う場合にクリックします。クリックすると、確認画面が表示されます。
2	メッセージボックス	<p>ユーザー個別設定について確認する画面です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●OK ユーザー個別設定の画面に移動します。[OK] をクリックしたあとは、「App とブック」アプリおよび書籍のライセンスを付与します。詳細については、以下を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">  「画面（App ライセンスの付与）」 324 ページ  「画面（ブックライセンスの付与）」 326 ページ ●キャンセル ユーザー個別設定を中断します。

◆画面（機器の Apple ID 変更による再度参加依頼）

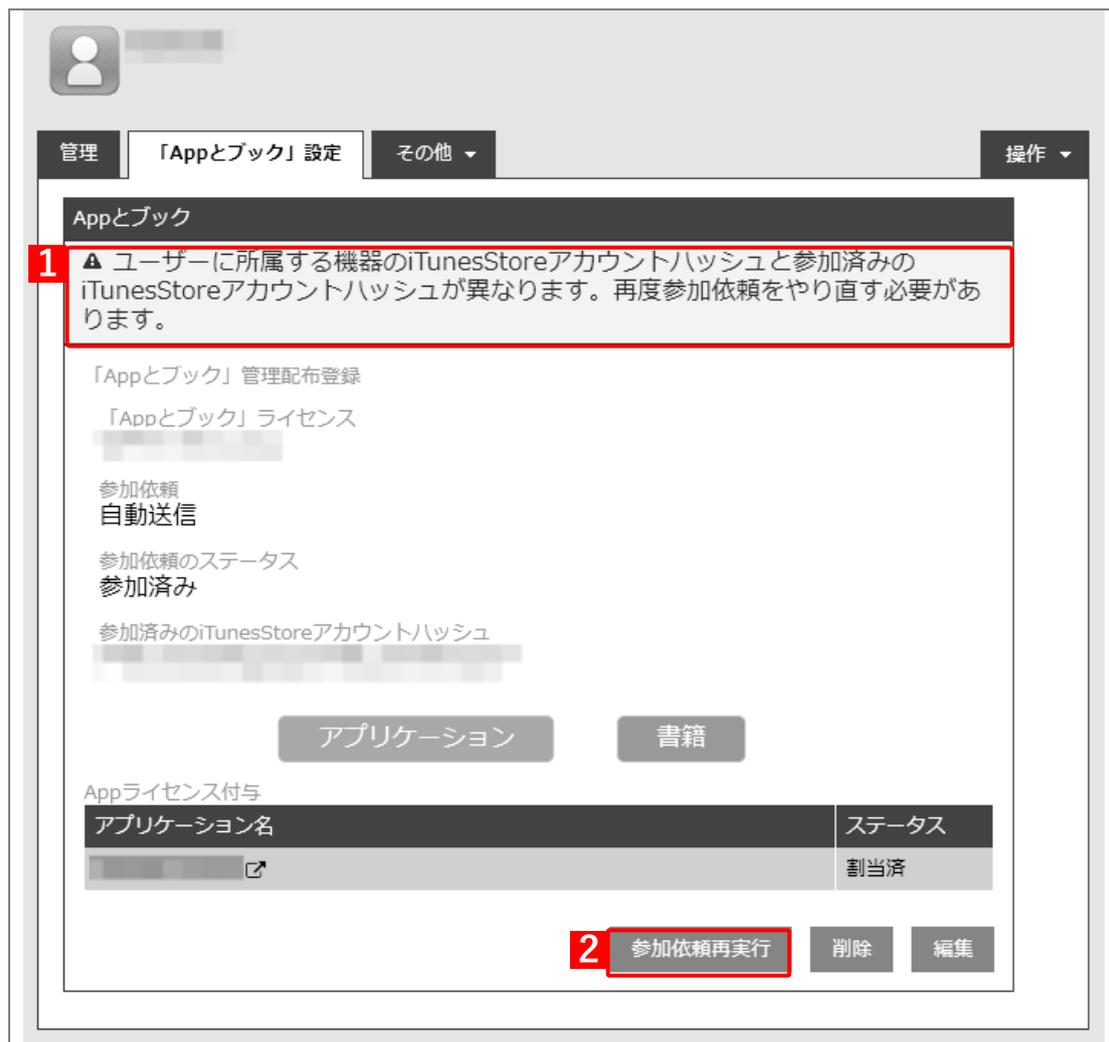
ユーザーに所属する端末の Apple ID が変更されると、ユーザーに所属する端末の iTunes Store アカウントハッシュと、参加済みの iTunes Store アカウントハッシュが異なるため、参加依頼をやり直すメッセージを表示します。

このメッセージが表示されると、「App とブック」アプリの追加配信ができなくなるため、[参加依頼再実行] をクリックして再度参加依頼を行い、あらためて iOS 端末側で「App とブック」アプリの割り当てを許可してください。

🔗 「[アプリケーション] タブ」 609 ページ

🔗 「[書籍] タブ」 610 ページ

表示操作 [ユーザー] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → 「[App とブック] 設定」 タブ



項番	名称	説明
1	警告メッセージ	端末に設定されている iTunes Store アカウントハッシュと参加済みの iTunes Store アカウントハッシュが異なる場合に表示されます。
2	[参加依頼再実行]	あらためて参加依頼を行う場合はクリックして、確認画面で [OK] をクリックします。

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
<p>▲ アプリケーションは重複しないものを入力してください。</p>	<p>「Appライセンス付与」欄で [+] でアプリを追加するときに、アプリ名が重複している。</p>	<p>重複しているアプリを設定から削除し、[保存] をクリックしてください。</p>
<p>▲ 書籍は重複しないものを入力してください。</p>	<p>「ブックライセンス付与」欄で [+] で書籍を追加するときに書籍名が重複している。</p>	<p>重複している書籍を設定から削除し、[保存] をクリックしてください。</p>

5.1.4 [その他▼] タブ／設定

Android Enterprise 機能を利用したアプリの配信設定を、ユーザー単位で作成することができます。

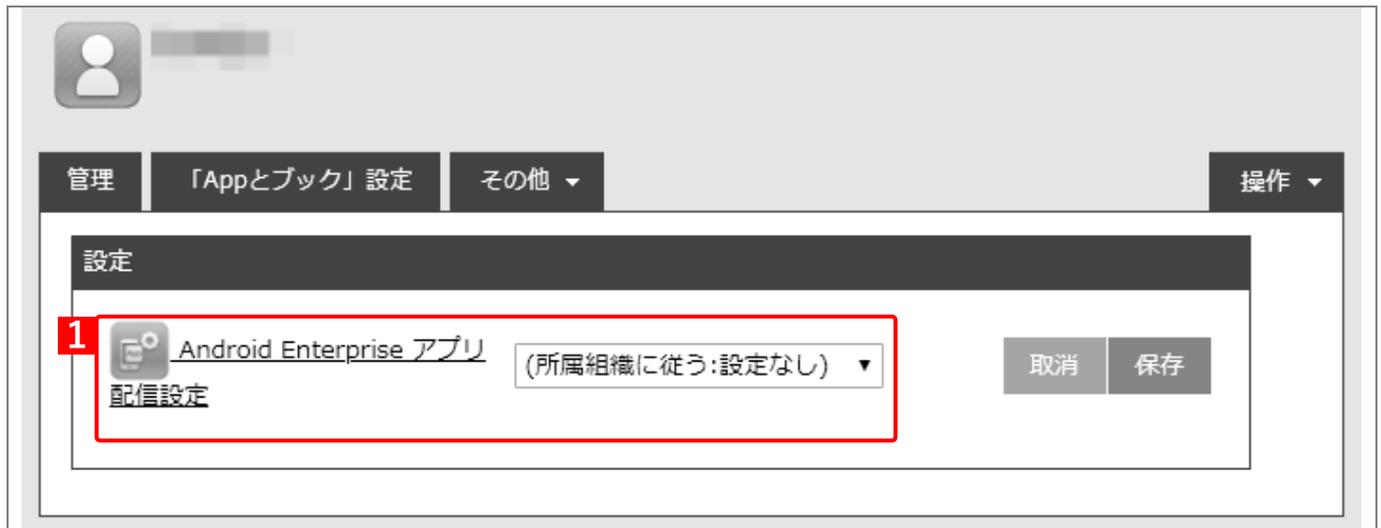
🔗 Android Enterprise の「アプリケーション配信」で、あらかじめ設定セットを作成してください。

📄 「Android Enterprise／アプリケーション配信」 409 ページ

🔗 本機能は Android Enterprise 機能を利用した Android 端末に利用できます。

◆画面

表示操作 [ユーザー] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [設定] → [編集]



項番	名称	説明
1	Android Enterprise アプリ配信設定	●Android Enterprise を利用する機器にアプリケーション配信の設定をリストボックスから選択します。

5.2 入力項目のカスタマイズ

ユーザーの [管理] タブに表示される管理情報に、任意の項目を追加することができます。

 「[管理] タブ」 317 ページ

追加できる項目には、リストボックスから項目を選択する [分類] と、テキストボックスに文字を直接書き込む [自由入力] があります。

また、[分類] で追加した項目は、ユーザーと機器を紐づけすると [全機器一括設定] 画面に表示され、対象機器の選択条件として使用することもできます。

 「機器の管理情報」 93 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

●追加した入力項目で一括設定を行う使用例

- ① [分類] タブで、項目名に「社員種別」、グループ名に「正社員」と「契約社員」を設定して新規作成します。

 「画面（新規作成）」 335 ページ

- ② ユーザーの [管理] タブの管理情報に表示される「社員種別」の項目で、「正社員」と「契約社員」のいずれかを選択して保存します。

 「[管理] タブ」 317 ページ

- ③ 各機器の管理情報に表示されるラジオボタンから [ユーザー] を選択し、リストボックスから②で作成したユーザーを選択して、ユーザーと機器を紐づけます。

 「機器の管理情報」 93 ページ

- ④ 全機器一括設定で、「ユーザーの社員種別」をクリックして表示されるメニューから「正社員」または「契約社員」を選択し、機能を一括適用します。

 「全機器一括設定」 248 ページ

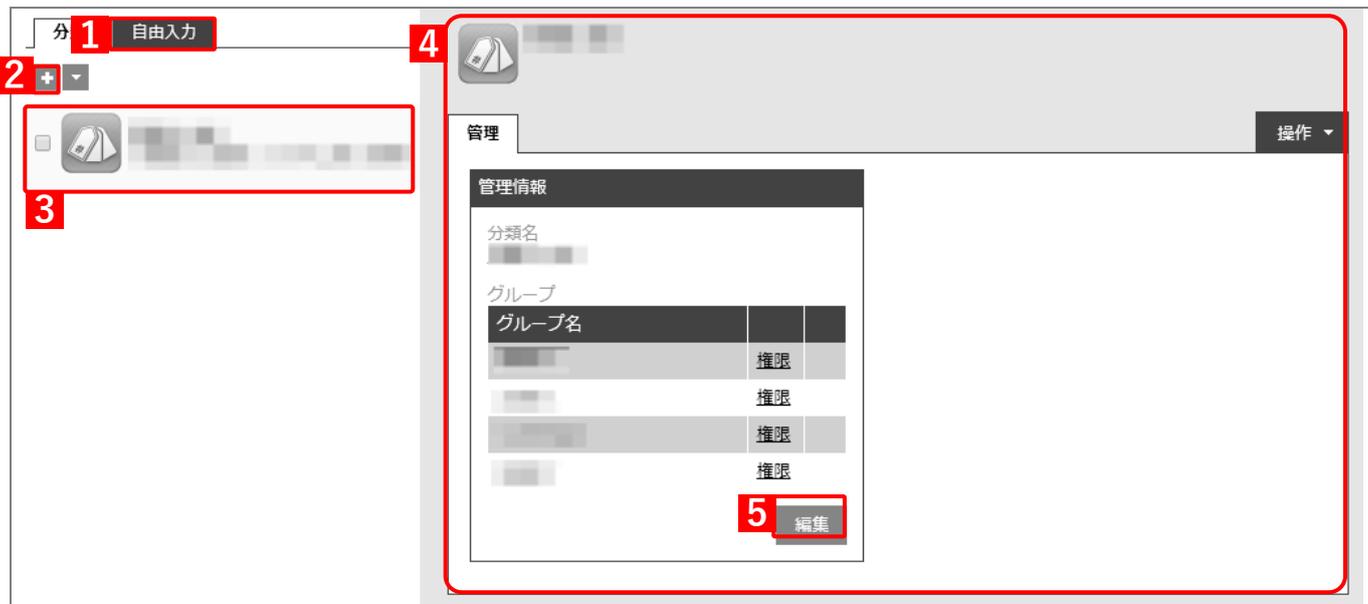
5.2.1 [分類] タブ

入力項目のカスタマイズ] 画面の [分類] タブ画面について説明します。

-  画面
-  画面 (新規作成)

◆画面

表示操作 [ユーザー] → [入力項目のカスタマイズ] → [分類] タブ



項番	名称	説明
1	[自由入力] タブ	クリックすると、自由入力画面が表示されます。詳細については、以下を参照してください。  「[自由入力] タブ」 337 ページ
2		クリックすると、分類の新規作成画面が表示されます。分類は最大 50 件まで作成できます。カスタマイズ項目の新規作成については、以下を参照してください。  「画面 (新規作成)」 335 ページ
3	分類一覧	登録されているカスタマイズ項目の分類名が表示されます。
4	管理情報	分類一覧から選択した分類の登録内容が表示されます。
5	[編集]	クリックすると、登録されている入力項目のカスタマイズ情報を編集できます。編集できる項目は、新規作成時と同じです。

◆画面（新規作成）

表示操作 [ユーザー] → [入力項目のカスタマイズ] → [分類] タブ → 

[分類] タブ画面でカスタマイズできる項目について説明します。

作成した項目の利用方法については、以下を参照してください。

 「入力項目のカスタマイズ」 333 ページ



項番	名称	説明
1	分類名	分類の名称を 30 文字以内で入力します。重複する分類名は登録できません。 例) 所属事業部
2	グループ	分類の下にグループを作成します。  をクリックして最大 300 件指定できます。
	グループ名	グループの名称を 30 文字以内で入力します。重複する分類名は登録できません。 例) 営業部、システム部、総務部
	権限	ユーザーに追加権限を付与する場合に指定します。権限を追加する必要がない場合は指定する必要はありません。 クリックすると、権限設定用の画面が表示されます。 
		この画面では、ユーザーの管理情報の「ユーザー種別」で付与された権限では行えない操作ができます。追加する権限は「組織」、「ユーザー所有の機器」、「アプリ」ごとに指定します。 ●組織 「組織」に追加する権限を指定します。  をクリックして、リストボックスから組織を選択し、付与する権限を選択します。 例えばユーザー種別「閲覧者」のユーザーに、営業部に対してだけ「管理者」権限を付与できます。権限は「管理者」、「操作」、「閲覧者」、「ロック・ワイプ」のいずれかを指定します。 各権限の詳細については、以下を参照してください。

項番	名称	説明
		<p data-bbox="687 190 1062 224">🔑 「[管理] タブ」 317 ページ</p> <ul data-bbox="555 235 1465 459" style="list-style-type: none"><li data-bbox="555 235 1465 459">●ユーザー所有の機器 ユーザー所有の機器に追加する権限を「管理者」、「操作」、「閲覧者」、「ロック・ワイプ」、「なし」のいずれかから選択します。 例えばユーザー種別「閲覧者」のユーザーに、自身が所有する機器に対してだけ「管理者」権限を付与できます。「なし」を選択した場合はユーザー所有の機器に対して権限の追加を行いません。 その他の権限の詳細については、以下を参照してください。 <p data-bbox="687 470 1062 504">🔑 「[管理] タブ」 317 ページ</p> <ul data-bbox="555 515 1465 604" style="list-style-type: none"><li data-bbox="555 515 1465 604">●アプリ アプリに追加する権限を指定します。表示されるアプリについては管理者へお問い合わせください。
	削除	クリックすると、該当のグループの行が削除されます。

5.2.2 [自由入力] タブ

[入力項目のカスタマイズ] 画面の [分類] タブ画面について説明します。

 画面

 画面 (新規作成)

◆画面

表示操作 [ユーザー] → [入力項目のカスタマイズ] → [自由入力] タブ



項番	名称	説明
1	[分類] タブ	クリックすると、ユーザー分類画面が表示されます。詳細については、以下を参照してください。  「[分類] タブ」 334 ページ
2	+	クリックすると、分類の新規作成画面が表示されます。自由入力は最大 50 件まで作成できます。カスタマイズ項目の新規作成については、以下を参照してください。  「画面 (新規作成)」 338 ページ
3	自由入力一覧	登録されている自由入力の項目名が表示されます。
4	管理情報	自由入力一覧から選択した自由入力の登録内容が表示されます。
5	[編集]	クリックすると、表示されている入力項目の管理情報を編集できます。編集できる項目は、新規作成時と同じです。

◆画面（新規作成）

表示操作 [ユーザー] → [入力項目のカスタマイズ] → [自由入力] タブ → **+**

[自由入力] タブ画面でカスタマイズできる項目について説明します。

作成した項目の利用方法については、以下を参照してください。

🏠 「入力項目のカスタマイズ」 333 ページ

項番	名称	説明
1	項目名	入力欄の項目の名称を 30 文字以内で入力します。重複する項目名は登録できません。 例) 社員番号、生年月日
2	説明	入力欄についての説明などがあれば、100 文字以内で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 入力した説明文は、各機器の管理情報の該当項目の入力欄の下に「※」付きで表示されます。

5.3 CSV で追加

CSV ファイルを利用して、複数のユーザー情報を一括で管理サイトに登録できます。

操作手順については、以下を参照してください。

 「CSV ファイルの共通操作」 67 ページ

 ベーシックパックプラスをご利用の方は、名前、姓、名、ユーザーID、メールアドレス、ユーザー種別およびパスワードの変更はできません。

ユーザー情報の編集およびパスワードの変更については、KDDI ビジネスオンラインサポートから操作可能です。詳細は以下を参照してください。

 「KDDI ビジネスオンラインサポート KDDI Business ID 設定マニュアル」の「4.4.ユーザ」
<http://www.kddi.com/business/support/service/business-id/manual/>

◆画面

表示操作 [ユーザー] → [CSV で追加]

1. CSVファイルを準備します

「ダウンロード」ボタンをクリックしてCSVファイルをダウンロードします。
 ダウンロードしたファイルの内容を編集して保存してください。

1  ダウンロード

2. CSVファイルをアップロードします

編集したCSVファイルを指定して「アップロード」ボタンをクリックしてください。
 アップロード完了後、インポートの確認画面に移動します。

2  ファイルを選択 選択されていません

3  アップロード

項番	項目	説明
1	[ダウンロード]	項目名のみが記載されたインポート用の CSV ファイルをダウンロードします。ダウンロードした CSV ファイルへのユーザー情報の入力方法については、以下を参照してください。  「インポート用の CSV ファイルの項目」 340 ページ
2	[ファイルを選択]	ユーザー情報を入力したインポート用の CSV ファイルを選択します。
3	[アップロード]	ユーザー情報をアップロードします。アップロードが完了すると、インポート画面が表示されます。

◆インポート用の CSV ファイルの項目

ユーザー情報を CSV ファイルからインポートして追加、編集する場合、CSV ファイルに以下の項目を入力、編集して作成します。

- ☑ CSV ファイルの 1 行目に項目名が表示されています。登録する情報は、2 行目以降に入力してください。
- ☑ 変更に使用する CSV ファイルには、登録されているユーザーの情報が表示されています。列と行の追加や削除は行わず、内容の修正のみ行ってください。
- ☑ CSV ファイルの構造については、以下を参照してください。

🔗 「インポート用の CSV ファイルの構造」 68 ページ

項目名	入力方法
GUID	変更しないでください。 ☑ この項目は「CSV で編集」でダウンロードした CSV ファイルに表示されます。
[S]ユーザー種別	以下のいずれかの種別を入力します。 ・「管理者」、「操作」、「閲覧者」、「ロック・ワイプ」、「ログイン」、「一般」
[F]パスワード	新規データの場合は、4 文字から 20 文字以内の半角英数字で入力します。変更データの場合は、「*」で表示されていますが、変更はできます。4 文字から 20 文字以内の半角英数字で入力してください。 また、「*」を 8 個入力した場合は、変更されません。
その他の[F]から始まる項目	項目名に該当する値を自由に入力します。
[G]から始まる項目	「入力項目のカスタマイズ」の「分類」で登録した項目です。項目に該当する内容を入力します。 🔗 「入力項目のカスタマイズ」 333 ページ ☑ 「入力項目のカスタマイズ」の「分類」で何も登録していない場合は、項目は表示されません。

5.4 CSV で編集

登録されているユーザーの情報をまとめて編集（変更）したい場合に使用します。

操作手順については、以下を参照してください。

 「CSV ファイルの共通操作」 67 ページ

 ベーシックパックプラスをご利用の方は、名前、姓、名、ユーザーID、メールアドレス、ユーザー種別およびパスワードの変更はできません。

ユーザー情報の編集およびパスワードの変更については、KDDI ビジネスオンラインサポートから操作可能です。詳細は以下を参照してください。

 「KDDI ビジネスオンラインサポート KDDI Business ID 設定マニュアル」 > 「4.4.ユーザ」
<http://www.kddi.com/business/support/service/business-id/manual/>

◆画面

表示操作 [ユーザー] → [CSV で編集]

1. CSVファイルを準備します

「ダウンロード」ボタンをクリックしてCSVファイルをダウンロードします。
 ダウンロードしたファイルの内容を編集して保存してください。

1 **ダウンロード**

2. CSVファイルをアップロードします

編集したCSVファイルを指定して「アップロード」ボタンをクリックしてください。
 アップロード完了後、インポートの確認画面に移動します。

▲ CSVファイルをダウンロードした時点からアップロードするまでの間に、ログインしているユーザーの情報が変更された場合、変更可能な範囲や内容が変わってしまう恐れがあります。アップロードを行うユーザー自身がダウンロードした最新のCSVファイルを使っての更新を推奨します。

2 **ファイルを選択** 選択されていません

3 **アップロード**

項番	項目	説明
1	[ダウンロード]	ユーザー情報を記入するインポート用の CSV ファイルをダウンロードします。ダウンロードした CSV ファイルの編集方法については、以下を参照してください。  「インポート用の CSV ファイルの項目」 340 ページ
2	[ファイルを選択]	ユーザー情報を入力したインポート用の CSV ファイルを選択します。
3	[アップロード]	ユーザー情報をアップロードします。アップロードが完了すると、インポート画面が表示されます。

5.5 CSV をダウンロード

登録されているすべてのユーザー情報が記載されている CSV ファイルをダウンロードできます。

CSV ファイルへ出力されるときに文字コードは日本語環境では SHIFT-JIS (cp932)、その他の環境では UTF-8 です。

📄 ダウンロードできる CSV ファイルは、「CSV で編集」でダウンロードできるファイルと同じです。

🔗 「CSV で編集」 341 ページ

◆画面

表示操作 [ユーザー] → [CSV をダウンロード]

CSVファイルのダウンロード

「ダウンロード」ボタンをクリックしてCSVファイルをダウンロードします。

1 抽出条件
「Appとブック」アカウント: (選択なし) ▼

2 ダウンロード

項番	名称	説明
1	抽出条件	● 「App とブック」アカウント 「App とブック」アカウント別にユーザー情報を抽出したい場合は、リストボックスから「App とブック」アカウントを選択します。
2	[ダウンロード]	クリックすると、抽出条件に一致したユーザー情報が記載されている CSV ファイルをダウンロードできます。

6 組織

この章では、ヘッダーメニューの [組織] 画面に表示される、各種の設定について説明します。

6.1 一覧

[機器] の [一覧] 画面では、組織の新規作成や組織単位の機器設定、Android Enterprise アプリ配信設定の割り当てのほか、「App とブック」の付与状況確認などを行うことができます。

作成した組織に「機器」や「ユーザー」を所属させると、設定テンプレートや設定セットの適用が組織単位で行えるようになります。

組織単位での機器設定については、以下を参照してください。

🔗 「[Android 設定] タブ / [iOS 設定] タブ / [Windows 設定] タブ」 348 ページ

また、[ユーザー] の [入力項目のカスタマイズ] で「ユーザー種別」を「閲覧者」に設定しているユーザーが特定の組織に所属している場合は [操作] の権限を与えるなど、組織別の権限を所属ユーザーに追加することもできます。

詳細については、以下を参照してください。

🔗 「入力項目のカスタマイズ」 333 ページ

🔍 機器やユーザーを組織に所属させる操作は、「機器」や「ユーザー」の新規作成画面、または編集画面で行います。

🔗 「機器」 78 ページ

🔗 「ユーザー」 314 ページ

✍️ 組織は、最大 2,000 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作

[組織] → [一覧]



項番	名称	説明
1	[新規作成]	<p> をクリックすると項番 4 の「組織情報」に入力欄が表示されます。組織の新規作成方法については、以下を参照してください。</p> <p> 「[[管理] タブ] 346 ページ</p>
2	[その他の操作]	<p> をクリックすると以下のメニューが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全てにチェックを入れる すべてのチェックボックスにチェックが入ります。 ● 全てのチェックをはずす すべてのチェックボックスからチェックを外します。 ● 一括削除 チェックボックスにチェックの入った組織をまとめて削除します。詳細については、以下を参照してください。 <p> 「一括削除」 61 ページ</p>
3	組織一覧	<p>登録されている組織の一覧が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● (A) 登録されている「組織名」が表示されます。 ● (B) 登録されている「上位組織」が表示されます。
4	組織情報	<p>項番 3 の「組織一覧」から選択した組織の詳細な情報が表示されます。</p> <p>(C) をクリックすると機器一覧を表示します。</p>
5	[機器設定] タブ	<p>組織単位での機器設定を行うタブです。各タブの概要は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [Android 設定] タブ Android 端末に組織単位での機器設定を行います。 ● [iOS 設定] タブ iOS 端末に組織単位での機器設定を行います。 ● [Windows 設定] タブ Windows 端末に組織単位での機器設定を行います。 ● [その他 ▼] タブ <ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー設定 Android Enterprise のアプリケーション配信設定の割り当てを行います。詳細については、以下を参照してください。  「Android Enterprise」 409 ページ ・「App とブック」設定 企業に対する「App とブック」ライセンスの配布状態を確認・編集します。本画面で割り当てたライセンスは、「[App とブック] ライセンス」の [アプリケーション] タブで、「未割当数」としてカウントされます。この状態では実際にライセンスは、付与されていません。詳細については、以下を参照してください。  「[App とブック] ライセンス」 606 ページ  「App とブック」トークンがアップロードされていない場合は、本画面に「([App とブック] ライセンスがありません)」というメッセージのみ表示されます。
6	[操作]	<p>クリックすると、以下のメニューが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 削除 表示されている組織を削除します。詳細については、以下を参照してください。 <p> 「削除」 59 ページ</p>

6.1.1 [管理] タブ

組織名や組織の位置づけを設定します。

画面 (新規作成)

画面

組織の階層は、10 段階まで作成可能です。

◆画面 (新規作成)

表示操作 [組織] → [一覧] →

「機器」や「ユーザー」を所属させるための組織を新規に作成します。作成した組織は、機器およびユーザーの作成や編集時に入力項目として表示されます。

項番	名称	説明
1	組織名	組織名を 100 文字以内で入力します。同一上位組織内での重複はできません。例えば、「本社」や「支社名」「部署名」などを入力します。
2	上位組織	<p>作成する組織を「組織図」のどこに配置するかを指定します。指定した組織の直下に紐づきます。最上位の組織とする場合は「(なし)」を指定します。また、上位組織を「(なし)」以外に指定したときは、あわせて権限を引き継ぐかどうかを指定します。ここで指す権限は、「入力項目のカスタマイズ」を用いてユーザーに付与する追加権限を意味します。権限を引き継いだ場合は上位の組織に所有する追加権限をそのまま行使できます。</p> <p>「サイトマップー組織図を表示する」を例にあげます。“支社 1”を作成するときに権限を引き継ぐとした場合は、“本社”に追加権限 [管理者] を持つユーザーは“支社 1”にも追加権限 [管理者] を持つこととなります。権限を引き継がない場合は、“本社”に追加権限 [管理者] を持つユーザーでも“支社 1”については追加権限を持ちません。</p> <p> 「組織図」 827 ページ</p> <p>選択肢には、以下の項目があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 権限を引き継ぐ <p>上位組織の権限を引き継ぐ場合はチェックボックスにチェックを入れます。</p> <p>例えば、「本社」と「支社」の関係構築する場合は、「本社」「支社」の順番で作成します。「支社」を作成するときに「上位組織」を「本社」に設定すると、本社の下に支社がある関係となります。</p> 本設定を変更した場合、ユーザーのアクセス範囲および機器の設定が変更される可能性があります。

◆画面

表示操作 [組織] → [一覧] →一覧から対象を選択→ [管理] タブ



項番	名称	説明
1	[編集]	クリックすると、表示されている組織を編集できます。編集内容は新規作成と同じです。詳細については、以下を参照してください。 📄 「画面（新規作成）」 346 ページ
2	権限を共有する機器	クリックすると機器一覧を表示します。 📄 「機器一覧」 79 ページ

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
▲ 配下の組織、機器またはユーザーが存在するため削除できません。	削除しようとしている組織にユーザー、機器、下位組織が紐づけられている。	紐づけを解除したうえで再度削除してください。
▲ 配下の組織、機器またはユーザーが存在するため一括削除できません。	一括削除しようとしている組織のいずれかにユーザー、機器、下位組織が紐づけられている	紐づけを解除したうえで再度削除してください。

6.1.2 [Android 設定] タブ / [iOS 設定] タブ / [Windows 設定] タブ

設定セットを OS ごとに組織単位で端末に反映することができます。

テンプレートを作成している場合は、テンプレートの設定内容を反映することもできます。

また、Android Enterprise のアプリケーション配信設定や「App とブック」テンプレートの適用、App ライセンスとブックライセンスの付与などを、組織単位で行うことができます。

 画面（設定テンプレートの適用）

 画面（設定セットの適用）

 本設定は、各機能の設定の割り当てで「(所属組織に従う)」が設定されている場合に、機器に反映されます。設定セットの割り当てについては、以下を参照してください。

 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

 「(設定 - iOS) 設定の割り当て」 120 ページ

 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ

◆画面（設定テンプレートの適用）

表示操作 [組織] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → [Android 設定] タブ / [iOS 設定] タブ / [Windows 設定] タブ

OS 別に設定したテンプレートを選択した組織に適用します。

ここでは、[iOS 設定] タブ画像を例に使用しています。



項番	名称	説明
1	テンプレート	リストボックスから適用する設定テンプレートを選択します。
2	[適用]	クリックすると、選択したテンプレートが適用されます。

◆画面（設定セットの適用）

表示操作 [組織] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → [Android 設定] タブ / [iOS 設定] タブ / [Windows 設定] タブ → [編集]

OS 別に機能ごとの設定セットを設定し、選択した組織に保存します。

ここでは、[iOS 設定] タブ画像を例に使用しています。

組織図

管理 Android設定 iOS設定 Windows設定 その他 操作

テンプレート

(適用するテンプレートを選択)

適用

設定 - 編集

1

構成プロファイル	(所属組織に従う: 設定なし)
ローミング設定	(所属組織に従う: 設定なし)
アプリケーション配信	(所属組織に従う: 設定なし)
シングルAPPモード	(所属組織に従う: 設定なし)
アプリケーション検知	(所属組織に従う: 設定なし)
Webフィルタリング	(所属組織に従う: 設定なし)
Web閲覧履歴	(所属組織に従う: 設定なし)
お気に入り	(所属組織に従う: 設定なし)
ADE定義プロファイル	(所属組織に従う: 設定なし)
ホーム画面レイアウト	(所属組織に従う: 設定なし)
SIMステータス変更検知	(所属組織に従う: 設定なし)

取消 保存

項番	名称	説明
1	設定	<p>リストボックスから適用する設定セットを選択します。必要事項を選択後に、[保存] をクリックして保存します。編集をキャンセルする場合は [取消] をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none">☑ 「(所属組織に従う：設定なし)」を選択した場合、上位組織の設定が継承されます。☑ 上位組織が設定されていない場合に「(所属組織に従う：設定なし)」を選択した場合、「(設定なし)」を選択した場合と同じ動きとなります。☑ 「(所属組織に従う：設定なし)」を選択した設定は、全機器一括設定での設定変更が反映されません。この場合は、☑ 機器の設定で機器ごとに設定の割り当て変更を行ってください。

6.1.3 [その他▼] タブ/ユーザー設定

組織に Android Enterprise アプリ配信設定を割り当てます。

☑ Android Enterprise の「アプリケーション配信」で、あらかじめ設定セットを作成してください。

🔗 「Android Enterprise/アプリケーション配信」409 ページ

☑ 本機能は、Android Enterprise 機能を利用した Android 端末に利用できます。

◆画面

表示操作 [組織] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] → 「ユーザー設定」



項番	名称	説明
1	Android Enterprise アプリ配信設定	<p>組織に適用する Android Enterprise アプリ配信設定をリストボックスから選択します。</p> <p>☑ 「(所属組織に従う：設定なし)」を選択した場合、上位組織の設定が継承されます。</p> <p>☑ 上位組織が設定されていない場合に「(所属組織に従う：設定なし)」を選択した場合、「(設定なし)」を選択した場合と同じ動きとなります。</p>

6.1.4 [その他▼] タブ / 「App とブック」 設定

組織に「App とブック」設定テンプレートや「App とブック」ライセンス、アプリや書籍の付与などを設定します。

-  画面 (「App とブック」設定テンプレートの適用)
-  画面 (App ライセンスの付与)
-  画面 (ブックライセンスの付与)

◆画面 (「App とブック」設定テンプレートの適用)

表示操作 [組織] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → 「「App とブック」設定」 → [新規作成] または [編集]

設定した「App とブック」設定テンプレートを選択した組織に適用します。



項番	名称	説明
1	テンプレート	組織に適用する「App とブック」テンプレートをリストボックスから選択します。「App とブック」設定テンプレートの詳細については、以下を参照してください。  「「App とブック」設定テンプレート」 611 ページ
2	「App とブック」ライセンス付与対象	「App とブック」ライセンスを付与する対象を以下から選択します。 ● 「ユーザー」、「機器」
3	[適用]	クリックすると、選択したテンプレートが適用されます。

◆画面 (App ライセンスの付与)

表示操作 [組織] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → 「App とブック」設定 → [新規作成] または [編集]

App ライセンスを選択した組織に付与します。



項番	名称	説明
1	「App とブック」管理配布登録	<p>以下の項目を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「App とブック」ライセンス付与対象 「App とブック」ライセンスを付与する対象を以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・「ユーザー」、「機器」 ● 「App とブック」ライセンス 「App とブック」アカウントをリストボックスから選択します。詳細については、以下を参照してください。 🔗 「「App とブック」ライセンス」606 ページ
2	App ライセンス付与	<p>(A) [アプリケーション] をクリックすると表示されます。</p> <p>ライセンスの付与情報を確認・編集します。リストボックスからライセンスを付与するアプリを選択します。「App ライセンス付与」に、ライセンスが付与されたアプリの名前が表示されます。この名前をクリックすると、iTunes Store の該当アプリの紹介ページを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 🔍 + をクリックすると、入力欄が追加されます。 🔍 × をクリックすると、アプリが削除されます。 🔍 「App ブック」ライセンスに登録しているアプリが設定できます。画面に表示される件数は、「App とブック」ライセンスに登録しているアプリの数です。 <p>📝 アプリは、300 件まで追加できます。</p>

◆画面（ブックライセンスの付与）

表示操作 [組織] → [一覧] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → 「App とブック」設定 → [新規作成] または [編集]

書籍のライセンスを選択した組織に付与します。



項番	名称	説明
1	「App とブック」管理配布登録	以下の項目を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「App とブック」ライセンス付与対象 「App とブック」ライセンスを付与する対象を「ユーザー」に指定します。 ● 「App とブック」ライセンス 「App とブック」アカウントをリストボックスから選択します。詳細については、以下を参照してください。 📄 「「App とブック」ライセンス」606 ページ
2	ブックライセンス付与	(A) [書籍] をクリックすると表示されます。 ライセンスの付与情報を確認・編集します。リストボックスからライセンスを付与する書籍を選択します。「ブックライセンス付与」に、ライセンスが付与された書籍の名前が表示されます。この名前をクリックすると、iTunes Store の該当書籍の紹介ページを表示します。 📌 + をクリックすると、入力欄が追加されます。 📌 ✕ をクリックすると、アプリが削除されます。 📌 「App とブック」ライセンスに登録している書籍が設定できます。画面に表示される件数は、「App とブック」ライセンスに登録している書籍の数です。 📌 書籍は、300 件まで追加できます。

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
▲ アプリケーションは重複しないものを入力してください。	「App ライセンス付与」欄で [+] でアプリを追加するときに、追加するアプリ名が重複している。	重複しているアプリを設定から削除し、[保存] をクリックしてください。
▲ 書籍は重複しないものを入力してください。	「ブックライセンス付与」欄で [+] で書籍を追加するときに、書籍名が重複している。	重複している書籍を設定から削除し、[保存] をクリックしてください。

6.2 CSV で追加

CSV ファイルを利用して、複数の組織情報を一括で管理サイトに登録できます。

操作手順については、以下を参照してください。

 「CSV ファイルの共通操作」 67 ページ

◆画面

表示操作 [組織] → [CSV で追加]

1. CSVファイルを準備します

「ダウンロード」ボタンをクリックしてCSVファイルをダウンロードします。
ダウンロードしたファイルの内容を編集して保存してください。

1 **ダウンロード**

2. CSVファイルをアップロードします

編集したCSVファイルを指定して「アップロード」ボタンをクリックしてください。
アップロード完了後、インポートの確認画面に移動します。
※上位組織から順に入力してください。

2 **ファイルを選択** 選択されていません

3 **アップロード**

項番	名称	説明
1	[ダウンロード]	項目名のみが記載されているインポート用の CSV ファイルをダウンロードします。ダウンロードした CSV ファイルへの組織情報の入力方法については、以下を参照してください。  「インポート用の CSV ファイルの項目」 357 ページ
2	[ファイルを選択]	組織情報を入力したインポート用の CSV ファイルを選択します。
3	[アップロード]	組織情報をアップロードします。アップロードが完了すると、インポート画面が表示されます。

◆インポート用の CSV ファイルの項目

組織情報を CSV ファイルからインポートして追加、編集する場合、CSV ファイルに以下の項目を入力、編集して作成します。

- CSV ファイルの 1 行目に項目名が表示されています。登録する情報は、2 行目以降に入力してください。
- 変更に使用する CSV ファイルには、登録されている組織の情報が表示されています。列と行の追加や削除は行わず、内容の修正のみ行ってください。
- CSV ファイルの構造については、以下を参照してください。

 「インポート用の CSV ファイルの構造」68 ページ

項目名	入力方法
GUID	変更しないでください。この項目は「CSV で編集」でダウンロードした CSV ファイルに表示されます。
[F]組織名	100 文字以内で入力してください。同一の上位組織内で重複はできません。
[S]上位組織	登録済みの上位組織の名称を入力してください。
[S]権限の引き継ぎ	上位組織の権限を引き継ぐ場合は、「ON」を入力してください。引き継がない場合は、空欄にしてください。
[S:OS 名]設定セット名もしくは設定テンプレート 例) [S:Android]設定テンプレート [S:iOS]ローミング設定	設定セットの名称を入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> 設定テンプレートと競合した場合は、設定テンプレートが優先されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 上位組織の設定を継承する場合は、空欄にしてください。
[S:OS 名]設定セット名(継承) 例) [S:Android]アプリケーション禁止(継承) [S:iOS]ローミング設定(継承)	上位組織の設定を継承する場合は、「ON」を入力してください。継承せずに設定セットをあてる場合は、空欄にしてください。

6.3 CSV で編集

登録されている組織の情報をまとめて編集（変更）したい場合に使用します。

操作手順については、以下を参照してください。

 「CSV ファイルの共通操作」 67 ページ

◆画面

表示操作 [組織] → [CSV で編集]

1. CSVファイルを準備します

「ダウンロード」ボタンをクリックしてCSVファイルをダウンロードします。
ダウンロードしたファイルの内容を編集して保存してください。

1 **ダウンロード**

2. CSVファイルをアップロードします

編集したCSVファイルを指定して「アップロード」ボタンをクリックしてください。
アップロード完了後、インポートの確認画面に移動します。

2 **ファイルを選択** 選択されていません

3 **アップロード**

項番	名称	説明
1	[ダウンロード]	組織情報を記入するインポート用の CSV ファイルをダウンロードします。
2	[ファイルを選択]	組織情報を入力したインポート用の CSV ファイルを選択します。
3	[アップロード]	組織情報をアップロードします。アップロードが完了すると、インポート画面が表示されます。

6.4 CSV をダウンロード

登録されているすべての組織情報が記載されている CSV ファイルをダウンロードできます。CSV ファイルへ出力されるときの文字コードは日本語環境では SHIFT-JIS (cp932)、その他の環境では UTF-8 です。

📄 ダウンロードできる CSV ファイルは、「CSV で編集」でダウンロードできるファイルと同じです。

🔗 「CSV で編集」 358 ページ

◆画面

表示操作 [組織] → [CSV をダウンロード]

CSVファイルのダウンロード

「ダウンロード」ボタンをクリックしてCSVファイルをダウンロードします。

1 **ダウンロード**

項番	名称	説明
1	[ダウンロード]	クリックすると、登録されているすべての組織情報が記載されている CSV ファイルのダウンロードが開始されます。任意の場所に CSV ファイルを保存してください。ダウンロードした CSV ファイルは Excel やメモ帳などで開けます。

7 設定 – Android

この章では、サブヘッダーメニューの [Android] 画面に表示される、各種の設定について説明します。



注意

- 作成した各設定の設定セットは、ヘッダーメニューの [機器] から割り当てることができます。
- 設定を反映するには、端末と同期を行う必要があります。

7.1 管理アプリの通信と動作

管理サイトに登録されているすべての Android 端末に、共通する以下の操作を適用します。

● 管理サーバーとの通信間隔

管理サイトと Android エージェントアプリが行う定期的な同期の間隔を設定します。

● 管理サーバーと通信できなかった場合

管理サーバーと通信できなかった場合に、端末画面をロックするまでの時間を設定します。

● リモートロックの解除コード

ロックした端末画面の解除用コードを設定します。

● 端末でのエージェント停止・ライセンス解除・アンインストールの制限

エージェントアプリを停止、ライセンス解除を行うときに必要なパスワードを設定します。

● root 化状態検知

利用者が Android 端末を root 化した場合に検知します。

 設定を保存した時点で、すべての Android 端末に適用されます。ただし、設定が端末に反映されるまでの時間は、サーバーや機器の通信状態に依存します。

 サーバーとの通信間隔や端末の通信状態などによりバッテリー消費に影響があります。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [管理アプリの通信と動作] → [編集]

エージェント共通管理 - 編集中

1 管理サーバーとの通信間隔

- 分数指定: 分
- 時間指定: 時間
- 日数指定: 日

※機種によって端末のスリープ中は通信が行われないことがあります。
 ※通信間隔が短い場合、端末のバッテリー消費が早まる可能性があります。

2 管理サーバーと通信できなかった場合

- なにもしない
- 指定分数後にロック: 分
- 指定時間後にロック: 時間
- 指定日数後にロック: 日

※通信間隔の設定によってはロックまでに時間がかかることがあります。

3 ロックメッセージ

4 リモートロックの解除コード

5 端末でのエージェント停止・ライセンス解除・アンインストールの制限

- 制限なし
- パスワードの入力

6 root化状態検知

- 検知しない
- 検知する

項番	対象	説明
1	管理サーバーとの通信間隔	機器が管理サーバーと定期的に同期する間隔を以下から選択して設定します。初期設定では、「分数指定」の「30分」に設定されています。 <ul style="list-style-type: none"> ●分数指定 指定した分数間隔で同期を行います。10 から 59 の半角数字を入力します。 ●時間指定 指定した時間間隔で同期を行います。1 から 23 の半角数字を入力します。 ●日数指定 指定した日数間隔で同期を行います。1 から 365 の半角数字を入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 機種によって端末のスリープ中は通信が行われないことがあります。 <input checked="" type="checkbox"/> 通信間隔が短い場合、端末のバッテリー消費が早まる可能性があります。

項番	対象	説明
2	管理サーバーと通信できなかった場合	<p>管理サーバーと Android 端末が通信ができなくなった場合、Android 端末をロックするタイミングを以下から選択して設定します。初期設定では「なにもしない」に設定されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● なにもしない リモートロックを行いません。 ● 指定分数後にロック 指定した分数経過するとリモートロックを行います。10 から 59 の半角数字を入力します。 ● 指定時間後にロック 指定した時間経過するとリモートロックを行います。1 から 23 の半角数字を入力します。 ● 指定日数後にロック 指定した日数経過するとリモートロックを行います。1 から 365 の半角数字を入力します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 通信間隔の設定によってはロックまでに時間がかかることがあります。</p>
3	ロックメッセージ	<p>ロック中の Android 端末の画面にメッセージを表示したい場合に、1 文字から 200 文字で入力します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ロック画面上では入力したメッセージの前後にある空白は削除されます。</p>
4	リモートロックの解除コード	<p>リモートロックによるロック画面および管理サーバーと通信できなかった場合のロック画面で使用する解除コードを 4 文字から 20 文字の半角英数字で設定します。ロック画面から解除コードを入力すると、ロックを解除できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 管理サイトからもリモートロックを解除できます。 <input checked="" type="checkbox"/> 初期設定ではランダムな 8 文字のパスワードが設定されています。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 5.0 以上の端末は「使用履歴にアクセスできるアプリ」が許可されていない場合は、端末に解除コードを入力してもリモートロックを解除できません。その場合は、管理サイトでリモートロック解除をしてください。
5	端末でのエージェント停止・ライセンス解除・アンインストールの制限	<p>エージェントアプリからライセンスを解除する場合や、アンインストールする場合に、パスワードを要求する設定ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 制限なし パスワードを入力せずにライセンス解除やアンインストールできます。 ● パスワードの入力 ライセンス解除やアンインストールするときにパスワードの入力します。パスワードは 4 文字から 20 文字の半角英数字で入力します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 初期設定ではランダムな 8 文字のパスワードが設定されています。</p>
6	root 化状態検知	<p>Android 端末が root 化したこと、または root 化するアプリがインストールされている場合に検知する設定ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「検知しない」、「検知する」

7.2 設定テンプレート

各機能で設定した設定セットの内容を、設定テンプレートとして保存します。

複数の Android 端末に同じ設定内容を繰り返し設定したい場合や、用途に応じて設定内容を切り替えたいときにテンプレートを使用すると、簡単に設定内容を適用することができます。

本機能では、設定テンプレートの作成や作成したテンプレートをデフォルトに設定するなどの操作を行うことができます。

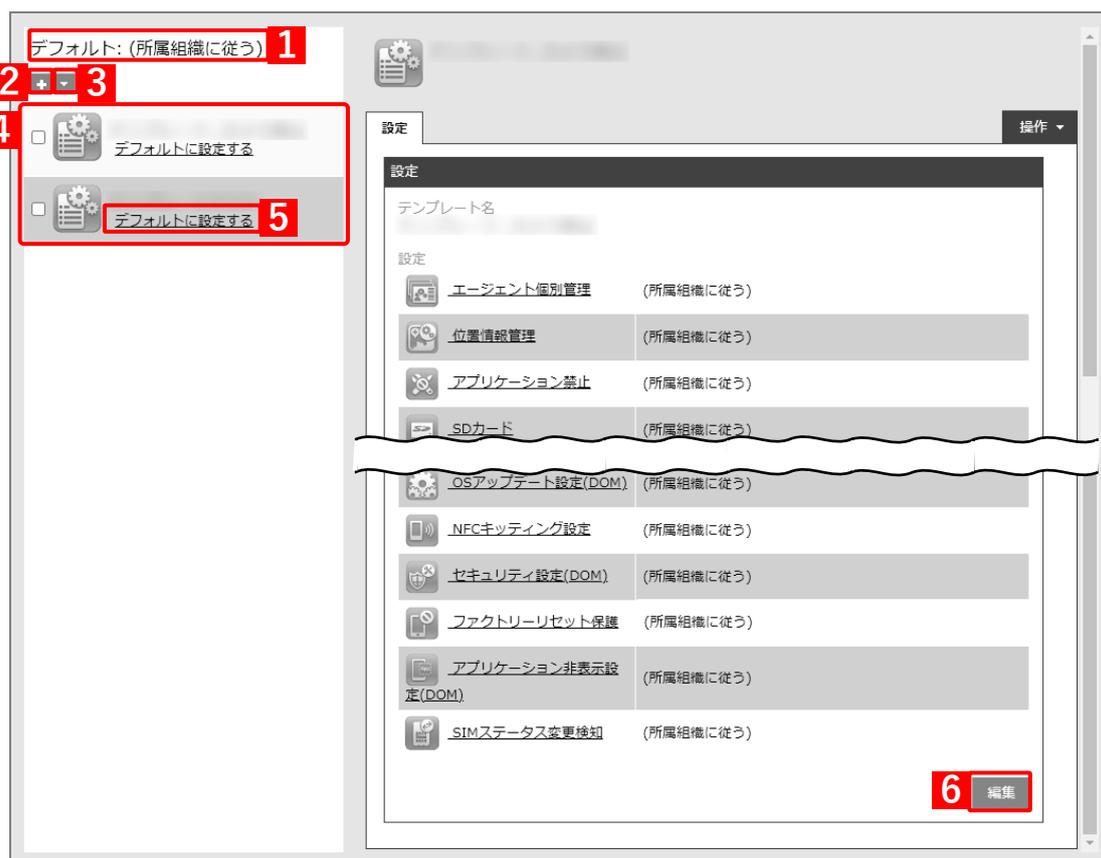
画面

画面 (設定テンプレートの作成)

- 設定テンプレートを一括で複数の Android 端末に適用できません。
- テンプレートとして登録したい各機能の設定セットを、あらかじめ作成してください。
- 作成した設定テンプレートは、Android 端末ごと、または組織ごとに適用することができます。
 - 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ
 - 「[Android 設定] タブ / [iOS 設定] タブ / [Windows 設定] タブ」 348 ページ
- 設定テンプレートは、最大 51 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Android] → [設定テンプレート]



項番	項目	説明
1	デフォルトテンプレート表示	デフォルトに設定したテンプレートの名称が表示されます。 デフォルトに設定したときは、「(所属組織に従う)」が表示されます。 「(所属組織に従う)」は設定テンプレートの初期設定値です。

項番	項目	説明
2		設定テンプレートを新規に作成します。 🔗 「画面 (設定テンプレートの作成)」 365 ページ
3		設定テンプレートのチェックや、チェックした設定テンプレートの一括削除のほか、デフォルトに設定した設定テンプレートを初期設定値の「(所属組織に従う)」に戻します。 🔗 「(所属組織に従う)をデフォルトに設定する」 367 ページ
4	設定テンプレート一覧	で作成した設定テンプレートが表示されます。
5	[デフォルトに設定する]	作成した設定テンプレートをデフォルトにします。 🔗 「設定テンプレートをデフォルトに設定する」 366 ページ
6	[編集]	設定テンプレートを編集します。 🔗 「画面 (設定テンプレートの作成)」 365 ページ

◆画面 (設定テンプレートの作成)

表示操作 [設定] → [Android] → [設定テンプレート] → または [編集]

デフォルト:

デフォルト

デフォルトに設定する

デフォルトに設定する

設定

設定 - 編集

1 テンプレート名

2 設定

- エージェント個別管理 (所属組織に従う)
- 位置情報管理 (所属組織に従う)
- アプリケーション禁止 (所属組織に従う)
- USB (所属組織に従う)
- 連絡先 (所属組織に従う)
- OSアップデート設定(DOM) (所属組織に従う)
- NFCキッティング設定 (所属組織に従う)
- セキュリティ設定(DOM) (所属組織に従う)
- ファクトリーリセット保護 (所属組織に従う)
- アプリケーション非表示設定(DOM) (所属組織に従う)
- SIMステータス変更検知 (所属組織に従う)

リモートワイプは対象機器をご確認の上、設定してください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	テンプレート名	設定テンプレートの名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	設定	<p>各機能に設定する内容を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各機能の設定名 各機能で作成した設定の名称を指定します。指定した設定名に対する編集および削除が行われた場合、設定テンプレートにも反映されます。 ●(所属組織に従う) 機器ごとに所属している組織の設定が適用されます。組織に所属していない場合は「(設定なし)」が適用されます。 ●(変更しない) 機器ごとに適用している設定に変更を行いません。 ●(設定なし) 各機能の設定を外します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合、端末の動作については、以下を参照してください。</p> <p style="text-align: center;"> 「各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作」 844 ページ</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> リモートワイプは対象機器を確認してから、設定してください。</p>

設定テンプレートをデフォルトに設定する

作成した設定テンプレートをデフォルトに設定すると、ライセンス認証して管理サイトに登録された端末は、各設定セットの内容が設定テンプレートの内容に設定されます。

管理サイトに登録する端末を同じ設定にしたい場合に便利です。

- 作成した設定テンプレートが設定されていない場合は、「(所属組織に従う)」がデフォルトに設定されます。
- 「(設定なし)」としている設定セットについてはデフォルト設定セットの変更を行いません。
- すでにライセンス認証されている機器には適用されません。
デフォルトに設定したあとにライセンス認証される機器のみに適用されます。

表示操作 [設定] → [Android] → [設定テンプレート] → デフォルトにするテンプレートの「デフォルトに設定する」



項番	項目	説明
1	デフォルト	デフォルトに設定しているテンプレート名が表示されます。また、デフォルトになっているテンプレート名の下に「デフォルト」と表示されます。(A)の箇所に記載されます。
2	[デフォルトに設定する]	クリックすると、そのテンプレート名の設定をデフォルトにできます。
3	メッセージボックス	選択したテンプレートをデフォルトにすることを確認する画面です。 ●OK 選択したテンプレートをデフォルトに設定します。 ●キャンセル 選択したテンプレートをデフォルトに設定することを中断します。

(所属組織に従う)をデフォルトに設定する

「(所属組織に従う)」をデフォルトに設定すると、ライセンス認証して管理サイトに登録された端末は、各設定セットの内容が「(所属組織に従う)」に設定されます。

初期設定では、デフォルトに「(所属組織に従う)」が設定されています。

- ✔ 作成した設定テンプレートが設定されていない場合は、「(所属組織に従う)」がデフォルトに設定されます。
- ✔ すでに適用された設定テンプレートを取り消す機能ではありません。
- ✔ すでにライセンス認証されている機器には適用されません。
デフォルトに設定したあとにライセンス認証される機器のみに適用されます。

表示操作 [設定] → [Android] → [設定テンプレート] → ▼ → [(所属組織に従う)をデフォルトにする]



項番	項目	説明
1	(所属組織に従う)をデフォルトにする	各種設定内容が「(所属組織に従う)」になるテンプレートをデフォルトにします。
2	メッセージボックス	デフォルトに設定することを確認する画面です。 ●OK 「(所属組織に従う)」をデフォルト設定します。 ●キャンセル 設定を行いません。

7.3 設定バックアップ

Android 端末の標準設定アプリの内容を定期的にバックアップする契機を設定します。

バックアップする項目は、「システム設定」、「セキュリティ設定」、「Wi-Fi 設定」、「Wi-Fi ネットワーク」、「連絡先」、「お気に入り」です。

- ☑ バックアップは管理サーバー上に保存します。保存されるバックアップは3件です。以降バックアップが行われるたびに、古いものから上書きされます。
- ☑ 取得したバックアップは、バックアップを取得した端末以外にも復元できます。ただし、すべてのバックアップ内容が復元できるとは限りません。復元できる内容は端末に依存します。
- ☑ 機器情報を削除するとバックアップした情報も削除されます。
- ☑ 設定を保存した時点ですべての Android 端末に適用されます。ただし、設定が端末に反映されるまでの時間は、サーバーや機器の通信状態に依存します。
- ☑ 復元コードはバックアップしたときに端末画面へ表示します。また、管理サーバーのログ上に保存されます。ログの確認方法は、以下を参照してください。

🔗 「ログ」 784 ページ

- ☑ 端末の電源が入っていない場合など、指定した契機にバックアップが取得できなかった場合は、以後端末との同期が行われる度にバックアップの取得を試みます。
- ✍ Android エージェントアプリから手動でバックアップを取得できます。方法については、以下を参照してください。

🔍 『Android クライアント リファレンスマニュアル』の「エージェントの使用方法」－「バックアップ／復元機能を使用する」

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Android] → [設定バックアップ] → [編集]

項番	項目	説明
1	定期バックアップ	定期バックアップを行う契機を以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ●無効 定期バックアップを行いません。 ●毎月 毎月指定した日付に定期バックアップを行います。1 から 31 の半角数字を入力します。29 以上を設定した場合、その日付が存在しない月の設定バックアップは翌月 1 日に行われます。 ●毎週 毎週指定した曜日に定期バックアップを行います。複数の曜日にチェックを入れることができます。

◆バックアップ・復元項目一覧

Android 端末でバックアップ・復元できる項目は以下のとおりです。

復元できない項目は、「-」で記載しています。

 端末や OS によっては、バックアップ・復元できない項目があります。

項目	バックアップ	復元	備考	
システム設定	画面の自動回転	○	○	
	機内モード	○	○	Android 4.2 以上では、復元できません。
	タッチ操作音	○	○	
	選択時の操作音	○	○	
	入力時バイブレーション	○	○	Android 13 以上では、バックアップおよび復元ができません。
	画面の明るさ	○	○	端末再起動、または端末スリープ復帰後に復元内容が反映されます。
	アニメーションの表示速度	○	○	Android 4.2 では、バックアップおよび復元ができません。
	バックライト消灯 (ms)	○	○	
	パスワードを表示	○	○	Android 4.2 以上では、バックアップおよび復元ができません。
	スリープモードにしない	○	○	Android 4.2 以上では、バックアップおよび復元ができません。
	日付と時刻の自動設定	○	○	Android 4.2 以上では、バックアップおよび復元ができません。
	24 時間表示	○	○	
	日付形式	○	○	
セキュリティ設定	Bluetooth	○	-	
	データローミング	○	-	Android 13 以上では、バックアップができません。
	GPS 機能を使用	○	-	
	提供元不明のアプリ	○	-	
	USB デバッグ	○	-	
	疑似ロケーションを許可	○	-	
	読み上げ設定を使用	○	-	
	音声の速度	○	-	
Wi-Fi 設定	Wi-Fi 有効	○	○	
	Wi-Fi スリープ設定	○	○	Android 4.2 以上では、復元ができません。
	DHCP 有効	○	○	Android 3.0 以上では、バックアップおよび復元ができません。

項目	バックアップ	復元	備考
IP アドレス	○	○	Android 3.0 以上では、バックアップおよび復元ができません。
ゲートウェイ	○	○	Android 3.0 以上では、バックアップおよび復元ができません。
ネットマスク	○	○	Android 3.0 以上では、バックアップおよび復元ができません。
DNS1	○	○	Android 3.0 以上では、バックアップおよび復元ができません。
DNS2	○	○	Android 3.0 以上では、バックアップおよび復元ができません。
Wi-Fi ネットワーク(SSID)	○	○	
SSID 非表示	○	○	
Wi-Fi ネットワーク(Key)	○	○	
Wi-Fi ネットワーク(パスワード)	○	○	
電話帳情報			
名前	○	○	
名字	○	○	
敬称	○	○	
名前のカタカナ	○	○	
名字のカタカナ	○	○	
電話番号	○	○	
電話番号タイプ	○	○	
電話番号ラベル	○	○	
Email アドレス	○	○	
Email タイプ	○	○	
Email ラベル	○	○	
住所タイプ	○	○	
住所ラベル	○	○	
住所(番地)	○	○	
住所(町名)	○	○	
住所(市区町村)	○	○	
住所(都道府県)	○	○	
住所(国)	○	○	
近地情報	○	○	
住所の郵便番号	○	○	
IM アドレス	○	○	
IM タイプ	○	○	
IM ラベル	○	○	
IM プロトコル	○	○	
プロトコルラベル	○	○	
組織名	○	○	

	項目	バックアップ	復元	備考
	組織タイプ	○	○	
	組織ラベル	○	○	
	役職	○	○	
	所属	○	○	
	仕事内容	○	○	
	組織読み仮名	○	○	
連絡先設定	組織所在地	○	○	
	イベント日付	○	○	
	イベントタイプ	○	○	
	イベントラベル	○	○	
	Web アドレス	○	○	
	Web アドレスタイプ	○	○	
	Web アドレスラベル	○	○	
	ニックネーム	○	○	
	ニックネームタイプ	○	○	
	ニックネームラベル	○	○	
	関係者	○	○	
	関係タイプ	○	○	
	関係ラベル	○	○	
	備考	○	○	
お気に入り設定	タイトル	○	○	
	URL	○	○	
	作成日	○	○	
	最終アクセス日	○	○	
	アクセス回数	○	○	
	フォルダー名	○	○	

7.4 セキュリティ

本機能では、スクリーンロックのパスワード設定、暗号化の誘導、位置情報の取得、Secure Shield の設定、ウイルス対策機能の設定、発信先制限、カメラの禁止項目、SD カードの禁止項目、Bluetooth の禁止項目の設定セットを作成します。

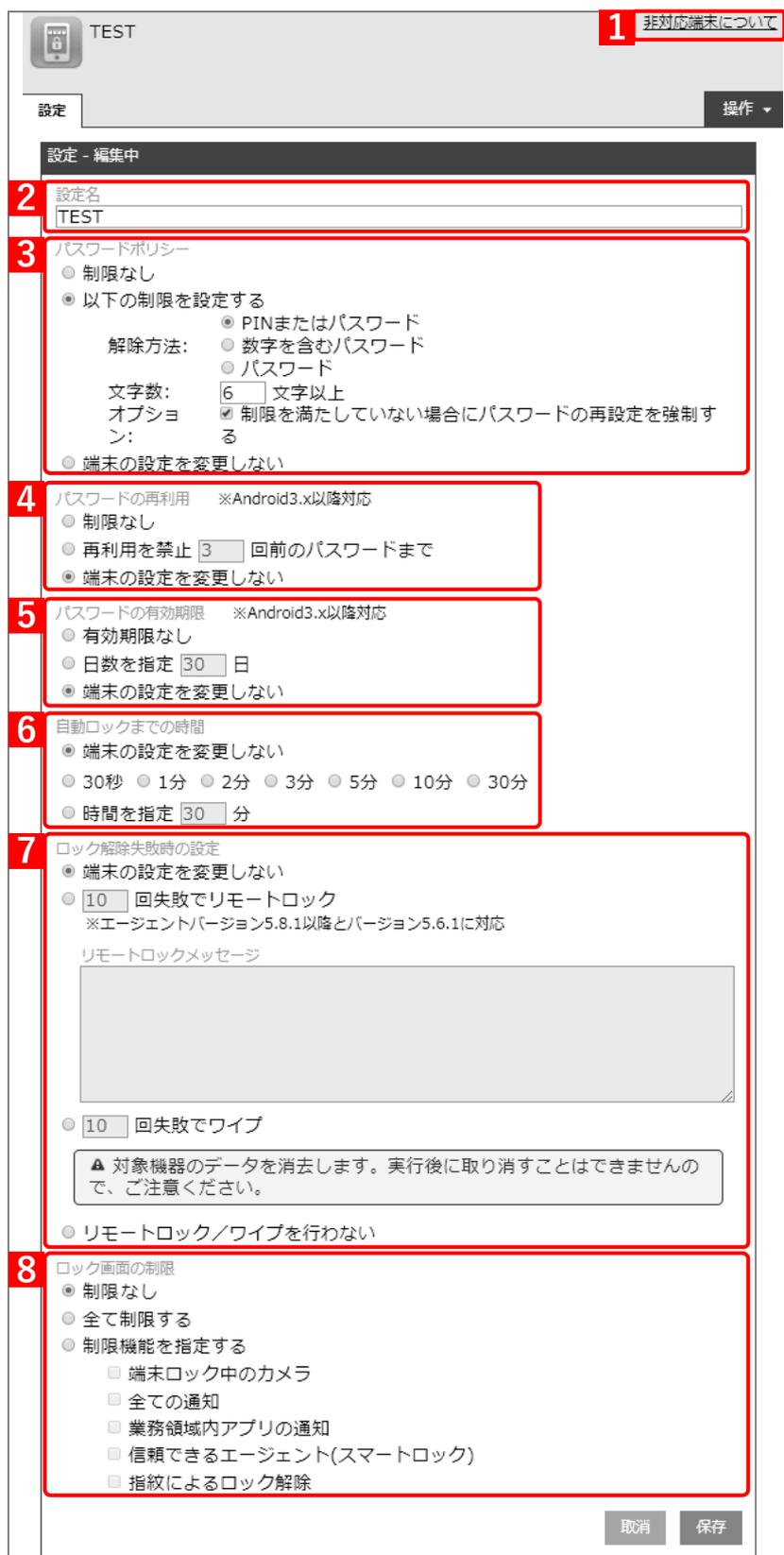
7.4.1 画面ロック

Android 標準のロック画面設定に制限を追加する、スクリーンロックの設定セットを作成します。パスワードの文字数や英数字利用の指定、パスワードの有効期限、スクリーンロック解除の失敗に応じてワイプを行う設定などが追加されます。

- ✔ 「ロック画面の制限」は、Device Owner Mode 化されたストア版エージェントでのみ利用可能です。
- ✔ Android 5.0 以上で画面の固定 (ScreenPinning) が有効な場合、スクリーンロックを適用しても ScreenPinning 画面が表示されます。
- ✔ Android 5.0 以上ではスクリーンロック中にユーザー切り替えができます。
- ✔ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 - 🔗 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ
 - 🔗 「全機器一括設定」 248 ページ
- ✔ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [セキュリティ] → [画面ロック] → +



項番	項目	説明
1	非対応端末について	クリックすると非対応の Android 端末名が表示されます。 🔍 『Android 対応端末表』
2	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。

項番	項目	説明
3	パスワードポリシー	ロック画面で入力するパスワードの制限を選択します。
	端末の設定を変更しない	現在の設定を変更しません。
	制限なし	パスワードの入力を不要にします。
	以下の制限を設定する	<p>以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●解除方法 <ul style="list-style-type: none"> 以下から選択します。 ・PIN またはパスワード PIN (数字) またはパスワード (英字のみ) で解除します。 ・パスワード 英字のみのパスワードで解除します。 ・数字を含むパスワード 数字と英字の両方を含むパスワードで解除します。 ●文字数 パスワードの最小の入力文字数を 4 文字から 16 文字の半角数字で入力します。例えば、文字数に「5」を指定した場合は、5 文字以上のパスワードを入力します。 ●オプション 指定した制限を満たしていないパスワードが入力された場合、パスワードの再設定画面を端末に表示したいときは、「制限を満たしていない場合にパスワードの再設定を強制する」にチェックを入れます。 <p><input checked="" type="checkbox"/> Device Owner Mode の状態が「有効」になっている端末でスクリーンロックパスワード設定画面が表示されたとき、「あとで」をタップするとホーム画面のアプリがグレー表示され利用できなくなります。その場合は、端末でパスワードポリシーを満たしたパスワードを設定すると、再びアプリが利用できるようになります。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Device Owner Mode の状態が「有効」になっている Android 7.0 以上の端末でスクリーンロックパスワード設定画面が表示されたとき、スクリーンロックパスワードを設定せずに端末の電源を OFF にすると、電話などの通知が表示されなくなります。スクリーンロックパスワード設定画面が表示された場合、電源を OFF にする前にスクリーンロックパスワードを設定してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 電話などの通知が表示されなくなった場合は、端末でアプリの設定のリセットを行ってください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 回避するには、端末でアプリの設定のリセットを行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・端末の設定アプリを起動 ・以下の通り画面を遷移する 「通知」⇒「三」⇒「アプリの設定をリセット」 ・確認画面が表示されますのでリセットを行ってください。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 一度リセットをすると、全てのアプリ設定がデフォルト値に戻りますので、十分にご注意ください。</p>
4	パスワードの再利用	<p>パスワードの有効期限が切れた場合、同じパスワードを再度利用できるか設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●制限なし パスワードの再利用回数を制限しません。 ●再利用を禁止 指定した回数以降は、新たなパスワードを利用するように使用します。指定は 1 から 10 の半角数字で入力します。 ●端末の設定を変更しない 現在の設定を変更しません。 <p><input checked="" type="checkbox"/> Android 3.0 以上に対応しています。</p>

項番	項目	説明
5	パスワードの有効期限	<p>パスワードの有効期限の設定を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●有効期限なし 有効期限を設定しません。 ●日数を指定 有効期限日数を 1 から 365 の半角数字で入力します。 ●端末の設定を変更しない 現在の設定を変更しません。 <p><input checked="" type="checkbox"/> Android 3.0 以上に対応しています。</p>
6	自動ロックまでの時間	<p>自動的に端末にロックをかける契機を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●端末の設定を変更しない 現在の端末の設定を変更しません。 ●「30 秒」、「1 分」、「2 分」、「3 分」、「5 分」、「10 分」、「30 分」 端末を何も操作しない状態が続いた場合、端末にロックをかけるまでの経過時間を選択します。例えば、「5 分」を選択した場合は、端末の操作をしない時間が 5 分経過すると、自動的に端末がロックされるようになります。 ●時間を指定 端末にロックをかけるまでの時間を 1 から 30 の半角数字で入力します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 自動ロックまでの上限時間を設定できます。設定した時間以内であれば、Android 端末で設定時間を変更することができます。本設定以内の時間を Android 端末で設定している場合は、本設定ではなく、端末で設定したロック時間が優先されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 本設定の自動ロック時間は、Android 端末では「画面消灯時間」が設定されます。</p>
7	ロック解除失敗時の設定	<p>ロック解除に失敗した場合の設定を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●端末の設定を変更しない 現在の設定を変更しません。 ●○回失敗でリモートロック スクリーンロックの解除に指定回数失敗した場合は、自動的にリモートロックするように設定します。回数は 2 から 50 の半角数字で入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ・リモートロックメッセージ 200 文字以内で入力してください。 <p><input checked="" type="checkbox"/> この設定は、エージェントバージョン 5.8.1 以上とバージョン 5.6.1 の端末で利用できます。</p> ●○回失敗でワイプ スクリーンロックの解除に指定回数失敗した場合、自動的にワイプするように設定します。回数は 2 から 50 の半角数字で入力します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 対象機器のデータを消去します。実行後に取り消すことはできません。</p> ●リモートロック／ワイプを行わない スクリーンロックの解除に失敗した場合、リモートロック、ワイプを行いません。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 端末でロック解除方法に「パターン」を使用していて、3 つ以下の点をなぞってパターンの入力に失敗しても解除失敗の回数としてカウントされません。 4 つ以上の点をなぞってパターンの入力に失敗すると解除失敗の回数としてカウントされます。</p>

項番	項目	説明
8	ロック画面の制限	<p>端末でロック画面が設定されている場合は、制限する機能の範囲について選択します。</p> <p> 本機能をご利用いただくには、端末のエージェントで新たな権限（画面ロックの一部の機能を無効化）の許可を行う必要があります。詳細については、以下のマニュアルを参照してください。</p> <p> 『Android クライアント リファレンスマニュアル』の「管理サイトからの指示による動作」 - 「管理外通知画面が表示された場合」</p> <p> 端末のパスワードロックが未設定またはスワイプに設定している場合は、ロック画面の制限ができません。「PIN」「パターン」「パスワード」などを設定してください。</p> <p> 「(操作 - Android) スクリーンロックパスワード変更」146 ページ</p> <p> 『Android クライアント リファレンスマニュアル』の「管理サイトからの指示による動作」 - 「パスワードポリシーが変更された場合」</p>
	制限なし	機能を制限しません。
	全て制限する	<p>「制限機能を指定する」で制限できる機能のすべてを制限します。</p> <p> 「リモートロック」で解除方法を「スクリーンロックパスワード」に設定して実行すると、管理サイトで指定した通知領域のメッセージは表示されません。</p> <p> 「(操作 - Android) リモートロック」148 ページ</p>
	制限機能を指定する	<p>以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 端末ロック中のカメラ 端末ロック中のカメラボタン（画面上）からのカメラ起動を制限します。  物理ボタンからのカメラ起動については、端末によって制限されない場合があります。  本機能を利用していない場合でも、設定 > Android > 機能制限 > カメラにおいてカメラを禁止している場合は、ロック画面上に表示されません。 ● 全ての通知 スクリーンロック画面に表示されるすべての通知が制限されます。 ● 業務領域内アプリの通知 スクリーンロック画面に表示される業務領域内アプリの通知が制限されます。 ● 信頼できるエージェント（スマートロック） スマートロック機能によるスクリーンロックの解除を制限できません。  スマートロックは、Android 5.0 以上に、OS 標準機能として搭載された 信頼できる場所、顔、声、端末などによるロック画面を解除する機能です。 ● 指紋によるロック解除 指紋によるロック画面解除を制限します。

7.4.2 暗号化

端末に標準搭載されている暗号化設定を行うことを促すための、設定セットを作成します。暗号化設定が有効になるまで、暗号化を促すポップアップメッセージが表示されます。

🔍 Android 3.0 以上の端末が対象です。また、Android 6.0 以上の端末では、デフォルトで暗号化が有効になっています。

🔍 メーカー独自の暗号化設定は非対象です。

✍️ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

📄 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

📄 「全機器一括設定」 248 ページ

✍️ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Android] → [セキュリティ] → [暗号化] → +

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	暗号化設定	暗号化設定を促すかどうかを以下から選択します。 ● 暗号化設定を促す 端末に暗号化を促す画面を表示します。 ● なにもしない 端末に暗号化を促す画面を表示しません。 🔍 Android 3.0 以上のみ対応しています。

7.4.3 位置情報管理

Android 端末で位置情報を測位する契機を指定するための設定セットを作成します。

取得した位置情報を確認する場合は、以下を参照してください。

📄 「(情報 - Android) 位置」 184 ページ

📌 端末の位置情報機能を有効にしてください。

📌 本製品のエージェントアプリの位置情報取得を端末側で許可してください。

📌 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

📄 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

📄 「全機器一括設定」 248 ページ

📌 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Android] → [セキュリティ] → [位置情報管理] → +

新規作成

設定

設定 - 編集中

1 設定名

2 エージェントによる測位

- 測位しない
- エージェント起動時のみ測位する
- 定期的測位する
 - 分数指定: 30 分
 - 時間指定: 時間
 - 日数指定: 日

※端末の位置情報の無線ネットワークとGPSが無効の場合、測位を行いません。
※エージェントの位置情報取得が「許可しない」の場合、位置情報を取得しません。
※この設定値は、機器で位置情報を測位する周期で使用します。管理サーバーへ位置情報を同期する設定値は、エージェント共通管理の「管理サーバーとの通信間隔」で設定できます。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	エージェントによる測位	<p>エージェント側の位置情報の測位の契機を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●測位しない エージェント側では、位置情報を測位しません。 ただし、管理サイトから「同期」を指示した場合は、端末の位置情報を測位します（契機 1）。 ●エージェント起動時のみ測位する 以下のときに測位します（契機 2）。 <ul style="list-style-type: none"> ・端末を起動したとき ・エージェントを起動または終了したとき ・エージェントが停止したあと、自動で再開したとき  ユーザー、アプリ、OS の仕様などで停止することもあります。 ●定期的に測位する 契機 1・2 に加え、定期的に測位する契機を分数指定、時間指定、日数指定から選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・分数指定 指定した分数間隔で測位する場合に選択します。分数は 10 から 59 の半角数字で入力します。 ・時間指定 指定した時間間隔で測位する場合に選択します。時間は 1 から 23 の半角数字で入力します。 ・日数指定 指定した日数間隔で測位する場合に選択します。日数は 1 から 365 の半角数字で入力します。 <p> 端末の位置情報の無線ネットワークと GPS が無効の場合、測位を行いません。</p> <p> エージェントの位置情報取得が「許可しない」の場合、位置情報を取得しません。</p> <p> この設定値は、機器で位置情報を測位する周期で使用します。管理サーバーへ位置情報を同期する設定値は、「管理アプリの通信と動作」の「管理サーバーとの通信間隔」で設定できます。</p> <p style="text-align: center;"> 「管理アプリの通信と動作」361 ページ</p> <p> Android 12 以上は、正確な位置情報を取得するために、端末の設定で「正確な位置情報を使用」を有効にしてください。</p>

7.4.4 Secure Shield

Secure Shield は、端末の設定アプリの利用範囲を制限する機能です。各項目を設定し、端末へ Secure Shield による制限を端末に行うための設定セットを作成します。

Secure Shield を有効にすると、[設定] をタップしたときに Secure Shield の画面が表示されます。

 端末の OS をアップデートすると、Secure Shield が機能しなくなることがあります。OS をアップデートする前に、Secure Shield の OS 対応状況を確認してください。OS が未対応のバージョンの場合は、設定が割り当てられていても Secure Shield を利用できません。

Secure Shield の対応機種については、以下を参照してください。

 『Android 対応端末表』

 エージェント側での Secure Shield の使用方法については、以下を参照してください。

 『Android クライアント リファレンスマニュアル』の「管理サイトからの指示による動作」 - 「Secure Shield が有効に設定された場合」

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

 通知領域から変更できてしまう内容は、Secure Shield では防げません。

「セキュリティ設定 (DOM)」で「ステータスバー」の無効化の併用をご検討ください。

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [セキュリティ] → [Secure Shield] → +

新規作成 ※Android 3.0以降のみ対応

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 Secure Shield

有効

無効

3 禁止項目 全てチェックを入れる 全てチェックを外す
 ※Androidのバージョンや機種によっては利用できない機能があります。

無線とネットワーク

Wi-Fi Bluetooth

データ使用 その他のネットワーク設定

端末

音 ディスプレイ

ストレージ 電池

アプリ

ユーザー設定

アカウントと同期 位置情報サービス

セキュリティ 言語と入力

バックアップとリセット

システム

日付と時刻 ユーザー補助

開発者向けオプション 端末情報

機種(キャリア)固有メニュー

ドコモサービス ホーム選択

WiMAX モバイルネットワーク

PCに接続

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	Secure Shield	Secure Shield の有効／無効を以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ●有効 Secure Shield を有効にし、禁止項目で指定した端末の設定アプリ機能を制限します。 ●無効 Secure Shield を無効にし、禁止項目の制限を解除します。
3	禁止項目	Secure Shield で禁止する項目を設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android のバージョンや機種によっては利用できない機能があります。対応機種については、以下を参照してください。  『+ Setting Safety Manager 動作状況』  『Android 対応端末表』
	[全てチェックを入れる]	クリックすると、禁止項目のすべての項目にチェックを入れます。
	[全てチェックを外す]	クリックすると、禁止項目のすべての項目のチェックを外します。
	無線とネットワーク	禁止する項目にチェックを入れます。 <ul style="list-style-type: none"> ●Wi-Fi Wi-Fi の ON/OFF の切り替えを行います。 ●Bluetooth Bluetooth の ON/OFF の切り替えを行います。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 12 以上は、端末の設定で「付近のデバイス」権限を許可するに設定している場合は、Bluetooth の切り替えが行えます。 ●データ使用 端末のデータ通信量の確認や、データの制限設定などを行います。 ●その他のネットワーク設定 機内モード、VPN 設定など、その他のネットワークの設定を行います。
	端末	禁止する項目にチェックを入れます。 <ul style="list-style-type: none"> ●音 着信音やマナーモードの設定を行います。 ●ディスプレイ ディスプレイの明るさ、ロック画面の表示設定を行います。 ●ストレージ 本体メモリや microSD、メモリカードの空き容量を確認できます。また、microSD、メモリカードのマウント／マウント解除やデータ消去などもできます。 ●電池 電池残量を確認したり、電池を使用しているアプリを確認したりできます。 ●アプリ アプリの管理を行います。
ユーザー設定	禁止する項目にチェックを入れます。 <ul style="list-style-type: none"> ●アカウントと同期 アカウントの追加や設定の変更を行います。 ●位置情報サービス 位置情報サービスや GPS 機能などの ON/OFF の切り替えを行います。 ●セキュリティ 画面ロックの認証設定や、パスワードの設定などを行います。 ●言語と入力 表示言語や文字入力について設定します。 ●バックアップとリセット 端末のバックアップについて設定したり、端末を初期化したりできます。 	

項番	項目	説明
	システム	禁止する項目にチェックを入れます。 <ul style="list-style-type: none">●日付と時刻 日付と時刻の表示形式やタイムゾーンを設定します。●ユーザー補助 ユーザー補助サービスの設定を行います。●開発者向けオプション 端末の開発者向け機能です。●端末情報 端末のバージョン情報の確認やソフトウェアの更新などを行います。
	機種（キャリア）固有メニュー	禁止する項目にチェックを入れます。 <ul style="list-style-type: none">●ドコモサービス ドコモが固有で設定しているサービスの設定を行います。●ホーム選択 ホームアプリの切り替えを行います。●WiMAX WiMAX の設定を行います。●モバイルネットワーク データローミングやエリア設定などを行います。●PC に接続 USB で PC に接続するときの接続タイプの設定を行います。

7.4.5 ウイルス対策機能

オプション

「Safety Manager AntiVirus」の有効/無効設定、スキャン対象やスキャンを行う時期の指定、パターンファイルアップデートのスケジュールに関する指定、アンインストールに関する設定を行う設定セットを作成します。

- ❑ 機器にトレンドマイクロ社のセキュリティソフトがインストールされている場合は、事前にアンインストールが必要です。トレンドマイクロ社以外のセキュリティソフトがインストールされている場合でも、事前のアンインストールを推奨しています。
- ❑ 設定内容によっては保護状態の表示が管理サイトと端末で異なる場合があります。
 - 以下のいずれかに該当する場合は、端末でのみ「保護されていません」と表示されます。
 - リアルタイムスキャンを [無効] に設定した設定セットを適用している場合
 - パターンファイルアップデートを [なし] に設定した設定セットを適用している場合
 - 手動検索を一度も実行 (要完了) していない場合
 - 以下のいずれかに該当する場合は管理サイトでのみ「保護されていません」と表示されます。
 - 「パターンファイル最終更新チェック日時」が「状態取得日時」の 15 日以上前である場合
 - 「スキャン最終実行日時」が「状態取得日時」の 15 日以上前である場合
- ❑ アプリ固有のストレージは、スキャン対象外です。メールアプリ固有のストレージに保存されている添付ファイルなどが検知できません。共有ストレージに保存した場合は、次のスキャン時に検知されます。不正アプリをインストールした場合は、リアルタイムスキャンを [有効] にすると、インストール後に検知し、[無効] にすると、次のスキャン時に検知されます。
- ❑ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 - 🔗 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ
 - 🔗 「全機器一括設定」 248 ページ
- ❑ 端末側の利用条件や注意事項などは、以下を参照してください。
 - 🔍 『Android クライアント リファレンスマニュアル』の「関連アプリの使用法」 - 「ウイルス対策機能」
- ❑ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [セキュリティ] → [ウイルス対策機能] → +

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 ウイルス対策機能

- 有効
- 無効

3 スキャン対象

- 全てのファイル
- apkファイルのみ

4 リアルタイムスキャン

- 有効
- 無効

5 スケジュールスキャン

- 毎週 日 月 火 水 木 金 土
- 毎日

6 スケジュールスキャン実行時刻

12 時

7 パターンファイルアップデート

- なし
- 毎月
- 毎週
- 毎日

8 アップデートオプション

- パターンファイルアップデート後にスキャンを実行する

9 アンインストール保護

- パスワードの入力
- 保護しない

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	ウイルス対策機能	有効にすると、端末にインストールした「Safety Manager AntiVirus」を利用できるようになります。 <ul style="list-style-type: none"> ●有効 ウイルス対策機能を有効にすると、端末に入れたウイルス対策アプリでウイルススキャンを実施できます。 ●無効 ウイルス対策機能を無効にすると、端末に入れたウイルス対策アプリでウイルススキャンが実施できなくなります。
3	スキャン対象	スキャンする対象を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ●全てのファイル 端末内部のすべてのファイルをスキャン対象にします。 ●apk ファイルのみ 端末内部の APK ファイルのみスキャン対象にします。
4	リアルタイムスキャン	スキャン対象の読み込みや書き込みを常に監視します。 <ul style="list-style-type: none"> ●有効 端末のリアルタイムスキャンを有効に設定します。 ●無効 端末のリアルタイムスキャンを無効に設定します。
5	スケジュールスキャン	スキャンを実施する予定を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ●毎週 毎週の実施する曜日を指定し、指定した曜日にスキャンを実施するように設定します。 ●毎日 毎日スキャンを行うように設定します。
6	スケジュールスキャン実行時刻	スケジュールスキャンの実行時刻を設定します。0 以上 23 以下の半角数字で入力してください。
7	パターンファイルアップデート	ウイルス対策ソフトのパターンファイルアップデート日時を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ●なし パターンファイルアップデートスケジュールをなしに設定します。 ●毎月 パターンファイルアップデートスケジュールを毎月設定します。 ●毎週 パターンファイルアップデートスケジュールを毎週設定します。 ●毎日 パターンファイルアップデートスケジュールを毎日設定します。
8	アップデートオプション	パターンファイルアップデート後に自動的にスキャンを開始したい場合は、チェックを入れます。
9	アンインストール保護	ウイルス対策ソフトのアンインストール保護について以下から選択して設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ●パスワードの入力 指定したパスワードを入力した場合のみアンインストールができるようにします。パスワードは 4 文字から 20 文字の半角数字で入力します。 ●保護しない アンインストールをできるようにします。 <p> 以下のバージョン以降は、アンインストール保護は機能しません。ご了承ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Safety Manager AntiVirus (ver.2.4.0.1060)

7.4.6 機能制限

電話発信、カメラ、SD カード、Bluetooth、USB の各機能を制限します。

本機能では、カメラや SD カードなどの使用を制限する設定セットを作成することができます。

7.4.7 機能制限／発信先制限

端末からの電話発信を制限する機能です。許可する発信先の指定、または禁止する発信先の指定のいずれかを行う設定セットを作成します。発信先を CSV ファイルからインポートしたり、登録済みの発信先の CSV ファイルにエクスポートすることができます。

 画面（新規作成）

 画面（編集）

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面（新規作成）

表示操作 [設定] → [Android] → [セキュリティ] → [機能制限] → [発信先制限] → 


新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 発信先制限

- 許可する発信先を指定する(下記で指定されていない発信先は禁止)
- 禁止する発信先を指定する(下記で指定されていない発信先は許可)

※緊急通報用電話番号への発信は基本的に端末の仕様により制限することはできません。

3 発信先

電話番号	
<input style="width: 90%;" type="text"/>	

(+ボタンで追加: 300件まで) 

※電話番号をCSVファイルからインポートする場合は、一度保存してください。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	発信先制限	<p>指定する発信先の許可／禁止を以下から選択します。対象にする発信先は、「発信先」で登録します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●許可する発信先を指定する(下記で指定されていない発信先は禁止) 許可する発信先の指定を行う制限を作成します。 ●禁止する発信先を指定する(下記で指定されていない発信先は許可) 禁止する発信先の指定を行う制限を作成します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 緊急通報用電話番号への発信は基本的に端末の仕様により制限できません。</p>
3	発信先	<p>「発信先制限」で設定した、許可または禁止対象の発信先を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電話番号 許可または禁止する電話番号を 20 文字以内の半角数字で入力します。300 件まで登録できます。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 同じ電話番号は登録できません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 電話番号を CSV ファイルからインポートする場合は、設定を作成してから操作します。</p> <p> 「画面 (編集)」 388 ページ</p>

◆画面 (編集)

表示操作 [設定] → [Android] → [セキュリティ] → [機能制限] → [発信先制限] → 作成した設定を選択

インポート／エクスポート対象とする設定を事前に作成してください。


発信先制限A

設定
操作 ▾

1 インポート・エクスポート

[発信先一覧をCSVファイルからインポート](#)

[発信先一覧をCSVファイルでエクスポート](#)

設定

設定名
発信先制限A

発信先制限
許可する発信先を指定する(下記で指定されていない発信先は禁止)
※緊急通報用電話番号への発信は基本的に端末の仕様により制限することはできません。

発信先

電話番号
123456789

編集

項番	項目	説明
1	インポート・エクスポート	<p>CSV ファイルから許可または禁止する発信先の登録をまとめて行います。また、登録した発信先をまとめてダウンロードできます。操作手順については、以下を参照してください。</p> <p> 「CSV ファイルの共通操作」 67 ページ</p> <ul style="list-style-type: none">● 発信先一覧を CSV ファイルからインポート CSV ファイルに発信先をインポートする画面が表示されます。● 発信先一覧を CSV ファイルでエクスポート 選択している設定内容の発信先を CSV ファイルでダウンロードします。 <p> エクスポートを実施すると「再度ダウンロードする場合は画面を更新してください。」と表示されます。</p>

7.4.8 機能制限／カメラ

端末のカメラ起動を禁止するための設定セットを作成します。

本機能でカメラ機能を禁止にした場合、端末でカメラを起動するとメッセージが表示され、カメラ機能を利用できなくなります。

カメラを利用するアプリでは、アプリの起動はできますが、カメラ機能を利用することはできなくなります。

 アプリがカメラの利用を試みたタイミングで禁止メッセージが表示されます。その後、アプリが継続して利用できるかどうかは各アプリの仕様に依存します。

 Android 12 以上では、端末の設定で「カメラへのアクセス」を有効に設定していない場合、カメラは使用できません。

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

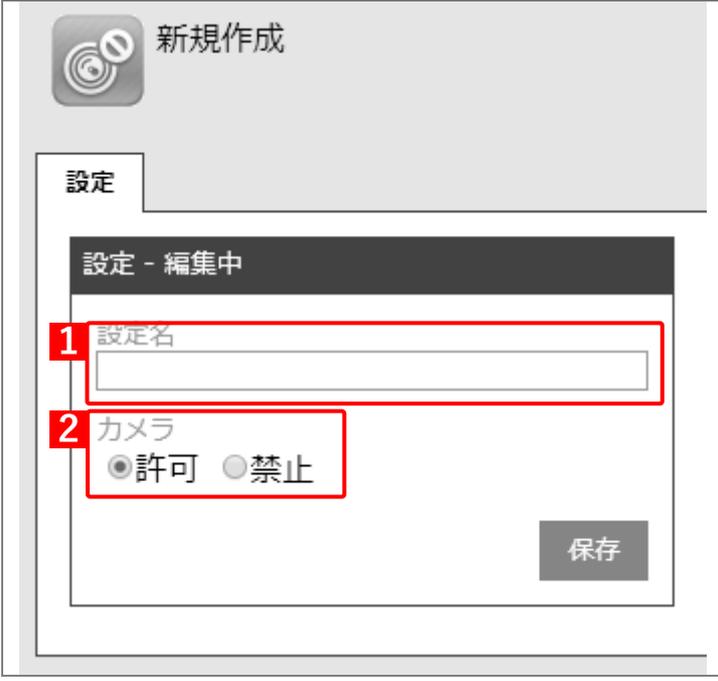
 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [セキュリティ] → [機能制限] → [カメラ] → 



項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	カメラ	カメラの禁止／許可を以下から選択します。 <input checked="" type="radio"/> 許可 カメラ機能を利用できます。 <input type="radio"/> 禁止 カメラ機能を利用できません。

7.4.9 機能制限 / SD カード

端末の SD カードをアンマウントし、SD カードの利用を禁止するための設定セットを作成します。本機能で SD カードの利用を禁止した場合、アプリから SD カードが利用できなくなります。

Android 4.2 以上では、SD カードの利用を制限できます。

なお、OS によって挙動が異なるため、ご利用のときはご注意ください。

- Android 4.2 の場合、SD カード内のデータを初期化します。

- Android 4.3~4.4 のバージョンで、エージェントバージョン 7.1 以上の場合、SD カード挿入時にロック画面が表示されます。また、一部の Android 4.3 の端末では SD カードのワイプに対応しています。

本機能に対応している対応している端末の詳細については、以下を参照してください。

 『Android 対応端末表』

作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

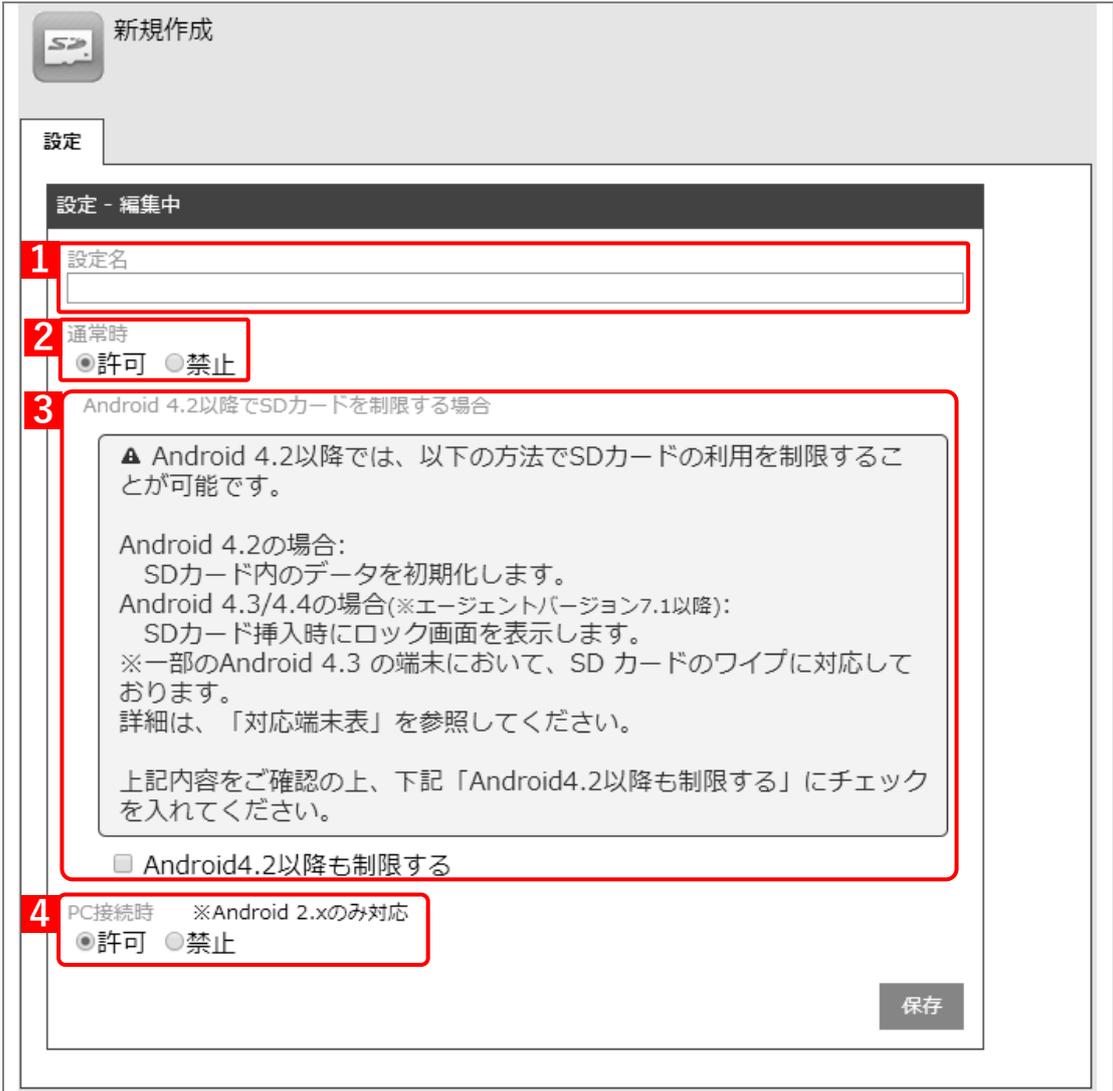
 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Android] → [セキュリティ] → [機能制限] → [SD カード] → 



新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 通常時
 許可 禁止

3 Android 4.2以降でSDカードを制限する場合

▲ Android 4.2以降では、以下の方法でSDカードの利用を制限することが可能です。

Android 4.2の場合:
 SDカード内のデータを初期化します。

Android 4.3/4.4の場合(※エージェントバージョン7.1以降):
 SDカード挿入時にロック画面を表示します。

※一部のAndroid 4.3 の端末において、SD カードのワイプに対応しております。
 詳細は、「対応端末表」を参照してください。

上記内容をご確認の上、下記「Android4.2以降も制限する」にチェックを入れてください。

Android4.2以降も制限する

4 PC接続時 ※Android 2.xのみ対応
 許可 禁止

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	通常時	通常時の SD カード利用の許可／禁止を以下から選択します。 ●許可 SD カードを利用できます。 ●禁止 SD カードを利用できません。
3	Android 4.2 以降で SD カードを制限する場合	Android 4.2 以上の端末でも SD カードの利用制限をする場合に設定します。 ●Android 4.2 以上も制限する 利用制限をする場合は、チェックを入れます。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 4.2 以上の場合は、バージョンによって SD カードの利用制限の内容が異なります。表示された制限の内容を確認してください。
4	PC 接続時	端末をパソコンに接続している場合の SD カード利用の許可／禁止を以下の項目から選択します。 ●「許可」、「禁止」 <input checked="" type="checkbox"/> Android 2.x のみに対応しています。

7.4.10 機能制限 / Bluetooth

端末の Bluetooth 機能を制限するための設定セットを作成します。

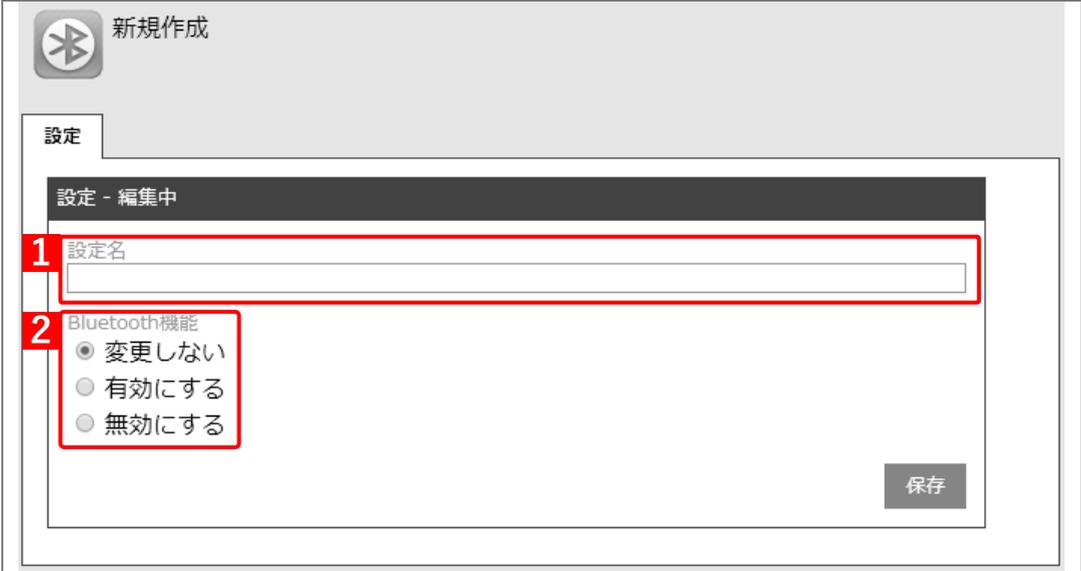
端末の Bluetooth 機能を有効または無効に設定します。また、各機器で設定された Bluetooth 機能設定のままにすることもできます。

-  端末を機内モードに設定していると、本機能は端末に反映されません。
-  端末の Bluetooth が ON/OFF どちらの場合でも、本設定が優先されます。
-  端末で Bluetooth の使用を禁止する場合は、以下で設定を行ってください。
 -  「セキュリティ設定 (DOM)」472 ページ
-  作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 -  「(設定 - Android) 設定の割り当て」112 ページ
 -  「全機器一括設定」248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [セキュリティ] → [機能制限] → [Bluetooth] → 



項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	Bluetooth 機能	<p>Bluetooth 機能の利用の有効 / 無効を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 変更しない 各機器によって設定されている設定を変更しません。 ● 有効にする 端末の Bluetooth 機能を有効にします。 ● 無効にする 端末の Bluetooth 機能を無効にします。 <p> Android 8.x の場合は、「無効にする」を選択した設定を端末に適応し、端末で Bluetooth 機能を有効にすると、通知領域の簡易設定画面のスイッチが ON (有効) になります。ただし、実際に「無効にする」の設定が適応されるため、Bluetooth 機能は利用できません。</p> <p> Android 12 以上は、端末の設定で「付近のデバイス」権限を許可するに設定している場合は、Bluetooth の切り替えが行えます。</p>

7.4.11 機能制限 / USB

端末の USB 接続を許可、または禁止するための設定セットを作成します。

 本機能は、一部の機種のみに対応しています。対応状況については、以下を参照してください。

 『Android 対応端末表』

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [セキュリティ] → [機能制限] → [USB] → 



新規作成

※本機能は一部機種でのみ対応しております。対応状況については機種一覧を参照下さい。

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 USB接続
 許可 禁止

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	USB 接続	USB 接続の利用の許可 / 禁止を以下から選択します。 ● 許可 USB 接続を利用できます。 ● 禁止 USB 接続を利用できません。

7.5 アプリケーション

Android 端末のアプリに関連する設定、および設定セットを作成します。

本機能では、特定のアプリの使用禁止や、アプリの配信、端末にインストールされた特定のアプリの検知を行うことができます。

また、App Manager の表示や Android Enterprise を利用したアプリの配信、アプリ権限ポリシーを設定することができます。

7.5.1 アプリケーション禁止

アプリの使用を禁止するための設定セットを作成します。

本画面では、以下の禁止ルールを設定することができます。

また、CSV ファイルを利用して、許可または禁止するアプリを一括で管理サイトに登録することもできます。

- 許可するアプリケーションを指定してルールを作成（ホワイトリスト形式）
 - ・ アプリケーション名とパッケージ名を指定して、アプリの利用を許可する。
- 禁止するアプリケーションを指定してルールを作成（ブラックリスト形式）
 - ・ アプリケーション名とパッケージ名を指定して、アプリの利用を禁止する。
- すべてアプリケーションのインストールを禁止
- 指定した画面の表示を禁止

アプリのインストール制限および画面表示の禁止は、設定セットを作成したあとに [高度な設定] タブで設定できます。

 「[高度な設定] タブ」 399 ページ

- ☑ アプリケーション禁止を行っても、Google アプリ（Play ストアなど）のように WEB ブラウザー上でも閲覧できる場合があります。その場合は、Web フィルタリングのブラックリスト形式で URL を指定する必要があります（Web フィルタリングの利用には、Android の場合だと、インターネット接続管理オプション、または WEB フィルターオプションへの加入が必要です）。
- ☑ 禁止するアプリにより、OS の動作に支障をきたす（エージェント停止、OS 強制再起動を繰り返す、Android Recovery 画面になるなど）場合があります。システムアプリを禁止するときは、とくに注意してください。システムアプリを禁止した場合、どのような挙動になるかについては、ご利用の端末や OS に依存するため、弊社ではご案内はできかねます。
- ☑ 禁止対象のアプリは起動できません。
- ☑ Android 4.0 以上の端末の場合、カメラ機能を含むアプリは、カメラ機能の画面で「許可」を選択していなくても起動することができます。
- ☑ 「アプリケーション禁止」機能は、起動した画面を検知して禁止する機能です、そのため、バックグラウンドで動作するアプリは禁止できません。
- ☑ カメラや Bluetooth などの使用を禁止する場合は、「機能制限」を利用してください。詳細については、以下を参照してください。

 「機能制限」 387 ページ

- ☑ Web アプリ（ショートカット）は禁止できません。「Web フィルタリング」を利用して閲覧を制限してください。詳細については、以下を参照してください。

 「Web フィルタリング」 435 ページ

- ☑ 本製品のエージェントアプリを禁止することはできません。

- ✍ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

✎ 本機能を設定した場合、端末の挙動は以下のとおりです。

- ホームとアプリ一覧での表示：表示される
- アプリ画面の表示：停止
- バックグラウンドでの挙動：実行

✎ アプリケーション非表示を設定した場合は、以下を参照してください。

🔗 「アプリケーション非表示」 476 ページ

✎ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

7.5.1.1 [設定] タブ

設定セットの名称や許可するアプリケーション、または禁止するアプリケーションを設定します。

🔗 画面（新規作成）

🔗 画面（編集）

◆ 画面（新規作成）

表示操作 [設定] → [Android] → [アプリケーション] → [アプリケーション禁止] → **+**

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 アプリケーション禁止

- 許可するアプリケーションを指定する (指定されていないアプリケーションは禁止)
- 禁止するアプリケーションを指定する (指定されていないアプリケーションは許可)

※許可 / 禁止対象のアプリケーションの登録は、設定を保存した後の画面から行ってください。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	アプリケーション禁止	<p>アプリの禁止方式を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●許可するアプリケーションを指定する(指定されていないアプリケーションは禁止)指定されたアプリのみ使用できます。 ●禁止するアプリケーションを指定する(指定されていないアプリケーションは許可)指定されたアプリは使用できません。 <p> 「アプリケーション禁止」機能は、アプリケーションの動作を禁止する機能ではありません。起動した画面を検知して禁止する機能です。</p> <p> 「アプリケーション禁止」機能では、バックグラウンドで動作するアプリは禁止ができません。</p> <p> カメラや Bluetoothなどを禁止したい場合は、以下の機能制限を利用してください。</p> <p style="text-align: center;"> 「機能制限」 387 ページ</p> <p> Web ショートカットアプリケーションは禁止できません。Web フィルタリングを利用して制限してください。</p> <p style="text-align: center;"> 「Web フィルタリング」 435 ページ</p>

◆画面 (編集)

表示操作 [設定] → [Android] → [アプリケーション] → [アプリケーション禁止] → 一覧から対象を選択



項番	項目	説明
1	インポート・エクスポート	<p>CSV ファイルを利用して、許可または禁止するアプリを一括で管理サイトに登録できます。また、現在設定されているアプリの一覧を、CSV ファイルとして保存することもできます。</p> <p>操作手順については、以下を参照してください。</p> <p> 「CSV ファイルの共通操作」 67 ページ</p> <p> 本項目は、設定セットの作成後に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 対象アプリケーション一覧を CSV ファイルからインポート クリックすると、CSV ファイルのインポート画面が表示されます。 ● 対象アプリケーション一覧を CSV ファイルでエクスポート 禁止している対象アプリの一覧を、CSV ファイルとしてダウンロードします。
2	対象アプリケーション	<p>アプリケーション名とパッケージ名を指定して、対象アプリを登録します。1つの設定セットにつき、1000 件まで登録できます。</p> <p> (追加)、 (削除)、 (編集)、 (保存)、 (取り消し) を使って操作します。</p> <p> この項目は、設定を作成したあとに表示されます。</p> <p> アプリを 31 個以上登録した場合は、端末によって本設定が有効になるまでに時間がかかることがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アプリケーション名 アプリ名を入力します。機器が登録されている場合は、入力された文字を機器に登録されているすべてのアプリの中から関連するアプリケーションを表示します。 ● パッケージ名 アプリのパッケージ名を入力します。 <p> パッケージ名は、対象端末にインストールされているアプリの一覧から確認できます。詳細については、以下を参照してください。</p> <p> 「(情報 - Android) アプリケーション」 179 ページ</p>
3	[メモから追加]	<p>各端末のアプリ一覧で、「メモ」列に  が表示されているアプリが追加されます。アプリ一覧については、以下を参照してください。</p> <p> 「(情報 - Android) アプリケーション」 179 ページ</p>

◆ エラー一覧

文言	発生契機	
<p> メモに存在する全てのアプリはインストールされていません。</p>	<p>メモに1つもアプリが登録されていない状態で「メモから追加」をクリックしている。</p> <p>もしくは、すでにアプリケーション禁止に設定されているアプリを「メモから追加」で追加しようとしている。</p>	<p>メモに何も登録されていない場合は、禁止したいアプリをメモに登録してください。</p> <p>すでにアプリケーション禁止設定に、メモに登録されているアプリが含まれている場合は「メモから追加」を押さずに [保存] してください。</p>

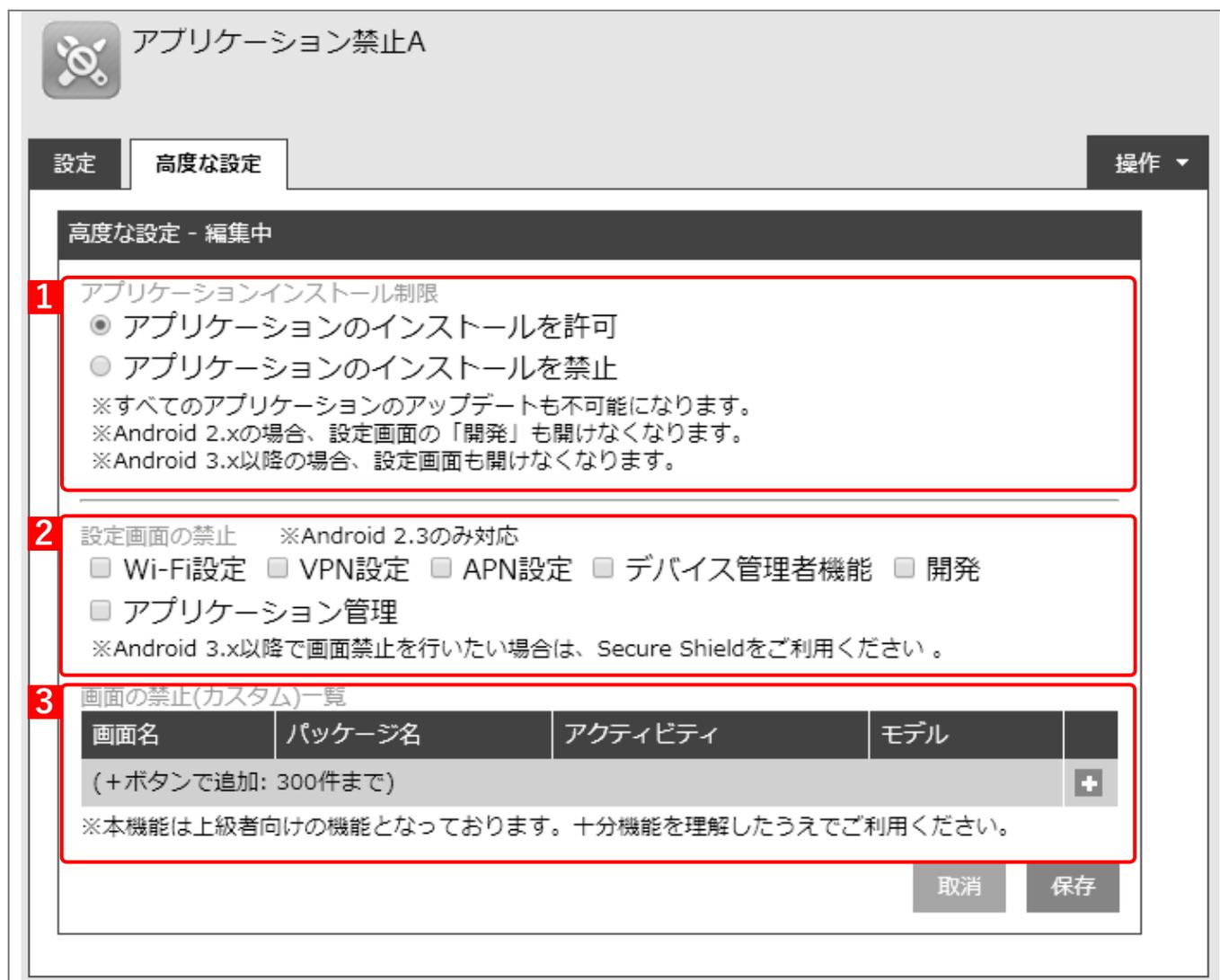
7.5.1.2 [高度な設定] タブ

[高度な設定] タブの設定は、設定セットを作成後に行います。

🔗 「画面 (新規作成)」 396 ページ

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [アプリケーション] → [アプリケーション禁止] → 一覧から対象
を選択 → [高度な設定] タブ → [編集]



項番	項目	説明
1	アプリケーションインストール制限	アプリのインストールを許可/禁止で設定します。 ●アプリケーションのインストールを許可 ●アプリケーションのインストールを禁止 ☑ ブラウザー (Android、PC 含む) から Google Play ストアの Web サイト経由でのアプリのインストールは禁止できません。 ☑ アプリのインストールを禁止した場合は、アップデートも禁止されます。 ☑ Android 2.x の場合は、設定画面の「開発」が表示できません。 ☑ Android 3.0 以上の場合は、「設定画面」が表示できません。 ☑ 機器の USB デバッグを OFF にした状態でご利用ください。

項番	項目	説明
2	設定画面の禁止	<p>Android 2.3 の端末において、チェックを入れた設定画面の表示を禁止します。表示を禁止できる設定画面は、以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「Wi-Fi 設定」、「VPN 設定」、「APN 設定」、「デバイス管理者機能」、「開発」、「アプリケーション管理」 ☑ Android 3.0 以上の場合は、設定画面の表示を禁止するには、Secure Shield をご利用ください。 <p style="text-align: center;">🔑 「Secure Shield」 380 ページ</p>
3	画面の禁止(カスタム)一覧	<p>アプリや端末の内部値を指定することにより、特定の画面の表示を禁止できます。1つの設定セットにつき、300件まで登録できます。</p> <p>➕ (追加)、➖ (削除) を使って操作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 画面名 任意の画面の名称を 60 文字以内で入力します。 ● パッケージ名 アプリのパッケージ名を 255 文字以内の半角英数字、「.」、「_」、「\$」で入力します。 ● アクティビティ 禁止する画面のアクティビティの名称を 255 文字以内の半角英数字、「.」、「_」、「\$」で入力します。 ● モデル 禁止する対象端末のモデル名を 255 文字以内で入力してください。 例) SOV32 SHL25 <p>☑ モデル名は、機器の一覧で確認できます。</p> <p style="text-align: center;">🔑 「一覧」 79 ページ</p>

7.5.2 アプリケーション配信



注意

- 本機能は、従来版エージェントのみに対応しています。従来版エージェントのサポートは終了したので、ストア版エージェントを利用してください。ストア版エージェントでのアプリ配信については、以下を参照してください。

 [「Android Enterprise」409 ページ](#)

 [『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』](#)

Android のアプリ (APK ファイル) を配信するための設定セットを作成します。

アプリ (APK ファイル) の配信方法には、以下の 2 種類があります。

- APK ファイル配信用の URL を指定する
- 管理サイト上に APK ファイルをアップロードする

- 本製品の関連アプリ(+ browser Safety Manager、Safety Manager AntiVirus)を配信する場合は、App Manager の機能を利用してください。

- Web フィルタリング機能を設定している場合は、アプリ配信用の URL を「Web フィルタリング」で許可する URL に登録してください。また、アプリケーション禁止機能を設定している場合は、OS 標準のブラウザを「アプリケーション禁止」で許可するアプリケーションに登録してください。

- ☑ Android Enterprise を利用していて Device Owner Mode 化されている端末では、本機能で APK ファイルを配信することはできません。Android Enterprise でアプリを配信してください。Android Enterprise の詳細は、以下を参照してください。

 [「Android Enterprise」409 ページ](#)

- ☑ 入力した情報に不備がある設定セットを端末に適用しないでください。設定セットと実際のアプリの情報との間の不整合により同期のたびに本機能が繰り返し実行され、データ通信量が急激に増加する恐れがあります。

- ☑ 設定セットで指定したアプリの情報に誤りがある場合 (存在しない URL が指定されている場合など) は、端末にアプリがインストールされないため、同期のたびに本機能の通知が端末に表示されます。そのような場合は、該当する設定セットを削除してください。

- ☑ 「セキュリティ設定 (DOM)」で「提供元不明のアプリのインストール」を禁止設定にしている場合は、本機能で APK ファイルの配信はできません。

- ☑ アプリの削除機能はありません。

- ☑ Google Play ストアからアプリケーションをインストールするには、Google アカウントが必要です。

- ☑ Web フィルタリングの詳細については、以下を参照してください。

 [「Web フィルタリング」435 ページ](#)

- ☑ 「アプリケーション禁止」で「アプリケーションのインストールを禁止」の設定を割り当てている端末には、アプリを配信できません。詳細については、以下を参照してください。

 [「アプリケーション禁止」395 ページ](#)

- ☑ App Manager については、以下を参照してください。

 [「App Manager」407 ページ](#)

- ☑ Android 7.0 以上の端末に対して、自前のサーバーから暗号化 (https) をしたアプリを配信する場合は、そのサーバーの SSL 証明書に対応した CA 証明書を端末にインストールしてください。

- ☑ 複数のアプリを一度に追加しようとする、ファイルのデータサイズによっては設定の保存時にブラウザの読込エラー画面が表示されることがあります。その場合は、アプリを数回に分けて追加してください。また、編集画面の表示では空欄になっていても、すでにアップロード済みのファイルはサーバー上に保持しています。再度ファイルをアップロードする必要はありません。

- ❗ ID とパスワードが要求されるサイトやサーバーに、配置されているアプリは強制配信（サイレントインストール）することはできません。
- ❗ Google Play ストア上のアプリを強制配信（サイレントインストール）することはできません。
- 📝 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 - 📄 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ
 - 📄 「全機器一括設定」 248 ページ
- 📝 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Android] → [アプリケーション] → [アプリケーション配信] → **+**



項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	アプリケーション一覧	端末へ配信するアプリ情報を設定します。 + (追加)、× (削除) を使って操作します。300 件まで登録できます。 ● アプリケーション名 アプリ名を 60 文字以内で入力します。アプリ名は端末のアプリ情報から確認できます。 ● パッケージ名 パッケージの名称を 255 文字以内の半角英数字、「.」、「_」、「\$」で入力します。入力必須です。設定内で重複はできません。 ❗ パッケージ名は、アプリの開発元にご確認ください。 ● バージョン番号 指定するバージョン番号やバージョン情報を設定します。入力必須です。半角数字のみ入力できます。1 以上 2147483647 以下の整数値を入力してください。 ❗ バージョン番号は、アプリの開発元にご確認ください。

項番	項目	説明
		<p> 配信するアプリのバージョンより大きい値を設定しないでください。</p> <p>● URL URL を選択した場合は、アプリの公開先 URL 情報を 200 文字以内の半角英数字、記号で入力します。入力必須です。</p> <p> 先頭は、「http://」または「https://」を入力します。</p> <p> Google Play ストアで公開されているアプリの URL を確認する場合は、ブラウザからアクセスしてください。Google Play ストアからアクセスした場合は URL が表示されません。</p> <p>● ファイル ファイルを選択した場合、APK 形式のファイル名を半角英数字、「.」、「-」、「_」で入力します。[ファイルを選択] をクリックし、ファイルを選択できます。</p> <p> 本項目が表示されない場合は、アプリの提供元にお問い合わせください。</p> <p> 本製品のサーバーへ送信するファイルのデータ量が多すぎる場合、「保存」後に、ブラウザ既定の読み込みエラーの画面が表示されます。この場合は、一度に編集せず、分割して「編集」と「保存」をお試しください。なお編集画面では、アップロード済みのファイルが空欄ですが、サーバー上は情報を保持しているため、毎回のアップロードは不要です。</p> <p>● ポップアップ チェックを入れると、アプリ配信時に端末の通知領域だけでなく、ポップアップ画面でも通知が表示されます。</p> <p> チェックを外した場合、通知は端末の通知領域にのみに表示されます。</p>

◆ 配信失敗例

アプリケーション配信の失敗例として、以下があります。

● 配信失敗例 1：繰り返し配信がされる

- 端末にインストールしている対象アプリの「バージョン番号」：10
- 管理サイトのアプリケーション配信の設定値で入力した「バージョン番号」：30
- 管理サイトから配信する対象アプリの apk ファイル内の「バージョン番号」：20
 1. 端末と同期を行うと、管理サイトのアプリ設定の「バージョン番号」は 30 であるため、【端末にインストールされている「バージョン番号」10 < 配信設定の「バージョン番号」30】となり、対象アプリの配信が行われます。
 2. 実際の登録されたアプリの「バージョン番号」は 20 のため、端末に配信されたアプリの「バージョン番号」は 20 となります。
 3. 次のタイミングの同期が行われると、管理サイトのアプリ設定は「バージョン番号」が 30 であるため、【端末にインストールされている「バージョン番号」20 < 配信設定の「バージョン番号」30】となり、再び、対象アプリの配信が行われます。
 4. 以降、2 と 3 が繰り返されます。

● 配信失敗例 2：繰り返し配信がされる

- 端末にインストールしている対象アプリの「パッケージ名」：jp.co.optim.bizagent
- 管理サイトのアプリケーション配信の設定値で入力した「パッケージ名」：KDDI Safety Manager
- 管理サイトから配信する対象アプリの apk ファイル内の「パッケージ名」：jp.co.optim.bizagent
 1. 端末と同期を行うと、管理サイトのアプリ設定の「パッケージ名」は KDDI Safety Manager であるため、端末にインストールされている「パッケージ名」と一致するものがないため、対象アプリを新規アプリとして配信が行われます。
 2. 実際の登録されたアプリの「パッケージ名」は、jp.co.optim.bizagent のため、端末に配信されたアプリの「パッケージ名」は jp.co.optim.bizagent となります。

3. 次のタイミングの同期が行われると、管理サイトのアプリ設定は KDDI Safety Manager であるため、端末にインストールされている「パッケージ名」と一致するものがないため、再び、対象アプリの配信が行われます。
4. 以降、2 と 3 が繰り返されます。

● 配信失敗例 3：配信が行われない

- 管理サイトのアプリケーション配信の設定値で入力した「URL」：xxxx.xx.xx/xxx.apk
- 管理サイトから配信する対象アプリの apk ファイルが実際に存在する「URL」：yyyy.yy.yy/xxx.apk
 1. 端末と同期を行うと、管理サイトのアプリ設定の「URL」は xxxx.xx.xx/xxx.apk であるため、エージェントアプリは、xxx.xx.xx/xxx.apk にアクセスしアプリのダウンロードを行うが、実際に存在する「URL」ではないため、配信に失敗します。
 2. 以降、同期のたびに 1 が繰り返されます。

◆ Android 8.x 端末において、サイレントインストールができない場合の回避方法

サイレントインストールの利用は、Android 端末の一部機種に限ります。別紙『Android 対応端末表』の「アプリケーション強制配信」列を参照し、利用できる端末か確認してください。

利用できる端末でもサイレントインストールができない場合は、以下の手順で端末の設定を行ってください。

● 回避方法

1. 端末の設定アプリを起動
2. 以下の通り画面を遷移する
「アプリと通知」⇒「詳細設定」⇒「特別なアプリアクセス」⇒「電池の最適化」
3. 画面上部の「最適化していないアプリ」という項目を選択し、「すべてのアプリ」を選択する
4. アプリの一覧より、「com.kddi.android.packageinstaller」を選択する
5. 「最適化しない」を選択する

7.5.3 アプリケーション検知

端末にインストールされたアプリの一覧から、指定した条件に一致するものを検知し、結果をログに表示する設定セットを作成します。

アプリの検知は、端末ごとに1日に1回ランダムなタイミングで実行されます。

 本機能は、設定セット適用前にインストールしたアプリにも有効です。

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [アプリケーション] → [アプリケーション検知] → 


新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 インストール推奨アプリケーション

アプリケーション名	パッケージ名	バージョン条件	
(+ボタンで追加: 50件まで)			

3 インストール非推奨アプリケーション

アプリケーション名	パッケージ名	バージョン条件	
(+ボタンで追加: 50件まで)			

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	インストール推奨アプリケーション	<p>インストールを推奨するアプリケーションを指定します。指定したアプリが端末にインストールされていない場合は、検知されます。1 つの設定セットにつき、50 件まで登録できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アプリケーション名 アプリ名を 60 文字以内で入力します。入力必須です。アプリ名は端末のアプリ情報で確認できます。 ●パッケージ名 パッケージの名称を 255 文字以内の半角英数字、「.」、「_」、「\$」で入力します。入力必須です。パッケージ名は端末のアプリ情報から確認できます。 ●バージョン条件 <ul style="list-style-type: none"> ・以下の項目から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・「全て」、「≥」、「>」、「≤」、「<」、「=」 ・バージョン情報を 0 から 2147483647 の半角数字と「.」、「-」で入力します。入力必須です。 <p> 入力例 ABC アプリのバージョン 2.0 以上を推奨アプリケーションにする場合 アプリケーション名：ABC アプリ パッケージ名：com.xxxx.xxxx バージョン条件：≥2.0</p>
3	インストール非推奨アプリケーション	<p>インストールを推奨しないアプリケーションを指定します。指定したアプリが端末にインストールされている場合は、検知されます。1 つの設定セットにつき、50 件まで登録できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アプリケーション名 アプリ名を 60 文字以内で入力します。入力必須です。アプリ名は端末のアプリ情報から確認できます。 ●パッケージ名 パッケージの名称を 255 文字以内の半角英数字、「.」、「_」、「\$」で入力します。入力必須です。パッケージ名は端末のアプリ情報から確認できます。 ●バージョン条件 <ul style="list-style-type: none"> ・以下の項目から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・「全て」、「≥」、「>」、「≤」、「<」、「=」 ・バージョン情報を 0 から 2147483647 の半角数字と「.」、「-」で入力します。入力必須です。 <p> 入力例 ABC アプリのバージョン 2.0 未満を非推奨アプリケーションにする場合 アプリケーション名：ABC アプリ パッケージ名：com.xxxx.xxxx バージョン条件：<2.0</p>

7.5.4 App Manager



注意

- 本機能は、従来版エージェントのみに対応しています。従来版エージェントのサポートは終了したので、ストア版エージェントを利用してください。ストア版エージェントでのアプリ配信については、以下を参照してください。

 「Android Enterprise」 409 ページ

 『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』

Android エージェントで App Manager を利用するための設定を行います。

App Manager は、MDM 関連のアプリを安全にインストール/アップデートできる Android エージェントの機能です。App Manager を利用すると、アプリケーション禁止や Web フィルタリングなど、本製品が提供するセキュリティ機能を維持したまま MDM 関連のアプリをインストール/アップデートできます。

設定はすべての Android 端末に適用されます。

 「アプリケーション禁止」 395 ページ

 「Web フィルタリング」 435 ページ

- ☑ [アプリケーション禁止] の「アプリケーションインストール制限」で、[アプリケーションのインストールを禁止] に設定している場合は、App Manager を使用したインストール、およびアップデートも禁止の対象です。App Manager からインストール、およびアップデートを行う場合は、「アプリケーションインストール制限」で、[アプリケーションのインストールを許可] に設定してください。

- ☑ 設定が機器に反映されるまでの時間は、サーバーや機器の通信状態に依存します。

- ☑ 以下は本製品の関連アプリです。

- KDDI Smart Mobile Safety Manager エージェント
- + browser Safety Manager
- Safety Manager AntiVirus

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [アプリケーション] → [App Manager] → [編集]



項番	項目	説明
1	表示	<p>App Manager の表示／非表示を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●表示 エージェントのメニューに App Manager を表示します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「表示」の場合、端末にインストールできるアプリが表示されます。また、端末にインストールの通知を行います。 ●非表示 エージェントのメニューに App Manager を表示しません。

7.5.5 Android Enterprise

Android Enterprise を利用して、managed Google Play ストアのアプリを配信します。

本機能は、アプリケーション配信のための各種設定や、アプリ権限ポリシーを設定します。

- ☑ あらかじめ Android Enterprise アカウントを登録してください。アカウントが登録されていない場合は、表示されるメッセージ画面で [アカウント登録] をクリックし、Android Enterprise アカウントを登録してください。

Android Enterprise アカウントの登録については、以下を参照してください。

🔗 「Android Enterprise (企業アカウント登録)」 774 ページ

📖 『Android キットニングマニュアル』

- ☑ Android 端末で、ストア版エージェントを Device Owner Mode 化してください。
- ☑ Android Enterprise では、有料アプリの配信はできません。「アプリ内課金あり」のアプリを配信した場合は、追加機能の購入などはできません。

7.5.6 Android Enterprise / アプリケーション配信

Android Enterprise に対応した端末に、managed Google Play ストアのアプリを配信するための設定セットを作成します。

- 🔗 画面 (新規作成: [全てのアプリをインストール可能] を選択した場合)
- 🔗 画面 (新規作成: [企業許可アプリのみインストール可能] を選択した場合)
- 🔗 画面 (新規作成: [指定アプリのみインストール可能] を選択した場合)
- 🔗 画面 (一括配信)

- ☑ 企業で許可したアプリだけを配信する場合は、事前に「企業許可アプリ」でアプリを登録してください。

🔗 「Android Enterprise / 企業許可アプリ」 421 ページ

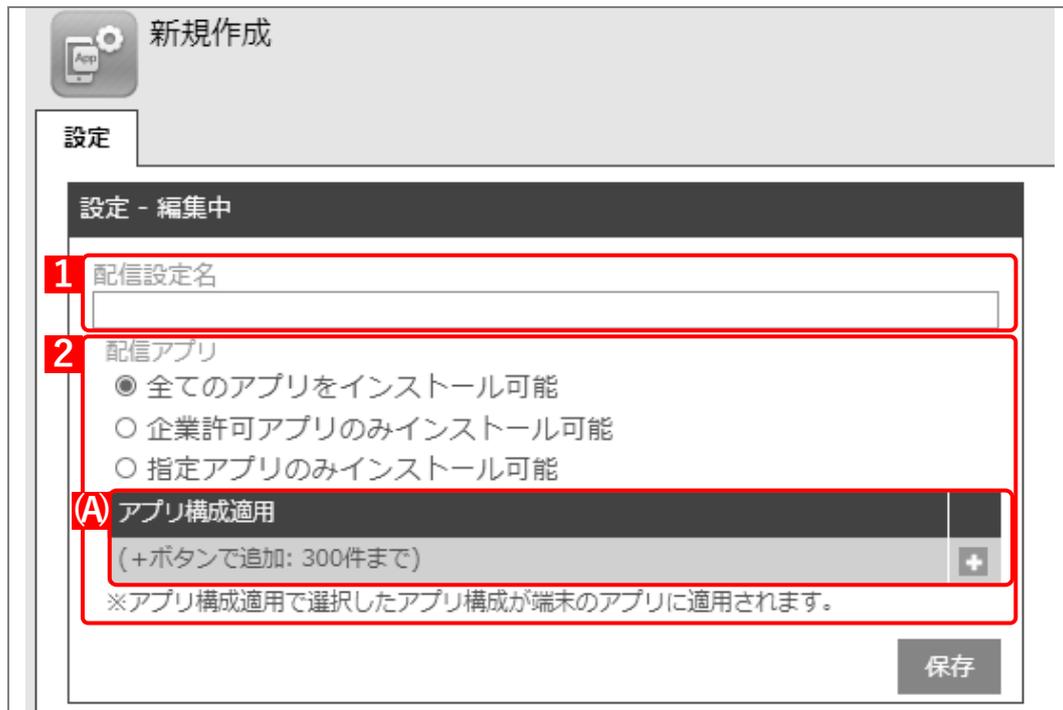
- 📝 作成した設定セットは、ユーザーまたはユーザーの所属組織に割り当てることで、機器に適用されます。ユーザーの所属組織に割り当てる場合は、ユーザーの「Android Enterprise アプリ配信設定」を「(所属組織に従う:設定なし)」に設定してください。

🔗 「[[その他▼] タブ / 設定」 332 ページ

- 📝 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面（新規作成：[全てのアプリをインストール可能] を選択した場合）

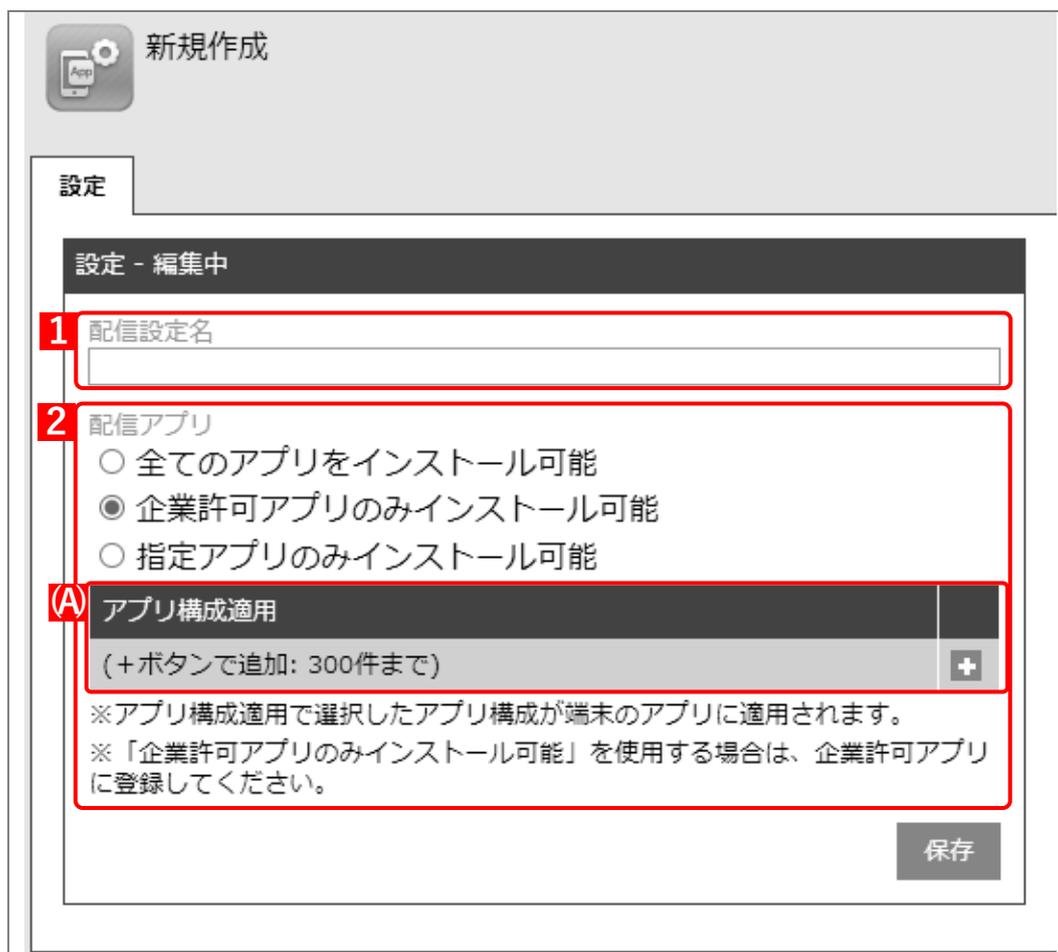
表示操作 [設定] → [Android] → [アプリケーション] → [Android Enterprise] → [アプリケーション配信] → **+** → [全てのアプリをインストール可能]



項番	項目	説明
1	配信設定名	配信設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	配信アプリ	<p>[全てのアプリをインストール可能] を選択した場合は、managed Google Play ストアに公開されているすべてのアプリを配信します。 詳細については、以下のマニュアルを参照してください。</p> <p> 『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」－「すべてのアプリのインストールを許可する」－「アプリケーション配信設定を作成する」</p> <p> 配信するアプリには、「アプリ構成」の設定値を付加することもできます。その場合は、「アプリ構成」を適用したアプリ個別設定を作成し、(A)「アプリ構成適用」に追加してください。1 設定に 300 件まで登録できます。また、同じ「アプリ構成」を設定することはできません。 「アプリ構成」の詳細およびアプリ個別設定の作成方法については、以下を参照してください。</p> <p> 「Android Enterprise/個別アプリケーション」415 ページ</p>

◆画面（新規作成：[企業許可アプリのみインストール可能] を選択した場合）

表示操作 [設定] → [Android] → [アプリケーション] → [Android Enterprise] → [アプリケーション配信] → **+** → [企業許可アプリのみインストール可能]



項番	項目	説明
1	配信設定名	配信設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	配信アプリ	<p>[企業許可アプリのみインストール可能] を選択した場合は、managed Google Play ストアに公開されているすべてのアプリのうち、「企業許可アプリ」に登録されているアプリのみ配信します。</p> <p>詳細については、以下のマニュアルを参照してください。</p> <p> 『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」－「管理者が登録したアプリのみインストールを許可する」－「アプリケーション配信設定を作成する」</p> <p> あらかじめ配信するアプリを「企業許可アプリ」に追加してください。</p> <p> 「Android Enterprise/企業許可アプリ」421 ページ</p> <p> 配信するアプリには、「アプリ構成」の設定値を付加することもできます。その場合は、「アプリ構成」を適用したアプリ個別設定を作成し、(A)「アプリ構成適用」に追加してください。1 設定に 300 件まで登録できます。また、同じ「アプリ構成」を設定することはできません。</p> <p>「アプリ構成」の詳細およびアプリ個別設定の作成方法については、以下を参照してください。</p> <p> 「Android Enterprise/個別アプリケーション」415 ページ</p>

◆画面（新規作成：[指定アプリのみインストール可能] を選択した場合）

表示操作 [設定] → [Android] → [アプリケーション] → [Android Enterprise] → [アプリケーション配信] → **+** → [指定アプリのみインストール可能]

新規作成

設定

設定 - 編集

1 配信設定名

2 配信アプリ
 全てのアプリをインストール可能
 企業許可アプリのみインストール可能
 指定アプリのみインストール可能

アプリ個別設定
強制インストール
自動アップデート設定
+

(+ボタンで追加: 300件まで)

ⓘ 自動アップデート設定について

デフォルト
 以下の条件をすべて満たした場合に、アプリが自動アップデートされます。

- ・各端末のGoogle Play ストアの [ネットワーク設定] が [ネットワークの指定なし] に設定されている。
- または、 [Wi-Fi 経由のみ] を設定し、端末がWi-Fiに接続されている。
- ・端末を操作していない状態である。
- ・端末が充電中である。
- ・アップデートするアプリが画面上で起動していない。

90日間延期
 Google Play ストアで新しいバージョンのアプリが公開されても、90日間はアップデートされません。90日を過ぎると、 [デフォルト] と同じ条件で自動アップデートされます。

即時
 Google Play ストアで新しいバージョンのアプリが公開されると、すぐにアプリが自動アップデートされます。 [デフォルト] の条件を満たしている必要はありません。

保存

項番	項目	説明
1	配信設定名	配信設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	配信アプリ	<p>[指定アプリのみインストール可能] を選択した場合は、managed Google Play ストアに公開されているすべてのアプリのうち、「企業許可アプリ」に登録されている、かつ「アプリ個別設定」が設定されているアプリのみ配信します。強制インストールは、この場合のみ設定できます。</p> <p>以下の項目を設定します。1 設定に 300 件まで登録できます。また、同じ「アプリ構成」を設定することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アプリ個別設定 配信するアプリの「アプリ個別設定」をリストボックスから選択します。 ● 強制インストール 「する」にチェックを入れると、強制インストールします。 ● 自動アップデート設定 アプリのアップデート方法を以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ デフォルト 以下の条件をすべて満たした場合に、アプリが自動アップデートされます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各端末の Google Play ストアの [ネットワーク設定] が [ネットワークの指定なし] に設定されている。または、[Wi-Fi 経由のみ] を設定し、端末が Wi-Fi に接続されている。 ・ 端末を操作していない状態である。 ・ 端末が充電中である。 ・ アップデートするアプリが画面上で起動していない。 ・ 90 日間延期 Google Play ストアで新しいバージョンのアプリが公開されても、90 日間はアップデートされません。90 日を過ぎると、[デフォルト] と同じ条件で自動アップデートされます。 ・ 即時 Google Play ストアで新しいバージョンのアプリが公開されると、すぐにアプリが自動アップデートされます。[デフォルト] の条件を満たしている必要はありません。 <p>詳細については、以下のマニュアルを参照してください。</p> <p> 『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」 - 「アプリを強制インストールする」、「オリジナルアプリをインストールする」、「ウェブアプリ (ショートカット) をインストールする」、「アプリ構成を利用してアプリをインストールする」 - 「アプリケーション配信設定を作成する」</p> <p> あらかじめ配信するアプリを「企業許可アプリ」に追加し、「アプリ個別設定」を設定してください。</p> <p> 「Android Enterprise / 企業許可アプリ」 421 ページ</p> <p> Android Enterprise / 個別アプリケーション」 415 ページ</p> <p> 端末にインストール済みの本設定で指定したアプリ (バージョンアップ含む) をアンインストールしたい場合は、該当のアプリを本設定から外して端末に割り当ててください。該当のアプリはアンインストールされます。ただし、エージェントアプリはアンインストールされません。</p>

◆画面（一括配信）

表示操作 [設定] → [Android] → [アプリケーション] → [Android Enterprise] → [アプリケーション配信] → 一覧から対象を選択

Android Enterprise のアプリケーション配信設定がないとき、またはアプリケーション配信設定を新規作成および編集しているときは、アプリを一括で配信することはできません。



項番	項目	説明
1	[配信]	<p>クリックすると、Android Enterprise アプリ配信設定が割り当てられているユーザーの端末に、アプリを一括で配信します。 詳細については、以下を参照してください。</p> <p> 『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「その他」 - 「インストール/アップデートできないときは」 - 「参考」</p> <p> Android Enterprise アプリ配信設定については、以下を参照してください。</p> <p> 「[その他▼] タブ/設定」 332 ページ</p>

7.5.7 Android Enterprise / 個別アプリケーション

アプリごとにランタイムパーミッションやアプリ構成などを設定した設定セットを作成します。

 画面 (新規作成)

 画面 (編集画面)

 画面 (編集画面 (旧アプリ構成))

「アプリケーション配信」の [指定したアプリのみインストール可能] を選択し、作成した設定セットを「アプリ個別設定」で指定すると、managed Google Play ストアから、設定したアプリを配信することができます。

 「Android Enterprise / アプリケーション配信」 409 ページ

 1つのアプリ個別設定に登録できるのは、1つのアプリのみです。アプリごとに、1つの設定セットが必要です。設定セットの件数に上限はありません。

◆画面 (新規作成)

表示操作 [設定] → [Android] → [アプリケーション] → [Android Enterprise] → [個別アプリケーション] → 



項番	項目	説明
1	アプリ設定名	アプリ設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。  登録されているアプリ設定名は変更できません。変更が必要な場合は、不要な設定を削除してから、新しいアプリ設定名で登録しなおす必要があります。
2	アプリ選択	[アプリを選択する] をクリックし、Google Play ストアからインストールするアプリを選択します。詳細については、以下のマニュアルを参照してください。  『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」 - 「アプリを強制インストールする」、「オリジナルアプリをインストールする」、「ウェブアプリ (ショートカット) をインストールする」、「アプリ構成を利用してアプリをインストールする」 - 「アプリ個別設定を作成する」

◆画面（編集画面）

表示操作 [設定] → [Android] → [アプリケーション] → [Android Enterprise] → [個別アプリケーション] → 一覧から対象を選択 → [編集]

個別設定A

設定 操作

アプリ

1 アプリ設定名
個別設定A

アプリ

アプリ名

プロダクトID

開発

設定 - 編集

2 ランタイムパーミッション

デフォルト

個別設定

パーミッション名	許可
android.permission.CAMERA	不許可
android.permission.READ_EXTERNAL_STORAGE	不許可

アプリ構成

3 未構成 (A)

※以下のワイルドカードを使用することが出来ます。

- ・ \$emailaddress\$: ユーザーのメールアドレス
- ・ \$username\$: ユーザー名

▲ アプリ構成を 新規作成 / 更新 / 削除 した場合は、編集中の設定が保存されません。

4 旧アプリ構成を利用する

対象アプリに設定は存在しません。

5 アプリケーションへの権限移譲

移譲しない

移譲する

移譲する権限	許可
証明書インストールと管理	不許可
アプリ構成の管理	不許可
アンインストールの抑止	不許可
アクセス権限の設定と管理	不許可
アプリの表示や状態の管理	不許可
システムアプリの有効化	不許可

取消 保存

項番	項目	説明
1	アプリ設定名 アプリ	アプリ設定の名称とアプリ名、プロダクト ID、開発元の情報が表示されます。
2	ランタイムパーミッション	<p>アプリの機能の利用許可について以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●デフォルト 端末でアプリを利用したときの動作は、「アプリ権限ポリシー」で設定したデフォルトのアプリ権限に従います。  「Android Enterprise / アプリ権限ポリシー」 423 ページ ●個別設定 パーミッションごとに、以下の項目を設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・デフォルト 端末でアプリを利用したときの動作は、「アプリ権限ポリシー」で設定したデフォルトのアプリ権限に従います。 ・許可 ユーザー操作なし（権限確認なし）で利用できます。 ・不許可 ユーザー操作なし（権限確認なし）で利用を禁止します。
3	アプリ構成	<p>Managed configurations iframe で、アプリ構成を設定します。</p> <p> (A) [未構成] をクリックすると、アプリ個別設定画面が表示されます。設定方法は以下を参照してください。</p> <p> 『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」 - 「アプリ構成を利用してアプリをインストールする」 - 「アプリ個別設定を作成する」</p>
4	旧アプリ構成を利用する	旧アプリ構成を設定している場合は、チェックが入っています。

項番	項目	説明
5	アプリケーションへの権限移譲	<p>アプリへ権限の移譲について、以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 移譲しない アプリへ全ての権限を移譲しません。 ● 移譲する 移譲する権限ごとに、「許可」または「不許可」を設定します。アプリへ権限を移譲する場合は、各項目「許可」を設定してください。以下の操作などが行えるようになります。 <p> 「権限移譲対象アプリ」とは、端末や他のアプリに対して、関与するための機能を持ったアプリです。「権限移譲対象アプリ」の処理対象になっているアプリが、「一般アプリ（処理対象）」です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 証明書のインストールと管理 「権限移譲対象アプリ」から、証明書のインストール／アンインストールなどが行えます。 ・ アプリ構成の管理 「権限移譲対象アプリ」から、「一般アプリ（処理対象）」に対して、アプリ構成の設定を行えます。 ・ アンインストールの抑止 「一般アプリ（処理対象）」がアンインストールされそうになった場合、「権限移譲対象アプリ」がブロックし、「一般アプリ（処理対象）」がアンインストールできなくなります。 ・ アクセス権限の設定と管理 「一般アプリ（処理対象）」が、ランタイムパーミッション（ストレージ権限など）を要求して実行した場合、「権限移譲対象アプリ」が要求に対して自動で応答します。 「一般アプリ（処理対象）」のランタイムパーミッション（ストレージ権限など）について、「権限移譲対象アプリ」から強制的に設定します。 ・ アプリの表示や状態の管理 「一般アプリ（処理対象）」の状態（表示・非表示・一時停止）を、「[権限移譲対象アプリ]」から操作できます。 ・ システムアプリの有効化 「一般アプリ（処理対象）」が、Device Owner Mode して無効化されたアプリである場合、「権限移譲対象アプリ」から有効化することができます。 <p> 本設定は、Android 8 以上で Device Owner Mode された端末、および権限移譲できるアプリが端末にインストールされている場合のみ設定できます。</p>

◆画面（編集画面（旧アプリ構成））

旧アプリ構成で設定された値は、無効になります。切り替えタイミングは未定ですが、旧アプリ構成で設定されている場合は、Google が提供する Managed configurations iframe を利用して、再登録を行ってください。再登録については、以下を参照してください。

『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」 - 「アプリ構成を利用してアプリをインストールする」 - 「アプリ個別設定を作成する」

表示操作 [設定] → [Android] → [アプリケーション] → [Android Enterprise] → [個別アプリケーション] → 一覧から対象を選択 → [編集]

個別設定A

設定 操作

1 アプリ設定名
個別設定A

アプリ

アプリ名

プロダクトID

開発

2 ランタイムパーミッション

デフォルト
 個別設定

パーミッション名	許可
android.permission.CAMERA	デフォルト
android.permission.GET_ACCOUNTS	デフォルト
android.permission.READ_CONTACTS	デフォルト
android.permission.READ_EXTERNAL_STORAGE	デフォルト
android.permission.WRITE_EXTERNAL_STORAGE	デフォルト

3 アプリ構成

未構成 (A)

※以下のワイルドカードを使用することが出来ます。
 ・ \$emailaddress\$: ユーザーのメールアドレス
 ・ \$username\$: ユーザー名

▲ アプリ構成を 新規作成 / 更新 / 削除 した場合は、編集中の設定が保存されます。

4 旧アプリ構成を利用する

5 旧アプリ構成

▲ 要確認
 旧アプリ構成は廃止する予定です。
 廃止後、旧アプリ構成の値は反映されなくなります。
 ※ 廃止前でも新規追加された機器では旧アプリ構成が反映されません。

アプリ構成を利用して再登録してください。
 旧アプリ構成を別タブで表示する

設定項目名	値

取消 保存

項番	項目	説明
1	アプリ設定名 アプリ	アプリ設定の名称とアプリ名、プロダクト ID、開発元の情報が表示されます。
2	ランタイムパーミッション	<p>アプリの機能の利用許可について以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● デフォルト 端末でアプリを利用したときの動作は、「アプリ権限ポリシー」で設定したデフォルトのアプリ権限に従います。  「Android Enterprise / アプリ権限ポリシー」 423 ページ ● 個別設定 パーミッションごとに、「許可」に以下の項目を設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ デフォルト 端末でアプリを利用したときの動作は、「アプリ権限ポリシー」で設定したデフォルトのアプリ権限に従います。 ・ 許可 ユーザー操作なし（権限確認なし）で利用できます。 ・ 不許可 ユーザー操作なし（権限確認なし）で利用を禁止します。
3	アプリ構成	<p>Managed configurations iframe で、アプリ構成を設定します。</p> <p> (A) [未構成] をクリックすると、アプリ個別設定画面が表示されます。設定方法は以下を参照してください。</p> <p> 『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」 - 「アプリ構成を利用してアプリをインストールする」 - 「アプリ個別設定を作成する」</p>
4	旧アプリ構成を利用する	旧アプリ構成で設定していると、チェックがついています。
5	旧アプリ構成	<p>旧アプリ構成が表示されています。</p> <p> 旧アプリ構成は、廃止されますので、アプリ構成の (A) [未構成] をクリックして再登録を行ってください。</p> <p> 『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」 - 「アプリ構成を利用してアプリをインストールする」 - 「アプリ個別設定を作成する」</p>

7.5.8 Android Enterprise / 企業許可アプリ

managed Google Play ストアに公開されているアプリのうち、企業で使用を許可するアプリを追加します。追加したアプリは「企業許可アプリ」として管理サイトに登録されます。

詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

 『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」 - 「アプリを強制インストールする」、「オリジナルアプリをインストールする」、「アプリ構成を利用してアプリをインストールする」 - 「企業許可アプリを追加する」

 企業許可アプリは、1,000 件まで登録できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [アプリケーション] → [Android Enterprise] → [企業許可アプリ] → 

1 アプリを選択する

2 プロダクトID	アプリ名	作成者	アプリの料金形態
			無料アプリ (A) x
			無料アプリ(アプリ内購入あり) x
			無料アプリ x
			無料アプリ x
			無料アプリ(アプリ内購入あり) x
			無料アプリ(アプリ内購入あり) x
			無料アプリ(アプリ内購入あり) x
			無料アプリ x
			無料アプリ x
			無料アプリ(アプリ内購入あり) x
			無料アプリ x
			無料アプリ x
			無料アプリ x
			無料アプリ x
			無料アプリ x
			無料アプリ x

項番	項目	説明
1	[アプリを選択する]	クリックすると、Google Play ストアが表示されます。企業で許可するアプリケーションを選択します。詳細については、以下のマニュアルを参照してください。  『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」 - 「アプリを強制インストールする」、「オリジナルアプリをインストールする」、「アプリ構成を利用してアプリをインストールする」 - 「企業許可アプリを追加する」
2	企業許可アプリ一覧	選択したアプリの以下の情報が表示されます。 ●プロダクト ID ●アプリ名 ●作成者 ●アプリの料金形態  企業許可アプリから削除する場合は、(A)  をクリックします。

7.5.9 Android Enterprise / アプリ権限ポリシー

Android 端末で実行中のアプリが、カメラやアドレス帳などのアプリを使用するためにアクセス権限要求した場合、使用を許可、禁止、またはユーザー確認後に許可/禁止を判断するかを設定します。

本機能は、[個別アプリケーション] の「ランタイムパーミッション」で、[デフォルト] ラジオボタンを選択した場合、または [個別設定] をラジオボタン選択し、各パーミッションの「許可」項目で、リストボックスから [デフォルト] を選択した場合の、デフォルトの設定値として使用されます。

 「Android Enterprise / 個別アプリケーション」 415 ページ

 Android 端末としてのポリシーを設定することになります。Android Enterprise 連携を行い、Android 端末をキッティングした時点で、本機能は有効になります。

 『Android キッティングマニュアル』

 本機能で設定している場合でも、アプリが権限を要求する前に Android 端末の [設定] → [アプリ] で権限を付与することもできます。

 本機能で設定したポリシーが、個別アプリケーションの「ランタイムパーミッション」でデフォルトになります。デフォルトを変更したい場合は、アプリごとにポリシーの変更を設定できます。個別アプリケーションで作成したアプリを Android Enterprise で配信すると、アプリごとに変更したポリシーが有効になります。

 「Android Enterprise / 個別アプリケーション」 415 ページ

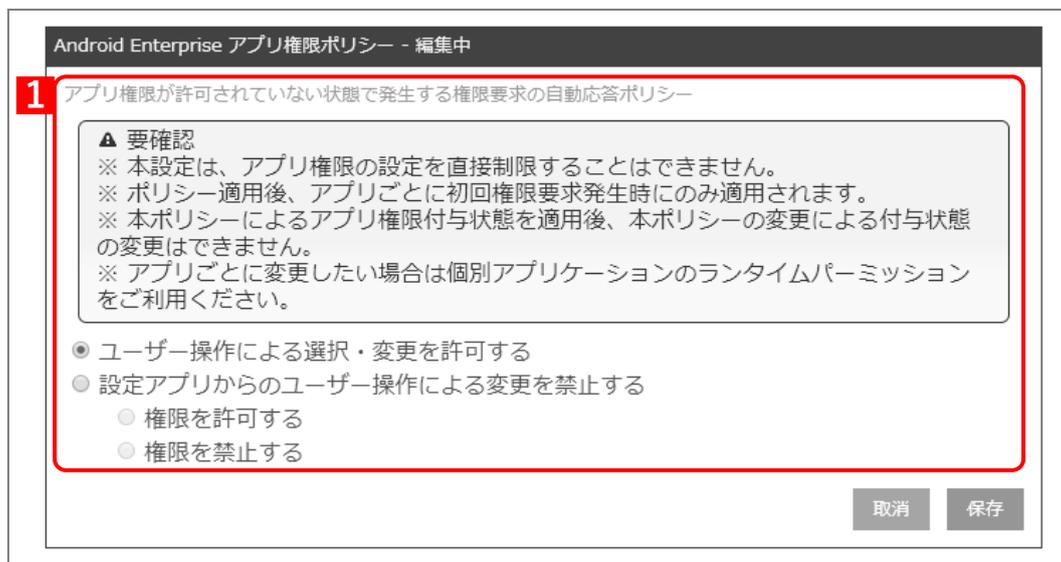
 「Android Enterprise / アプリケーション配信」 409 ページ

 本機能の設定および個別アプリケーションの「ランタイムパーミッション」の設定したときの Android 端末の動作については、以下を参照してください。

 「[アプリ権限要求ポリシー] の設定による Android 端末の動作」 424 ページ

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Android] → [アプリケーション] → [Android Enterprise] → [アプリ権限ポリシー] → [編集]



項番	項目	説明
3	アプリ権限が許可されていない状態で発生する権限要求の自動応答ポリシー	<p>端末のアプリの利用について、デフォルトの設定を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ユーザー操作による選択・変更を許可する アプリを実行するたびに権限が要求されます。ユーザー操作で権限を許可するかを選択するようにします。 ●設定アプリからのユーザー操作による変更を禁止する <ul style="list-style-type: none"> ・権限を許可する 権限の確認をすることなく、アプリを利用できます。アプリが権限を要求する契機で、ユーザー操作なし（権限確認なし）で許可されます。 ・権限を禁止する 権限の確認をすることなく、アプリを利用できます。アプリが権限を要求する契機で、ユーザー操作なし（権限確認なし）で禁止されます。 <p> アプリ権限の設定を直接制限することはできません。</p> <p> 適用後は、アプリごとに初回権限要求発生時にのみ適用されます。</p> <p> 本設定による アプリ権限付与状態を適用後は、本設定の変更による付与状態の変更はできません。</p> <p> アプリごとに変更する場合は、個別アプリケーションのランタイムパーミッションをご利用ください。</p>

◆ 「アプリ権限要求ポリシー」の設定による Android 端末の動作

本機能の設定、および個別アプリケーションの「ランタイムパーミッション」を設定し、Android 端末でアプリを実行して、アクセス権限を要求されたときの、Android 端末の動作は以下のとおりです。

 個別アプリケーションの「ランタイムパーミッション」の設定が優先になります。

個別アプリケーションのランタイムパーミッション	アプリ権限ポリシーの設定	Android 端末の動作
デフォルト	権限を許可する	権限を要求するダイアログは表示されません。自動的に権限は「許可」されています。ユーザーが権限を変更することはできません。
	権限を禁止する	権限を要求するダイアログは表示されません。自動的に権限は「禁止」されています。ユーザーが権限を変更することはできません。アプリの利用は、アプリの仕様に依存します。
	ユーザー操作による選択・変更を許可する	権限を要求するダイアログが表示されます。ユーザーが「許可」または「禁止」を選択できます。通常利用時と同様です。
許可	—	権限を要求するダイアログは表示されません。自動的に権限は「許可」されています。ユーザーが権限を変更することはできません。
不許可	—	権限を要求するダイアログは表示されません。自動的に権限は「禁止」されています。ユーザーが権限を変更することはできません。アプリの利用は、アプリの仕様に依存します。

7.6 インターネット

インターネットに関連する設定を行います。

Wi-Fi の設定、Wi-Fi フィルタリング、Web フィルタリング、Web 閲覧履歴の取得、端末のブラウザへのお気に入り追加を設定することができます。

7.6.1 Wi-Fi

[オプション](#)

Wi-Fi の接続先ネットワークの設定を、管理サイトから制御するための設定セットを作成します。

端末に設定セットを適用すると、管理サイトで指定した SSID の名称で、端末にネットワークが保存されます。

- ☑ 端末を機内モードに設定していると、本機能は端末に反映されません。
- ☑ SSID 名を変更しないで設定内容だけを変更する場合は、端末上の Wi-Fi 設定で該当の SSID の設定を削除してから、管理サイトで変更した設定セットを端末に再度適用してください。
- ☑ セキュリティ設定 (DOM) で、Wi-Fi 設定の変更を「禁止」に設定していると、本機能は、反映されません。「有効」の設定セットを割り当てても、Wi-Fi の使用はできなくなります。セキュリティ設定 (DOM) については、以下を参照してください。

🔗 「セキュリティ設定 (DOM)」 472 ページ

- ☑ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

🔗 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

🔗 「全機器一括設定」 248 ページ

- ☑ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [インターネット] → [Wi-Fi] → +

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 Wi-Fi
 有効 無効 変更しない

3 Wi-Fiスリープ設定
 画面バックライト消灯時にスリープ
 電源接続時はスリープにしない
 スリープにしない
 変更しない

4 ネットワーク一覧

SSID	セキュリティ	パスワード / 詳細設定	Hidden
	なし		<input type="checkbox"/> Hidden

(+ボタンで追加: 5件まで)

※ セキュリティ 802.1x EAP の設定は、Android 6.x 以降の端末のみ対応
 ※ 更新する時、802.1x EAPのWi-Fi詳細設定にてパスワードに設定がある場合、必ずパスワードをもう一度入力してください。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	Wi-Fi	端末の Wi-Fi 設定機能の有効／無効を設定します。 <input checked="" type="radio"/> 有効 端末の Wi-Fi 状態を有効にします。 <input checked="" type="radio"/> 無効 端末の Wi-Fi 状態を無効にします。 <input checked="" type="radio"/> 変更しない 端末の Wi-Fi 状態を変更しません。
3	Wi-Fi スリープ設定	端末で Wi-Fi をスリープさせるタイミングを以下から選択します。 <input checked="" type="radio"/> 画面バックライト消灯時にスリープ 画面バックライト消灯時にスリープするように設定します。 <input checked="" type="radio"/> 電源接続時はスリープにしない 電源接続時は Wi-Fi をスリープさせないように設定します。 <input checked="" type="radio"/> スリープにしない スリープないように設定します。 <input checked="" type="radio"/> 変更しない 端末の Wi-Fi スリープ時の設定を変更ないように設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 4.2 以上は、本設定を利用できません。
4	ネットワーク一覧	端末へ設定する Wi-Fi 情報の設定を行います。 <input checked="" type="checkbox"/> 1 設定に 5 件まで追加できます。

項番	項目	説明
	SSID	端末へ配布する Wi-Fi 設定の SSID の名称を 32 文字以内の半角英数記号で入力します。
	セキュリティ	<p>端末へ配布する Wi-Fi 設定のセキュリティ方式を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「なし」、「WEP」、「WPA/WPA2-PSK」、「802.1x EAP」 <p> 「802.1x EAP」は、Android 6.0 以上の端末にのみ対応しています。</p>
	パスワード/詳細設定	<p>端末へ配布する Wi-Fi 設定のセキュリティパスワードを登録します。セキュリティの設定によって入力文字数が変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「なし」の場合 パスワードは設定しません。 ● 「WEP」の場合 文字の種類によって、以下のように入力文字数が異なります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ASCII 文字のときは、5 文字もしくは 13 文字で入力します。 ・16 進数のときは、10 文字もしくは 26 文字で入力します。 ● 「WPA/WPA2-PSK」の場合 文字の種類によって、以下のように入力文字数が異なります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ASCII 文字のときは、8 文字以上 63 文字以下で入力します。 ・16 進数のときは、64 文字で入力します。 ● 「802.1x EAP」の場合 [Wi-Fi 詳細設定] をクリックして、Wi-Fi 詳細設定画面で詳細を設定します。 選択する EAP 方式の種類により、設定項目が異なります。以下を参照してください。  「Wi-Fi 詳細設定 (セキュリティが「802.1x EAP」の場合)」 428 ページ <p> 詳細設定でパスワードを設定した場合は、更新時に再度パスワードを設定する必要があります。</p>
	Hidden	Hidden SSID の場合に、チェックを入れます。

Wi-Fi 詳細設定（セキュリティが「802.1x EAP」の場合）

EAP 方式の種類により、設定項目が異なります。

 画面（EAP 方式：PEAP の場合）

 画面（EAP 方式：TLS の場合）

 画面（EAP 方式：TTLS の場合）

 画面（EAP 方式：PWD の場合）

 画面（EAP 方式：SIM、AKA、AKA'の場合）

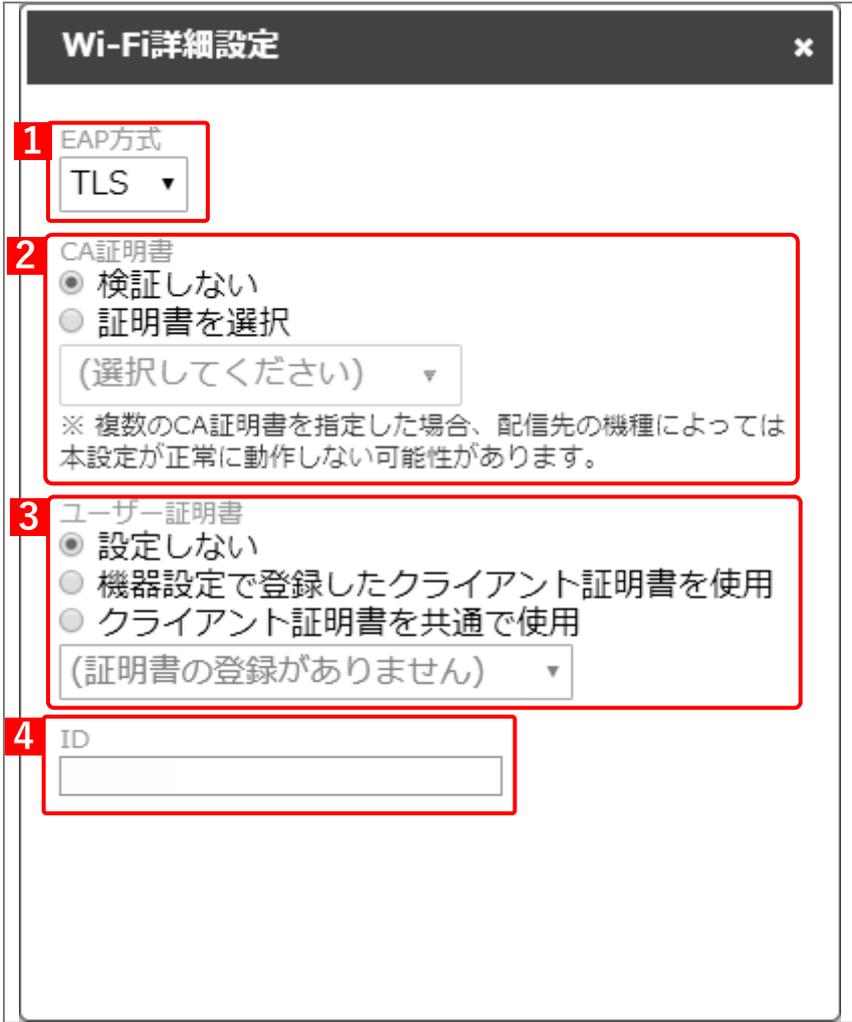
 AP 方式での設定の場合は、アクセスポイント切り替えに伴う OS の挙動により、アクセスポイントの設定時に瞬断（端末により瞬断ではない時間）が発生します。

◆画面（EAP 方式：PEAP の場合）

項番	項目	説明
1	EAP 方式	「PEAP」を選択します。
2	フェーズ 2 認証	フェーズ 2 の認証方式を以下から選択します。 <input checked="" type="radio"/> 設定しない <input type="radio"/> MSCHAPV2 <input type="radio"/> GTC

項番	項目	説明
3	CA 証明書	<p>CA 証明書で検証する場合は、「証明書を選択」を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「検証しない」の場合 CA 証明書の検証がされません。 ● 「証明書を選択」の場合 登録済の CA 証明書を選択します。 「ドメイン」の入力欄が表示されますので、ドメインを入力します。 <p> 事前に CA 証明書のアップロードが必要です。詳細については、以下を参照してください。</p> <p> 「CA 証明書管理」459 ページ</p> <p> Android 7.0 未満の端末の場合は、本機能を使用するためにスクリーンロックの設定が必須です。</p> <p> CA 証明書をあとから配信する場合は、同期に失敗して CA 証明書の配信ができない可能性があります。</p>
4	ID	設定する ID を入力します。
5	匿名 ID	設定する匿名 ID を入力します。
6	パスワード	設定するパスワードを入力します。

◆画面 (EAP 方式 : TLS の場合)



Wi-Fi詳細設定

1 EAP方式
TLS

2 CA証明書
 検証しない
 証明書を選択
 (選択してください)

※ 複数のCA証明書を指定した場合、配信先の機種によっては本設定が正常に動作しない可能性があります。

3 ユーザー証明書
 設定しない
 機器設定で登録したクライアント証明書を使用
 クライアント証明書を共通で使用
 (証明書の登録がありません)

4 ID

項番	項目	説明
1	EAP 方式	「TLS」を選択します。
2	CA 証明書	<p>CA 証明書で検証する場合は、「証明書を選択」を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「検証しない」の場合 CA 証明書の検証がされません。 ● 「証明書を選択」の場合 登録済の CA 証明書を選択します。 「ドメイン」の入力欄が表示されますので、ドメインを入力します。 <p> 事前に CA 証明書のアップロードが必要です。詳細については、以下を参照してください。</p> <p style="text-align: center;"> 「CA 証明書管理」459 ページ</p> <p> Android 7.0 未満の端末の場合は、本機能を使用するためにスクリーンロックの設定が必須です。</p> <p> CA 証明書をあとから配信する場合は、同期に失敗して証明書配信ができない可能性があります。</p>
3	ユーザー証明書	<p>クライアント証明書を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 設定しない クライアント証明書の設定はしません。 ● 機器設定で登録したクライアント証明書を使用 端末ごとにクライアント証明書を変えて指定したい場合に設定します。各機器設定に登録しているクライアント証明書を選択します。 <p style="text-align: center;"> 「(設定 - Android) クライアント証明書」116 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● クライアント証明書を共通で使用 複数の端末に共通のクライアント証明書を指定したい場合に設定します。 <p> 事前にクライアント証明書のアップロードが必要です。詳細については、以下を参照してください。</p> <p style="text-align: center;"> 「クライアント証明書管理」452 ページ</p> <p> Android 7.0 未満の端末の場合は、本機能を使用するためにスクリーンロックの設定が必須です。</p> <p> クライアント証明書をあとから配信する場合は、同期に失敗してクライアント証明書の配信ができない可能性があります。</p>
4	ID	設定する ID を入力します。

◆画面 (EAP 方式 : TTLS の場合)

Wi-Fi詳細設定

1 EAP方式
TTLS ▼

2 フェーズ2認証
設定しない ▼

3 CA証明書
 検証しない
 証明書を選択
 (選択してください) ▼
 ※ 複数のCA証明書を指定した場合、配信先の機種によっては本設定が正常に動作しない可能性があります。

4 ID

5 匿名ID

6 パスワード

項番	項目	説明
1	EAP 方式	「TTLS」を選択します。
2	フェーズ 2 認証	フェーズ 2 の認証方式を以下から選択します。 <input checked="" type="radio"/> 設定しない <input type="radio"/> PAP <input type="radio"/> MSCHAP <input type="radio"/> MSCHAPV2 <input type="radio"/> GTC
3	CA 証明書	CA 証明書で検証する場合は、「証明書を選択」を選択します。 <input checked="" type="radio"/> 「検証しない」の場合 CA 証明書の検証がされません。 <input checked="" type="radio"/> 「証明書を選択」の場合 登録済の CA 証明書を選択します。 「ドメイン」の入力欄が表示されますので、ドメインを入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 事前に CA 証明書のアップロードが必要です。詳細については、以下を参照してください。 🔗 「CA 証明書管理」 458 ページ <input checked="" type="checkbox"/> Android 7.0 未満の端末の場合は、本機能を使用するためにスクリーンロックの設定が必須です。 <input checked="" type="checkbox"/> CA 証明書をあとから配信する場合は、同期に失敗して CA 証明書の配信ができない可能性があります。
4	ID	設定する ID を入力します。

項番	項目	説明
5	匿名 ID	設定する匿名 ID を入力します。
6	パスワード	設定するパスワードを入力します。

◆画面 (EAP 方式 : PWD の場合)

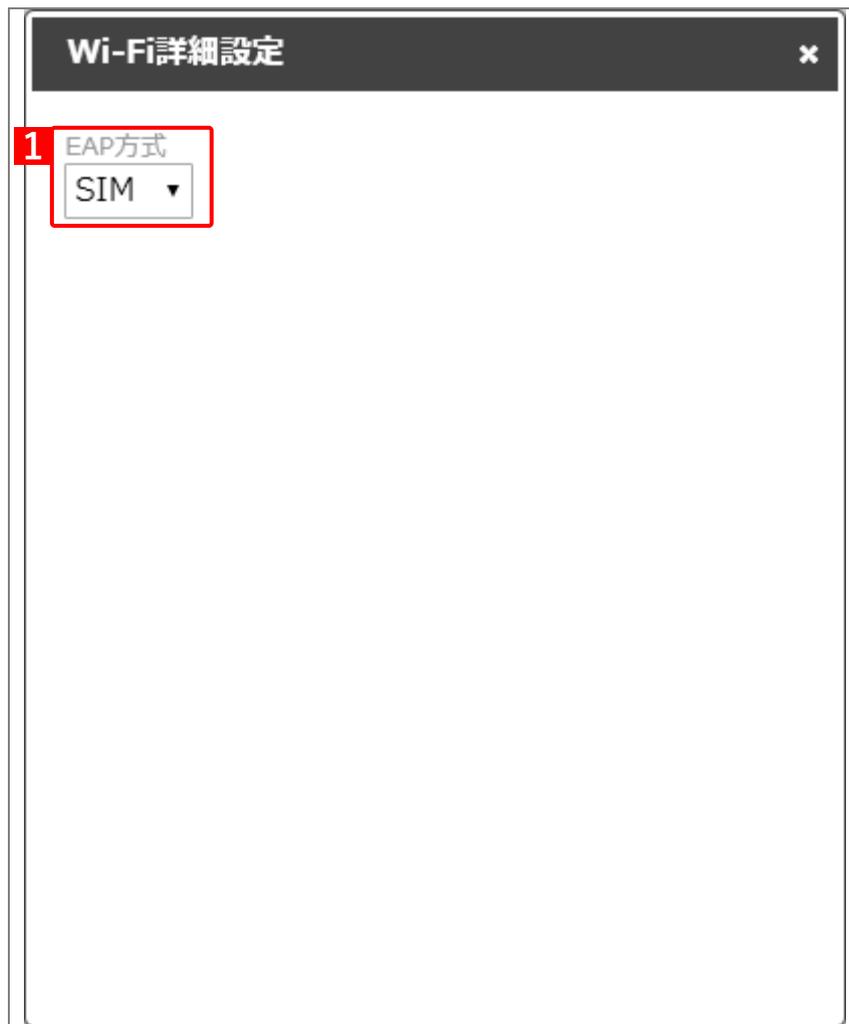
The screenshot shows the 'Wi-Fi詳細設定' (Wi-Fi Detailed Settings) dialog box. It contains three numbered steps:

- 1** EAP方式 (EAP Method): A dropdown menu is shown with 'PWD' selected.
- 2** ID: An empty text input field for entering the ID.
- 3** パスワード (Password): An empty text input field for entering the password.

項番	項目	説明
1	EAP 方式	「PWD」を選択します。
2	ID	設定する ID を入力します。
3	パスワード	設定するパスワードを入力します。

◆画面（EAP 方式：SIM、AKA、AKA'の場合）

例) EAP 方式「SIM」を選択した画面



項番	項目	説明
1	EAP 方式	「SIM」または「AKA」または「AKA'」を選択します。

7.6.2 Wi-Fi フィルタリング

オプション

特定の無線 LAN アクセスポイントのみに端末の接続を許可する設定セットを作成します。他の SSID への Wi-Fi 接続はできなくなります。

- ✗ 誤った設定を行うと、Wi-Fi モデルは一切ネットワークに接続できなくなります。注意してください。
- ✗ 本製品の利用を解約しても、端末に行った設定はそのまま保持されます。解約の前に各種設定セットを [設定なし] に設定し、端末に反映してください。
- ✗ Android 8.x の場合、本機能は Device Owner Mode でのみ動作します。Device Owner Mode でご利用いただかないと、本機能は動作しません。Device Owner Mode キットング手順については、以下のマニュアルを参照してください。

 『Android キットングマニュアル』

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

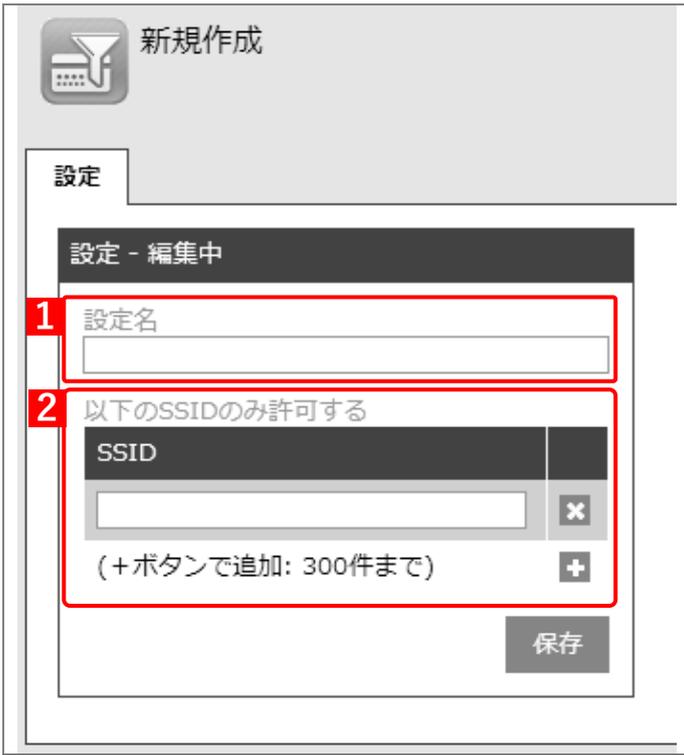
 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [インターネット] → [Wi-Fi フィルタリング] → 



項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	以下の SSID のみ許可する	端末で接続を許可する Wi-Fi の SSID の名称を 32 文字以内の半角英数字、「-」、「_」、「@」で入力します。300 件まで登録できます。  をクリックすると、新規に追加できます。  SSID を 31 個以上登録した場合、ご使用の端末によっては Wi-Fi フィルタリングに時間がかかる場合があります。

7.6.3 Web フィルタリング

オプション

標準ブラウザ、および+browser Safety Manager から特定の Web サイトの閲覧を制限する設定セットを作成します。本機能では、閲覧を許可する URL、または閲覧を禁止する URL のいずれかを指定します。また、URL の指定とは別に、特定のカテゴリ（「ギャンブル」、「検索」など）に基づいて Web サイトの閲覧を許可／禁止することもできます。禁止対象の Web サイトにアクセスした場合は、警告メッセージが表示され、閲覧ができません。本機能の設定セットは、Android と iOS で共有することができます。

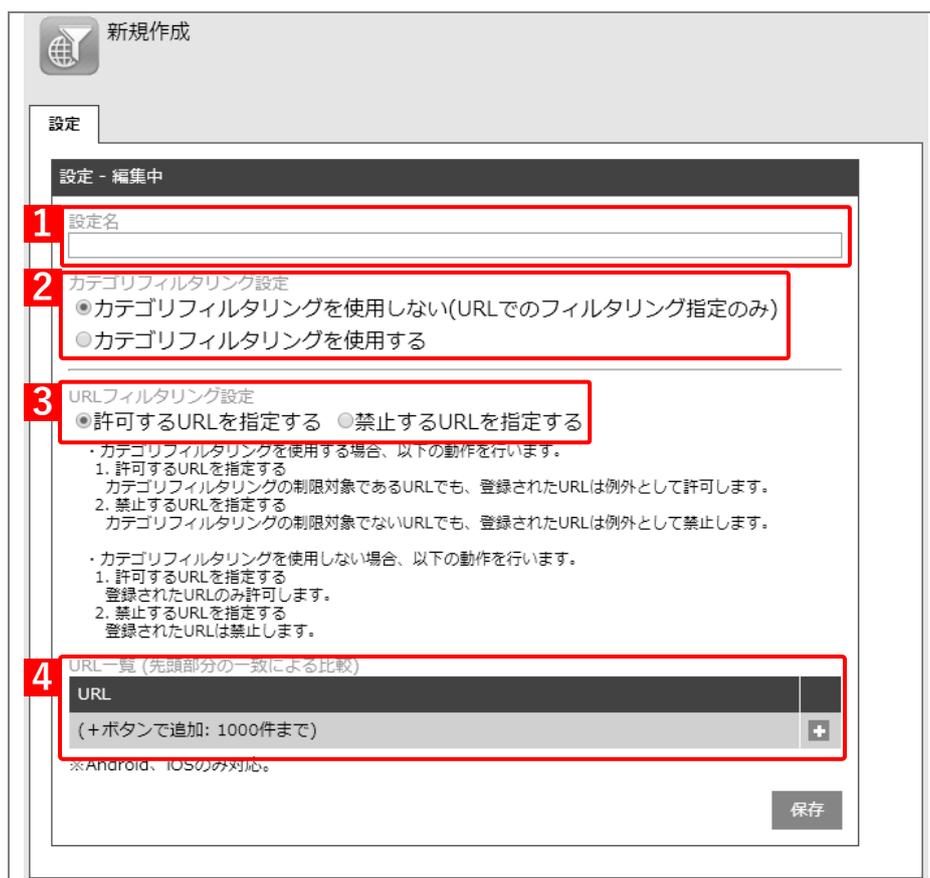
 画面（カテゴリフィルタリングを使用しない場合）

 画面（カテゴリフィルタリングを使用する場合）

-  本機能を利用するには、端末のブラウザ設定で JavaScript を有効にしてください。
-  本機能を使用する場合は、オプションの申し込みが必要です。
-  本機能は、Android 6.0 未満の端末の場合、標準ブラウザ、および+browser Safety Manager に対応していません。Android 6.0 以上の端末の場合、+browser Safety Manager にのみ対応しています。
-  +browser Safety Manager を利用するには、オプションの申し込みが必要です。
-  +browser Safety Manager は、弊社が提供しているブラウザです。Android の標準ブラウザとは別にインストールが必要です。
-  Android 4.0~5.x の端末の場合は、本機能で禁止している Web サイトであっても標準ブラウザのシークレットモードからは閲覧が可能になります。これを回避するには、アプリケーション禁止機能を利用して標準ブラウザの使用を禁止し、+browser Safety Manager のみ使用できるように制限してください。
-  +browser Safety Manager の使用方法については、以下のマニュアルを参照してください。
 -  『Android クライアント リファレンスマニュアル』の「関連アプリの使用方法」 - 「+browser Safety Manager」
-  Web フィルタリングを設定すると、標準ブラウザおよび+browser Safety Manager のお気に入りから、フィルタリング対象となる URL のお気に入りが削除されます。
-  本製品の利用を解約しても、端末に行った設定はそのまま保持されます。解約の前に各種設定セットを [設定なし] に設定し、端末に反映してください。
-  カテゴリフィルタリングは、アルプスシステムインテグレーション株式会社のフィルタリングサーバーを利用して閲覧制限をしているため、カテゴリが追加または変更される場合があります。
-  カテゴリフィルタリング設定中は、お気に入りは設定できません。
-  カテゴリフィルタリング設定は、Android 2.3 以上に対応しています。+browser Safety Manager の 1.2.2.100 以上のバージョンで利用できます。
-  他の Web フィルタリングサービスを利用している場合は、本機能を利用できないことがあります。
-  作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 -  「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ
 -  「全機器一括設定」 248 ページ
-  設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面（カテゴリフィルタリングを使用しない場合）

表示操作 [設定] → [Android] → [インターネット] → [Web フィルタリング] → 



項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	カテゴリフィルタリング設定	カテゴリフィルタリングの設定を以下から選択します。 ●カテゴリフィルタリングを使用しない設定画面下の URL フィルタリング設定のみ使用します。 ●カテゴリフィルタリングを使用する この項目を選択した場合は、以下を参照してください。 📖 「画面（カテゴリフィルタリングを使用する場合）」437 ページ
3	URL フィルタリング設定	閲覧を許可する URL を指定するの、または禁止する URL を指定するのを選択します。 ●許可する URL を指定する ホワイトリスト形式。カテゴリフィルタリングを使用する場合は、カテゴリフィルタリングの制限対象である URL でも、登録された URL は例外として許可します。 ●禁止する URL を指定する ブラックリスト形式。カテゴリフィルタリングを使用する場合は、カテゴリフィルタリングの制限対象でない URL でも、登録された URL は例外として禁止します。
4	URL 一覧(先頭部分の一致による比較)	フィルタリングする URL を 200 文字以内の半角英数字、記号で入力します。1,000 件まで登録できます。「https://」から始まる URL も指定できます。同じ URL を重複して登録できません。

◆画面（カテゴリフィルタリングを使用する場合）

表示操作 [設定] → [Android] → [インターネット] → [Web フィルタリング] → +

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 カテゴリフィルタリング設定

- カテゴリフィルタリングを使用しない(URLでのフィルタリング指定のみ)
- カテゴリフィルタリングを使用する

3 閲覧を禁止するカテゴリ

- 不法
 - 違法と思われる行為
 - 著作権や商標権の侵害行為
 - 児童ポルノ
 - 違法と思われる薬物
 - 不適切な薬物利用
- 金融
 - 金融・経済指数・マーケット情報

※専用ブラウザの以下のバージョンにて利用できます。

- Android: 1.2.2.100 以降
- iOS: 2.1.0.100 以降

4 フィルタリングサーバー通信不可時の設定

- 閲覧を許可する
- 閲覧を禁止する

5 URLフィルタリング設定

- 許可するURLを指定する
- 禁止するURLを指定する

・カテゴリフィルタリングを使用する場合、以下の動作を行います。

- 許可するURLを指定する
カテゴリフィルタリングの制限対象であるURLでも、登録されたURLは例外として許可します。
- 禁止するURLを指定する
カテゴリフィルタリングの制限対象でないURLでも、登録されたURLは例外として禁止します。

・カテゴリフィルタリングを使用しない場合、以下の動作を行います。

- 許可するURLを指定する
登録されたURLのみ許可します。
- 禁止するURLを指定する
登録されたURLは禁止します。

6 URL一覧 (先頭部分の一致による比較)

URL	
(+ボタンで追加: 1000件まで)	+

※Android、iOSのみ対応。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	カテゴリフィルタリング設定	<p>カテゴリフィルタリングの設定を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カテゴリフィルタリングを使用しない設定画面下の URL フィルタリング設定のみ使用します。 この項目を選択した場合は、以下を参照してください。 🔗 「画面 (カテゴリフィルタリングを使用しない場合)」436 ページ ●カテゴリフィルタリングを使用する本設定を使用します。 <input checked="" type="checkbox"/> +browser Safety Manager では、カテゴリフィルタリングを使用すると、特定のサイトを表示したり、ログインしたりすることができません。項番 5 の「URL フィルタリング設定」で、「許可する URL を指定する」を選択して、項番 6 の「URL 一覧」に、不具合があったサイトの URL を追加してください。
3	閲覧を禁止するカテゴリ	<p>カテゴリフィルタリング設定で、「カテゴリフィルタリングを使用する」を選択した場合に、閲覧を禁止するカテゴリにチェックを入れます。</p> <p>🔗 「禁止するカテゴリー一覧」439 ページ</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 「プロバイダ・ポータル・ホスティング」の「検索」にチェックを入れると、閲覧を許可しているカテゴリの Web サイトは、URL を直接入力した場合にのみ閲覧できます。URL 以外の文字を入力した場合は、検索サイトを経由するため、閲覧が禁止されます。</p>
4	フィルタリングサーバー通信不可時の設定	<p>カテゴリフィルタリング設定で、「カテゴリフィルタリングを使用する」を選択した場合に、フィルタリングサーバー通信不可時の設定を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●閲覧を許可する フィルタリングサーバーと通信できないときに、閲覧を許可します。 <input checked="" type="checkbox"/> 端末で該当の URL を閲覧しようとする時、「該当 URL のカテゴリ取得に失敗しましたが、ページを表示します」というダイアログが表示されます。 ●閲覧を禁止する フィルタリングサーバーと通信できないときに、閲覧を禁止します。
5	URL フィルタリング設定	<p>閲覧する URL の使用禁止条件を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●許可する URL を指定する ホワイトリスト形式。カテゴリフィルタリングを使用する場合は、カテゴリフィルタリングの制限対象である URL でも、登録された URL は例外として許可します。 ●禁止する URL を指定する ブラックリスト形式。カテゴリフィルタリングを使用する場合は、カテゴリフィルタリングの制限対象でない URL でも、登録された URL は例外として禁止します。
6	URL 一覧 (先頭部分の一致による比較)	<p>フィルタリングする URL を 200 文字以内の半角英数字、記号で入力します。1,000 件まで登録できます。「https://」から始まる URL も指定できます。同じ URL を重複して登録できません。</p>

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
<div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>▲ カテゴリを選択してください。</p> </div>	<p>「カテゴリフィルタリングを使用する」を選択したうえで、「閲覧を禁止するカテゴリ」を選んでいる状態で設定を保存している。</p>	<p>「閲覧を禁止するカテゴリ」を指定して [保存] をクリックしてください。</p>

◆禁止するカテゴリー一覧

閲覧を禁止するカテゴリーの内容は以下のとおりです。

カテゴリー		説明	デフォルト (推奨)
不法	違法と思われる行為	爆破予告、貯金通帳の売買、利用できる携帯電話の売買など、インターネット上で情報の提供が違法とされる行為	○
	著作権や商標権の侵害行為	著作権や商標権を侵害する可能性のある行為	○
	児童ポルノ	18歳未満と思われる児童の性的な姿態や虐待などを写實的に描写したもの	○
	違法と思われる薬物	違法薬物およびその利用を助長する情報	○
	不適切な薬物利用	国内法では違法とされていない一般薬物の不適切な利用を助長する情報	○
	自殺誘引	人を自殺に誘引・勧誘する情報	○
アダルト・フェティシズム	アダルト・ポルノ	性行為やヌードなど性的な描写、性風俗店、アダルトグッズ、アダルトゲームなどの情報	○
	フェティシズム	身体や服装の一部、または人間が身に付けるものに対する執着などいわゆるフェチの描写。盗撮とおもわれる画像や映像	○
セキュリティ	クラッキング	ウイルスの製造方法やネットワーク、コンピューター、モバイル端末への不正侵入や不正使用に関連する情報	○
	マルウェア	ウイルスやスパイウェア感染の恐れがあるサイト C&C (コマンド&コントロール) サーバーなどの不正攻撃サイト	○
	DBD 攻撃	閲覧することで、自動的にマルウェア (不正なプログラム) などをダウンロードさせられる恐れがあるサイト	○
	フィッシング詐欺・ワンクリック詐欺	フィッシングサイトやクリックただけで料金を請求される詐欺サイト	○
	公開プロキシ	フィルタリング機能を回避する公開プロキシ	○
	フィルタリング回避	フィルタリング機能を回避する目的ではないが、結果的にフィルタリング機能を回避してしまうサービス	○
出会い	出会い	出会い系サイトや異性・同性の紹介、恋愛・交際を仲介するサービス	○
金融	金融・経済指数・マーケット情報	比較やレートなど金融・証券・保険に関する各種情報サイト	
	投資商品の購入	投資商品をオンラインで購入・取引できるサイト	
	保険商品の申込	生命保険・損害保険商品の申込サイト	
	金融商品・サービス	銀行、信用組合、クレジット、消費者金融などによる商品・サービスの紹介。残高照会や振込み、資料請求や申込ができるサイト	
	証券・先物取引	証券・先物取引のサービスや企業サイト。証券取引所のサイト	
	保険	生命保険や傷害保険を扱う企業やその代理店のサイト	
	銀行	銀行・信用組合のサービスや企業サイト	
	ローン・決済	クレジットカード・消費者金融のサービスや企業サイト	
	ポイント・マイレージ	マイレージやポイントのサービスや企業サイト	
	会員権	ゴルフやリゾート会員権の売買に関連する情報	
	不動産	土地・家屋の販売、賃貸物件の情報	

カテゴリ		説明	デフォルト (推奨)
ギャンブル	ギャンブル	競馬・オートレースなどの公営競技。カジノやその他ギャンブルに関わる情報。または金品などを対象に射幸心を煽るサービス	○
	宝くじ・スポーツくじ	宝くじ・スポーツくじの販売や予想に関連する情報	○
ショッピング	小売・ショッピングセンター	ショッピングセンター、百貨店、スーパーマーケット、コンビニ、小売店などの販売施設の関連情報	
	商業施設・複合施設	ショッピング施設に加え、ホテル・オフィスなどが複合的に隣接する施設の関連情報	
	オンラインショッピング	インターネットでの物品の販売および関連情報	
	オークション	オークションサイトおよび関連情報	
コミュニケーション	SNS・ミニブログ	SNS（会員向けコミュニティサイト）およびミニブログサービス	○
	掲示板・チャット	ウェブ上の掲示板およびチャットサービス	○
	質問サイト	質問者に回答するコミュニティーサービス	○
	ブログ	ブログサービス	○
	ウェブメール	ウェブ上でのメールの送受信サービスおよびグリーティングサービスの提供	○
	メーリングリスト	メーリングリストサービス	○
IT サービス	メールマガジン	メールマガジンサービス	
	ウェブアーカイブ・キャッシュ	ウェブアーカイブ（サイトを保存するサービス）や検索エンジンなどのキャッシュページ	
	オンライン辞書・テキスト翻訳	オンライン上のテキスト翻訳や辞書サービス	
	ウェブページ翻訳	ウェブページの URL を指定して翻訳するサービス	
	フリー百科事典	誰でも記事の編集や作成ができる百科事典サイト	
	ブックマーク・リンク集	ネット上にブックマークを保存し、ブックマークの共有を行えるサービス	
	URL 転送・変換サービス	長い URL を短く簡素な URL に変換して発行するサービスサイトやその提供ドメイン	
	動画配信	動画配信サービスや動画共有サービス	
	ライブ動画	動画のライブ配信が行えるサービス	
	ストレージサービス	インターネット上のディスクスペース提供など、各種ストレージサービス	
	クチコミ・評価・コメント	商品の評価、価格調査、クチコミ、ワンポイントアドバイス、ニュース記事などへのコメント	
	位置情報	モバイル端末などで利用者の位置を測定し各種情報を提供するサービス	
	P2P	ファイル共有ソフトウェアの使用方法などの情報やプログラム配布	
	ドメインパーキング	使用していないドメインを管理するサービス	
	ウェブアプリケーション	ブラウザなどで使用できるアプリのサービス	
	プログラムダウンロード	プログラムやアプリのダウンロードサービス	

カテゴリ		説明	デフォルト (推奨)
	更新ファイル・ドライバ	プログラムのアップデートやドライバー定義ファイルなどのダウンロードサービス	
	デジタル素材	アイコン、壁紙、スクリーンセーバーなどのダウンロードサービス	
	IT	IT 情報を掲載したホームページ、ブログ、掲示板。パソコン、ソフトウェアメーカー、IT サービスを提供している企業サイトや関連情報	
プロバイダ・ポータル・ホスティング	プロバイダ	各種インターネットプロバイダのサイトや関連情報	
	ポータルサイト	総合的なインターネットポータルサービス	
	検索	Web ページ、画像、動画などの検索サービス	
	ホスティング	ホームページサービス、サーバーを貸し出すサービス、ドメイン登録受付するレジストラ	
ビジネス・経済	転職・就職	転職、就職、派遣、パート、アルバイトに関連する情報	
	ビジネスセミナー・交流会	ビジネス的な観点で交流の場を提供する異業種交流会の情報。ビジネスセミナー情報	
	ビジネス・経済情報	各種経済やビジネスに関連する情報	
	ビジネス・経済団体	各種経済やビジネスに関係する団体のサイトや関連情報	
	サイドビジネス	サイドビジネスなどに関連する情報	
過激な表現	暴力組織・カルト	過激・暴力的な活動を行なう団体などの情報	○
	グロテスク・ショッキング	拷問、虐待、傷害、暴行、死体、流血などの描写	○
青年・成人向け	武器	実武器や兵器の情報。モデルガン、刃物など使用や遊戯に判断力が必要なものの情報	○
	裏情報	公序良俗に反する行為を助長する、いわゆる「裏情報」の提供	○
	主義・主張	サイト主宰者の主張の場や、社会通念上のマナーが守られていない、一方的な表現、告発、誹謗・中傷	○
	アルコール製品・タバコ	アルコール・タバコやその関連製品情報。喫煙や飲酒を促進する情報	○
	成人向け遊技・飲食	パチンコ店・雀荘、居酒屋・酒場、ディスコ・クラブなど成人向け施設の情報	○
	その他の青年・成人向け	科学的に説明できない各種の超常現象や都市伝説に関連する情報。ゴシップ、パロディなど合理的判断力が求められる情報	○
趣味と娯楽	ゲーム	オンラインゲームサイト、ゲームソフト、ゲーム機器、ゲームダウンロードや、それらの関連情報	○
	テレビ・ラジオ	テレビ・ラジオ局のサイト。番組表、視聴率ランキングなど番組関連情報	○
	映画・演劇	映画配給会社、作品、演劇などの興行やその施設に関連する情報	○
	音楽	音楽ファイル提供や音楽に関連する情報	○
	書籍・雑誌	出版社、書店、書籍の情報	○
	漫画・アニメ	漫画、コミック、アニメ、イラストなどのサイト	○
	タレント・ミュージシャン・著名人	タレント、芸能人、ミュージシャン、その他著名人の情報	○
	グラビア・水着	グラビア写真集のような、水着などを着用した人物の画像や映像	○

カテゴリ	説明	デフォルト (推奨)	
ファッション・美容	ファッション、コスメ、ヘアスタイル、アクセサリ、エステサロンなどの身だしなみ全般の情報	○	
コスプレ	コスプレ関連の情報	○	
占い・診断	占いサービスおよび関連する情報	○	
スポーツ・レジャー	各種スポーツ、レジャーとそれらを行う場所に関する情報	○	
ペット・動物	ペットショップや動物病院、その他動物全般の情報	○	
玩具・模型	おもちゃ、模型、プラモデル、ミニカー、ラジコン、フィギュアなどの情報	○	
アミューズメント	動物園、遊園地、遊戯場、テーマパーク、漫画喫茶、インターネットカフェ、カラオケ店などの施設やその情報	○	
DIY・園芸	DIYの基礎知識、道具などの紹介。花屋、種苗、植物全般、庭造りなどガーデニングに関連する情報	○	
懸賞・プレゼント	くじびきサイトや懸賞サイト	○	
趣味と娯楽総合	テレビ・ラジオ、芸能、ゲームなどエンターテインメント総合サービス	○	
その他の趣味と娯楽	趣味・娯楽カテゴリに含まれない、その他の趣味や娯楽情報	○	
生活と暮らし	交通	公共交通機関、道路、港湾・空港施設、交通運行情報、レンタカーに関連する情報	
	自動車・オートバイ	自動車・オートバイのメーカーやその関連情報	
	その他の乗り物	鉄道、船舶、飛行機など車・オートバイ以外の乗り物に関連する情報	
	地図サービス	オンライン地図サービス	
	宿泊・旅行	ホテル・旅館など宿泊施設や観光、旅行に関する情報	
	ライフライン	電気、ガス、水道、電話、ガソリンスタンドなどの情報	
	郵便・物流	郵便や宅配便、引っ越しサービスなど物流に関する情報	
	暮らし・地域情報	暮らしや地域に関する情報	
	生活関連商品	雑貨、インテリア、家庭用品など、生活関連商品の情報	
	生活関連サービス	クリーニング、銭湯、家事代行、防犯業など生活に関連するサービスの情報	
	イベント	祭り、花火大会、花見、クリスマスなどの各種イベントの情報	
	公共施設	公民館、市民館、コンサートホールなどのイベント施設。多目的ホール、公園、図書館など、公共の施設に関する情報	
	文例・テンプレート	各種文例集、ワードソフト、表計算ソフトなどのテンプレートのダウンロードサービス	
	食事・料理・食品	レストラン・ファーストフードなど飲食店に関する情報。食材やレシピなど食に関連する情報	
	結婚紹介	結婚を前提として異性と知り合うことを目的とした、結婚紹介所・結婚相談所などの情報	
	冠婚葬祭	節句、成人式、結婚式場、葬儀、墓地など冠婚葬祭に関する情報	
	妊娠・出産・育児	妊娠・出産・育児に関する情報	
	宗教	宗教に関わる情報や宗教施設に関する情報	

カテゴリ		説明	デフォルト (推奨)
医療と健康	病気・医療	全国の病院、診療所などの医療機関。病気や処方箋などに関連する情報全般	
	介護・福祉	介護サービスや施設、公的介護保険、社会福祉などの情報	
	ヘルスケア・リラクゼーション	健康コラム、ダイエット、サプリメント、マッサージ、整体などに関連する情報	
	性の知識	性教育に関連する情報	
	美容整形	美容整形・美容外科に関連する情報	
	メンタルヘルス	メンタルヘルスに関連する情報	
学術・教育	学校・教育	各種学校、予備校など教育施設やその関連情報	
	学習	学習全般に関連する情報	
	学術・開発・研究	学術的な研究、試験、開発などを行う団体・企業・個人のサイトや関連情報	
	資格・語学・カルチャースクール	各種習い事、資格の取得、語学力向上などを行うスクール・教室のサイトや関連情報	
	文化・芸術・工芸	音楽、能楽、文楽、歌舞伎その他の我が国古来の伝統的な芸能や、茶道、華道、書道など生活文化の情報	
	美術館・博物館	美術館・博物館の施設案内や情報	
政治・行政	行政・地方自治体	国家機関、地方自治体のサイトや関連情報	
	政党・政治家	政党や議員、またそれらの支援団体など、政治活動や政党に関連する情報	
	外交・国際機関	大使館・領事館など外交や国際機関のサイトや関連情報	
	軍事・防衛	公的な軍事・防衛組織のサイトや関連情報	
	政治評論・情報	政治に関する評論に関連する情報	
広告	広告・マーケティング	広告枠の販売や広告制作、マーケティングを行う企業サイトや関連情報	
	オンライン広告・バナー	ウェブ上のバナー広告などの配信元サイト、アフィリエイト広告配信元サイト、広告自体を目的としたサイト	
迷惑メール	迷惑メールリンク	未承諾広告宣伝メールに記載されている URL	
ニュース	ニュース	一般的なニュース配信、新聞社のサイトや関連情報	
	天気・災害情報	天気・地震や津波などの情報	
各種サービス	司法・法律・行政書士	弁護士事務所などの司法サービス、司法書士事務所などのサイトや関連情報	
	経理・税金・年金	経理、税金、年金に関連する情報やサービス	
	興信所	興信所、探偵社など信用調査を行う企業サイトや関連情報	
	デザイン	各種デザインを専門に扱う企業・個人のサイトや関連情報	
	コンサルティング	各種コンサルティングを専門に扱う企業・個人のサイトや関連情報	
	翻訳・通訳	通訳や翻訳を専門に扱う企業・個人のサイトや関連情報	
	その他のサービス	各種サービスカテゴリに含まれない、その他のサービス業のサイトや関連情報	
各種産業	農林水産	農業、漁業、林業に関する企業や関連情報	
	建設	建築や建設に関する企業や関連情報	
	製	製造業に関する企業や関連情報	
	その他の産業	各種産業カテゴリに含まれない、その他の企業や関連情報	

7.6.4 Web 閲覧履歴

オプション

端末との同期のタイミングで、標準ブラウザ、および +browser Safety Manager 利用時の Web 閲覧履歴を取得し、管理サイトのログに表示したり、ブラウザに保存されている Web 閲覧履歴を削除する設定セットを作成します。

作成した設定セットは Android と iOS で共有することができます。

- ✍ 本機能を使用する場合は、オプションの申し込みが必要です。
- ✍ 本機能は、Android 6.0 未満の場合、標準ブラウザ、および +browser Safety Manager のみ有効です。Android 6.0 以上の場合、本機能は +browser Safety Manager のみで有効です。
- ✍ +browser Safety Manager を利用するには、オプションの申し込みが必要です。
- ✍ +browser Safety Manager の使用方法については、以下を参照してください。

📖 『Android クライアント リファレンスマニュアル』の「関連アプリの使用方法」 - 「+browser Safety Manager」

✍ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

👉 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

👉 「全機器一括設定」 248 ページ

✍ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [インターネット] → [Web 閲覧履歴] → +

新規作成

設定

設定 - 編集中

1 設定名

2 Web閲覧履歴ログ

- Web閲覧履歴ログを取得する
- Web閲覧履歴ログを取得しない

3 Web閲覧履歴の削除

- Web閲覧履歴を定期的に削除
- なにもしない

※Android、iOSのみ対応。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	Web 閲覧履歴ログ	Web 閲覧履歴取得の有効／無効の設定を以下から選択します。 ●Web 閲覧履歴ログを取得する 端末の Web 閲覧履歴取得を「取得する」に設定します。 ●Web 閲覧履歴ログを取得しない 端末の Web 閲覧履歴取得を「取得しない」に設定します。
3	Web 閲覧履歴の削除	取得した Web 閲覧履歴の削除についての動作を以下から選択します。 ●Web 閲覧履歴を定期的に削除 Web 閲覧履歴の定期削除を有効にします。 ●なにもしない Web 閲覧履歴を定期的に削除しないようにします。

7.6.5 お気に入り

オプション

端末のブラウザに、お気に入りの追加やホームページ設定（Windows 端末にのみ適用）を行うための設定セットを作成します。作成した設定セットは、Android、iOS、Windows で共有することができます。

- ✍ 本機能を使用する場合は、オプションの申し込みが必要です。
- ✍ 本機能は、Android 6.0 未満の場合、標準ブラウザ、および +browser Safety Manager のみ有効です。Android 6.0 以上の場合、+browser Safety Manager のみで有効です。
- ✍ 端末に適用したお気に入りの変更や削除はできません。
- ✍ +browser Safety Manager を利用するには、オプションの申し込みが必要です。
- ✍ +browser Safety Manager の使用方法については、以下のマニュアルを参照してください。

📖 『Android クライアント リファレンスマニュアル』の「関連アプリの使用方法」 - 「+browser Safety Manager」

- ✍ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

📖 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

📖 「全機器一括設定」 248 ページ

- ✍ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [インターネット] → [お気に入り] → **+** (一覧から対象を選択) → [編集]

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 お気に入り

タイトル	URL
<input type="text"/>	<input type="text"/>

(+ ボタンで追加: 300件まで)

3 ホームページ

※ホームページの設定はWindowsのみ適用されます。

※お気に入り設定はWindows 11以降には対応していません。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字以内で入力します。
2	お気に入り	お気に入りとして、以下の項目を入力します。  をクリックして、最大 300 件まで登録できます。 ●タイトル お気に入りのタイトル名を 100 文字以内の半角英数字と記号（「-」、「_」、「@」）で入力します。 ●URL URL 情報を 200 文字以内の半角英数字、記号で入力します。先頭には「http://」または「https://」を入力します。  「お気に入り」の設定は行わず、「ホームページ」の設定のみ行う設定セットを作成する場合は、お気に入りの入力欄は  をクリックして削除したあとに、[保存] をクリックしてください。
3	ホームページ	ブラウザのホームページに設定するサイトの URL を 200 文字以内の半角英数字、記号で入力します。先頭は「http://」または「https://」にしてください。  ホームページの設定は Windows 端末にだけ有効です。

7.7 便利機能

連絡先の設定を行うことができます。

7.7.1 連絡先

端末の電話帳に連絡先を追加する設定セットを作成します。

 画面（新規作成）

 画面（編集）

 端末に反映された連絡先の変更や削除はできません。

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面（新規作成）

表示操作 [設定] → [Android] → [便利機能] → [連絡先] → 



項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。

◆画面 (編集)

表示操作 [設定] → [Android] → [便利機能] → [連絡先] → 作成した設定を選択



項番	項目	説明
1	インポート・エクスポート	<p>CSV ファイルから連絡先の登録をまとめて行います。また、現在登録されている連絡先を CSV ファイルに保存できます。操作手順については、以下を参照してください。</p> <p>🔗 「CSV ファイルの共通操作」 67 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●連絡先一覧を CSV ファイルからインポート CSV ファイルに発信先をインポートする画面が表示されます。 ●連絡先一覧を CSV ファイルでエクスポート 選択している設定内容の発信先を CSV ファイルでダウンロードします。 ☑️エクスポートを実施すると「再度ダウンロードする場合は画面を更新してください。」と表示されます。 ☑️CSV ファイルを Excel で編集したとき、電話番号の頭文字の「0」が消えてしまいますので、セルの表示形式を「文字列」に指定してください。または、「TEL:0*****」と「TEL:」を付けて入力すると、頭文字の「0」は消えません。

項番	項目	説明
2	連絡先一覧	<p>連絡先の情報を登録します。</p> <p> をクリックし、以下の項目を入力して連絡先を登録します。最大 1,000 件登録できます。</p> <p> 登録するには、「姓」、「名」、「姓（フリガナ）」、「名（フリガナ）」のいずれかの入力が必要です。</p> <ul style="list-style-type: none">● 姓 姓を 15 文字以内で入力します。● 名 名を 15 文字以内で入力します。● 姓（フリガナ） 姓のフリガナを 15 文字以内の全角カタカナ、半角カタカナ、半角空白で入力します。● 名（フリガナ） 名のフリガナを 15 文字以内の全角カタカナ、半角カタカナ、半角空白で入力します。● 電話番号 連絡先の電話番号を 20 文字以内の半角数字、「-」、「+」、「*」、「#」、「,」で入力します。 <p> 端末で電話番号を編集したときに、アプリの仕様で自動的にハイフン「-」が挿入されることがあります。ハイフン「-」の有無で、管理サイトから配信した連絡先のデータと重複する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none">● メールアドレス 連絡先メールアドレスを 255 文字以内の半角英数字、記号で入力します。「@」の前後にそれぞれ 1 文字以上入力してください。

7.7.2 SIM ステータス変更検知

SIM ステータス変更検知の設定セットを作成します。SIM ステータス変更検知は、SIM が抜かれた場合や SIM が挿入された場合に、ログを出力する機能です。

この設定は、Android と iOS で共有することができます。

-  端末を認証するとき、本設定が端末に割り当てられている場合、初回の同期でログが出力されます。
-  ネットワークが未接続の状態や同期ができない状態のときは、SIM を変更してもログは出力されません。
-  SIM のスロットが複数ある端末の場合、1 つめのスロットから SIM を抜いて、2 つめのスロットに SIM の挿入や入れ替えしてもログは出力されません。
-  作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 -  「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ
 -  「全機器一括設定」 248 ページ
-  設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [便利機能] → [SIM ステータス変更検知] → 


新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 SIMステータス変更検知
有効 無効

※有効に設定すると、SIMの抜き差し状況やSIMの変更情報を同期タイミングで検知します。
 ※変更を検知した場合は、検知内容を機器ログに出力します。
 ※ [ログメール通知] の「メール通知対象ログ」で [Android/iOS のSIMステータス変更検知] を設定している場合は、検知結果がメール送信されます。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	SIM ステータス変更検知	有効に設定すると、SIM の抜き差し状況や SIM の変更情報を同期タイミングで検知します。

7.8 証明書管理

クライアント証明書の管理や一括アップロード、一括削除のほか、CA 証明書の管理を行います。

7.8.1 クライアント証明書管理

クライアント証明書を管理サイトに 1 ファイルずつアップロードして保存し、端末に配信するための設定セットを作成します。

本機能で作成したクライアント証明書の設定セットは、Android 端末、iOS 端末、Windows 端末で共有することができます。

 [画面 \(新規作成\)](#)

 [画面 \(管理\)](#)

 [画面 \(編集\)](#)

 事前にクライアント証明書を取得してください。

 本製品はクライアント証明書の配信までを行います。端末内に保存されるクライアント証明書の場所やインストール方法については、端末メーカーへお問い合わせください。

 アップロード済みのクライアント証明書を差し替える場合は、以下を参照してください。

 [「画面 \(編集\)」](#) 455 ページ

 クライアント証明書をまとめてアップロードする場合は、以下を参照してください。

 [「クライアント証明書一括アップロード」](#) 456 ページ

 管理サイトにアップロードしたクライアント証明書は、以下の設定で利用します。

 [「\(設定 - Android\) クライアント証明書」](#) 116 ページ

 [「\(設定 - iOS\) クライアント証明書」](#) 123 ページ

 [「\(設定 - iOS\) Exchange \(ActiveSync\) 設定」](#) 126 ページ

 [「\(設定 - iOS\) VPN 設定」](#) 131 ページ

 [「\(設定 - Windows\) クライアント証明書」](#) 143 ページ

 設定セットは、最大で 250,000 件まで作成できます。

◆画面（新規作成）

表示操作 [設定] → [Android] → [証明書管理] → [クライアント証明書管理] → +


新規作成

クライアント証明書

設定 - 編集

1

証明書ファイル

ファイルを選択 選択されていません

※PKCS #12形式の証明書ファイルを指定してください。

2

証明書を保護するパスワード

※証明書がパスワードで保護されている場合、保護する際に設定したパスワードを入力してください。
 ※証明書がパスワードで保護されていない場合は、指定したパスワードが設定されます。
 ※パスワードが指定されていない場合、ランダムに生成されたパスワードが設定されます。

保存

項番	項目	説明
1	証明書ファイル	アップロードするクライアント証明書を指定します。[ファイルを選択] をクリックし、クライアント証明書ファイルを選択します。 ✔ PKCS #12 形式のクライアント証明書を指定してください。 ✔ ファイル名は 30 文字以内で設定してください。
2	証明書を保護するパスワード	パスワードで保護されているクライアント証明書をアップロードする場合は、設定されているパスワードを 255 文字以内の半角英数字で入力します。 ✔ パスワード未設定の場合は入力不要です。

◆画面 (管理)

表示操作 [設定] → [Android] → [証明書管理] → [クライアント証明書管理]



項番	項目	説明
1	検索/並び替え	(A) に検索対象項目、(B) に並び替えの対象項目が表示されます。検索する場合は、検索するキーワードを (C) に入力し、[検索] をクリックします。検索したあとに、すべてのクライアント証明書を再表示するにはブラウザを再読み込み、または (C) を空欄にし、再度 [検索]  をクリックします。
2		クリックするとクライアント証明書情報欄に入力欄が表示されます。  「画面 (新規作成)」 453 ページ
3		クリックすると以下のメニューが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 全てにチェックを入れる 選択するとクライアント証明書一覧にあるすべての証明書のチェックボックスにチェックが入ります。 ● 全てのチェックをはずす 選択するとクライアント証明書一覧にあるすべての証明書のチェックボックスのチェックが外れます。 ● 検索対象 検索対象をファイル名、発行先 (証明書情報) のいずれかに変更できます。 ● 並び替え 昇順 ユーザー一覧をファイル名、発行先 (証明書情報)、有効期間の開始、有効期間の終了のいずれかで昇順に並び替えます。 ● 並び替え 降順 ファイル名、発行先 (証明書情報)、有効期間の開始、有効期間の終了のいずれかで降順に並び替えます。 ● 一括削除 クライアント証明書一覧でチェックの入っている証明書を削除します。
4	クライアント証明書一覧	登録されている証明書一覧が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ● (D) クライアント証明書のファイル名です。 ● (E) 発行先 (クライアント証明書情報) です。 ● (F) 有効期間です。

項番	項目	説明
5	クライアント証明書情報	クライアント証明書一覧から選択したクライアント証明書情報が表示されます。
6	[操作]	クリックすると、以下のメニューが表示されます。 ●削除 クライアント証明書を削除します。
7	[編集]	クリックすると、登録されているクライアント証明書の情報を編集できます。

◆画面（編集）

アップロード済みのクライアント証明書の差し替えやパスワードを変更する場合に内容を修正します。
設定項目は新規作成と同様です。

表示操作 [設定] → [Android] → [証明書管理] → [クライアント証明書管理] → 一覧から対象を選択 → [編集]

証明書1

クライアント証明書 操作 ▾

設定 - 編集

1 証明書ファイル
 ファイルを選択 選択されていません
 ※PKCS #12形式の証明書ファイルを指定してください。

2 証明書を保護するパスワード

 ※証明書がパスワードで保護されている場合、保護する際に設定したパスワードを入力してください。
 ※証明書がパスワードで保護されていない場合は、指定したパスワードが設定されます。
 ※パスワードが指定されていない場合、ランダムに生成されたパスワードが設定されます。

取消 保存

項番	項目	説明
1	証明書ファイル	クライアント証明書一覧から再アップロードする証明書を指定します。
2	証明書を保護するパスワード	パスワードで保護されているクライアント証明書をアップロードする場合は、設定されているパスワードを入力します。パスワード未設定の場合は入力不要です。

7.8.2 クライアント証明書一括アップロード

複数のクライアント証明書を ZIP ファイルにまとめて管理サイトにアップロードし、端末に配信するための設定セットを作成します。

本機能で作成したクライアント証明書の設定セットは、Android 端末、iOS 端末、Windows 端末で共有することができます。

- 📌 事前にクライアント証明書を取得してください。
- 📌 アップロードする複数のクライアント証明書は、まとめて zip ファイル形式で保存してください。
- 📌 アップロード済みのクライアント証明書を差し替える場合は、以下を参照してください。

📄 「画面 (編集)」 455 ページ

- 📌 管理サイトにアップロードしたクライアント証明書は、以下の設定で利用します。

📄 「(設定 - Android) クライアント証明書」 116 ページ

📄 「(設定 - iOS) クライアント証明書」 123 ページ

📄 「(設定 - iOS) Exchange (ActiveSync) 設定」 126 ページ

📄 「(設定 - iOS) VPN 設定」 131 ページ

📄 「(設定 - Windows) クライアント証明書」 143 ページ

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Android] → [証明書管理] → [クライアント証明書一括アップロード] → [パスワード付きの証明書を一括アップロードする]

1 パスワード付きの証明書を一括アップロードする。

2 証明書パスワード入力用CSVファイルを用意します。

「ダウンロード」ボタンをクリックしてCSVファイルをダウンロードします。
ダウンロードしたファイルの内容を編集して保存してください。

ダウンロード

3 証明書パスワード入力用CSVファイルをアップロードします。

ファイルを選択 選択されていません

4 証明書ファイルを一括アップロードします。

PKCS #12形式の証明書をzipアーカイブ化したファイルを指定して「アップロード」ボタンをクリックしてください。

ファイルを選択 選択されていません

ZIPアーカイブのパスワード

5 アップロード

項番	項目	説明
1	パスワード付きの証明書を一括アップロードする。	<p>チェックを入れると、証明書パスワード入力用 CSV ファイルをアップロードできます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>パスワード付きのクライアント証明書でない場合は、チェックを入れません。</p>
2	証明書パスワード入力用 CSV ファイルを用意します。	<p>証明書パスワード入力用 CSV ファイルをアップロードする場合、[ダウンロード] をクリックし、任意の場所に証明書パスワード入力用 CSV ファイルを保存します。保存したファイルを Excel やメモ帳で開き、クライアント証明書に設定されているパスワードを入力して保存します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>CSV ファイルの「[S]ファイル名」には、拡張子を除いたクライアント証明書のファイル名を入力してください。</p>
3	証明書パスワード入力用 CSV ファイルをアップロードします。	<p>[ファイルを選択] をクリックし、証明書パスワード入力用 CSV ファイルを選択します。</p>
4	証明書ファイルを一括アップロードします。	<p>[ファイルを選択] をクリックし、アップロードする ZIP ファイルを選択します。パスワードで保護された ZIP ファイルを選択した場合は、「ZIP アーカイブのパスワード」に設定されているパスワードを 255 文字以内の半角英数字で入力します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>一括でアップロードする PKCS #12 形式のクライアント証明書のファイルは、あらかじめ ZIP ファイルにまとめておく必要があります。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ファイル名は 30 文字以内で設定してください。</p>
5	[アップロード]	<p>クリックすると、ZIP ファイルに含まれるクライアント証明書の一覧が表示されます。表示内容に問題がないことを確認し、[アップロードを実行] をクリックします。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>アップロード済みの同名クライアント証明書を上書きする場合は「同じファイル名の証明書がすでに存在した場合は上書き保存する」にチェックを入れます。</p>

7.8.3 クライアント証明書一括削除

管理サイトにアップロードされているクライアント証明書を、CSV ファイルを利用して一括で削除します。
 操作手順については、以下を参照してください。

 「CSV ファイルの共通操作」 67 ページ

-  端末に紐づけられているクライアント証明書を削除した場合は、端末に割り当てられている設定が動作しなくなることがあります。
-  削除対象のクライアント証明書は、管理サイトおよび iOS 端末からも削除されます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [証明書管理] → [クライアント証明書一括削除]

1. CSVファイルを準備します

「ダウンロード」ボタンをクリックしてCSVファイルをダウンロードします。

1 ダウンロード

2. CSVファイルを編集します

CSVファイルを開き、削除対象の証明書と同じ行にある「削除フラグ」カラムに、「D」を入力してください。CSVファイルを編集後、保存してください。

3. CSVファイルをアップロードします

編集したCSVファイルを指定して「アップロード」ボタンをクリックしてください。アップロード完了後、削除の確認画面に移動します。

2 ファイルを選択 選択されていません

3 アップロード

項番	項目	説明
1	[ダウンロード]	任意の場所にクライアント証明書を削除するための CSV ファイルを保存します。保存した CSV ファイルを Excel やメモ帳で開き、削除したいクライアント証明書名の右側にある「[S]削除フラグ」列に「D」と入力して保存します。
2	[ファイルを選択]	項番 1 で保存した CSV ファイルを選択します。
3	[アップロード]	CSV ファイルのアップロードが開始されます。アップロードが完了すると、インポート画面が表示されます。

7.8.4 CA 証明書管理

Android 端末にインストールする CA 証明書をアップロードし、端末に適用する設定セットを作成します。

本機能でアップロードした CA 証明書は、Android、Windows で共有することができます。

 画面 (新規作成)

 画面 (CA 証明書の情報)

 Android 端末に CA 証明書を反映する前に、スクリーンロックを設定してください。スクリーンロックをしていないと、設定を要求するメッセージが表示されます。また、スクリーンロック設定を無効にするには、CA 証明書をアンインストールする必要があります。

 CA 証明書をサイレントインストールすると、Android 端末の仕様により通知バー上に AndroidSystem からの通知が表示される場合があります。詳細については、以下を参照してください。

 『Android クライアント リファレンスマニュアル』の「管理サイトからの指示による動作」 - 「CA 証明書がサイレントインストールされた場合」

 iOS 端末の CA 証明書は、本メニューをご利用いただけません。構成プロファイルとして配信してください。

 「[その他▼] タブ/証明書設定」 541 ページ

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面 (新規作成)

表示操作 [設定] → [Android] → [証明書管理] → [CA 証明書管理] → 


新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 証明書ファイル

ファイルを選択

選択されていません

※PEMまたはDER形式の証明書ファイルを指定してください。
 ※証明書をAndroid機器にインストールするためには、PINまたはパスワードなどのスクリーンロック設定が必要です。
 機器でスクリーンロック設定がされていない場合には、設定を要求するメッセージが表示されます。
 ※スクリーンロック設定を無効にするには、証明書をアンインストールする必要があります。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	証明書ファイル	<p>[ファイルを選択] をクリックし、アップロードする CA 証明書を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> PEM または DER 形式の CA 証明書ファイルを指定してください。 <input checked="" type="checkbox"/> CA 証明書を Android 端末にインストールするには、PIN またはパスワードなどのスクリーンロック設定が必要です。機器でスクリーンロック設定がされていない場合は、設定を要求するメッセージが表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> スクリーンロック設定を無効にするには、CA 証明書をアンインストールする必要があります。

◆画面 (CA 証明書の情報)

表示操作 [設定] → [Android] → [証明書管理] → [CA 証明書管理] → 一覧から対象を選択

項番	項目	説明
1	設定名	設定した CA 証明書の名称が表示されます。
2	ファイル名	CA 証明書のファイル名が表示されます。
3	アップロード日時	CA 証明書ファイルのアップロード日時が表示されます。
4	発行先(証明書情報)	CA 証明書の発行先が表示されます。
5	発行者(証明書情報)	CA 証明書の発行者が表示されます。
6	有効期限(証明書情報)	CA 証明書の有効期限が表示されます。

7.9 Zone Management

特定のネットワーク・位置・時間帯を設定したゾーン設定と、Android 端末と Windows 端末に適用する各機能の設定セットを選択したポリシー設定を組み合わせ、ゾーンポリシー構成の設定セットを作成します。

学校や職場など、特定の条件下で使用する端末を設定する場合に有効な機能です。

 本機能を Android 端末に割り当てると、エージェントのメニュー画面に「現在のゾーン」が表示されます。

 『Android クライアント リファレンスマニュアル』の「エージェントの基本操作」 - 「メニュー画面の表示内容」

7.9.1 ゾーン

接続先のネットワーク・位置情報・時間帯を組み合わせ、ゾーン設定として保存します。

保存したゾーン設定をポリシー設定と組み合わせ、ゾーンポリシー構成の設定セットを作成します。

 「ポリシー」 465 ページ

 「ゾーンポリシー構成」 468 ページ

この設定は、Android と Windows で共有することができます。

 単一のゾーンに複数の SSID を設定した場合は、いずれかの SSID が検知された場合に「ゾーン内」となります。また複数の位置情報とスケジュール設定も、いずれかの設定が満たされた場合に「ゾーン内」となります。SSID と位置情報、SSID とスケジュールなど異なる設定を複数組み合わせる場合は、すべての設定を満たした場合に「ゾーン内」となります。

【複数の条件を組み合わせた場合】

• 場所：SSID1、SSID2、SSID3

• 時間：月曜 17:00~18:00、土曜 16:00~17:30

上記のゾーン設定では SSID が「SSID1」「SSID2」「SSID3」のいずれかに一致し、さらに日時が「月曜 17:00~18:00」「土曜 16:00~17:30」のいずれかに一致した場合に「ゾーン内」となります。

 Android 8.0 以上の場合は、Wi-Fi の SSID 情報および位置情報の取得が 1 時間に 1 回程度へ制限されます。ゾーンの切り替えを即時検知できず、約 1 時間程度のタイムラグが発生します。

 ゾーン設定は、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [Zone Management] → [ゾーン] → +


新規作成

管理

設定 - 編集集中

1 ゾーン名

2 ネットワーク
 設定を有効にする

SSID	MACアドレス	ステルス	
<input style="width: 95%;" type="text"/>	<input style="width: 95%;" type="text"/>	<input type="checkbox"/>	

(+ボタンで追加: 50件まで)

3 位置情報
 設定を有効にする

※Windows、Androidのみ対応。
 ※位置情報管理で設定される測位間隔でゾーン判定を行います。
 ※端末の位置情報の無線ネットワークとGPSが無効の場合、測位を行わず、ゾーン不明となります。
 ※位置情報によるゾーンの判定精度は端末や場所に依存します。半径を300m以下に設定した場合、精度が著しく低下します。

緯度	経度	半径(m)	備考
(+ボタンで追加: 10件まで)			

4 スケジュール
 設定を有効にする

ゾーン判定に使用するタイムゾーン:

(UTC) 協定世界時 ▼

曜日	開始時刻	終了時刻	
(+ボタンで追加: 10件まで)			

保存

項番	項目	説明
1	ゾーン名	ゾーンの名称を 1 文字から 30 文字で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 先頭が「S」で始まる名称は設定できません。
2	ネットワーク	ゾーンに設定するネットワークの SSID、MAC アドレスの設定を行います。ネットワークは、50 件まで登録できます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 設定を有効にする チェックを入れると、Zone Management で、以降で設定するネットワークが有効になります。  をクリックし、必要なネットワークを追加します。 ● SSID ネットワークの SSID を 32 文字以内の半角英数字、「-」、「_」、「@」で入力します。 ● MAC アドレス アクセスポイントの MAC アドレスを入力します。「XX:XX:XX:XX:XX:XX」(X は大文字の 16 進数) という形式で入力してください。 ● ステルス SSID ステルス を有効としたネットワークの場合は、チェックを入れます。 <input checked="" type="checkbox"/> SSID と MAC アドレスは重複しないものを入力してください。
3	位置情報	ゾーンに設定する位置の緯度と経度、エリアの範囲を指定します。位置情報は 10 件まで登録できます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 設定を有効にする チェックを入れると、Zone Management で、以降で設定する位置情報が有効になります。  をクリックし、必要な位置情報を追加します。 ● 緯度 -90 から 90 の範囲の値を入力します。 ● 経度 -180 から 180 の範囲の値を入力します。 ● 半径 (m) 1 から 20037500 の範囲の値を入力します。 ● 備考 備考が必要な場合は、30 文字以内で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 端末の位置情報の無線ネットワークと GPS が無効な場合、または管理サイトの時刻と端末時刻の間に大幅な差がある場合は、測位を行わず「ゾーン不明」となります。 「ゾーン不明」と判定された端末に特定のポリシーを適用できます。  「ゾーンポリシー構成」468 ページ <input checked="" type="checkbox"/> Android 端末の位置情報取得が「許可しない」の場合、位置情報を取得しません。 <input checked="" type="checkbox"/> 位置情報の測位間隔の詳細については、以下を参照してください。  「位置情報管理」378 ページ <input checked="" type="checkbox"/> Android 12 以上は、正確な位置情報を取得するために、端末の設定で「正確な位置情報を使用」を有効にしてください。

項番	項目	説明
4	スケジュール	<p>ゾーンに設定するスケジュールを登録します。スケジュールは 10 件まで登録できます。</p> <ul style="list-style-type: none">● 設定を有効にする チェックを入れると、Zone Management で以降で設定するスケジュールが有効になります。  をクリックし、必要なスケジュールを追加します。● ゾーン判定に使用するタイムゾーン タイムゾーンをリストボックスから選択します。● 曜日 スケジュール設定を有効にする曜日にチェックをいれます。● 開始時刻 開始時刻をリストボックスから選択して指定します。00:00 から 23:59 の間で指定します。● 終了時刻 終了時刻をリストボックスから選択して指定します。00:00 から 35:59 の間で指定します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 土曜日に日またがり で Zone Management を設定する場合は、xx:xx から 24:00 までの設定と、日曜日 0:00 から 35:59 までの設定の 2 つを実施すると、日またがり後の制御ができます。</p>

7.9.2 ポリシー

Android 端末と Windows 端末に適用する各機能の設定セットを選択し、ポリシー設定として保存します。
保存したポリシー設定をゾーン設定と組み合わせ、ゾーンポリシー構成の設定セットを作成します。

🔗 「ゾーン」 461 ページ

🔗 「ゾーンポリシー構成」 468 ページ

この設定は、Android と Windows で共有することができます。

✏️ [Android 設定] タブで設定する「リモートロック」は、Android 端末のみ対応しています。

✏️ ポリシー設定は、最大 50 件まで作成できます。

7.9.2.1 [管理] タブ

◆画面（新規作成）

表示操作 [設定] → [Android] → [Zone Management] → [ポリシー] → +

項番	項目	説明
1	ポリシー名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。

7.9.2.2 [Android 設定] タブ

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [Zone Management] → [ポリシー] → 一覧から対象を選択 → [Android 設定] タブ → [編集]



項番	項目	説明
1	設定	<p>ポリシーにおける Android の設定セットの使用設定を行います。各機能に設定する内容を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">●各機能の設定名 選択した設定セットを適用します。●(機器の設定に従う) ゾーンポリシー以外で設定されている設定が継承されます。●(所属組織に従う) 所属している組織の設定が適用されます。組織に所属していない場合は「(設定なし)」が適用されます。●(設定なし) 設定を変更しません。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合、端末の動作については、以下を参照してください。</p> <p> 「各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作」 844 ページ</p>

7.9.3 ゾーンポリシー構成

ゾーン設定とポリシー設定を組み合わせ、ゾーンポリシー構成の設定セットを作成します。ゾーンポリシー構成を端末に適用すると、さまざまな場所や時間、ネットワークでの端末の動作を管理できます。

この設定は、Android と Windows で共有することができます。

 事前にゾーンとポリシーを作成してください。

 「ゾーン」 461 ページ

 「ポリシー」 465 ページ

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [Zone Management] → [ゾーンポリシー構成] → 


新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 ゾーンポリシー構成

優先度	ゾーン	ポリシー
(+ボタンで追加: 1件まで)		
		

※どのゾーンでもない場合、機器の設定に従います。
機器の設定によりゾーン判定ができない場合、ゾーン不明となります。

3 ゾーン不明時

- 機器の設定に従う
- 直前の設定に従う
- ポリシーを設定する

(選択してください)

4 ゾーン変更通知

ユーザーにゾーン変更を通知する

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	ゾーンポリシー構成	<p>ゾーンに設定するゾーン優先度、ゾーン、ゾーンポリシーを登録します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ゾーン優先度 ゾーン優先度を入力します。 ●ゾーン ゾーンを選択します。  「ゾーン」 461 ページ ●ポリシー ゾーンのポリシーを選択します。  「ポリシー」 465 ページ
3	ゾーン不明時	<p>ゾーン不明と判定された場合に適用される設定を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●機器の設定に従う ●直前の設定に従う ●ポリシーを設定する この設定を選択した場合は、適用するポリシーをリストボックスから選択します。 <p> ゾーンで設定した項目ごとに以下の条件が当てはまる場合は、端末は「ゾーン判定不可」を検知して、管理サイトに「ゾーン不明」のステータスを送信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール 同期時にサーバーと端末の時刻が著しく異なる。 ・ネットワーク 機器設定により Wi-Fi が OFF に設定されている。 ・位置情報 「位置情報 OFF」に設定されている、または位置情報設定が「バッテリー節約」かつ「ネットワーク接続無し」に設定されている。 <p>ゾーンの設定については、以下を参照してください。  「ゾーン」 461 ページ</p>
4	ゾーン変更通知	<p>端末のゾーンが変更されたときに、端末上に通知を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none">  Android 端末では、通知領域、Windows 端末ではステータスバー上のバルーンに通知が表示されます。  スケジュールと位置情報によるゾーン設定によっては、大量の通知が発生する可能性があります。過度な情報通知により、ユーザーの利便性を下げってしまう可能性があるため慎重に設定してください。

7.10 Device Owner Mode

NFC キットティングを行うための設定セットや、Device Owner Mode 化されたエージェントに各種の設定や操作を行うための設定セットを作成します。

Device Owner Mode は、デバイス管理アプリに Device Owner Mode という特別な権限を持たせることで、より高度な設定を行える状態のことを指します。

本章の機能は、Device Owner Mode 化されたエージェントをインストールしている、以下の端末で利用することができます。

- KDDI Smart Mobile Safety Manager 9.5 以上でキットティングを行った端末（従来版エージェントをインストールした端末は除く）
- KDDI Smart Mobile Safety Manager 9.4 以下でキットティングを行い、すでに Device Owner Mode 化されている端末

 端末の導入の詳細については、以下を参照してください。

 『Android キットティングマニュアル』

 Android 6.0 以降の端末が対象です。対応機種については、以下を参照してください。

 『Android 対応端末表』

7.10.1 NFC キットティング（親機を設定）

NFC キットティングを行うための設定セットを作成します。

 本機能は、Android 6.0～9 の NFC 対応端末に対応しています。

 親機となる端末のエージェントが古いバージョンの場合、キットティングが失敗することがあります。事前に同期を行い、エージェントを最新のバージョンにしてください。

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [Device Owner Mode] → [NFC キットィング (親機を設定)] →

+

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 NFCキッティング設定

有効 無効

※設定を有効にした端末のエージェントのメニューに「NFCキッティング」の項目が表示されます。
 ※有効にした端末を親機とし、親機から「NFCキッティング」を選択し、初期化した子機に対してキッティングを行ってください。

※エージェント側の情報が古い場合、キッティングに失敗してしまう恐れがありますので、同期を行ってからキッティングを開始してください。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	NFC キットィング設定	<p>端末の NFC キットィング設定の有効／無効を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●有効 NFC キットィング設定を有効に設定します。有効にした端末は親機となり、親機から初期化した子機にキッティングできます。設定を有効にした端末のエージェントのメニューに「NFC キットィング」の項目が表示されます。 ●無効 NFC キットィング設定を無効に設定します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 有効にした端末を親機とし、親機から「NFC キットィング」を選択し、初期化した子機にキッティングを行ってください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> エージェント側の情報が古い場合、キッティングに失敗してしまう恐れがありますので、同期を行ってからキッティングを開始してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Android 8.0 以上で Device Owner Mode のキットィングを行う場合は、Android Enterprise 機能をご利用ください。</p>

7.10.2 セキュリティ設定 (DOM)

Device Owner Mode化されたエージェントに、各種項目の許可/禁止、制限を行うための設定セットを作成します。

🔗 各種項目の制限に関する制約事項は、以下を参照してください。

📖 『Android 対応端末表』

✍️ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

👉 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

👉 「全機器一括設定」 248 ページ

✍️ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [Device Owner Mode] → [セキュリティ設定] → +

新規作成

設定

設定 - 編集

設定名

Android Enterprise

項目	OS/バージョン	設定値
提供元不明アプリのインストール※1		<input type="radio"/> 許可 <input checked="" type="radio"/> 禁止
開発者向けオプション※1		<input type="radio"/> 許可 <input checked="" type="radio"/> 禁止
アプリ確認の強制※1		<input type="radio"/> 強制しない <input checked="" type="radio"/> 強制する

無線とネットワーク

項目	OS/バージョン	設定値
Wi-Fi設定の変更		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
Bluetooth	8以上	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
機内モード	9以上	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
プライベートDNS設定の変更	10以上	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
データ出力NFC利用		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
テザリング設定の変更※2		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
VPN設定の変更		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
モバイルネットワーク設定の変更		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
緊急警報設定の変更		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
ローミング	7以上	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止

端末

項目	OS/バージョン	設定値
明るさの設定の変更	9以上	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
壁紙の変更	7以上	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
画面消灯設定の変更	9以上	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
アンビエント表示	9以上	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
音響設定の変更		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
アプリの制御		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
物理外部メディアへのマウント		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
ユーザーアイコンの変更	7以上	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止

ユーザー設定

項目	OS/バージョン	設定値
位置情報設定の変更	9以上	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
認証情報設定の変更		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
アカウントの追加と削除		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
言語設定の変更	9以上	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
Googleのバックアップサービスの利用	8以上	<input type="radio"/> 許可 <input checked="" type="radio"/> 禁止
ネットワーク設定のリセット		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
ファクトリリセット		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止

システム

項目	OS/バージョン	設定値
日付、時刻、タイムゾーンの設定の変更	9以上	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
印刷	9以上	<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
イースターエッグ		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止

その他

項目	OS/バージョン	設定値
ステータスバーの操作と通知表示		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
USBファイル転送		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
スクリーンショットの撮影		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止
セーフモードの起動		<input checked="" type="radio"/> 許可 <input type="radio"/> 禁止

※1 Android Enterpriseに登録している企業の端末の場合、上記項目はデフォルトで禁止・強制が設定されています。それぞれの設定値を変更したい場合は、設定を作成して端末に適用してください。
 ※2 Android 9.x 以降では「禁止」が設定される際に、テザリングが有効になっていると、テザリングは自動的にオフになります。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	Android Enterprise	
	提供元不明アプリのインストール	公式の Google Play ストアなどで提供していない「提供元不明アプリ」のインストールを「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Google のポリシーに従い、デフォルトで「禁止」が設定されています
	開発者向けオプション	専門的な機能などが設定できる「開発者モード」への切り替えを「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Google のポリシーに従い、デフォルトで「禁止」が設定されています。
	アプリ確認の強制	端末にインストールされているアプリの検証を「強制する」または「強制しない」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Google のポリシーに従い、デフォルトで「強制する」が設定されています。
3	無線とネットワーク	
	Wi-Fi 設定の変更	Wi-Fi (無線 LAN) の設定の変更を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「禁止」を設定すると、Wi-Fi 機能が反映されません。詳細については、以下を参照してください。 📄 「Wi-Fi」 425 ページ <input checked="" type="checkbox"/> 「禁止」を設定すると、端末で Wi-Fi の設定が変更できないため、ネットワークに接続できなくなることがあります。その場合は、SIM を挿入して、モバイルネットワークで接続してください。
	Bluetooth	Bluetooth (近距離無線通信) の使用を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 8.0 以上の端末で、設定できます。 <input checked="" type="checkbox"/> 「禁止」を設定すると、端末で Bluetooth の機能が使用できなくなります。
	機内モード	通信機能をオフにする「機内モード」への切り替えを「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 9 以上の端末で、設定できます。
	プライベート DNS 設定の変更	モバイルネットワークで、任意の DNS (ホスト名やドメイン名などと IP アドレスの紐づけ) 設定の変更を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 10 以上の端末で、設定できます。
	データ出力 NFC 利用	端末をかざすだけで通信ができる Android Beam を使用して、データの出力を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 10 以上の端末は、Android Beam に対応していないため、本設定は無効になります。
	テザリング設定の変更	他の機器などにインターネット接続を共有できるテザリング設定の変更を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「禁止」を設定すると、テザリング設定を禁止できます。端末のテザリング設定がオンになっていた場合でも、自動的にオフになります。
	VPN 設定の変更	VPN (仮想専用通信網) 設定の変更を「許可」または「禁止」に設定します。
	モバイルネットワーク設定の変更	モバイルネットワーク (通信事業者と契約するデータ通信) 設定の変更を「許可」または「禁止」に設定します。

項番	項目	説明
	緊急警報設定の変更	災害などの緊急時に受信する緊急警報設定の変更を「許可」または「禁止」に設定します。
	ローミング	データローミングの使用を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 7.0 以上の端末で、設定できます。
4	端末	
	明るさの設定の変更	画面の明るさの変更を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 9 以上の端末で、設定できます。
	壁紙の変更	壁紙（ホーム画面やロック画面の背景）の変更を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 7.0 以上の端末で、設定できます。
	画面消灯設定の変更	画面を消灯するときの設定の変更を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 9 以上の端末で、設定できます。
	アンビエント表示	スリープ画面に時計などの表示を行うアンビエント表示を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 9 以上の端末で、設定できます。
	音量設定の変更	音量の設定の変更を「許可」または「禁止」に設定します。
	アプリの制御	インストール済みのアプリの制御を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「禁止」を設定すると、端末の [設定] → [アプリ情報] で以下の項目が制御されます。端末により、項目名や階層が異なります。 <ul style="list-style-type: none"> ・無効 ・アンインストール ・強制終了 ・ストレージを消去 ・キャッシュを削除 ・デフォルトで開く
	物理外部メディアへのマウント	端末への物理外部メディア（SD カードや USB メモリなど）のマウントを制限します。 「禁止」にすると、端末上でマウント操作が行えなくなりますが、すでにマウントされている場合は、アンマウントされるまではマウントされたままになります。（手動でアンマウント操作、端末再起動など） <input checked="" type="checkbox"/> 制限されるのは端末のマウント機能が対象になります。
	ユーザーアイコンの変更	マルチユーザー機能でユーザーが使用しているアイコンの変更を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 7.0 以上の端末で、設定できます。 <input checked="" type="checkbox"/> Device Owner Mode が有効の場合、マルチユーザー機能は無効になるため、所有者ユーザーのアイコンが対象になります。
5	ユーザー設定	
	位置情報設定の変更	位置情報設定の変更を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 9 以上の端末で、設定できます。
	認証情報設定の変更	証明書などの「認証情報」に関する設定の変更を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> 設定に関わらず、証明書管理で証明書を配信することはできません。詳細については、以下を参照してください。  「証明書管理」 452 ページ

項番	項目	説明
	アカウントの追加と削除	Google アカウントや Exchange などのアカウントの追加および削除を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用するアプリの動作に必要なアカウント情報を端末に登録してから、「禁止」に設定してください。
	言語設定の変更	言語設定の変更を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 9 以上の端末で、設定できます。
	Google のバックアップサービスの利用	端末で管理しているコンテンツや設定など、Google アカウントにバックアップするかを「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> 初期値は OS 仕様のため、「禁止」が選択されています。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 8.0 以上の端末で、設定できます。
	ネットワーク設定のリセット	ネットワーク設定のリセットを「許可」または「禁止」に設定します。
	ファクトリーリセット	端末の初期化を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> 本設定を「禁止」にしても、以下の機能で初期化することができます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ リモートワイブ  「(操作 - Android) リモートワイブ」 152 ページ ・ 画面ロック 「ロック解除失敗時の設定」 - 「○回失敗でワイブ」  「画面ロック」 372 ページ
6	システム	
	日付、時刻、タイムゾーンの設定の変更	日付、時刻、タイムゾーンの設定の変更を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 9 以上の端末で、設定できます。
	印刷	端末からの印刷を「許可」または「禁止」に設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 9 以上の端末で、設定できます。
	イースターエッグ	Android の隠し機能である「イースターエッグ」の表示を「許可」または「禁止」に設定します。
7	その他	
	ステータスバーの操作と通知表示	ステータスバーの利用を「許可」または「禁止」に設定します。 「禁止」にすると、ステータスバーで Wi-Fi や Bluetooth などの設定変更や通知領域の操作を防げます。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 7.0 以上の場合は、「禁止」に設定しても端末によっては、スクリーンロック画面に通知が表示されたときに通知領域の操作ができます。この現象は端末の仕様に依存するため、あらかじめご了承ください。 <input checked="" type="checkbox"/> 「禁止」に設定すると、通知領域の通知も表示されなくなります。これにより、通知受信時の着信音やバイブレーションも動作しません。
	USB ファイル転送	端末を PC に接続したときに、「MTP」モードおよび「PTP」モードの利用を制限します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「禁止」に設定すると、USB を接続したときの通知などに表示される接続種別から、「MTP」モードおよび「PTP」モードが表示されません。 <input checked="" type="checkbox"/> Android 7.1 以上の端末では、「禁止」に設定すると、USB フラッシュメモリのマウントも禁止されます。
	スクリーンショットの撮影	スクリーンショット(スマートフォンの画面の画像)の撮影を「許可」または「禁止」に設定します。
	セーフモードの起動	不具合などが発生したときに、解析や復旧などで利用する「セーフモード」での起動を「許可」または「禁止」に設定します。

7.10.3 アプリケーション非表示

Device Owner Mode 化されたエージェントに設定されたアプリが、Android 端末で非表示となる設定セットを作成します。

 画面（新規作成）

 画面（編集）

-  本機能は、バージョンが 9.5.111.0 以上の Android エージェントで利用できます。
-  本設定セットを割り当てると、すでに Android 端末へ対象のアプリがインストールされていても、非表示（アンインストールされるわけではない）になります。
-  設定するアプリにより OS の動作に支障をきたす（エージェント停止、OS 強制再起動を繰り返す、Android Recovery 画面になるなど）場合があります。システムアプリをアプリケーション非表示にするときは、慎重に設定してください。システムアプリを禁止した場合、どのような挙動になるかについては、ご利用の端末や OS に依存するため、弊社ではご案内はできかねます。
-  Android Enterprise のアプリケーション配信で、管理者がサイレントインストールに設定したアプリを非表示アプリとして設定すると、インストールが繰り返し発生しインストールするたびに通信料がかかります。ご了承ください。

Android Enterprise のアプリケーション配信およびサイレントインストールの詳細については、以下を参照してください。

 「Android Enterprise」409 ページ

 『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』の「アプリをインストールする」－「アプリを強制インストールする」、「オリジナルアプリをインストールする」、「ウェブアプリ（ショートカット）をインストールする」、「アプリ構成を利用してアプリをインストールする」－「アプリケーション配信設定を作成する」

-  KDDI Smart Mobile Safety Manager 9.8 以上では、本機能で Google Chrome を制限することはできません。Google Chrome を制限する場合は、アプリケーション禁止をご利用ください。

 「アプリケーション禁止」395 ページ

-  KDDI Smart Mobile Safety Manager 9.7 以下で Google Chrome を設定していた場合は、引き続き使用できますが、編集を行うと使用できなくなります。OS の動作に支障をきたすため、新規の端末に本機能を割り当てないでください。

 本機能を設定した場合、端末の挙動は以下のとおりです。

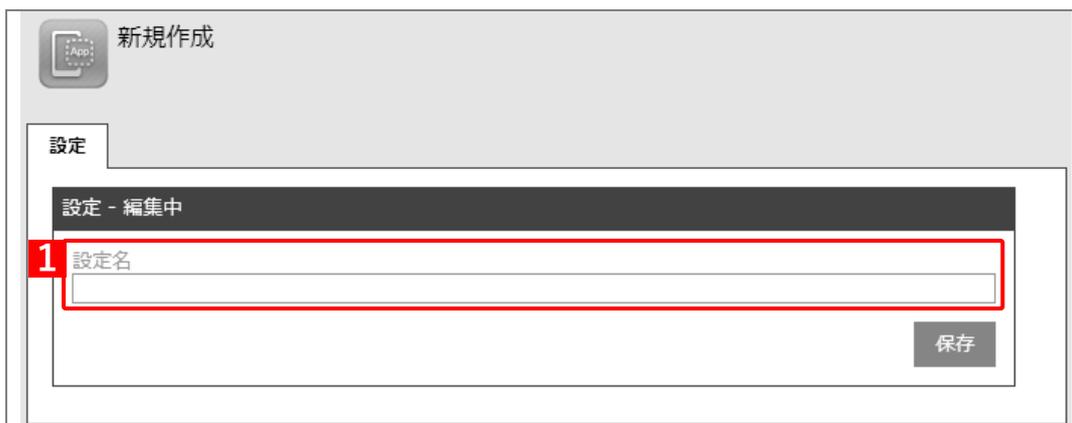
- ホームとアプリ一覧での表示：表示されない
端末の [設定] → [アプリ] では、アプリ一覧が表示されます。
- アプリ画面の表示：停止
- バックグラウンドの挙動：停止
アプリケーション禁止を設定した場合は、以下を参照してください。

 「アプリケーション禁止」395 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面（新規作成）

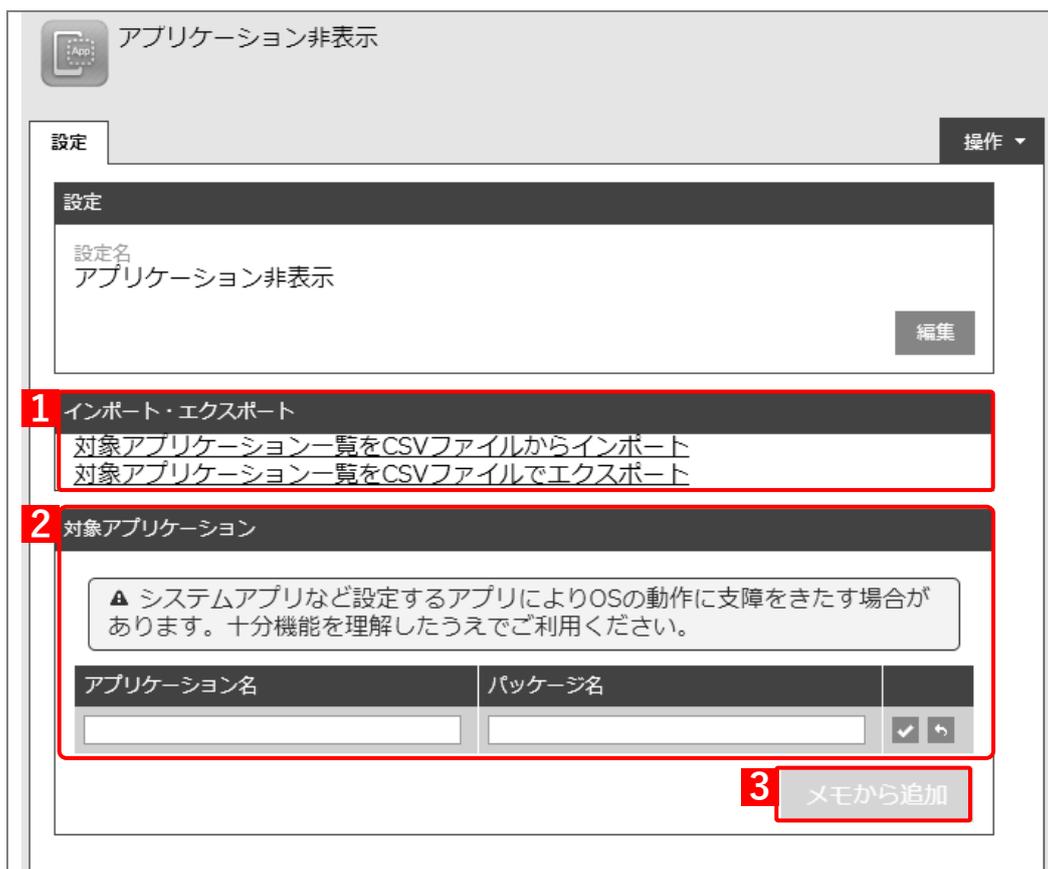
表示操作 [設定] → [Android] → [Device Owner Mode] → [アプリケーション非表示] → **+**



項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。

◆画面（編集）

表示操作 [設定] → [Android] → [Device Owner Mode] → [アプリケーション非表示] → 一覧から対象を選択



項番	項目	説明
1	インポート・エクスポート	<p>CSV ファイルから非表示対象のアプリの登録をまとめて行います。また、現在対象になっているアプリの一覧を CSV ファイルに保存できます。操作手順については、以下を参照してください。</p> <p> 「CSV ファイルの共通操作」 67 ページ</p> <p> このメニューは、設定セットを作成したあとに表示されます。</p> <p>●対象アプリケーション一覧を CSV ファイルからインポート クリックすると、CSV ファイルの準備とアップロードをする画面が表示されます。</p> <p>対象アプリケーション一覧を CSV ファイルでエクスポート クリックすると現在の対象アプリケーションの一覧を update_values.csv に保存します。ファイルの保存はメッセージにしたがって操作してください。</p>
2	対象アプリケーション	<p>アプリ名とパッケージ名を指定して、対象アプリを登録します。</p> <p> (追加)、 (削除)、 (編集)、 (保存)、 (取り消し) を使って操作します。</p> <p> この項目は、設定を作成したあとに表示されます。</p> <p>●アプリケーション名 アプリ名を入力します。機器が登録されている場合は、入力された文字を機器に登録されているすべてのアプリの中から関連するアプリを表示します。</p> <p>●パッケージ名 アプリのパッケージ名を入力します。</p> <p> パッケージ名は機器のアプリ詳細画面で確認できます。</p> <p> 「(情報 - Android) アプリケーション」 179 ページ</p>
3	[メモから追加]	<p>クリックすると、機器の一覧のアプリ一覧の「メモ」に  が表示されているアプリが「アプリ一覧」に表示されます。</p> <p> 機器の一覧のアプリ一覧の「メモ」の詳細については、以下を参照してください。</p> <p> 「(情報 - Android) アプリケーション」 179 ページ</p>

7.10.4 OS アップデート (DOM)

Device Owner Mode 化されたエージェントの端末で、OS をアップデートする契機やアップデートを促すメッセージを表示するための設定セットを作成します。

- ☑ 端末のエージェントは、事前に Device Owner Mode 化してください。
- ☑ 端末がネットワークに接続されていないと OS をアップデートできません。また、以下の端末では、OS をアップデートできない場合があります。
 - ディスク容量が不足している。
 - バッテリー残量が少ない。
- ☑ 本設定で、OS のアップデートを停止することはできません。
- ☑ 端末のエージェントバージョンが古い場合は、[強制的にアップデート]、または [指定した時間内にアップデート] を選択しても、OS のアップデートが行われない場合があります。本設定を使用する前に端末のエージェントを最新の状態にしてください。
- ✍ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 - 📄 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ
 - 📄 「全機器一括設定」 248 ページ
- ✍ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Android] → [Device Owner Mode] → [OS アップデート] → 

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 更新オプション

任意

30日間経過した場合アップデートを促す

強制

強制的にアップデート

指定した時間内にアップデート

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	更新オプション	<p>OS アップデートの契機を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">● 30 日間経過した場合アップデートを促す OS のアップデートが可能になってから 30 日後、端末にインストールを促すメッセージを表示します。メッセージに従い、OS をインストールします。<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> OS のインストールを拒否することができますが、翌日に再度メッセージが表示されます。● 強制的にアップデート アップデートが可能になった OS を強制的にインストールします。<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 端末の操作中でもインストールが開始され、停止することはできません。<input checked="" type="checkbox"/> 手動で OS をアップデートすることができません。● 指定した時間内にアップデート 選択すると、開始時間と終了時間が入力できます。指定した時間に、アップデートが可能になっている OS を強制的にインストールします。<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> 指定した時間に端末の電源が入っていない場合は、インストールされません。<input checked="" type="checkbox"/> 手動で OS をアップデートすることができません。

7.10.5 ファクトリーリセット保護 (DOM)

ファクトリーリセット保護に関する設定セットを作成します。

ファクトリーリセット保護とは、Android 端末を初期化したとき、Google アカウントの認証が必要になることで、キッキングが完了できないようにする機能です。Android 端末の盗難防止になります。

🔒 画面（新規作成：[無効] を選択した場合）

🔒 画面（新規作成：[有効（端末に登録済みの Google アカウントを使用する）] を選択した場合）

🔒 画面（新規作成：[有効（Google アカウントを指定する）] を選択した場合）

🔒 Android 端末の設定、またはエージェントアプリの [端末初期化] から手動で初期化を実行した場合、本機能は使用できません。キッキング時に Google アカウントの認証が不要になります。

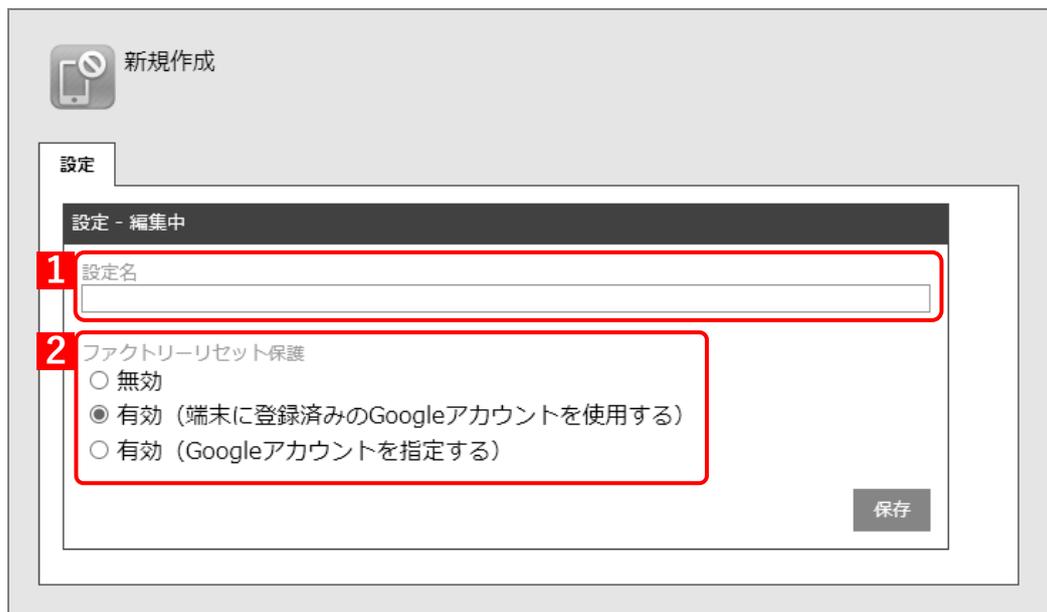
◆画面（新規作成：[無効] を選択した場合）

表示操作 [設定] → [Android] → [Device Owner Mode] → [ファクトリーリセット保護] → **+** → [無効]

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	ファクトリーリセット保護	[無効] を選択した場合は、Android 端末を初期化したとき、Google アカウントを認証する必要がなく、キッキングが完了できます。

◆画面（新規作成：[有効（端末に登録済みの Google アカウントを使用する）] を選択した場合）

表示操作 [設定] → [Android] → [Device Owner Mode] → [ファクトリーリセット保護] → **+** → [有効（端末に登録済みの Google アカウントを使用する）]



項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	ファクトリーリセット保護	<p>[有効（端末に登録済みの Google アカウントを使用する）] を選択した場合は、Android 端末を初期化したとき、端末に登録済みの Google アカウントを認証することで、キッティングが完了できます。</p> <p> 新規に登録した Google アカウントは、72 時間本機能を使用できません。</p>

◆画面（新規作成：[有効（Google アカウントを指定する）] を選択した場合）

表示操作 [設定] → [Android] → [Device Owner Mode] → [ファクトリーリセット保護] → **+** → [有効（Google アカウントを指定する）]



項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	ファクトリーリセット保護	<p>[有効（Google アカウントを指定する）] を選択した場合は、Android 端末を初期化したとき、指定した Google アカウントを認証しないと、キッティングが完了できません。</p> <p>(A) + をクリックすると、Google アカウントの選択画面またはログイン画面が表示されます。画面の指示に従い、Google アカウントを選択またはログインすると、「Google アカウントのメールアドレス」と「Google アカウントID」が自動で表示されます。Google アカウントは、10 件まで登録できます。</p> <p>☑ Android 端末の設定アプリを使用して手動で初期化を実行した場合、本機能は使用できず、セットアップ時にスキップされます。</p> <p>☑ 新規に登録した Google アカウントは、72 時間本機能を使用できません。</p>

7.11 ゼロタッチ登録

ゼロタッチ登録に必要な、管理サイトとゼロタッチサーバーを紐づけるための設定や、Google API 認証後の端末の一覧を表示します。

ゼロタッチ登録は、Android エージェントのキッティング手法の 1 つです。キッティング手順が省略化されるため、大規模な端末の導入を効率的に行うことができます。また、ゼロタッチ登録端末には、エージェントが自動的に Device Owner Mode としてインストールされるため、より安全な端末管理が可能です。

管理サイトでは、ゼロタッチサーバーとの連携設定を行います。

 モバイルネットワークが利用できるゼロタッチ登録に対応した端末を、事前に用意してください。Wi-Fi 専用端末は、本製品に対応していません。

 端末の導入の詳細については、以下を参照してください。

 『Android キッティングマニュアル』

 ゼロタッチ登録の詳細については、以下を参照してください。

 https://www.android.com/intl/ja_jp/enterprise/management/zero-touch/

7.11.1 利用登録

管理サイトとゼロタッチサーバーを紐づけるために必要な情報を登録します。

 画面

 画面 (登録後)

詳細については、以下を参照してください。

 『Android キッティングマニュアル』の「Google アカウントでゼロタッチ登録を利用して Android Enterprise 連携を行う」

 『Android キッティングマニュアル』の「Google Workspace でゼロタッチ登録を利用して Android Enterprise 連携を行う」

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [ゼロタッチ登録] → [利用登録]

1. Googleアカウントと会社・組織用メールアドレスを関連付ける

会社・組織用のメールアドレスをGoogleアカウントとして利用できるよう、関連付けを行います。
以下のリンクより、登録を行ってください。

[Googleアカウント登録](#)

※ 管理対象端末全台分を行う必要はありません。管理用のメールアドレスを1つ用意し、関連付けを行ってください。
※ Google Workspaceアカウントをご利用、もしくは既に関連付けを行っている場合は不要です。

2. ゼロタッチポータルにログインできるようにする

ゼロタッチ対応端末の購入元から、ゼロタッチポータルログイン情報を入手し、1.で作成したメールアドレスでログインできるようにしてください。
詳細な手順は端末購入元にご確認ください。

3. ゼロタッチポータルにログインし、利用規約に同意する

以下のリンクよりゼロタッチポータルにログインし、利用規約に同意してください。

[ゼロタッチポータル](#)

4. API設定及びJSONファイルのダウンロードを行う

以下のリンクからGoogle APIsにアクセスし、Android Device Provisioning Partner APIの登録を行います。

[Android Device Provisioning Partner APIの登録](#)

登録後、JSONファイルをダウンロードします。
詳細な手順は以下のマニュアルをご覧ください。

* [Androidキッティングマニュアル](#)

5. JSONファイルをアップロードする

4.でダウンロードしたJSONファイルをアップロードします。

JSONファイル選択

選択されていません

JSONファイルを作成する際にポータルにログインしたアカウントのメールアドレスをお忘れにならないよう、以下のGoogleアカウントメールアドレス欄に入力してください。

Googleアカウントメールアドレス

項番	項目	説明
1	Google アカウントと会社・組織用メールアドレスを関連付ける	会社または組織用のメールアドレスを Google アカウントとして利用できるようにします。
2	ゼロタッチポータルにログインできるようにする	ゼロタッチ対応端末の購入元から、ゼロタッチポータルログイン情報を入手し、登録したメールアドレスでログインできるようにします。 ☑️詳細については、端末の購入元にお問い合わせください。
3	ゼロタッチポータルにログインし、利用規約に同意する	ゼロタッチポータルの利用規約に同意します。
4	API 設定及び JSON ファイルのダウンロードを行う	Android Device Provisioning Partner API の登録を行い、JSON ファイルをダウンロードします。
5	JSON ファイルをアップロードする	Google APIs でダウンロードした JSON ファイルを管理サイトにアップロードします。

◆画面（登録後）

表示操作 [設定] → [Android] → [ゼロタッチ登録] → [利用登録]

項番	項目	説明
1	Google アカウント メールアドレス	Google アカウントとして登録したメールアドレスが表示されます。
2	状態	ゼロタッチ端末の使用状態が表示されます。
3	[アカウント削除]	クリックすると、Google アカウントメールアドレスを削除します。
4	カスタマー名	ゼロタッチポータルで設定されているカスタマー名が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 変更することはできません。
5	サポートのメールア ドレス	ゼロタッチポータルで設定されているサポートのメールアドレスが表示されま す。
6	サポートの電話番号	ゼロタッチポータルで設定されているサポートの電話番号が表示されます。
7	カスタムメッセージ	ゼロタッチポータルで設定されているカスタムメッセージが表示されます。
8	[編集]	クリックすると、サポートのメールアドレス、サポートの電話番号、カスタムメッ セージを変更できます。

7.11.2 機器一覧

Google API 認証が完了したゼロタッチ端末を一覧表示します。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [ゼロタッチ登録] → [機器一覧]

IMEI / シリアル番号	ユーザー名	メーカー	ゼロタッチ登録設定更新日時	ゼロタッチ登録サーバ同期日時
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	2018/10/18 11:32	2018/10/18 11:32
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	2018/10/18 11:32	2018/10/18 11:32
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	2018/10/18 11:32	2018/10/18 11:32
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	2018/10/18 11:32	2018/10/18 11:32
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	2018/10/18 11:31	2018/10/18 11:31
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	2018/10/18 11:31	2018/10/18 11:31
XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	XXXXXXXXXX	2018/10/18 11:31	2018/10/18 11:31

項番	項目	説明
1	[ゼロタッチ登録サーバ同期]	<p>クリックして同期を行うと、Google API 認証設定済みの企業のゼロタッチ端末が一覧に表示されます。</p> <p> Wi-Fi 専用端末は、本製品に対応していないため、同期ができない旨のメッセージが表示されます。必ずモバイルネットワークが利用できるゼロタッチ登録に対応した端末を、事前に用意してください。</p>
2	ゼロタッチ端末一覧	<p>ゼロタッチ端末の一覧が表示されます。</p> <p> (A) 「IMEI/シリアル番号」をクリックすると、機器画面の機器一覧が表示されます。</p> <p> ゼロタッチ機器一覧で表示されたゼロタッチ端末は、機器画面の機器一覧で、認証待ち機器として表示されます。</p> <p> 「機器一覧」 79 ページ</p> <p> ゼロタッチ機器一覧では、機器の削除はできないので、機器画面の機器一覧から削除してください。機器画面の機器一覧で削除したら、ゼロタッチ機器一覧からも削除されます。</p> <p> 「機器の個別削除」 110 ページ</p> <p> 機器画面からゼロタッチ端末の新規作成は行わないでください。</p>

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
<p>▲ Google API 認証設定がありません。ゼロタッチ利用登録で設定する必要があります。</p>	<p>[設定] → [Android] → [ゼロタッチ登録] → [利用登録] にて設定がない状態で、[設定] → [Android] → [ゼロタッチ登録] → [機器一覧] に遷移している。</p>	<p>[設定] → [Android] → [ゼロタッチ登録] → [利用登録] で設定を作成してください。</p>
<p>▲ 現在 Google API との連携が取れません。ゼロタッチ利用登録で状態を確認してください。</p>	<p>Google Cloud Platform 上で API エラーなど何らかの問題が発生している状態でゼロタッチの機器一覧を表示している。</p>	<p>[設定] → [Android] → [ゼロタッチ登録] → [利用登録] にて Google Cloud Platform のエラー内容から該当の設定を見直してください。</p>
<p>▲ 他のユーザーによって同期処理を実行中です。しばらくお待ちください。</p>	<p>管理サイトに複数ユーザーでログインまたは同一ユーザーで複数タブを開き、複数画面で同時に [ゼロタッチ登録サーバ同期] をクリックしている。</p>	<p>複数画面で同時に [ゼロタッチ登録サーバ同期] をクリックしないでください。</p>

7.12 Samsung Knox

Samsung Knox は、Samsung 製の Knox Mobile Enrollment (KME) に対応した端末に、Android エージェントをキットングする手法です。KME 端末に Android エージェントをキットングするための必要な手順が省略化され、大規模な端末導入でも、簡単に、すばやく導入することができます。また、KME 端末と Knox サーバーを連携することにより、Android エージェントが Device Owner Mode として自動でインストールされるため、強力な端末管理ができます。

☑ 端末の導入の詳細については、以下を参照してください。

 『Android キットングマニュアル』

☑ Knox Mobile Enrollment (KME) の詳細については、以下の Web サイトを参照してください。

 <https://www.galaxymobile.jp/business/knox/>

☑ 通信事業者から、Samsung 製の KME に対応した端末を購入してください。

☑ Galaxy アカウントを取得して、KME 申請処理を通信事業者に依頼してください。詳細については以下を参照してください。

 『Knox Mobile Enrollment (KME) の運用フロー』

7.12.1 利用登録

通信事業者で KME 申請処理が完了したら、Galaxy アカウントを会社用メールアドレスに紐づけ、JSON ファイルの作成と認証を行います。

 画面 (Knox 認証情報登録前)

 画面 (Knox 認証情報登録後)

 画面 (Knox プロファイル情報登録後)

詳細については、以下を参照してください。

 『Android キットングマニュアル』の「Knox Mobile Enrollment (KME) を利用する場合」

◆画面 (Knox 認証情報登録前)

表示操作 [設定] → [Android] → [Samsung Knox] → [利用登録]

1 1. Knox運用事前準備

会社・組織用のメールアドレスをGalaxyアカウントとして利用できるよう、関連付けを行います。
以下のマニュアルを参考にして、Knox運用事前準備を行ってください。

※Androidキッティングマニュアル

※ 管理対象端末全台分を行う必要はありません。管理用のメールアドレスを1つ用意し、関連付けを行ってください。

※ Knoxポータルをご利用、もしくは既に関連付けを行っている場合は不要です。

2 2. JSONファイル / KnoxカスタマーID / クライアント識別子 / メールアドレスの入力

取得したJSONファイル / KnoxカスタマーID / クライアント識別子 を以下の項目に入力してください。

JSONファイル
 選択されていません

KnoxカスタマーID

クライアント識別子

Galaxyアカウントの取得で使用したメールアドレスを入力してください。

メールアドレス

項番	項目	説明
1	Knox 運用事前準備	Knox API ポータルで会社または組織用のメールアドレスを Galaxy アカウントとして利用できるようにします。 『Android キッティングマニュアル』の「Knox Mobile Enrollment (KME) を利用する場合」
2	JSON ファイル/Knox カスタマーID/クライアント識別子/メールアドレスの入力	以下の項目をアップロードまたは入力します。 <ul style="list-style-type: none"> ●JSON ファイル [ファイルを選択] から、Knox API ポータルでダウンロードしたJSON ファイルを選択します。 ●Knox カスタマーID Knox API ポータルで設定されている Knox カスタマーID を入力します。 ●クライアント識別子 Knox API ポータルで設定されているクライアント識別子を入力します。 ●メールアドレス Galaxy アカウントとして登録した会社または組織用のメールアドレスを入力します。

◆画面 (Knox 認証情報登録後)

表示操作 [設定] → [Android] → [Samsung Knox] → [利用登録]

Knox認証情報

1 JSONファイル
※アップロード済み

2 KnoxカスタマーID

3 クライアント識別子

4 メールアドレス

5 編集

6 削除

Knoxプロファイル情報

▲ Knox機能を使用する場合は必須です。

7 状態
未登録

8 新規作成

項番	項目	説明
1	JSON ファイル	JSON ファイルのアップロード状態が表示されます。
2	Knox カスタマーID	Knox API ポータルで設定されている Knox カスタマーID が表示されます。
3	クライアント識別子	Knox API ポータルで設定されているクライアント識別子が表示されます。
4	メールアドレス	Galaxy アカウントとして登録したメールアドレスが表示されます。
5	[編集]	クリックすると、JSON ファイル、Knox カスタマーID、クライアント識別子、メールアドレスを変更できます。
6	[削除]	クリックすると、JSON ファイル、Knox カスタマーID、クライアント識別子、メールアドレスを削除します。
7	状態	KME 端末の使用状態が表示されます。
8	[新規作成]	クリックすると、編集画面が表示されます。サポート企業名、サポートメールアドレス、サポート電話番号を入力します。

◆画面 (Knox プロファイル情報登録後)

表示操作 [設定] → [Android] → [Samsung Knox] → [利用登録]

☑ 以下の画面が表示されたら、Samsung Knox 機能が使用できます。

The screenshot displays two sections of the Knox registration interface:

- Knox認証情報 (Knox Authentication Information):**
 - JSONファイル ※アップロード済み
 - KnoxカスタマーID
 - クライアント識別子
 - メールアドレス
 - Buttons: 編集 (Edit), 削除 (Delete)
- Knoxプロファイル情報 (Knox Profile Information):**
 - 1 サポート企業名 (Support Company Name)
 - 2 サポートメールアドレス (Support Email Address)
 - 3 サポート電話番号 (Support Phone Number)
 - Buttons: 4 編集 (Edit), 5 削除 (Delete)

項番	項目	説明
1	サポート企業名	サポート企業名が表示されます。
2	サポートメールアドレス	サポートメールアドレスが表示されます。
3	サポート電話番号	サポート電話番号が表示されます。
4	[編集]	クリックすると、サポート企業名、サポートメールアドレス、サポート電話番号を変更できます。
5	[削除]	クリックすると、サポート企業名、サポートメールアドレス、サポート電話番号を削除します。

7.12.2 機器一覧

Knox 認証設定済みの企業は、同期を行うと、KME 端末一覧に表示されます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [Samsung Knox] → [機器一覧]

IMEI	ユーザー名	Knoxサーバ登録設定更新日時	Knoxサーバ同期日時
	(A)	2020/03/26 19:14	2020/03/26 19:14
		2020/03/26 19:14	2020/03/26 19:14
		2020/03/26 19:14	2020/03/26 19:14

項番	項目	説明
1	[Knox 登録サーバ同期]	クリックして同期を行うと、Knox 認証設定済み企業の KME 端末が一覧に表示されます。
2	KME 端末一覧	<p>KME 端末の一覧が表示されます。</p> <p> (A) 「IMEI」をクリックすると、機器画面の機器一覧が表示されます。</p> <p> KME 端末一覧で表示された KME 端末は、機器画面の機器一覧で、認証待ち機器として表示されます。</p> <p> 「機器一覧」 79 ページ</p> <p> KME 端末一覧では、機器の削除はできないので、機器画面の機器一覧から削除してください。機器画面の機器一覧で削除したら、KME 端末一覧からも削除されます。</p> <p> 「機器の個別削除」 110 ページ</p> <p> KME 端末は、機器画面の新規作成から登録しないでください。</p>

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
<p> 機器ライセンスを超えたため同期処理を中断しました。同期が完了していない機器が存在します。</p>	<p>[設定]→[Android]→[Samsung Knox] → [機器一覧] で、[Knoxサーバ同期] をクリックしたとき、Android 機器ライセンスの不足によりライセンス認証待ち機器の追加に失敗している。</p>	<p>Android 機器ライセンスを購入し、登録上限を増やしてください。</p>

8 設定 – iOS

この章では、サブヘッダーメニューの [iOS] 画面に表示される、各種の設定について説明します。

注意

- 事前に Apple Push 証明書を登録してください。

 『Apple Push 証明書登録・更新手順 管理者マニュアル』

8.1 管理アプリの通信と動作

管理サイトに登録されているすべての iOS 端末に、共通する操作（エージェント共通管理、MDM 構成プロファイル共通管理、VPN 共通管理、端末名称変更）を適用します。

各項目の詳細については、以下の画面を参照してください。

-  画面（エージェント共通管理）
-  画面（MDM 構成プロファイル共通管理）
-  画面（VPN 共通管理）
-  画面（端末名称変更）

 設定を保存した時点ですべての iOS 端末に適用されます。ただし、設定が端末に反映されるまでの時間は、サーバーや端末の通信状態に依存します。

 サーバーとの通信間隔や端末の通信状態などにより、バッテリー消費に影響があります。

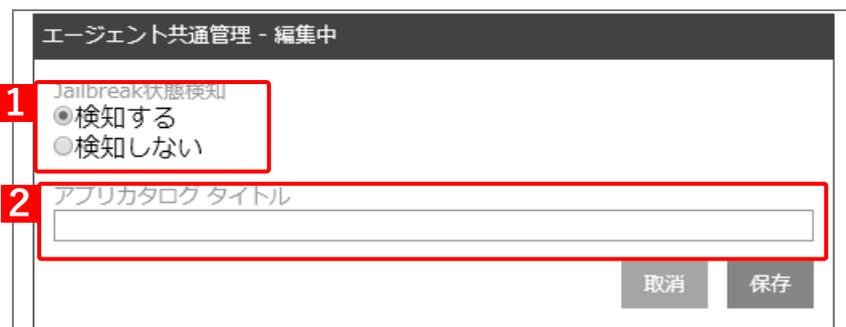
◆画面（エージェント共通管理）

「Jailbreak 状態検知」と「アプリカタログ タイトル」の設定を行います。

Jailbreak 状態検知は、Jailbreak された iOS 端末を検知する機能です。検知した場合はログに出力されます。

また、状態の確認は詳細画面の「情報」に表示される [デバイス] で行うことができます。

表示操作 [設定] → [iOS] → [管理アプリの通信と動作] → 「エージェント共通管理」の [編集]



項番	項目	説明
1	Jailbreak 状態検知	Jailbreak 状態検知を行うかを指定します。 ● 「検知する」、「検知しない」
2	アプリカタログ タイトル	アプリカタログ タイトルを 1 文字から 30 文字以内で入力します。「アプリカタログ」が iOS 端末で表示されるときに、アプリカタログ上部に表示されるアプリのタイトルを設定します。

◆画面 (MDM 構成プロファイル共通管理)

アクティベーションロックの設定を編集します。アクティベーションロックは、Apple が提供している iPhone の盗難予防機能です。アクティベーションロックを有効にするには、Apple ID とパスワードが必要です。有効化したあと、端末が紛失、盗難にあった場合でも、第三者は設定時の Apple ID とパスワードがわからなければ端末の再アクティベーションはできません。この機能で端末紛失時・盗難時の悪用、情報漏えいを防げます。また、セキュリティが確保されることで端末を取り戻せる可能性が高くなります。

アクティベーションロックは、iOS 端末の [iPhone を探す] の設定と合わせて行ってください。

● アクティベーションロックを無効から有効にする場合

- ・ iOS 端末で [iPhone を探す] をオンにします。
- ・ 本機能で [許可する] に設定した設定セットを iOS 端末に反映します。

● アクティベーションロックを有効から無効にする場合

- ・ iOS 端末で [iPhone を探す] をオフにします。

❗ 本機能で [許可しない] に設定した設定セットを iOS 端末に反映しても、アクティベーションロックは有効から無効になりません。

❗ アクティベーションロックを有効にするには、Apple ID とパスワードが必要です。

❗ 有効化したあと、端末が紛失、盗難にあった場合でも、第三者は設定時の Apple ID とパスワードがわからなければ、端末の再アクティベーションはできません。

❗ 監視対象ではない端末で「iPhone を探す」の設定を ON にすると、アクティベーションロックは自動的に有効化されます。その場合、管理サイトからの解除はできません。

アクティベーションロックの解除は、以下を参照してください。

📖 「[その他▼] タブ/Mac OS リモート操作」264 ページ

表示操作 [設定] → [iOS] → [管理アプリの通信と動作] → 「MDM 構成プロファイル共通管理」の [編集]



項番	項目	説明
1	アクティベーションロック	アクティベーションロックの有効化を許可するかを指定します。 ● 許可する アクティベーションロックの有効化を許可します。 ● 許可しない アクティベーションロックの有効化を許可しません。

◆画面 (VPN 共通管理)

VPN 接続の「カスタム SSL」で使用されるキーを追加、編集します。

表示操作 [設定] → [iOS] → [管理アプリの通信と動作] → 「VPN 共通管理」の [編集]



項番	項目	説明
1	VPN カスタムキー	VPN のカスタムキーを記入してください。 [X] をクリックすると、入力欄が削除されます。 [+] をクリックすると、入力欄が追加されます。 100 件まで登録できます。

◆画面（端末名称変更）

端末名と [機器] → [一覧] の「機器名」に表示される名称が異なる場合に、端末名を「機器名」に表示される名称に合わせて変更します。

管理画面と端末の名称が同じになるため、管理がしやすくなります。

- ✔ 端末名は、iOS 端末の「設定」アプリ → [一般] → [情報] → 「名前」で確認してください。
- ✔ 特定の端末のみ名称を変更することはできません。
- ✔ 変更した端末名は元に戻せないため、管理上元の端末名が必要な場合は、事前に元の端末名を控えておいてください。CSV をダウンロードして保存することをおすすめします。

🔗 「CSV をダウンロード」 289 ページ

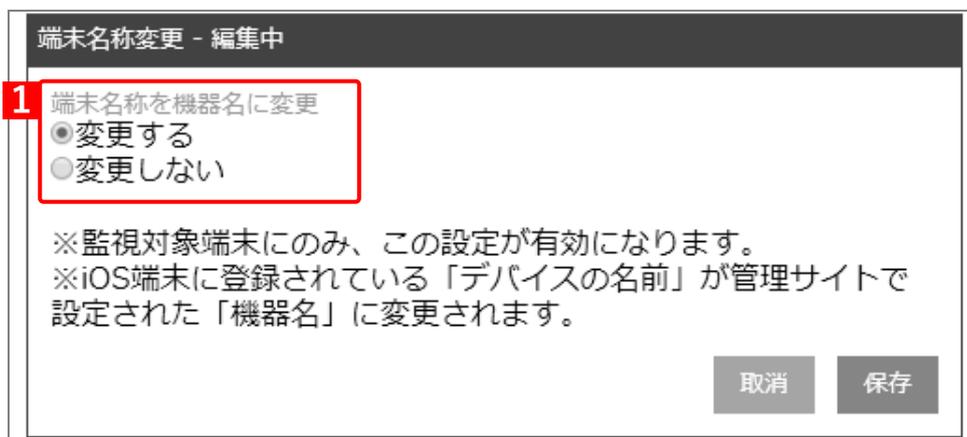
- ✔ テンプレートとして登録したい各機能の設定セットを、あらかじめ作成してください。

✎ 機器画面での機器名の編集、端末名の詳細については、以下を参照してください。

🔗 「機器の管理情報」 93 ページ

🔗 「(情報 - iOS) デバイス」 192 ページ

表示操作 [設定] → [iOS] → [管理アプリの通信と動作] → 「端末名称変更」の [編集]



項番	項目	説明
4	端末名称を機器名に変更	端末名称を機器名に変更するかを指定します。 ● 変更する 端末名称を機器名に変更します。 ● 変更しない 端末名称を機器名に変更しません。 ✔ 監視対象端末のみ有効です。

8.2 設定テンプレート

各機能で設定した設定セットの内容を、設定テンプレートとして保存します。

複数の iOS 端末に同じ設定内容を繰り返し設定したい場合や、用途に応じて設定内容を切り替えたいときにテンプレートを 사용하면、簡単に設定内容を適用することができます。

本機能では、設定テンプレートの作成や作成したテンプレートをデフォルトに設定するなどの操作を行うことができます。

画面

画面 (設定テンプレートの作成)

設定テンプレートを一括で複数の iOS 端末に適用することはできません。

テンプレートとして登録したい各機能の設定セットを、あらかじめ作成してください。

作成した設定テンプレートは、iOS 端末ごと、または組織ごとに適用できます。

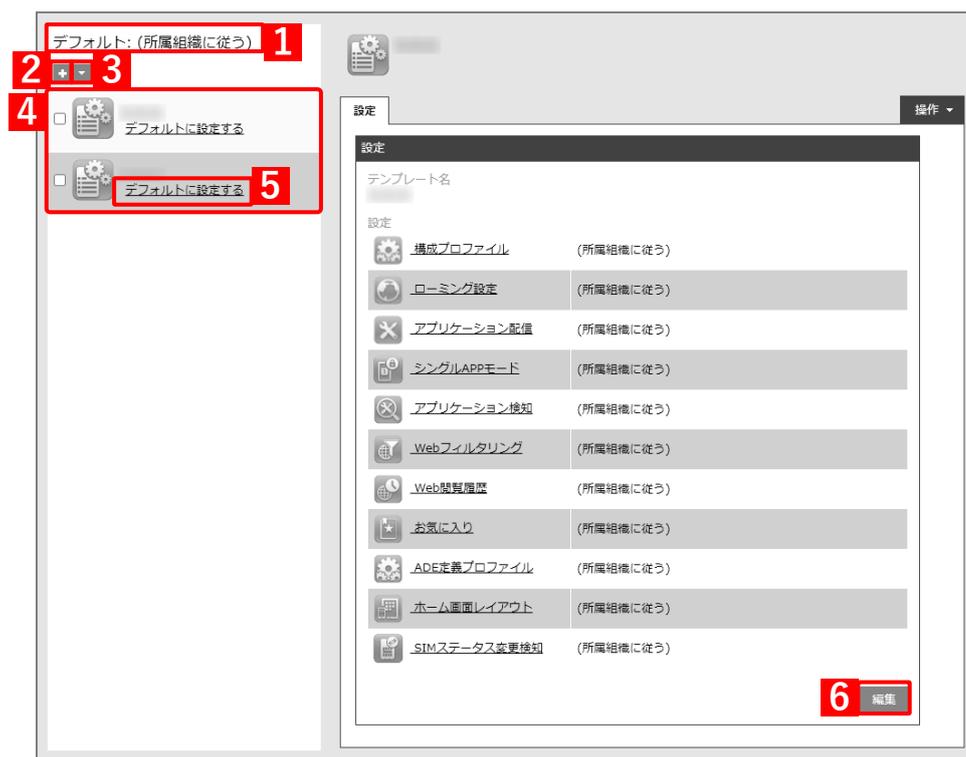
「(設定 - iOS) 設定テンプレートの割り当て」 122 ページ

「[Android 設定] タブ / [iOS 設定] タブ / [Windows 設定] タブ」 348 ページ

設定テンプレートは、最大 51 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [設定テンプレート]



項番	項目	説明
1	デフォルトテンプレート表示	デフォルトに設定したテンプレートの名称が表示されます。 デフォルトに設定したときは、「(所属組織に従う)」が表示されます。 「(所属組織に従う)」は設定テンプレートの初期設定値です。
2		設定テンプレートを新規に作成します。 「画面 (設定テンプレートの作成)」 500 ページ

項番	項目	説明
3		設定テンプレートのチェックや、チェックした設定テンプレートの一括削除のほか、デフォルトに設定した設定テンプレートを初期設定値の「(所属組織に従う)」に戻します。 📄 「(所属組織に従う)をデフォルトに設定する」 503 ページ
4	設定テンプレート	+ で作成した設定テンプレートが表示されます。
5	[デフォルトに設定する]	作成した設定テンプレートをデフォルトにします。 📄 「設定テンプレートをデフォルトに設定する」 502 ページ
6	[編集]	設定テンプレートを編集します。 📄 「画面 (設定テンプレートの作成)」 500 ページ

◆画面 (設定テンプレートの作成)

表示操作 [設定] → [iOS] → [設定テンプレート] → + (一覧から対象を選択 → [編集])



項番	項目	説明
1	テンプレート名	設定テンプレートの名称を 1 文字から 30 文字以内で指定します。
2	設定	各機能に設定する内容を以下から選択します。 ●各機能の設定名 各機能で作成した設定の名称を指定します。指定した設定名に対する編集および削除が行われた場合、設定テンプレートにも反映されます。 ●(所属組織に従う) 機器ごとに所属している組織の設定が適用されます。組織に所属していない場合は「(設定なし)」が適用されます。 ●(変更しない)

項番	項目	説明
		<p>機器ごとに適用している設定に変更を行いません。</p> <ul style="list-style-type: none">●(設定なし) 各機能の設定を外します。 <p> 設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合、端末の動作については、以下を参照してください。</p> <p> 「各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作」 844 ページ</p>

設定テンプレートをデフォルトに設定する

作成した設定テンプレートをデフォルトに設定すると、ライセンス認証して管理サイトに登録された端末は、各設定セットの内容が設定テンプレートの内容に設定されます。

管理サイトに登録する端末を同じ設定にしたい場合に便利です。

 作成した設定テンプレートが設定されていない場合は、「(所属組織に従う)」がデフォルトに設定されます。

表示操作 [設定] → [iOS] → [設定テンプレート] → デフォルトにするテンプレートの「デフォルトに設定する」



項番	項目	説明
1	デフォルト	デフォルトに設定しているテンプレート名が表示されます。また、デフォルトになっているテンプレート名の下に「デフォルト」と表示されます。(A)の箇所に記載されます。
2	[デフォルトに設定する]	クリックすると、そのテンプレート名の設定をデフォルトにできます。
3	メッセージボックス	選択したテンプレートをデフォルトにすることを確認する画面です。 <ul style="list-style-type: none"> ●OK 選択したテンプレートをデフォルトに設定します。 ●キャンセル 選択したテンプレートをデフォルトに設定することを中断します。

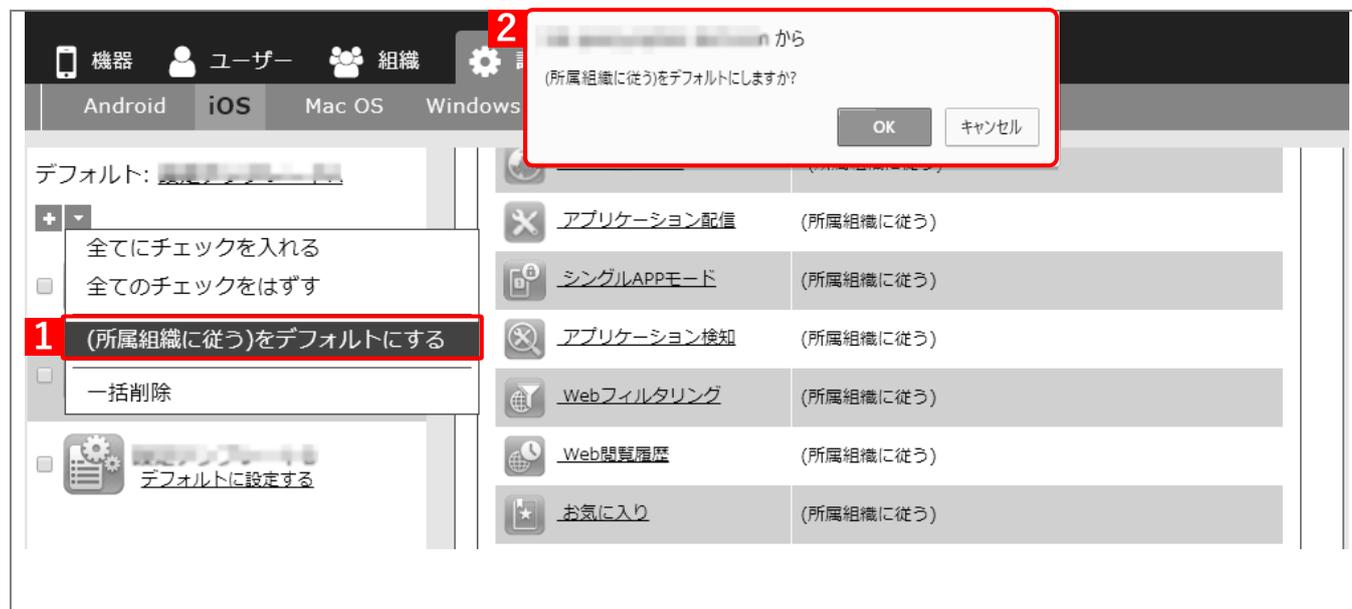
(所属組織に従う)をデフォルトに設定する

「(所属組織に従う)」をデフォルトに設定すると、ライセンス認証して管理サイトに登録された端末は、各設定セットの内容が「(所属組織に従う)」に設定されます。

初期設定では、デフォルトに「(所属組織に従う)」が設定されています。

 作成した設定テンプレートが設定されていない場合は、「(所属組織に従う)」がデフォルトに設定されます。

表示操作 [設定] → [iOS] → [設定テンプレート] →  → [(所属組織に従う)をデフォルトにする]



項番	項目	説明
1	(所属組織に従う)をデフォルトにする	各種設定内容が「(所属組織に従う)」になるテンプレートをデフォルトにします。
2	メッセージボックス	デフォルトに設定することを確認する画面です。 <ul style="list-style-type: none"> ●OK 「(所属組織に従う)」をデフォルト設定します。 ●キャンセル 設定を行いません。

8.3 構成プロファイル

構成プロファイルは、Apple が提供している Apple Configurator 2 上で作成できるプロファイルで iOS 端末に対する制御や設定ができます。

本設定では、管理サイト上で作成した構成プロファイルを保存し、保存した構成プロファイルを使用して、構成プロファイルの設定セットを作成することができます。

また、Apple Configurator 2 で作成した構成プロファイルを管理サイトにアップロードし、新しいプロファイル名を付けて保存することで、Apple Configurator 2 で作成した構成プロファイルを利用することもできます。

🔗 Apple Configurator 2 の詳細については、Apple にお問い合わせください。

🔗 監視対象の端末にのみ利用できる「コンテンツフィルタ設定」、または「グローバル HTTP プロキシ設定」を含む構成プロファイルは、監視対象ではない端末には反映できません。[iOS 制限設定] タブの各画面に表示される「(監視対象のみ)」の設定を含む構成プロファイルを、監視対象ではない端末に適用した場合は、構成プロファイルは適用されますが、「(監視対象のみ)」の設定は反映されません。

🔗 [構成プロファイル] の「削除防止」項目を設定した場合、端末に構成プロファイルを再適用するには、端末のポータルから構成プロファイルをインストールしてください。

🔗 すでに構成プロファイルが適用されている端末に、構成プロファイルの再適用を行うと、あとから配布された構成プロファイルに上書きされますので、注意してください。ただし、後述の削除防止が設定された構成プロファイルは上書きされません（削除するにはワイプまたは Apple Configurator 2 での作業が必要です）。この場合は、各構成プロファイルの内容が結合されて適用されます。同一の項目に複数の設定が存在する場合、どの設定を優先するかなど、結合方法の詳細については Apple の仕様に依存するため、本製品では制御を行っていません。

🔗 構成プロファイル配信時、競合する（相反する）設定内容を適用すると OS の判断で、より安全なものが反映されます（設定内容によってはインストールエラーが発生する場合があります）。

🔗 構成プロファイルのアップロードについては、以下を参照してください。

🔗 「構成プロファイルアップロード」 505 ページ

🔗 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

🔗 「(設定 - iOS) 設定の割り当て」 120 ページ

🔗 「全機器一括設定」 248 ページ

8.3.1 構成プロファイルアップロード

構成プロファイルの設定セットを作成するときに使用する構成プロファイルを作成します。本設定では、各のタブで iOS 端末のパスコードや、各種制限に関する設定（「FaceTime を許可(監視対象のみ)」、「共有アルバムを許可」など）を簡単に行うことができます。

 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → [その他▼] → [コンテンツフィルタ設定] で「アダルトコンテンツを制限」もしくは「指定した Web サイトのみ」が指定されている場合、MDM ライセンス認証時に「※インストール画面が表示されない場合はこちらを押してください。」のリンクが機能せず、MDM 構成プロファイルをインストールできません。

 iOS 9.0~9.1 の場合、端末に反映された構成プロファイルの「コンテンツフィルタ設定」機能→「許可された Web サイト」オプションに、「アダルトコンテンツを制限」、または「指定した Web サイトのみ」が指定されている場合、ポータルからこの端末に削除防止を設定された構成プロファイルはインストールできません（この場合、構成プロファイルが適用されても、Safari 上での構成プロファイルのインストール画面に移行しません）。削除防止を設定された構成プロファイルについては、以下を参照してください。

 「構成プロファイル」 ペ 594-ジ

 1 企業がアップロードできる構成プロファイルは 300 ファイルです。

8.3.1.1 [管理] タブ

構成プロファイルの名称と設定内容を新規に作成するか、Apple Configurator 2 で作成したファイルの内容を利用するかを設定します。

構成プロファイルを新規作成し、[管理] タブの内容を設定して保存すると、[管理] タブを含む [一般] / [パスコード設定] / [iOS 制限設定] / [Wi-Fi 設定] / [その他] の各タブで、編集を行うことができます。

また、作成した構成プロファイルを一覧から選択し、ファイルとして PC にダウンロードすることもできます。

[管理] タブでは、構成プロファイルの新規作成、編集およびダウンロードを行うことができます。

 画面（新規作成）

 画面（編集）

 画面（ダウンロード）

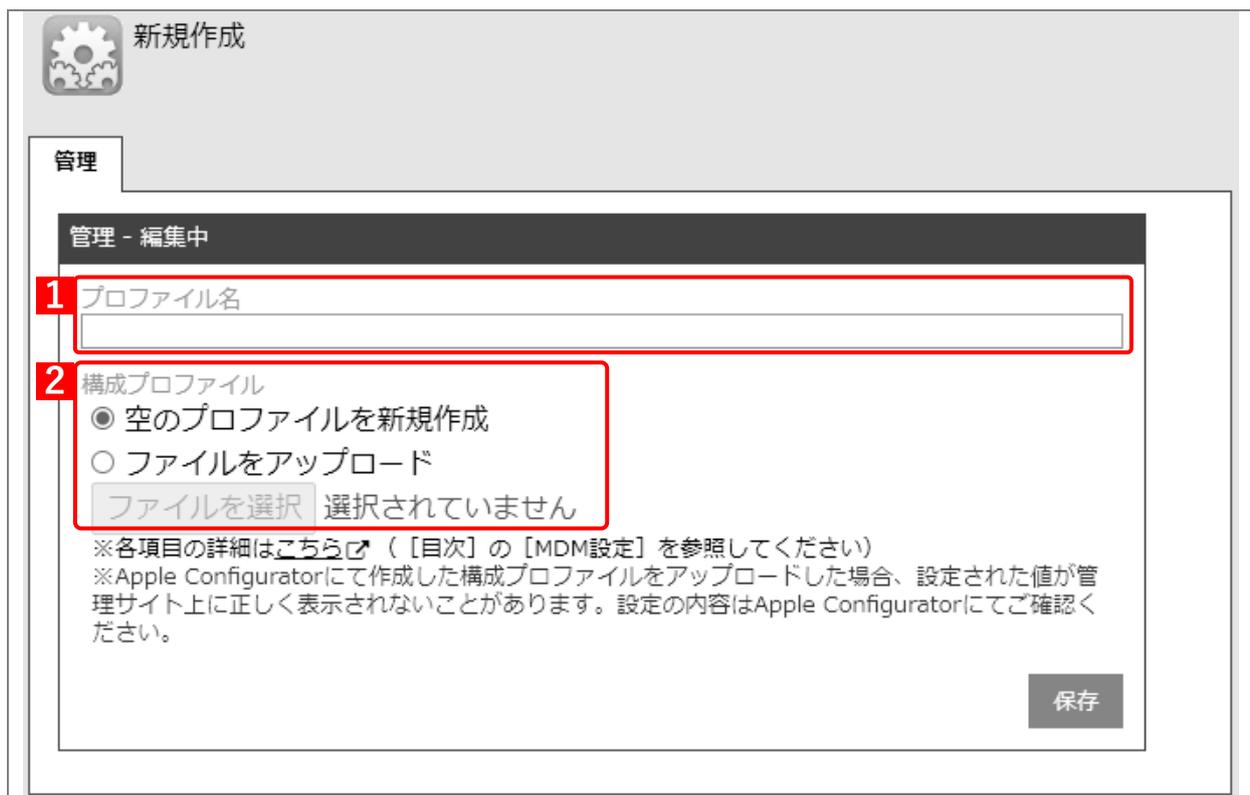
 [構成プロファイルアップロード] で設定できる項目は、Apple Configurator 2 で設定できる項目よりも少ないため、Apple Configurator 2 で作成した構成プロファイルを編集する場合は、本機能を使用せず、Apple Configurator 2 で行ってください。

Apple Configurator 2 で作成した構成プロファイルを本機能で編集した場合の動作は保証していません。

 設定セットは、最大 300 件まで作成できます。

◆画面（新規作成）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → +



項番	項目	説明
1	プロファイル名	設定セットの名称を 1 文字から 30 文字以内で指定します。
2	構成プロファイル	<p>アップロードする構成プロファイルを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●空のプロファイルを新規作成 空のプロファイルをアップロードします。詳細については、以下を参照してください。 🔗 「構成プロファイルアップロード」 505 ページ ●ファイルをアップロード 構成プロファイルをアップロードします。[ファイルを選択] をクリックして、アップロードするファイルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> 🔍インストール時にユーザー名やパスワードを求められる構成プロファイルはインストールできません。ユーザー名やパスワードの設定のない構成プロファイルを指定してください。 🔍Apple Configurator 2 (※1) で構成プロファイルを作成する場合、VPN ペイロードの接続タイプ (VPNTType) は、以下を設定してください。 <ul style="list-style-type: none"> • L2TP • PPTP • PSec • IKEv2 • AlwaysOn (VPN 常時接続が ON の場合) • VPN (Aruba VIA、Check Point Mobile VPN、Cisco AnyConnect、Cisco Legacy AnyConnect、F5 SSL、Juniper SSL、Pulse Secure)

※1：Apple Configurator 2 の詳細については、Apple にお問い合わせください。

◆画面 (編集)

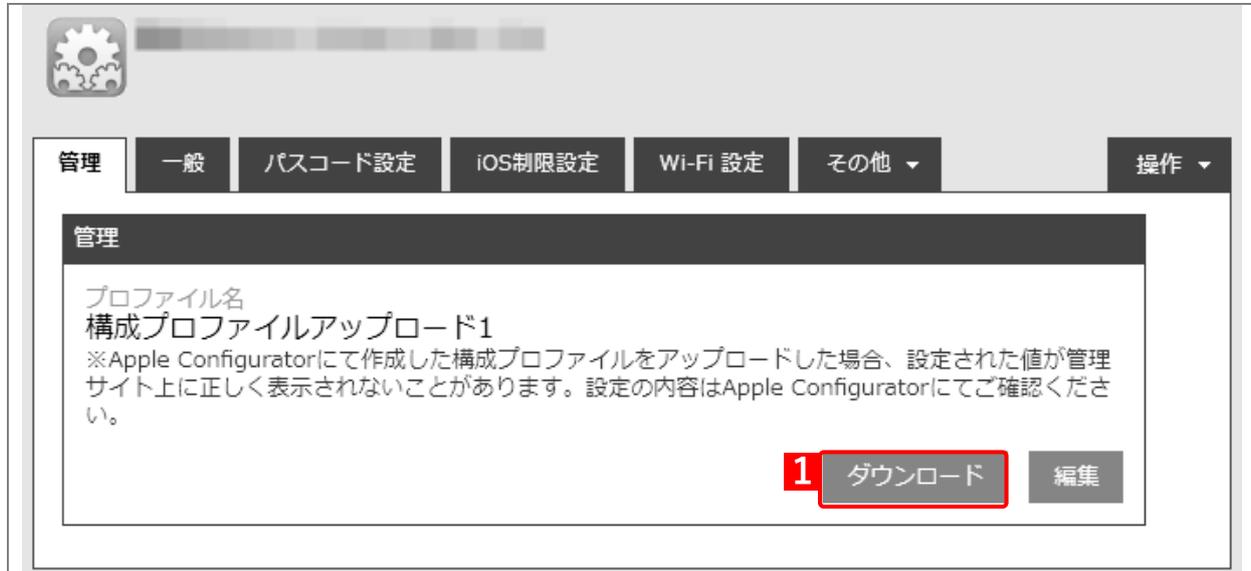
表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] →一覧から対象を選択 → [管理] タブ → [編集]

項番	項目	説明
1	プロフィール名	設定セットの名称を 1 文字から 30 文字以内で指定します。
2	構成プロファイル	アップロードする構成プロファイルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ●変更しない 構成プロファイルを変更しません。(編集を取り消すことと同じです) ●ファイルをアップロード 構成プロファイルを上書きします。[ファイルを選択] をクリックして、アップロードするファイルを指定してください。

◆画面（ダウンロード）

管理サイトで作成して保存されている構成プロファイルを、一覧から選択してダウンロードします。
設定内容を流用し、少しだけ異なる構成プロファイルを作成したい場合などに便利です。

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から
対象を選択



項番	項目	説明
1	[ダウンロード]	クリックして、任意の場所に構成プロファイルを保存してください。

8.3.1.2 [一般] タブ

作成した構成プロファイルの説明を入力します

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] →一覧から
対象を選択 → [一般] タブ → [編集]

管理 一般 パスコード設定 iOS制限設定 Wi-Fi 設定 その他 操作

一般 - 編集中

1 説明

※各項目の詳細はこちら ([目次] の [MDM設定] を参照してください)
 ※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理
 サイト上に正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	説明	構成プロファイルの説明を入力してください。1文字から1,000文字で入力してください。

8.3.1.3 [パスコード設定] タブ

パスコード（画面ロックを解除するときに入力する文字列）に関する各種の設定を行います。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [パスコード設定] タブ → [新規作成] または [編集]

パスコード設定 - 編集集中

1 単純値を許可 する

2 英数字の値が必要 はい

3 最小のパスコード長 (なし)

4 複合文字の最小数 (なし)

5 パスコードの有効期限 (1 ~ 730 日、またはなし)

6 自動ロックまでの最長時間 (なし)

7 パスコードの履歴 (1 ~ 50 個のパスコード、またはなし)

8 デバイスロックの最大猶予期間 (なし)

9 入力を失敗できる回数 (なし)

※各項目の詳細はこちら （【目次】の【MDM設定】を参照してください）
 ※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイト上に正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	単純値を許可	<ul style="list-style-type: none"> ● する 「する」にチェックを入れると、パスコードに連続する文字や反復する文字を使用することをユーザーに許可します。例えば、「3333」や「DEFG」のようなパスコードが許可されます。
2	英数字の値が必要	<ul style="list-style-type: none"> ● はい 「はい」をチェックすると、パスコードに少なくとも1つの英数字を含めることを強制します。
3	最小のパスコード長	パスコードの最小文字数を指定します。以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「(なし)」、「1」、「2」、「3」、「4」、「5」、「6」、「7」、「8」、「9」、「10」、「11」、「12」、「13」、「14」、「15」、「16」
4	複合文字の最小数	パスコードに必要な、英数字以外の文字(\$、&、および!)の最小数を指定します。以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「(なし)」、「1」、「2」、「3」、「4」
5	パスコードの有効期限 (1~730日、またはなし)	指定した間隔(日数)でユーザーにパスコードの変更を要求します。1以上730以下を半角数字で入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> 指定しない場合は、空欄にしてください。
6	自動ロックまでの最長時間 (分)	自動ロックまでの最大時間を指定します。以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 「10」、「15」はiPadの場合のみ使用できます。 ● 「(なし)」、「1」、「2」、「3」、「4」、「5」、「10」、「15」
7	パスコードの履歴 (1~50個のパスコード、またはなし)	新しいパスコードが以前に使用したパスコードと一致した場合、そのパスコードは受け入れられません。この設定では、受け入れ禁止として記憶するパスコードの数を指定します。1以上50以下を半角数字で入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> 指定しない場合は、空欄にしてください。
8	デバイスロックの最大猶予期間	パスコードの入力を行わずに、ロックを解除できるまでの最大時間を指定します。以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「(なし)」、「即時」、「1分」、「5分」、「15分」、「1時間」、「4時間」
9	入力を失敗できる回数	ロック解除のとき、試行できるパスコード誤入力の回数を決定します。以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「(なし)」、「2」、「3」、「4」、「5」、「6」、「7」、「8」、「9」、「10」

8.3.1.4 [iOS 制限設定] タブ

端末機能の制限、アプリの制限、メディアコンテンツの制限について設定します。

 画面 (機能の制限)

 画面 (App の制限)

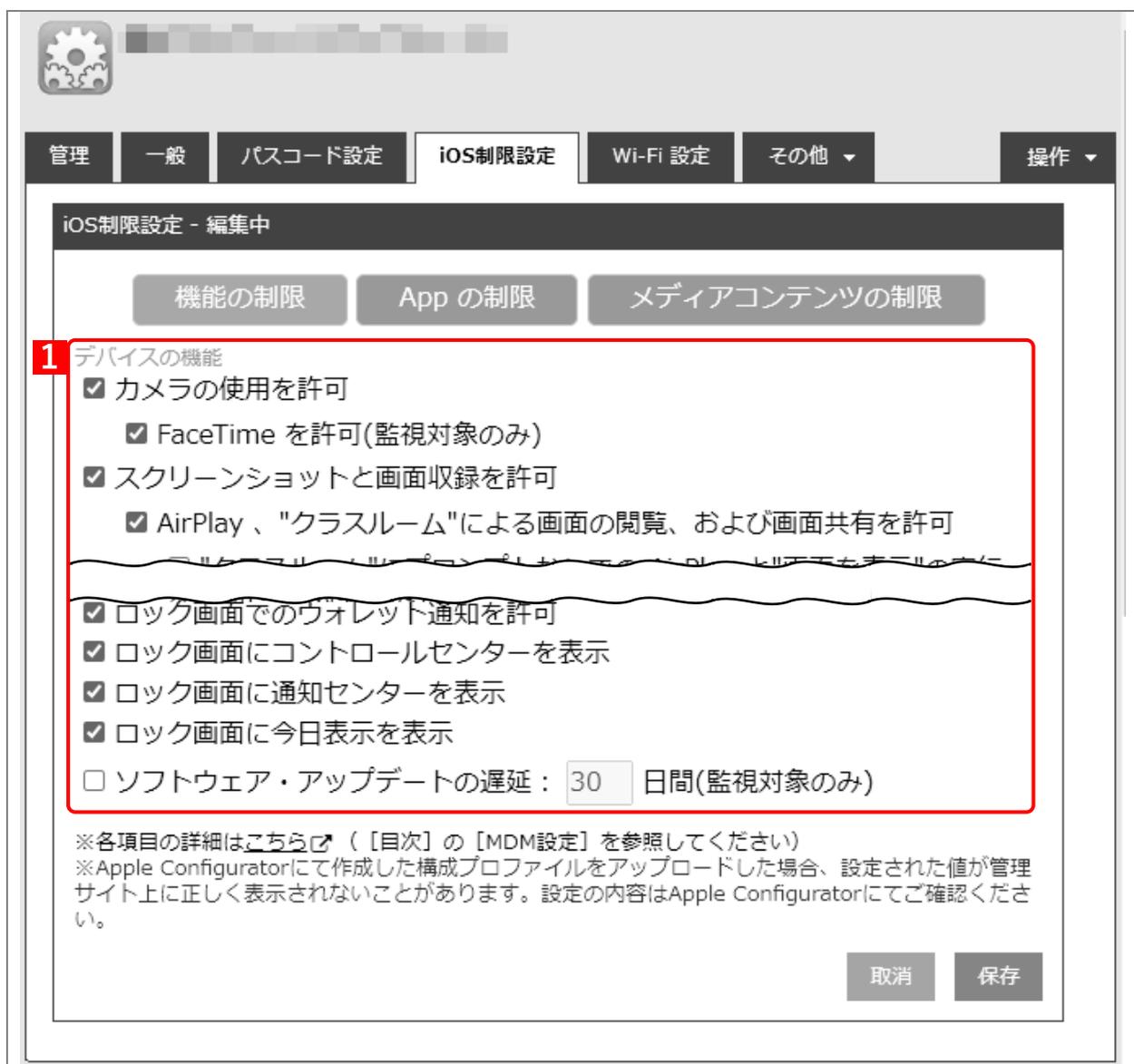
 画面 (メディアコンテンツの制限)

 iOS 端末のバージョンによって、挙動が異なります。対応バージョンについては、以下を参照してください。また、参照先の記載内容と実際の画面の表記が異なる場合があります。

 <https://support.apple.com/ja-jp/guide/mdm/mdm0f7dd3d8/web>

◆画面 (機能の制限)

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [iOS 制限設定] タブ → [新規作成] または [機能の制限] → [編集]



管理 一般 パスコード設定 **iOS制限設定** Wi-Fi 設定 その他 操作

iOS制限設定 - 編集

機能の制限 App の制限 メディアコンテンツの制限

1 デバイスの機能

- カメラの使用を許可
 - FaceTime を許可(監視対象のみ)
- スクリーンショットと画面収録を許可
 - AirPlay、"クラスルーム"による画面の閲覧、および画面共有を許可
- ロック画面でのウォレット通知を許可
- ロック画面にコントロールセンターを表示
- ロック画面に通知センターを表示
- ロック画面に今日表示を表示
- ソフトウェア・アップデートの遅延: 日間(監視対象のみ)

※各項目の詳細はこちら ([目次] の [MDM設定] を参照してください)
 ※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイト上に正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	デバイスの機能	<ul style="list-style-type: none"> ● カメラの使用を許可 チェックボックスのチェックを外すと、カメラは完全に無効になり、カメラアイコンがホーム画面から削除されます。ユーザーは写真やビデオを撮ったり、「FaceTime」を使うことはできません。 <ul style="list-style-type: none"> • FaceTime を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは FaceTime ビデオコールの配置または受信ができません。 ● スクリーンショットと画面収録を許可 チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーはディスプレイのスクリーンショットと画面収録を保存できません。 <ul style="list-style-type: none"> • AirPlay、"クラスルーム"による画面の閲覧、および画面共有を許可 チェックボックスのチェックを外すと、「クラスルーム」を使っている教師は、生徒の iPad 画面で AirPlay を使用したり、生徒の iPad 画面を表示したりできません。 • "クラスルーム"にプロンプトなしでの AirPlay と"画面を表示"の実行を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを入れると、教師が管理対象クラスの生徒の iPad で AirPlay や画面表示を使用するときに、生徒が通知を受けなくなります。 ● AirDrop を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは App で AirDrop を使用できなくなります。 ● iMessage を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、iMessage を使用したメッセージの送受信ができなくなります。iOS 端末が SMS に対応している場合、SMS の送受信はできます。SMS に対応していない場合は、ホーム画面から「メッセージ」アイコンが削除されます。 ● Apple Music を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーはミュージックアプリ内の Apple Music に関連する機能を使用できなくなります。 ● ラジオを許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーはミュージックアプリ内のラジオに関連する機能を使用できなくなります。 ● デバイスのロック中でも音声ダイヤルを許可 チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは音声コントロールを使って電話をかけられません。 ● Siri を許可 チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは Siri、音声コントロール、または読み上げを使用できません。 <ul style="list-style-type: none"> • デバイスのロック中でも Siri を許可 チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーはパスコードを使って機器のロックを解除しないと Siri を使用できなくなります。 • Siri の不適切な単語フィルタを有効にする(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、不適切な単語がフィルタリングされなくなります。 • Siri にユーザ生成コンテンツを表示(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザ生成コンテンツを許可するソース (Wikipedia など) のコンテンツにアクセスできなくなります。 ● Siri の検索候補を許可 チェックボックスのチェックを外すと、検索候補が表示されなくなります。 ● Apple Books を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、Apple Books が無効になり、ユーザーが「iBooks」App から Apple Books にアクセスできなくなります。 ● App のインストールを許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、App Store は無効になり、アイコンがホーム画面から削除されます。ユーザーは、App Store や「Apple Configurator 2」を使ってアプリのインストールやアップデートはできません。  iOS 13.0 以上は監視対象のみ有効です。 <ul style="list-style-type: none"> • App Store からの App のインストールを許可(監視対象のみ)

項番	項目	説明
		<p>チェックボックスのチェックを外すと、App Store は無効になり、アイコンがホーム画面から削除されます。ただし、ユーザーが「Apple Configurator 2」または MDM を使って App Store から App をインストールやアンインストールはできます。またインハウスエンタープライズ App は引き続きインストールおよびアップデート可能です。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> iOS 9.0 以上で設定できます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> iOS 11 以上の端末は、インハウスエンタープライズ App を itms-services で配信した場合、インストールできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • App の自動ダウンロードを許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ほかのデバイスで購入されたアプリの自動ダウンロードを防止します。すでにインストールされたアプリとデフォルトアプリの更新は防止されません。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 9.0 以上で設定できます。 ● App の削除を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは App を削除できません。App Store や「iTunes」など、iOS に付属している App をユーザーが削除はできません。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 14.0 以上は、「ホーム画面から取り除く」で削除することができます。 ● システム App の削除を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは iOS のネイティブ App を削除できません。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 11.0 以上で設定できます。 ● App Clip を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、App Clip を追加できなくなり、デバイス上の既存の App Clip はすべて削除されます。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 14.0 以上で設定できます。 ● App 内課金を許可 チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは App 内で購入できません。 ● 購入時に常に iTunes Store パスワードを要求 ユーザーは購入の前に常に Apple ID パスワードの入力を求められます。通常、次の購入時の認証までは、短い猶予期間が設けられます。 ● iCloud バックアップを許可 チェックボックスにチェックを入れると、ユーザーは機器から iCloud にバックアップを作成できます。 ● iCloud 書類とデータを許可(監視対象のみ) チェックボックスにチェックを入れると、ユーザーは iCloud に書類を保存できます。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 13.0 以上は監視対象のみ有効です。 ● iCloud キーチェーンを許可 チェックボックスのチェックを外すと、iCloud キーチェーンは使用されなくなります。 ● 管理対象 App が iCloud にデータを保存することを許可 チェックボックスのチェックを外すと、App による iCloud へのデータ保存が禁止されます。 ● エンタープライズブックのバックアップを許可 チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは組織から配布されたブックのバックアップを iCloud または iTunes に作成できません。 ● エンタープライズブックのメモとハイライトの同期を許可 チェックボックスのチェックを外すと iCloud 経由でほかのデバイスとメモやハイライトを同期できません。 ● 共有アルバムを許可 チェックボックスにチェックを入れると、ユーザーはほかの人に自分の写真を見るようにすすめたり、ほかの人が共有しているフォトストリームを表示したりできます。 ● iCloud 写真を許可 チェックボックスのチェックを外すと、iCloud のフォトライブラリを無効にします。iCloud のフォトライブラリが無効に設定された場合、ローカルストレージから iCloud のフォトライブラリの画像が削除されます。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 9.0 以上で設定できます。 ● "マイフォトストリーム"を許可 (許可しないとデータ損失の可能性あり)

項番	項目	説明
		<p>チェックボックスにチェックを入れると、ユーザーは"マイフォトストリーム"を有効にできます。この機能制限を使って構成プロファイルをインストールすると、ユーザーの機器から"マイフォトストリーム"の写真が消去され、「カメラロール」の写真が"マイフォトストリーム"に送信されなくなります。写真のコピーがない場合、これらの写真は失われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ローミング中の自動同期を許可 チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーがアカウントにアクセスしているときに限りローミング中の機器が同期されます。 ● "ファイル"App で USB ドライブへのアクセスを許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ファイル App で接続されている USB デバイスに接続できなくなります。  iOS 13.1 以上で設定できます。 ● "ファイル"App でネットワークドライブへのアクセスを許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ファイル App でネットワークドライブに接続できなくなります。  iOS 13.1 以上で設定できます。 ● App からのトラッキング要求を禁止 チェックボックスにチェックを入れると、App で広告識別子（非永続的、デバイス識別子）を使用してターゲット広告の表示が禁止されます。 ● Apple によるパーソナライズされた広告の配信を許可 チェックボックスのチェックを外すと、パーソナライズド広告を制限します。  iOS 14.0 以上で設定できます。 ● "すべてのコンテンツと設定を消去"を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、端末のリセット機能「すべてのコンテンツと設定を消去」が使用できなくなります。 ● 信頼されていない TLS 証明書の受け入れをユーザに許可 チェックボックスのチェックを外すと、検証できない TLS 証明書をユーザーが許可しようとする場合に、ユーザーに確認を求めません。この設定は「Safari」および「メール/連絡先/カレンダー」アカウントに適用されます。 ● 証明書信頼設定の自動アップデートを許可 チェックボックスのチェックを外すと、iOS デバイスは既知の信頼できる TLS 証明書の信頼設定変更を自動的に受け入れなくなります。 ● 新しいエンタープライズ App 作成者の信頼を許可 チェックボックスのチェックを外すと、新しいエンタープライズ App 作成者を信頼できなくなります。すでに信頼済みの作成者については本設定をオフにしても引き続き利用できます。また、その場合、信頼済みの作成者と同じ作成者を利用しているエンタープライズアプリ（InHouse アプリ、オリジナルアプリ）も利用できます。  iOS 9.0 以上で設定できます。 ● 構成プロファイルのインストールを許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは各自のデバイスに追加の構成プロファイルをインストールできなくなります。 ● VPN 構成の追加を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは VPN 構成の作成または追加ができなくなります。 ● 日付と時刻を強制的に自動設定(監視対象のみ) チェックボックスにチェックを入れると、日付と時刻の自動設定機能が有効になり、ユーザーが無効にすることはできません。デバイスのタイムゾーンは、位置情報サービスが有効になっているセルラー接続または Wi-Fi を使用して、デバイスが位置を特定できる場合のみ更新されます。  iOS 12.0 以上で設定できます。 ● "クラスルーム"にプロンプトなしでの App の制限とデバイスのロックを許可(監視対象のみ) チェックボックスにチェックを入れると、教師はプロンプトすることなく、App を開いたままロックしたり、デバイスをロックしたりできるようになります。 ● "クラスルーム"のクラスにプロンプトなしで自動的に参加(監視対象のみ) チェックボックスにチェックを入れると、生徒は教師へのプロンプトなしでクラスに参加できるようになります。 ● "クラスルーム"の管理対象外クラスを退席するときに教師の許可を要求(監視対象のみ)

項番	項目	説明
		<p>チェックボックスにチェックを入れると、生徒は管理対象外（教師作成）クラスを退席する前に許可を要求する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Wi-Fi の電源を強制的にオン(監視対象のみ) チェックボックスにチェックを入れると、機内モードをオンにしても、設定またはコントロールセンターで Wi-Fi がオフにならないようにします。使用する Wi-Fi ネットワークの選択を妨げるものではありません。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 13.0 以上で設定できます。 ●アカウント設定の変更を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは新規アカウントの作成も、ユーザー名、パスワードおよびアカウントに紐づけられているその他の設定の変更もできなくなります。 ●Bluetooth 設定の変更を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは Bluetooth の設定を変更できなくなります。 <input checked="" type="checkbox"/> Bluetooth の ON/OFF だけではなく、Bluetooth デバイスの追加や削除もできません。 <input checked="" type="checkbox"/> 端末で Bluetooth を ON に設定している状態で、本設定を適用した場合、ペアリング済みのデバイスは、OS と Bluetooth デバイスの挙動に依存します。 ●モバイルデータ通信 App 設定の変更を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、モバイルデータ通信 App 設定を変更できなくなります。 ●モバイルデータ通信プラン設定の変更を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、モバイルデータ通信プラン設定を変更できなくなります。 ●eSIM 設定の変更を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、キャリアプラン関連の設定の変更を無効にします（一部のキャリアでのみ利用可能）。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 11.0 以上で設定できます。 ●デバイス名の変更を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、デバイス名の変更を防げます。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 9.0 以上で設定できます。 ●通知設定の変更を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは通知設定の変更ができなくなります。 ●パスコードの変更を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、デバイスのパスコードを追加、変更、または削除を防げます。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 9.0 以上で設定できます。 ●Touch ID の指紋/Face ID の顔の変更を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、Touch ID に登録された指紋または Face ID の顔の追加・変更・削除ができなくなります。 ●スクリーンタイムを許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、端末の [設定] メニューの [スクリーンタイム] が使用できなくなります。 <input checked="" type="checkbox"/> チェックを外して同期すると、端末のスクリーンタイム設定はクリアされ、強制的にオフになります。再度、スクリーンタイム設定をオンにする場合は、本項目にチェックを入れて同期したあと、端末でスクリーンタイム設定を行ってください。 ●壁紙の変更を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、壁紙の変更を防ぐことができます。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 9.0 以上で設定できます。 ●インターネット共有設定の変更を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、インターネット共有設定の変更を無効にします。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 12.2 以上で設定できます。 ●"友達を探す"を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、「探す」 app で「友達を探す」を無効にします。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 13.0 以上で設定できます。 ●"探す"の"デバイスを探す"を許可(監視対象のみ)

項番	項目	説明
		<p>チェックボックスのチェックを外すと、「探す」 app で「デバイスを探す」を無効にします。  iOS 13.0 以上で設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● "友達を探す"設定の変更を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは「友達を探す」App の設定を変更できなくなります。 ● デバイスのロック中も USB アクセサリを許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを入れると、デバイスがロックされている間、USB アクセサリに接続できます。また、Mac OS 端末で新しい USB アクセサリを認証なしで接続できるようにします。  iOS 11.4.1 以上で設定できます。 ● Configurator 以外のホストとのペアリングを許可(監視対象のみ) チェックボックスにチェックを入れると、デバイスを任意の Mac と同期できます。 ● ペアリングが解除されたデバイスのリカバリモードへの移行を許可(監視対象のみ) チェックボックスにチェックを入れると、ペアリングされていないデバイスによってデバイスを起動して回復できるようにします。  iOS 14.5 以上で設定できます。 ● 管理対象外出力先で管理対象ソースからの書類を許可 「管理対象ソース」は、[その他▼] タブの [ドメイン設定] の「管理対象の Safari Web ドメイン」で指定された Web サイトのコンテンツです。PDF 形式などのコンテンツを Safari からアクセスするときに、Safari の画面下部に Safari 以外の外部アプリからコンテンツを表示するメニュー画面が表示される場合があります。チェックボックスのチェックを外すと、管理サイトで非管理対象として配信したアプリ、もしくは手動で App Store からインストールしたアプリ (管理対象外出力先) は、Safari の外部アプリの一覧に表示されなくなります。つまり、管理対象外出力先のアプリから、「管理対象の Safari Web ドメイン」で指定されたコンテンツにアクセスできなくなります。この設定で、Safari を経由した外部アプリの起動を制限できますが、外部アプリから直接 URL を入力する場合など、Safari を経由しないコンテンツアクセスは制御されません。「管理対象の Safari Web ドメイン」については、以下を参照してください。  「[その他▼] タブ/ドメイン設定」 548 ページ ● 管理対象出力先で管理対象外ソースからの書類を許可 チェックボックスのチェックを外すと、管理対象外 App で作成した書類を管理対象 App で開けなくなります。 ● AirDrop を管理対象外の出力先とみなす チェックボックスにチェックを入れると、AirDrop は管理対象外となります。さらに厳密にダウンロード対象を管理するには [制限] タブの「管理対象外出力先で管理対象ソースからの書類を許可」と「管理対象出力先で管理対象外ソースからの書類を許可」を設定する必要があります。設定は、以下を参照してください。  「画面 (機能の制限)」 512 ページ  iOS 9.0 以上で設定できます。 ● Handoff を許可 チェックボックスのチェックを外すと、Handoff 機能が使用できなくなります。 ● Apple への診断情報と使用状況データの送信を許可 チェックボックスのチェックを外すと、Apple に iOS の診断情報が送信されません。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 診断設定の変更を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと診断設定の変更ができません。 ● Touch ID/Face ID によるデバイスロック解除を許可 チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーはデバイスのロックを解除するためにパスコードを入力する必要があります。 ● パスワードの自動入力を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、iOS の自動入力パスワード機能 (キーチェーンおよびサードパーティのパスワードマネージャーを使用) が無効になり、ユーザーは Safari またはアプリで保存されたパスワードを使用するように求められません。この制限によりパスワードの自動入力も無効になり、強度の高いパスワードはユーザーに提案されなくなります。Safari での連絡先情報とクレジットカードの自動入力は妨げられません。  iOS 12.0 以上で設定できます。 ● 自動入力の前に Touch ID/Face ID 認証を要求(監視対象のみ)

項番	項目	説明
		<p>チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは Touch ID/Face ID 認証を使って App データを自動入力できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Apple Watch によるロック解除を許可 チェックボックスのチェックを外すと、Apple Watch による自動ロック解除を無効にします。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 14.5 以上で設定できます。 ● Apple Watch の手首検出を強制 チェックボックスにチェックを入れると、ペアリングされた Apple Watch は手首の検出を使用するように強制されます。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 8.2 以上で設定できます。 ● Apple Watch とのペアリングを許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、アップルウォッチとのペアリングを無効にします。既存のペアリングは無効になり、Apple Watch は初期化されます。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 9.0 以上で設定できます。 ● 最初の AirPlay ペアリングでパスコードを要求 チェックボックスにチェックを入れると、最初の AirPlay ペアリングで端末のパスコードが要求されます。 ● Wi-Fi ペイロードによってインストールされた Wi-Fi ネットワークのみに接続(監視対象のみ) チェックボックスにチェックを入れると、構成プロファイルで登録済みの Wi-Fi のみにアクセスできるようになります。Wi-Fi のみを利用している端末が Wi-Fi のアクセスポイントを 1 つも登録していない状態で、このオプションをオンにした構成プロファイルをインストールした場合は、同期ができなくなります。この場合は、以下の「復旧方法」で再度同期ができるようになります。条件が揃っていない場合は、端末の初期化を行うしか方法がありませんのでご注意ください。 <div style="text-align: center;"> 「復旧方法」 520 ページ</div> <input checked="" type="checkbox"/> iOS 10.3 以上で設定できます。 ● 近くのデバイスの新規設定を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、新しい Apple デバイスの初期設定をしたときに、自動的に設定を行ったり、データを移行したりできなくなります。 ● 近接通信に基づくパスワード共有要求を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、近くのデバイスからのパスワードの要求を無効にします。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 12.0 以上で設定できます。 ● パスワードの共有を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、AirDrop によるパスワードの共有を無効にします。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 12.0 以上で設定できます。 ● AirPrint を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは AirPrint を使用できません。 <ul style="list-style-type: none"> ・ iBeacon を使った AirPrint プリンタの検出を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは周辺の iBeacon 互換ハードウェアトランスミッターを使って AirPrint プリンターを検出できません。 ・ キーチェーンへの AirPrint 資格情報の保存を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは AirPrint 資格情報をキーチェーンに保存できません。 ・ 証明書が信頼されていない出力先への AirPrint を禁止(監視対象のみ) チェックボックスにチェックを入れると、AirPrint を使って TSL 証明書が信頼されていないプリンターにプリントできなくなります。 ● 予測表示キーボードを許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、予測入力キーボードが無効になります。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 8.1.3 以上で設定できます。 ● キーボードショートカットを許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、キーボード ショートカットを無効にします。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 9.0 以上で設定できます。 ● なぞり入力キーボードを許可(監視対象のみ)

項番	項目	説明
		<p>チェックボックスのチェックを外すと、なぞり入力 キーボードを無効にします。</p> <p> iOS 13.0 以上で設定できます。</p> <p>●自動修正を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、キーボードの自動修正機能が無効になります。</p> <p> iOS 8.1.3 以上で設定できます。</p> <p>●スペルチェックを許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、キーボードのスペルチェックが無効になります。</p> <p> iOS 8.1.3 以上で設定できます。</p> <p>●定義を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、単語の定義の検索機能が無効になります。</p> <p> iOS 8.1.3 以上で設定できます。</p> <p>●音声入力を許可(監視対象のみ) チェックボックスのチェックを外すと、デバイスでの音声入力を使用できません。</p> <p>●ロック画面でのウォレット通知を許可 チェックボックスのチェックを外すと、ロックされている間は機器にウォレット通知が表示されなくなります。</p> <p>●ロック画面にコントロールセンターを表示 チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは上にスワイプしてコントロールセンターを表示できなくなります。</p> <p>●ロック画面に通知センターを表示 チェックボックスのチェックを外すと、画面がロックされている場合にユーザーは通知を受信できなくなります。</p> <p>●ロック画面に今日表示を表示 チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは下にスワイプして今日表示を使用する通知センターをロック画面で表示できなくなります。チェックボックスにチェックを入れると、ロック画面に本日の日付が表示されます。</p> <p>●ソフトウェア・アップデートの遅延：xx 日間(監視対象のみ) チェックボックスにチェックを入れると、「xx」で指定した期間、ユーザーがワイヤレス接続 (Wi-Fi およびモバイルデータ通信) を使ってデバイスを手動でアップデートすることを禁止できます。</p> <p> アップデートを禁止する日数は初期値として「30 日間」に設定されていますが、1~90 日の範囲で変更できます。</p> <p> 延滞期間内でも「Apple Configurator 2」または「iTunes」を使ったデバイスのアップデート、および MDM からの OS アップデートは可能です。</p> <p> 「(操作 - iOS) OS アップデート」 163 ページ</p> <p> 延滞期限のカウントダウンは、端末の OS から見て次回バージョンのアップデート公開日から開始され、設定した遅延期限日になると、iOS 端末にアップデートを求める通知が表示されます。遅延期間内に、次のバージョンへアップデートしたい場合は、チェックボックスのチェックを外して、iOS 端末に同期を行ってください。については、以下の一例を参照してください。</p> <p> 「iOS アップデート公開日と遅延期限の一例」 521 ページ</p>

◆復旧方法

●パターン 1

- SIM カードが利用できる端末であることを確認します。
- 通信できる SIM カードを入れてください。
- 通信ができるようになりましたら正しい構成プロファイルを再配信してください。

●パターン 2

- 構成プロファイルの「構成プロファイルのインストールを許可」が「はい」になっていることを確認します。
- Mac と USB 接続などをして、Apple Configurator 2 からアクセスポイントの含まれる構成プロファイルを追加してください。
- 通信ができるようになりましたら正しい構成プロファイルを再配信してください。

●パターン 3

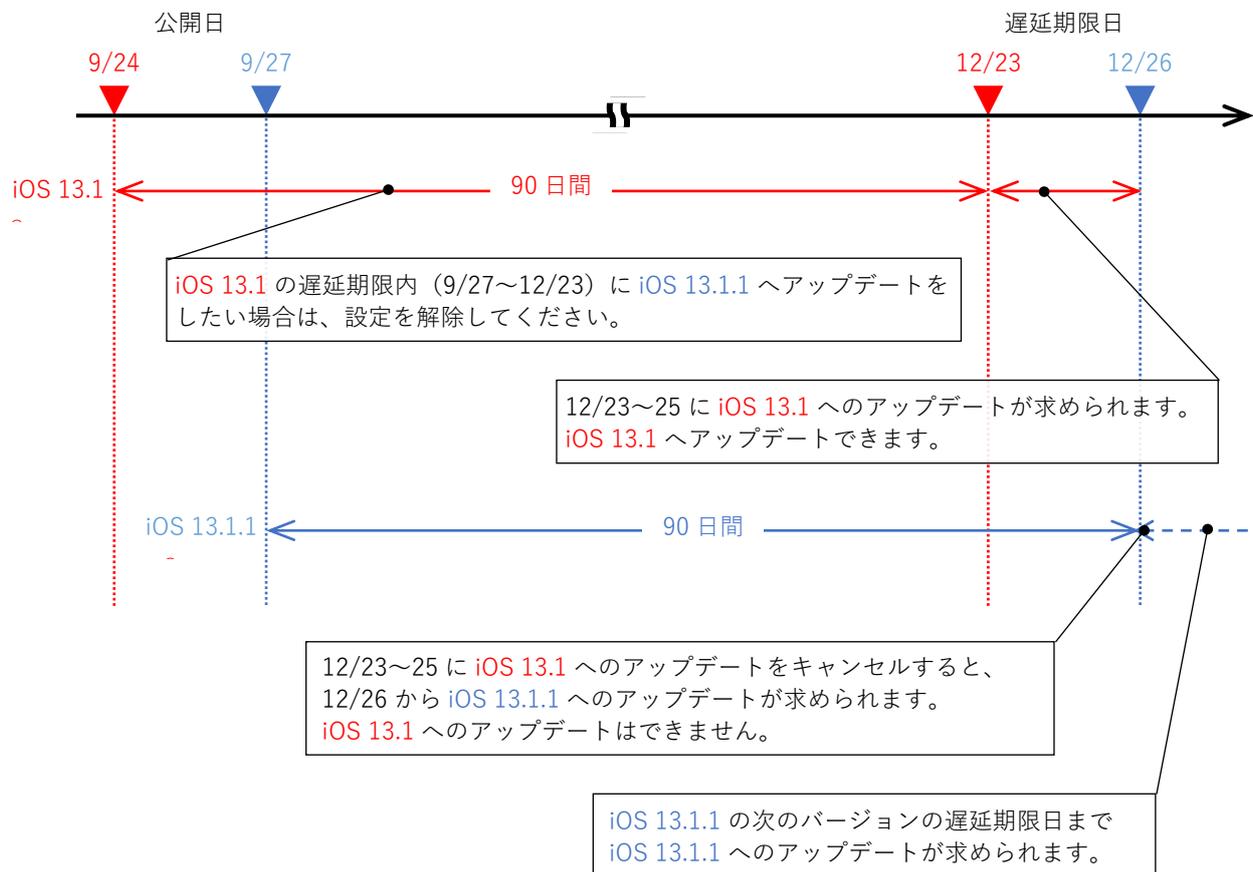
- ADE 利用で「MDM 構成プロファイルの削除」を許可している、または ADE 端末以外であることを確認します。
- MDM 構成プロファイルを削除し、再認証してください。

●パターン 4

- ADE 利用で「MDM 構成プロファイルの削除」を許可していないことを確認します。
- 端末を初期化してください。

◆iOS アップデート公開日と遅延期限の一例

- 利用している iOS 端末のバージョンが iOS13.0
- ソフトウェア・アップデートの遅延を 90 日間に設定
- iOS13.1 のアップデートが 9/24 に公開
9/24 からカウントダウン開始、90 日後の 12/23 が遅延期限日
- iOS13.1.1 のアップデートが 9/27 に公開
9/27 からカウントダウン開始、90 日後の 12/26 が延長期限日



◆画面 (App の制限)

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [iOS 制限設定] タブ → [新規作成] または [App の制限] → [編集]

管理 一般 パスコード設定 **iOS制限設定** Wi-Fi 設定 その他 操作

iOS制限設定 - 編集

機能の制限 App の制限 メディアコンテンツの制限

- iTunes Store を許可
- "ニュース"の使用を許可(監視対象のみ)
- Podcast の使用を許可(監視対象のみ)
- Game Center を許可(監視対象のみ)
 - マルチプレイヤーゲームを許可(監視対象のみ)
 - Game Center の友人の追加を許可
- Safari の使用を許可
 - 自動入力を有効にする
 - 強制的に詐欺警告
 - JavaScript を有効にする
 - ポップアップを開かない
 - Cookie の受け入れ
常に許可
- App の使用を制限(監視対象のみ)
すべてのAppを許可

※各項目の詳細はこちら ([目次] の [MDM設定] を参照してください)
※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイトに正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	iTunes Store を許可	<p>チェックボックスのチェックを外すと、iTunes Store は無効になり、アイコンがホーム画面から削除されます。ユーザーはコンテンツをプレビュー、購入、およびダウンロードできません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> iOS 13.0 以上は監視対象のみ有効です。</p>
2	“ニュース”の使用を許可(監視対象のみ)	<p>チェックボックスのチェックを外すと、ニュースが無効になります。</p>
3	Podcast の使用を許可(監視対象のみ)	<p>チェックボックスのチェックを外すと、Podcast が無効になります。</p>
4	Game Center を許可(監視対象のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ●マルチプレイヤーゲームを許可 チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは Game Center でマルチプレイヤーゲームをプレイできません。 <input checked="" type="checkbox"/> 監視対象端末の場合のみ適用されます。 ●Game Center の友人の追加を許可 チェックボックスのチェックを外すと、ユーザーは Game Center に友達を追加できません。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 13.0 以上は監視対象のみ有効です。
5	Safari の使用を許可	<p>チェックボックスのチェックを外すと、Safari Web ブラウザー App は無効になり、アイコンがホーム画面から削除されます。ユーザーが Web クリップの表示もできなくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自動入力を有効にする チェックボックスのチェックを外すと、「Safari」はユーザーが Web フォームに入力した値を記憶しません。 ●強制的に詐欺警告 チェックボックスのチェックを外すと、「Safari」は不正または欠陥があると判断された Web サイトへのアクセスを禁止しません。 ●JavaScript を有効にする チェックボックスのチェックを外すと、「Safari」は Web サイト上のすべての JavaScript を無視します。 ●ポップアップを開かない チェックボックスのチェックを外すと、「Safari」のポップアップブロック機能が無効になります。 ●Cookie の受け入れ 以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・「常にブロック」、「アクセス中の Web サイトのみ許可」、「訪問した Web サイトは許可」、「常に許可」
6	App の使用を制限(監視対象のみ)	<p>App の使用を制限します。以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「一部の App を許可しない」、「一部の App のみを許可」、「すべての App を許可」 <input checked="" type="checkbox"/> 一部の App の許可もしくは禁止を選択すると、対象のアプリを指定する欄が表示されます。指定できるアプリの上限は 1,000 件です。 <input checked="" type="checkbox"/> アプリの指定は、アプリケーション ID (Bundle Identifier) で行います。Store ID ではありませんので、注意してください。アプリケーション ID の確認については、以下を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">  「(情報 - iOS) アプリケーション」 198 ページ  「アプリケーションレポート」 293 ページ <input checked="" type="checkbox"/> 以下の Apple が提供するアプリは禁止できません。 <ul style="list-style-type: none"> ・「設定」、「電話」

◆画面（メディアコンテンツの制限）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [iOS 制限設定] タブ → [新規作成] または [メディアコンテンツの制限] → [編集]

test

管理 一般 パスコード設定 **iOS制限設定** Wi-Fi 設定 その他 操作

iOS制限設定 - 編集

機能の制限 App の制限 **メディアコンテンツの制限**

1 レーティングの地域設定
日本

2 許可されるコンテンツレーティング

ムービー
すべてのムービーを許可

テレビ番組
すべてのテレビ番組を許可

App
すべてのAppを許可

不適切なミュージック、Podcast、iTunes U の再生を許可

Apple Books で不適切な性的描写のあるブックの閲覧を許可

※各項目の詳細は[こちら](#)（[目次]の[MDM設定]を参照してください）

※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイト上に正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	レーティングの地域設定	<p>レーティングの地域を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「アメリカ」、「オーストラリア」、「カナダ」、「ドイツ」、「フランス」、「アイルランド」、「日本」、「ニュージーランド」、「イギリス」
2	許可されるコンテンツレーティング	<ul style="list-style-type: none"> ● ムービー 「レーティングの地域」で選択された国のレーティングの一覧から適切なレーティングを以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ムービーを許可しない」、「G」、「PG-12」、「R-15」、「R-18」、「すべてのムービーを許可」 ● テレビ番組 「レーティングの地域」で選択された国のレーティングの一覧から適切なレーティングを以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「テレビ番組を許可しない」、「不適切な内容を許可」、「すべてのテレビ番組を許可」 ● App 以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「App を許可しない」、「4+」、「9+」、「12+」、「17+」、「すべての App を許可」 ● 不適切なミュージック、Podcast、iTunes U の再生を許可 チェックボックスのチェックを外すと、iTunes Store 内の不適切な内容の音楽やビデオコンテンツが隠されます。不適切な内容は、コンテンツプロバイダによってフラグが設定されています。  iOS 13.0 以上は監視対象のみ有効です。 ● Apple Books で不適切な性的描写のあるブックの閲覧を許可 チェックボックスのチェックを外すと、Apple Books のアダルト向けコンテンツが隠されます。不適切な内容は、コンテンツプロバイダによってフラグが設定されています

8.3.1.5 [Wi-Fi 設定] タブ

Wi-Fi に関する各種の設定を行います。「プロキシ設定」や「ネットワークのタイプ」などの設定により、タブ内の設定内容が異なります。

 画面 (プロキシ設定: なし)

 画面 (プロキシ設定: 手動)

 画面 (プロキシ設定: 自動)

 画面 (ネットワークのタイプ: Passpoint)

 画面 (エンタープライズ設定 (プロトコル))

 画面 (エンタープライズ設定 (信頼))

 画面 (高速レーンの QoS マーキング: QoS マーキングを制限する)

 モバイルネットワークが利用できない端末で本設定を行う場合、設定内容に誤りがあると Wi-Fi に接続できず、通信ができなくなる場合があります。設定内容を確認したうえで使用してください。

 [Wi-Fi 設定] タブの設定は、Wi-Fi の設定を端末に反映させる機能です。通信手段を制限する機能ではありません。ただし、端末の [設定] → [Wi-Fi] でプロキシ設定が変更された場合は、同期を行うと、設定した内容に上書きされます。

◆画面（プロキシ設定：なし）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] →一覧から対象を選択 → [Wi-Fi 設定] タブ → [新規作成] または [編集]

項番	項目	説明
1	SSID(サービスセット識別子)	利用する Wi-Fi ネットワークの SSID の名称を入力してください。
2	非公開ネットワーク	●有効 非公開ネットワークを端末に表示する場合は、「有効」にチェックを入れます。
3	自動接続	●有効 自動接続を行う場合は、「有効」にチェックを入れます。 ☑端末の Wi-Fi 設定をオフにしている場合は、自動継続されません。 オンにしている場合、項番 1 で設定した SSID に自動継続されます。
4	キャプティブネットワーク検出を無効にする	●有効 キャプティブネットワークの検出を無効にする場合は、「有効」にチェックを入れます。

項番	項目	説明
5	関連付けを回避するための MAC ランダム化を無効にする	<ul style="list-style-type: none"> ●有効 iOS 14.0 以上の端末で、MAC アドレスのランダム化を無効にする場合は、「有効」にチェックを入れます。 ☑ iOS 14.0 以上の端末の [設定] → [Wi-Fi] → [プライベートアドレス] が無効になります。デフォルト値は有効になっています。 ☑ iOS 14.0~14.1 の端末の場合は、本設定を無効にしても、端末から手動で有効に変更できます。 ☑ iOS 14.0 未満の端末に配信したあとで、iOS 14.0 以上にアップデートしても無効になりません。
6	プロキシ設定	「なし」を選択します。
7	セキュリティの種類	<p>Wi-Fi のセキュリティを設定します。以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「なし」、「WEP」、「WPA/WPA2 パーソナル」、「WPA2 パーソナル (Apple TV を除く iOS 8 以上)」、「WPA3 パーソナル (iOS 13 以上)」、「任意 (パーソナル)」、「ダイナミック WEP」、「WPA/WPA2 エンタープライズ」、「WPA2 エンタープライズ (Apple TV を除く iOS 8 以上)」、「WPA3 エンタープライズ (iOS 13 以上)」、「任意 (エンタープライズ)」 ☑ 「WEP」、「WPA/WPA2 パーソナル」、「WPA2 パーソナル (Apple TV を除く iOS 8 以上)」、「WPA3 パーソナル (iOS 13 以上)」、「任意 (パーソナル)」を選択した場合は、「パスワード」が表示されますので、入力してください。 ☑ 「ダイナミック WEP」、「WPA/WPA2 エンタープライズ」、「WPA2 エンタープライズ (Apple TV を除く iOS 8 以上)」、「WPA3 エンタープライズ (iOS 13 以上)」を選択した場合は、エンタープライズ設定の項目が表示されます。 <p style="margin-left: 40px;">🔗 「画面 (エンタープライズ設定 (プロトコル))」535 ページ</p> <p style="margin-left: 40px;">🔗 「画面 (エンタープライズ設定 (信頼))」537 ページ</p>
8	ネットワークのタイプ	<p>ネットワークのタイプを以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●標準 標準ネットワークの場合に選択します。 ●レガシーホットスポット レガシーホットスポットの場合に選択します。 ●Passpoint Passpoint の場合に選択します。選択すると設定項目が表示されます。設定項目については、以下を参照してください。 <p style="margin-left: 40px;">🔗 「画面 (ネットワークのタイプ: Passpoint)」534 ページ</p>
9	高速レーンの QoS マーキング	<p>QoS マーキングを制限するかどうかを以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●QoS マーキングを制限しない QoS マーキングを制限しません。 ●QoS マーキングを制限する 選択すると、制限についての設定項目が表示されます。設定項目については、以下を参照してください。 <p style="margin-left: 40px;">🔗 「画面 (高速レーンの QoS マーキング: QoS マーキングを制限する)」537 ページ</p>

◆画面（プロキシ設定：手動）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] →一覧から対象を選択 → [Wi-Fi 設定] タブ → [新規作成] または [編集]

項番	項目	説明
1	SSID(サービスセット識別子)	利用する Wi-Fi ネットワークの SSID の名称を入力してください。
2	非公開ネットワーク	●有効 非公開ネットワークを端末に表示する場合は、「有効」にチェックを入れます。
3	自動接続	●有効 自動接続を行う場合は、「有効」にチェックを入れます。 ☑端末の Wi-Fi 設定をオフにしている場合は、自動継続されません。オンにしている場合、項番 1 で設定した SSID に自動継続されます。

項番	項目	説明
4	キャプティブネットワーク検出を無効にする	<ul style="list-style-type: none"> ●有効 キャプティブネットワークの検出を無効にする場合は、「有効」にチェックを入れます。
5	関連付けを回避するためのMACランダム化を無効にする	<ul style="list-style-type: none"> ●有効 iOS 14.0以上の端末で、MACアドレスのランダム化を無効にする場合は、「有効」にチェックを入れます。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 14.0以上の端末の [設定] → [Wi-Fi] → [プライベートアドレス] が無効になります。デフォルト値は有効になってます。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 14.0～14.1の端末の場合は、本設定を無効にしても、端末から手動で有効に変更できます。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 14.0未満の端末に配信したあとで、iOS 14.0以上にアップデートしても無効になりません。
6	プロキシ設定	「手動」を選択します。
7	サーバーおよびポート	<ul style="list-style-type: none"> ●サーバー 入力必須です。アドレスを半角英数字で入力します。 ●ポート 入力必須です。使用できる文字は、半角数字です。
8	ユーザ名	プロキシサーバーの認証に用いるユーザー名を入力します。
9	パスワード	<p>プロキシサーバーの認証に用いるパスワードを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●変更する パスワードを変更する場合にチェックを入れます。
10	セキュリティの種類	<p>Wi-Fiのセキュリティを設定します。以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「なし」、「WEP」、「WPA/WPA2 パーソナル」、「WPA2 パーソナル (Apple TVを除く iOS 8以上)」、「WPA3 パーソナル (iOS 13以上)」、「任意 (パーソナル)」、「ダイナミック WEP」、「WPA/WPA2 エンタープライズ」、「WPA2 エンタープライズ (Apple TVを除く iOS 8以上)」、「WPA3 エンタープライズ (iOS 13以上)」、「任意 (エンタープライズ)」 <input checked="" type="checkbox"/> 「WEP」、「WPA/WPA2 パーソナル」、「WPA2 パーソナル (Apple TVを除く iOS 8以上)」、「WPA3 パーソナル (iOS 13以上)」、「任意 (パーソナル)」を選択した場合は、「パスワード」が表示されますので、入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> 「ダイナミック WEP」、「WPA/WPA2 エンタープライズ」、「WPA2 エンタープライズ (Apple TVを除く iOS 8以上)」、「WPA3 エンタープライズ (iOS 13以上)」を選択した場合は、エンタープライズ設定の項目が表示されます。 <p> 「画面 (エンタープライズ設定 (プロトコル))」 535 ページ</p> <p> 「画面 (エンタープライズ設定 (信頼))」 537 ページ</p>
11	ネットワークのタイプ	<p>ネットワークのタイプを以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●標準 標準ネットワークの場合に選択します。 ●レガシーホットスポット レガシーホットスポットの場合に選択します。 ●Passpoint Passpointの場合に選択します。選択すると設定項目が表示されます。設定項目については、以下を参照してください。 <p> 「画面 (ネットワークのタイプ: Passpoint)」 534 ページ</p>

項番	項目	説明
12	高速レーンの QoS マーキング	<p>QoS マーキングを制限するかどうかを以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">● QoS マーキングを制限しない QoS マーキングを制限しません。● QoS マーキングを制限する 選択すると、制限についての設定項目が表示されます。設定項目については、以下を参照してください。 <p> 「画面 (高速レーンの QoS マーキング : QoS マーキングを制限する)」 537 ページ</p>

◆画面（プロキシ設定：自動）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] →一覧から対象を選択→ [Wi-Fi 設定] タブ→ [新規作成] または [編集]

項番	項目	説明
1	SSID(サービスセット 識別子)	利用する Wi-Fi ネットワークの SSID の名称を入力してください。
2	非公開ネットワーク	●有効 非公開ネットワークを端末に表示する場合は、「有効」にチェックを入れます。
3	自動接続	●有効 自動接続を行う場合は、「有効」にチェックを入れます。 ☑端末の Wi-Fi 設定をオフにしている場合は、自動継続されません。オンにしている場合、項番 1 で設定した SSID に自動継続されます。
4	キャプティブネットワーク検出を無効にする	●有効 キャプティブネットワークの検出を無効にする場合は、「有効」にチェックを入れます。

項番	項目	説明
5	関連付けを回避するための MAC ランダム化を無効にする	<ul style="list-style-type: none"> ●有効 iOS 14.0 以上の端末で、MAC アドレスのランダム化を無効にする場合は、「有効」にチェックを入れます。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 14.0 以上の端末の [設定] → [Wi-Fi] → [プライベートアドレス] が無効になります。デフォルト値は有効になってます。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 14.0~14.1 の端末の場合は、本設定を無効にしても、端末から手動で有効に変更できます。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 14.0 未満の端末に配信したあとで、iOS 14.0 以上にアップデートしても無効になりません。
6	プロキシ設定	「自動」を選択します。
7	プロキシサーバーの URL	<p>プロキシ設定が「自動」な場合、入力必須です。プロキシ設定を定義している PAC ファイルの URL です。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 設定を誤った場合通信不能となり、制御できなくなってしまうため十分ご確認ください。</p>
8	PAC が到達不能の場合に直接接続を許可	<ul style="list-style-type: none"> ●許可する チェックボックスのチェックを外すと、PAC ファイルに到達できない場合、デバイスはデスティネーションに直接接続できません。
9	セキュリティの種類	<p>Wi-Fi のセキュリティを設定します。以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「なし」、「WEP」、「WPA/WPA2 パーソナル」、「WPA2 パーソナル (Apple TV を除く iOS 8 以上)」、「WPA3 パーソナル (iOS 13 以上)」、「任意 (パーソナル)」、「ダイナミック WEP」、「WPA/WPA2 エンタープライズ」、「WPA2 エンタープライズ (Apple TV を除く iOS 8 以上)」、「WPA3 エンタープライズ (iOS 13 以上)」、「任意 (エンタープライズ)」 <input checked="" type="checkbox"/> 「WEP」、「WPA/WPA2 パーソナル」、「WPA2 パーソナル (Apple TV を除く iOS 8 以上)」、「WPA3 パーソナル (iOS 13 以上)」、「任意 (パーソナル)」を選択した場合は、「パスワード」が表示されますので、入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> 「ダイナミック WEP」、「WPA/WPA2 エンタープライズ」、「WPA2 エンタープライズ (Apple TV を除く iOS 8 以上)」、「WPA3 エンタープライズ (iOS 13 以上)」を選択した場合は、エンタープライズ設定の項目が表示されます。 <p style="text-align: center;">🔗 「画面 (エンタープライズ設定 (プロトコル))」 535 ページ</p> <p style="text-align: center;">🔗 「画面 (エンタープライズ設定 (信頼))」 537 ページ</p>
10	ネットワークのタイプ	<p>ネットワークのタイプを以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●標準 標準ネットワークの場合に選択します。 ●レガシーホットスポット レガシーホットスポットの場合に選択します。 ●Passpoint Passpointの場合に選択します。選択すると設定項目が表示されます。設定項目については、以下を参照してください。 <p style="text-align: center;">🔗 「画面 (ネットワークのタイプ: Passpoint)」 534 ページ</p>
11	高速レーンの QoS マーキング	<p>QoS マーキングを制限するかどうかを以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●QoS マーキングを制限しない QoS マーキングを制限しません。 ●QoS マーキングを制限する 選択すると、制限についての設定項目が表示されます。設定項目については、以下を参照してください。 <p style="text-align: center;">🔗 「画面 (高速レーンの QoS マーキング: QoS マーキングを制限する)」 537 ページ</p>

◆画面 (ネットワークのタイプ: Passpoint)

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [Wi-Fi 設定] タブ → [新規作成] または [編集]

項番	項目	説明
1	プロバイダの表示名	プロバイダの表示名を入力します。
2	ドメイン名	ドメイン名を入力します。
3	ローミングコンソーシアム OI	ローミングコンソーシアムの組織識別子を登録します。 + をクリックして 300 件まで登録できます。
4	NAI 保護領域名	ネットワークアクセス識別子の領域名を登録します。 + をクリックして 300 件まで登録できます。
5	MCC/MNC	MCC を MNC と登録します。 + をクリックして 300 件まで登録できます。
6	ローミングパートナーの Passpoint ネットワークに接続	チェックを入れると、ローミングパートナーの Passpoint ネットワークに接続できます。

◆画面 (エンタープライズ設定 (プロトコル))

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] →一覧から対象を選択→ [Wi-Fi 設定] タブ→ [新規作成] または [編集]



項番	項目	説明
1	[プロトコル]	「エンタープライズ設定 (プロトコル)」を設定する場合に、クリックします。
2	[信頼]	「エンタープライズ設定 (信頼)」を設定する場合に、クリックします。
3	受け入れた EAP の種類	<p>受け入れた EAP の種類にチェックを入れます。チェックを入れると種類対応した設定項目が表示されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 固有名証明書のリストボックスに、表示される証明書の上限は 100 件です。表示されていない証明書を選択したい場合は、証明書名を入力してください。</p> <p>●TLS チェックを入れると、以下の項目が設定できるようになります。 ・固有名証明書 ・TLS の最小バージョン ・TLS の最大バージョン</p> <p>●LEAP チェックを入れると、以下の項目が設定できるようになります。 ・ユーザ名 ・接続ごとにパスワードを使用 ・パスワード</p> <p>●EAP_FAST チェックを入れると、以下の項目が設定できるようになります。 ・EAP-FAST 以下のチェック項目が表示されます。 ・PAC を使用 ・PAC をプロビジョニング <input checked="" type="checkbox"/> 「PAC を使用」にチェックを入れると、チェックできるようになります。 ・PAC を匿名でプロビジョニング <input checked="" type="checkbox"/> 「PAC を使用」にチェックを入れると、チェックできるようになります。 ・ユーザ名 ・接続ごとにパスワードを使用 ・パスワード ・固有名証明書</p>

項番	項目	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • 外部 ID • TLS の最小バージョン • TLS の最大バージョン ●EAP_AKA ●8TTLS <ul style="list-style-type: none"> チェックを入れると、以下の項目が設定できるようになります。 • ユーザ名 • 接続ごとにパスワードを使用 • パスワード • 固有名証明書 • 内部認証 • 外部 ID • TLS の最小バージョン • TLS の最大バージョン ●PEAP <ul style="list-style-type: none"> チェックを入れると、以下の項目が設定できるようになります。 • ユーザ名 • 接続ごとにパスワードを使用 • パスワード • 固有名証明書 • 外部 ID • TLS の最小バージョン • TLS の最大バージョン ●EAP_SIM <ul style="list-style-type: none"> チェックを入れると、以下の項目が設定できるようになります。 • EAP-T <ul style="list-style-type: none"> 以下のチェック項目が表示されます。 • 2つの RAND を許可

◆画面（エンタープライズ設定（信頼））

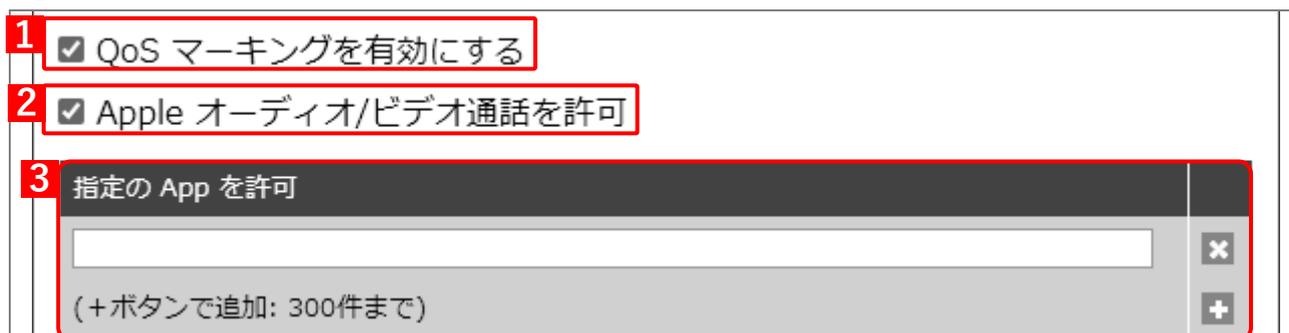
表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] →一覧から対象を選択→ [Wi-Fi 設定] タブ→ [新規作成] または [編集]



項番	項目	説明
1	[プロトコル]	「エンタープライズ設定（プロトコル）」を設定する場合に、クリックします。
2	[信頼]	「エンタープライズ設定（信頼）」を設定する場合に、クリックします。
3	信頼できる証明書	登録されている CA 証明書が表示されます。対象の CA 証明書にチェックを入れます。
4	信頼できるサーバ証明書の名前	サーバーの TSL 証明書の名前を登録します。+ をクリックして 300 件まで登録できます。

◆画面（高速レーンの QoS マーキング：QoS マーキングを制限する）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] →一覧から対象を選択→ [Wi-Fi 設定] タブ→ [新規作成] または [編集]



項番	項目	説明
1	QoS マーキングを有効にする	チェックを入れると QoS マーキングが有効になります。
2	Apple オーディオ/ビデオ通話を許可	チェックを入れると Apple オーディオおよびビデオ通話を許可します。
3	指定の App を許可	許可するアプリを登録します。 + をクリックして 300 件まで登録できます。

8.3.1.6 [その他▼] タブ/メール設定

メールに関する各種の設定を行います。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から
対象を選択 → [その他▼] タブ → [メール設定] → [新規作成] または [編集]

The screenshot shows the 'Mail Settings - Editing' screen in a management console. The interface includes a top navigation bar with tabs: '管理' (Management), '一般' (General), 'パスコード設定' (Passcode Settings), 'iOS制限設定' (iOS Restrictions Settings), 'Wi-Fi 設定' (Wi-Fi Settings), 'その他' (Other), and '操作' (Action). The 'その他' tab is selected. The main content area is titled 'メール設定 - 編集中' (Mail Settings - Editing). It contains several input fields and checkboxes, each highlighted with a red box and a number from 1 to 11:

- 1: アカウントの説明 (Account description)
- 2: アカウントの種類 (Account type), currently set to IMAP
- 3: パスの接頭辞 (Prefix)
- 4: ユーザー情報 (User information), with a checked checkbox for '所属ユーザーの情報を利用' (Use information of the user you belong to)
- 5: ユーザ表示名 (User display name)
- 6: メールアドレス (Email address)
- 7: ユーザがこのアカウントからメッセージを移動することを許可 (Allow user to move messages from this account), with a checked checkbox for 'する' (Yes)
- 8: 最近使ったアドレスの同期を許可 (Allow syncing of recently used addresses), with a checked checkbox for 'する' (Yes)
- 9: "メール"でのみ使用 (Use only in "Mail"), with an unchecked checkbox for 'はい' (Yes)
- 10: 受信メール (Incoming mail) section, including:
 - メールサーバとポート (Mail server and port): [] : 993
 - ユーザ名 (Username): []
 - 認証のタイプ (Authentication type): パスワード (Password)
 - パスワード (Password): []
 - SSL を使用 (Use SSL), with a checked checkbox for 'はい' (Yes)
- 11: 送信メール (Outgoing mail) section, including:
 - メールサーバとポート (Mail server and port): [] : 587
 - ユーザ名 (Username): []
 - 認証のタイプ (Authentication type): パスワード (Password)
 - パスワード (Password): []
 - 送信パスワードを受信パスワードと同じにする (Use outgoing password as incoming password)
 - SSL を使用 (Use SSL), with a checked checkbox for 'はい' (Yes)

At the bottom of the screen, there are two buttons: '取消' (Cancel) and '保存' (Save). Below the form, there is a small disclaimer text:

※各項目の詳細はこちら (【目次】の【MDM設定】を参照してください)

※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイト上に正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

項番	項目	説明
1	アカウントの説明	電子メールアカウントの説明を指定します。これが「Mail and Settings」アプリに表示されます。
2	アカウントの種類	このアカウントが用いるプロトコルを定義します。以下から選択します。 ● 「IMAP」、「POP」
3	パスの接頭辞	パスの接頭辞を入力してください。
4	ユーザー情報	● 所属ユーザーの情報を利用 所属ユーザーの情報を利用するか選択します。利用する場合は、チェックを入れます。
5	ユーザ表示名	アカウントのユーザー名称を入力してください。送信メッセージなどに埋め込まれます。
6	メールアドレス	ユーザーのメールアドレスを入力してください。
7	ユーザがこのアカウントからメッセージを移動することを許可	● する チェックボックスのチェックを外すと、メールアカウント間でメールメッセージを移動できなくなります。
8	最近使ったアドレスの同期を許可	● する チェックボックスのチェックを外すと、最近使ったアドレスがデバイス間で同期されなくなります。
9	"メール"でのみ使用	● はい チェックボックスにチェックを入れると、このアカウントから他社製アプリでメールを送信できません。
10	受信メール	<ul style="list-style-type: none"> ● メールサーバとポート <ul style="list-style-type: none"> ・ メールサーバ 受信メールサーバーのホスト名（または IP アドレス）を入力してください。 ・ ポート 受信メールサーバーのポート番号を半角数字で入力してください。 ● ユーザ名 電子メールアカウントのユーザー名称を入力してください。 ● 認証のタイプ 受信メールの認証スキームを表します。以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「なし」、「パスワード」、「MD5 チャレンジ応答」、「NTLM」、「HTTP MD5 ダイジェスト」 ● パスワード 受信メールサーバーのパスワードを入力してください。 ● SSL を使用 <ul style="list-style-type: none"> ・ はい 受信メールサーバーが認証用に SSL を利用するか否かを指定します。

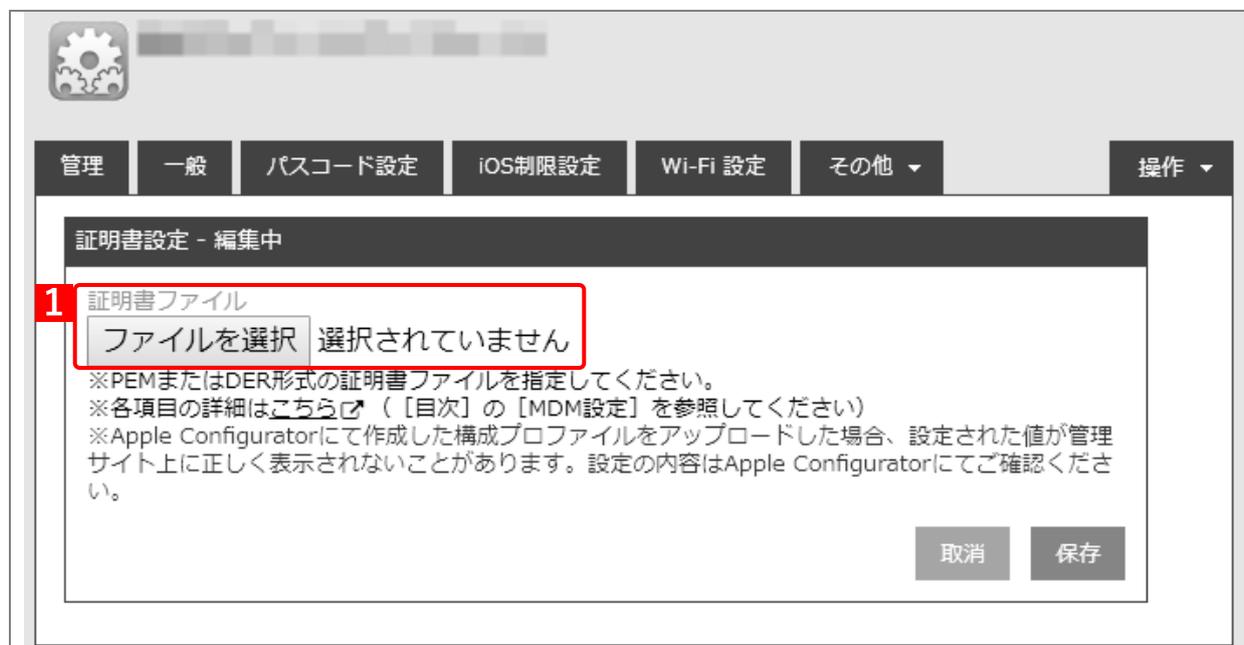
項番	項目	説明
11	送信メール	<ul style="list-style-type: none">●メールサーバとポート<ul style="list-style-type: none">・メールサーバ 受信メールサーバーのホスト名（または IP アドレス）を入力してください。●ポート 受信メールサーバーのポート番号を半角数字で入力してください。●ユーザ名 電子メールアカウントのユーザー名称を入力してください。●認証のタイプ 送信メールの認証スキームを指定します。以下から選択します。<ul style="list-style-type: none">・「なし」、「パスワード」、「MD5 チャレンジ応答」、「NTLM」、「HTTP MD5 ダイジェスト」●パスワード 送信メールサーバーのパスワードを入力してください。●送信パスワードを受信パスワードと同じにする 送信パスワードを受信パスワードと同じにするか選択します。●SSL を使用<ul style="list-style-type: none">・はい 送信メールサーバーが認証用に SSL を利用するか否かを指定します。

8.3.1.7 [その他▼] タブ／証明書設定

CA 証明書をアップロードします。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] →一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [証明書設定] → [新規作成] または [編集]



項番	項目	説明
1	証明書ファイル	アップロードする CA 証明書を指定します。[ファイルを選択] をクリックして、アップロードする CA 証明書を選択してください。なお、アップロードには PEM または DER 形式で、エンコードされた CA 証明書を指定してください。

8.3.1.8 [その他▼] タブ／グローバル HTTP プロキシ設定

グローバル HTTP プロキシに関する各種の設定を行います。

プロキシタイプによって設定内容が異なります。

 画面（プロキシタイプ：手動）

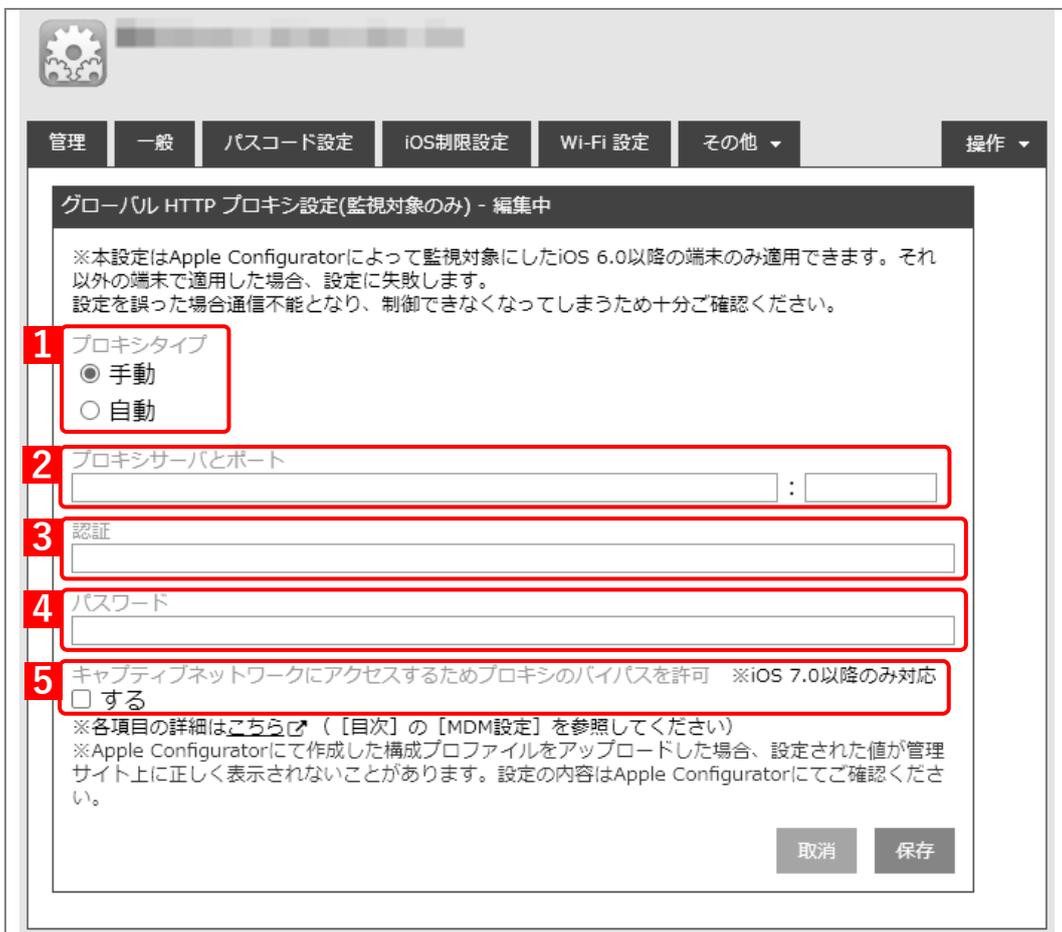
 画面（プロキシタイプ：自動）

 認証が必要なプロキシでは、プロキシタイプで [手動] を選択します。

 iOS 6.0 以上の監視対象端末で設定できます。iOS 6.0 未満の端末の場合は通信不能となり、制御できなくなります。使用している端末を十分に確認してください。

◆画面（プロキシタイプ：手動）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [グローバル HTTP プロキシ設定] → [新規作成] または [編集]



グローバル HTTP プロキシ設定(監視対象のみ) - 編集

※本設定はApple Configuratorによって監視対象にしたiOS 6.0以降の端末のみ適用できます。それ以外の端末で適用した場合、設定に失敗します。
設定を誤った場合通信不能となり、制御できなくなってしまうため十分ご確認ください。

- 1 プロキシタイプ
 - 手動
 - 自動
- 2 プロキシサーバとポート
- 3 認証
- 4 パスワード
- 5 キャプティブネットワークにアクセスするためプロキシのバイパスを許可 ※iOS 7.0以降のみ対応
 - する

※各項目の詳細はこちら （【目次】の【MDM設定】を参照してください）
※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイト上に正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

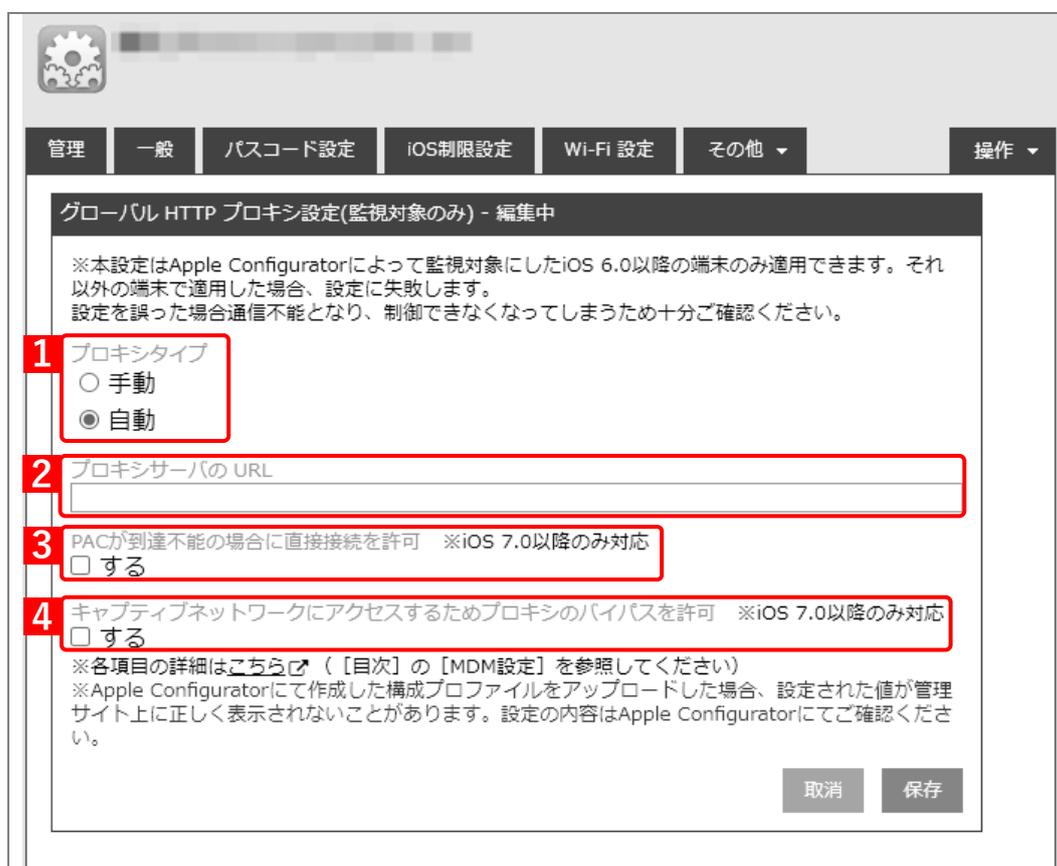
取消 保存

項番	項目	説明
1	プロキシタイプ	「手動」をクリックします。
2	プロキシサーバとポート	入力必須です。プロキシサーバは半角英数字と記号で入力します。ポートは0以上65,535以下を半角数字で入力してください。  監視対象端末の場合のみ適用されます。
3	認証	「プロキシタイプ」が「手動」の場合のみ、1文字から255文字の半角英数字と記号で入力してください。  監視対象端末の場合のみ適用されます。

項番	項目	説明
4	パスワード	「プロキシタイプ」が「手動」の場合のみ、1文字から255文字の半角英数字と記号で入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> 監視対象端末の場合のみ適用されます。
5	キャプティブネットワークにアクセスするためプロキシのバイパスを許可	「する」にチェックを入れると、iOS デバイスは既知のワイヤレスネットワークにアクセスするためにプロキシ設定を無視できます。 <input checked="" type="checkbox"/> 監視対象端末の場合のみ適用されます。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 7.0 以上のみ対応しています。

◆画面（プロキシタイプ：自動）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [グローバル HTTP プロキシ設定] → [新規作成] または [編集]



項番	項目	説明
1	プロキシタイプ	「自動」をクリックします。
2	プロキシサーバの URL	「プロキシタイプ」が「自動」の場合のみ、1文字から255文字の半角英数字と記号で入力してください。
3	PAC が到達不能の場合に直接接続を許可	「プロキシタイプ」が「自動」の場合のみ、「する」のチェックを外すと、PAC ファイルに到達できない場合、デバイスはデスティネーションに直接接続できません。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 7.0 以上のみ対応しています。
4	キャプティブネットワークにアクセスするためプロキシのバイパスを許可	「する」にチェックを入れると、iOS デバイスは既知のワイヤレスネットワークにアクセスするためにプロキシ設定を無視できます。 <input checked="" type="checkbox"/> 監視対象端末の場合のみ適用されます。

8.3.1.9 [その他▼] タブ／コンテンツフィルタ設定

コンテンツフィルタに関する各種の設定を行います。

-  画面 (フィルタ・タイプ: アダルトコンテンツを制限)
-  画面 (フィルタ・タイプ: 指定した Web サイトのみ)
-  画面 (フィルタ・タイプ: プラグイン (他社製 App))

◆画面 (フィルタ・タイプ: アダルトコンテンツを制限)

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [コンテンツフィルタ設定] → [新規作成] または [編集]

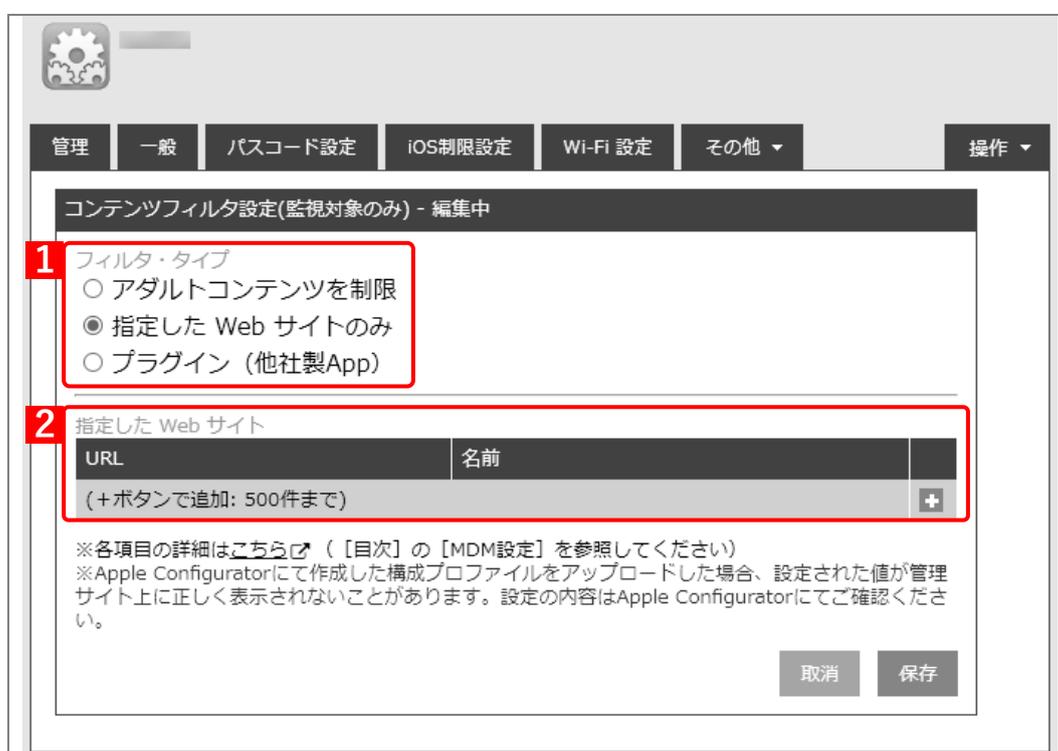


項番	項目	説明
1	フィルタ・タイプ	「アダルトコンテンツを制限」をクリックします。
2	許可された URL	入力必須です。URL を追加すると、その Web サイトが自動フィルターによってアダルトとみなされた場合でもアクセスが許可されます。このリストを空のままにすると、「許可されていない URL」にリストされているものを除いて、すべての非アダルト Web サイトへのアクセスが許可されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 監視対象端末の場合のみ適用されます。 <input checked="" type="checkbox"/> フィルタリングされる URL は、ドメイン名の最初の www を無視したサブドメインも対象となります。 ●URL 1 文字から 255 文字で入力します。 「http://」または「https://」で始めてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 1,000 件以下にしてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 重複しない URL を入力してください。

項番	項目	説明
3	許可されていない URL	<p>入力必須です。特定の Web サイトへのアクセスを拒否するには、サイトの URL をこのリストに追加します。ユーザーは、これらのサイトにアクセスできません（自動フィルターによって非アダルトとみなされた場合でも）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 監視対象端末の場合のみ適用されます。 <input checked="" type="checkbox"/> フィルタリングされる URL は、ドメイン名の最初の www を無視したサブドメインも対象となります。 <p>●URL 1 文字から 255 文字で入力します。 「http://」または「https://」で始めてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 500 件以下にしてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 重複しない URL を入力してください。

◆画面（フィルタ・タイプ：指定した Web サイトのみ）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [コンテンツフィルタ設定] → [新規作成] または [編集]



項番	項目	説明
1	フィルタ・タイプ	「指定した Web サイトのみ」をクリックします。
2	指定した Web サイト	<p>アクセスを許可したい Web サイトを追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> フィルタリングされる URL は、ドメイン名の最初の www を無視したサブドメインも対象となります。 <p>●URL Web サイトの URL を 1 文字から 255 文字で入力してください。 「http://」または「https://」で始めてください。</p> <p>●名前 名前を 1 文字から 30 文字で入力してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 監視対象端末の場合のみ適用されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 「https://www.apple.com/」と「apple.com」を含んだ Web サイトは、本項目に追加しなくてもアクセスできることがあります。

◆画面 (フィルタ・タイプ: プラグイン (他社製 App))

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [コンテンツフィルタ設定] → [新規作成] または [編集]

- ☑ 設定したい他社製アプリのサービス提供元に、設定値を確認してください。
- ☑ Apple Configurator 2 で設定が可能な「カスタムデータ」の項目を利用したい場合は、Apple Configurator 2 で作成した構成プロファイルをアップロードしてください。

管理 一般 パスコード設定 iOS制限設定 Wi-Fi 設定 その他 ▼ 操作 ▼

コンテンツフィルタ設定(監視対象のみ) - 編集集中

1 フィルタ・タイプ

- アダルトコンテンツを制限
- 指定した Web サイトのみ
- プラグイン (他社製App)

2 フィルタ名

識別子

サービスのアドレス

組織

ユーザ名

パスワード

証明書
証明書ペイロードに証明書を追加 ▼

- WebKitトラフィックをフィルタ
- ソケット・トラフィックをフィルタ

※「WebKitトラフィックをフィルタ」、「ソケット・トラフィックをフィルタ」のうち1つ以上有効にしてください。

カスタムデータ

Key	Type	Value
(+ボタンで追加: 100件まで)		

※各項目の詳細はこちら ([目次] の [MDM設定] を参照してください)
 ※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイト上に正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

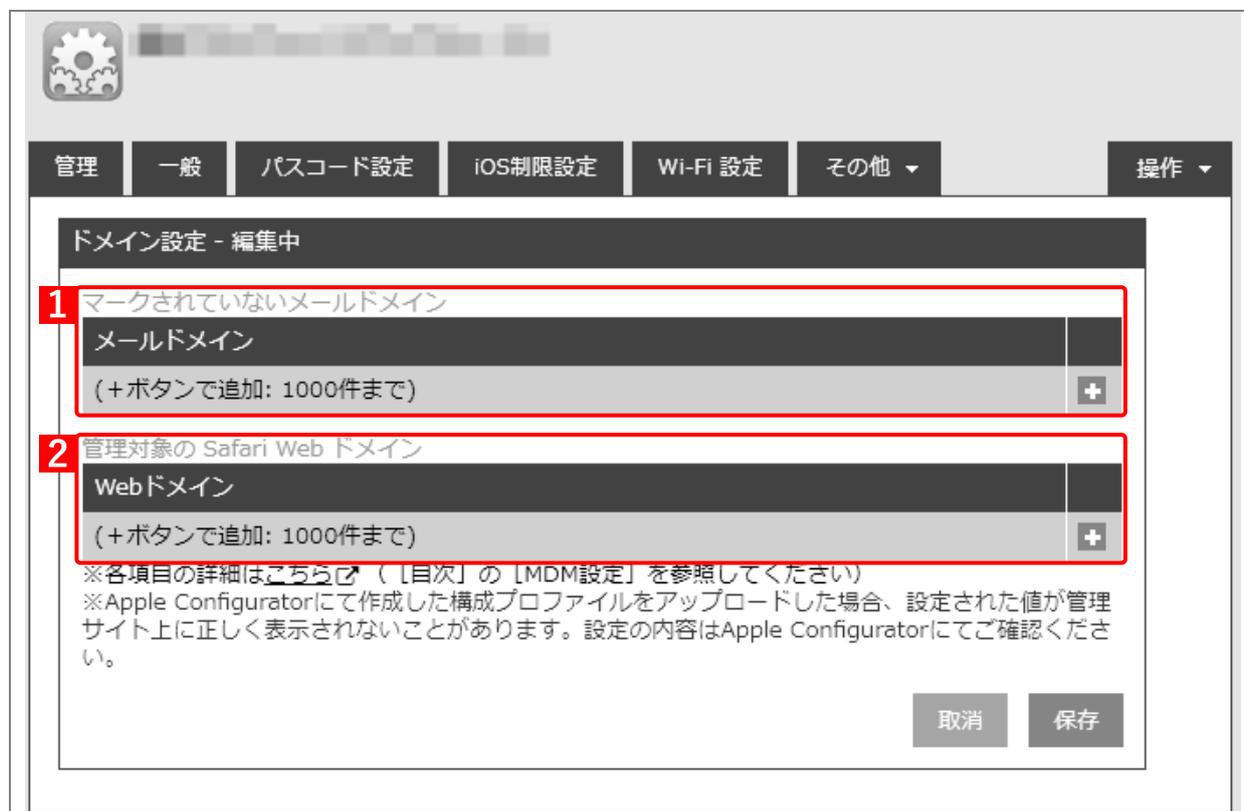
項番	項目	説明
1	フィルタ・タイプ	「プラグイン (他社製 App)」 をクリックします。
2	設定値	<p>以下の設定値を入力または選択します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 他社製アプリのサービス提供元に確認した内容を設定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フィルタ名 ● 識別子 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> フィルタ名、識別子は入力必須です。 ● サービスのアドレス ● 組織 ● ユーザ名 ● パスワード ● 証明書 <ul style="list-style-type: none"> ・ 証明書ペイロードに証明書を追加 ・ (機器に設定されているクライアント証明書) <p><input checked="" type="checkbox"/> Apple Configurator 2 で作成した構成プロファイルをアップロードした場合は、「証明書ペイロードに証明書を追加」を選択してアップロードすると、管理サイト画面の証明書に「(なし)」と表示されますが、証明書が削除されるわけではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● WebKit トラフィックをフィルタ ● ソケット・トラフィックをフィルタ <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 「WebKit トラフィックをフィルタ」「ソケット・トラフィックをフィルタ」は、デフォルトで2つとも有効になっています。必ず1つ以上有効にしてください。 ● カスタムデータ <p>以下の項目を任意の値で設定することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Key Key を入力します。 ・ Type Type を「String」、「Integer」、「Boolean」から選択します。 ・ Value 「Type」で選択した Type に応じて、Value または変数を入力します。「Type」で「Boolean」を選択した場合は、「false」または「true」を選択します。

8.3.1.10 [その他▼] タブ／ドメイン設定

ドメインに関する各種の設定を行います。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] →一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [ドメイン設定] → [新規作成] または [編集]



項番	項目	説明
1	マークされていないメールアドレス	これらのドメインと一致しないメールアドレスは"メール"でマークされます。リストとして追加してください。 <input checked="" type="checkbox"/> 1 設定に 1,000 件まで登録できます。
2	管理対象の Safari Web ドメイン	[制限] タブの「管理対象外出力先で管理対象ソースからの書類を許可」が有効な場合に、管理対象となる Web コンテンツの URL を指定します。管理対象のコンテンツは、Safari からのアクセス時に外部アプリの起動を制限されます。詳細については、以下を参照してください。 📖 「画面（機能の制限）」 512 ページ <input checked="" type="checkbox"/> 1 設定に 1,000 件まで登録できます。

8.3.1.11 [その他▼] タブ / VPN 設定

VPN に関する各種の設定を行います。

-  画面 (接続タイプ: IKEv2)
-  画面 (接続タイプ: IPSec)
-  画面 (接続タイプ: L2TP)
-  画面 (接続タイプ: PPTP (iOS 9 以前と OS X 10.11 以前))
-  画面 (接続タイプ: Cisco AnyConnect)
-  画面 (接続タイプ: Cisco Legacy AnyConnect)
-  画面 (接続タイプ: Juniper SSL)
-  画面 (接続タイプ: Pulse Secure)
-  画面 (接続タイプ: F5 SSL)
-  画面 (接続タイプ: SonicWALL Mobile Connect)
-  画面 (接続タイプ: Aruba VIA)
-  画面 (接続タイプ: Check Point Mobile VPN)
-  画面 (接続タイプ: カスタム SSL)
-  画面 (プロキシ設定: 手動)
-  画面 (プロキシ設定: 自動)

 接続タイプの入力項目については、以下を参照してください。

 「(設定 - iOS) VPN 設定」 131 ページ

◆画面（接続タイプ：IKEv2）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] → [VPN 設定] → [新規作成] または [編集]

✎以下の画面は、[新規作成] で開いたときに表示される項目です。設定により表示される項目が異なります。

The screenshot shows the 'VPN 設定 - 編集' screen in iOS. The interface is in Japanese. At the top, there are tabs for '管理', '一般', 'パスコード設定', 'iOS制限設定', 'Wi-Fi 設定', and 'その他'. Below these is a navigation bar with 'VPN 設定 - 編集中'. The main content area contains various configuration fields and options, each highlighted with a red box and a number from 1 to 22. The fields include: 1. 接続名 (Connection Name), 2. 接続のタイプ (Connection Type) set to IKEv2, 3. 共有シークレット (Shared Secret) section with '共有シークレット' dropdown and '共有シークレット' input, 4. VPN常時接続 (監視対象のみ) (VPN Always-on (Monitoring Only)), 5. サーバ (Server) input field, 6. リモート識別子 (Remote Identifier) input field, 7. ローカル識別子 (Local Identifier) input field, 8. 共有シークレット (Shared Secret) dropdown menu, 9. EAPを有効にする (Enable EAP) checkbox, 10. 接続を解除しない (Do not disconnect) dropdown menu, 11. DPD (デッドピア検出) のレート (DPD Rate) dropdown menu, 12. リダイレクトを無効にする (Disable Redirect) checkbox, 13. 最大転送単位(MTU) (Maximum Transmission Unit) input field, 14. オンデマンドVPNを有効にする (Enable On-demand VPN) checkbox, 15. IKE SA パラメータ (IKE SA Parameters) section with dropdowns for 暗号化アルゴリズム (Encryption Algorithm) set to AES-256, 整合性アルゴリズム (Integrity Algorithm) set to SHA2-256, Diffie-Hellman グループ (Diffie-Hellman Group) set to グループ1, 2, 及び5, and 存続期間 (分単位) (Lifetime) set to 1440, 16. DNSサーバアドレス (DNS Server Address) input field, 17. ドメイン名 (Domain Name) input field, 18. DNS検索ドメイン (DNS Search Domain) input field, 19. DNS追加一致ドメイン (DNS Additional Search Domain) input field, 20. 追加ドメインを検索ドメインのリゾルバーのリストに含める (Include additional domains in the resolver's list of search domains) checkbox, 21. プロキシ設定 (Proxy Settings) dropdown menu, 22. 備考 (Remarks) text area. At the bottom, there are '取消' (Cancel) and '保存' (Save) buttons.

項番	項目	説明
1	接続名	接続の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。
2	接続のタイプ	「IKEv2」を選択します。
3	ユーザ情報	<ul style="list-style-type: none"> ● [所属ユーザーの情報を利用] 所属ユーザーの情報を利用する場合、チェックを入れます。
4	VPN 常時接続	VPN を常時接続する場合、設定します。
	[VPN 常時接続 (監視対象のみ)]	<p>VPN を常時接続する場合、チェックを入れます。 チェックを入れると、以下の項目が設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [モバイル通信] モバイル通信でトンネル構成を設定する場合、選択します。以下の項目が設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ サーバ ・ リモート識別子 ・ ローカル識別子 ・ コンピュータ認証 ・ EAP を有効にする ・ デバイスのスリープ中も NAT KeepAlive を有効にする ・ NAT KeepAlive の間隔 (秒単位) ・ DPD (デッドピア検出) のレート ・ リダイレクトを無効にする ・ モバイル環境とマルチホーミングを無効にする ・ IPv4 / IPv6 内部サブネットの属性を使用する ・ Perfect Forward Secrecy を有効にする ・ 証明書失効チェックを有効にする ・ モバイル通信のフォールバックを有効にする ・ VPN 経由のルートをローカルのルートより優先する ・ APNs ネットワークトラフィックをトンネルから除外する ・ セルラーサービスのネットワークトラフィックをトンネルから除外する ・ すべてのローカルネットワークトラフィックを VPN 以外のルートにルーティングする ・ すべてのトラフィックを VPN 経由のルートにルーティングする ● [Wi-Fi 接続] Wi-Fi 接続でトンネル構成を設定する場合選択します。以下の項目が設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ サーバ ・ リモート識別子 ・ ローカル識別子 ・ コンピュータ認証 ・ EAP を有効にする ・ デバイスのスリープ中も NAT KeepAlive を有効にする ・ NAT KeepAlive の間隔 (秒単位) ・ DPD (デッドピア検出) のレート ・ リダイレクトを無効にする ・ モバイル環境とマルチホーミングを無効にする ・ IPv4 / IPv6 内部サブネットの属性を使用する ・ Perfect Forward Secrecy を有効にする ・ 証明書失効チェックを有効にする

項番	項目	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • モバイル通信のフォールバックを有効にする • VPN 経由のルートをローカルのルートより優先する • APNs ネットワークトラフィックをトンネルから除外する • セルラーサービスのネットワークトラフィックをトンネルから除外する • すべてのローカルネットワークトラフィックを VPN 以外のルートにルーティングする • すべてのトラフィックを VPN 経由のルートにルーティングする ● デバイスのスリープ中も NAT KeepAlive を有効にする デバイスのスリープ中も NAT KeepAlive を有効にする場合は、チェックを入れます。 ● NAT KeepAlive の間隔 (秒単位) NAT KeepAlive の間隔を 20 秒～1440 秒の範囲で入力します。 ● サービスの例外 以下の項目を設定します。[トンネル経由のトラフィックを許可]、[トンネル外からのトラフィックを許可]、[トラフィックを禁止] から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • ボイスメール • AirPrint • モバイル通信サービス ● [VPN トンネル外からのキャプティブ Web シートのトラフィックを許可] VPN トンネル外からのキャプティブ Web シートのトラフィックを許可する場合は、チェックを入れます。 ● [VPN トンネル外からのすべてのキャプティブネットワーク App のトラフィックを許可] VPN トンネル外からのすべてのキャプティブネットワーク App のトラフィックを許可する場合は、チェックを入れます。 ● キャプティブネットワーク App のバンドル ID キャプティブネットワーク App のバンドル ID を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> [VPN トンネル外からのすべてのキャプティブネットワーク App のトラフィックを許可] にチェックが入っていない場合、表示されます。 ● 例外的に通信を許可するアプリケーション 例外的に通信を許可したいアプリがある場合、以下を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • バンドル ID 例外的に通信を許可するアプリケーションのバンドル ID を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 • 通信を許可するプロトコル 通信を許可するプロトコルが「UDP」の場合、チェックを入れます。
	[ユーザーによる自動接続を無効化]	<p>ユーザーによる VPN の自動接続を無効化する場合、チェックを入れます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 本項目は [VPN 常時接続 (監視対象のみ)] にチェックを入れると、表示されます。</p>
	[モバイルデータ通信と Wi-Fi 接続に同じトンネル構成を使用]	<p>モバイル通信と Wi-Fi 接続で同じトンネル構成を設定する場合、チェックを入れます。</p> <p>以下の項目が設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● サーバ ● リモート識別子 ● ローカル識別子 ● コンピュータ認証 ● EAP を有効にする ● デバイスのスリープ中も NAT KeepAlive を有効にする ● NAT KeepAlive の間隔 (秒単位)

項番	項目	説明
		<ul style="list-style-type: none"> ●DPD (デッドピア検出) のレート ●リダイレクトを無効にする ●モバイル環境とマルチホーミングを無効にする ●IPv4 / IPv6 内部サブネットの属性を使用する ●Perfect Forward Secrecy を有効にする ●証明書失効チェックを有効にする ●モバイル通信のフォールバックを有効にする ●VPN 経由のルートをローカルのルートより優先する ●APNs ネットワークトラフィックをトンネルから除外する ●セルラーサービスのネットワークトラフィックをトンネルから除外する ●すべてのローカルネットワークトラフィックを VPN 以外のルートにルーティングする ●すべてのトラフィックを VPN 経由のルートにルーティングする <p><input checked="" type="checkbox"/>本項目は [VPN 常時接続 (監視対象のみ)] にチェックを入れると、表示されます。</p>
5	サーバ	サーバの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。
6	リモート識別子	FQDN、UserFQDN、アドレス、ASN1DN リモート端子のいずれかを入力します。
7	ローカル識別子	FQDN、UserFQDN、アドレス、ASN1DN リモート端子のいずれかを入力します。
8	コンピュータ認証	<p>接続時の認証タイプを以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [なし] ● [証明書] 以下の項目が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 固有名証明書 設定する証明書を選択します。 ・ 証明書のタイプ 発行された証明書の種類を選択します。 ・ サーバ証明書発行者のコモンネーム サーバ証明書発行者のコモンネームを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 ・ サーバ証明書のコモンネーム サーバ証明書のコモンネームを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 ● [共有シークレット] 接続するための共有シークレットの入力欄が表示されます。255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。
9	[EAP を有効にする]	<p>EAP で拡張する認証方式を設定する場合は、チェックを入れます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>チェックを入れると、「EPA 認証」が表示されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>チェックを入れない場合は、項番 8「コンピュータ認証」で [証明書] または [共有シークレット] を選択してください。</p>
	EAP 認証	<p>接続時の認証タイプを以下のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [ユーザー名/パスワード] 選択すると、以下が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ アカウント 接続を認証するためのユーザーのアカウントを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 ・ パスワード 接続を認証するためのパスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 ● [証明書] 選択すると、以下が表示されます。

項番	項目	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • 証明書のタイプ [RSA]、[ECDSA256]、[ECDSA384]、[ECDSA521]、[Ed25519] から選択します。 • サーバ証明書発行者のコモンネーム サーバ証明書発行者のコモンネームを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 • サーバ証明書のコモンネーム サーバ証明書のコモンネームを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 • TLS の最小バージョン [1.0]、[1.1]、[1.2] から選択します。 • TLS の最大バージョン [1.0]、[1.1]、[1.2] から選択します。 • 固有名証明書 リストボックスから設定する証明書を選択します。
10	待機時に接続解除	<p>待機時に接続を解除しない、または接続を解除する時間を設定します。以下のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [接続を解除しない] ● [一定期間後] 「分」「秒」を入力します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 項番 4 「VPN 常時接続」の [VPN 常時接続 (監視対象のみ)] にチェックが入っていないとき、本項目の設定ができます。</p>
11	DPD (デッドピア検出) のレート	<p>DPD の検出間隔を以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● [なし]、[低]、[中]、[高]
12	[リダイレクトを無効にする]	リダイレクトを無効にする場合は、チェックを入れます。
	[モバイル環境とマルチホーミングを無効にする]	モバイル環境とマルチホーミングを無効にする場合は、チェックを入れます。
	[IPv4 / IPv6 内部サブネットの属性を使用する]	IPv4 / IPv6 内部サブネットの属性を使用する場合は、チェックを入れます。
	[Perfect Forward Secrecy を有効にする]	Perfect Forward Secrecy を有効にする場合は、チェックを入れます。
	[証明書失効チェックを有効にする]	証明書失効チェックを有効にする場合は、チェックを入れます。
	[モバイル通信のフォールバックを有効にする]	モバイル通信のフォールバックを有効にする場合は、チェックを入れます。
	[VPN 経由のルートをローカルのルートより優先する]	<p>VPN 経由のルートをローカルのルートより優先する場合は、チェックを入れます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 本項目は [すべてのトラフィックを VPN 経由のルートにルーティングする] にチェックが入っていると、無効になります。</p>
	[APNs ネットワークトラフィックをトンネルから除外する]	<p>APNs ネットワークトラフィックをトンネルから除外する場合は、チェックを入れます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 本項目は [すべてのトラフィックを VPN 経由のルートにルーティングする] にチェックが入っていると、有効になります。</p>
	[セルラーサービスのネットワークトラフィックをトンネルから除外する]	<p>セルラーサービスのネットワークトラフィックをトンネルから除外する場合は、チェックを入れます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 本項目は [すべてのトラフィックを VPN 経由のルートにルーティングする] にチェックが入っていると、有効になります。</p>
	[すべてのローカルネットワークトラフィックを VPN 以外のルートにルーティングする]	<p>すべてのローカルネットワークトラフィックを VPN 以外のルートにルーティングする場合は、チェックを入れます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 本項目は [すべてのトラフィックを VPN 経由のルートにルーティングする] にチェックが入っていると、有効になります。</p>

項番	項目	説明
	[すべてのトラフィックを VPN 経由のルートにルーティングする]	すべてのトラフィックを VPN 経由のルートにルーティングする場合は、チェックを入れます。
13	最大転送単位 (MTU)	最大転送単位 (MTU) を 1280 (最小値) ~1400 (最大値) の範囲で入力します。
14	[オンデマンド VPN を有効にする]	オンデマンド VPN を有効にする場合は、チェックを入れます。 <input checked="" type="checkbox"/> チェックを入れると、[ユーザーによるオンデマンド VPN の切り替えを無効にする]、「オンデマンド VPN ルール」が表示されます。
	[ユーザーによるオンデマンド VPN の切り替えを無効にする]	ユーザーによるオンデマンド VPN の切り替えを無効にする場合は、チェックを入れます。
	オンデマンド VPN ルール	オンデマンド VPN ルールを追加します。以下の項目を選択、入力します。 ● アクション [接続する]、[切断する]、[通信時に判定して接続する]、[次回の接続を無効にする] から選択します。 ● アクションパラメータ アクションで [通信時に判定して接続する] を選択した場合、表示されます。 ・ ドメインアクション [必要に応じて確立]、[確立しない] から選択します。 ・ ドメイン ドメインを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 ・ DNS サーバアドレスドメイン DNS サーバのアドレスドメインを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> ドメインアクション で [必要に応じて確立] を選択した場合、表示されます。 ・ プローブ URL プローブ URL を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> ドメインアクション で [必要に応じて確立] を選択した場合、表示されます。 ● インターフェースタイプ [Ethernet]、[WiFi]、[Cellular] から選択します。 ● DNS ドメイン DNS ドメインを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 ● DNS サーバアドレス DNS サーバのアドレスを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 ● SSID SSID を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> インターフェースタイプ を [WiFi] に選択した場合、表示されます。 ● プローブ URL プローブ URL を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。
15	パラメーター	通信を確立するための制御値を設定します。 ● [IKE SA パラメータ] 1 回目の通信を確立するとき ● [子 SA パラメータ] 2 回目以降の通信を確立するとき
	暗号化アルゴリズム	以下の項目から選択します。 ● [DES]、[3DES]、[AES-128]、[AES-256]、[AES-128-GCM]、[AES-256-GCM]、[ChaCha20Poly1305]
	整合性アルゴリズム	以下の項目から選択します。 ● [SHA1-96]、[SHA1-160]、[SHA2-256]、[SHA2-384]、[SHA2-512]

項番	項目	説明
		 「暗号化アルゴリズム」で [AES-128-GCM]、[AES-256-GCM] を選択した場合は、本項目は無効になります。
	Diffie-Hellman グループ	以下の項目から選択します。 ● [1]、[2]、[5]、[14]、[15]、[16]、[17]、[18]、[19]、[20]、[21]、[30]  iOS 14.2 以上の端末の場合、[1]、[2]、[5] は対応していません。
	存続期間 (分単位)	SA 存続期間の Rekey 間隔を 10 分～1440 分の範囲で入力します。
16	DNS サーバアドレス	DNS サーバーのアドレスを追加します。255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。
17	ドメイン名	トンネルのプライマリドメイン名を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。
18	DNS 検索ドメイン	DNS 検索ドメインを追加します。255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。
19	DNS 追加一致ドメイン	DNS 追加一致ドメインを追加します。255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。
20	[追加ドメインを検索ドメインのリゾルバーのリストに含める]	追加ドメインを検索ドメインのリゾルバーのリストに含める場合は、チェックを入れます。
21	プロキシ設定	以下の項目から選択します。 ● [なし] ● [手動] 詳細については、以下を参照してください。  「画面 (プロキシ設定: 手動)」 581 ページ ● [自動] 詳細については、以下を参照してください。  「画面 (プロキシ設定: 自動)」 582 ページ
22	備考	設定に関する内容など保存しておきたい場合、入力します。  備考は構成プロファイルには出力されません。

◆画面（接続タイプ：IPSec）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] →一覧から対象を選択→ [その他▼] タブ→ [VPN 設定] → [新規作成] または [編集]

項番	項目	説明
1	接続名	接続の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
2	接続のタイプ	「IPsec」を選択します。
3	ユーザ情報	●所属ユーザーの情報を利用 所属ユーザーの情報を利用する場合は、「所属ユーザーの情報を利用」にチェックを入れます。
4	サーバ	サーバーの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
5	アカウント	アカウントの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
6	パスワード	パスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
7	コンピュータ認証	以下の項目から選択します。 ●「証明書」、「共有シークレット/グループ名」

項番	項目	説明
8	グループ名	グループの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> コンピュータ認証で「共有シークレット／グループ名」を選択した場合にのみ表示されます。
	固有名証明書	以下の項目から選択します。 ● 「証明書ペイロードに証明書を追加」、「(機器に設定されているクライアント証明書)」、登録済のクライアント証明書 <input checked="" type="checkbox"/> コンピュータ認証で「証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
	ユーザ PIN を含む	● ユーザ PIN を含む 必要な場合は「ユーザ PIN を含む」にチェックを入れます。 <input checked="" type="checkbox"/> コンピュータ認証で「証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
	オンデマンド VPN を有効にする	● オンデマンド VPN を有効にする 必要な場合は「オンデマンド VPN を有効にする」にチェックを入れます。 チェックを入れると以下の項目が表示されます。 ・ 該当ドメイン／ホスト 255 文字以内の半角英数字、全角のひらがな・カタカナ・漢字とピリオド「.」、ハイフン「-」で入力してください。 ・ 要求があったときの処理 以下から選択します。 ・ 「常に確立」、「確立しない」、「必要に応じて確立」 <input checked="" type="checkbox"/> 100 件以下にしてください。 <input checked="" type="checkbox"/> コンピュータ認証で「証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
9	共有シークレット	共有シークレットを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。 ・ コンピュータ認証で「共有シークレット／グループ名」を選択した場合にのみ表示されます。
10	ハイブリッド認証を使用	● ハイブリッド認証を使用 ハイブリッド認証を使用する場合は、「ハイブリッド認証を使用」にチェックを入れます。 <input checked="" type="checkbox"/> コンピュータ認証で「共有シークレット／グループ名」を選択した場合にのみ表示され、グループ名を入力した場合にチェックを入れることができます。
11	パスワードの入力を要求	● パスワードの入力を要求 パスワードの入力を要求する場合はチェックを入れます。 <input checked="" type="checkbox"/> コンピュータ認証で「共有シークレット／グループ名」を選択した場合にのみ表示されます。
12	プロキシ設定	以下の項目から選択します。 ● 「なし」、「手動」、「自動」 「なし」以外の詳細については、以下を参照してください。  「画面 (プロキシ設定：手動)」 581 ページ  「画面 (プロキシ設定：自動)」 582 ページ
13	備考	設定に関する内容など保存しておきたい場合にご利用ください。 <input checked="" type="checkbox"/> 備考は構成プロファイル出力に含まれません。

◆画面（接続タイプ：L2TP）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [VPN 設定] → [新規作成] または [編集]

管理 一般 パスコード設定 iOS制限設定 Wi-Fi 設定 その他 ▼ 操作 ▼

VPN 設定 - 編集

- 1 接続名
- 2 接続のタイプ
L2TP ▼
- 3 ユーザ情報
 所属ユーザーの情報を利用
- 4 サーバ
- 5 アカウント
- 6 ユーザ認証
 パスワード
 RSA SecureID
- 7 すべてのトラフィックを VPN 経由で送信
- 8 コンピュータ認証
証明書 ▼
- 9 固有名証明書
証明書ペイロードに証明書を追加
- 10 プロキシ設定
なし ▼
- 11 備考

※備考は構成プロファイル出力には含まれません。
 ※各項目の詳細は[こちら](#)（[目次]の[MDM設定]を参照してください）
 ※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイトに正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	接続名	接続の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
2	接続のタイプ	「L2TP」を選択します。
3	ユーザ情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 所属ユーザーの情報を利用 所属ユーザーの情報を利用する場合は、「所属ユーザーの情報を利用」にチェックを入れます。
4	サーバ	サーバの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
5	アカウント	アカウントの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
6	ユーザ認証	<p>以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「パスワード」、「RSA SecureID」 パスワードを選択した場合は 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください
7	すべてのトラフィックを VPN 経由で送信	<ul style="list-style-type: none"> ● すべてのトラフィックを VPN 経由で送信 すべてのトラフィックを VPN 経由で送信する場合は、「すべてのトラフィックを VPN 経由で送信」にチェックを入れます。
8	コンピュータ認証	<p>以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「証明書」、「共有シークレット」
9	固有名証明書	<p>以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「証明書ペイロードに証明書を追加」、「(機器に設定されているクライアント証明書)」、登録済みのクライアント証明書 <input checked="" type="checkbox"/> コンピュータ認証で「証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
	共有シークレット	<p>共有シークレットを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。</p> <input checked="" type="checkbox"/> コンピュータ認証で「共有シークレット」を選択した場合にのみ表示されません。
10	プロキシ設定	<p>以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「なし」、「手動」、「自動」 「なし」以外の詳細については、以下を参照してください。  「画面 (プロキシ設定: 手動)」 581 ページ  「画面 (プロキシ設定: 自動)」 582 ページ
11	備考	<p>設定に関する内容など保存しておきたい場合にご利用ください。</p> <input checked="" type="checkbox"/> 備考は構成プロファイル出力に含まれません。

◆画面（接続タイプ：PPTP（iOS 9 以前と OS X 10.11 以前））

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [VPN 設定] → [新規作成] または [編集]

VPN 設定 - 編集

- 1 接続名
- 2 接続のタイプ
PPTP (iOS 9 以前と OS X 10.11以前)
- 3 ユーザ情報
 所属ユーザーの情報を利用
- 4 サーバ
- 5 アカウント
- 6 ユーザ認証
 パスワード
 RSA SecureID
- 7 暗号化レベル
なし
- 8 すべてのトラフィックを VPN 経由で送信
- 9 プロキシ設定
なし
- 10 備考

※備考は構成プロファイル出力には含まれません。
※各項目の詳細はこちら [\(\[目次\] の \[MDM設定\] を参照してください\)](#)
※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイト上に正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	接続名	接続の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
2	接続のタイプ	「PPTP (iOS 9 以前と OS X 10.11 以前)」を選択します。
3	ユーザ情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 所属ユーザーの情報を利用 所属ユーザーの情報を利用する場合は、「所属ユーザーの情報を利用」にチェックを入れます。
4	サーバ	サーバの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
5	アカウント	アカウントの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
6	ユーザ認証	以下の項目から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「パスワード」、「RSA SecureID」 パスワードを選択した場合は 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください
7	暗号化レベル	以下の項目から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「なし」、「自動」、「最大(128bit)」
8	すべてのトラフィックを VPN 経由で送信	<ul style="list-style-type: none"> ● すべてのトラフィックを VPN 経由で送信 すべてのトラフィックを VPN 経由で送信する場合は、「すべてのトラフィックを VPN 経由で送信」にチェックを入れます。
9	プロキシ設定	以下の項目から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「なし」、「手動」、「自動」 「なし」以外の詳細については、以下を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 🔗 「画面 (プロキシ設定: 手動)」 581 ページ 🔗 「画面 (プロキシ設定: 自動)」 582 ページ
10	備考	設定に関する内容など保存しておきたい場合にご利用ください。 <input checked="" type="checkbox"/> 備考は構成プロファイル出力に含まれません。

◆画面（接続タイプ：Cisco AnyConnect）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [VPN 設定] → [新規作成] または [編集]

管理 一般 パスコード設定 iOS制限設定 Wi-Fi 設定 その他 ▼ 操作 ▼

VPN 設定 - 編集

- 1 接続名
- 2 接続のタイプ
Cisco AnyConnect ▼
- 3 ユーザ情報
 所属ユーザーの情報を利用
- 4 サーバ
- 5 アカウント
- 6 グループ
- 7 ユーザ認証
パスワード ▼
- 8 パスワード
- 9 待機時に接続解除
接続を解除しない ▼
- 10 プロキシ設定
なし ▼
- 11 備考

※備考は構成プロファイル出力には含まれません。
※各項目の詳細は[こちら](#)（[目次] の [MDM設定] を参照してください）
※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイト上に正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	接続名	接続の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
2	接続のタイプ	「Cisco AnyConnect」を選択します。
3	ユーザ情報	●所属ユーザーの情報を利用 所属ユーザーの情報を利用する場合は、「所属ユーザーの情報を利用」にチェックを入れます。
4	サーバ	サーバの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
5	アカウント	アカウントの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
6	グループ	グループの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
7	ユーザ認証	以下の項目から選択します。 ●「パスワード」、「証明書」、「パスワード+証明書」
8	パスワード	パスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証でパスワードまたは「パスワード+証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
	資格情報	以下の項目から選択します。 ●「証明書ペイロードに証明書を追加」、「(機器に設定されているクライアント証明書)」、登録済みのクライアント証明書 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」または「パスワード+証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
	オンデマンド VPN を有効にする	●オンデマンド VPN を有効にする 必要な場合は「オンデマンド VPN を有効にする」にチェックを入れます。チェックを入れると以下の項目が表示されます。 ・該当ドメイン/ホスト 255 文字以内の半角英数字、全角のひらがな・カタカナ・漢字とピリオド「.」、ハイフン「-」で入力してください。 ・要求があったときの処理 以下から選択します。 ・「常に確立」、「確立しない」、「必要に応じて確立」 <input checked="" type="checkbox"/> 100 件以下にしてください。 ・待機時に接続解除 以下から選択します。 「接続を解除しない」、「1 分」、「2 分」、「5 分」、「15 分」、「30 分」、「1 時間」 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」または「パスワード+証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
9	接続時に接続解除	以下の項目から選択します。 ●「接続を解除しない」、「一定期間後」 「一定期間後」を選択した場合は、「分」と「秒」を入力してください。
10	プロキシ設定	プロキシ設定について、以下の項目から選択します。 ●「なし」、「手動」、「自動」 「なし」以外の詳細については、以下を参照してください。 🔗 「画面 (プロキシ設定: 手動)」 581 ページ 🔗 「画面 (プロキシ設定: 自動)」 582 ページ
11	備考	設定に関する内容など保存しておきたい場合にご利用ください。 <input checked="" type="checkbox"/> 備考は構成プロファイル出力に含まれません。

◆画面（接続タイプ：Cisco Legacy AnyConnect）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [VPN 設定] → [新規作成] または [編集]

管理 一般 パスコード設定 iOS制限設定 Wi-Fi 設定 その他 ▼ 操作 ▼

VPN 設定 - 編集中

- 1 接続名
- 2 接続のタイプ
Cisco Legacy AnyConnect ▼
- 3 ユーザ情報
 所属ユーザーの情報を利用
- 4 サーバ
- 5 アカウント
- 6 グループ
- 7 ユーザ認証
パスワード ▼
- 8 パスワード
- 9 待機時に接続解除
接続を解除しない ▼
- 10 プロキシ設定
なし ▼
- 11 備考

※備考は構成プロファイル出力には含まれません。
 ※各項目の詳細は[こちら](#)（[目次] の [MDM設定] を参照してください）
 ※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイト上に正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	接続名	接続の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
2	接続のタイプ	「Cisco LegacyAnyConnect」を選択します。
3	ユーザ情報	●所属ユーザーの情報を利用 所属ユーザーの情報を利用する場合は、「所属ユーザーの情報を利用」にチェックを入れます。
4	サーバ	サーバの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
5	アカウント	アカウントの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
6	グループ	グループの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
7	ユーザ認証	以下の項目から選択します。 ●「パスワード」、「証明書」、「パスワード+証明書」
8	パスワード	パスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証でパスワードまたは「パスワード+証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
	資格情報	以下の項目から選択します。 ●「証明書ペイロードに証明書を追加」、「(機器に設定されているクライアント証明書)」、登録済みのクライアント証明書 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」または「パスワード+証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
	オンデマンド VPN を有効にする	●オンデマンド VPN を有効にする 必要な場合は「オンデマンド VPN を有効にする」にチェックを入れます。チェックを入れると以下の項目が表示されます。 ・該当ドメイン/ホスト 255 文字以内の半角英数字、全角のひらがな・カタカナ・漢字とピリオド「.」、ハイフン「-」で入力してください。 ・要求があったときの処理 以下から選択します。 ・「常に確立」、「確立しない」、「必要に応じて確立」 <input checked="" type="checkbox"/> 100 件以下にしてください。 ・待機時に接続解除 以下から選択します。 「接続を解除しない」、「1 分」、「2 分」、「5 分」、「15 分」、「30 分」、「1 時間」 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」または「パスワード+証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
9	待機時に接続解除	以下の項目から選択します。 ●「接続を解除しない」、「一定期間後」 「一定期間後」を選択した場合は、「分」と「秒」を入力してください。
10	プロキシ設定	プロキシ設定について、以下の項目から選択します。 ●「なし」、「手動」、「自動」 「なし」以外の詳細については、以下を参照してください。  「画面 (プロキシ設定: 手動)」581 ページ  「画面 (プロキシ設定: 自動)」582 ページ
11	備考	設定に関する内容など保存しておきたい場合にご利用ください。 <input checked="" type="checkbox"/> 備考は構成プロファイル出力に含まれません。

◆画面（接続タイプ：Juniper SSL）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [VPN 設定] → [新規作成] または [編集]

管理 一般 パスコード設定 iOS制限設定 Wi-Fi 設定 その他 ▼ 操作 ▼

VPN 設定 - 編集

- 1 接続名
- 2 接続のタイプ
Juniper SSL ▼
- 3 ユーザ情報
 所属ユーザーの情報を利用
- 4 サーバ
- 5 アカウント
- 6 保護領域
- 7 役割
- 8 ユーザ認証
パスワード ▼
- 9 パスワード
- 10 待機時に接続解除
接続を解除しない ▼
- 11 プロキシ設定
なし ▼
- 12 備考

※備考は構成プロファイル出力には含まれません。
※各項目の詳細はこちら （[目次] の [MDM設定] を参照してください）
※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイトに正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	接続名	接続の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
2	接続のタイプ	「Juniper SSL」を選択します。
3	ユーザ情報	●所属ユーザーの情報を利用 所属ユーザーの情報を利用する場合は、「所属ユーザーの情報を利用」にチェックを入れます。
4	サーバ	サーバーの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
5	アカウント	アカウントの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
6	保護領域	保護領域を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
7	役割	Juniper SSL で設定した役割を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
8	ユーザ認証	以下の項目から選択します。 ●「パスワード」、「証明書」、「パスワード+証明書」
9	パスワード	パスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証でパスワードまたは「パスワード+証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
	資格情報	以下の項目から選択します。 ●「証明書ペイロードに証明書を追加」、「(機器に設定されているクライアント証明書)」、登録済みのクライアント証明書 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」または「パスワード+証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
	オンデマンド VPN を有効にする	●オンデマンド VPN を有効にする 必要な場合は「オンデマンド VPN を有効にする」にチェックを入れます。チェックを入れると以下の項目が表示されます。 ・該当ドメイン/ホスト 255 文字以内の半角英数字、全角のひらがな・カタカナ・漢字とピリオド「.」、ハイフン「-」で入力してください。 ・要求があったときの処理 以下から選択します。 ・「常に確立」、「確立しない」、「必要に応じて確立」 <input checked="" type="checkbox"/> 100 件以下にしてください。 ・待機時に接続解除 以下から選択します。 「接続を解除しない」、「1 分」、「2 分」、「5 分」、「15 分」、「30 分」、「1 時間」 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」または「パスワード+証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
10	待機時に接続解除	以下の項目から選択します。 ●「接続を解除しない」、「一定期間後」 「一定期間後」を選択した場合は、「分」と「秒」を入力してください。
11	プロキシ設定	以下の項目から選択します。 ●「なし」、「手動」、「自動」 「なし」以外の詳細については、以下を参照してください。  「画面 (プロキシ設定: 手動)」 581 ページ  「画面 (プロキシ設定: 自動)」 582 ページ
12	備考	設定に関する内容など保存しておきたい場合にご利用ください。 <input checked="" type="checkbox"/> 備考は構成プロファイル出力に含まれません。

◆画面（接続タイプ：Pulse Secure）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [VPN 設定] → [新規作成] または [編集]

管理 一般 パスコード設定 iOS制限設定 Wi-Fi 設定 その他 ▼ 操作 ▼

VPN 設定 - 編集

- 1 接続名
- 2 接続のタイプ
Pulse Secure ▼
- 3 ユーザ情報
 所属ユーザーの情報を利用
- 4 サーバ
- 5 アカウント
- 6 保護領域
- 7 役割
- 8 ユーザ認証
パスワード ▼
- 9 パスワード
- 10 待機時に接続解除
接続を解除しない ▼
- 11 プロキシ設定
なし ▼
- 12 備考

※備考は構成プロファイル出力には含まれません。
※各項目の詳細は[こちら](#)（[目次]の[MDM設定]を参照してください）
※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイトに正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	接続名	接続の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
2	接続のタイプ	「Pulse Secure」を選択します。
3	ユーザ情報	●所属ユーザーの情報を利用 所属ユーザーの情報を利用する場合は、「所属ユーザーの情報を利用」にチェックを入れます。
4	サーバ	サーバーの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
5	アカウント	アカウントの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
6	保護領域	保護領域を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
7	役割	Pulse Secure で設定した役割を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
8	ユーザ認証	以下の項目から選択します。 ●「パスワード」、「証明書」、「パスワード+証明書」
9	パスワード	パスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」または「パスワード+証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
	資格情報	以下の項目から選択します。 ●「証明書ペイロードに証明書を追加」、「(機器に設定されているクライアント証明書)、登録済みのクライアント証明書」 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」または「パスワード+証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
	オンデマンド VPN を有効にする	●オンデマンド VPN を有効にする 必要な場合は「オンデマンド VPN を有効にする」にチェックを入れます。チェックを入れると以下の項目が表示されます。 ・該当ドメイン/ホスト 255 文字以内の半角英数字、全角のひらがな・カタカナ・漢字とピリオド「.」、ハイフン「-」で入力してください。 ・要求があったときの処理 以下から選択します。 ・「常に確立」、「確立しない」、「必要に応じて確立」 <input checked="" type="checkbox"/> 100 件以下にしてください。 ・待機時に接続解除 以下から選択します。 「接続を解除しない」、「1 分」、「2 分」、「5 分」、「15 分」、「30 分」、「1 時間」 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」または「パスワード+証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
10	待機時に接続解除	以下の項目から選択します。 ●「接続を解除しない」、「一定期間後」 「一定期間後」を選択した場合は、「分」と「秒」を入力してください。
11	プロキシ設定	以下の項目から選択します。 ●「なし」、「手動」、「自動」 「なし」以外の詳細については、以下を参照してください。  「画面 (プロキシ設定: 手動)」 581 ページ  「画面 (プロキシ設定: 自動)」 582 ページ
12	備考	設定に関する内容など保存しておきたい場合にご利用ください。 <input checked="" type="checkbox"/> 備考は構成プロファイル出力に含まれません。

◆画面（接続タイプ：F5 SSL）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [VPN 設定] → [新規作成] または [編集]

管理 一般 パスコード設定 iOS制限設定 Wi-Fi 設定 その他 ▼ 操作 ▼

VPN 設定 - 編集

- 1 接続名
- 2 接続のタイプ
F5 SSL
- 3 ユーザ情報
 所属ユーザーの情報を利用
- 4 サーバ
- 5 アカウント
- 6 ユーザ認証
パスワード
- 7 パスワード
- 8 待機時に接続解除
接続を解除しない
- 9 プロキシ設定
なし
- 10 備考

※備考は構成プロファイル出力には含まれません。
※各項目の詳細は[こちら](#)（[目次] の [MDM設定] を参照してください）
※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイト上に正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	接続名	接続の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
2	接続のタイプ	「F5 SSL」を選択します。
3	ユーザ情報	●所属ユーザーの情報を利用 所属ユーザーの情報を利用する場合は、「所属ユーザーの情報を利用」にチェックを入れます。
4	サーバ	サーバの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
5	アカウント	アカウントの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
6	ユーザ認証	以下の項目から選択します。 ●「パスワード」、「証明書」、「パスワード+証明書」
7	パスワード	パスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証でパスワードを選択した場合にのみ表示されます。
	資格情報	以下の項目から選択します。 ●「証明書ペイロードに証明書を追加」、「(機器に設定されているクライアント証明書)」、登録済みのクライアント証明書 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
	オンデマンド VPN を有効にする	●オンデマンド VPN を有効にする 必要な場合は「オンデマンド VPN を有効にする」にチェックを入れます。チェックを入れると以下の項目が表示されます。 ・該当ドメイン/ホスト 255 文字以内の半角英数字、全角のひらがな・カタカナ・漢字とピリオド「.」、ハイフン「-」で入力してください。 ・要求があったときの処理 以下から選択します。 ・「常に確立」、「確立しない」、「必要に応じて確立」 <input checked="" type="checkbox"/> 100 件以下にしてください。 ・待機時に接続解除 以下から選択します。 「接続を解除しない」、「1 分」、「2 分」、「5 分」、「15 分」、「30 分」、「1 時間」 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
8	待機時に接続解除	以下の項目から選択します。 ●「接続を解除しない」、「一定期間後」 「一定期間後」を選択した場合は、「分」と「秒」を入力してください。
9	プロキシ設定	以下の項目から選択します。 ●「なし」、「手動」、「自動」 「なし」以外の詳細については、以下を参照してください。  「画面 (プロキシ設定: 手動)」 581 ページ  「画面 (プロキシ設定: 自動)」 582 ページ
10	備考	設定に関する内容など保存しておきたい場合にご利用ください。 <input checked="" type="checkbox"/> 備考は構成プロファイル出力に含まれません。

◆画面（接続タイプ：SonicWALL Mobile Connect）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [VPN 設定] → [新規作成] または [編集]

管理 一般 パスコード設定 iOS制限設定 Wi-Fi 設定 その他 ▼ 操作 ▼

VPN 設定 - 編集

- 1 接続名
- 2 接続のタイプ
SonicWALL Mobile Connect ▼
- 3 ユーザ情報
 所属ユーザーの情報を利用
- 4 サーバ
- 5 アカウント
- 6 ログイングループまたはドメイン
- 7 ユーザ認証
パスワード ▼
- 8 パスワード
- 9 待機時に接続解除
接続を解除しない ▼
- 10 プロキシ設定
なし ▼
- 11 備考

※備考は構成プロファイル出力には含まれません。
※各項目の詳細は[こちら](#)（[目次]の[MDM設定]）を参照してください。
※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイト上に正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	接続名	接続の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
2	接続のタイプ	「SonicWALL Mobile Connect」を選択します。
3	ユーザ情報	●所属ユーザーの情報を利用 所属ユーザーの情報を利用する場合は、「所属ユーザーの情報を利用」にチェックを入れます。
4	サーバ	サーバの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
5	アカウント	アカウントの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
6	ログイングループまたはドメイン	ログイングループまたはドメインの名称 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
7	ユーザ認証	以下の項目から選択します。 ●「パスワード」、「証明書」
8	パスワード	パスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証でパスワードを選択した場合にのみ表示されます。
	資格情報	以下の項目から選択します。 ●「証明書ペイロードに証明書を追加」、「(機器に設定されているクライアント証明書)」、登録済みのクライアント証明書 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
	オンデマンド VPN を有効にする	●オンデマンド VPN を有効にする 必要な場合は「オンデマンド VPN を有効にする」にチェックを入れます。チェックを入れると以下の項目が表示されます。 ・該当ドメイン/ホスト 255 文字以内の半角英数字、全角のひらがな・カタカナ・漢字とピリオド「.」、ハイフン「-」で入力してください。 ・要求があったときの処理 以下から選択します。 ・「常に確立」、「確立しない」、「必要に応じて確立」 <input checked="" type="checkbox"/> 100 件以下にしてください。 ・待機時に接続解除 以下から選択します。 「接続を解除しない」、「1 分」、「2 分」、「5 分」、「15 分」、「30 分」、「1 時間」 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
9	待機時に接続解除	以下の項目から選択します。 ●「接続を解除しない」、「一定期間後」 「一定期間後」を選択した場合は、「分」と「秒」を入力してください。
10	プロキシ設定	以下の項目から選択します。 ●「なし」、「手動」、「自動」 「なし」以外の詳細については、以下を参照してください。  「画面 (プロキシ設定: 手動)」581 ページ  「画面 (プロキシ設定: 自動)」582 ページ
11	備考	設定に関する内容など保存しておきたい場合にご利用ください。 <input checked="" type="checkbox"/> 備考は構成プロファイル出力に含まれません。

◆画面（接続タイプ：Aruba VIA）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [VPN 設定] → [新規作成] または [編集]

VPN 設定 - 編集

- 1 接続名
- 2 接続のタイプ
Aruba VIA
- 3 ユーザ情報
 所属ユーザーの情報を利用
- 4 サーバ
- 5 アカウント
- 6 ユーザ認証
パスワード
- 7 パスワード
- 8 待機時に接続解除
接続を解除しない
- 9 プロキシ設定
なし
- 10 備考

※備考は構成プロファイル出力には含まれません。
※各項目の詳細はこちら ([目次] の [MDM設定] を参照してください)
※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイトに正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	接続名	接続の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
2	接続タイプ	「Aruba VIA」を選択します。
3	ユーザ情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 所属ユーザーの情報を利用 所属ユーザーの情報を利用する場合は、「所属ユーザーの情報を利用」にチェックを入れます。
4	サーバ	サーバの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
5	アカウント	アカウントの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
6	ユーザ認証	<p>ユーザ認証について、以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「パスワード」、「証明書」
7	パスワード	<p>パスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証でパスワードを選択した場合にのみ表示されます。</p>
	資格情報	<p>以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「証明書ペイロードに証明書を追加」、「(機器に設定されているクライアント証明書)」、「登録済みのクライアント証明書」 <p><input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」を選択した場合にのみ表示されます。</p>
	オンデマンド VPN を有効にする	<ul style="list-style-type: none"> ● オンデマンド VPN を有効にする 必要な場合は「オンデマンド VPN を有効にする」にチェックを入れます。チェックを入れると以下の項目が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当ドメイン/ホスト 255 文字以内の半角英数字、全角のひらがな・カタカナ・漢字とピリオド「.」、ハイフン「-」で入力してください。 ・ 要求があったときの処理 以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「常に確立」、「確立しない」、「必要に応じて確立」 <input checked="" type="checkbox"/> 100 件以下にしてください。 ・ 待機時に接続解除 以下から選択します。 「接続を解除しない」、「1 分」、「2 分」、「5 分」、「15 分」、「30 分」、「1 時間」 <p><input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」を選択した場合にのみ表示されます。</p>
8	待機時に接続解除	<p>以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「接続を解除しない」、「一定期間後」 「一定期間後」を選択した場合は、「分」と「秒」を入力してください。
9	プロキシ設定	<p>以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「なし」、「手動」、「自動」 「なし」以外の詳細については、以下を参照してください。 <p> 「画面 (プロキシ設定: 手動)」 581 ページ</p> <p> 「画面 (プロキシ設定: 自動)」 582 ページ</p>
10	備考	<p>設定に関する内容など保存しておきたい場合にご利用ください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 備考は構成プロファイル出力に含まれません。</p>

◆画面（接続タイプ：Check Point Mobile VPN）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [VPN 設定] → [新規作成] または [編集]

VPN 設定 - 編集中

- 1 接続名
- 2 接続のタイプ
Check Point Mobile VPN
- 3 ユーザ情報
 所属ユーザーの情報を利用
- 4 サーバ
- 5 アカウント
- 6 ユーザ認証
パスワード
- 7 パスワード
- 8 待機時に接続解除
接続を解除しない
- 9 プロキシ設定
なし
- 10 備考

※備考は構成プロファイル出力には含まれません。
※各項目の詳細は[こちら](#)（[目次]の[MDM設定]）を参照してください
※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイト上に正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	接続名	接続の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
2	接続のタイプ	「Check Point Mobile VPN」を選択します。
3	ユーザ情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 所属ユーザーの情報を利用 所属ユーザーの情報を利用する場合は、「所属ユーザーの情報を利用」にチェックを入れます。
4	サーバ	サーバの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
5	アカウント	アカウントの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
6	ユーザ認証	以下の項目から選択します。 ● 「パスワード」、「証明書」
7	パスワード	パスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証でパスワードを選択した場合にのみ表示されます。
	資格情報	以下の項目から選択します。 ● 「証明書ペイロードに証明書を追加」、「(機器に設定されているクライアント証明書)」、登録済みのクライアント証明書 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
	オンデマンド VPN を有効にする	<ul style="list-style-type: none"> ● オンデマンド VPN を有効にする 必要な場合は「オンデマンド VPN を有効にする」にチェックを入れます。チェックを入れると以下の項目が表示されます。 ・ 該当ドメイン/ホスト 255 文字以内の半角英数字、全角のひらがな・カタカナ・漢字とピリオド「.」、ハイフン「-」で入力してください。 ・ 要求があったときの処理 以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「常に確立」、「確立しない」、「必要に応じて確立」 <input checked="" type="checkbox"/> 100 件以下にしてください。 ・ 待機時に接続解除 以下から選択します。 「接続を解除しない」、「1 分」、「2 分」、「5 分」、「15 分」、「30 分」、「1 時間」 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
8	待機時に接続解除	以下の項目から選択します。 ● 「接続を解除しない」、「一定期間後」 「一定期間後」を選択した場合は、「分」と「秒」を入力してください。
9	プロキシ設定	以下の項目から選択します。 ● 「なし」、「手動」、「自動」 「なし」以外の詳細については、以下を参照してください。  「画面 (プロキシ設定: 手動)」 581 ページ  「画面 (プロキシ設定: 自動)」 582 ページ
10	備考	設定に関する内容など保存しておきたい場合にご利用ください。 <input checked="" type="checkbox"/> 備考は構成プロファイル出力に含まれません。

◆画面（接続タイプ：カスタム SSL）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [VPN 設定] → [新規作成] または [編集]

管理 一般 パスコード設定 iOS制限設定 Wi-Fi 設定 その他 ▼ 操作 ▼

VPN 設定 - 編集

- 1 接続名
- 2 接続のタイプ
カスタム SSL ▼
- 3 ユーザ情報
 所属ユーザーの情報を利用
- 4 識別子
- 5 サーバ
- 6 アカウント
- 7 プロバイダバンドル識別子
- 8 カスタムデータ
(カスタムキーがありません)
- 9 ユーザ認証
パスワード ▼
- 10 パスワード
- 11 待機時に接続解除
接続を解除しない ▼
- 12 プロキシ設定
なし ▼
- 13 備考

※備考は構成プロファイル出力には含まれません。
 ※各項目の詳細は[こちら](#)（[目次]の[MDM設定]）を参照してください
 ※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイトに正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	接続名	接続の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
2	接続のタイプ	「カスタム SSL」を選択します。
3	ユーザ情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 所属ユーザーの情報を利用 所属ユーザーの情報を利用する場合は、「所属ユーザーの情報を利用」にチェックを入れます。
4	識別子	識別子を入力します。
5	サーバ	サーバーの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
6	アカウント	アカウントの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
7	プロバイダバンドル識別子	プロバイダバンドル識別子を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
8	カスタムデータ	カスタムデータをキーと値の組み合わせで入力します。
9	ユーザ認証	以下の項目から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「パスワード」、「証明書」
10	パスワード	パスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証でパスワードを選択した場合にのみ表示されます。
	資格情報	以下の項目から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「証明書ペイロードに証明書を追加」、「(機器に設定されているクライアント証明書)」、登録済みのクライアント証明書 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
	オンデマンド VPN を有効にする	<ul style="list-style-type: none"> ● オンデマンド VPN を有効にする 必要な場合は「オンデマンド VPN を有効にする」にチェックを入れます。チェックを入れると以下の項目が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当ドメイン/ホスト 255 文字以内の半角英数字、全角のひらがな・カタカナ・漢字とピリオド「.」、ハイフン「-」で入力してください。 ・ 要求があったときの処理 以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「常に確立」、「確立しない」、「必要に応じて確立」 <input checked="" type="checkbox"/> 100 件以下にしてください。 ・ 待機時に接続解除 以下から選択します。 「接続を解除しない」、「1 分」、「2 分」、「5 分」、「15 分」、「30 分」、「1 時間」 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザ認証で「証明書」を選択した場合にのみ表示されます。
11	待機時に接続解除	以下の項目から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「接続を解除しない」、「一定期間後」 「一定期間後」を選択した場合は、「分」と「秒」を設定する欄が表示されます。
12	プロキシ設定	以下の項目から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 「なし」、「手動」、「自動」 「なし」以外の詳細については、以下を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 🔗 「画面 (プロキシ設定：手動)」 581 ページ 🔗 「画面 (プロキシ設定：自動)」 582 ページ
13	備考	設定に関する内容など保存しておきたい場合にご利用ください。 <input checked="" type="checkbox"/> 備考は構成プロファイル出力に含まれません。

◆画面（プロキシ設定：手動）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [VPN 設定] → [新規作成] または [編集]

管理 一般 パスコード設定 iOS制限設定 Wi-Fi 設定 その他 ▼ 操作 ▼

VPN 設定 - 編集

サーバ

接続のタイプ

1 プロキシ設定
手動

2 サーバおよびポート

3 ユーザ名

4 パスワード

5 備考

※備考は構成プロファイル出力には含まれません。
 ※各項目の詳細は[こちら](#)（[目次] の [MDM設定] を参照してください）
 ※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理サイトに正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	プロキシ設定	「手動」を選択します。
2	サーバおよびポート	プロキシ設定で手動を選択した場合、入力必須です。 サーバは 255 文字以内の半角英数字、記号で入力します。 ポートは 0 以上 65535 以下の半角数字で入力してください。
3	ユーザ名	プロキシ接続ユーザーの名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
4	パスワード	プロキシ接続パスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。

項番	項目	説明
5	備考	設定に関する内容など保存しておきたい場合にご利用ください。 <input checked="" type="checkbox"/> 備考は構成プロファイル出力に含まれません。

◆画面（プロキシ設定：自動）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [VPN 設定] → [新規作成] または [編集]



項番	項目	説明
1	プロキシ設定	「自動」を選択します。
2	プロキシサーバの URL	プロキシ設定取得 URL を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
3	備考	設定に関する内容など保存しておきたい場合にご利用ください。 <input checked="" type="checkbox"/> 備考は構成プロファイル出力に含まれません。

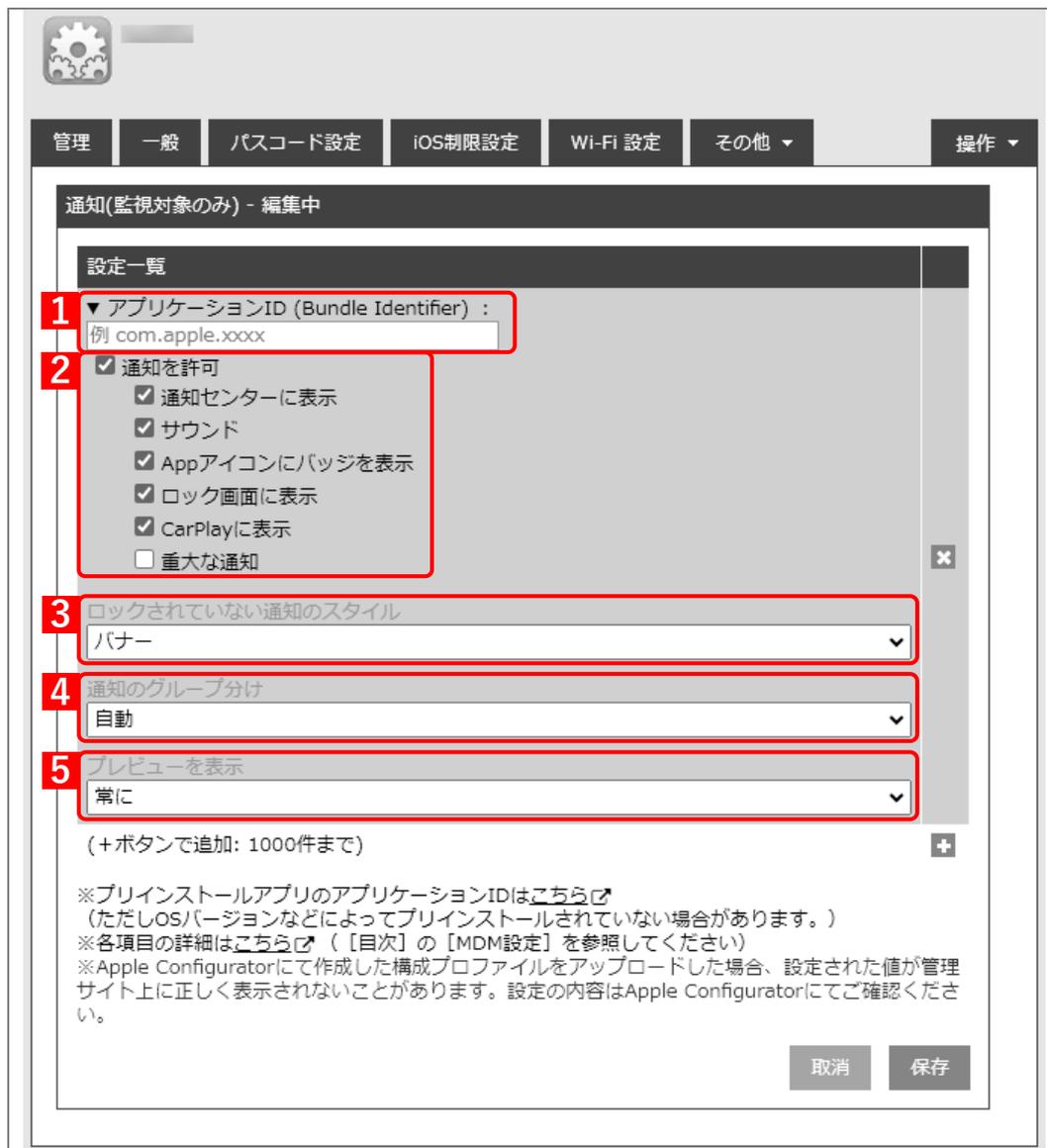
8.3.1.12 [その他▼] タブ／通知

通知に関する各種の設定を行います。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] → [通知] → [新規作成] または [編集] → 設定一覧の **+**

 通知を制御するアプリは、最大 1,000 件まで設定できます。



通知(監視対象のみ) - 編集

設定一覧

1 ▼ アプリケーションID (Bundle Identifier) :
例 com.apple.xxxx

2 通知を許可

- 通知センターに表示
- サウンド
- Appアイコンにバッジを表示
- ロック画面に表示
- CarPlayに表示
- 重大な通知

3 ロックされていない通知のスタイル
バナー

4 通知のグループ分け
自動

5 プレビューを表示
常に

(+ボタンで追加: 1000件まで)

※プリインストールアプリのアプリケーションIDはこちら
(ただしOSバージョンなどによってプリインストールされていない場合があります。)
※各項目の詳細はこちら ([目次] の [MDM設定] を参照してください)
※Apple Configuratorにて作成した構成プロファイルをアップロードした場合、設定された値が管理
サイト上に正しく表示されないことがあります。設定の内容はApple Configuratorにてご確認ください。

取消 保存

項番	項目	説明
1	アプリケーション ID (Bundle Identifier)	<p>通知を制御するアプリのアプリケーション ID を 255 文字以内で入力します。使用できる文字は、半角英数字と記号 (「.」、「-」) です。入力必須です。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> オリジナルアプリのアプリケーション ID を入力すると、オリジナルアプリの通知も制御することができます。</p>
2	通知を許可	<p>チェックを入れると、アプリケーションの通知を許可します。また、以下の項目にチェックを入れることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 通知センターに表示 チェックを入れると、通知センターに通知を表示します。 ● サウンド チェックを入れると、サウンドありで通知します。 ● App アイコンにバッジを表示 チェックを入れると、指定したアプリのアイコンに通知件数を表示します。 ● ロック画面に表示 チェックを入れると、通知をロック画面に表示します。 ● CarPlay に表示 チェックを入れると、通知を Carplay に表示します。 ● 重大な通知 チェックを入れると、重大な通知を許可します。
3	ロックされていない通知のスタイル	<p>ロックされていないときの通知の表示形式を指定します。以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● なし 通知を表示しません。 ● バナー 通知を画面の上部に一時的に表示します。操作をしなくても一定の時間が経過すると通知が表示されなくなります。 ● 通知 確認操作を必要とするスタイルで、通知を表示します。通知を確認するまで、表示は消えません。
4	通知のグループ分け	<p>通知をどのようにグループ分けするかを指定します。以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自動 通知を自動的にグループ化します。 ● App 別 アプリ別に通知をグループ化します。 ● オフ 通知をグループ化しません。 通知をすべて表示したい場合は、オフを選択してください。
5	プレビューを表示	<p>通知の内容を表示するかを指定します。以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 常に 通知の内容を常に表示します。 ● ロックされていないときのみ 通知の内容をロックされていないときに表示します。ロックされているときは表示しません。 ● しない 通知の内容を常に表示しません。

8.3.1.13 [その他▼] タブ/Web クリップ設定

Web クリップに関する各種の設定を行います。

利用を推奨している Web ページ（自社ホームページ・ブックマーク）や、普段馴染みのない緊急連絡先・サポートデスクの電話番号を、指定のアイコンとともに設定し、Web クリップとして管理している端末に配信することができます。

管理している端末に配信された Web ページや電話番号のアイコンが、Web クリップとして表示され、端末利用者は少ないステップで目的のページや電話番号にたどりつけます。

Web クリップを配信していても、Web ページによってはページ内で指定されたアイコンが強制的に適用される場合があります。

本機能で新規作成、および編集した Web クリップは、iOS 端末の操作で削除できません。

1つの構成プロファイルに、Web クリップは5つまで設定できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [Web クリップ] → [新規作成] または [編集]

The screenshot shows the 'Web クリップ設定 - 編集' (Edit Web Clip) screen. At the top, there are tabs for '管理', '一般', 'パスコード設定', 'iOS制限設定', 'Wi-Fi 設定', 'その他', and '操作'. The main content area is titled 'Web クリップ設定 - 編集中'. The following items are highlighted with red boxes and numbered 1 through 8:

1. ラベル (Label) input field.
2. URL input field.
3. 削除を許可 (Allow Deletion) checkbox, which is checked. The text below it says 'Webクリップを取り除くことを許可'.
4. アイコン (Icon) section. It includes a 'ファイルを選択' (Select File) button and the text '選択されていません' (None selected). Below that, it says '※ファイルサイズが10KB以下のPNG/GIF/JPEG形式の画像を選択してください。' (Please select an image in PNG/GIF/JPEG format with a file size of 10KB or less).
5. 作成済みアイコン (Prepared Icon) section. It includes a checkbox '視覚エフェクトなしでアイコンを表示' (Show icon without visual effects) and the text '※本設定はiOS 6以前の端末でのみ有効です。' (This setting is only valid on devices with iOS 6 or earlier).
6. フルスクリーン (Full Screen) section. It includes a checkbox 'Webクリップをフルスクリーンアプリケーションとして表示' (Show web clip as full-screen application).
7. マニフェストの範囲を無視 (Ignore Manifest Scope) section. It includes a checkbox 'マニフェストに含まれていないWebページに、フルスクリーンモードでの読み込みを許可' (Allow loading in full-screen mode for web pages not included in the manifest) and explanatory text: '※本項目を設定した場合、指定したWebページから他のページへ遷移してもフルスクリーンを維持します。' (When this item is set, full-screen mode is maintained even when navigating from the specified web page to other pages).
8. アプリケーションID (Bundle Identifier) (Application ID (Bundle Identifier)) section. It includes an input field and the text '※Webクリップを起動するアプリケーションのIDを指定してください。' (Please specify the ID of the application to launch the web clip).

At the bottom right, there are two buttons: '取消' (Cancel) and '保存' (Save).

項番	項目	説明
1	ラベル	Web クリップの名称を 255 文字以内で入力してください。入力必須です。
2	URL	配信用のページの URL を 255 文字以内で入力してください。入力必須です。
3	削除を許可	<ul style="list-style-type: none"> ● Web クリップを取り除くことを許可 チェックを入れると、端末で Web クリップを削除できます。
4	アイコン	<p>[ファイルを選択] をクリックして、GIF、JPEG、PNG 形式の画像を指定してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 画像のファイルサイズは、10KB より大きいサイズに対応していません。</p>
5	作成済みアイコン	<ul style="list-style-type: none"> ● 視覚エフェクトなしでアイコンを表示 視覚エフェクトなしでアイコンを表示する場合にチェックを入れます。
6	フルスクリーン	<ul style="list-style-type: none"> ● Web クリップをフルスクリーンアプリケーションとして表示 チェックを入れると、「フルスクリーンアプリケーション」が Web アプリとして、端末にインストールされ、Web クリップが「フルスクリーンアプリケーション」として表示します。 <input checked="" type="checkbox"/> Web クリップのサイトを起動するアプリは、ブラウザーなしで URL や検索バー、ブックマークのない Web アプリとして表示されます。そのため Safari を制限していても、Web クリップは制限されません。 <input checked="" type="checkbox"/> Web ページによってはページ内で指定されたアイコンが強制的に適応されることを回避できます。ただし、Apple の仕様により適応されてしまう場合もあります。
7	マニフェストの範囲を無視	<ul style="list-style-type: none"> ● マニフェストに含まれていない Web ページに、フルスクリーンモードでの読み込みを許可 チェックを入れると、指定した Web ページから他のページへ遷移してもフルスクリーンを維持します。 <input checked="" type="checkbox"/> 本項目は、項番 6「フルスクリーン」にチェックが入っている場合に有効になります。
8	アプリケーション ID (Bundle Identifier)	URL を表示するためのアプリケーション ID を 255 文字以内で入力します。使用できる文字は、半角英数字と記号 (「.」、「-」) です。

8.3.1.14 [その他▼] タブ／モバイル通信設定

モバイル通信に関する各種の設定を行います。

 画面 (構成する APN のタイプ: デフォルト APN)

 画面 (構成する APN のタイプ: データ APN)

 画面 (構成する APN のタイプ: デフォルト APN とデータ APN)

 本設定を含んだ構成プロファイルを端末に配信したあと、端末のモバイル通信を使用して他の構成プロファイルに変更することはできません。構成プロファイルの情報を変更する場合は、配信済みの構成プロファイルを変更するか、Wi-Fi を使用して他の構成プロファイルを配信してください。

◆画面 (構成する APN のタイプ: デフォルト APN)

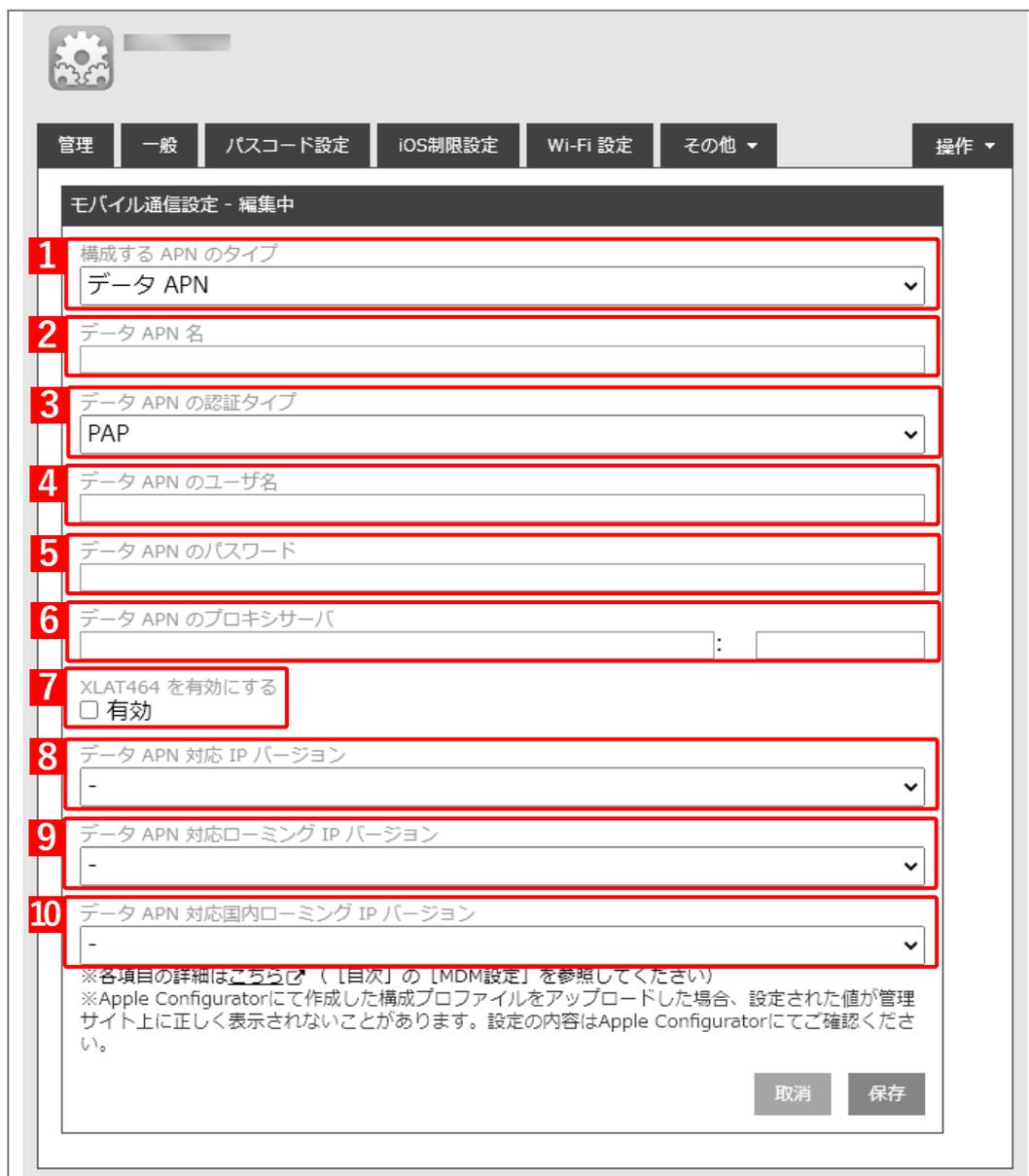
表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [モバイル通信設定] → [新規作成] または [編集]

項番	項目	説明
1	構成する APN のタイプ	「デフォルト APN」を選択します。
2	デフォルト APN 名	デフォルト APN の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
3	デフォルト APN の認証タイプ	以下の項目から選択します。 ● 「PAP」、 「CHAP」
4	デフォルト APN のユーザ名	デフォルト APN のユーザー名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
5	デフォルト APN のパスワード	デフォルト APN のパスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。

項番	項目	説明
6	デフォルト APN 対応 IP バージョン	以下の項目から選択します。 ● 「-」、「IPv4」、「IPv6」、「IPv4 と IPv6」

◆画面（構成する APN のタイプ：データ APN）

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [モバイル通信設定] → [新規作成] または [編集]



項番	項目	説明
1	構成する APN のタイプ	「データ APN」を選択します。
2	データ APN 名	データ APN の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
3	データ APN の認証タイプ	以下の項目から選択します。 ● 「PAP」、「CHAP」
4	データ APN のユーザ名	データ APN のユーザー名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。

項番	項目	説明
5	データ APN のパスワード	データ APN のパスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
6	データ APN のプロキシサーバ	データ APN のプロキシサーバを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。 ポート番号は 0 以上 65535 以下を半角数字で入力してください。
7	XLAT464 を有効にする	●有効 XLAT464 を有効にする場合は、「有効」にチェックを入れます。
8	データ APN 対応 IP バージョン	以下の項目から選択します。 ● 「-」、「IPv4」、「IPv6」、「IPv4 と IPv6」
9	データ APN 対応ローミング IP バージョ	以下の項目から選択します。 ● 「-」、「IPv4」、「IPv6」、「IPv4 と IPv6」
10	データ APN 対応国内ローミング IP バージョン	以下の項目から選択します。 ● 「-」、「IPv4」、「IPv6」、「IPv4 と IPv6」

◆画面（構成する APN のタイプ：デフォルト APN とデータ APN）

表示操作

[設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] タブ → [モバイル通信設定] → [新規作成] または [編集]

項番	項目	説明
1	構成する APN のタイプ	「デフォルト APN とデータ APN」を選択します。
2	デフォルト APN 名	デフォルト APN の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。

項番	項目	説明
3	デフォルト APN の認証タイプ	以下の項目から選択します。 ● 「PAP」、 「CHAP」
4	デフォルト APN のユーザ名	デフォルト APN のユーザー名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
5	デフォルト APN のパスワード	デフォルト APN のパスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
6	デフォルト APN 対応 IP バージョン	以下の項目から選択します。 ● 「-」、 「IPv4」、 「IPv6」、 「IPv4 と IPv6」
7	データ APN 名	データ APN の名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
8	データ APN の認証タイプ	以下の項目から選択します。 ● 「PAP」、 「CHAP」
9	データ APN のユーザ名	データ APN のユーザー名称を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
10	データ APN のパスワード	データ APN のパスワードを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。
11	データ APN のプロキシサーバ	データ APN のプロキシサーバーを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。 ポート番号は 0 以上 65535 以下を半角数字で入力してください。
12	XLAT464 を有効にする	●有効 XLAT464 を有効にする場合は、「有効」にチェックを入れます。
13	データ APN 対応 IP バージョン	以下の項目から選択します。 ● 「-」、 「IPv4」、 「IPv6」、 「IPv4 と IPv6」
14	データ APN 対応ローミング IP バージョン	以下の項目から選択します。 ● 「-」、 「IPv4」、 「IPv6」、 「IPv4 と IPv6」
15	データ APN 対応国内ローミング IP バージョン	以下の項目から選択します。 ● 「-」、 「IPv4」、 「IPv6」、 「IPv4 と IPv6」

8.3.1.15 [その他▼] タブ／変数項目と反映状況

本機能では、構成プロファイルに特定の変数が含まれている場合に、変数名と変数の件数を表示し、構成プロファイル内で特定の変数が使用されていることを確認できます。

構成プロファイル内の記述（値）を特定の変数に書き替えることで、使用できる外部サービスがあります。書き替えた構成プロファイルを各端末に配信することで、端末が保持している値に自動的に置き換わり、個々に配信する構成プロファイルを一括で設定することができます。

構成プロファイルをアップロードしていない場合や特定の変数が含まれていない場合は、0件と表示されます。構成プロファイルのアップロードについては、以下を参照してください。

 「[管理] タブ」 505 ページ

変数を使用する場合は、テスト端末で変数が正しく置換されていることを確認してください。テスト端末で問題がなければ、すべての端末に設定してください。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイルアップロード] → 一覧から対象を選択 → [その他▼] → [変数項目と反映状況]



項番	項目	説明
1	シリアル番号	構成プロファイルに含まれる「%SERIAL_NUMBER%」の件数が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 構成プロファイルを配信する端末に紐づくシリアル番号に変換されます。
2	端末 GUID	構成プロファイルに含まれる「%DEVICE_GUID%」の件数が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 構成プロファイルを配信する端末に紐づく GUID に変換されます。

項番	項目	説明
3	ユーザーの姓名	構成プロファイルに含まれる「%USER_FULL_NAME%」の件数が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 構成プロファイルを配信する端末に紐づくユーザーの姓とユーザーの名のあいだに半角スペースを入れた値に変換されます。
4	ユーザーの姓	構成プロファイルに含まれる「%USER_LAST_NAME%」の件数が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 構成プロファイルを配信する端末に紐づくユーザーの姓に変換されます。
5	ユーザーの名	構成プロファイルに含まれる「%USER_FIRST_NAME%」の件数が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 構成プロファイルを配信する端末に紐づくユーザーの名に変換されます。
6	ユーザーID	構成プロファイルに含まれる「%USER_NAME%」の件数が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 構成プロファイルを配信する端末に紐づくユーザーの ID に変換されます。
7	ユーザーEmail	構成プロファイルに含まれる「%USER_EMAIL%」の件数が表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 構成プロファイルを配信する端末に紐づくユーザーのメールアドレスに変換されます。

8.3.2 構成プロファイル

「構成プロファイルアップロード」で管理サイト上に作成した構成プロファイルを使用して、構成プロファイルの設定セットを作成します。

構成プロファイルアップロードについては、以下を参照してください。

🔗 「構成プロファイルアップロード」 505 ページ

✍️ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

🔗 「(設定 - iOS) 設定の割り当て」 120 ページ

🔗 「全機器一括設定」 248 ページ

✍️ 設定セットは、最大 300 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [構成プロファイル] → [構成プロファイル] → **+** (一覧から対象を選択) → [編集]

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 構成プロファイル

プロファイル名	削除防止	
(選択してください) ▼ (A) <input type="checkbox"/>	削除禁止 ▼	✕

(+ボタンで追加: 2件まで)
+

※ 「削除防止」を設定した場合、端末のポータルから手動で構成プロファイルをインストールしてください。

※ 「削除防止」から「削除禁止」を選択した場合は、端末から構成プロファイル削除することはできません。インストールした構成プロファイルを端末から削除するには、Apple社のApple Configurator 2を使用してください。

※ 「削除防止」から「パスワード」を選択した場合は、端末からパスワードを入力することで、構成プロファイルを削除できます。

※ 「削除防止」を有効から無効に変更する場合は、手動でインストールした構成プロファイルを端末から削除してください。構成プロファイルは上書きされません。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定セットの名称を 1 文字から 30 文字以内で指定します。
2	構成プロファイル	<p>本設定セットで適用元とする構成プロファイルを指定します。複数指定できます。あわせて削除制限を指定します。「削除禁止」を指定すると、このプロファイルがインストールされた端末からはプロファイルが削除できなくなります（端末の「設定」メニューの「一般」「プロファイル」の画面で削除用メニューが表示されなくなります。）構成プロファイルのアップロード方法は、以下を参照してください。</p> <p> 「構成プロファイルアップロード」 505 ページ</p> <p>なお、削除防止を指定すると構成プロファイルのインストールに機器側の操作が必要となります。</p> <p> 1 設定あたり構成プロファイルは 10 件まで登録できます。構成プロファイルのアップロード数が 10 件未満の場合は、その数まで登録できます。</p> <p>  をクリックすると、入力行が追加されます。</p> <p>  をクリックすると、入力行が削除されます。</p> <p>●プロファイル名 リストボックスを表示すると「構成プロファイルアップロード」で登録した構成プロファイルが表示されます。適用する構成プロファイルを指定してください。</p> <p> 「構成プロファイルアップロード」 505 ページ</p> <p>●削除防止 (A) チェックボックスにチェックを入れると、以下の項目が指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 削除禁止 構成プロファイルの削除を禁止することができます。  Apple Configurator 2 で初期化が必要となります。 パスワード パスワードは、255 文字以内の半角英数字と記号（「.」、「-」）で指定してください。指定することで、構成プロファイルの削除を禁止することができます。端末からパスワードを入力することで、構成プロファイルを削除することができます。  iOS 13.0 以上の場合は、監視対象端末のみパスワードの設定が有効です。 <p> (A) チェックボックスにチェックを入れない（削除防止を設定しない）場合は、MDM 構成プロファイルに、構成プロファイルが含まれます。</p>

◆構成プロファイルの削除方法

作成方法に応じた構成プロファイルの削除方法は、以下のとおりです。

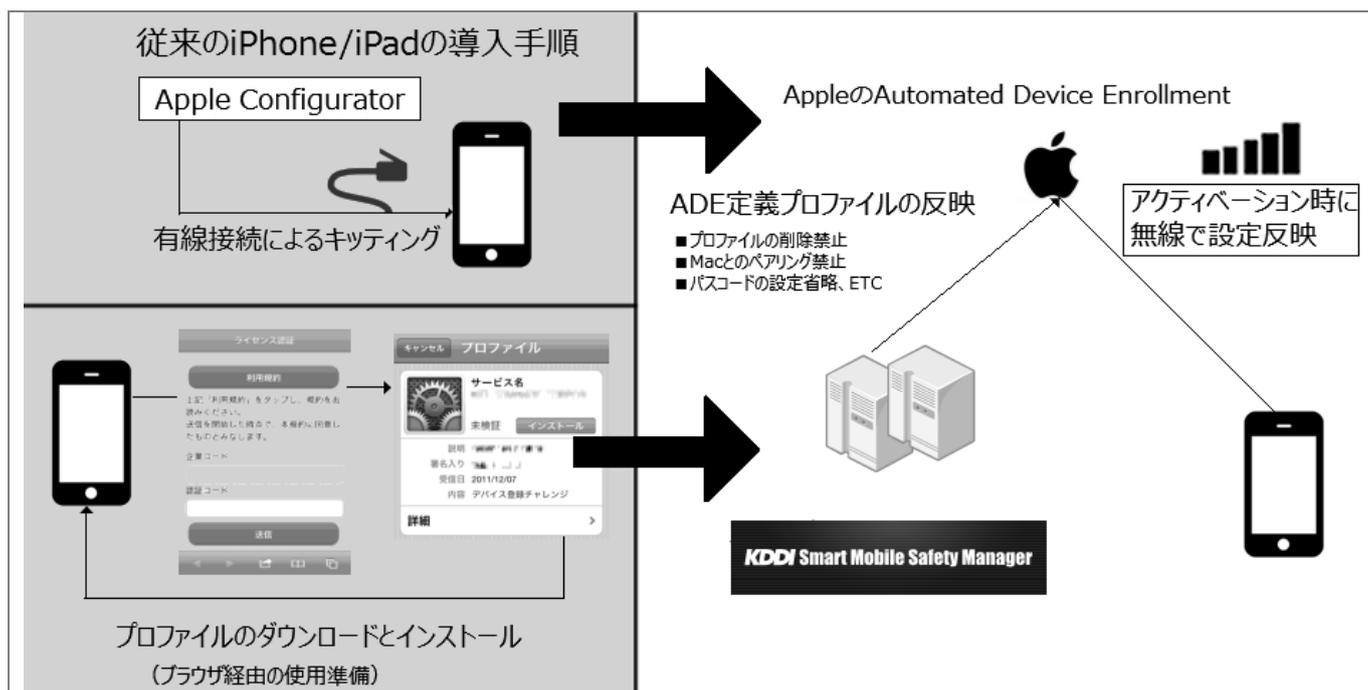
項番	項目	説明
1	通常の構成プロファイル (削除防止機能なし)	<ul style="list-style-type: none"> ●機器一括設定または機器ごとの設定で「(設定なし)」を適用する。 ●機器から MDM 構成プロファイルを削除する（あわせて削除される）。  MDM 構成プロファイルは、iOS 端末のライセンス認証を行ったときにインストールされる構成プロファイルのことです。
2	削除禁止を指定した構成プロファイル	ワイプまたは Apple Configurator 2 で削除してください。
3	パスワードを指定した構成プロファイル	端末からパスワードを入力して削除する。

8.4 ADE

Automated Device Enrollment (ADE) とは、Apple Business Manager (ABM) によって提供されている iOS 端末管理のための機能です。

企業や教育機関用に iOS 端末を導入する場合に ADE を利用すると、関連する作業を簡略化できます。ADE の設定は、端末のアクティベーション時に Over-The-Air (無線通信経由) で反映されるため、端末に対して個別に行っていた煩雑な導入手順 (Apple Configurator 2 を利用した有線接続によるアクティベーションや、プロファイルのインストール) が不要になります。また、より安全な端末管理ができる監視対象モードを利用したり、端末使用者が端末から MDM 構成プロファイルを削除することを禁止することもできます。

本設定では、ADE トークンの登録、ADE 定義プロファイル作成のほか、端末や ADE の情報管理などを行います。



8.4.1 ADE トークン登録

サーバー公開鍵証明書をダウンロード、ABM サイトへサーバー公開鍵証明書をアップロードして ADE トークンをダウンロード、ADE トークンの管理サイトへのアップロードまでを行います。

 画面

 画面（登録後）

詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

 『iOS キットニングマニュアル』の「ADE を利用してライセンス認証を行う」

 ダウンロードした ADE トークンは、速やかに管理サイトにアップロードしてください。アップロードせずに長時間経過すると、管理サイトとの通信ができなくなることがあります。詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

 『iOS キットニングマニュアル』の「ADE を利用してライセンス認証を行う」 - 「ADE を利用するための準備をする」 - 「ADE トークンを準備する」

 『Apple School Manager (ASM) マニュアル (利用方法・年次更新手順)』の「Automated Device Enrollment (ADE)」 - 「ADE トークンの新規取得」

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [ADE] → [ADE トークン登録] → [編集]

1 1. サーバー公開鍵証明書(PEM)ファイルの生成とダウンロード

サーバー公開鍵証明書(PEM)ファイルをダウンロードしてください。

2 2. サーバートークンの取得

以下のリンクよりMDMサーバー登録用のサーバートークンを取得してください。サーバートークンはサーバー公開鍵証明書(PEM)をアップロードすることで取得できます。

Apple Business Manager: <https://business.apple.com>

Apple School Manager: <https://school.apple.com>

※サーバートークンを定期的に更新する必要があります。有効期限が切れた場合、本製品はご利用いただけなくなります。

3 3. サーバートークンファイルの登録

2.より作成したサーバートークンファイルを指定してください。

選択されていません

4 備考 (※サーバートークン発行の際に使用されたApple IDを以下に記載することを推奨します。)

項番	項目	説明
1	サーバー公開鍵証明書(PEM)ファイルの生成とダウンロード	[ダウンロード]をクリックして、サーバー公開鍵証明書(PEM)ファイルを手に入れます。
2	サーバートークンの取得	Apple社のApple Business ManagerでMDMサーバー登録用のサーバートークンを取得してください。項番1の「サーバー公開鍵証明書(PEM)ファイルの生成とダウンロード」でダウンロードしたサーバー公開鍵証明書(PEM)をアップロードして取得できます。
3	サーバートークンファイルの登録	項番2の「サーバートークンの取得」で取得したサーバートークンを[ファイルを選択]をクリックして指定します。
4	備考	サーバートークン発行のときに使用されたApple IDを記載することを推奨します。  トークンファイルの発行のときに使用されたApple IDは大切に保

項番	項目	説明
		<p>管してください。トークンの更新 (1 年に 1 回) のときに必要です。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> トークンの有効期限が切れた場合、本機能はご利用いただけなくなりますのでご注意ください。</p>

◆画面 (登録後)

表示操作 [設定] → [iOS] → [ADE] → [ADE トークン登録]

サーバートークン
2019/03/27 18:18:36まで有効

アカウント情報

サーバー名
[REDACTED]

組織名
[REDACTED]

メールアドレス
[REDACTED]

電話番号
[REDACTED]

住所
[REDACTED]

備考

1
編集

2
トークンを削除

3
ADE機器再読込

4
ASM情報再読込

項番	項目	説明
1	[編集]	登録した内容を編集したい場合にクリックします。
2	[トークンを削除]	登録したトークンを削除する場合にクリックします。クリックすると削除の確認を求められるので、[OK] をクリックすると削除できます。削除を取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。
3	[ADE 機器再読込]	<p>ADE 機器の再読み込みを行う場合にクリックします。実行するとトークン情報や現在割り当てられている機器数など、ADE ライセンスの情報がすべて更新されます。</p> <p>クリックすると再読み込みについて確認を求められるので、[OK] をクリックすると再読み込みを実行できます。再読み込みを取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ライセンス情報の更新は、通常 [ADE 機器管理] 画面の [ADE と同期] が使用されますが、このボタンは前回から変更された情報しか取得しないため、ADE ライセンス設定画面の内容と実際のライセンス割り当て状況の間に誤差が発生してしまう場合があります。この場合は、[ADE 機器再読込] を使用して ADE 機器情報を更新してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 再読み込みの処理は管理サイトの通信負荷を増大させる原因となるため、必要な場合のみ実行してください。</p>
4	[ASM 情報再読込]	<p>ASM 情報の再読み込みを行う場合にクリックします。実行すると ASM に関する情報がすべて更新されます。</p> <p>クリックすると再読み込みについて確認を求められるので、[OK] をクリックすると再読み込みを実行できます。再読み込みを取り消す場合は、[キャンセル] をクリックします。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 再読み込みの処理は管理サイトの通信負荷を増大させる原因となるため、必要な場合のみ実行してください。</p>

8.4.2 ADE 定義プロフィール

ADE を利用する端末に対してさまざまな設定を適用するために、それらをまとめた ADE 定義プロフィールの設定セットを作成します。

作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

「(設定 - iOS) 設定の割り当て」120 ページ

「全機器一括設定」248 ページ

設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [ADE] → [ADE 定義プロフィール] → +

新規作成

設定

設定 - 編集

1 プロフィール名

2 認証設定
 企業コードと認証コードの入力を必須とする

3 サポート設定
 部署名
 電話番号
 メールアドレス

4 MDM設定
 MDM登録を必須とする
※iOS13以降では必ずMDM登録されます。
 監視対象モードに設定する
※iOS13以降では必ず監視対象モードになります。
 MDM登録の削除を禁止する
 Shared iPadに設定する
 Shared iPadユーザー最大数
 Macとのペアリングを許可する
※iOS13以降ではこの項目の設定は非推奨になります。
 制限を行う場合は構成プロファイルアップロード - iOS制限設定の「Apple Configurator 2 以外のホストとのペアリングを許可」を使用してください。

5 セットアップアシスタントの省略する手順
 パスコードを省略する
 位置情報サービスを有効にしない
 バックアップからの復元を有効にしない
 Apple IDでのサインインを有効にしない
 利用規約の表示を省略する
 指紋認証の設定を省略する
 Apple Payの設定を省略する
 Zoom設定を省略する
 Siriを有効にしない
 診断情報を自動的に送信しない
 True Toneの設定を省略する
 データとプライバシーの設定を省略する
 デバイスの復元に「Androidから移行」を表示しない
 ホームボタン感度の設定を省略する
 iMessageとFaceTimeの設定を省略する
 機能の使い方の説明を省略する
 スクリーンタイムの設定を省略する
 OSの自動アップデートを有効にしない

保存

項番	項目	説明
1	プロファイル名	ADE 定義プロファイルの名前を入力します。
2	認証設定	<ul style="list-style-type: none"> ●企業コードと認証コードの入力を必須とする ユーザーに企業コードと認証コードを入力するように要求します。 チェックが入っていない場合は、ADE による自動設定が行われます。
3	サポート設定	<ul style="list-style-type: none"> ●部署名 プロファイルに含まれる部署名を入力します。 ●電話番号 プロファイルに含まれる電話番号を入力します。 ●メールアドレス プロファイルに含まれるメールアドレスを入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「部署名」はアクティベーション中の iOS 端末にのみ表示され、アクティベーション完了後に確認することはできません。
4	MDM 設定	<ul style="list-style-type: none"> ●MDM 登録を必須とする チェックを入れると iOS 端末の初期設定時に MDM 構成プロファイルのインストールが必須になります。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 13.0 以上の端末では、チェックを入れなくても必ず MDM 構成プロファイルがインストール（ライセンス認証）されます。 ●監視対象モードに設定する MDM 構成プロファイルにより、iOS 端末が「監視対象」になります。これにより、AirDrop、iMessage、Apple Books などの許可設定やコンテンツフィルタ設定などの幅広い設定を適用して管理できるようになります。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 13.0 以上の端末では、チェックを入れなくても必ず監視対象モードになります。 ・MDM 登録の削除を禁止する 端末利用者による MDM 構成プロファイルの削除を禁止します。 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 「監視対象モードに設定する」にチェックが入っていない場合は、本設定にチェックを入れることはできません。 <input checked="" type="checkbox"/> この設定を有効にしたとき、以下の状態になると MDM サーバーとの通信および再認証ができなくなります。その場合、再度端末を管理できるようにするには、端末を初期化する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ・管理サイトで端末が削除されている。 ・MDM 構成プロファイルが同期不可になっている。 初期化を禁止している場合は、端末を工場出荷時の状態に戻す必要があります。この方法については、Apple 社へお問い合わせください。 <input checked="" type="checkbox"/> 誤った HTTP プロキシ設定が端末にインストールされている場合は、通信ができなくなる可能性があります。 <input checked="" type="checkbox"/> Apple Configurator 2 で ABM または ASM に追加したとき、Apple の仕様で 30 日の暫定期間は、端末から MDM を削除することができます。端末には「リモートマネージメントから離れる」と表示されます。 ・Shared iPad に設定する 端末を Shared iPad（共有 iPad）に設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 「教育（Apple School Manager）」を利用している場合のみ、「Shared iPad に設定する」は表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 「MDM 登録を必須とする」と「監視対象モードに設定する」の両方にチェックが入っていない場合は、本設定にチェックを入れることはできません。 <input checked="" type="checkbox"/> 「Shared iPad ユーザー最大数」は、本製品の仕様では 50,000 です。ただし、端末の仕様により 50,000 以下になることがあります。 ●Mac とのペアリングを許可する iOS 端末と Mac OS 端末とのペアリングができるようになります。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 13.0 以上の端末では、本設定は非推奨です。「構成プロファイルアップロード」 - 「iOS 制限設定」の「Configurator 以外のホストとのペアリングを許可（監視対象のみ）」を使用してください。詳細は、以下を参照してください。  「画面（機能の制限）」512 ページ

項番	項目	説明
5	セットアップアシスタントの省略する手順	<p><input checked="" type="checkbox"/> この設定にチェックが入っていない場合は、Apple 社の仕様により Windows 端末に接続できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パスコードを省略する 初期設定時のパスコード設定が省略されます。 <input checked="" type="checkbox"/> パスコード設定を省略する場合は、「Apple Pay の設定を省略する」、および「指紋認証の設定を省略する」を有効にしてください。 <input checked="" type="checkbox"/> iCloud から復元する場合は、パスコード設定は省略されません。 ● 位置情報サービスを有効にしない 位置情報サービスが自動的に無効になります。設定画面もスキップされます。 <input checked="" type="checkbox"/> 設定画面をスキップするには、初期設定時に Wi-Fi 接続を使用してください。モバイルデータ通信を使用している場合は、設定画面が表示されることがあります。 ● バックアップからの復元を有効にしない バックアップからの復元が自動的に無効になります。設定画面もスキップされます。 <input checked="" type="checkbox"/> 設定画面をスキップするには、初期設定時に Wi-Fi 接続を使用してください。モバイルデータ通信を使用している場合は、設定画面が表示されることがあります。 ● Apple ID でのサインインを有効にしない Apple ID でのサインインが自動的に無効になります。設定画面もスキップされます。 ● 利用規約の表示を省略する 初期設定時の利用規約表示が省略されます。 ● 指紋認証の設定を省略する 初期設定時の指紋認証設定が省略されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 指紋認証設定を省略する場合は、「Apple Pay の設定を省略する」も有効にしてください。 <input checked="" type="checkbox"/> iCloud から復元する場合は、指紋認証設定は省略されません。 ● Apple Pay の設定を省略する 初期設定時の Apple Pay 設定が省略されます。 ● Zoom 設定を省略する 初期設定時の Zoom 設定が省略されます。 ● Siri を有効にしない Siri が自動的に無効になります。設定画面もスキップされます。 ● 診断情報を自動的に送信しない 診断情報の自動送付が無効になります。設定画面もスキップされます。 ● True Tone の設定を省略する True Tone の設定が自動的に有効になります。設定画面もスキップされます。 ● データとプライバシーの設定を省略する データとプライバシーの設定が自動的に有効になります。設定画面もスキップされます。 ● デバイスの復元に「Android から移行」を表示しない バックアップから復元画面で、「Android から移行」が表示されず、選択できなくなります。 ● ホームボタン感度の設定を省略する ホームボタン感度の設定が省略されます。 ● iMessage と FaceTime の設定を省略する iMessage と FaceTime の設定が省略されます。 ● 機能の使い方の説明を省略する 機能の使い方の説明が省略されます。 ● スクリーンタイムの設定を省略する スクリーンタイムの設定が省略されます。 ● OS の自動アップデートを有効にしない OS の自動アップデートの設定が省略されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 自動アップデートの設定は、端末により異なります。 <input checked="" type="checkbox"/> 初期設定時に App とデータ画面で「Android からデータを移行」を選択した場合、設定画面はスキップされません。

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
<p>▲ ADE との通信に失敗しました。 もう一度やり直してください。</p>	<p>ADE のトークン更新時に、Apple サーバーとの通信で負荷が高い、認証が通らないなど、何らかのエラーが発生している。</p>	<p>時間をおいて再度実施してください。</p>

8.4.3 ADE 機器管理

機器情報、登録情報、ADE 情報を確認することができます。

また、ADE 定義プロファイルの設定を組織や機器に割り当てたあとに [ADE と同期] をクリックすると、管理対象の端末に ADE 設定を反映することができます。

- ☑ ADE 機器管理画面の情報 (ADE 状態、プロファイル (適用済)、プロファイル、端末反映日時) は、[機器] の詳細画面で同期を行っても更新されません。[ADE と同期] をクリックして同期を実行してください。
- ☑ iOS 端末の初期設定を開始する前に、該当端末の「ADE 状態」が「適用済」または「端末反映済」になっていることを確認してください。このステータス以外の場合はプロファイルの設定が正しく反映されません。
- ☑ iPhone モデルは、機器管理画面では「iPhone_U」と表示されます。
- ☑ ADE と同期を行うには、Apple Push Notification Service (APNs) 証明書の設定が必要です。
- ☑ 登録日時、端末反映日時は日本標準時 (JST) で記録されます。
- ☑ ADE 機器を購入すると、ライセンス認証待ち機器として機器一覧に表示されます。管理外にしたい機器は、ライセンス認証前であれば、本画面で除外にします。除外にした ADE 機器は、機器一覧に表示されません。機器一覧については、以下を参照してください。

🔗 「機器一覧」79 ページ

◆ 画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [ADE] → [ADE 機器管理]

1 操作				2 ADEと同期							
機器情報		登録情報		3 情報	4	5	6	7	8	(A)	
シリアル番号	モデル	ユーザー	組織	ADE状態	プロファイル(適用済)	プロファイル	端末反映日時	ADEプロファイル割り当て日時	ADE登録日時	ステータス	
<input type="checkbox"/>				削除済			2023/09/19 14:01:44	2023/09/19 13:58:06	2023/09/19 09:54:02		
<input type="checkbox"/>				(なし)					2020/11/20 11:36:42	除外	
<input type="checkbox"/>				(なし)					2020/11/09 17:33:25	除外	
<input type="checkbox"/>				(なし)					2020/10/02 11:08:35		

項番	項目	説明
1	[操作]	<p>ライセンス認証前の ADE 機器を管理外機器にできます。クリックすると、以下のメニューが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全てにチェックを入れる すべてのチェックボックスにチェックが入ります。 ● 全てのチェックをはずす すべてのチェックボックスからチェックを外します。 ● 除外 管理外機器にする ADE 機器を除外します。(A) ステータスに「除外」と表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 以下の場合も (A) ステータスに「除外」と表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 機器一覧で削除した機器 👉 「画面 (一括削除)」 82 ページ 👉 「機器の個別削除」 110 ページ ・ 「CSV で削除」で削除した機器 ・ 機器ライセンス数が上限に達している状態で、新規で追加した機器 ● 除外解除 除外を解除します。(A) ステータスは空白になります。 <input checked="" type="checkbox"/> (B) チェックボックスは、以下の場合に表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ライセンス認証待ち機器 ・ 機器一覧で削除した機器 👉 「画面 (一括削除)」 82 ページ 👉 「機器の個別削除」 110 ページ ・ 「CSV で削除」で削除した機器 ・ 機器ライセンス数が上限に達している状態で、新規で追加した機器
2	[ADE と同期] または [ADE から機器情報を取得]	<p>ADE と同期します。ログインしているユーザー種別によって、表示されるボタン名、処理が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユーザー種別が管理者および操作の場合 [ADE と同期] と表示されます。 ADE サーバーから ADE トークンに紐づいている機器一覧の差分を取得します。また、ADE 定義プロファイル (適用済) と ADE 定義プロファイルが異なる機器について、ADE 定義プロファイルを ADE 機器に紐づける処理を行います。 ・ ユーザー種別が閲覧者の場合 [ADE から機器情報を取得] と表示されます。 ADE サーバーから ADE トークンに紐づいている機器一覧の差分を取得します。
3	ADE 状態	<ul style="list-style-type: none"> ● なし ADE 適用前の状態です。 <input checked="" type="checkbox"/> 次回の端末初期設定時は通常のアクティベーションとなります。 ● 適用済 ADE にプロファイルが登録された状態です。 <input checked="" type="checkbox"/> 次回の端末初期設定時にプロファイルの設定が適用されます。 ● 削除済 ADE からプロファイルが削除された状態です。ステータスを「適用済」に戻すには、ADE 定義プロファイルを再度割り当て、「ADE と同期」を実行してください。ステータスが「適用済」に移行したら、端末のアクティベーションが完了次第「端末反映済」に移行します。 <input checked="" type="checkbox"/> 次回の端末初期設定時は通常のアクティベーションとなります。 ● 端末反映済 ADE にプロファイルが登録され、端末のアクティベーションも完了している状態です。 <input checked="" type="checkbox"/> 次回の端末初期設定時は再度本プロファイルの設定が適用されます。

項番	項目	説明
4	プロファイル(適用済)	ADE 機器に「ADE 定義プロファイル」を割り当てたあと、項番 2 [ADE と同期] を実行すると、割り当てた「ADE 定義プロファイル」のプロファイル名が表示されます。項番 3「ADE 状態」は「適用済」になります。 設定の割り当てについては、以下を参照してください。 📖 「(設定 - iOS) 設定の割り当て」 120 ページ
5	プロファイル	ADE 機器に「ADE 定義プロファイル」を割り当てると、割り当てた「ADE 定義プロファイル」のプロファイル名が表示されます。 設定の割り当てについては、以下を参照してください。 📖 「(設定 - iOS) 設定の割り当て」 120 ページ
6	ADE 登録日時	ABM で ADE 機器のシリアル番号を MDM サーバーに割り当てが完了した日時が、項番 2 [ADE と同期] を実行すると表示されます。 MDM サーバーへの割り当てについては、以下を参照してください。 📖 『iOS キットニングマニュアル』の「ADE を利用してライセンス認証を行う」 - 「ADE を利用するための準備をする」 - 「ABM で端末をサーバーに割り当てる」 📖 『Apple School Manager (ASM) マニュアル (利用方法・年次更新手順)』の「Automated Device Enrollment (ADE)」 - 「ADE を利用して端末を管理する」 - 「ASM で端末をサーバーに割り当てる」
7	ADE プロファイル割り当て日時	ABM が ADE 機器にプロファイルを割り当てた日時が、項番 2 [ADE と同期] を実行すると表示されます。
8	端末反映日時	ABM で ADE 機器のアクティベーションが完了した日時が、項番 2 [ADE と同期] を実行すると表示されます。

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
▲ 除外対象となる機器がありません。	ADE 機器管理ですでに「除外」のステータスになっている時に「除外」の操作を行っている。	すでに除外されている機器に対して「除外」の操作を行わないでください。
▲ 除外解除対象となる機器がありません。	ADE 機器管理でチェックボックスにチェックを入れた機器がすでに認証待ち機器として表示されている時に「除外解除」の操作を行っている。	すでに除外されている機器に対して「除外」の操作を行わないでください。
▲ ライセンスが不足しているため、一部の機器の除外解除に失敗しました。	機器ライセンスが上限に達している状態で「除外解除」の操作を行っている。	登録できる機器ライセンス数を増やす、もしくは不要な機器を削除してライセンス数を確保したうえで「除外解除」の操作を行ってください。
▲ ADE との同期を行いました、一部の機器へのプロファイル割り当てまたは割り当ての解除に失敗しました。	[ADE と同期] をクリックした際に、Apple サーバーとの通信で ADE 定義プロファイルの割り当てもしくは削除が失敗している。 [ADE と同期] をクリックした際に、Apple サーバーへのアクセス許可が得られていない。	ABM 上でデバイスが正しく割り当たっていることを確認のうえ、時間をおいて再度 [ADE と同期] をクリックしてください。 それでも改善しない場合は Apple に問い合わせてください。

8.5 アプリケーション

iOS 端末のアプリに関連する設定、および設定セットを作成します。本機能では、App Store のアプリや書籍のライセンス管理、アプリの配信、端末にインストールされた特定のアプリの検知などを行います。また、「アプリケーション配信」、「アプリケーション検知」は、作成した設定セットを、個別または複数の端末に一括で割り当てることができます。

8.5.1 「App とブック」ライセンス

Apple が提供する「App とブック」を利用して、「App とブック」場所のトークンを管理サイトにアップロードし、「App とブック」ライセンス設定として保存すると、App Store のアプリや書籍のライセンスを管理することができます。

「App とブック」場所のトークンに記録されたライセンス情報は、指定した「App とブック」ライセンス設定に紐づけられて管理されます。

本設定では、管理サイトと「App とブック」場所のトークンの紐づけや、アプリと書籍のライセンス残数、付与状況の確認を行うことができます。

- ✔ 「App とブック」ライセンスを管理するには、ABM から「App とブック」場所のトークンをダウンロードしてください。
- ✔ 「App とブック」場所のトークンの詳細については、Apple の「App とブック」に関する情報を参照してください。
- ✔ 端末への「App とブック」ライセンスの割り当ては、iOS 9.0 以上の端末に対応しています。iOS 9.0 以下の端末にライセンスを割り当てても、「App とブック」のアプリおよび書籍は配信できません。
- ✔ 「App とブック」の書籍は、ユーザーにのみ配信でき、端末には配信できません。書籍を配信する場合は、あらかじめユーザーと端末を紐づけてください。
- ✔ 「App とブック」場所のトークンは、500 件まで登録できます。
- ✎ 「App とブック」の利用に関連したその他の設定については、以下を参照してください。
 - 🔗 「「App とブック」設定テンプレート」 611 ページ
 - 🔗 「管理対象アプリポリシー」 614 ページ
 - 🔗 「アプリケーション配信」 624 ページ
 - 🔗 「アプリカタログ」 636 ページ
 - 🔗 「(設定 - iOS) 「App とブック」設定」 137 ページ
 - 🔗 「[[「App とブック」設定] タブ」 323 ページ
 - 🔗 「[その他▼] タブ / 「App とブック」」 352 ページ
- ✎ 設定セットは、最大 500 件まで作成できます。

8.5.1.1 [管理] タブ

「新規作成」画面では、「App とブック」場所のトークンを管理サイトにアップロードして紐づけを行い、「App とブック」ライセンス設定として保存します。

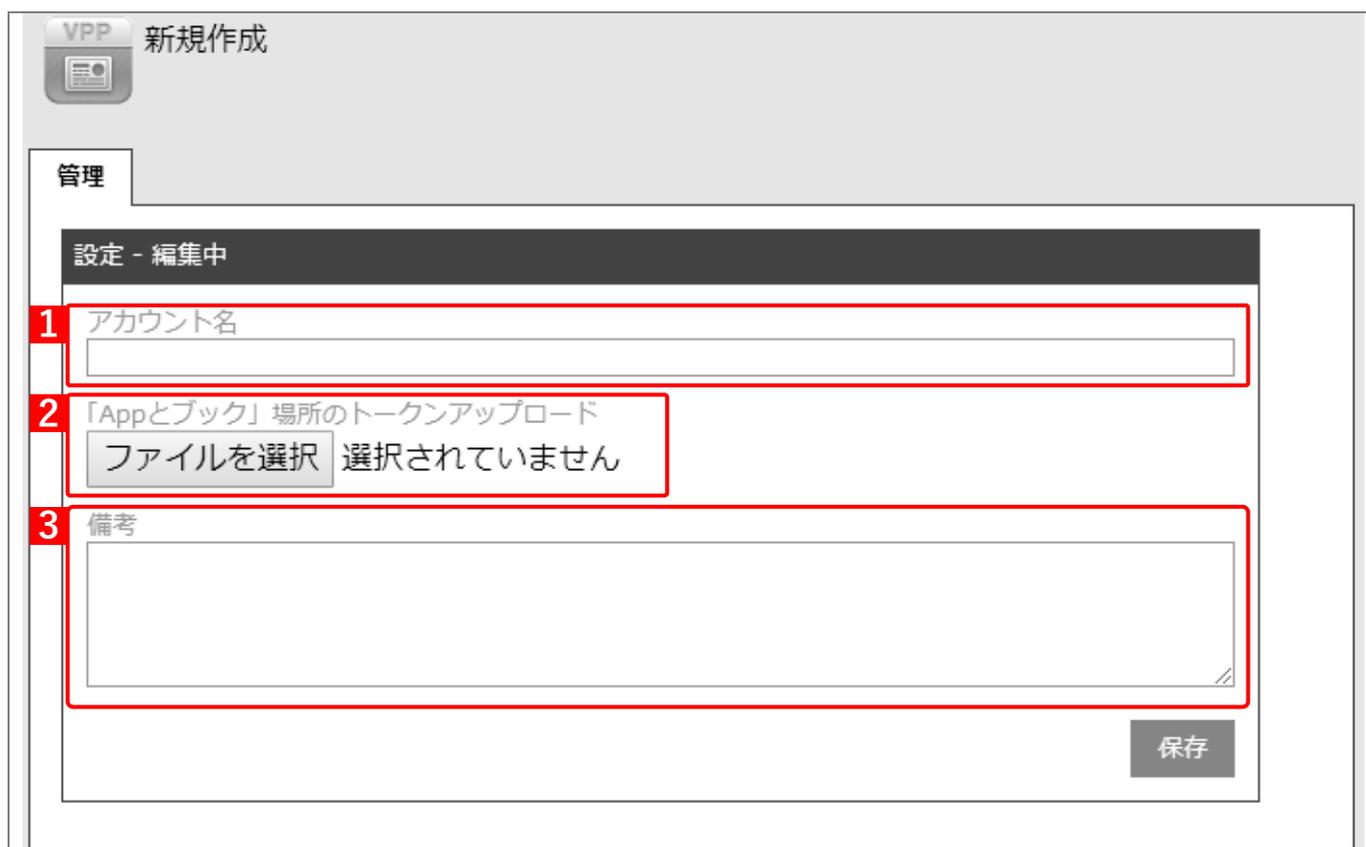
保存後の画面では、設定セットに紐づけされている「App とブック」ライセンスの情報が表示されます。必要に応じて、情報を編集することもできます。

 画面（新規作成）

 画面（編集）

◆画面（新規作成）

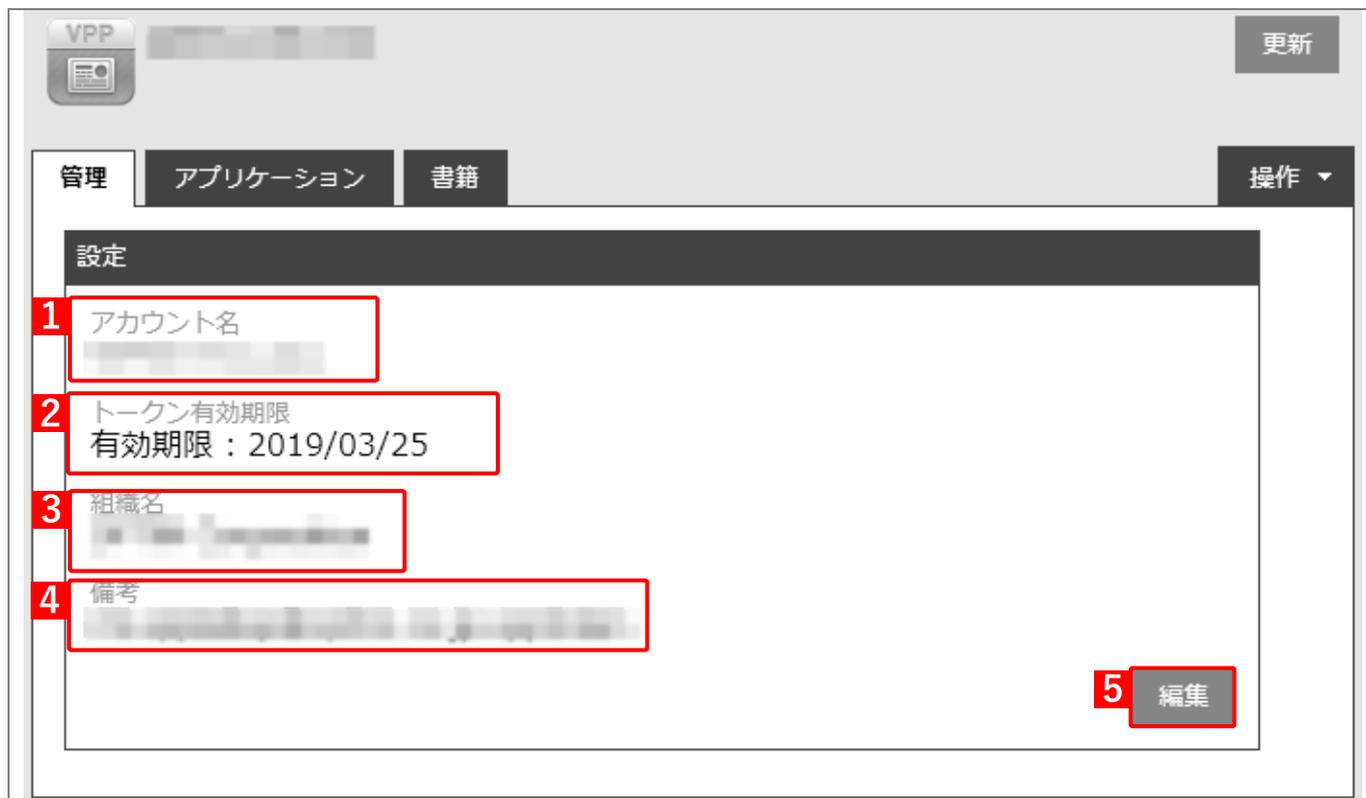
表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [「App とブック」ライセンス] → 



項番	項目	説明
1	アカウント名	「App とブック」ライセンスに紐づけるアカウントの名称を 30 文字以内で指定します。設定内で重複はできません。
2	「App とブック」場所のトークンアップロード	アップロードする「App とブック」場所のトークンファイルを選択します。
3	備考	「App とブック」場所のトークンの取得に使用した Apple ID を入力します。200 文字以内で入力してください。

◆画面（編集）

表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [[App とブック] ライセンス] →一覧から対象
を選択 → [管理] タブ



項番	項目	説明
1	アカウント名	「App とブック」ライセンスに紐づけられたアカウント名が表示されます。
2	トークン有効期限	「App とブック」場所のトークンの有効期限が表示されます。
3	組織名	「App とブック」場所のトークンに紐づけられた組織名が表示されます。
4	備考	「App とブック」ライセンス編集画面の「備考」に入力した情報が表示されます。
5	編集	「App とブック」ライセンスの情報を編集します。詳細については、以下を参照してください。 📖 「「App とブック」ライセンス」606 ページ

8.5.1.2 [アプリケーション] タブ

アプリ名、所持数など、ライセンスに含まれるアプリの情報を表示します。また、ライセンスが仮割当のユーザー（機器、組織を含む）にライセンスを割り当てたり、回収することもできます。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [[App とブック] ライセンス] → 一覧から対象を選択 → [アプリケーション] タブ



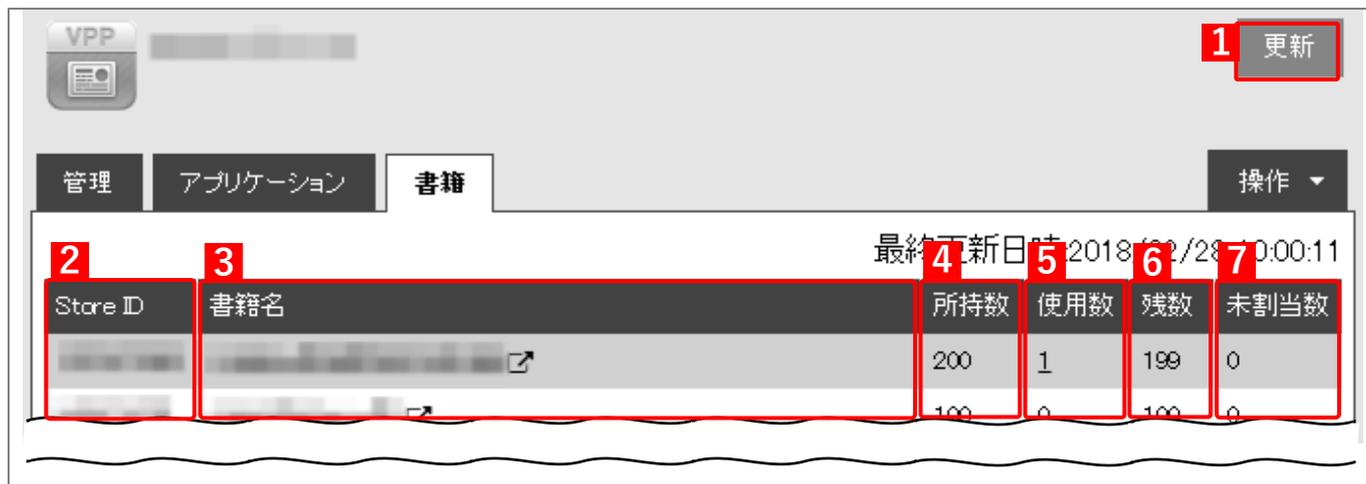
項番	項目	説明
1	[更新]	「App とブック」ライセンスの割り当て、回収、または同期を行います。「未割当数」としてカウントされているユーザーまたは端末に「App とブック」ライセンスが本割り当てされ、更新完了後に「使用数」のユーザーまたは端末としてカウントされます。また、「回収可能数」としてカウントされている「App とブック」ライセンスは回収（「App とブック」ライセンスの割り当てが解除）され、更新完了後に「残数」としてカウントされます。 <input checked="" type="checkbox"/> Apple サーバーの処理状況によっては、情報の反映までに時間がかかる場合があります。反映されない場合は、時間をおいて再度 [更新] をクリックしてください。
2	Store ID	アプリの Store ID が表示されます。
3	アプリケーション名	「App とブック」場所のトークンに含まれるアプリの名前が表示されます。
4	所持数	保有するライセンスの総数が表示されます。
5	使用数	保有するライセンスのうち、ユーザーまたは機器に割り当てられたライセンスの数が表示されます。使用数をクリックすると、使用数の内訳（ユーザー使用数、機器使用数）が表示されます。内訳のリンクから、該当ユーザー、該当機器の一覧を表示できます。
6	残数	保有ライセンスの数から、割り当て済みのライセンス数を除いた残数が表示されます。
7	未割当数	[ユーザー] または [機器] や [組織] の [[App とブック] 設定] タブから、ライセンスを仮割り当てされたユーザーの数が表示されます。項番 1 の [更新] をクリックして、ライセンスを本割り当てしてください。
8	回収可能数	[ユーザー] または [機器] や [組織] の [[App とブック] 設定] タブから、削除されたライセンスの数が表示されます。項番 1 の [更新] をクリックして、ライセンスを回収してください。

8.5.1.3 [書籍] タブ

書籍名、所持数など、ライセンスに含まれる書籍の情報が表示されます。また、ライセンスが仮割当のユーザーにライセンスを割り当てることもできます。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [[App とブック] ライセンス] → 一覧から対象を選択 → [書籍] タブ



項番	項目	説明
1	[更新]	「App とブック」ライセンスの割り当て、同期を行います。「未割当数」としてカウントされているユーザーにライセンスが本割り当てされ、更新完了後に「使用数」のユーザーとしてカウントされます。 <input checked="" type="checkbox"/> 「App とブック」による書籍配信の場合は、管理者によって一度配布された書籍を削除したり、書籍のライセンスを回収したりすることはできません。特に有償の書籍については誤って配信しないよう、配信先には十分に注意してください。 <input checked="" type="checkbox"/> Apple サーバーの処理状況によっては、情報の反映までに時間がかかる場合があります。反映されない場合は、時間をおいて再度 [更新] をクリックしてください。
2	Store ID	書籍の Store ID が表示されます。
3	書籍名	「App とブック」場所のトークンに含まれる書籍の名前が表示されます。
4	所持数	保有するライセンスの総数が表示されます。
5	使用数	保有するライセンスのうち、ユーザーに割り当てられたライセンスの数が表示されます。使用数をクリックすると、使用数の内訳（ユーザー使用数）が表示されます。内訳のリンクから、該当ユーザーの一覧を表示できます。
6	残数	保有ライセンスの数から、割り当て済みのライセンス数を除いた残数が表示されます。
7	未割当数	[ユーザー] の [[App とブック] 設定] タブから、ライセンスを仮割り当てされたユーザー数が表示されます。項番 1 の [更新] をクリックして、ライセンスを本割り当てしてください。

8.5.2 「App とブック」 設定テンプレート

アプリや書籍の「App とブック」ライセンス設定を割り当てるための設定テンプレートを作成します。「App とブック」設定テンプレート利用すると、ユーザー、端末、または組織に対して「App とブック」ライセンスを簡単に割り当てることができます。

 [画面](#) ([アプリケーション] 選択時)

 [画面](#) ([書籍] 選択時)

 「App とブック」設定テンプレートを作成するには、「App とブック」ライセンス設定を作成してください。

 [「「App とブック」ライセンス」 606 ページ](#)

 「App とブック」の利用に関連したその他の設定については、以下を参照してください。

 [「管理対象アプリポリシー」 614 ページ](#)

 [「アプリケーション配信」 624 ページ](#)

 [「アプリカタログ」 636 ページ](#)

 [「\(設定 - iOS\) 「App とブック」 設定」 137 ページ](#)

 [「\[\[「App とブック」 設定\] タブ」 323 ページ](#)

 [「\[\[その他▼\] タブ / 「App とブック」\] 352 ページ](#)

 「App とブック」設定テンプレートは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面（[アプリケーション] 選択時）

表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [「App とブック」設定テンプレート] → 

項番	項目	説明
1	テンプレート名	設定セットの名称を 30 文字以内で指定します。設定内で重複はできません。
2	「App とブック」管理 配布登録	<ul style="list-style-type: none"> ● 「App とブック」ライセンス 「App とブック」ライセンス」で作成したアカウント名を指定します。  「App とブック」ライセンス」 606 ページ
3	[アプリケーション]	App ライセンスを設定する場合に、クリックします。
4	[書籍]	ブックライセンスを設定する場合に、クリックします。
5	App ライセンス付与	<ul style="list-style-type: none"> ● アプリケーション名 アプリをリストボックスから選択します。   をクリックすると、入力欄が追加されます。   をクリックすると、入力欄が削除されます。  「App とブック」ライセンスに登録しているアプリが設定できます。画面に表示される件数は、「App とブック」ライセンスに登録しているアプリの数です。  アプリは、300 件まで追加できます。

◆画面 ([書籍] 選択時)

表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [「App とブック」設定テンプレート] →  → [書籍]

項番	項目	説明
1	テンプレート名	設定セットの名称を 30 文字以内で指定します。設定内で重複はできません。
2	「App とブック」管理 配布登録	● 「App とブック」ライセンス 「App とブック」ライセンス」で作成したアカウント名を指定します。  「App とブック」ライセンス」 606 ページ
3	[アプリケーション]	App ライセンスを設定する場合に、クリックします。
4	[書籍]	ブックライセンスを設定する場合に、クリックします。
5	ブックライセンス付 与	● 書籍名 書籍をリストボックスから選択します。   をクリックすると、入力欄が追加されます。   をクリックすると、入力欄が削除されます。  「App とブック」ライセンスに登録している書籍が設定できます。画面に表示される件数は、「App とブック」ライセンスに登録している書籍の数です。  書籍は、300 件まで追加できます。

8.5.3 管理対象アプリポリシー

管理対象アプリに対して、目的に応じたより詳細な設定を行い、管理対象ポリシー設定として保存します。管理対象ポリシー設定は、以下のアプリケーション配信に利用できます。

- 「App とブック」 ライセンスを付与したアプリ
- Per app VPN を利用するアプリ
- 自動的にアプリのバージョンアップを行いたいアプリ

 iOS 端末で管理対象アプリポリシーの内容を確認することはできません。

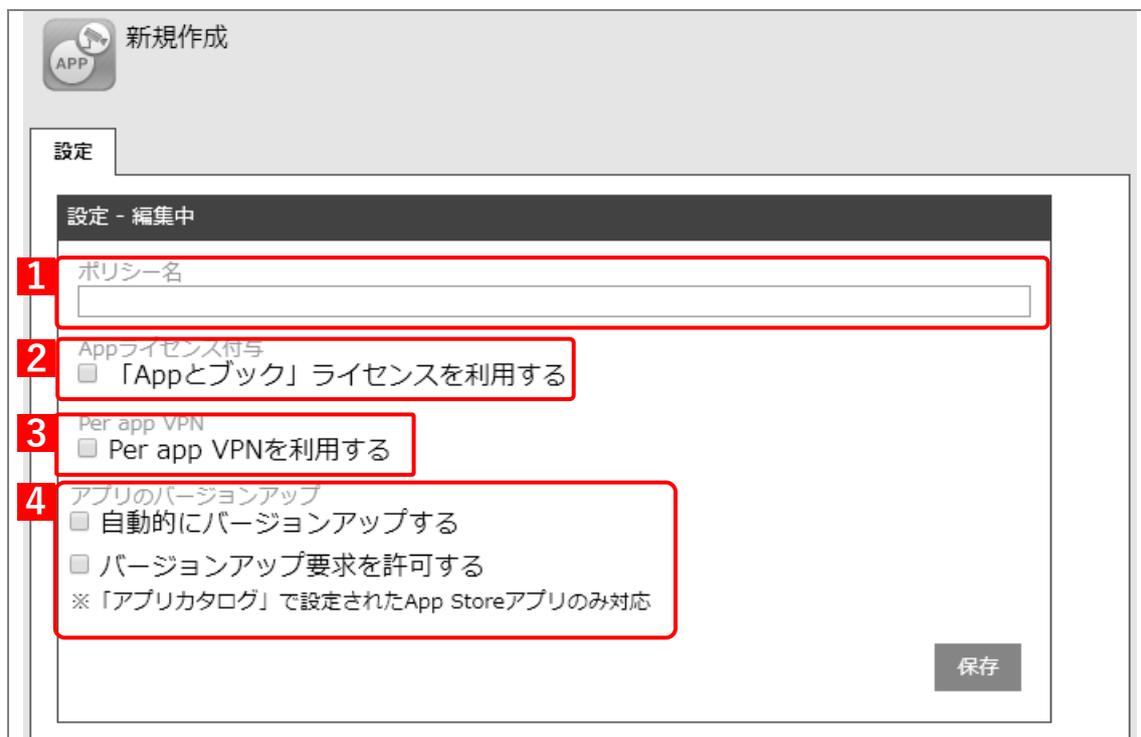
 「App とブック」の利用に関連したその他の設定については、以下を参照してください。

-  「「App とブック」設定テンプレート」 611 ページ
-  「管理対象アプリポリシー」 614 ページ
-  「アプリケーション配信」 624 ページ
-  「アプリカタログ」 636 ページ
-  「(設定 - iOS) 「App とブック」設定」 137 ページ
-  「[[「App とブック」設定] タブ」 323 ページ
-  「[その他▼] タブ / 「App とブック」」 352 ページ

 管理対象アプリポリシー設定は、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [管理対象アプリポリシー] → 



新規作成

設定

設定 - 編集中

- 1 ポリシー名
- 2 Appライセンス付与
 - 「Appとブック」ライセンスを利用する
- 3 Per app VPN
 - Per app VPNを利用する
- 4 アプリのバージョンアップ
 - 自動的にバージョンアップする
 - バージョンアップ要求を許可する
 ※「アプリカタログ」で設定されたApp Storeアプリのみ対応

保存

項番	項目	説明
1	ポリシー名	ポリシーの名称を 30 文字以内で指定します。設定内で重複はできません。
2	App ライセンス付与	●App ライセンスを利用する 付与する場合は、チェックボックスにチェックを入れてください。
3	Per app VPN	<p>●Per app VPN を利用する 利用する場合は、チェックボックスにチェックを入れてください。チェックを入れると、以下のオプションが利用できます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Per app VPN では、L2TP、PPTP 接続タイプは使用できません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> Per app VPN では、ユーザー認証方式が証明書方式のみです。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 端末に設定する VPN と違い、本機能を利用すると、アプリごとに VPN 接続の設定ができます。詳細は、以下を参照してください。</p> <p>https://support.apple.com/ja-jp/guide/deployment-reference-macos/apdfbf6f529b/1/web/1</p>
	Per app VPN を利用する	<p>●接続タイプ Per app VPN の接続タイプを以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「IKEv2」、「Cisco AnyConnect」、「Cisco Legacy AnyConnect」、「Juniper SSL」、「Pulse Secure」、「カスタム SSL」 <p>●ユーザー情報 ・所属ユーザーの情報を利用 利用する場合は、チェックボックスにチェックを入れてください。</p> <p>●識別子 Per app VPN の識別子を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 接続タイプがカスタム SSL のときのみ入力できます。</p> <p>●サーバ Per app VPN のサーバを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。</p> <p>●アカウント Per app VPN のアカウントを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「所属ユーザーの情報を利用」が無効の場合のみ入力できます。</p> <p>●グループ Per app VPN のグループを 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> VPN 接続タイプが Cisco AnyConnect、Cisco Legacy AnyConnect のときのみ入力できます。</p> <p>●ユーザ認証 「証明書」と表示されます。</p> <p>●保護領域 Per app VPN の保護領域を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 接続タイプが Juniper SSL、Pulse Secure のときのみ入力できます。</p> <p>●役割 Per app VPN の役割を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 接続タイプが Juniper SSL、Pulse Secure のときのみ入力できます。</p> <p>●カスタムデータ カスタムキーを表示します。 <input checked="" type="checkbox"/> 接続タイプがカスタム SSL のときのみ入力できます。</p> <p>●プロバイダタイプ VPN サービスがトラフィックをトンネルするレイヤーを以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「app-proxy」、「packet-tunnel」 <p>●資格情報 Per app VPN の VPN 資格情報を選択します。</p> <p>●プロキシ設定 プロキシ設定を「なし」、「手動」、「自動」から選択します。「手動」または「自動」を選択した場合は、さらに以下のとおり設定してください。</p>

項番	項目	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • 「手動」を選択した場合 <ul style="list-style-type: none"> • サーバおよびポート サーバーのアドレスを 255 文字以内の半角英数字で入力します。およびポート番号を 0 以上 65535 以下の半角数字で入力します。 • ユーザ名 ユーザー名を 255 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 • パスワード パスワードを 255 文字以内の半角英数字で入力します。 • 「自動」を選択した場合 <ul style="list-style-type: none"> • プロキシサーバの URL URL を 255 文字以内の半角英数字で入力します。 ● 待機時に接続解除 待機時の接続解除の状態を以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • 「接続を解除しない」、「一定期間後」 「一定期間後」を選択した場合は、「分」と「秒」を入力してください。 ● 備考 備考を 255 文字以内で入力します。特殊文字は使用できません。
4	アプリのバージョンアップ	<p>App Store アプリのバージョンアップ方法を指定します。どちらか一方のチェックボックスにのみチェックを入れてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自動的にバージョンアップする 「アプリケーション配信」または「アプリカタログ」で配信した App Store アプリがアップデートされた場合に、自動的にバージョンアップを行います。 <input checked="" type="checkbox"/> [自動的にバージョンアップする] にチェックを入れても、オリジナルアプリはバージョンアップされません。 ● バージョンアップ要求を許可する 「アプリカタログ」で設定した App Store アプリがアップデートされた場合に、「アプリカタログ」から手動でバージョンアップを行います。 <input checked="" type="checkbox"/> 「App とブック」ライセンスを付与したアプリは、手動でバージョンアップができません。アプリカタログを利用してください。 <input checked="" type="checkbox"/> 省データモードが有効になっている場合は、サイレントインストールでのバージョンアップができません。 <input checked="" type="checkbox"/> iOS 端末のバージョンによりアプリのバージョンアップには、iOS 端末でロック解除をする必要がある場合があります。

8.5.4 オリジナルアプリ登録

オリジナルで制作したアプリを端末に配信するための設定を行い、オリジナルアプリ登録設定として保存します。また、オリジナルアプリ登録設定を保存後に、アプリカタログに表示されるアプリの表示方法を設定することができます。

本設定で作成したオリジナルアプリ登録設定は、「アプリケーション配信」および「アプリカタログ」で、オリジナルアプリを配信する場合に使用します。

- アプリを登録するには、ipa ファイル (*.ipa)、またはマニフェストファイル (*.plist) が必要です。アップロード方法に応じてファイルを準備してください。
- 同じアプリを複数件登録することはできません。
- アプリケーション ID が同一のオリジナルアプリは、バージョンが異なる場合のみ最大 3 件まで登録できます。
- InHouse 版（組織内配布）、Ad Hoc 版（評価用配布）に対応しています。Ad Hoc 版（評価用配布）は、配信数に制限があります。
- アップデートするには、新しいオリジナルアプリ登録設定から、アプリケーション ID が同一でバージョンが異なるオリジナルアプリを登録してください。そのあと、該当のアプリケーション配信設定を新しいオリジナルアプリ登録設定に差し替えて同期すると、端末のオリジナルアプリがアップデートされます。
- オリジナルアプリは、50 件（50 アプリ）まで登録可能です。
- アップロードするファイルサイズの上限は 1 アプリにつき 150MB です。
- オリジナルアプリ登録設定は、最大 600 件まで作成できます。

8.5.4.1 [設定] タブ

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [オリジナルアプリ登録] → **+**

新規作成

設定

設定 - 編集集中

1 アップロード選択

- ipaファイルをアップロード
- マニフェストファイルをアップロード

ファイルを選択 選択されていません

※ipaファイルをアップロードを選択した場合
同封されているマニフェストファイルが自動で登録されます。

※マニフェストファイルをアップロードを選択した場合
オリジナルアプリを管理されているサーバに設置している場合にご利用ください。

2 アイコン

- あり なし

アイコン小(57×57ピクセルのPNG画像)

ファイルを選択 選択されていません

アイコン大(512×512ピクセルのPNG画像)

ファイルを選択 選択されていません

3 プロビジョニングプロファイル

ファイルを選択 選択されていません

※有効期限を管理する場合は、プロビジョニングプロファイルをアップロードしてください。

保存

項番	項目	説明
1	アップロード選択	<p>ファイルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ipa ファイルをアップロード ipa ファイルにマニフェストファイルが同封されている場合に選択します。 ● マニフェストファイルをアップロード オリジナルアプリを管理されているサーバーに設置している場合に選択します。登録対象アプリとペアとなるマニフェストファイルをアップロードします。
2	アイコン	<p>アプリのアイコンを設定します。「あり」を選択した場合は、アイコンとして設定する画像ファイルを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● あり 「アイコン小(57×57 ピクセルの PNG 画像)」または「アイコン大(512×512 ピクセルの PNG 画像)」の [ファイルを選択] をクリックして、画像ファイルを指定します。 ● なし アイコンがない場合に選択します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 本設定で表示されるアイコンは、以下のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリジナルアプリをアプリカタログで配信した場合 「アプリカタログ」を利用しているときに、アプリ上で表示されるアイコン ・ オリジナルアプリを非管理対象として配信した場合 ポータルで表示されるアイコン <p><input checked="" type="checkbox"/> 端末のホーム画面に表示するアイコンを指定することはできません。配信するアプリのアイコンが表示されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 配信するアプリのアイコンを編集することはできません。</p>
3	プロビジョニング プロファイル	<p>プロビジョニングプロファイルを指定します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 有効期限を管理する場合は、プロビジョニングプロファイルを指定します。</p>

アプリケーション ID が同一のオリジナルアプリは、バージョンが異なる場合のみ最大 3 件まで登録できます。

アップデートするには、新しいオリジナルアプリ登録設定から、アプリケーション ID が同一でバージョンが異なるオリジナルアプリを登録してください。そのあと、該当のアプリケーション配信設定を新しいオリジナルアプリ登録設定に差し替えて同期すると、端末のオリジナルアプリがアップデートされます。

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
▲ ipa ファイルを指定してください。	ipa ファイルにチェックが入っている状態で、何もファイルを指定せずアップロードしている。	「ファイルを選択」から ipa ファイルを選択して、アップロードしてください。
▲ ipa ファイルは不正な形式です。	ipa ファイルにチェックが入っている状態で、ipa 以外の形式のファイルを指定してアップロードしている。	「ファイルを選択」から ipa ファイルを選択して、アップロードしてください。
▲ ipa ファイルに Info.plist が存在しません。	指定した ipa ファイルの中身に info.plist の情報が存在していない。	info.plist を含んだ ipa ファイルを指定してアップロードしてください。
▲ Info.plist に Bundle Identifier が存在しません。	指定した ipa ファイルの info.plist に Bundle Identifier の情報が存在していない。	Bundle Identifier の情報を含んだ ipa ファイルを指定してアップロードしてください。

文言	発生契機	対処方法
▲ Info.plist の Bundle Identifier は半角英数字とピリオド「.」、ハイフン「-」で入力してください。	指定した ipa ファイルの info.plist に、不正な値を含んだ Bundle Identifier が記載されている。	Bundle Identifier は半角英数字とピリオド「.」、ハイフン「-」のみ使用した値に書き換えてください。
▲ Info.plist に Bundle Version が存在しません。	指定した ipa ファイルの info.plist に Bundle Version の情報が存在していない。	Bundle Version の情報を含んだ ipa ファイルを指定してアップロードしてください。
▲ Info.plist の Bundle Version に特殊文字が含まれています。	指定した ipa ファイルの info.plist に、特殊文字を含んだ Bundle Version が記載されている。	Bundle Version は特殊文字を含まない値に書き換えてください。
▲ Info.plist に Bundle Display Name または Bundle Name が存在しません。	指定した ipa ファイルの info.plist に Bundle Display Name または Bundle Name が存在していない。	Bundle Display Name または Bundle Name を含んだ ipa ファイルを指定してアップロードしてください。
▲ Info.plist の Bundle Display Name に特殊文字が含まれています。	指定した ipa ファイルの info.plist に、特殊文字を含んだ Bundle Display Name が記載されている。	Bundle Display Name は特殊文字を含まない値に書き換えてください。
▲ Info.plist の Bundle Name に特殊文字が含まれています。	指定した ipa ファイルの info.plist に、特殊文字を含んだ Bundle Name が記載されている。	Bundle Name は特殊文字を含まない値に書き換えてください。
▲ 既に同一のアプリケーション ID(Bundle Identifier)とバージョンのアプリが登録されています。	Bundle Identifier とバージョンが全く同じアプリがすでに登録されている。	古いアプリを削除するか、登録しようとしているオリジナルアプリの BundleID かバージョンを書き換えてください。
▲ 同一のアプリケーション ID(Bundle Identifier)のアプリは最大数(3)までしか登録できません。	同一の Bundle Identifier のアプリがすでに 3 つ登録されている。	古いアプリを削除するか、登録しようとしているオリジナルアプリの BundleID を書き換えてください。

8.5.4.2 [アプリカタログ設定] タブ

アプリカタログに表示される、アプリの表示方法を設定します。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [オリジナルアプリ登録] → 一覧から対象を選択 → [編集] → [アプリカタログ設定] タブ

設定 アプリカタログ設定 操作 ▾

設定 - 編集

1 アプリ説明文

2 カテゴリ
ブック ▾

3 開発者名

4 スクリーンショット

スクリーンショットファイル		
(なし)	ファイルを選択	選択されていません

5 外部リンクURL

取消 保存

項番	項目	説明
1	アプリ説明文	アプリカタログのアプリ詳細画面の説明文を 4,000 文字以内で入力します。特殊文字は入力できません。 <input checked="" type="checkbox"/> 入力した説明文は、端末で「アプリカタログ」を起動し、該当のオリジナルアプリを選択すると表示されます。
2	カテゴリー	アプリのカテゴリー（「仕事効率化」「ニュース」「教育」など）を指定します。カテゴリーは App Store と同様のカテゴリーを指定します。以下から選択します。 ● 「ブック」、「ビジネス」、「カタログ」、「教育」、「エンターテインメント」、「ファイナンス」、「フード／ドリンク」、「ゲーム」、「ヘルス／フィットネス」、「ライフスタイル」、「メディカル」、「ミュージック」、「ナビゲーション」、「ニュース、Newsstand」、「写真／ビデオ」、「仕事効率化」、「辞書／辞典／その他」、「ソーシャルネットワーキング」、「スポーツ」、「旅行」、「ユーティリティ」、「天気」
3	開発者名	アプリの開発者名を 60 文字以内で入力します。特殊文字は入力できません。
4	スクリーンショット	アプリカタログのアプリ詳細画面に表示されるスクリーンショットを指定します。作成時のみ指定できます。画像は最大数（5）以下にしてください。
5	外部リンク URL	アプリのマニュアルなど、外部リンクの URL を 200 文字以内の半角英数字と記号で入力します。先頭は、「http://」または「https://」にしてください。

8.5.5 App Configuration

App Configuration（アプリに対して特定の設定値を受け渡す仕組）で受け渡すアプリ名や設定値などを、App Configuration 設定として保存します。

保存した App Configuration 設定をアプリケーション配信やアプリカタログの「App Configuration」項目で設定できます。設定すると、App Configuration に対応した対象のアプリに設定値を受け渡すことができます。

- ✔ 設定値を受け渡した結果、実現できることはアプリによって異なります。
- ✔ 対応している設定値の形式は、String、Integer、および Boolean です。
- ✔ アプリの App Configuration の対応有無、および設定値の仕様については、アプリの開発元へお問い合わせください。
- ✔ エージェントを自動認証するように App Configuration を設定することができます。詳細については、以下を参照してください。
 - 🔍 『iOS キットニングマニュアル』の「エージェントを認証する」－「エージェントをインストール／認証する」－「アプリケーション配信を利用してインストール／自動認証する」－「エージェントを自動認証する」
- ✔ App Configuration 設定は、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [App Configuration] → +

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 アプリケーションタイプ
 オリジナルアプリ App Storeアプリ

3 アプリケーション名

4 設定値

Key	Type	Value
(+ ボタンで追加: 100件まで)		

保存

項番	項目	説明
1	設定名	App Configuration の設定の名称を 1 文字から 30 文字以内で指定します。
2	アプリケーションタイプ	設定するアプリケーションのタイプを以下から選択します。 ● 「オリジナルアプリ」、「App Store アプリ」
3	アプリケーション名	対象のアプリをリストボックスから選択します。  あらかじめ対象のアプリをアプリケーション配信やアプリカタログの「オリジナルアプリ一覧」、または「App Store アプリ一覧」に追加しておく必要があります。詳細については、以下を参照してください。  「アプリケーション配信」 624 ページ  「アプリカタログ」 636 ページ
4	設定値	設定値を登録します。1 つの設定セットにつき、100 件まで登録できます。   をクリックすると、入力欄が追加されます。   をクリックすると、入力欄が削除されます。 ● Key Configuration Key を入力します。 ● Type Value Type を以下から選択します。 ・ 「String」、「Integer」、「Boolean」 ● Value 「Type」で選択した Value Type に応じて、以下の操作を行います。 ・ 「String」または「Integer」を選択した場合は、Key Value を入力します。  「String」を選択した場合は、Value に以下の変数が利用できます。 ・ %MDM_ACTIVATION_CODE% iOS 端末固有のアクティベーションコードに変換されます。iOS エージェント自動認証機能を利用する場合などに利用します。  『iOS キットニングマニュアル』の「エージェントを認証する」 — 「エージェントをインストール／認証する」— 「アプリケーション配信を利用してインストール／自動認証する」— 「エージェントを自動認証する」 ・ %USER_NAME% アプリを配信する端末に紐づくユーザーの ID に変換されます。 ・ %USER_EMAIL% アプリを配信する端末に紐づくユーザーのメールアドレスに変換されます。 ・ %SERIAL_NUMBER% アプリを配信する端末のシリアル番号に変換されます。 ・ %USER_FIRST_NAME% アプリを配信する端末に紐づくユーザーの姓に変換されます。 ・ %USER_LAST_NAME% アプリを配信する端末に紐づくユーザーの名に変換されます。 ・ %DEVICE_GUID% アプリを配信する端末の GUID に変換されます。 ・ 「Boolean」を選択した場合は、「false」または「true」を選択します。  変数を使用する場合は、テスト端末で変数が正しく置換されていることを確認してください。テスト端末で問題がなければ、すべての端末に設定してください。

8.5.6 アプリケーション配信

指定したアプリを配信します。

本画面では、アプリを配信するための設定を行い、アプリケーション配信の設定セットを作成します。

配信するアプリによって、事前に以下の準備をしてください。

- オリジナルアプリを配信する場合 [オリジナルアプリ登録] でオリジナルアプリを登録してください。

 「オリジナルアプリ登録」 617 ページ

- App Store のアプリを配信する場合

Store ID を確認してください

 「アプリケーション ID の調べかた」 643 ページ

- ❗ [アプリケーション配信] と [アプリカタログ] の両方を利用して、同じアプリを配信しないでください。[アプリケーション配信] で配信している管理対象アプリは、通常、[アプリケーション配信] の設定セットを削除すると、端末からアンインストールされます。ただし、同じアプリを [アプリカタログ] でも配信している場合は、[アプリケーション配信] の設定セットを削除しても、該当のアプリはアンインストールされません。また、[アプリケーション配信] と [アプリカタログ] の両方で同じアプリを配信してしまった場合、[アプリケーション配信] で配信したアプリの設定値（「管理」や「App Configuration」など）が端末に反映されます。

 「アプリカタログ」 636 ページ

- ❗ 以下のとおり設定された構成プロファイルが、iOS 10.0 以上の端末に適用されている場合は、Apple の仕様によりポータルからオリジナルアプリをインストールできません。そのため、オリジナルアプリをインストールする場合は、管理対象アプリとして配信してください。

- [iOS 制限設定] タブの「App Store からの App のインストールを許可（監視対象のみ）」にチェックを入れていない。（iOS 10.0.0 以上の端末が対象）
- [iOS 制限設定] タブの「App のインストールを許可」にチェックを入れていない。（iOS 10.0.1 以上の端末が対象）

- ❗ 本機能は、配信したアプリ内のフォルダー削除やアプリを初期化することはありません。

- ❗ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - iOS) 設定の割り当て」 120 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

- ❗ 設定セットは、最大 300 件まで作成できます。

以下のアプリ配布はオプション機能を使用するものであり、アプリケーション配信の「アプリケーション管理」を利用している企業のみ利用することができます。詳細については、管理者にお問い合わせください。

- 管理対象アプリとしてアプリを配布する場合、本画面でアプリを指定するときに「管理」の [有効] にチェックを入れます。

- ❗ 監視対象端末で省データモードが無効になっている場合は、アプリがサイレントインストールされます。
- ❗ 監視対象端末を対象に非管理対象アプリを管理対象アプリとして再配布した場合、監視対象端末ではユーザーの許可を求めるポップアップメッセージは表示されません。
- ❗ 管理対象アプリの詳細については、「管理」を参照してください。

 「アプリケーション配信」 624 ページ

● App ライセンスを付与したアプリを配布する場合

詳細については、以下を参照してください。

 『iOS アプリケーション配信 手順書』

-  アプリケーション配信を行うと、対象の iOS 端末に「App とブック」アプリによる割り当て許可を求める確認画面が表示されます（「App とブック」アプリの初回配布のみ）。端末ユーザーの同意後の同期が開始されると、「App とブック」アプリの配布が開始されます。また、ユーザーが同意を拒否した場合は、8 時間が経過したあとの同期時に再度確認画面が表示されます。この確認画面の詳細については、以下を参照してください。

 「「App とブック」ライセンス」606 ページ

● カスタム B2B アプリを配布する場合

カスタム B2B アプリとは、取引先や社内だけに限定公開できる iOS のアプリです。カスタム B2B アプリの配布をするには、App ライセンスが必要です。詳細については、以下を参照してください。

 「「App とブック」ライセンス」606 ページ

-  カスタム B2B アプリの配信は、iOS 9.3.2 以上に対応しています。
-  カスタム B2B アプリの配布手順は、App ライセンスを付与したアプリの配布手順と同じです。詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

 『iOS アプリケーション配信 手順書』

● Per app VPN を利用するアプリを配布する場合

[管理対象アプリポリシー] で [Per app VPN を利用する] にチェックを入れ、VPN 情報を記載したポリシーを作成します。本画面でアプリを指定するときに「管理」の [有効] にチェックを入れ、[管理対象アプリポリシー] で作成した管理対象アプリポリシー設定を選択します。

 「管理対象アプリポリシー」614 ページ

● App Store のアプリ配信で、アプリ配信後自動的にアプリのバージョンアップを行いたい場合

[管理対象アプリポリシー] で [アプリのバージョンアップ] にチェックを入れ、管理対象アプリポリシー設定を作成します。本画面でアプリを指定するときに、「管理」の [有効] にチェックを入れ、[管理対象アプリポリシー] で作成した管理対象アプリポリシー設定を選択します。

 「管理対象アプリポリシー」614 ページ

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [アプリケーション配信] → +

新規作成

設定

設定 - 編集

1
設定名

2
オリジナルアプリ一覧

アプリケーション名	管理	バックアップ	ポリシー	App Configuration	
(+ボタンで追加: 600件まで)					

※事前にオリジナルアプリ登録をおこなってください。「メニュー」→「オリジナルアプリ登録」から、オリジナルアプリを登録できます。

※「管理」および「バックアップ」はiOS 5.0.1以降のみ対応

3
App Storeアプリ一覧

更新

Store ID	アプリケーション名	管理	バックアップ	ポリシー	App Configuration	
(+ボタンで追加: 300件まで)						

※Store IDには、App StoreアプリケーションのURLに含まれるIDを入力してください。
URL「https://apps.apple.com/jp/app/example/id<Store ID>」の<Store ID>の部分になります。

※インストールするには、機器にApple IDが設定済みである必要があります。

※「管理」および「バックアップ」はiOS 5.0.1以降のみ対応

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定セットの名称を 1 文字から 30 文字以内で指定します。
2	オリジナルアプリ一覧	<p>端末へ配信するオリジナルアプリを設定します。1 設定に 600 件登録できます。</p> <p>  をクリックすると、入力欄が追加されます。</p> <p>  をクリックすると、入力欄が削除されます。</p> <p>●アプリケーション名 アプリ名とバージョンが表示されます。該当のアプリを指定します。「オリジナルアプリ登録」で登録したアプリを指定できます。設定保存後は、アプリケーション ID およびバージョンが自動表示されます。設定内で重複はできません。</p> <p>●管理 管理対象アプリとして配信する場合は、[管理] にチェックを入れます。管理対象アプリは監視対象端末の場合、サイレントインストールされます。また [管理] のチェックを外して同期すると、端末にインストールしたアプリはアンインストールされます。[管理] にチェックを入れると、以下の設定ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリのデータのバックアップ制御 後述の「バックアップ」を参照してください。 • アプリおよびアプリに関連付けられたデータの削除  「[その他▼] タブ/iOS リモート操作」260 ページ • App ライセンスを割り当てたアプリや Per app VPN を利用するアプリの配信  「管理対象アプリポリシー」614 ページ • App Configuration の設定 後述の「App Configuration」を参照してください。 <p> 対象のアプリが端末に非管理対象アプリとしてインストールされていた場合、[管理] にチェックを入れて同期すると、管理対象アプリに変更されます。</p> <p>●バックアップ アプリのデータを iTunes または iCloud にバックアップすることを許可する場合は、チェックを入れます。</p> <p> アプリをインストールしたあと、本設定の内容を変更することはできません。変更する場合は、アプリのアンインストールを行い、再インストールしてください。</p> <p> 本項目は、「管理」にチェックが入っているときに設定できます。</p> <p>●ポリシー 「管理対象アプリポリシー」で作成したポリシーを指定すると、App ライセンスや Per App VPN を適用できます。  「管理対象アプリポリシー」614 ページ</p> <p>●App Configuration 対象のアプリに App Configuration の設定を適用する場合は、リストボックスから選択します。[新規追加] をクリックすると、App Configuration の設定画面が表示されます。  「App Configuration」622 ページ</p>

項番	項目	説明
3	App Store アプリ一覧	<p>端末へ配信する App Store アプリを設定します。1 設定に 300 件登録できます。</p> <p>  をクリックすると、入力欄が追加されます。</p> <p>  をクリックすると、入力欄が削除されます。</p> <p>●Store ID Store ID を 0 以上 9223372036854775807 以下の半角数字で指定します。入力したあとに [更新]、または [保存] をクリックすると以降の情報を自動取得して表示します。設定内で重複はできません。</p> <p>●アプリケーション名 Store ID を入力したあとに [更新]、または [保存] をクリックして自動取得してください。</p> <p>●管理 管理対象アプリとして配信する場合は、[管理] にチェックを入れます。管理対象アプリは監視対象端末の場合、サイレントインストールされます。また [管理] のチェックを外して同期すると、端末にインストールしたアプリはアンインストールされます。[管理] にチェックを入れると、以下の設定ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリのデータのバックアップを制御 後述の「バックアップ」を参照してください。 • アプリおよびアプリに関連付けられたデータの削除  「[その他▼] タブ/iOS リモート操作」260 ページ • App ライセンスを割り当てたアプリや Per app VPN を利用するアプリの配信  「管理対象アプリポリシー」614 ページ • App Configuration の設定 後述の「App Configuration」を参照してください。 <p> 対象のアプリが端末に非管理対象アプリとしてインストールされていた場合、[管理] にチェックを入れて同期すると、管理対象アプリに変更されます。</p> <p>●バックアップ アプリのデータを iTunes または iCloud にバックアップすることを許可する場合は、チェックを入れます。</p> <p> アプリをインストールしたあと、本設定の内容を変更することはできません。変更する場合は、アプリのアンインストールを行い、再インストールしてください。</p> <p> 本項目は、「管理」にチェックが入っているときに設定できます。</p> <p>●ポリシー 「管理対象アプリポリシー」で作成したポリシーを指定すると、App ライセンスや Per App VPN を適用できます。  「管理対象アプリポリシー」614 ページ</p> <p>●App Configuration 対象のアプリに App Configuration の設定を適用する場合は、リストボックスから選択します。[新規追加] をクリックすると、App Configuration の設定画面が表示されます。  「App Configuration」622 ページ</p>

8.5.7 シングル APP モード（監視対象のみ）

iOS 端末や iPadOS 端末をシングル APP モードにするための設定を行い、設定セットを作成します。

 「画面（新規作成）」

 「画面（編集）」

 「画面（登録後）」

シングル APP モードとは、iOS 端末や iPadOS 端末で起動できるアプリを 1 つのみに制限する機能です。注文、会計、POS アプリおよびデモアプリなどのみを起動させて、他のアプリの操作や設定の変更などをできなくします。本機能を使用する場合は、以下の注意事項を必ず確認してください。誤った操作を行うと、端末が操作不能になったり、設定を解除できなくなったりするので、注意してください。

注意

- シングル APP モードは、iOS 6.0 以上の監視対象端末で使用できます。
- シングル APP モードの対象アプリを端末にインストールし、アプリが使用できることを確認してから、本設定を行ってください。
- シングル APP モードの反映時、および端末に反映している状態で、[アプリケーション配信] 設定の割り当て解除や [アプリケーション配信] の「管理」から [有効] のチェックを外すと、端末にメッセージが表示され、操作ができなくなります。特に注意してください。
- シングル APP モード中の端末は、アプリケーション ID で指定したアプリのみ動作します。
 - ・ エージェントが必要な機能（メッセージ通知、位置情報取得（紛失モード時を除く））は動作しません。
 - ・ 対象アプリ以外からの通知は表示されません。
 - ・ 端末の設定アプリが使用できなくなるため、端末の設定変更はできません。
- アプリケーション ID で指定したアプリが、端末にインストールされていない場合、シングル APP モードの適用は延期されます。
- 対象アプリがプリインストールアプリではない場合、一定回数は、同期を行うたびに対象アプリが端末にインストールされているかを確認します。対象アプリが端末にインストールされていない場合は、シングル APP モードの適用を延期します。延期できる回数と延期している回数は、機器ログに出力されます。また、延期が一定の回数になると、シングル APP モードの端末への適用を中止します。対象アプリをアプリケーション配信で端末にインストールしてから、設定の割り当てを解除して同期し、再度、設定を割り当てて同期してください。
- シングル APP モード設定中の端末に、アプリケーション配信設定を外すなどの操作を行い、アプリがアンインストールされた場合、端末が操作不能になる恐れがあります。シングル APP モード設定中の端末からアプリをアンインストールする操作は、絶対に行わないでください。
- シングル APP モード設定中の端末を管理サイトから削除した場合、設定の解除や MDM 構成プロファイルのアンインストールが、Apple Configurator 2 以外では行えなくなります。必ずシングル APP モードの割り当てを解除して同期を行い、シングル APP モードが端末から解除されたことを確認してから、管理サイトの端末を削除してください。
- 以下のいずれかを設定していてシングル APP モード設定中の端末と通信ができなくなった場合は、設定の変更や MDM プロファイルのアンインストールは行えなくなります。注意してください。
 - ・ [設定] → [iOS] → [構成プロファイルアップロード] → [Configurator 以外のホストとのペアリングを許可] のチェックを外している
 -  「画面（機能の制限）」 512 ページ
 - ・ [設定] → [iOS] → [ADE 定義プロファイル] の [Mac とのペアリングを許可する] のチェックを外している
 -  「ADE 定義プロファイル」 599 ページ
- iOS 14 以上では、シングル APP モード設定中の端末でも、管理サイトから OS アップデートを行えますが、iOS 14 未満では、シングル APP モード設定中に [OS アップデート] を行うと、端末が操作不能になる事象が Apple に報告されています。
 -  「（操作 - iOS）OS アップデート」 163 ページ
- シングル APP モードを適用中の iPad では、物理ボタンを使用したシャットダウンや再起動は行うことができません。シャットダウンや再起動は管理サイトから行ってください。
 -  「（操作 - iOS）リモート再起動」 164 ページ
 -  「（操作 - iOS）リモートシャットダウン」 165 ページ

 参考

- シングル APP モードで使用するアプリは、[アプリケーション配信] で「管理対象アプリ」として配信し、端末にインストールすることをおすすめします。

 「アプリケーション配信」624 ページ

◆画面（新規作成）

表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [シングル APP モード（監視対象のみ）] → +

新規作成

※監視対象端末にのみ、以下の設定が有効になります。

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 アプリケーションID(Bundle Identifier)

※プリインストールアプリのアプリケーションIDはこちら(A)
(ただしOSバージョンなどによってプリインストールされて(A)場合があります。)

▲ 本機能を使用すると、アプリケーションIDで指定したアプリケーションのみ使用できる状態になります。設定アプリも使用できなくなり、端末の設定が変更できなくなりますので注意してください。

▲ アプリケーションIDで指定したアプリケーションが端末にインストールされていない場合、シングルAPPモードの適用は延期されます。

3 シングルAPPモードの強制適用
チェックを有効にすると、指定されたアプリケーションのインストール状態を問わずシングルAPPモードを適用します。

シングルAPPモードの適用を強制する

▲ チェックを有効にすると、指定したアプリケーションが端末にインストールされるまで、端末の操作ができなくなります。

4 機能のオプション

- タッチ操作を無効にする
- 画面の回転を無効にする
- 音量の調整ボタンを無効にする
- 着信/サイレントスイッチを無効にする
- スリープ/スリープ解除ボタンを無効にする
- 自動ロックを無効にする
- VoiceOverを常時有効にする
- ズーム機能(拡大/縮小)を常時有効にする
- 色の反転を常時有効にする
- AssistiveTouchを常時有効にする
- 選択項目の読み上げ機能を常時有効にする
- モノラル音声を常時有効にする
- 音声コントロールを常時有効にする

5 アクセシビリティのオプション

- VoiceOverを許可する
- ズーム機能(拡大/縮小)を許可する
- 色の反転を許可する
- AssistiveTouchを許可する
- 音声コントロールを許可する

▲ 本機能を使用する場合は以下の事項を確認のうえ、細心の注意を払って使用してください。誤った操作を行うと、端末が操作不能になったり、設定を解除できなくなる恐れがあります。

- ・本設定を適用している端末に対して、アプリケーション配信設定を外すなどしてアプリケーションがアンインストールされた場合は、端末が操作不能になる恐れがあります。
- ・本設定を適用している状態で管理サイトから機器を削除した場合、Apple Configurator 2 を使用しないと設定の解除やMDM構成プロファイルのアンインストールが行えなくなります。管理サイトから機器を削除する場合は、必ず割り当ての解除と同期を行い、シングルAPPモードの解除が端末に反映されたことを確認してから削除を行ってください。
- ・以下の設定いずれかを「しない」（「いいえ」）にしていた場合、シングルAPPモードを使用中に端末の通信手段が失われると、設定の変更や、MDMプロファイルのアンインストールが行えなくなります。
 - ・[構成プロファイルアップロード]→[iOS制限設定]の「Apple Configurator 2 以外のホストとのペアリングを許可」
 - ・[ADE定義プロファイル]の「Macとのペアリングを許可する」

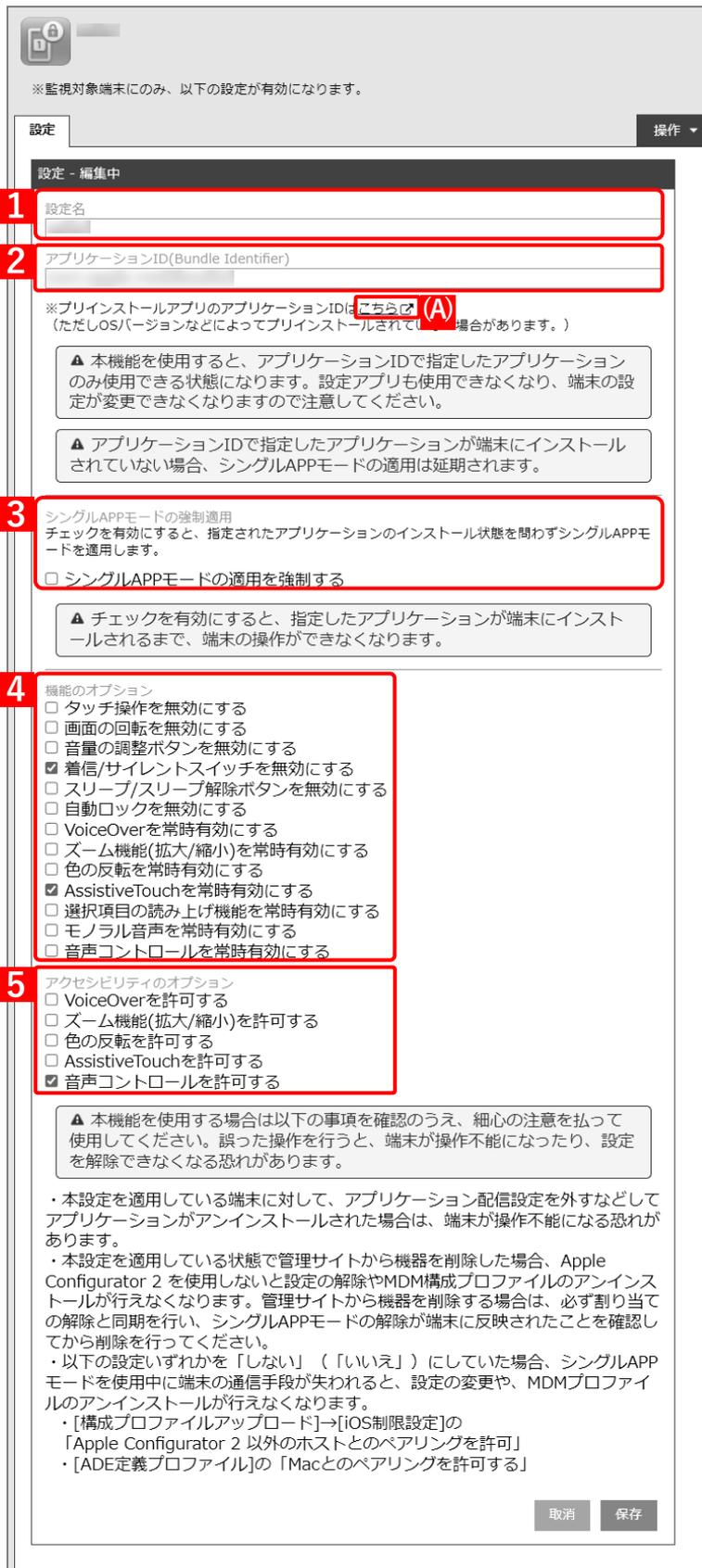
6 上記の内容を理解したうえで同意します。

(B) 保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定セットの名称を 1 文字から 30 文字以内で指定します。
2	アプリケーション ID (Bundle Identifier)	<p>シングル APP モードの対象アプリのアプリケーション ID を指定します。</p> <p> アプリケーション ID の確認方法は、以下を参照してください。</p> <p style="padding-left: 40px;"> 「アプリケーション ID の調べかた」 643 ページ</p> <p> (A) [こちら] をクリックすると、プリインストールアプリのアプリケーション ID の一覧が表示されます。</p>
3	シングル APP モードの 強制適用	対象アプリがプリインストールアプリで、(A) [こちら] をクリックして、表示される一覧に存在しない場合は、[シングル APP モードの適用を強制する] にチェックを入れます。
4	機能のオプション	シングル APP モード中に無効/有効にしたい項目にチェックを入れます。
5	アクセシビリティのオプション	シングル APP モード中に許可したい項目にチェックを入れます。
6	[上記の内容を理解した上で同意します]	<p>項番 1~5 までの指定や設定した内容を確認し、[上記の内容を理解した上で同意します] にチェックを入れます。</p> <p> [上記の内容を理解した上で同意します] にチェックを入れると、(B) [保存] をクリックすることができます。</p>

◆画面 (編集)

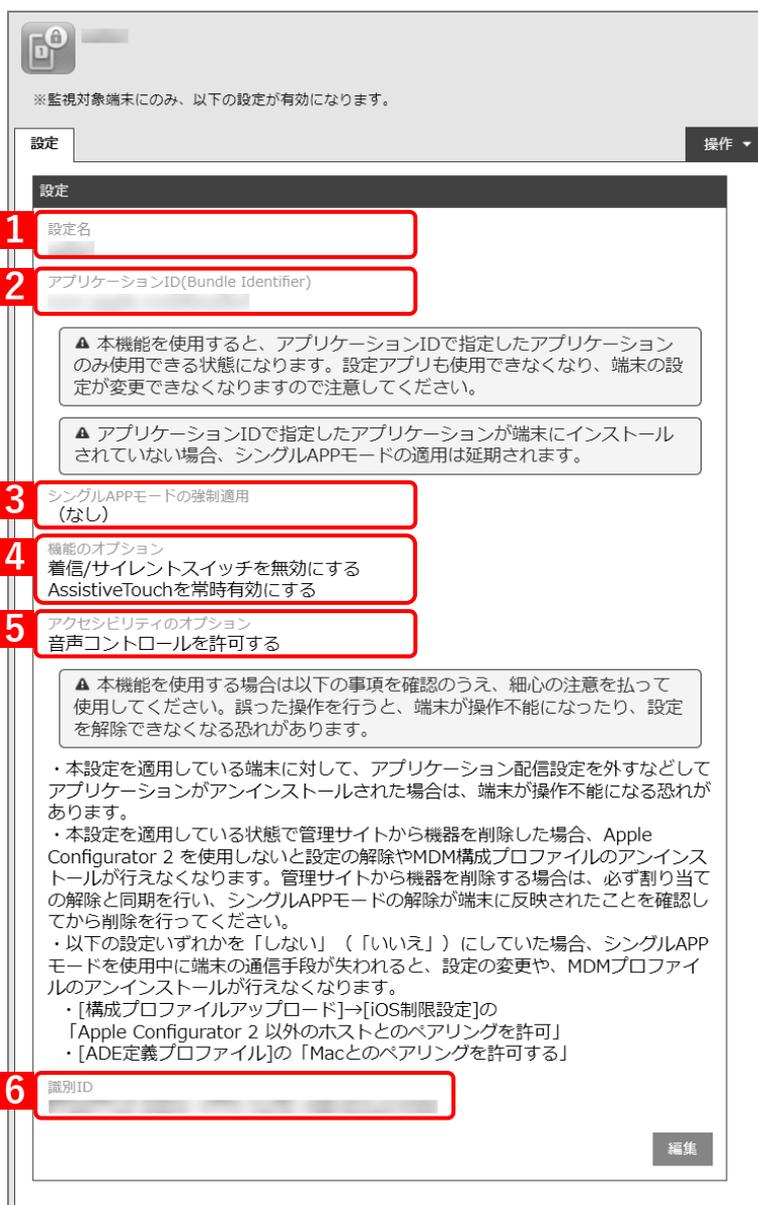
表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [シングル APP モード (監視対象のみ)] → 一覧から対象を選択 → [編集]



項番	項目	説明
1	設定名	設定セットの名称を 1 文字から 30 文字以内で指定します。
2	アプリケーション ID (Bundle Identifier)	シングル APP モードの対象アプリのアプリケーション ID を指定します。  アプリケーション ID の確認方法は、以下を参照してください。  「アプリケーション ID の調べかた」 643 ページ  (A) [こちら] をクリックすると、プリインストールアプリのアプリケーション ID の一覧が表示されます。
3	シングル APP モードの強制適用	対象アプリがプリインストールアプリで、(A) [こちら] をクリックして、表示される一覧に存在しない場合は、[シングル APP モードの適用を強制する] にチェックを入れます。
4	機能のオプション	シングル APP モード中に無効/有効にしたい項目にチェックを入れます。
5	アクセシビリティのオプション	シングル APP モード中に許可したい項目にチェックを入れます。

◆画面（登録後）

表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [シングル APP モード（監視対象のみ）] → 一覧から対象を選択



※監視対象端末にのみ、以下の設定が有効になります。

設定

1 設定名

2 アプリケーションID(Bundle Identifier)

▲ 本機能を使用すると、アプリケーションIDで指定したアプリケーションのみ使用できる状態になります。設定アプリも使用できなくなり、端末の設定が変更できなくなりますので注意してください。

▲ アプリケーションIDで指定したアプリケーションが端末にインストールされていない場合、シングルAPPモードの適用は延期されます。

3 シングルAPPモードの強制適用 (なし)

4 機能のオプション
着信/サイレントスイッチを無効にする
AssistiveTouchを常時有効にする

5 アクセシビリティのオプション
音声コントロールを許可する

▲ 本機能を使用する場合は以下の事項を確認のうえ、細心の注意を払って使用してください。誤った操作を行うと、端末が操作不能になったり、設定を解除できなくなる恐れがあります。

- ・本設定を適用している端末に対して、アプリケーション配信設定を外すなどしてアプリケーションがアンインストールされた場合は、端末が操作不能になる恐れがあります。
- ・本設定を適用している状態で管理サイトから機器を削除した場合、Apple Configurator 2 を使用しないと設定の解除やMDM構成プロファイルのアンインストールが行えなくなります。管理サイトから機器を削除する場合は、必ず割り当ての解除と同期を行い、シングルAPPモードの解除が端末に反映されたことを確認してから削除を行ってください。
- ・以下の設定いずれかを「しない」（「いいえ」）にしていた場合、シングルAPPモードを使用中に端末の通信手段が失われると、設定の変更や、MDMプロファイルのアンインストールが行えなくなります。
 - ・[構成プロファイルアップロード]→[iOS制限設定]の「Apple Configurator 2 以外のホストとのペアリングを許可」
 - ・[ADE定義プロファイル]の「Macとのペアリングを許可する」

6 識別ID

編集

項番	項目	説明
1	設定名	指定した設定名が表示されます。
2	アプリケーション ID (Bundle Identifier)	指定したアプリケーション ID が表示されます。
3	シングル APP モードの 強制適用	チェックを入れると「シングル APP モードの適用を強制する」と表示されます。
4	機能のオプション	チェックを入れた項目が表示されます。
5	アクセシビリティのオプション	チェックを入れた項目が表示されます。
6	識別 ID	識別 ID が表示されます。  機器一覧のシングル APP モードのプロファイルに表示される識別 ID と一致したとき、シングル APP モードが端末に適用されていることとなります。  「(情報 - iOS) プロファイル」 201 ページ  識別 ID は、本設定の新規作成や編集をしたときに出力される管理ログでも確認できます。  「ログ一覧」 790 ページ

8.5.8 アプリカタログ

推奨アプリの一覧を作成し、オリジナルアプリや AppStore のアプリを配信します。ユーザーに特定のアプリを強制的に配信・インストールする [アプリケーション配信] とは異なり、ユーザーが推奨アプリの一覧の中から、必要なアプリを任意にインストールすることができます。

本画面では、アプリの一覧を配信するための設定を行い、アプリカタログの設定セットを作成します。

 [アプリケーション配信] と [アプリカタログ] の両方を利用して、同じアプリを配信しないでください。[アプリケーション配信] で配信している管理対象アプリは、通常、[アプリケーション配信] の設定セットを削除すると、端末からアンインストールされます。ただし、同じアプリを [アプリカタログ] でも配信している場合は、[アプリケーション配信] の設定セットを削除しても、該当のアプリはアンインストールされません。また、[アプリケーション配信] と [アプリカタログ] の両方で同じアプリを配信してしまった場合、[アプリケーション配信] で配信したアプリの設定値（「管理」や「App Configuration」など）が端末に反映されます。

 「アプリケーション配信」 624 ページ

 App Store を非表示にしている場合は、「App Store アプリ一覧」の「管理」で、[有効] にチェックを入れてください。App Store のアプリを配信できません。

 「App とブック」を設定している場合は、「App Store アプリ一覧」で以下の設定を行うと、アプリのインストール時に Apple ID とパスワードの入力をスキップできます。

- 「管理」の [有効] にチェックを入れる。
- 「ポリシー」のリストボックスから、「App ライセンス付与」の「[App とブック] ライセンスを利用する」にチェックを入れた管理対象アプリポリシー設定を指定する。

「App とブック」の設定の詳細については、以下のマニュアルを参照してください。

 『Apple Business Manager (ABM) マニュアル (利用方法・年次更新手順)』の「App とブック」

 『Apple School Manager (ASM) マニュアル (利用方法・年次更新手順)』の「App とブック」

 作成した設定セットは、機器に割り当てることで、機器に適用されます。

 『iOS アプリケーション配信 手順書』の「[App とブック] を利用してアプリカタログからアプリをインストールする」

 『iOS アプリケーション配信 手順書』の「[App とブック] を利用せずアプリカタログからアプリをインストールする」

 設定セットは、最大 2,000 件まで作成できます。

 iOS 端末側での「アプリカタログ」の名称は、「Safety Manager App Catalog」となります。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [アプリカタログ] → +

(A)

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 カタログ配信対象
 すべて
 組織
 ユーザー分類

3 アイコン(25×25ピクセルのPNG画像)
 ファイルを選択 選択されていません

4 表示順

5 オリジナルアプリ一覧

アプリケーション名	管理	バックアップ	ポリシー	App Configuration
(+ボタンで追加: 600件まで)				

※事前にオリジナルアプリ登録をおこなってください。「メニュー」→「オリジナルアプリ登録」から、オリジナルアプリを登録できます。
 ※「管理」および「バックアップ」はiOS 5.0.1以降のみ対応

6 App Storeアプリ一覧

Store ID	アプリケーション名	管理	バックアップ	ポリシー	App Configuration
(+ボタンで追加: 300件まで)					

更新

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定セットの名称を 1 文字から 30 文字以内で指定します。
2	カタログ配信対象	<p>カタログの配信対象を以下の項目から指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「すべて」、「組織」、「ユーザー分類」 ☑ 「組織」を指定した場合は、端末が所属している組織の構成により、アプリカタログに配信されるアプリは、以下のようになります。 《例》上位組織 (A) > 組織 (B) という組織構成の場合 <ul style="list-style-type: none"> ・ 端末が上位組織 (A) に所属 カタログ配信対象が「上位組織 (A)」に設定されたアプリのみが、アプリカタログに配信されます。 ・ 端末が組織 (B) に所属 カタログ配信対象が「上位組織 (A)」および「組織 (B)」に設定された両方のアプリが、アプリカタログに配信されます。
3	アイコン (25×25 ピクセルの PNG 画像)	<p>必要に応じて、アプリのアイコンを設定します。 [ファイルを選択] クリックして、画像ファイルを選択します。</p> <p>☑ 設定したアイコンは、端末に表示される Safety Manager App Catalog の設定セット名の先頭に表示されます。</p> <p>☑ 25×25 ピクセルの PNG 形式の画像を設定してください。</p> <p>☑ 画像のファイルサイズは 32KB 以下である必要があります。</p>
4	表示順	<p>必要に応じて、端末に表示する際の順番を設定します。</p> <p>☑ 1~2,000 の範囲で設定できます。</p> <p>☑ 同じ数字を設定した場合は、同じ数字内での名前順となります。 例) 「AAA」表示順「2」、「BBB」表示順「2」、「CCC」表示順「1」の場合は、「CCC」「AAA」「BBB」の順で表示されます。</p>
5	オリジナルアプリ一覧	<p>配信するアプリを登録済みのオリジナルアプリから選択します。オリジナルアプリの登録方法は以下を参照してください。1 設定に 600 件まで登録できます。</p> <p>☑ 「オリジナルアプリ登録」 617 ページ</p> <p>☑  をクリックすると、入力欄が追加されます。</p> <p>☑  をクリックすると、入力欄が削除されます。</p> <p>☑ 1 設定に 600 件まで登録できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アプリケーション名 アプリ名とバージョンが表示されます。該当のアプリを指定します。「オリジナルアプリ登録」で登録したアプリを指定できます。設定保存後は、アプリケーション ID およびバージョンが自動表示されます。設定内で重複はできません。 ☑ 「オリジナルアプリ登録」 617 ページ ● 管理 管理対象アプリとして配信する場合は、[管理] にチェックを入れます。管理対象アプリは監視対象端末の場合、サイレントインストールされます。また [管理] のチェックを外して同期すると、端末にインストールしたアプリはアンインストールされます。[管理] にチェックを入れると、以下の設定ができます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ アプリのデータのバックアップを制御 後述の「バックアップ」を参照してください。 ・ アプリおよびアプリに関連付けられたデータの削除 ☑ 「[[その他▼] タブ/iOS リモート操作」 260 ページ ・ App ライセンスを割り当てたアプリや Per app VPN を利用するアプリの配信 ☑ 「管理対象アプリポリシー」 614 ページ ・ App Configuration の設定 後述の「App Configuration」を参照してください。

項番	項目	説明
		<p> 対象のアプリが端末に非管理対象アプリとしてインストールされていた場合、[管理] にチェックを入れて同期すると、管理対象アプリに変更されます。</p> <p>●バックアップ アプリのデータを iTunes または iCloud にバックアップすることを許可する場合は、チェックを入れます。</p> <p> アプリをインストールしたあと、本設定の内容を変更することはできません。変更する場合は、アプリのアンインストールを行い、再インストールしてください。</p> <p> 本項目は、「管理」にチェックが入っているときに設定できます。</p> <p>●ポリシー 「管理対象アプリポリシー」で作成したポリシーを指定すると、App ライセンスや Per App VPN を適用できます。  「管理対象アプリポリシー」 614 ページ</p> <p>●App Configuration 対象のアプリに App Configuration の設定を適用する場合は、リストボックスから選択します。[新規追加] をクリックすると、App Configuration の設定画面が表示されます。  「App Configuration」 622 ページ</p> <p> 配信対象の端末に対し、同じアプリを指定したアプリカタログの設定セットが複数ある場合は、以下の優先度で設定値が端末に反映されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • App Configuration を設定している設定セットと、設定していない設定セットの場合は、App Configuration が設定された設定セットの設定値が端末に反映されます。 • App Configuration も設定された設定セットが複数ある場合は、(A) 一覧に表示にされている設定セットのうち、最上位に表示されている設定セットの設定値が端末に反映されます。
6	App Store アプリ一覧	<p>端末へ配信する App Store アプリを設定します。</p> <p>  をクリックすると、入力欄が追加されます。</p> <p>  をクリックすると、入力欄が削除されます。</p> <p> 1 設定に 300 件まで登録できます。</p> <p>●Store ID Store ID を 0 以上 9223372036854775807 以下の半角数字で指定します。入力したあとに [更新]、または [保存] をクリックすると以降の情報を自動取得して表示します。設定内で重複はできません。</p> <p>●アプリケーション名 アプリ名を表示します。Store ID を入力したあとに [更新]、または [保存] をクリックして自動取得してください。</p> <p>以下の「管理」、「バックアップ」、「ポリシー」の 3 項目はオプションであり、アプリカタログの「アプリケーション管理」を利用している企業のみご利用いただけます。詳細については、管理者にお問い合わせください。</p> <p>●管理 管理対象アプリとして配信する場合は、[管理] にチェックを入れます。管理対象アプリは監視対象端末の場合、サイレントインストールされます。また [管理] のチェックを外して同期すると、端末にインストールしたアプリはアンインストールされます。[管理] にチェックを入れると、以下の設定ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリのデータのバックアップを制御 後述の「バックアップ」を参照してください。 • アプリおよびアプリに関連付けられたデータの削除  「[[その他▼] タブ/iOS リモート操作」 260 ページ • App ライセンスを割り当てたアプリや Per app VPN を利用するアプリの配信

項番	項目	説明
		<p style="text-align: center;"> 「管理対象アプリポリシー」 614 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> • App Configuration の設定 後述の「App Configuration」を参照してください。 <input checked="" type="checkbox"/> 対象のアプリが端末に非管理対象アプリとしてインストールされていた場合、[管理] にチェックを入れて同期すると、管理対象アプリに変更されます。 ● バックアップ アプリのデータを iTunes または iCloud にバックアップすることを許可する場合は、チェックを入れます。 <input checked="" type="checkbox"/> アプリをインストールしたあと、本設定の内容を変更することはできません。変更する場合は、アプリのアンインストールを行い、再インストールしてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 本項目は、「管理」にチェックが入っているときに設定できます。 ● ポリシー 「管理対象アプリポリシー」で作成したポリシーを指定すると、App ライセンスや Per App VPN を適用できます。 <p style="text-align: center;"> 「管理対象アプリポリシー」 614 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● App Configuration 対象のアプリに App Configuration の設定を適用する場合は、リストボックスから選択します。[新規追加] をクリックすると、App Configuration の設定画面が表示されます。 <p style="text-align: center;"> 「App Configuration」 622 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 配信対象の端末に対し、同じアプリを指定したアプリカタログの設定セットが複数ある場合は、以下の優先度で設定値が端末に反映されます。 <ul style="list-style-type: none"> • App Configuration を設定している設定セットと、設定していない設定セットの場合は、App Configuration が設定された設定セットの設定値が端末に反映されます。 • App Configuration も設定された設定セットが複数ある場合は、(A) 一覧に表示にされている設定セットのうち、最上位に表示されている設定セットの設定値が端末に反映されます。

8.5.9 アプリケーション検知

端末からアプリ一覧を取得し、指定した条件と一致するアプリを検知して、ログを表示します。

「インストール推奨アプリケーション」では、指定するアプリが、端末にインストールされていないことを確認できます。また、「インストール非推奨アプリケーション」では、指定するアプリが端末にインストールされていることを確認することができます。

アプリの検知は端末ごとに、1日1回ランダムなタイミングで実行されます。

本画面では、アプリを検知するための設定を行い、アプリケーション検知の設定セット作成します。

 プリインストールされている内蔵アプリは、検知対象外です。内蔵アプリについては、Apple のサイトで対象の iOS 端末の情報から確認してください。

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - iOS) 設定の割り当て」120 ページ

 「全機器一括設定」248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [アプリケーション] → [アプリケーション検知] → 


新規作成

設定

設定 - 編集

1

2

インストール推奨アプリケーション

アプリケーション名	アプリケーションID	バージョン条件	
<input style="width: 95%;" type="text"/>	<input style="width: 95%;" type="text"/>	全て ▼ <input style="width: 20px;" type="text"/>	✕

(+ボタンで追加: 50件まで) +

※検知対象アプリケーションのバージョンがピリオド「.」区切りの数字でない場合、バージョン条件は無視されます。

3

インストール非推奨アプリケーション

アプリケーション名	アプリケーションID	バージョン条件	
<input style="width: 95%;" type="text"/>	<input style="width: 95%;" type="text"/>	全て ▼ <input style="width: 20px;" type="text"/>	✕

(+ボタンで追加: 50件まで) +

※検知対象アプリケーションのバージョンがピリオド「.」区切りの数字でない場合、バージョン条件は無視されます。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定セットの名称を指定します。1 文字から 30 文字で入力してください。
2	インストール推奨アプリケーション	<p>インストールを推奨するアプリを登録します。1 つの設定セットにつき、50 件まで登録できます。</p> <p>  をクリックすると、入力欄が追加されます。</p> <p>  をクリックすると、入力欄が削除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アプリケーション名 アプリ名を 60 文字以内で入力します。 ●アプリケーション ID アプリケーション ID を 60 文字以内の半角英数字と記号 (「.」、「-」) で入力します。アプリケーション ID は機器のアプリケーション詳細画面で確認してください。詳細画面の表示方法は、以下を参照してください。  「(情報 - iOS) アプリケーション」198 ページ ●バージョン条件 バージョン条件を 255 文字以内で設定します。 <p> 入力例 ABC アプリのバージョン 2.0 以上を推奨アプリにする場合 アプリケーション名：ABC アプリ パッケージ名：abcxxxxxx バージョン条件：≥2.0</p>
3	インストール非推奨アプリケーション	<p>インストールを推奨しないアプリを登録します。1 つの設定セットにつき、50 件まで登録できます。</p> <p>  をクリックすると、入力欄が追加されます。</p> <p>  をクリックすると、入力欄が削除されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アプリケーション名 アプリ名を 60 文字以内で入力します。 ●アプリケーション ID アプリケーション ID を 60 文字以内での半角英数字と記号 (「.」、「-」) 入力します。アプリケーション ID の詳細については、以下を参照してください。  「アプリケーション ID の調べかた」643 ページ ●バージョン条件 バージョン条件を 255 文字以内で設定します。 <p> 入力例 ABC アプリのバージョン 2.0 未満を非推奨アプリにする場合 アプリケーション名：ABC アプリ アプリケーション ID：abcxxxxxx バージョン条件：<2.0</p>

◆アプリケーション ID の調べかた

- 【1】** ブラウザーで「<https://tools.applemediaservices.com/app-store>」にアクセスします。
- 【2】** 検索窓に対象アプリ名を入力して検索し、検索結果から対象アプリをクリックします。
⇒対象アプリの説明画面が表示されます。
- 【3】** 説明画面の URL からアプリの Store ID を確認します。
⇒Store ID は、URL 末尾の「?country=us」を除く数字です。
以下 Apple Books の URL を例にとると、下線で示した「364709193」が Store ID に該当します。
<https://tools.applemediaservices.com/app/364709193?country=us>
- 【4】** ブラウザーで「<http://itunes.apple.com/lookup?country=JP&id=XXXXXXXXXX>」にアクセスします。
⇒テキストファイルがダウンロードされます。
上記 URL をブラウザにコピー&ペーストし、末尾の「XXXXXXXXXX」にあたる部分には、手順【3】で確認した対象アプリの Store ID を入力してください。
- 【5】** ダウンロードされたテキストファイルを開き、「bundleid」という文字列を検索します。
⇒アプリケーション ID は、テキストファイル内で「"bundleid":」に続くダブルクォーテーションで括られた文字列（Apple Books の場合は「com.apple.iBooks」）として示されています。

8.6 インターネット

インターネットに関連する設定を行います。

Web フィルタリング、Web 閲覧履歴の取得、端末のブラウザへのお気に入り追加を設定することができます。

- ✔ iOS 端末の管理サイトへの通信のタイミングにより、iOS のブラウザに対する設定セットの反映まで最大 30 分ほどの時間が必要な場合があります。
- ✔ 端末に +browser Safety Manager をインストールする前に、必ずエージェント認証を行ってください。エージェントが認証されていない場合、+browser Safety Manager をインストールしても Web フィルタリング、Web 閲覧履歴、お気に入りなどのブラウザ関連機能は使用できません。

8.6.1 Web フィルタリング

オプション

+browser Safety Manager から特定の Web サイトの閲覧を制限する設定セットを作成します。

本機能では、閲覧を許可する URL、または閲覧を禁止する URL のいずれかを指定します。

また、URL の指定とは別に、特定のカテゴリ（「ジャンル」、「検索」など）に基づいて Web サイトの閲覧を許可／禁止することもできます。

禁止対象の Web サイトにアクセスした場合は、警告メッセージが表示され、閲覧ができません。

本機能の設定セットは、Android と iOS で共有することができます。

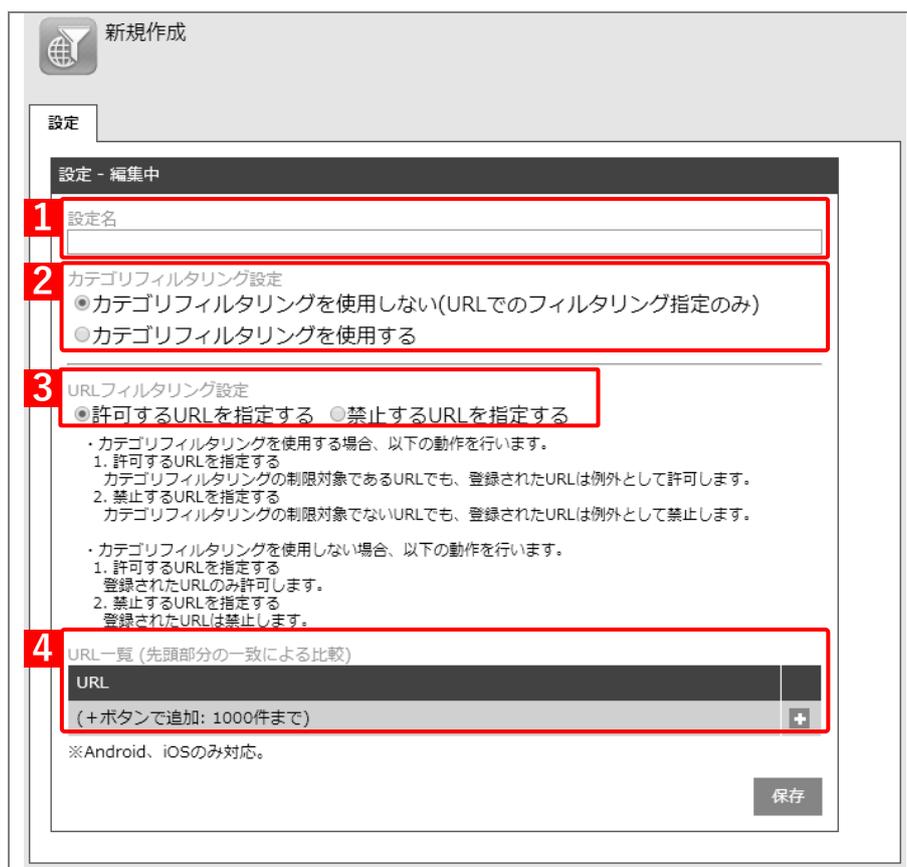
 画面（カテゴリフィルタリングを使用しない場合）

 画面（カテゴリフィルタリングを使用する場合）

- ✔ 本機能を使用する場合は、オプションの申し込みが必要です。
- ✔ 本機能は、+browser Safety Manager にのみ対応しています。
- ✔ +browser Safety Manager を利用するには、オプションお申し込みが必要です。
- ✔ +browser Safety Manager の使用方法については、以下のマニュアルを参照してください。
 -  『iOS クライアント リファレンスマニュアル』の「関連アプリの使用法」 - 「+browser Safety Manager」
- ✔ Web フィルタリングを設定すると、+browser Safety Manager のお気に入りから、フィルタリング対象となる URL のお気に入りが削除されます。
- ✔ 本製品の利用を解約しても、端末に行った設定はそのまま保持されます。解約の前に各種設定セットを [設定なし] に設定し、端末に反映してください。
- ✔ カテゴリフィルタリングは、アルプスシステムインテグレーション株式会社のフィルタリングサーバーを利用して閲覧制限をしているため、カテゴリが追加または変更される場合があります。
- ✔ カテゴリフィルタリング設定は、iOS 8.0 以上に対応しています。+browser Safety Manager の 2.1.0.100 以上のバージョンで利用できます。
- ✔ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 -  「(設定 - iOS) 設定の割り当て」 120 ページ
 -  「全機器一括設定」 248 ページ
- ✔ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面 (カテゴリフィルタリングを使用しない場合)

表示操作 [設定] → [iOS] → [インターネット] → [Web フィルタリング] → +



項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	カテゴリフィルタリング設定	<p>カテゴリフィルタリング設定を使用するかどうかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●カテゴリフィルタリングを使用しない 本設定を使用せず、URL フィルタリング設定のみを使用します。 ●カテゴリフィルタリングを使用する 本設定を使用します。使用する場合は、合わせて以下を参照してください。 <p>📄 「画面 (カテゴリフィルタリングを使用する場合)」 646 ページ</p> <p>📌 本機能は、アルプスシステムインテグレーション株式会社のフィルタリングサーバーを利用しています。</p>
3	URL フィルタリング設定	<p>本機能で禁止する URL を指定するのか、禁止する URL を指定するのかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●許可する URL を指定する ホワイトリスト形式。カテゴリフィルタリングを使用する場合は、カテゴリフィルタリングの制限対象である URL でも、登録された URL は例外として許可します。 ●禁止する URL を指定する ブラックリスト形式。カテゴリフィルタリングを使用する場合は、カテゴリフィルタリングの制限対象でない URL でも、登録された URL は例外として禁止します。
4	URL 一覧 (先頭部分の一致による比較)	<p>フィルタリングする URL を 200 文字以内の半角英数字、記号で入力します。1,000 件まで登録できます。「https://」から始まる URL も指定できます。同じ URL を重複して登録できません。</p>

◆画面（カテゴリフィルタリングを使用する場合）

表示操作 [設定] → [iOS] → [インターネット] → [Web フィルタリング] → +

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 カテゴリフィルタリング設定

- カテゴリフィルタリングを使用しない(URLでのフィルタリング指定のみ)
- カテゴリフィルタリングを使用する

3 閲覧を禁止するカテゴリ

- 不法
 - 違法と思われる行為
 - 著作権や商標権の侵害行為
 - 児童ポルノ
 - 違法と思われる薬物
 - 不適切な薬物利用
- 金融
 - 金融・経済指数・マーケット情報

※専用ブラウザの以下のバージョンにて利用できます。

- ・ Android: 1.2.2.100 以降
- ・ iOS: 2.1.0.100 以降

4 フィルタリングサーバー通信不可時の設定

- 閲覧を許可する
- 閲覧を禁止する

5 URLフィルタリング設定

- 許可するURLを指定する
- 禁止するURLを指定する

・カテゴリフィルタリングを使用する場合、以下の動作を行います。

1. 許可するURLを指定する
カテゴリフィルタリングの制限対象であるURLでも、登録されたURLは例外として許可します。
2. 禁止するURLを指定する
カテゴリフィルタリングの制限対象でないURLでも、登録されたURLは例外として禁止します。

・カテゴリフィルタリングを使用しない場合、以下の動作を行います。

1. 許可するURLを指定する
登録されたURLのみ許可します。
2. 禁止するURLを指定する
登録されたURLは禁止します。

6 URL一覧 (先頭部分の一致による比較)

URL

(+ボタンで追加: 1000件まで)

※Android、iOSのみ対応。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	カテゴリフィルタリング設定	<p>カテゴリフィルタリングの設定を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カテゴリフィルタリングを使用しない 設定画面下の URL フィルタリング設定のみ使用します。 この項目を選択した場合は、以下を参照してください。 ☞ 「画面（カテゴリフィルタリングを使用しない場合）」 645 ページ ● カテゴリフィルタリングを使用する 本設定を使用します。 <p>☑ + browser Safety Manager では、カテゴリフィルタリングを使用すると、特定のサイトを表示したり、ログインしたりすることができません。項番 5 の「URL フィルタリング設定」で、「許可する URL を指定する」を選択して、項番 6 の「URL 一覧」に、不具合があったサイトの URL を追加してください。</p>
3	閲覧を禁止するカテゴリ	<p>カテゴリフィルタリング設定で、「カテゴリフィルタリングを使用する」を選択した場合に、閲覧を禁止するカテゴリにチェックを入れます。</p> <p>☞ 「禁止するカテゴリ一覧」 439 ページ</p> <p>☑ 「プロバイダ・ポータル・ホスティング」の「検索」にチェックを入れると、閲覧を許可しているカテゴリの Web サイトは、URL を直接入力した場合にのみ閲覧できます。URL 以外の文字を入力した場合は、検索サイトを経由するため、閲覧が禁止されます。</p>
4	フィルタリングサーバー通信不可時の設定	<p>カテゴリフィルタリング設定で、「カテゴリフィルタリングを使用する」を選択した場合に、フィルタリングサーバー通信不可時の設定を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 閲覧を許可する フィルタリングサーバーと通信できないときに、閲覧を許可します。 ☑ 端末で該当の URL を閲覧しようすると、「該当 URL のカテゴリ取得に失敗しましたが、ページを表示します」というダイアログが表示されます。 ● 閲覧を禁止する フィルタリングサーバーと通信できないときに、閲覧を禁止します。
5	URL フィルタリング設定	<p>閲覧する URL の使用禁止条件を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 許可する URL を指定する ホワイトリスト形式。カテゴリフィルタリングを使用する場合は、カテゴリフィルタリングの制限対象である URL でも、登録された URL は例外として許可します。 ● 禁止する URL を指定する ブラックリスト形式。カテゴリフィルタリングを使用する場合は、カテゴリフィルタリングの制限対象でない URL でも、登録された URL は例外として禁止します。
6	URL 一覧（先頭部分の一致による比較）	<p>フィルタリングする URL を 200 文字以内の半角英数字、記号で入力します。1,000 件まで登録できます。「https://」から始まる URL も指定できます。同じ URL を重複して登録できません。</p>

◆ エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
<p>▲ カテゴリを選択してください。</p>	<p>「カテゴリフィルタリングを使用する」を選択したうえで、「閲覧を禁止するカテゴリ」を選んでいない状態で設定を保存している。</p>	<p>「閲覧を禁止するカテゴリ」を指定して [保存] をクリックしてください。</p>

8.6.2 Web 閲覧履歴

オプション

端末との同期のタイミングで、+browser Safety Manager 利用時の Web 閲覧履歴を取得し、管理サイトのログに表示したり、ブラウザに保存されている Web 閲覧履歴を削除する設定セットを作成します。

作成した設定は Android と iOS で共有することができます。

☑ 本機能を使用する場合は、オプションの申し込みが必要です。

☑ 本機能は、+browser Safety Manager のみ有効です。

☑ +browser Safety Manager を利用するには、オプションお申し込みが必要です。

☑ +browser Safety Manager の使用方法については、以下のマニュアルを参照してください。

📖 『iOS クライアント リファレンスマニュアル』の「関連アプリの使用方法」 - 「+browser Safety Manager」

✍ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

📄 「(設定 - iOS) 設定の割り当て」 120 ページ

📄 「全機器一括設定」 248 ページ

✍ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [インターネット] → [Web 閲覧履歴] → +

新規作成

設定

設定 - 編集中

1 設定名

2 Web閲覧履歴ログ

- Web閲覧履歴ログを取得する
- Web閲覧履歴ログを取得しない

3 Web閲覧履歴の削除

- Web閲覧履歴を定期的に削除
- なにもしない

※Android、iOSのみ対応。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	Web 閲覧履歴ログ	Web 閲覧履歴取得の有効／無効の設定を以下から選択します。 ●Web 閲覧履歴ログを取得する 端末の Web 閲覧履歴取得を「取得する」に設定します。 ●Web 閲覧履歴ログを取得しない 端末の Web 閲覧履歴取得を「取得しない」に設定します。
3	Web 閲覧履歴の削除	取得した Web 閲覧履歴の削除についての動作を以下から選択します。 ●Web 閲覧履歴を定期的に削除 Web 閲覧履歴の定期削除を有効にします。 <input checked="" type="checkbox"/> 定期削除は、端末と同期したときに行われます。 ●なにもしない Web 閲覧履歴を定期的に削除しないようにします。

8.6.3 お気に入り

オプション

端末のブラウザーに、お気に入りの追加やホームページ設定（Windows 端末にのみ適用）を行うための設定セットを作成します。

作成した設定セットは、Android、iOS、Windows で共有することができます。

- 🔍 本機能を使用する場合は、オプションの申し込みが必要です。
- 🔍 本機能は、+browser Safety Manager のみ有効です。
- 🔍 +browser Safety Manager を利用するには、オプションの申し込みが必要です。
- 🔍 +browser Safety Manager の使用方法については、以下のマニュアルを参照してください。

📖 『iOS クライアント リファレンスマニュアル』の「関連アプリの使用方法」 - 「+browser Safety Manager」

✍️ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

📄 「(設定 - iOS) 設定の割り当て」 120 ページ

📄 「全機器一括設定」 248 ページ

✍️ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [インターネット] → [お気に入り] → **+** (一覧から対象を選択 → [編集])



項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字以内で入力します。
2	お気に入り	お気に入りとして、以下の項目を入力します。 + をクリックして、最大 300 件まで登録できます。 <ul style="list-style-type: none"> ●タイトル お気に入りのタイトル名を 100 文字以内の半角英数字と記号（「-」、「_」、「@」）で入力します。 ●URL URL 情報を 200 文字以内の半角英数字、記号で入力します。先頭には「http://」または「https://」を入力します。 📄 「お気に入り」の設定は行わず、「ホームページ」の設定のみ行う設定セットを作成する場合は、お気に入りの入力欄は ✕ をクリックして削除したあとに、[保存] をクリックしてください。

項番	項目	説明
3	ホームページ	ブラウザのホームページに設定するサイトの URL を 200 文字以内の半角英数字、記号で入力します。先頭は「http://」または「https://」にしてください。  ホームページの設定は Windows 端末にだけ有効です。

8.7 便利機能

音声ローミングやデータローミングの設定、iOS 端末のホーム画面のレイアウトを設定します。

8.7.1 ローミング設定

音声ローミングやデータローミングを有効または無効に設定します。

本画面では、ローミングの有効/無効を設定し、ローミング設定の設定セット作成します。

 本設定は、端末で設定の変更を禁止する機能ではありません。「無効にする」を設定しても、端末からデータローミング設定を手動で行えます。

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

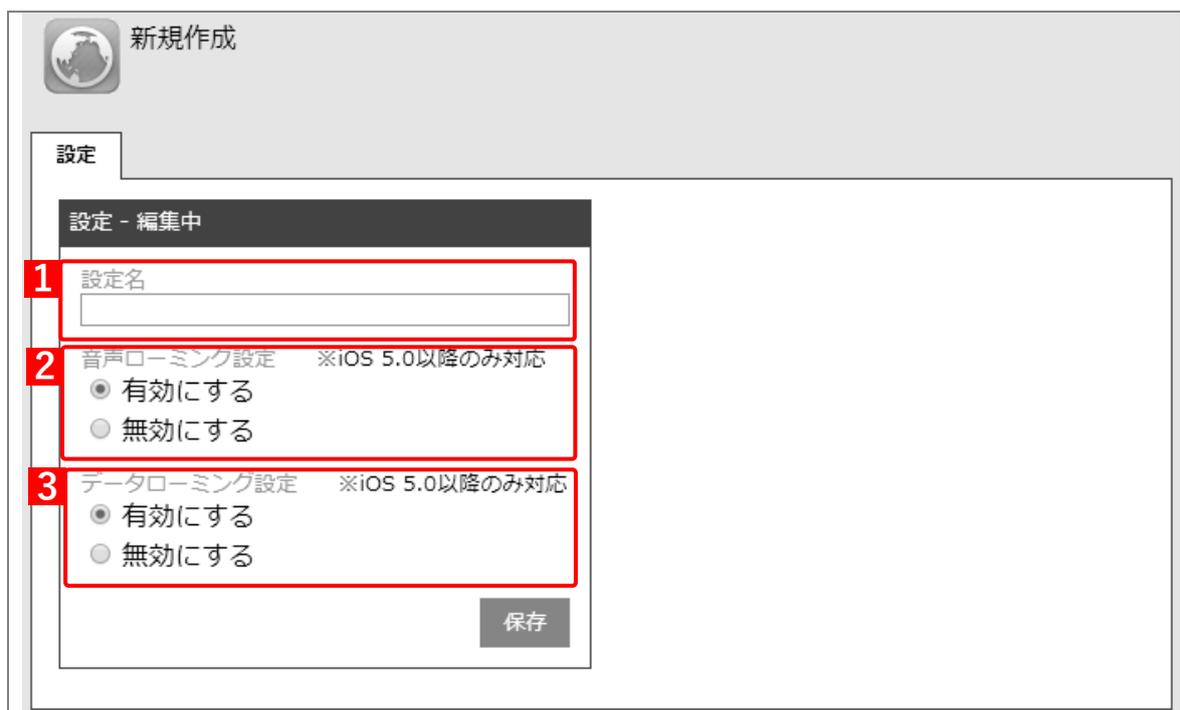
 「(設定 - iOS) 設定の割り当て」 120 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [便利機能] → [ローミング設定] →  (一覧から対象を選択 → [編集])



項番	項目	説明
1	設定名	設定セットの名称を 1 文字から 30 文字以内で指定します。
2	音声ローミング設定	音声ローミングの有効または無効を指定します。 ●有効にする ●無効にする
3	データローミング設定	データローミングの有効または無効を指定します。 ●有効にする ●無効にする

8.7.2 ホーム画面レイアウト（監視対象のみ）

iOS 端末のホーム画面レイアウトを、管理者が指定および固定することで、キッティング作業や運用の手間を削減することができます。

本画面では、ホーム画面の Dock やページの設定を行い、ホーム画面レイアウトの設定セットを作成します。

-  画面（新規作成）
-  画面（編集）
-  画面（Dock の編集）
-  画面（Page 1 の編集）
-  画面（Page の新規作成）

 iOS 9.3 以上の監視対象端末のみで利用できます。

 本機能でレイアウト指定したアプリ以外は、配置できる箇所に順次配置されます。iOS 端末でのアプリの並び替えや、フォルダーに入れるなどの操作はできません。

 本機能で Web クリップのレイアウトを指定することはできません。

 使用できるアプリを制限せずに本機能を利用すると、iOS 端末利用者の利便性を損なう恐れがあります。構成プロファイルアップロードで「App の使用を制限（監視対象のみ）」とあわせてご利用になることをおすすめします。詳細については、以下を参照してください。

 「構成プロファイルアップロード」505 ページ

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - iOS) 設定の割り当て」120 ページ

 「全機器一括設定」248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面（新規作成）

表示操作 [設定] → [iOS] → [便利機能] → [ホーム画面レイアウト（監視対象のみ）] → 



新規作成

※監視対象端末にのみ、下記の設定が有効になります。

設定

設定 - 編集

1

設定名

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定セットの名称を 1 文字から 30 文字以内で入力してください。

◆画面（編集）

設定セットを新規作成すると、以下のような画面となり、「Dock」「Page 1」「Page 2」を編集する項目が表示されます。詳細については、各項目を参照してください。

表示操作 [設定] → [iOS] → [便利機能] → [ホーム画面レイアウト（監視対象のみ）] → 一覧から対象を選択



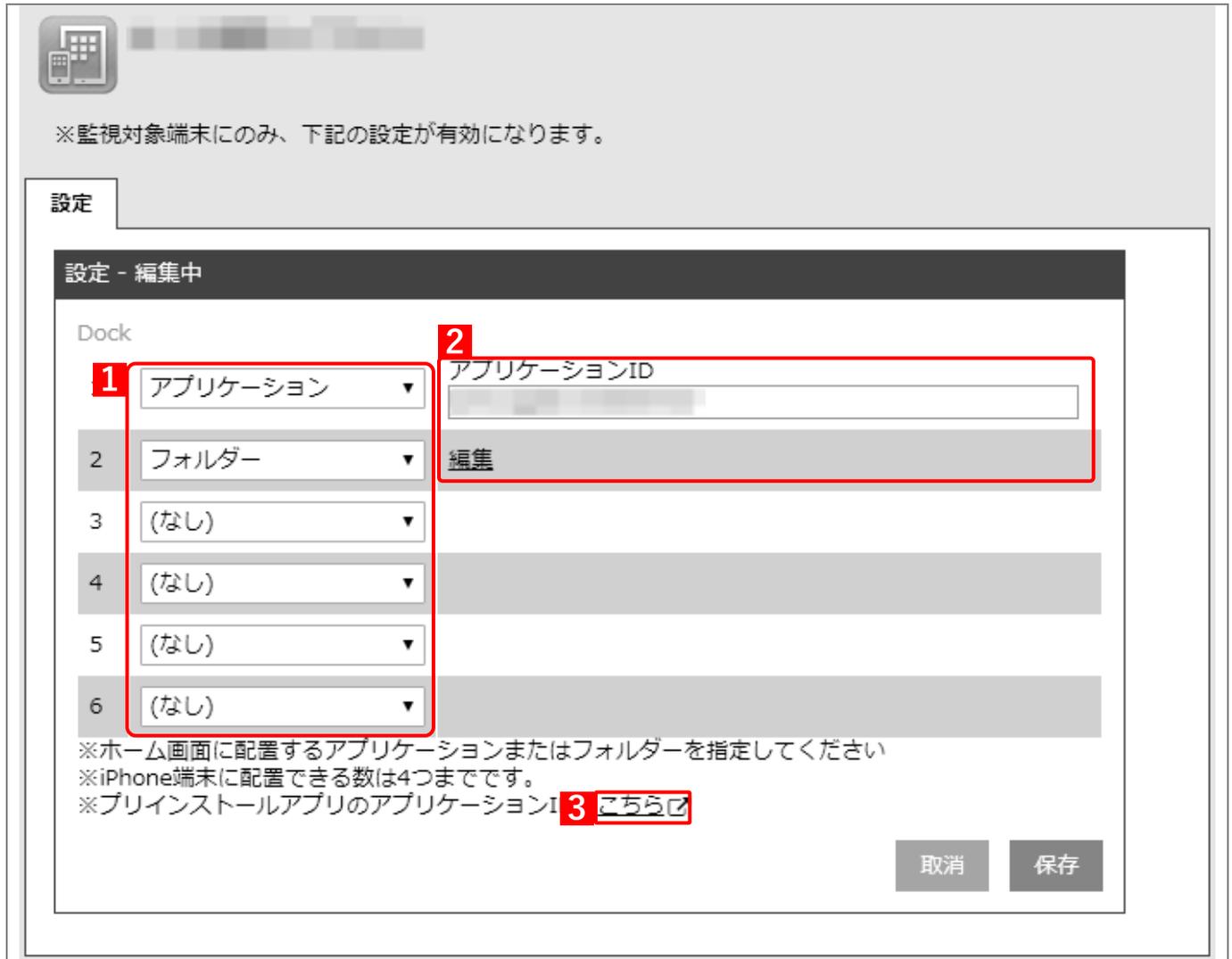
項番	項目	説明
1	設定名	最初に作成した設定名が表示されています。
2	Dock	Dock の設定を行います。詳細については、以下を参照してください。 📖 「画面（Dock の編集）」 655 ページ
3	Page 1	ホーム画面 1 ページ目のアプリ配置設定を行います。詳細については、以下を参照してください。 📖 「画面（Page 1 の編集）」 657 ページ
4	Page 2	2 ページ目以降の設定を追加します。詳細については、以下を参照してください。 📖 「画面（Page の新規作成）」 658 ページ 📌 新規作成するとパネル名が Page3、Page4…という表示になります。

◆画面（Dock の編集）

Dock のレイアウトを編集します。

 iPhone 端末に配置できる数は 4 つまでです。

表示操作 [設定] → [iOS] → [便利機能] → [ホーム画面レイアウト（監視対象のみ）] → 一覧から対象を選択 → 「Dock」の [編集]



項番	項目	説明
1	種別	<ul style="list-style-type: none"> ●なし 何も設定しない場合に利用します。 ●アプリケーション iOS アプリを設定するときに利用します。 ●フォルダー フォルダーを作成して、フォルダーの中にアプリを設定するときに利用します。

項番	項目	説明
2	内容	<p>項番【1】「種別」で選択した内容に合わせて、以下を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●アプリケーション iOS アプリを設定するときに利用します。 <ul style="list-style-type: none"> ・アプリケーション ID 項番【3】 [こちら] をクリックして、プリインストールアプリのアプリケーション ID を調べることができます。 <input checked="" type="checkbox"/> プリインストールアプリ以外のアプリケーション ID の確認については、以下を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 「(情報 - iOS) アプリケーション」 198 ページ 「アプリケーションレポート」 293 ページ ●フォルダー フォルダーを作成して、フォルダーの中にアプリを設定するときに利用します。 [編集] をクリックするとフォルダーウィンドウが表示されるので、「フォルダー名」を 1 文字から 30 文字以内で作成し、その他必要事項を設定します。
3	[こちら]	プリインストールアプリのアプリケーション ID を調べるときにクリックします。

参考

- 「フォルダー」 を編集する場合
 - ・保存する方法
本画面に保存ボタンはありません。必要事項を入力、設定したあとに【1】 [× (Close)] をクリックすると、設定した内容が保存されます。
 - ・登録したアプリやフォルダーを消す方法
リストボックスの「アプリケーション」や「フォルダー」を【2】 「なし」に変更してください。
- 例)

フォルダー

フォルダー名

1 アプリケーション アプリケーションID

2 アプリケーション アプリケーションID

1 2 (なし)

16 (なし)

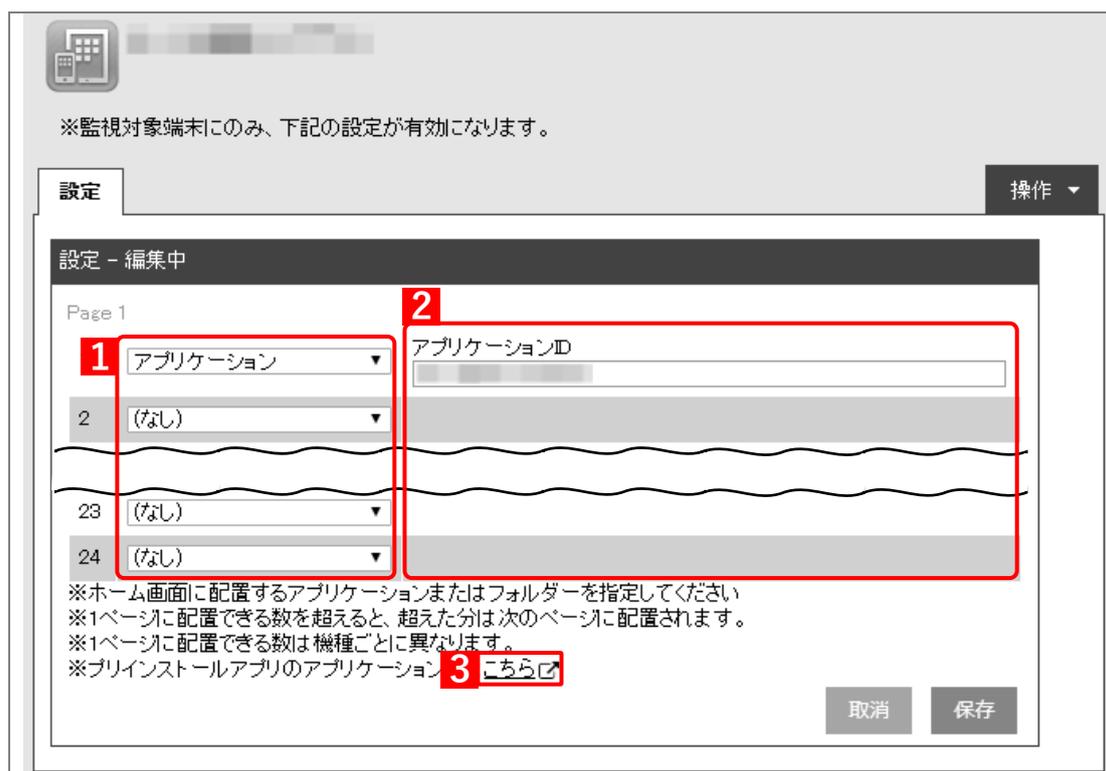
※プリインストールアプリのアプリケーションIDはこちら

◆画面 (Page 1 の編集)

Page のレイアウトを編集します。画面には 1 から 24 までの数字が表示され、それぞれのリストボックスで、[フォルダー] または [アプリケーション] を指定します。iOS 端末では、左上からフォルダーまたはアプリが、数字の順に配置されます。

 端末によって 1Page に配置できるアプリ数は異なります。配置可能数を超過して設定をした場合、超過したものは次の Page に配置されます。

表示操作 [設定] → [iOS] → [便利機能] → [ホーム画面レイアウト (監視対象のみ)] → 一覧から対象を選択 → 「Page 1」の [編集]



項番	項目	説明
1	種別	<ul style="list-style-type: none"> ● なし 何も設定しない場合に利用します。 ● アプリケーション iOS アプリを設定するときに利用します。 ● フォルダー フォルダーを作成して、フォルダーの中にアプリを設定するときに利用します。
2	内容	<ul style="list-style-type: none"> ● アプリケーション iOS アプリを設定するときに利用します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ アプリケーション ID 項番【3】[こちら] をクリックして、プリインストールアプリのアプリケーション ID を調べることができます。  プリインストールアプリ以外のアプリケーション ID の確認については、以下を参照してください。 <ul style="list-style-type: none">  「(情報 - iOS) アプリケーション」198 ページ  「アプリケーションレポート」293 ページ ● フォルダー フォルダーを作成して、フォルダーの中にアプリを設定するときに利用します。 [編集] をクリックするとフォルダーウィンドウが表示されるので、「フォルダー名」を 1 文字から 30 文字以内で作成し、その他必要事項を設定します。

項番	項目	説明
3	[こちら]	プリインストールアプリのアプリケーション ID を調べるときにクリックします。

◆画面 (Page の新規作成)

iOS 端末に表示する Page を新規作成します。新規に Page を作成すると、画面上に Page 2、Page 3…と Page のパネルが追加されます。

追加したパネルは、Page 1 と同様に編集してください。

 「画面 (Page 1 の編集)」 657 ページ

端末によって 1Page に配置できるアプリ数は異なります。配置可能数を超過して設定をした場合は、次の Page に配置されます。

表示操作 [設定] → [iOS] → [便利機能] → [ホーム画面レイアウト (監視対象のみ)] → 一覧から対象を選択 → 「Page 2」の [新規作成]



項番	項目	説明
1	Page 2 — [新規作成] (※1)	[新規作成] をクリックすると、新規に Page が作成されます。必要事項を入力して、[保存] をクリックします。

※1: 「Page 2」は、Page を新規作成すると、Page 3、Page 4…と表示されます。

8.7.3 SIM ステータス変更検知

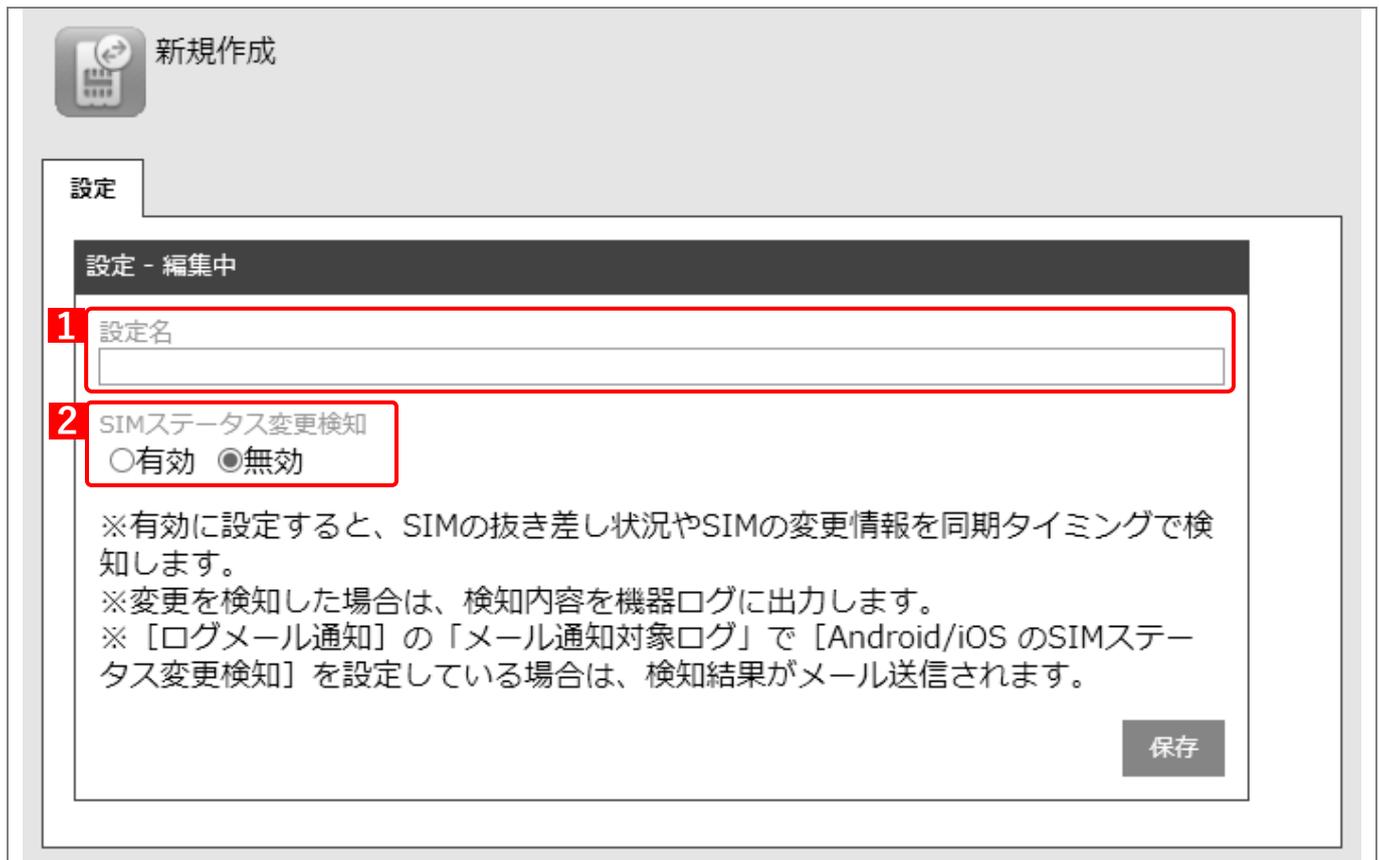
SIM ステータス変更検知の設定セットを作成します。SIM ステータス変更検知は、SIM が抜かれた場合や SIM が挿入された場合に、ログを出力する機能です。

この設定は、Android と iOS で共有することができます。

- 端末を認証するとき、本設定が端末に割り当てられている場合、初回の同期でログが出力されます。
- ネットワークが未接続の状態や同期ができない状態のときは、SIM を変更してもログは出力されません。
- SIM のスロットが複数ある端末の場合、1 つめのスロットから SIM を抜いて、2 つめのスロットに SIM の挿入や入れ替えしてもログは出力されません。
- 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 -  「(設定 - iOS) 設定の割り当て」 120 ページ
 -  「全機器一括設定」 248 ページ
- 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [便利機能] → [SIM ステータス変更検知] → 



新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 SIMステータス変更検知
 有効 無効

※有効に設定すると、SIMの抜き差し状況やSIMの変更情報を同期タイミングで検知します。
 ※変更を検知した場合は、検知内容を機器ログに出力します。
 ※ [ログメール通知] の「メール通知対象ログ」で [Android/iOS のSIMステータス変更検知] を設定している場合は、検知結果がメール送信されます。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	SIM ステータス変更検知	有効に設定すると、SIM の抜き差し状況や SIM の変更情報を同期タイミングで検知します。

8.8 証明書管理

クライアント証明書の管理や一括アップロード、一括削除を行います。

8.8.1 クライアント証明書管理

クライアント証明書を管理サイトに 1 ファイルずつアップロードして保存し、端末に配信するための設定セットを作成します。

本機能で作成したクライアント証明書の設定セットは、Android 端末、iOS 端末、Windows 端末で共有することができます。

 [画面 \(新規作成\)](#)

 [画面 \(管理\)](#)

 [画面 \(編集\)](#) [画面 \(管理\)](#)

 事前にクライアント証明書を取得してください。

 本機能はクライアント証明書の配信までを行います。端末内に保存されるクライアント証明書の場所やインストール方法については、端末メーカーへお問い合わせください。

 アップロード済みのクライアント証明書を差し替える場合は、以下を参照してください。

 [「画面 \(編集\)」](#) 663 ページ

 クライアント証明書をまとめてアップロードする場合は、以下を参照してください。

 [「クライアント証明書一括アップロード」](#) 664 ページ

 管理サイトにアップロードしたクライアント証明書は、以下の設定で利用します。

 [「\(設定 - Android\) クライアント証明書」](#) 116 ページ

 [「\(設定 - iOS\) クライアント証明書」](#) 123 ページ

 [「\(設定 - iOS\) Exchange \(ActiveSync\) 設定」](#) 126 ページ

 [「\(設定 - iOS\) VPN 設定」](#) 131 ページ

 [「\(設定 - Windows\) クライアント証明書」](#) 143 ページ

 設定セットは、最大で 250,000 件まで作成できます。

◆画面（新規作成）

表示操作 [設定] → [iOS] → [証明書管理] → [クライアント証明書管理] → +


新規作成

クライアント証明書

設定 - 編集

1 証明書ファイル

ファイルを選択 選択されていません

※PKCS #12形式の証明書ファイルを指定してください。

2 証明書を保護するパスワード

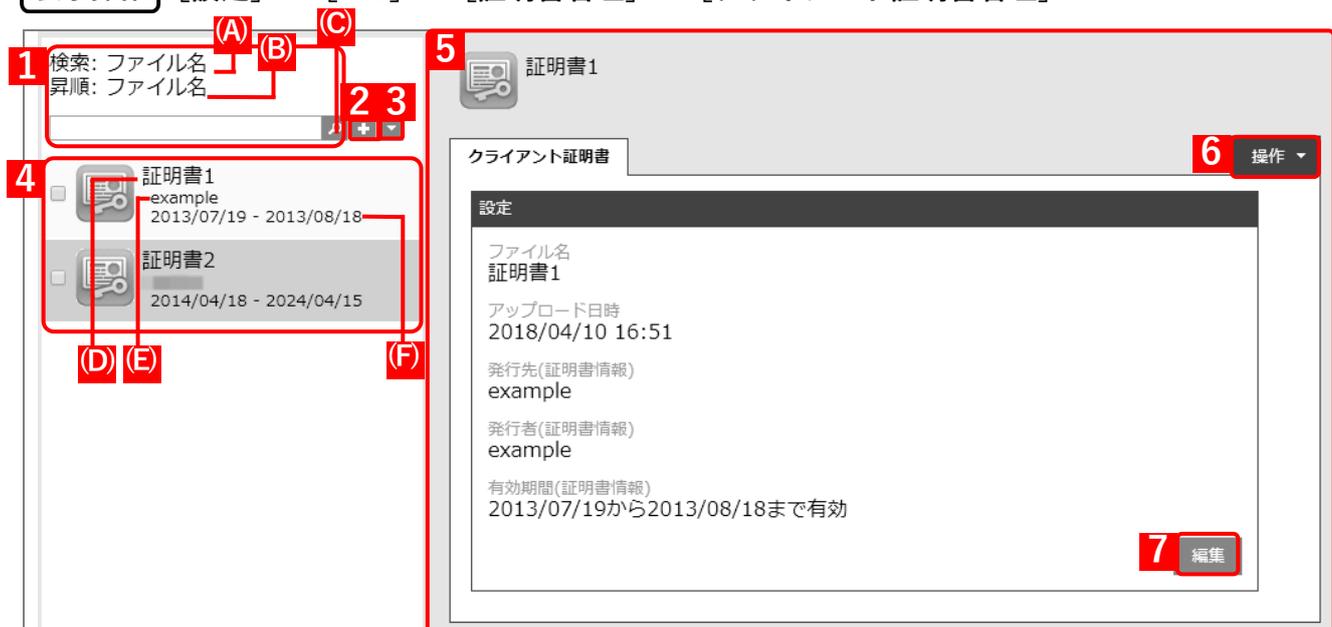
※証明書がパスワードで保護されている場合、保護する際に設定したパスワードを入力してください。
 ※証明書がパスワードで保護されていない場合は、指定したパスワードが設定されます。
 ※パスワードが指定されていない場合、ランダムに生成されたパスワードが設定されます。

保存

項番	項目	説明
1	証明書ファイル	アップロードするクライアント証明書を指定します。[ファイルを選択] をクリックし、クライアント証明書ファイルを選択します。 ✔ PKCS #12 形式のクライアント証明書を指定してください。 ✔ ファイル名は 30 文字以内で設定してください。
2	証明書を保護するパスワード	パスワードで保護されているクライアント証明書をアップロードする場合は、設定されているパスワードを 255 文字以内の半角英数字で入力します。 ✔ パスワード未設定の場合は入力不要です。

◆画面（管理）

表示操作 [設定] → [iOS] → [証明書管理] → [クライアント証明書管理]



項番	項目	説明
1	検索/並び替え	(A) に検索対象項目、(B) に並び替えの対象項目が表示されます。検索する場合は、検索するキーワードを (C) に入力し、[検索] をクリックします。検索したあとに、すべてのクライアント証明書を再表示するにはブラウザを再読み込み、または (C) を空欄にし、再度 [検索]  をクリックします。
2		クリックするとクライアント証明書情報欄に入力欄が表示されます。  「画面（新規作成）」453 ページ
3		クリックすると以下のメニューが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 全てにチェックを入れる 選択するとクライアント証明書一覧にあるすべての証明書のチェックボックスにチェックが入ります。 ● 全てのチェックをはずす 選択するとクライアント証明書一覧にあるすべての証明書のチェックボックスのチェックが外れます。 ● 検索対象 検索対象をファイル名、発行先（証明書情報）のいずれかに変更できます。 ● 並び替え 昇順 ユーザー一覧をファイル名、発行先（証明書情報）、有効期間の開始、有効期間の終了のいずれかで昇順に並び替えます。 ● 並び替え 降順 ファイル名、発行先（証明書情報）、有効期間の開始、有効期間の終了のいずれかで降順に並び替えます。 ● 一括削除 クライアント証明書一覧でチェックの入っている証明書を削除します。
4	クライアント証明書一覧	登録されている証明書一覧が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ● (D) クライアント証明書のファイル名です。 ● (E) 発行先（クライアント証明書情報）です。 ● (F) 有効期間です。

項番	項目	説明
5	クライアント証明書情報	クライアント証明書一覧から選択したクライアント証明書情報が表示されます。
6	[操作]	クリックすると、以下のメニューが表示されます。 ●削除 クライアント証明書を削除します。
7	[編集]	クリックすると、登録されているクライアント証明書の情報を編集できます。

◆画面（編集）

アップロード済みのクライアント証明書の差し替えやパスワードを変更する場合に内容を修正します。
設定項目は新規作成と同様です。

表示操作 [設定] → [iOS] → [証明書管理] → [クライアント証明書管理] → 一覧から対象を選択 → [編集]

項番	項目	説明
1	証明書ファイル	クライアント証明書一覧から再アップロードする証明書を指定します。
2	証明書を保護するパスワード	パスワードで保護されているクライアント証明書をアップロードする場合は、設定されているパスワードを入力します。パスワード未設定の場合は入力不要です。

8.8.2 クライアント証明書一括アップロード

複数のクライアント証明書を ZIP ファイルにまとめて管理サイトにアップロードし、端末に配信するための設定セットを作成します。

本機能で作成したクライアント証明書の設定セットは、Android 端末、iOS 端末、Windows 端末で共有することができます。

- 📌 事前にクライアント証明書を取得してください。
- 📌 アップロードする複数のクライアント証明書は、まとめて zip ファイル形式で保存してください。
- 📌 アップロード済みのクライアント証明書を差し替える場合は、以下を参照してください。

📄 「画面 (編集)」 663 ページ

- 📌 管理サイトにアップロードしたクライアント証明書は、以下の設定で利用します。

📄 「(設定 - Android) クライアント証明書」 116 ページ

📄 「(設定 - iOS) クライアント証明書」 123 ページ

📄 「(設定 - iOS) Exchange (ActiveSync) 設定」 126 ページ

📄 「(設定 - iOS) VPN 設定」 131 ページ

📄 「(設定 - Windows) クライアント証明書」 143 ページ

◆ 画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [証明書管理] → [クライアント証明書一括アップロード] → [パスワード付きの証明書を一括アップロードする]

1 パスワード付きの証明書を一括アップロードする。

2 証明書パスワード入力用CSVファイルを用意します。

「ダウンロード」ボタンをクリックしてCSVファイルをダウンロードします。
ダウンロードしたファイルの内容を編集して保存してください。

ダウンロード

3 証明書パスワード入力用CSVファイルをアップロードします。

ファイルを選択 選択されていません

4 証明書ファイルを一括アップロードします。

PKCS #12形式の証明書をzipアーカイブ化したファイルを指定して「アップロード」ボタンをクリックしてください。

ファイルを選択 選択されていません

ZIPアーカイブのパスワード

5 アップロード

項番	項目	説明
1	パスワード付きの証明書を一括アップロードする。	<p>チェックを入れると、証明書パスワード入力用 CSV ファイルをアップロードできます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>パスワード付きのクライアント証明書でない場合は、チェックを入れません。</p>
2	証明書パスワード入力用 CSV ファイルを用意します。	<p>証明書パスワード入力用 CSV ファイルをアップロードする場合、[ダウンロード] をクリックし、任意の場所に証明書パスワード入力用 CSV ファイルを保存します。保存したファイルを Excel やメモ帳で開き、クライアント証明書に設定されているパスワードを入力して保存します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>CSV ファイルの「[S]ファイル名」には、拡張子を除いたクライアント証明書のファイル名を入力してください。</p>
3	証明書パスワード入力用 CSV ファイルをアップロードします。	<p>[ファイルを選択] をクリックし、証明書パスワード入力用 CSV ファイルを選択します。</p>
4	証明書ファイルを一括アップロードします。	<p>[ファイルを選択] をクリックし、アップロードする ZIP ファイルを選択します。パスワードで保護された ZIP ファイルを選択した場合は、「ZIP アーカイブのパスワード」に設定されているパスワードを 255 文字以内の半角英数字で入力します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>一括でアップロードする PKCS #12 形式のクライアント証明書のファイルは、あらかじめ ZIP ファイルにまとめておく必要があります。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ファイル名は 30 文字以内で設定してください。</p>
5	[アップロード]	<p>クリックすると、ZIP ファイルに含まれるクライアント証明書の一覧が表示されます。表示内容に問題がないことを確認し、[アップロードを実行] をクリックします。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>アップロード済みの同名クライアント証明書を上書きする場合は「同じファイル名の証明書がすでに存在した場合は上書き保存する」にチェックを入れます。</p>

8.8.3 クライアント証明書一括削除

管理サイトにアップロードされているクライアント証明書を、CSV ファイルを利用して一括で削除します。

操作手順については、以下を参照してください。

 「CSV ファイルの共通操作」 67 ページ

 端末に紐づけられているクライアント証明書を削除した場合は、端末に割り当てられている設定が動作しなくなることがあります。

 削除対象のクライアント証明書は、管理サイトおよび iOS 端末から削除されます。

◆画面

表示操作 [設定] → [iOS] → [証明書管理] → [クライアント証明書一括削除]

1. CSVファイルを準備します

「ダウンロード」ボタンをクリックしてCSVファイルをダウンロードします。

1 **ダウンロード**

2. CSVファイルを編集します

CSVファイルを開き、削除対象の証明書と同じ行にある「削除フラグ」カラムに、「D」を入力してください。CSVファイルを編集後、保存してください。

3. CSVファイルをアップロードします

編集したCSVファイルを指定して「アップロード」ボタンをクリックしてください。アップロード完了後、削除の確認画面に移動します。

2 **ファイルを選択** 選択されていません

3 **アップロード**

項番	項目	説明
1	[ダウンロード]	任意の場所にクライアント証明書を削除するための CSV ファイルを保存します。保存した CSV ファイルを Excel やメモ帳で開き、削除したいクライアント証明書名の右側にある「[S]削除フラグ」列に「D」と入力して保存します。
2	[ファイルを選択]	項番 1 で保存した CSV ファイルを選択します。
3	[アップロード]	CSV ファイルのアップロードが開始されます。アップロードが完了すると、インポート画面が表示されます。

9 設定 – Mac OS

この章では、サブヘッダーメニューの [Mac OS] 画面に表示される、各種の設定について説明します。



注意

- 事前に Apple Push 証明書を登録してください。



『Apple Push 証明書登録・更新手順 管理者マニュアル』

9.1 管理アプリの通信と動作

管理サイトに登録されているすべての Mac OS 端末に、リモートロック時、およびリモートワイプ後の解除コードを適用します。

 画面 (ロック解除コードの確認)

 画面 (ロック解除コードの編集)

リモートロック・リモートワイプについては、以下を参照してください

 「(操作 - Mac OS) リモートロック」 166 ページ

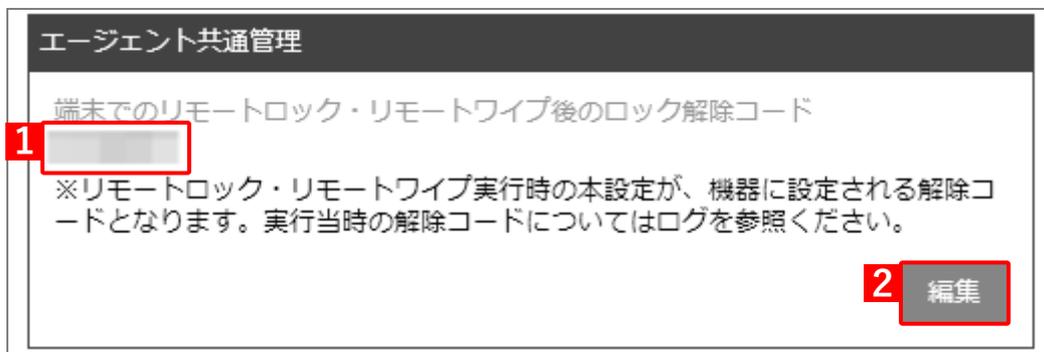
 「(操作 - Mac OS) リモートワイプ」 167 ページ

 「[その他▼] タブ/Mac OS リモート操作」 264 ページ

-  Mac OS 機器での通信は、ユーザーログイン時に実施されます。
-  Mac OS 機器でのリモートロックではユーザーログイン時に再起動しロック画面を表示します。
-  リモートワイプでは、パスワード入力後、OS の再インストールから実施が必要となります。
-  本項目で設定するパスワードは、リモートロックとリモートワイプ共通です。リモートワイプのパスワードはワイプ後の端末から求められます。
-  設定を保存した時点ですべての Mac OS 端末に適用されます。ただし、設定が端末に反映されるまでの時間は、サーバーや端末の通信状態に依存します。
-  リモートロックが発生したあとに管理サイトでパスワードを変更して同期を行っても、端末上のパスワードは更新されません。必要な場合は、リモートロックが発生したときのパスワードを管理ログから調べてください。

◆画面 (ロック解除コードの確認)

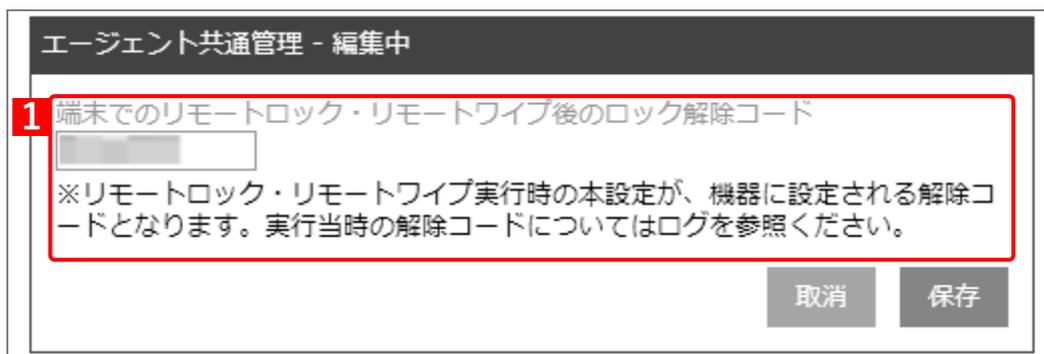
表示操作 [設定] → [Mac OS] → [管理アプリの通信と動作]



項番	項目	説明
1	ロック解除コード	リモートロック/リモートワイプ実施時に必要となるロック解除コードです。
2	[編集]	クリックするとロック解除コードを編集できます。詳細については、以下を参照してください。  「画面 (ロック解除コードの編集)」 669 ページ

◆画面（ロック解除コードの編集）

表示操作 [設定] → [Mac OS] → [管理アプリの通信と動作] → [編集]



項番	項目	説明
1	端末でのリモートロック・リモートワイプ後のロック解除コード	<p>6桁の半角数字を入力します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> リモートロック・リモートワイプ実行時の本設定が、機器に設定される解除コードです。実行当時の解除コードはログを参照してください。</p> <p> 「ログ」784 ページ</p>

10 設定 – Windows

この章では、サブヘッダーメニューの [Windows] 画面に表示される、各種の設定について説明します。



注意

- システムでグループポリシーが設定されている場合は、グループポリシーが優先され、本製品の機能を利用できないことがあります。グループポリシーについては、システム管理者にお問い合わせください。

10.1 管理アプリの通信と動作

管理サイトに登録されているすべての Windows 端末に、共通する以下の操作を適用します。

● 管理サーバーとの通信間隔

管理サイトと Windows エージェントアプリが行う定期的な同期の間隔を設定できます。

● ロック

管理サーバーと通信できなかった場合に、端末画面をロックするまでの時間を設定できます。

● ロックメッセージ

ロック画面上にメッセージを表示します。

● ワイプ

管理サーバーと通信できなかった場合に、端末をワイプするまでの時間を設定できます。

● 端末でのリモートロックの解除方法

管理サイトからのロック解除または、パスワード入力による解除を選択します。

● 端末でのエージェント停止・ライセンス解除・アンインストールの制限

エージェントアプリを停止、ライセンス解除を行うときに必要なパスワードを設定できます。

● ライセンス認証オプション

ライセンス認証時に管理外機器の検出を有効にするか設定できます。

● 管理サイトログイン画面へのリンク

エージェントアプリから、管理サイトへの URL を表示するか設定できます。

設定を保存した時点ですべての Windows 端末に適用されます。ただし、設定が端末に反映されるまでの時間は、サーバーや端末の通信状態に依存します。

「管理サーバーと通信できなかった場合」で「ワイプ」を選択した場合、管理サーバーや端末の状況に関わらず、通信できなかった場合に端末はワイプされます。設定保存前に、内容を再度ご確認ください。

◆画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [管理アプリの通信と動作] → [編集]

エージェント共通管理 - 編集

1 管理サーバーとの通信間隔

- 分数指定: 分
- 時間指定: 時間
- 日数指定: 日

※機種によって端末のスリープ・休止中は通信が行われないことがあります。
※通信間隔が短い場合、端末のバッテリー消費が早まる可能性があります。

2 管理サーバーと通信できなかった場合

ロック

- ロックしない
- 指定分数後にロック: 分
- 指定時間後にロック: 時間
- 指定日数後にロック: 日

※通信間隔の設定によってはロックまでに時間がかかることがあります。

3 ロックメッセージ

4 ワイプ

- ワイプしない
- 指定分数後にワイプ: 分
- 指定時間後にワイプ: 時間
- 指定日数後にワイプ: 日

※通信間隔の設定によってはワイプまでに時間がかかることがあります。

▲ 管理サーバーや端末の状況に関わらず、通信できなかった場合にワイプされます。設定保存前に、内容を今一度ご確認ください。

ワイプの方法

- PC初期化
Windowsの「PCを初期状態に戻す」機能を実行します。
Windows 10以降対応。

▲ 非対応のOSの場合はワイプできません。
- BitLocker
暗号化済みドライブの暗号化キーを削除することで、リモートワイプに相当する機能を提供します。

▲ 非対応のOSの場合や、BitLockerが有効でない場合はワイプできません。
- データ削除
ファイルの削除やドライブのフォーマットにより、リモートワイプを実行します。

▲ OSが起動できなくなります。クラウドのオンラインストレージをご利用の場合は、同期されているクラウドサービス内のデータが削除されることがあります。リモートワイプのデータ削除を設定する前に、クラウドストレージサービスのご利用アカウントを停止する処置を必ず行ってください。

5 端末でのリモートロックの解除方法

- なし
- 解除コードの入力

6 端末でのエージェント停止・ライセンス解除・アンインストールの制限

- 制限なし
- パスワードの入力

7 ライセンス認証オプション

- 管理外機器の検出を有効にする
- 管理外機器の検出を有効にする(次回ライセンス認証時のみ)
- なし

8 管理サイトログイン画面へのリンク

- 表示
- 非表示

項番	項目	説明
1	管理サーバーとの通信間隔	<p>端末が管理サーバーと定期的に同期する間隔を以下から選択して設定します。初期設定では、「分数指定」の「30分」に設定されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●分数指定 指定した分数間隔で同期を行います。10 から 59 の半角数字を入力します。 ●時間指定 指定した時間間隔で同期を行います。1 から 23 の半角数字を入力します。 ●日数指定 指定した日数間隔で同期を行います。1 から 365 の半角数字を入力します。 <p><input checked="" type="checkbox"/>機種によって端末のスリープ中は通信が行われないことがあります。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>通信間隔が短い場合、端末のバッテリー消費が早まる可能性があります。</p>
2	ロック	<p>管理サーバーと Windows 端末が同期ができなくなった場合、Windows 端末をロックするタイミングを以下から選択して設定します。初期設定では「ロックしない」に設定されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロックしない リモートロックを行いません。 ●指定分数後にロック 指定した分数経過するとリモートロックを行います。10 から 59 の半角数字を入力します。 ●指定時間後にロック 指定した時間経過するとリモートロックを行います。1 から 23 の半角数字を入力します。 ●指定日数後にロック 指定した日数経過するとリモートロックを行います。1 から 365 の半角数字を入力します。 <p><input checked="" type="checkbox"/>通信間隔の設定によってはロックまでに時間がかかることがあります。</p>
3	ロックメッセージ	<p>ロック中の Windows 端末の画面にメッセージを表示したい場合に、1 から 200 文字で入力します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>ロック画面上では、入力したメッセージの前後にある空白は削除されます。</p>

項番	項目	説明
4	ワイプ	<p>管理サーバーと Windows 端末が同期ができなくなった場合、Windows 端末をワイプするタイミングを以下から選択して設定します。初期設定では「ワイプしない」に設定されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ワイプしない リモートワイプを行いません。 ●指定分数後にワイプ 指定した分数経過するとリモートワイプを行います。10 から 59 の半角数字を入力します。 ●指定時間後にワイプ 指定した時間経過するとリモートワイプを行います。1 から 23 の半角数字を入力します。 ●指定日数後にワイプ 指定した日数経過するとリモートワイプを行います。1 から 365 の半角数字を入力します。 「指定分数後にワイプ」、「指定時間後にワイプ」、「指定日数後にワイプ」を選択した場合、以下からワイプ方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • PC 初期化 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> Windows 10、Windows 11 に対応しています。 <input checked="" type="checkbox"/> 工場出荷時のリカバリー領域が必要です。リカバリー領域がないと、リモートワイプに失敗します。 • BitLocker <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 暗号化を有効にしている Windows 10 Pro/Enterprise/Education、Windows 11 Pro/Enterprise/Education、および Windows Server 2012 の端末に対応しています。 🔑 「暗号化」 686 ページ <input checked="" type="checkbox"/> BitLocker 以外の暗号化ツールを利用していると、使用できません。 • データ削除 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> OS が起動しなくなることがあります。クラウドのオンラインストレージをご利用の場合は、同期されているクラウドサービス内のデータが削除されることがあります。リモートワイプのデータ削除を設定する前に、クラウドストレージサービスのご利用アカウントを停止する処置を必ず行ってください。 <input checked="" type="checkbox"/> ワイプの説明については以下を参照してください。 🔑 「[その他▼] タブ/Windows リモート操作」 265 ページ <input checked="" type="checkbox"/> 通信間隔の設定によってはワイプまでに時間がかかることがあります。
5	端末でのリモートロックの解除方法	<p>リモートロックの解除方法を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●なし リモートロックの解除は管理サイトからのみできます。 ●解除コードの入力 リモートロックによるロック画面で使用する解除コードを 4 文字から 20 文字以内の半角英数字で設定します。ロック画面から解除コードを入力すると、ロックを解除できます。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 初期設定ではランダムな 8 文字のパスワードが設定されています。</p>
6	端末でのエージェント停止・ライセンス解除・アンインストールの制限	<p>エージェントアプリからライセンスを解除する場合や、アンインストールする場合に、パスワードを要求する設定ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●制限なし パスワードを入力せずにライセンス解除やアンインストールできます。 ●パスワードの入力 ライセンス解除やアンインストールするときにパスワードの入力が必要です。パスワードは 4 文字から 20 文字以内の半角英数字で入力します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 初期設定では「制限なし」が設定されております。</p>

項番	項目	説明
7	ライセンス認証オプション	<p>ライセンス認証時に、管理外機器の検出を有効にするかどうかを以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●管理外機器の検出を有効にする ライセンス認証の度に管理外機器の検出を有効にしたい場合、選択します。ライセンス認証後も「なし」へ変更されることはありません。 ●管理外機器の検出を有効にする（次回ライセンス認証時のみ） 設定後、ライセンス認証が一度終わると、設定は自動的に「なし」へ変更されます。常に管理外機器の検出を有効にしたい場合は、「管理外機器の検出を有効にする」を選択します。 ●なし 管理外機器の検出をしない場合に選択します。 <p><input checked="" type="checkbox"/>すでにライセンス認証されている機器に適用されません。設定完了後にライセンス認証される機器のみに適用されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>初期設定では「管理外機器の検出を有効にする（次回ライセンス認証時のみ）」が設定されており、ライセンス認証が一度終わると「なし」へ設定が変更されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>「なし」に設定している場合でも、管理外機器検出を実施しているネットワークは、継続して管理外機器を検出します。新しく接続したネットワークでは、管理外機器検出は実施されません。</p>
8	管理サイトログイン画面へのリンク	<p>エージェントに管理サイトログイン画面へのリンクを表示するか選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●表示 エージェントに管理サイトログイン画面へのリンクを表示します。 ●非表示 エージェントに管理サイトログイン画面へのリンクを表示しません。

10.2 設定テンプレート

各機能で設定した設定セットの内容を、設定テンプレートとして保存します。

複数の Windows 端末に同じ設定内容を繰り返し設定したい場合や、用途に応じて設定内容を切り替えたいときにテンプレートを使用すると、簡単に設定内容を適用することができます。

本機能では、設定テンプレートの作成や作成したテンプレートをデフォルトに設定するなどの操作を行うことができます。

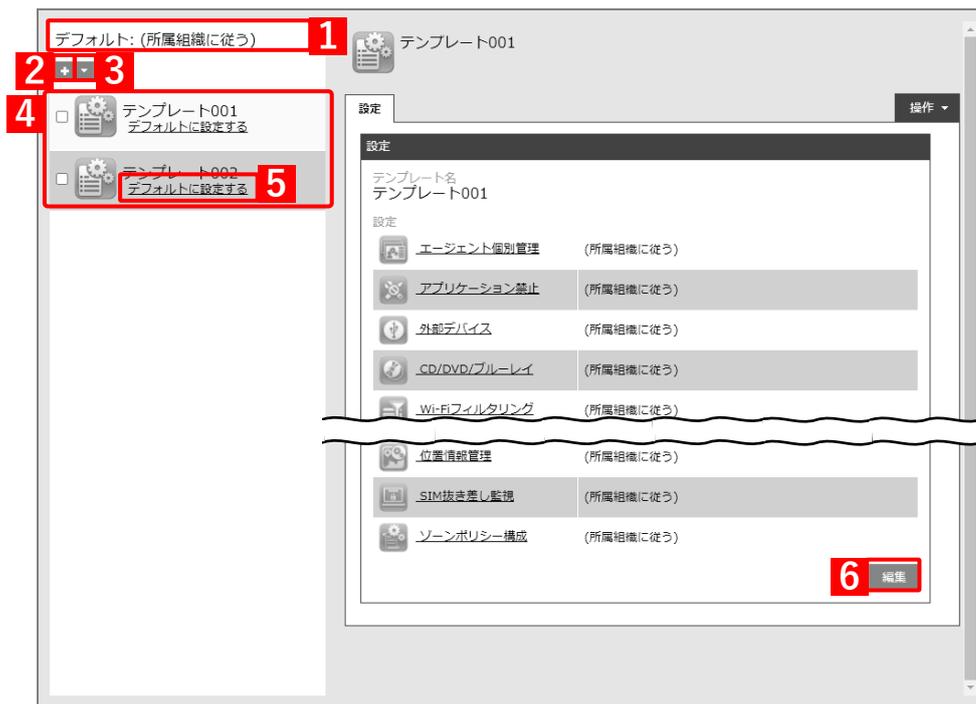
画面

画面 (設定テンプレートの作成)

- 設定テンプレートを一括で複数の Windows 端末に適用できません。
- テンプレートとして登録したい各機能の設定セットを、あらかじめ作成してください。
- 作成した設定テンプレートは、Windows 端末ごと、または組織ごとに適用することができます。
 - 「(設定 - Windows) 設定テンプレートの割り当て」 142 ページ
 - 「[Android 設定] タブ / [iOS 設定] タブ / [Windows 設定] タブ」 348 ページ
- 設定テンプレートは、最大 51 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [設定テンプレート]



項番	項目	説明
1	デフォルトテンプレート表示	デフォルトに設定したテンプレートの名称が表示されます。 デフォルトに設定したときは、「(所属組織に従う)」が表示されます。 「(所属組織に従う)」は設定テンプレートの初期設定値です。
2		設定テンプレートを新規に作成します。 「画面 (設定テンプレートの作成)」 677 ページ

項番	項目	説明
3		設定テンプレートのチェックや、チェックした設定テンプレートの一括削除のほか、デフォルトに設定した設定テンプレートを初期値の「(所属組織に従う)」に戻します。 📄 「(所属組織に従う)をデフォルトに設定する」 679 ページ
4	設定テンプレート	+ で作成した設定テンプレートが表示されます。
5	[デフォルトに設定する]	作成した設定テンプレートをデフォルトにします。 📄 「設定テンプレートをデフォルトに設定する」 678 ページ
6	[編集]	設定テンプレートを編集します。 📄 「画面 (設定テンプレートの作成)」 677 ページ

◆画面 (設定テンプレートの作成)

表示操作 [設定] → [Windows] → [設定テンプレート] → +

項番	項目	説明
1	テンプレート名	設定テンプレートの名称を 1 文字から 30 文字で入力します。

項番	項目	説明
2	設定	<p>各機能に設定する内容を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各機能の設定名 各機能で作成した設定名を指定します。指定した設定名に対する編集および削除が行われた場合、設定テンプレートにも反映されます。 ●(所属組織に従う) 機器ごとに所属している組織の設定が適用されます。組織に所属していない場合は「(設定なし)」が適用されます。 ●(変更しない) 機器ごとに適用している設定に変更を行いません。 ●(設定なし) 各機能の設定を外します。 <ul style="list-style-type: none"> ☑設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合、端末の動作については、以下を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 📄 「各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作」 844 ページ <p>☑リモートワイプは対象機器をご確認の上、設定してください。</p>

設定テンプレートをデフォルトに設定する

作成した設定テンプレートをデフォルトに設定すると、ライセンス認証して管理サイトに登録された端末は、各設定セットの内容が設定テンプレートの内容に設定されます。

管理サイトに登録する端末を同じ設定にしたい場合に便利です。

☑作成した設定テンプレートが設定されていない場合は、「(所属組織に従う)」がデフォルトに設定されます。

表示操作 [設定] → [Windows] → [設定テンプレート] → デフォルトにするテンプレートの「デフォルトに設定する」



項番	項目	説明
1	デフォルト	デフォルトに設定しているテンプレート名が表示されます。また、デフォルトになっているテンプレート名の下に「デフォルト」と表示されます。(A)の箇所に記載されます。
2	[デフォルトに設定する]	クリックすると、そのテンプレート名の設定をデフォルトにできます。

項番	項目	説明
3	メッセージボックス	選択したテンプレートをデフォルトにすることを確認する画面です。 ●OK 選択したテンプレートをデフォルトに設定します。 ●キャンセル 選択したテンプレートをデフォルトに設定することを中断します。

(所属組織に従う)をデフォルトに設定する

「(所属組織に従う)」をデフォルトに設定すると、ライセンス認証して管理サイトに登録された端末は、各設定セットの内容が「(所属組織に従う)」に設定されます。

初期設定では、デフォルトに「(所属組織に従う)」が設定されています。

 作成した設定テンプレートが設定されていない場合は、「(所属組織に従う)」がデフォルトに設定されます。

表示操作 [設定] → [Windows] → [設定テンプレート] →  → [(所属組織に従う)をデフォルトにする]



項番	項目	説明
1	(所属組織に従う)をデフォルトにする	各種設定内容が「(所属組織に従う)」になるテンプレートをデフォルトにします。
2	メッセージボックス	デフォルトに設定することを確認する画面です。 ●OK 「(所属組織に従う)」をデフォルト設定します。 ●キャンセル 設定を行いません。

10.3 セキュリティ

本機能では、スクリーンロックのパスワード設定、暗号化の設定、位置情報の取得、システムセキュリティの設定／診断、外部デバイス接続の制限、CD/DVD/ブルーレイの制限について、設定セットを作成します。

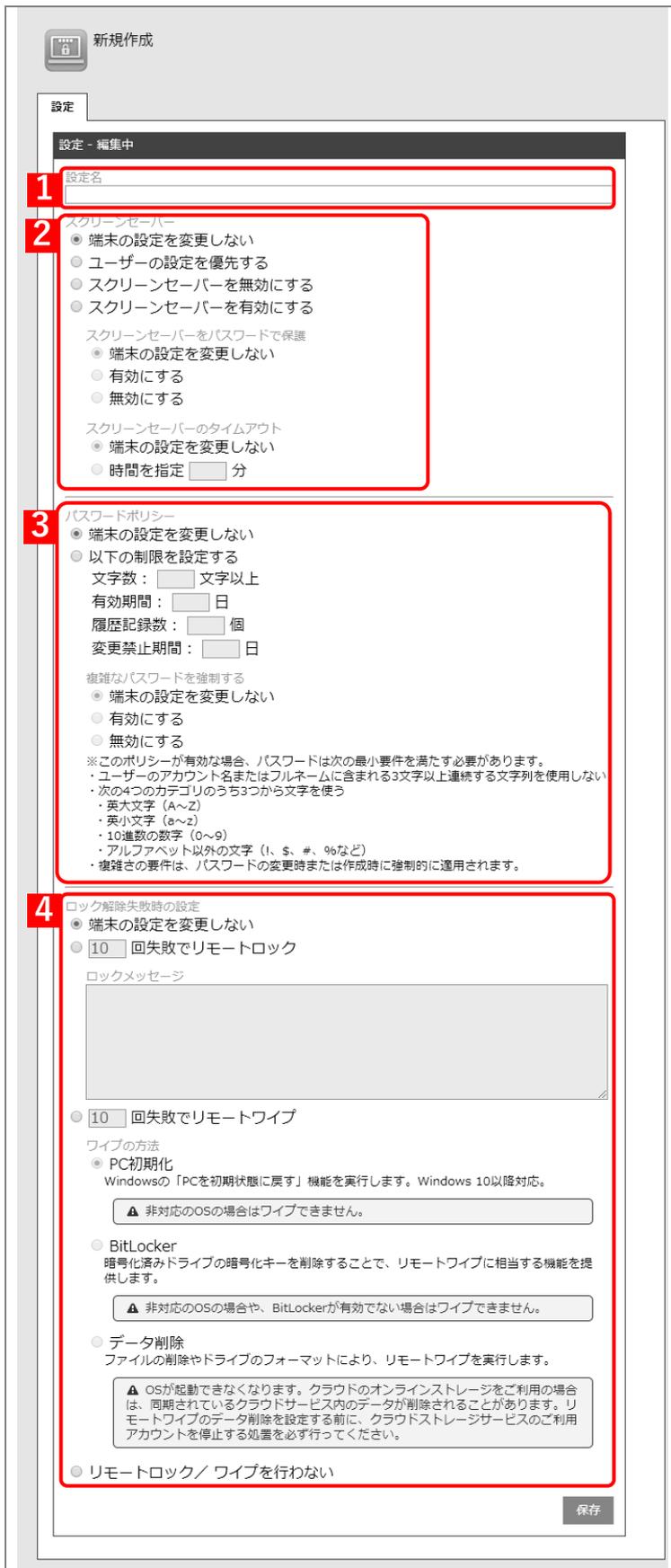
10.3.1 画面ロック

Windows 標準のスクリーンセーバーとログインパスワードについて制限を設けるための設定セットを作成します。パスワードの文字数や英数字利用の指定、パスワードの有効期限、スクリーンロック解除の失敗に応じてワイプを行う設定などができます。

-  本機能はパスワードのポリシーを定めますが、パスワード自体を管理するのは Windows OS です。管理サイトではパスワードの保持を行いませんのでご注意ください。
-  Windows 端末にグループポリシーが適用されている場合、グループポリシーのスクリーンセーバー設定が優先されます。また、本機能は Windows 端末のコントロールパネルから設定したスクリーンセーバー設定よりも優先されます。
-  一部の Windows エディション（「Starter」、「Home」、通常版の一部）ではスクリーンセーバーの設定はできません。
-  対象端末が Windows ドメインで管理されている場合、本機能の設定を端末に反映するには、ドメインでのスクリーンセーバーの設定を「未構成」にする必要があります。またパスワードポリシーの設定は、Windows ドメインで管理されている端末に反映できません。
-  パスワードポリシーの「有効期間」を「0 日」に設定した場合、パスワードの期限は設定されず、無期限となります。
-  パスワードポリシーは、基本的に本機能を端末に適用後、パスワードの変更時または作成時に適用されます。ただし「有効期間」については、本機能を端末に適用時から有効となります。
-  作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 -  「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ
 -  「全機器一括設定」 248 ページ
-  設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [セキュリティ] → [画面ロック] → **+** (一覧から対象を選択) → [編集]



項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	スクリーンセーバー	Windows スクリーンセーバーの制限を選択します。
	端末の設定を変更しない	現在の設定を変更しません。
	ユーザーの設定を優先する	一度本機能で「スクリーンセーバーを無効にする」または「スクリーンセーバーを有効にする」の設定を適用後、ユーザーが端末上でスクリーンセーバーの設定ができるように戻す場合に選択します。
	スクリーンセーバーを無効にする	スクリーンセーバーの設定を解除し、ユーザーが端末からスクリーンセーバーの設定を変更できないようにします。
	スクリーンセーバーを有効にする	<p>スクリーンセーバーを有効に設定し、パスワードによる保護とタイムアウトの時間を設定します。</p> <p>●スクリーンセーバーをパスワードで保護 スクリーンセーバーを解除するときのパスワード入力について設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> •端末の設定を変更しない 一度本機能で「有効にする」または「無効にする」の設定を適用後、ユーザーが端末上でスクリーンセーバーのパスワード保護設定を変更できるように戻す場合に選択します。 •有効にする スクリーンセーバーを解除するときパスワード入力を要求します。また、ユーザーがスクリーンセーバーのパスワード保護設定を変更できないようにします。 <p> 「有効にする」を選択しても、端末上でパスワードが設定されていない場合は、パスワード保護がかかりませんのでご注意ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> •無効にする スクリーンセーバーを解除するときパスワード入力を要求されません。また、ユーザーがスクリーンセーバーのパスワード保護設定を変更できないようにします。 <p>●スクリーンセーバーのタイムアウト スクリーンセーバーを起動するまでのタイムアウト時間（待ち時間）を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> •端末の設定を変更しない 一度本機能で「時間を指定」を適用後、ユーザーが端末上でスクリーンセーバーのタイムアウト設定を変更できるように戻す場合に選択します。 •時間を指定〇分 スクリーンセーバーを起動するまでのタイムアウト時間（待ち時間）を 1 から 1,440 の分数で設定します。またユーザーがスクリーンセーバーのタイムアウト設定を変更できないようにします。
3	パスワードポリシー	ロック画面で入力するパスワードの制限を選択します。
	端末の設定を変更しない	現在の設定を変更しません。

項番	項目	説明				
	以下の制限を設定する	<ul style="list-style-type: none"> ●文字数 パスワードの最小の入力文字数を 1 から 14 の半角数字で入力します。例えば、文字数に「5」を指定した場合は、5 文字以上のパスワードを入力する必要があります。 ●有効期間 パスワードの有効期限を日数指定します。入力数を 0 から 999 の半角数字で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/>パスワードポリシーの「有効期間」を「0 日」に設定した場合、パスワードの期限は設定されず、無期限となります。 ●履歴記録数 一度使用したパスワードを再利用できるまでに必要なパスワード変更回数を指定します。指定した回数を超えない限り、使用したことがあるパスワードの再使用を禁止します。入力数を 0 から 999 の半角数字で入力します。 ●変更禁止期間 パスワードの変更を禁止する日数を指定します。入力数を 0 から 998 の半角数字で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/>有効期間が 0 日以外の場合、禁止期間は有効期間日数よりも少ない数値で指定してください（998 まで）。 ●複雑なパスワードを強制する Windows で決められた複雑さの要件を強制します。複雑さの要件の詳細については、以下の URL を参照してください。 https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/hh994562.aspx ・端末の設定を変更しない 端末の設定は変更せず、端末で決められた設定にしたがいます。 ・有効にする 複雑なパスワードを強制します。 ・無効にする 複雑なパスワードを強制しません。 				
4	ロック解除失敗時の設定	<p>ロック解除に失敗した場合の動作を設定します。</p> <table border="1" data-bbox="284 1294 1474 1507"> <tr> <td data-bbox="284 1294 639 1361">端末の設定を変更しない</td> <td data-bbox="639 1294 1474 1361">現在の設定を変更しません。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="284 1361 639 1507">○回失敗でリモートロック</td> <td data-bbox="639 1361 1474 1507"> <p>ロックの解除に指定回数失敗した場合は、自動的にリモートロックするように設定します。回数は 2 から 50 の半角数字で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロックメッセージ 200 文字以内で入力してください。 </td> </tr> </table>	端末の設定を変更しない	現在の設定を変更しません。	○回失敗でリモートロック	<p>ロックの解除に指定回数失敗した場合は、自動的にリモートロックするように設定します。回数は 2 から 50 の半角数字で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロックメッセージ 200 文字以内で入力してください。
端末の設定を変更しない	現在の設定を変更しません。					
○回失敗でリモートロック	<p>ロックの解除に指定回数失敗した場合は、自動的にリモートロックするように設定します。回数は 2 から 50 の半角数字で入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロックメッセージ 200 文字以内で入力してください。 					

項番	項目	説明
	○回失敗でリモートワイプ	<p>ロックの解除に指定回数失敗した場合は、自動的にワイプするように設定します。回数は 2 から 50 の半角数字で入力します。また、以下からワイプ方法を選択します。</p> <p>「PC 初期化」、「BitLocker」、「データ削除」の詳細については、以下を参照してください。</p> <p> 「[[その他▼] タブ/Windows リモート操作」 265 ページ</p> <p>●PC 初期化 Windows の「PC を初期状態に戻す」機能を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">  Windows 10、Windows 11 に対応しています。  工場出荷時のリカバリ領域が必要です。リカバリ領域がないと、リモートワイプに失敗します。 <p>●BitLocker BitLocker で暗号化済みドライブの回復キー以外のキープロテクターを削除します。</p> <p>BitLocker でのワイプを実行したあとは、端末を起動したときに BitLocker の回復キー入力画面が表示されます。回復キーを入力するまでドライブのデータにアクセスできません。</p> <ul style="list-style-type: none">  回復キーのキープロテクターがないドライブは、BitLocker でのワイプができません。  削除した回復キーを新規で作成するには、以下の URL で「構文」と「パラメーター」を参照してください。回復キーの作成方法については、システム管理者にお問い合わせください。 <p> https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows-server/administration/windows-commands/manage-bde-protectors</p> <ul style="list-style-type: none">  本製品の暗号化機能を利用している場合は、暗号化機能の設定セットを無効、有効の順で割り当て同期すると、回復キーを遠隔で新規作成することができます。  BitLocker 以外の暗号化ツールを使用している場合は、本機能は使用できません  Windows 10 Pro/Enterprise/Education、Windows 11 Pro/Enterprise/Education、および Windows Server 2012 の端末に対応しています。詳細については、以下を参照してください。 <p> 「暗号化」 686 ページ</p> <ul style="list-style-type: none">  BitLocker については、マイクロソフトのサイトを参照してください。 <p> https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows/security/operating-system-security/data-protection/bitlocker/</p> <ul style="list-style-type: none">  回復キーとは、48 桁の文字列です。回復パスワードという場合もあります。詳細については、以下を参照してください。 <p> 「(情報 - Windows) セキュリティ」 228 ページ</p> <p>●データ削除 ファイルの削除やドライブのフォーマットにより、リモートワイプを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none">  OS が起動しなくなることがあります。クラウドのオンラインストレージをご利用の場合は、同期されているクラウドサービス内のデータが削除されることがあります。リモートワイプのデータ削除を設定する前に、クラウドストレージサービスのご利用アカウントを停止する処置を必ず行ってください。  通信間隔の設定によってはワイプまでに時間がかかることがあります。

項番	項目	説明
	リモートロック/ワイプを行わない	ロックの解除に失敗した場合、リモートロック、ワイプを行いません。

10.3.2 暗号化

Windows 端末に搭載されている BitLocker を使用し、システムドライブおよびデータドライブのデータを暗号化するための設定セットを作成します。

本機能は BitLocker 機能を備える、Windows 11 (Pro / Education / Enterprise)、Windows 10 (Pro / Education / Enterprise)、Windows Server 2012 に対応しています。ただし、以下に該当する端末については対象外です。

- すでに本製品以外の暗号化ツールを導入している端末
- デュアルブート環境およびパーティション変更ツールなどを導入している端末

また、上記の条件を満たす場合でも以下を参照し、必ず事前に Windows 端末が暗号化できるか確認してください。

 「確認手順」 687 ページ

 本機能で、暗号化できない場合や BitLocker のオプション機能が必要な場合は、手動で暗号化することもご検討ください。

 ドライブレターが割り当てられていないドライブは暗号化の対象になりません。ドライブレターを設定してから暗号化を行うか、手動で暗号化を行ってください。

 回復キーについては、以下を参照してください。

 「(情報 - Windows) セキュリティ」 228 ページ

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆確認手順

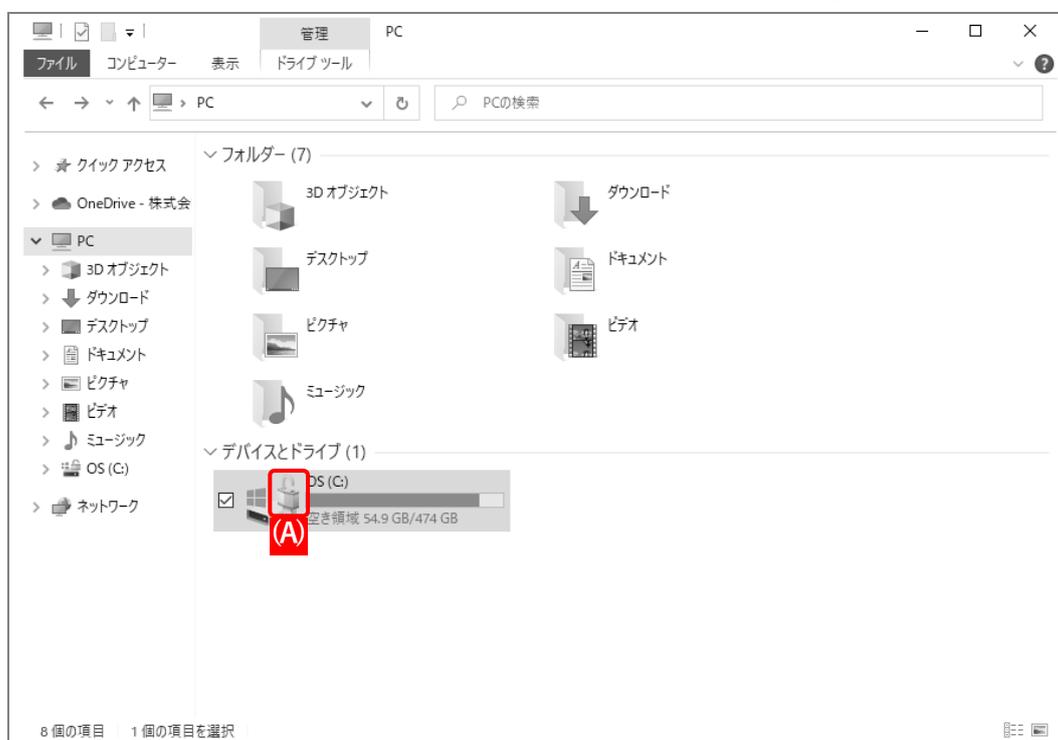
以下の手順で、Windows 端末が暗号化できるか確認してください。

 複数の Windows 端末がある場合は、同様の条件であれば、1 台だけの確認で問題ありません。

- [1] 暗号化を有効にした設定セットを作成します。**
- [2] Windows 端末に上記の設定セットを割り当てます。**
- [3] Windows 端末でタスクトレイの KDDI Smart Mobile Safety Manager エージェントのアイコンを右クリックして、[同期] をクリックします。**
 -  TPM の有効化や再起動を促すダイアログが表示された場合は、[OK] をクリックします。
- [4] エクスプローラーを起動します。**
- [5] ドライブに (A) 南京錠が表示されていることを確認します。**

⇒ 正常に暗号化の設定ができます。

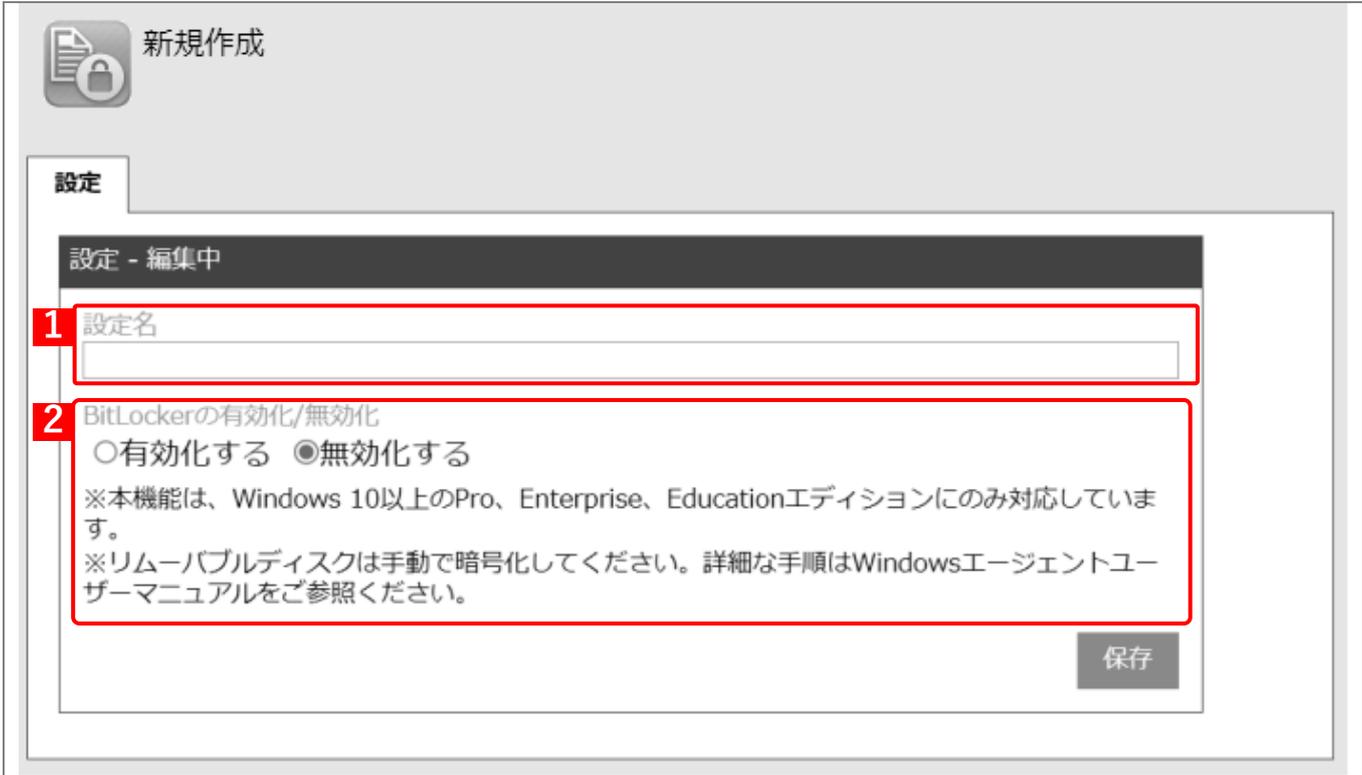
 南京錠が表示されていない場合は、ドライブの右クリックメニューの [BitLocker を有効にする] から、手動で暗号化ができるか試してください。手動でも暗号化ができない場合は、Windows 端末が BitLocker を有効にする要件を満たしていないため、本機能で暗号化することはできません。



- [6] Windows 端末を再起動して、正常に起動できることを確認します。**

◆画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [セキュリティ] → [暗号化] →  (一覧から対象を選択 → [編集])



項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	BitLocker の有効化/無効化	<p>BitLocker の暗号化利用可否を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●有効化する ●無効化する <p> リムーバブルディスクは手動で暗号化してください。詳細については、Microsoft 社の Web サイトを参照してください。</p> <p> Microsoft 社 - BitLocker ドライブ暗号化</p>

10.3.3 位置情報管理

Windows 端末で位置情報を取得する契機を指定するための設定セットを作成します。取得した位置情報を確認する場合は、以下を参照してください。

📄 「(情報 - Windows) 位置」 230 ページ

☑️ 使用している Windows 端末の位置情報を、オンに設定してください。

☑️ 位置情報の設定方法については、Windows 端末の取扱説明書、または Microsoft 社の Web サイトを参照してください。

📄 <https://privacy.microsoft.com/ja-jp/windows-10-location-and-privacy>

📄 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

📄 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ

📄 「全機器一括設定」 248 ページ

📄 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [セキュリティ] → [位置情報管理] → **+** (一覧から対象を選択 → [編集])

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 エージェントによる測位

- 測位しない
- 定期的に測位する
 - 分数指定: 30 分
 - 時間指定: 時間
 - 日数指定: 日

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	エージェントによる測位	<p>エージェント側の位置情報の測位の契機を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●測位しない エージェント側では、位置情報を測位しません。ただし、管理サイトから「同期」を指示した場合は、端末の位置情報を測位します（契機 1）。 ●定期的に測位する 契機 1 に加え、測位する契機を分数指定、時間指定、日数指定から選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ・分数指定 指定した分数間隔で測位する場合に選択します。分数は 10 から 59 の半角数字で入力します。 ・時間指定 指定した時間間隔で測位する場合に選択します。時間は 1 から 23 の半角数字で入力します。 ・日数指定 指定した日数間隔で測位する場合に選択します。日数は 1 から 365 の半角数字で入力します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 端末の位置情報の無線ネットワークと GPS が無効の場合、測位を行いません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> この設定値は、機器で位置情報を測位する周期で使用します。管理サーバーへ位置情報を同期する設定値は、[設定] の [管理アプリの通信と動作] にある「管理サーバーとの通信間隔」で設定できます。</p> <p style="text-align: center;"> 「管理アプリの通信と動作」 671 ページ</p>

10.3.4 システムセキュリティ

Windows 端末のシステムセキュリティに設定および診断を行うための設定セットを作成します。

診断結果に問題がある場合はログに出力されます。ログの確認は以下を参照してください。

📄 「ログ」 784 ページ

✂️ システムでグループポリシーが設定されている場合は、グループポリシーが優先され、本機能を利用できないことがあります。グループポリシーについては、システム管理者にお問い合わせください。

✂️ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

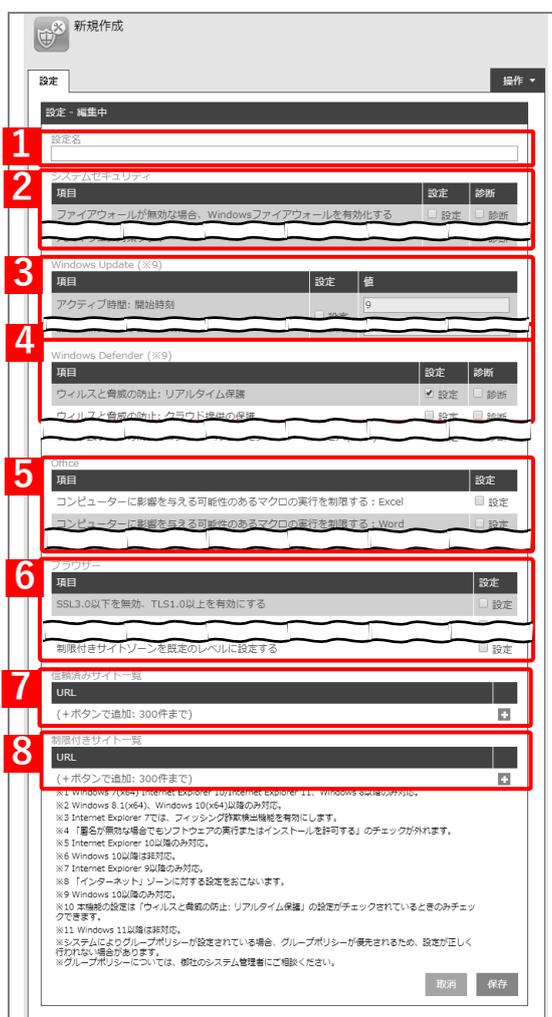
📄 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ

📄 「全機器一括設定」 248 ページ

✂️ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [セキュリティ] → [システムセキュリティ] → **+** (一覧から対象を選択 → [編集])



項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	システムセキュリティ	項目ごとに設定／診断を行うか指定します。詳細については、以下を参照してください。 👉 「システムセキュリティ項目」 692 ページ
3	Windows Update	項目ごとに設定と値を指定します。詳細については、以下を参照してください。 👉 「Windows Update」 694 ページ
4	Windows Defender	項目ごとに設定／診断を行うか指定します。詳細については、以下を参照してください。 👉 「Windows Defender」 Windows Defender696 ページ
5	Office	項目ごとに設定を行うか指定します。項目の詳細については、以下を参照してください。 👉 「Office 項目」 697 ページ <input checked="" type="checkbox"/> 「Office」 の設定対象バージョンは、Office 2007 / 2010 / 2013 / 2016 です。
6	ブラウザ	項目ごとに設定を行うか指定します。項目の詳細については、以下を参照してください。 👉 「ブラウザ項目」 697 ページ <input checked="" type="checkbox"/> 「Internet Explorer」 の設定対象バージョンは、Internet Explorer 11 です。 <input checked="" type="checkbox"/> Windows Server 2012 / 2012 R2 と Windows 10 Enterprise LTSC 2019 をサポートしています。
7	信頼済みサイト一覧	Internet Explorer の「信頼済みサイト」の URL 登録を行います。登録できる URL は 300 件です。URL は 200 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> Windows Server 2012 / 2012 R2 と Windows 10 Enterprise LTSC 2019 をサポートしています。
8	制限付きサイト一覧	Internet Explorer の「条件付きサイト」の URL 登録を行います。登録できる URL は 300 件です。URL は 200 文字以内の半角英数字と記号で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「*」 (アスタリスク) によるワイルドカードが利用できます。 <input checked="" type="checkbox"/> 指定した URL の閲覧を制限する機能ではありません。 <input checked="" type="checkbox"/> Windows Server 2012 / 2012 R2 と Windows 10 Enterprise LTSC 2019 をサポートしています。

◆システムセキュリティ項目

診断を有効にすると、各項目の端末の状態を確認します。端末に該当の設定が行われていなかった場合、ログにアラートと診断結果が出力されます。

項目	設定／診断	説明
ファイアウォールが無効な場合、 Windows ファイアウォールを有効化する	設定	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると Windows ファイアウォールを有効にします。すでに有効な場合は何も行いません。Windows のグループポリシーが設定済みの場合は何も行いません。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
	診断	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると Windows ファイアウォールの状態を診断します。 ●チェックを外すと何も行いません。

項目	設定／診断	説明
Windows の Guest アカウントを無効化する	設定	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると Windows の Guest アカウントを無効にします。すでに無効な場合は何も行いません。Windows のグループポリシーが設定済みの場合は何も行いません。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
	診断	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると Windows の Guest アカウントの状態を診断します。 ●チェックを外すと何も行いません。
Windows の更新を自動インストールする	設定	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると Windows の自動更新を有効にします。すでに有効な場合は何も行いません。Windows のグループポリシーが設定済みの場合は何も行いません。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。 <p> Windows 10、Windows 11 は非対応です。</p>
	診断	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると Windows の自動更新の状態を診断します。 ●チェックを外すと何も行いません。 <p> Windows 10、Windows 11 は非対応です。</p>
Windows の更新時に他の Microsoft 製品の更新プログラムを入手する	設定	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると Windows の更新時に他の Microsoft 製品の更新プログラムをダウンロードします。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
	診断	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると他の Microsoft 製品の更新プログラムの入手状態を診断します。 ●チェックを外すと何も行いません。
スクリーンセーバーの解除時にようこそ画面に戻る	設定	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れるとスクリーンセーバー解除時によろこそ画面を表示する設定に変更します。すでに表示する設定になっている場合は何も行いません。Windows のグループポリシーが設定済みの場合は何も行いません。 <p> 端末のスクリーンセーバーの設定にある「再開時にログオン画面に戻る」が有効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
	診断	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れるとスクリーンセーバー解除時の状態を診断します。 ●チェックを外すと何も行いません。
ウイルス対策ソフト	設定	<ul style="list-style-type: none"> ●設定は指定できません。
	診断	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れるとウイルス対策ソフトの状態を診断します。 <p> セキュリティセンターに、「有効」で「最新」のウイルス対策ソフトが 1 つも存在しない場合、ログにアラートと診断結果が出力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●チェックを外すと何も行いません。
スパイウェア対策ソフト	設定	<ul style="list-style-type: none"> ●設定は指定できません。
	診断	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れるとスパイウェア対策ソフトの状態を診断します。 <p> セキュリティセンターに、「有効」で「最新」のスパイウェア対策ソフトが 1 つも存在しない場合、ログにアラートと診断結果が出力されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●チェックを外すと何も行いません。

◆ Windows Update

項目	説明
アクティブ時間: 開始時刻 アクティブ時間: 終了時刻	Windows 端末を通常いつ使うかを知らせるアクティブ時間を設定します。アクティブ時間中は自動的に再起動しません。 <ul style="list-style-type: none"> ●設定 チェックを入れると設定したアクティブ時間が有効になります。 ●値 <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブ時間: 開始時刻: 「開始時刻」を設定します。0 以上 23 以下の半角数字で入力してください。 ・アクティブ時間: 終了時刻: 「終了時刻」を設定します。0 以上 23 以下の半角数字で入力してください。終了時刻は開始時刻から 18 時間以内に設定してください。 <input checked="" type="checkbox"/> Windows 10 のバージョン 1709 以上、Windows 11 に対応しています。
更新プログラムをいつインストールするかを選択	更新プログラムをインストールするタイミングを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ●設定 チェックを入れると設定したタイミングで更新プログラムがインストールされます。 ●値 更新プログラムを配信するチャンネルを以下から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> チャンネルとは、データの通り道のことです。接続するチャンネルによって、配信される更新プログラムが異なります。 ・プレビュー ビルド - ファスト 最新の開発中 (Insider Preview 版) の更新プログラムが配信されます。 <input checked="" type="checkbox"/> Windows Insider Program への参加が必要です。参加していない場合は、「半期チャンネル」が適用されます。 ・プレビュー ビルド - スロー 近々リリースされる予定の開発中 (InsiderPreview 版) の更新プログラムが配信されます。 <input checked="" type="checkbox"/> Windows Insider Program への参加が必要です。参加していない場合は、「半期チャンネル」が適用されます。 ・リリース プレビュー 「半期チャンネル」に配信される予定の更新プログラム内容が、「半期チャンネル」で配信されるよりも少し早く配信されます。 <input checked="" type="checkbox"/> Windows Insider Program への参加が必要です。参加していない場合は、「半期チャンネル」が適用されます。 ・半期チャンネル (対象指定) 動作が安定しているリリース版の更新プログラムが、半年 (半期) ごとに配信されます。配信の時期は「半期チャンネル」と同じですが、インストールに猶予期間がありません。 <input checked="" type="checkbox"/> バージョン 1809 以下の端末に対応しています。 <input checked="" type="checkbox"/> バージョン 1903 以上の端末に設定した場合は、「半期チャンネル」が適用されます。設定値は、機器のセキュリティ画面から確認できます。 🔗 「(情報 - Windows) セキュリティ」 228 ページ <input checked="" type="checkbox"/> Windows Insider Program への参加は制限されます。Insider Preview 版の更新プログラムは受け取れません。 ・半期チャンネル 動作が安定しているリリース版の更新プログラムが、半年 (半期) ごとに配信されます。配信されてから 2~3 か月は、インストールするか選択できる猶予期間があります。 <input checked="" type="checkbox"/> バージョン 1903 以上の端末では、デフォルトになります。 <input checked="" type="checkbox"/> Windows Insider Program への参加は制限されます。Insider Preview 版の更新プログラムは受け取れません。 ・1809 またはそれ以前の半期チャンネル バージョン 1809 以下の旧半期チャンネルから、更新プログラムが配信され

項目	説明
	<p>ます。</p> <ul style="list-style-type: none">  バージョン 1903 以上の端末に対応していますが、Microsoft から非推奨とされています。特に理由のない限り使用しないでください。  バージョン 1809 以下の端末に設定した場合は、「半期チャンネル」が適用されます。設定値は、機器のセキュリティ画面から確認できます。  「(情報 - Windows) セキュリティ」 228 ページ  Windows Insider Program への参加は制限されます。Insider Preview 版の更新プログラムは受け取れません。  Windows 10 Pro/Enterprise/Education のバージョン 1709 以上、Windows 11 Pro/Enterprise/Education に対応しています。  本設定は、Windows 10 のローカルコンピューターポリシー（ローカルグループポリシー）の「Windows Update for Business」を利用しています。本設定を有効にすると、「Windows Update for Business」の「受信する更新プログラムの Windows 準備レベルを選択してください」と「プレビュービルドを管理にする」の設定内容が変更されます。  「Windows Update for Business」は Windows 11 以上では、「Windows Update から提供される更新プログラムの管理」という名称に変更されました。  WSUS (Windows Server Update Service) を利用している端末では、デュアルスキャンが有効になる場合があります。詳細については、Microsoft 社の Web サイトを参照してください。  https://docs.microsoft.com/ja-jp/archive/blogs/jpwsus/windows-10-1607-wufb  動作が安定している更新プログラムのみを受け取りたい場合は、本項目で「半期チャンネル」を設定してください。  現在、運用しているアプリへの影響が明らかになるまでは、更新プログラムの受け取りを遅らせたいなどの場合は、「機能更新プログラムの延期日数」や「品質更新プログラムの延期日数」で延期日数を指定してください。
機能更新プログラムの延期日数	<p>機能更新プログラムとは、大型アップデートを行うプログラムです。大型アップデートを行う延期日数を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●設定 チェックを入れると機能更新プログラムの延期日数が有効になります。 ●値 延期日数を 0 以上 365 以下の半角数字で入力します。  Windows 10 Pro/Enterprise/Education のバージョン 1709 以上、Windows 11 Pro/Enterprise/Education に対応しています。  本設定は、Windows 10 のローカルコンピューターポリシー（ローカルグループポリシー）の「Windows Update for Business」を利用しています。本設定を有効にすると、「Windows Update for Business」の「プレビュービルドまたは機能更新プログラムがリリースされた後、受信を延期する日数」の設定内容が変更されます。  「Windows Update for Business」は Windows 11 以上では、「Windows Update から提供される更新プログラムの管理」という名称に変更されました。  WSUS (Windows Server Update Service) を利用している端末では、デュアルスキャンが有効になる場合があります。詳細については、Microsoft 社の Web サイトを参照してください。  https://docs.microsoft.com/ja-jp/archive/blogs/jpwsus/windows-10-1607-wufb
品質更新プログラムの延期日数	<p>品質更新プログラムとは、セキュリティの問題や製品の不具合を修正するため、毎月 1 回以上提供される更新プログラムです。更新を行う延期日数を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●設定

項目	説明
	<p>チェックを入れると品質更新プログラムの延期日数が有効になります。</p> <p>●値 延期日数を 0 以上 30 以下の半角数字で入力します。</p> <p>☑ Windows 10 Pro/Enterprise/Education のバージョン 1709 以上、Windows 11 Pro/Enterprise/Education に対応しています。</p> <p>☑ 本設定は、Windows 10 のローカルコンピューターポリシー（ローカルグループポリシー）の「Windows Update for Business」を利用しています。本設定を有効にすると、「Windows Update for Business」の「品質更新プログラムがリリースされた後、受信を延期する日数」の設定内容が変更されます。</p> <p>☑ 「Windows Update for Business」は Windows 11 以上では、「Windows Update から提供される更新プログラムの管理」という名称に変更されました。</p> <p>☑ WSUS (Windows Server Update Service) を利用している端末では、デュアルスキャンが有効になる場合があります。詳細については、Microsoft 社の Web サイトを参照してください。</p> <p>https://docs.microsoft.com/ja-jp/archive/blogs/jpwsus/windows-10-1607-wufb</p>

◆ Windows Defender

☑ Windows 10 のバージョン 1709 以上、Windows 11 に対応しています。

項目	設定／診断	説明
ウイルスと脅威の防止: リアルタイム保護	設定	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックを入れると「ウイルスと脅威の防止: リアルタイム保護」が有効になります。 ● チェックを外すと何も行いません。
	診断	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックを入れると「ウイルスと脅威の防止: リアルタイム保護」の診断を行います。 ● チェックを外すと何も行いません。
ウイルスと脅威の防止: クラウド提供の保護	設定	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックを入れると「ウイルスと脅威の防止: クラウド提供の保護」が有効になります。 ● チェックを外すと何も行いません。
	診断	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックを入れると「ウイルスと脅威の防止: クラウド提供の保護」の診断を行います。 ● チェックを外すと何も行いません。
ウイルスと脅威の防止: サンプルの自動送信	設定	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックを入れると「ウイルスと脅威の防止: サンプルの自動送信」が有効になります。 ● チェックを外すと何も行いません。
	診断	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックを入れると「ウイルスと脅威の防止: サンプルの自動送信」の診断を行います。 ● チェックを外すと何も行いません。
ランサムウェアの防止: コントロールされたフォルダーアクセス (※1)	設定	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックを入れると「ランサムウェアの防止: コントロールされたフォルダーアクセス」が有効になります。 ● チェックを外すと何も行いません。
	診断	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックを入れると「ランサムウェアの防止: コントロールされたフォルダーアクセス」の診断を行います。 ● チェックを外すと何も行いません。

※1: 本機能の設定は「ウイルスと脅威の防止: リアルタイム保護」の設定がチェックされているときのみチェックできます。

◆Office 項目

 Office の仕様により「信頼済みドキュメント」と判断されたドキュメントは、マクロの実行が有効になります。信頼済みドキュメントについては、以下を参照してください。

 [https://support.microsoft.com/ja-](https://support.microsoft.com/ja-jp/office/%E4%BF%A1%E9%A0%BC%E6%B8%88%E3%81%BF%E3%83%89%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%88-cf872bd8-47ec-4c02-baa5-1fdb1a11b53)

[jp/office/%E4%BF%A1%E9%A0%BC%E6%B8%88%E3%81%BF%E3%83%89%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%88-cf872bd8-47ec-4c02-baa5-1fdb1a11b53](https://support.microsoft.com/ja-jp/office/%E4%BF%A1%E9%A0%BC%E6%B8%88%E3%81%BF%E3%83%89%E3%82%AD%E3%83%A5%E3%83%A1%E3%83%B3%E3%83%88-cf872bd8-47ec-4c02-baa5-1fdb1a11b53)

項目	説明
コンピューターに影響を与える可能性のあるマクロの実行を制限する：Excel	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れるとコンピューターに影響を与える可能性のある Excel 内のマクロの実行を制限します。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
コンピューターに影響を与える可能性のあるマクロの実行を制限する：Word	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れるとコンピューターに影響を与える可能性のある Word 内のマクロの実行を制限します。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
コンピューターに影響を与える可能性のあるマクロの実行を制限する：PowerPoint	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れるとコンピューターに影響を与える可能性のある PowerPoint 内のマクロの実行を制限します。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
コンピューターに影響を与える可能性のあるマクロの実行を制限する：Outlook	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れるとコンピューターに影響を与える可能性のある Outlook 内のマクロの実行を制限します。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。

◆ブラウザー項目

 Windows Server 2012 / 2012 R2 と Windows 10 Enterprise LTSC 2019 をサポートしています。

項目	説明
SSL3.0 以下を無効、TLS1.0 以上を有効にする	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると SSL3.0 以下の SSL を停止し、TLS1.0 以上が有効になります。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
拡張保護モードを有効にする	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると拡張保護モードが有効になります。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
拡張保護モードで 64 ビットプロセッサを有効にする	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると拡張保護モードで 64 ビットプロセッサを有効になります。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
SmartScreen フィルター機能を有効にする	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると SmartScreen フィルター機能が有効になります。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。  「インターネット」ゾーンに対する設定を行います。
POST の送信が POST を許可しないゾーンにリダイレクトされた場合に警告する	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると POST の送信が POST を許可しないゾーンにリダイレクトされた場合に警告します。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
サーバーの証明書失効を確認する	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れるとサーバーの証明書失効時に確認を行います。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
署名が有効な場合のみソフトウェアの実行またはインストールを許可する	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れるとソフトウェアの実行またはインストールが許可されるのは署名が有効な場合のみになります。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。  「署名が無効な場合でもソフトウェアの実行またはインストールを許可する」のチェックが外れます。

項目	説明
証明書のアドレスの不一致について警告する	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると証明書のアドレスの不一致について警告します。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
発行元証明書の取り消しを確認する	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると発行元証明書の取り消しを確認します。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
厳密な P3P 検証を有効にする	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると厳密な P3P (Platform for Privacy Preferences 標準) 検証が有効になります。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
他の混在したコンテンツを持つセキュリティで保護されていないイメージをブロックする	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると他の混在したコンテンツを持つセキュリティで保護されていないイメージがブロックされます。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
保護つき/保護なしのサイト間を移動する場合に警告する	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると保護つき/保護なしのサイト間を移動する場合に警告します。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
安全だとマークされていない ActiveX コントロールの初期化とスクリプトの実行を無効にする	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると安全だとマークされていない ActiveX コントロールの初期化とスクリプトの実行を無効にします。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「インターネット」ゾーンに対する設定を行います。
署名された ActiveX コントロールのダウンロードをする場合にダイアログを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると署名された ActiveX コントロールのダウンロードをする場合にダイアログを表示します。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「インターネット」ゾーンに対する設定を行います。
署名されていない ActiveX コントロールのダウンロードを無効にする	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると署名されていない ActiveX コントロールのダウンロードを無効にします。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「インターネット」ゾーンに対する設定を行います。
アクティブスクリプトを無効にする	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れるとアクティブスクリプトを無効にします。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「インターネット」ゾーンに対する設定を行います。
IFRAME 内からプログラムやファイルを起動する前にダイアログを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると IFRAME 内からプログラムやファイルを起動する前にダイアログを表示します。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「インターネット」ゾーンに対する設定を行います。
Web ブラウザー コントロール内でスクリプトの実行を禁止する	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると Web ブラウザー コントロール内でスクリプトの実行を禁止します。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「インターネット」ゾーンに対する設定を行います。
ポップアップブロック機能を有効にする	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れるとポップアップブロック機能が有効になります。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「インターネット」ゾーンに対する設定を行います。
既存のクライアント証明書が 1 つしか存在しない場合の証明書の選択を無効にする	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると既存のクライアント証明書が 1 つしか存在しない場合のクライアント証明書の選択が無効になります。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「インターネット」ゾーンに対する設定を行います。
SSL/TLS で暗号化された部分とされていない部分が混在するときにダイアログを表示する	<ul style="list-style-type: none"> ●チェックを入れると SSL/TLS で暗号化された部分とされていない部分が混在するときにダイアログを表示します。 ●チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。 <input checked="" type="checkbox"/> 「インターネット」ゾーンに対する設定を行います。

項目	説明
イントラネットゾーンでのみユーザー認証が必要なページに自動的にログオンする	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックを入れるとユーザー認証が必要なページに自動的にログオンするのはイントラネットゾーンに限られます。 ● チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。 ☑ 「インターネット」ゾーンに対する設定を行います。
プライバシーが「中」未満の場合に「中」に設定する	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックを入れるとプライバシー設定が「中」未満の場合に設定を「中」に設定します。 ● チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。
ローカルイントラネットゾーンを既定のレベルに設定する	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックを入れるとローカルイントラネットゾーンが既定のレベルになります。 ● チェックを外すと何も行いません。 ☑ 既定以上のセキュリティレベルの場合は変更されません。
信頼済みサイトゾーンを既定のレベルに設定する	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックを入れると信頼済みサイトゾーンが既定のレベルになります。 ● チェックを外すと何も行いません。 ☑ 既定以上のセキュリティレベルの場合は変更されません。
制限付きサイトゾーンを既定のレベルに設定する	<ul style="list-style-type: none"> ● チェックを入れると制限付きサイトゾーンが既定のレベルになります。 ● チェックを外すと何も行いません。 ☑ 既定以上のセキュリティレベルの場合は変更されません。

10.3.5 Windows 情報保護

Windows 情報保護 (WIP) は、企業データの漏洩を防げる機能です。エージェント端末で作成したファイルを保護対象ファイルとして管理するための、設定セットを作成します。保護対象ファイルのコピーや削除を行うと警告が表示され、操作が禁止されます。また、不適切なデータ共有となるため、ログへも記録されます。

- ❏ 本機能は悪意のない誤った操作で企業情報が流出しそうになったときに、注意喚起によって流出を防ぐ機能です。完全に漏洩を防止できる機能ではありません。
- ❏ Windows 情報保護共通設定が未設定の場合は、本機能は設定できません。
 - 🔗 「Windows 情報保護共通設定」 775 ページ
- ❏ Windows 情報保護や制約事項の詳細については、Microsoft 社の Web サイトを参照してください。
 - 🔗 <https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/security/information-protection/windows-information-protection/protect-enterprise-data-using-wip>
- ❏ 本機能は、Windows 11 Pro/Enterprise/Education の 32 ビット版と 64 ビット版、および Windows 10 Pro (1803 以上)、Windows 10 Enterprise (1709 以上)、Windows 10 Education (1709 以上) に対応しています。
- ❏ 1 台の Windows 端末を 1 人のユーザーが使用している場合を想定しています。
- ❏ 設定を一度割り当てた後、無効 (もしくは設定なし) にした Windows 端末と、一度も割り当てをしていない Windows 端末では、保護対象ファイルの動作が異なります。設定の割り当てをしていない状態にするには、Windows 端末を初期化してください。
- ❏ Windows 端末の動作の詳細については、以下を参照してください。
 - 🔍 『Windows クライアント リファレンスマニュアル』の「管理サイトからの指示による動作」 - 「Windows 情報保護 (WIP) が設定された場合」
- ✍️ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 - 🔗 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ
 - 🔗 「全機器一括設定」 248 ページ
- ✍️ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [セキュリティ] → [Windows 情報保護] → +

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 Windows情報保護のレベル

- 無効
※データの保護や監査は行われません。
- 記録
※不適切なデータ共有を記録します。
- 警告および記録
※不適切なデータ共有を検出して、警告および記録します。
- 禁止
※不適切なデータ共有を検出して、禁止します。

3 保護対象ドメイン名

.co.jp (プライマリ企業ID) (A)

※複数指定する場合はパイプ記号「|」で区切る
例) head.example.com | branch.example.com
※企業で利用しているすべての電子メールアドレスドメインを設定することを推奨します。

4 ネットワークドメイン名

※複数指定する場合はカンマ「,」で区切る
例) site1.example.com, site2.example.com
※環境で使用されるDNSサフィックスを指定します。
※このリストに表示される完全修飾ドメインへのすべてのトラフィックが保護されます。

5 Microsoft製アプリ

製品名	保護
Microsoft Office	<input type="checkbox"/>
Microsoft Edge	<input type="checkbox"/>
Microsoft People	<input type="checkbox"/>
Word Mobile	<input type="checkbox"/>
Excel Mobile	<input type="checkbox"/>
PowerPoint Mobile	<input type="checkbox"/>
OneNote	<input type="checkbox"/>
Outlook メール/カレンダー	<input type="checkbox"/>
Microsoft フォト	<input type="checkbox"/>
Groove ミュージック	<input type="checkbox"/>
Microsoft 映画 & テレビ	<input type="checkbox"/>
Microsoft メッセージング	<input type="checkbox"/>
OneDrive アプリ	<input type="checkbox"/>
IE11	<input type="checkbox"/>
OneDrive 同期クライアント	<input type="checkbox"/>
メモ帳	<input type="checkbox"/>
Microsoft ペイント	<input type="checkbox"/>
Microsoft リモート デスクトップ	<input type="checkbox"/>

6 サードパーティ製デスクトップアプリ

製品名	パス名	保護
(+ボタンで追加: 10件まで) +		

7 サードパーティ製パッケージアプリ

製品名	パッケージ名	保護
(+ボタンで追加: 10件まで) +		

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	Windows 情報保護のレベル	<p>保護対象にするアプリのレベルを以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●無効 データの保護や監視は行われません。 <input checked="" type="checkbox"/> 保護対象アプリを解除するとき、無効に設定します。 ●記録 不適切なデータ共有を記録します。 <input checked="" type="checkbox"/> 保護対象アプリのデータの共有状況をログで取得します。  「Windows 情報保護イベントログ」 841 ページ ●警告および記録 不適切なデータ共有を検出して、警告および記録します。 <input checked="" type="checkbox"/> 保護対象アプリの不適切なデータ共有をすると、警告画面が表示されます。 ●禁止 不適切なデータ共有を検出して、禁止します。 <input checked="" type="checkbox"/> 保護対象アプリのデータの操作を禁止します。
3	保護対象ドメイン名	<p>Windows 情報保護共通設定で、設定した (A) プライマリ企業 ID は、自動的に保護対象ドメインになります。</p> <p> 「Windows 情報保護共通設定」 775 ページ</p> <p>保護対象とするメールアドレスのドメインをすべて指定します。以下の Microsoft 社の Web サイトから「企業で管理する ID ドメインの定義」を参照してください。</p> <p> https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/security/information-protection/windows-information-protection/create-wip-policy-using-configmgr</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 複数入力する場合は、パイプ記号「 」で区切ってください。</p>
4	ネットワークドメイン名	<p>保護対象アプリがネットワーク上で、共有データにアクセスできる場所を指定します。詳細については、以下の Microsoft 社の Web サイトから「アプリがエンタープライズ データにアクセスできる場所の選択」を参照してください。</p> <p> https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/security/information-protection/windows-information-protection/create-wip-policy-using-configmgr</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 複数入力する場合は、カンマ「,」で区切ってください。</p>
5	Microsoft 製アプリ	<p>以下の保護する Microsoft 製アプリにチェックを入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Microsoft Office ●Microsoft Edge ●Microsoft People ●Word Mobile ●Excel Mobile ●PowerPoint Mobile ●OneNote ●Outlook メール/カレンダー ●Microsoft フォト ●Groove ミュージック ●Microsoft 映画 & テレビ ●Microsoft メッセージング ●OneDrive アプリ

項番	項目	説明
		<ul style="list-style-type: none"> ●IE11 ●OneDrive 同期クライアント ●メモ帳 ●Microsoft ペイント ●Microsoft リモート デスクトップ
6	サードパーティ製デスクトップアプリ	<p>Microsoft 製以外のデスクトップアプリを保護したい場合は、製品名とパス名を入力して、保護にチェックを入れます。</p> <p> 1 設定に 10 件まで登録できます。</p> <p> アプリの詳細については、アプリ一覧で確認してください。</p> <p style="padding-left: 20px;"> 「(情報 - Windows) アプリケーション」 225 ページ</p> <p> Windows 情報保護に対応しているかは、アプリの開発元にご確認ください。</p> <p> WIP 対応アプリまたは WIP 非対応アプリを保護した場合の保護対象ファイルの挙動は、以下を参照してください。</p> <p style="padding-left: 20px;"> 「WIP 対応アプリと WIP 非対応アプリの動作差分」 703 ページ</p> <p> 保護したアプリが Windows 端末で起動できない場合は、Windows 端末を再起動してください。</p>
7	サードパーティ製パッケージアプリ	<p>Microsoft 製以外のパッケージアプリを保護したい場合は、製品名とパッケージ名を入力して、保護にチェックを入れます。</p> <p> 1 設定に 10 件まで登録できます。</p> <p> アプリの詳細については、アプリ一覧で確認してください。</p> <p style="padding-left: 20px;"> 「(情報 - Windows) アプリケーション」 225 ページ</p> <p> パッケージ名については、以下を参照してください。</p> <p style="padding-left: 20px;"> 「パッケージファミリー名およびパッケージ名の探しかた」 729 ページ</p> <p> Windows 情報保護に対応しているかは、アプリの開発元にご確認ください。</p> <p> WIP 対応アプリまたは WIP 非対応アプリを保護した場合の保護対象ファイルの挙動は、以下を参照してください。</p> <p style="padding-left: 20px;"> 「WIP 対応アプリと WIP 非対応アプリの動作差分」 703 ページ</p> <p> 保護したアプリが Windows 端末で起動できない場合は、Windows 端末を再起動してください。</p>

◆WIP 対応アプリと WIP 非対応アプリの動作差分

	保護の指定	ファイルの操作		ファイルの保存	ファイルの起動	
		作業ファイル	個人ファイル		作業ファイル	個人ファイル
WIP 対応アプリ	する	保護対象ファイル	非保護対象ファイル	作業用か個人用か選択可能	開ける	開ける
	しない	非保護対象ファイル	非保護対象ファイル	個人用	開けない	開ける
WIP 非対応アプリ	する	保護対象ファイル	保護対象ファイル	作業用	開けない	開ける
	しない	非保護対象ファイル	非保護対象ファイル	個人用	開けない	開ける

10.3.6 SIM 抜き差し監視

SIM 抜き差し監視は、正規の SIM（本機能を有効にした状態で同期したときに最初に検知される SIM）が抜かれた場合や、正規の SIM 以外の SIM が挿入された場合に、ロック画面を表示して、Windows 端末を操作できない状態にします。

本画面では、正規の SIM が挿入された状態でのみ、Windows 端末を使用できる設定セットを作成します。

- ✔ 本機能では、非正規の SIM は使用できません。
- ✔ 本機能は、SIM が使用できる Windows 端末が対象です。
- ✔ Windows 端末の「WWAN AutoConfig」サービスが起動していることを確認してください。
- ✔ 本機能では、外部 SIM（USB 接続の SIM などの外付けで接続している SIM）の抜き取り検知ができないため、外部 SIM の使用は推奨できません。
- ✔ eSIM と外部 SIM が存在する Windows 端末では、端末上で外部 SIM の使用を選択している場合、正規の SIM として外部 SIM が登録されます。しかし、外部 SIM を抜いたタイミングで端末が eSIM の使用へと自動的に切り替えるため、eSIM を非正規 SIM として認識し、ロック画面が表示される場合があります。ロック画面が表示された場合はロック画面を解除し、SIM の再登録を行ってください。
 - 📖 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ
 - 📖 「(操作 - Windows) ロック解除」 169 ページ
- ✔ 正規の SIM として登録するために、SIM ごとに固有の認識番号として「ICCID」を使用しています。SIM 紛失時などに再発行を行うと ICCID が変更されるため、正規の SIM として検出されなくなるため、あらためて再登録を行ってください。
- ✍ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 - 📖 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ
 - 📖 「全機器一括設定」 248 ページ
- ✍ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [セキュリティ] → [SIM 抜き差し監視] → +

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 SIM登録

● 有効

● 無効

3 ロックメッセージ

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定テンプレートの名称を 1 文字から 30 文字で入力します。  設定は最大 50 個まで作成できます。
2	SIM 登録	SIM 抜き差し監視を行うか、以下から選択します。 ●有効 SIM 抜き差し監視の対象とする場合は、「有効」を選択します。 ●無効 SIM 抜き差し監視の対象としない場合は、「無効」を選択します。  「有効」から「無効」に切り替え、同期を行うと登録されている正規の SIM は解除されます。
3	ロックメッセージ	項番 2 の「SIM 登録」が「有効」の場合、ロック画面に表示するメッセージを入力できます。  ロックメッセージは 200 文字以内で入力してください。

◆ロック画面が表示される条件

Windows 端末で以下の操作が行われた場合は、端末にロック画面が表示します。

- 正規の SIM を抜去した場合
- 正規の SIM が抜去されている場合
- 正規の SIM 以外の SIM を挿入した場合
- 正規の SIM 以外の SIM が挿入されている場合
- SIM が挿入されていない場合
- SIM が認識されていない場合

◆別の SIM を正規の SIM として登録

登録されている正規の SIM を解除し、別の SIM を正規の SIM として登録する場合は、以下の操作を行います。

📌 この操作を行うには、「SIM 抜き差し監視」で設定セットを作成し、「設定セットの割り当て」で [有効] を割り当ててください。

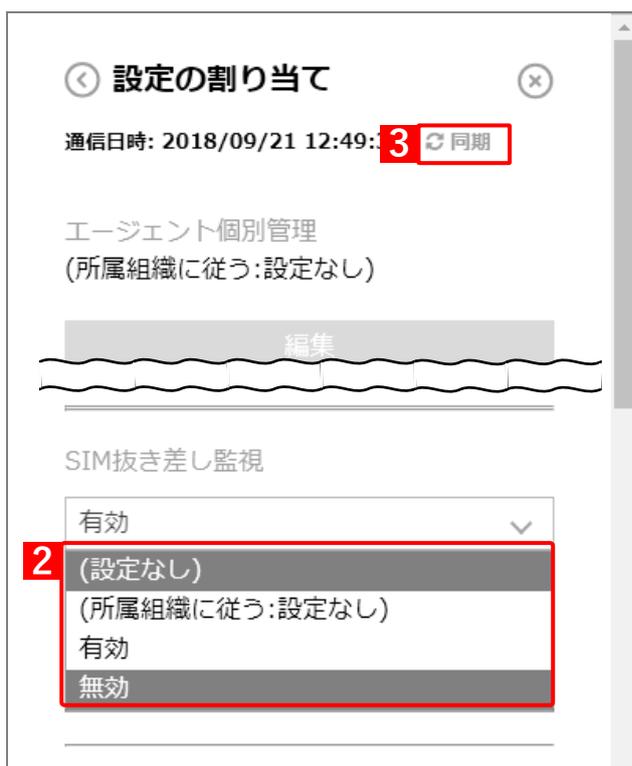
[1] 機器一覧から該当の Windows 端末を選択して、機器の詳細画面を表示します。

📌 「機器の詳細画面」 84 ページ

[2] 「設定セットの割り当て」の「SIM 抜き差し監視」を「有効」から「無効」または「(設定なし)」に変更します。

[3] 🔄 同期 をクリックして同期を実行します。

📌 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ



[4] 該当の Windows 端末で自動同期が反映されるのを待つか、手動で同期を実行します。

[5] 「セキュリティ」の「SIM 抜き差し監視 登録済み SIM 一覧」に登録がないことを確認します。

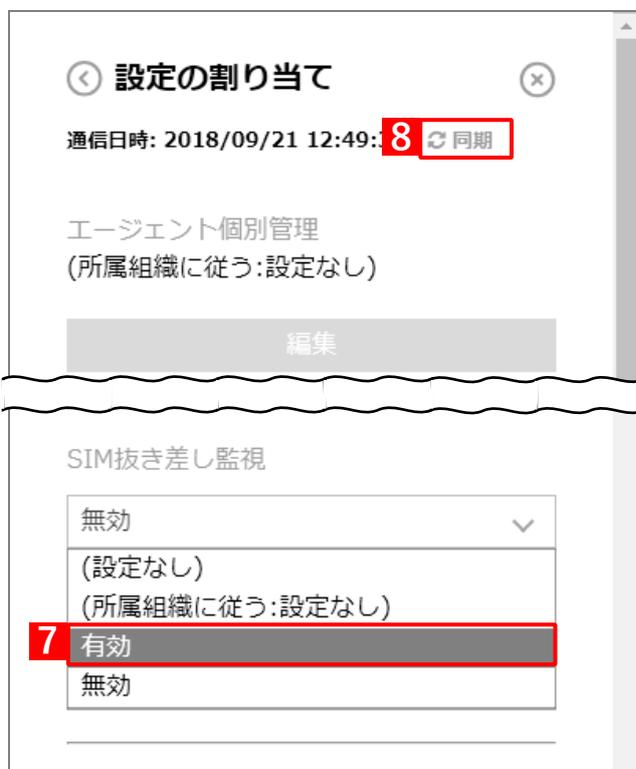
📌 「(情報 - Windows) セキュリティ」 228 ページ

SIM抜き差し監視 登録済みSIM一覧	
ICCID	電話番号
(なし)	

5

- 【6】** 該当の Windows 端末に新規に登録したい SIM を挿入します。
- 【7】** 「設定セットの割り当て」の「SIM 抜き差し監視」を「無効」または「(設定なし)」から「有効」に変更します。
- 【8】**  同期 をクリックして同期を実行します。

 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ



- 【9】** 該当の Windows 端末で自動同期が反映されるのを待つか、手動で同期を実行します。
- 【10】** 「セキュリティ」の「SIM 抜き差し監視 登録済み SIM 一覧」に登録があることを確認します。

 「(情報 - Windows) セキュリティ」 228 ページ

SIM抜き差し監視 登録済みSIM一覧	
10 ICCID	電話番号

10.3.7 機能制限

外部デバイス、CD、DVD、ブルーレイおよびフロッピーディスク (FD) の使用を禁止することができます。本機能では、外部デバイスや外部メディアの使用を制限する設定セットを作成することができます。

10.3.8 機能制限 / 外部デバイス

USB デバイス、SD デバイス、IEEE1394 デバイスの使用を禁止することができます。また、[禁止(ストレージへの書き込み)] 以外の禁止項目を選択し、「ハードウェア ID」、「インスタンスパスまたはシリアル ID」を指定すると、特定デバイスを許可 (ホワイトリストに登録) することができます。

本画面では、外部デバイスの使用を禁止するための設定セットを作成します。

外部デバイスの「ハードウェア ID」や「インスタンスパスまたはシリアル ID」は、以下のように使い分けてください。

● ハードウェア ID

同種または同系統の機器すべてを許可したい場合に指定します。

● インスタンスパスまたはシリアル ID

特定の機器 1 台のみを許可したい場合に指定します。

- スマートフォンなど一部のデバイスでは、ストレージやポータブルデバイス以外の接続機能、アプリを使用したファイル転送などの機能を提供しています。このようなデバイスの場合、[禁止(ストレージおよびポータブルデバイス)] を選択しても USB 機器との接続を禁止できないため、「USB デバイス」で [禁止] を選択して USB 接続を禁止し、該当するアプリを個別に起動禁止にしてください。
- USB デバイスの禁止設定を解除またはホワイトリストに登録した場合、USB デバイスを挿入しなおしてください。
- 禁止設定を解除後に USB デバイスを認識しない場合は、USB デバイスのドライバーを再インストールしてください。
- USB、SD、IEEE1394 デバイスの使用を禁止した場合、お使いの機器によってはキーボード、マウスなどによる入力ができなくなることがあります。必要に応じてホワイトリスト (「許可デバイス (ハードウェア ID)」 「許可デバイス (インスタンスパスまたはシリアル ID)」) に入力機器を登録してください。端末により禁止できないものがあります。
- 同一の外部デバイスを複数の Windows 端末で許可したい場合、取得できるインスタンスパスまたはシリアル ID の値は、Windows 端末ごとに異なります。Windows 端末ごとに取得したインスタンスパスまたはシリアル ID を管理サイトに登録してください。
- 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 - 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ
 - 「全機器一括設定」 248 ページ
- 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [セキュリティ] → [機能制限] → [外部デバイス] →  (一覧から対象を選択 → [編集])


新規作成

設定
設定 - 編集

1 設定名

2 USBデバイス

- 許可
- 禁止(ストレージへの書き込み)
 - ※マウス、キーボードなどは禁止されません。
 - ※ストレージからの読み取りは禁止されません。
 - ※端末を再起動した後に設定が反映されます。
- 禁止(ストレージのみ)
 - ※許可デバイスで指定されたUSBデバイスは許可されます。
 - ※マウス、キーボードなどは禁止されません。
 - ※スマートフォンなどは禁止されません。
- 禁止(ストレージおよびポータブルデバイス)
 - ※許可デバイスで指定されたUSBデバイスは許可されます。
 - ※ストレージ以外にスマートフォンなどのポータブルデバイスも禁止されます。
- 禁止
 - ※許可デバイスで指定されたデバイスを除きすべてのUSBデバイスの使用が禁止されます。
 - ※USB接続の充電は禁止されません。

3 SDデバイス

- 許可
- 禁止(ストレージおよびポータブルデバイス)
 - ※許可デバイスで指定されたSDデバイスは許可されます。
 - ※ストレージ以外にポータブルデバイスも禁止されます。

4 IEEE1394デバイス

- 許可
- 禁止
 - ※許可デバイスで指定されたデバイスを除きすべてのIEEE1394デバイスの使用が禁止されます。

5 許可デバイス(ハードウェアID)

ハードウェアID	
(+ボタンで追加: 300件まで)	

6 許可デバイス(インスタンスパスまたはシリアルID)

インスタンスパスまたはシリアルID	
(+ボタンで追加: 300件まで)	

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字以内で入力します。
2	USB デバイス	USB デバイスについて制限を選択します。
	許可 (※1)	USB デバイスの利用を許可します。
	禁止(ストレージへの書き込み) (※1)	USB デバイスへの書き込みを禁止します。 <input checked="" type="checkbox"/> マウス、キーボードなどは禁止されません。 <input checked="" type="checkbox"/> ストレージからの読み取りは禁止されません。
	禁止(ストレージのみ) (※1)	USB デバイスの使用を禁止します。許可デバイスで指定された USB デバイスは許可されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 許可デバイスで指定された USB デバイスは許可されます。 <input checked="" type="checkbox"/> マウス、キーボードなどは禁止されません。 <input checked="" type="checkbox"/> スマートフォンなどは禁止されません。 <input checked="" type="checkbox"/> 禁止できる外部デバイスは以下を参照してください。  「禁止できる外部デバイスのパターン一覧」 - 「USB デバイス (「禁止 (ストレージのみ)」の場合)」717 ページ
	禁止(ストレージおよびポータブルデバイス) (※1)	USB デバイスに加えて、ポータブルデバイス (※2) を禁止します。ポータブル デバイス (※2) として PC に認識されている USB 機器の使用を禁止できます。 <input checked="" type="checkbox"/> 許可デバイスで指定された USB デバイスは許可されます。 <input checked="" type="checkbox"/> ストレージ以外にスマートフォンなどのポータブルデバイスも禁止されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 禁止できる外部デバイスは以下を参照してください。  「禁止できる外部デバイスのパターン一覧」 - 「USB デバイス (「禁止 (ストレージおよびポータブルデバイス)」の場合)」 717 ページ
禁止	外部/内部を含むすべての USB デバイスが利用できなくなります。 <input checked="" type="checkbox"/> 許可デバイスで指定されたデバイスを除きすべての USB デバイスの使用が禁止されます。 <input checked="" type="checkbox"/> USB 接続の充電は禁止されません。	
3	SD デバイス	SD デバイスについて制限を選択します。
	許可	SD デバイスの利用を許可します。
	禁止(ストレージおよびポータブルデバイス)	SD デバイスの使用を禁止します。ただし、SD として認識されるマウスやキーボードなどへの接続は禁止されません。 <input checked="" type="checkbox"/> 許可デバイスで指定された SD デバイスは許可されます。 <input checked="" type="checkbox"/> ストレージ以外にポータブルデバイスも禁止されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 禁止できる外部デバイスは以下を参照してください。  「禁止できる外部デバイスのパターン一覧」 - 「SD デバイス」 717 ページ
4	IEEE1394 デバイス	IEEE1394 デバイスについて制限を選択します。
	許可	IEEE1394 デバイスの利用を許可します。
	禁止	<input checked="" type="checkbox"/> 許可デバイスで指定されたデバイスを除きすべての IEEE1394 デバイスの使用が禁止されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 禁止できる外部デバイスは以下を参照してください。  「禁止できる外部デバイスのパターン一覧」 - 「IEEE1394 デバイス」 717 ページ

項番	項目	説明
5	許可デバイス(ハードウェア ID)	 をクリックして、許可する外部デバイスのハードウェア ID を半角英数字と記号で登録します。最大 300 件登録できます。  「許可デバイスを調べる」 712 ページ  表示されたハードウェア ID の値の変更はできません
6	許可デバイス(インスタンスパスまたはシリアル ID)	 をクリックして、許可する外部デバイスの「インスタンスパス」または「シリアル ID」を半角英数字と記号で登録します。最大 300 件登録できます。  「許可デバイスを調べる」 712 ページ  表示されているインスタンスパスまたはシリアル ID の値の変更はできません。

※1：詳細については、「選択肢の詳細」を参照してください。

※2：ポータブルデバイスは携帯電話、スマートフォン、デジタル カメラ、ポータブルメディアプレイヤーなどの多くの携帯機器で利用される接続機器です。

◆ 選択肢の詳細

項目	ストレージ		ポータブルデバイス (※1)	マウス・ キーボードの操作	USB 充電
	読込	書込			
許可	○	○	○	○	○
禁止(ストレージへの書き込み)	○	×	○	○	○
禁止(ストレージのみ)	×	×	○	○	○
禁止(ストレージおよびポータブルデバイス)	×	×	×	○	○
禁止	×	×	×	×	○

○：デバイスを使用できる（禁止されない）

×：デバイスを使用できない（禁止される）

※1：ポータブルデバイスは携帯電話、スマートフォン、デジタル カメラ、ポータブルメディアプレイヤーなどの多くの携帯機器で利用される接続機器です。

◆許可デバイスを調べる

許可デバイスを調べるためにプロパティ画面を表示します。

プロパティ画面を表示後は、以下の確認を行ってください。

- 🔑 「ハードウェア ID を確認する」 714 ページ
- 🔑 「インスタンスパスまたはシリアル ID を確認する」 715 ページ
- 🔑 「禁止できる外部デバイスを確認する」 716 ページ
- 🔑 「禁止できる外部デバイスのパターン一覧」 717 ページ
- 🔑 「取り外し可能なデバイスの確認方法」 718 ページ

Windows 10 での操作を例に説明します。詳細については、OS の開発元へお問い合わせください。

📄 手順【1】から【4】までは、同じ手順です。

【1】  → 「Windows システムツール」 → 「コントロールパネル」 をクリックします。

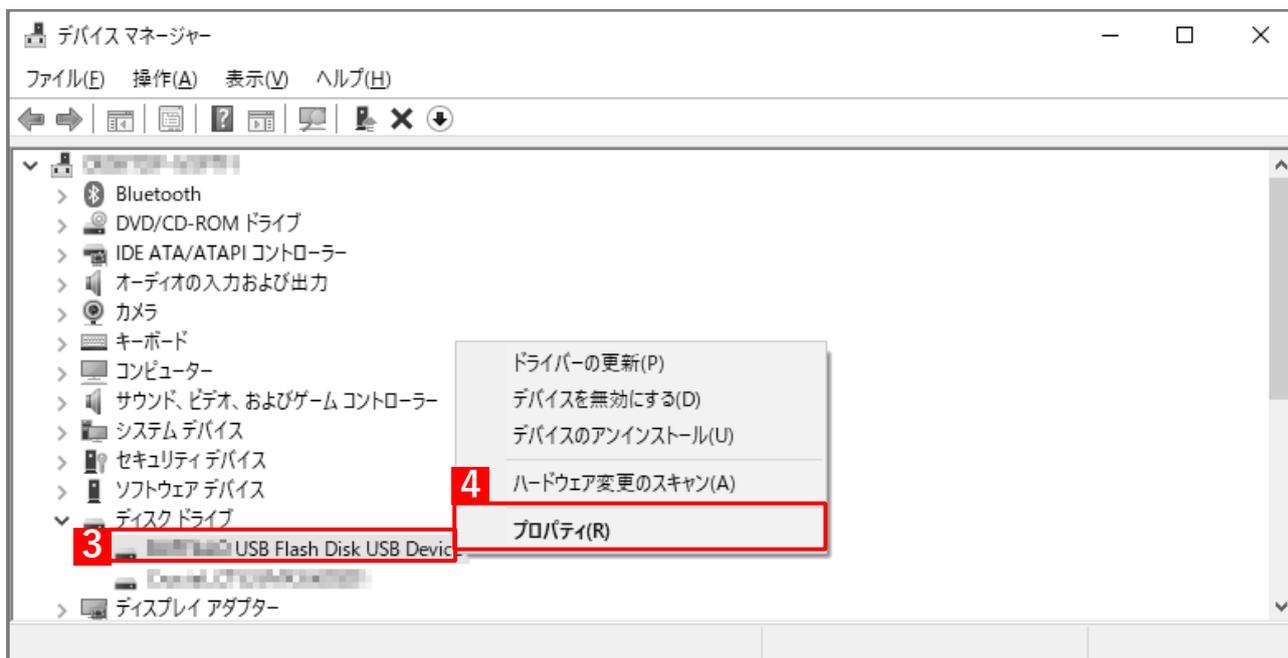


[2] 「ハードウェアとサウンド」 → 「デバイス マネージャー」 をクリックします。



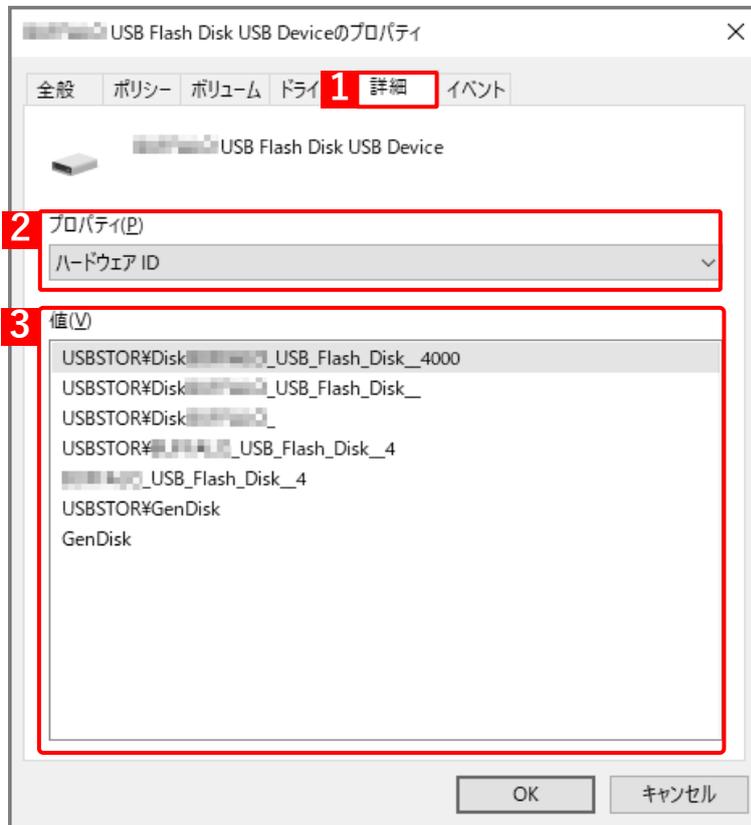
[3] デバイス一覧から該当機器を選択します。

[4] 選択した機器の上で右クリック → 「プロパティ(R)」 をクリックします。



◆ハードウェア ID を確認する

- 【1】 [詳細] タブをクリックします。
- 【2】 「プロパティ」 のリストメニューから「ハードウェア ID」 を選択します。
⇒ 「値」 にハードウェア ID の一覧が表示されます。
- 【3】 「値」 に表示されたハードウェア ID を1つ設定します。
⇒ ハードウェア ID が有効に機能します。
 ハードウェア ID は、設定したすべてのデバイスで有効になります。



◆ インスタンスパスまたはシリアル ID を確認する

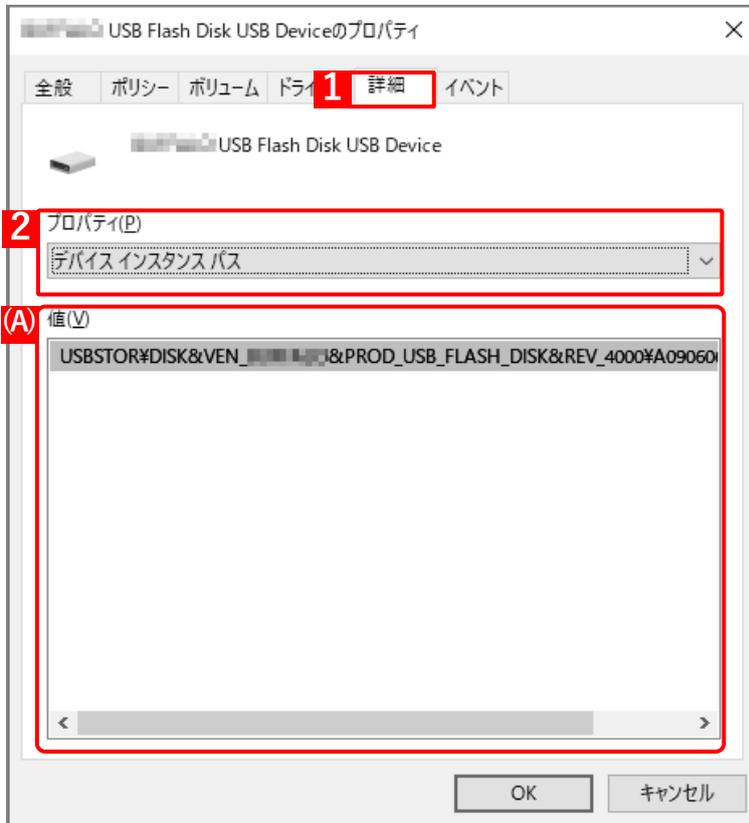
【1】 [詳細] タブをクリックします。

【2】 「プロパティ」のリストメニューから [デバイス インスタンス パス] を選択します。

⇒ (A) 「値」にインスタンスパスが表示されます。

 インスタンスパスからシリアル ID を確認します。インスタンスパスは2つの`¥`により3分割されますが、本製品では最後の部位の識別子をシリアル ID と呼称しています。

例として、デバイスインスタンスパスが「USB¥VID_099C&PID_9998&MI_00¥7&9999C191&0&0000」の場合、「7&9999C191&0&0000」がシリアル ID となります。



◆禁止できる外部デバイスを確認する

列挙子、サービス、クラス GUID の値を確認します。外部デバイスの列挙子、サービス、クラス GUID の組み合わせが特定のパターンに該当する場合のみ、[禁止] の設定が有効になります。

パターンの詳細については、以下を参照してください。

🔗 「禁止できる外部デバイスのパターン一覧」 717 ページ

- [1]** 「許可デバイスを調べる」の操作で表示される外部デバイスのプロパティ画面で、[詳細] タブをクリックします。
- [2]** 「プロパティ」のリストメニューから [列挙子]、「サービス」または「クラス GUID」を選択します。
⇒ (A) 選択したプロパティの値が表示されます。



◆禁止できる外部デバイスのパターン一覧

- ☑ 以下のパターン一覧にない値は、本製品では非対応です。
- ☑ 取り外し可能なデバイスのみ対応しています。取り外し可能なデバイスの確認方法は、以下を参照してください。
 - 🔗 「取り外し可能なデバイスの確認方法」 718 ページ
- ☑ 特定のデバイスを許可している（ホワイトリスト）場合は、禁止されません。以下を参照してください。
 - 🔗 「機能制限／外部デバイス」 708 ページ
- 🔗 確認方法は、以下を参照してください。
 - 🔗 「禁止できる外部デバイスを確認する」 716 ページ
- 🔗 「-」は、すべての値が許容します。

●USB デバイス（「禁止（ストレージのみ）」の場合）

パターン	列挙子	サービス	クラス GUID
1	USB	USBSTOR	—
2	USB	—	{4d36e967-e325-11ce-bfc1-08002be10318}
3	USBSTOR	USBSTOR	—
4	USBSTOR	—	{4d36e967-e325-11ce-bfc1-08002be10318}

●USB デバイス（「禁止（ストレージおよびポータブルデバイス）」の場合）

パターン	列挙子	サービス	クラス GUID
1	USB	USBSTOR	—
2	USB	—	{4d36e967-e325-11ce-bfc1-08002be10318}
3	USB	—	{eec5ad98-8080-425f-922a-dabf3de3f69a}
4	USBSTOR	USBSTOR	—
5	USBSTOR	—	{4d36e967-e325-11ce-bfc1-08002be10318}
6	USBSTOR	—	{eec5ad98-8080-425f-922a-dabf3de3f69a}

●SD デバイス

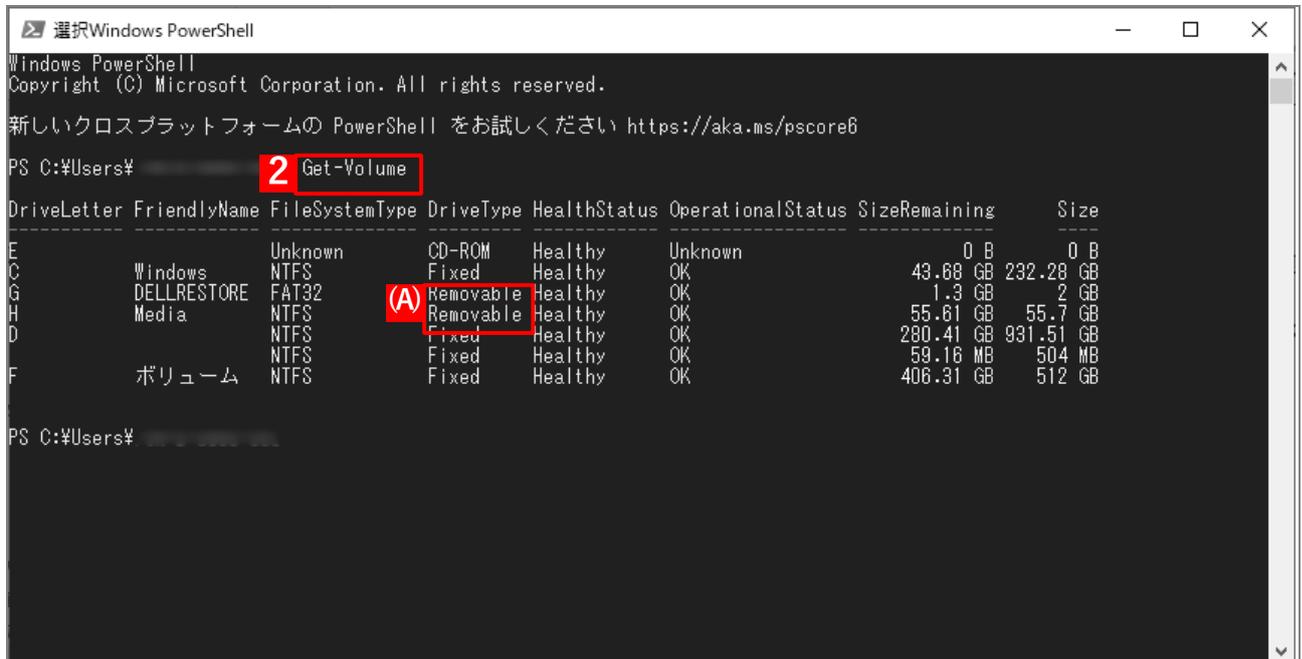
パターン	列挙子	サービス	クラス GUID
1	SD	SDSTOR	—
2	SD	—	{4d36e967-e325-11ce-bfc1-08002be10318}
3	SWD	SDSTOR	—
4	SWD	—	{eec5ad98-8080-425f-922a-dabf3de3f69a}
5	USBSTOR	USBSTOR¥SD	—

●IEEE1394 デバイス

パターン	列挙子	サービス	クラス GUID
1	IEEE1394	—	—
2	SBP2	—	—

◆取り外し可能なデバイスの確認方法

- [1]** スタートメニューから、Powershell を起動します。
- [2]** コマンド「Get-Volume」を実行します。
- [3]** DriveType が (A) Removable になっているデバイスが取り外し可能です。



```
Windows PowerShell
Copyright (C) Microsoft Corporation. All rights reserved.

新しいクロスプラットフォームの PowerShell をお試しください https://aka.ms/pscore6

PS C:\Users\> 2 Get-Volume

DriveLetter FriendlyName FileSystemType DriveType HealthStatus OperationalStatus SizeRemaining Size
-----
E           Windows      NTFS           CD-ROM    Healthy      Unknown           0 B          0 B
C           Windows      NTFS           Fixed     Healthy      OK                43.68 GB    232.28 GB
G           DELLRESTORE  FAT32          (A) Removable Healthy      OK                1.3 GB      2 GB
H           Media        NTFS           Fixed     Healthy      OK                55.61 GB    55.7 GB
D           Media        NTFS           Fixed     Healthy      OK                280.41 GB   931.51 GB
F           ボリューム  NTFS           Fixed     Healthy      OK                59.16 MB    504 MB

PS C:\Users\>
```

10.3.9 機能制限 / CD/DVD/ブルーレイ

CD、DVD、ブルーレイおよびフロッピーディスク（FD）の使用を禁止するための設定セットを作成します。利用を禁止した場合、アプリから CD、DVD、ブルーレイおよびフロッピーディスクが利用できなくなります。

✍️ アプリによっては、アプリが起動できなくなる場合もあります。

✍️ 設定セットが機器に適用されたあとに、端末を再起動すると設定が反映されます。

✍️ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

📄 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ

📄 「全機器一括設定」 248 ページ

✍️ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [セキュリティ] → [機能制限] → [CD/DVD/ブルーレイ] → 
(一覧から対象を選択 → [編集])



新規作成

設定

設定 - 編集

※端末を再起動した後に設定が反映されます。

1 設定名

2 CD/DVD/ブルーレイ

- 許可
- 書き込み禁止
- 禁止

3 FD

- 許可
- 禁止

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字以内で入力します。
2	CD/DVD/ブルーレイ	CD、DVD、ブルーレイの使用について以下から選択します。 ●許可 ●書き込み禁止 <input checked="" type="checkbox"/> 本設定では、Windows 標準機能による書き込みのみ禁止できます。サードパーティー製ライティングソフトによる書き込みも禁止する場合は、アプリケーション禁止で対象ソフトを指定してください。  「アプリケーション禁止」 721 ページ ●禁止
3	FD	フロッピーディスクの使用について以下から選択します。 ●許可 ●禁止

10.4 アプリケーション

Windows 端末のアプリに関連する設定、および設定セットを作成します。

本機能では、特定のアプリの使用禁止や、アプリの配信、MS Office ライセンス管理を行うことができます。

10.4.1 アプリケーション禁止

アプリの使用を禁止するための設定セットを作成します。

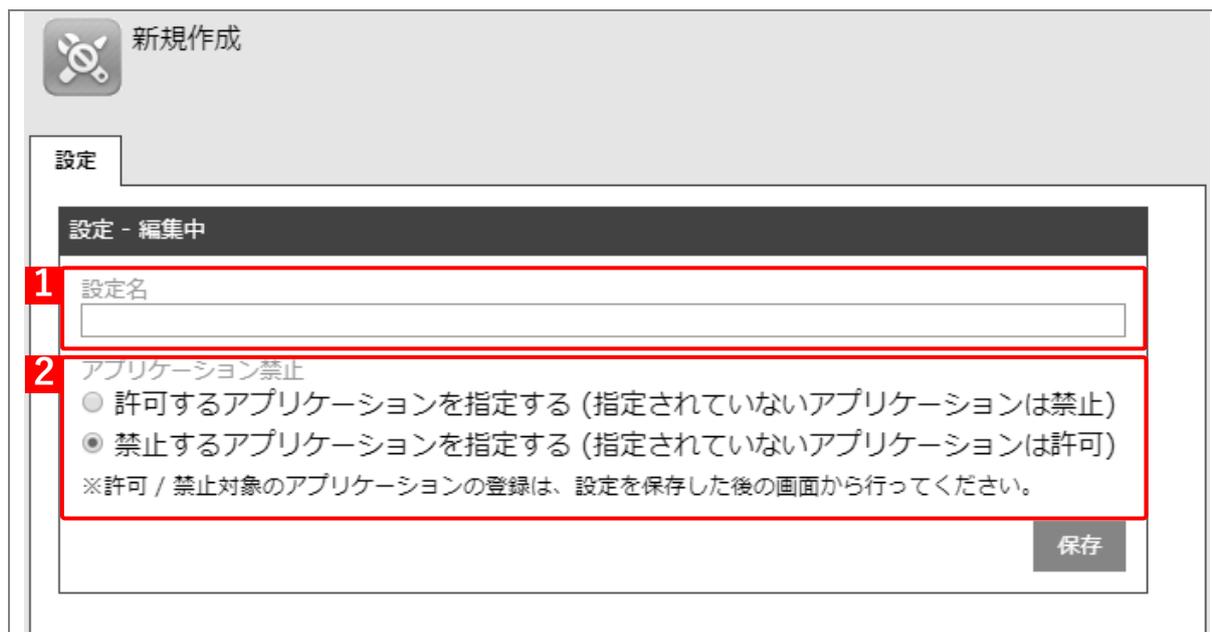
-  画面
-  画面 (編集)
-  画面 (許可するアプリケーションを指定する)
-  画面 (禁止するアプリケーションを指定する)

本画面では、以下の禁止ルールを設定することができます。

- 許可するアプリケーションを指定してルールを作成する (ホワイトリスト形式)
 - アプリのパス名を指定して、アプリの利用を許可する。
 - アプリのパッケージ名を指定して、アプリの利用を許可する。
- 禁止するアプリケーションを指定してルールを作成する (ブラックリスト形式)
 - 実行ファイル名またはパッケージファミリー名を指定して、アプリの利用を禁止する。
 - アプリのウインドウ名を指定して、アプリの利用を禁止する。
-  禁止対象のアプリは起動できません。
-  本設定で外部デバイス、CD、DVD、ブルーレイ機能を含むアプリを禁止にしなくても、機能制限で、外部デバイス、CD、DVD、ブルーレイの使用が禁止されている場合は、CD、DVD、ブルーレイ機能を含むアプリの機能が制限されます。
 -  「機能制限」 708 ページ
-  ウインドウ名指定でアプリケーション禁止が動作しない場合は、実行ファイル名指定で設定してください。
-  本機能について重要な注意事項がありますので、ご利用のときは以下の内容を必ずご覧ください。
 -  「ホワイトリスト形式の利用に関する重要な注意事項」 728 ページ
-  本製品のエージェントアプリを禁止することはできません。
-  ホワイトリスト形式の対応 OS は、Windows 11 Enterprise/Education、および Windows 10 Enterprise/Education のみです。また、ブラックリスト形式の対応 OS は、以下を参照してください。
 -  『Windows クライアント リファレンスマニュアル』の「Windows クライアントについて」 - 「エージェントの動作環境」、「エージェントの動作環境 (Windows Server)」
-  作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 -  「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ
 -  「全機器一括設定」 248 ページ
-  設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [アプリケーション] → [アプリケーション禁止] → +



項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字以内で入力します。
2	アプリケーション禁止	アプリの禁止種別を以下から選択します。 ●許可するアプリケーションを指定する(指定されていないアプリケーションは禁止) ●禁止するアプリケーションを指定する(指定されていないアプリケーションは許可) ☑1 度選択したアプリの禁止種別は変更できません。複製のときにも変更できません。

◆画面 (編集)

表示操作 [設定] → [Windows] → [アプリケーション] → [アプリケーション禁止] → 一覧から対象
を選択 → [編集]

設定

操作 ▾

設定 - 編集中

1 設定名

2 アプリケーション禁止
禁止するアプリケーションを指定する (指定されていないアプリケーションは許可)

取消 保存

対象アプリケーション

実行ファイル名またはパッケージファミリー名で禁止するアプリケーション

❗ 対象アプリケーションが存在しません。

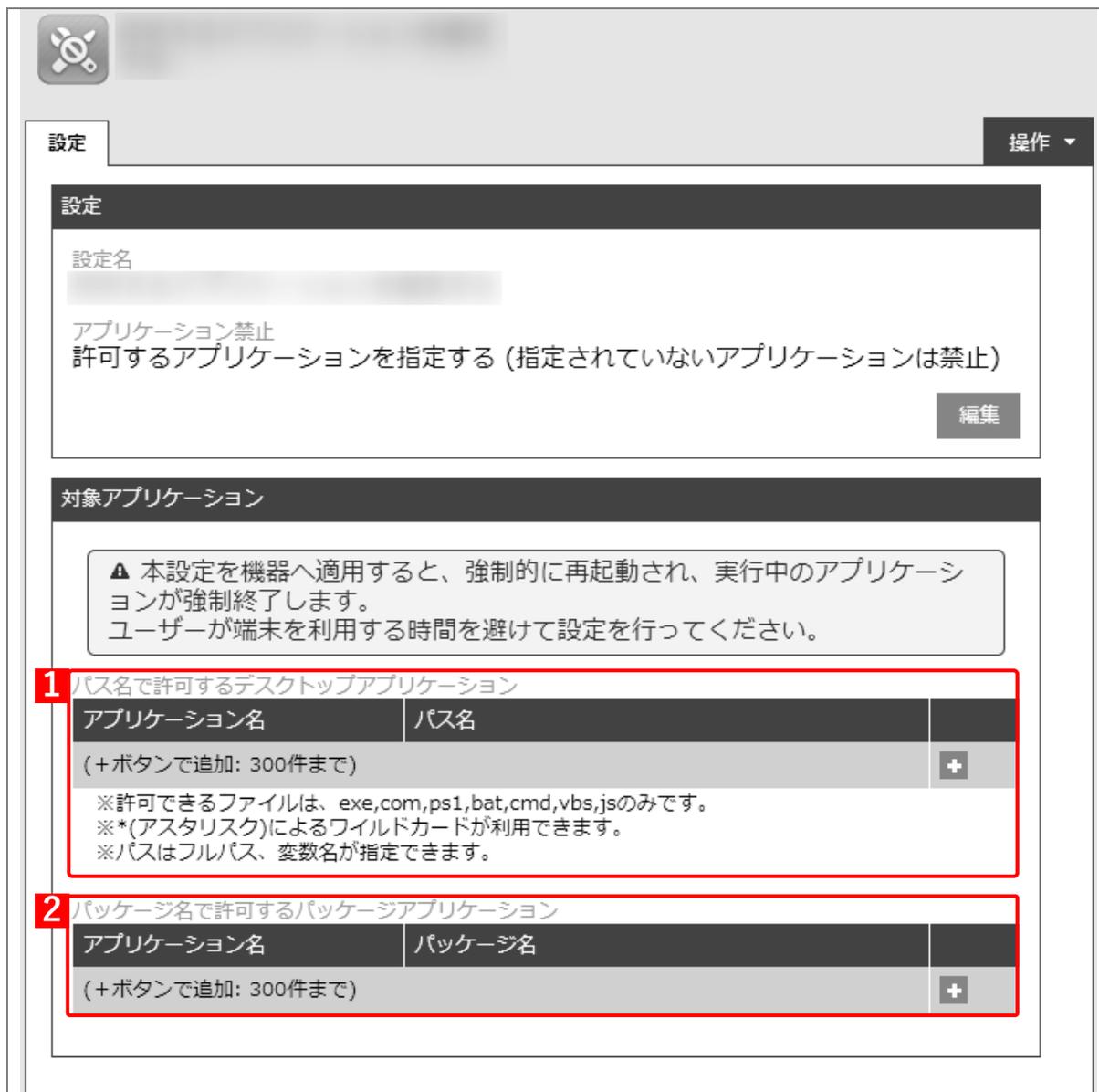
ウィンドウ名で禁止するアプリケーション

❗ 対象アプリケーションが存在しません。

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字以内で入力します。
2	アプリケーション禁止	1 度選択したアプリの禁止種別は変更できません。また、複製のときにも変更できません。変更したい場合は、新規に作成してください。 ●許可するアプリケーションを指定する (指定されていないアプリケーションは禁止) ●禁止するアプリケーションを指定する (指定されていないアプリケーションは許可)

◆画面（許可するアプリケーションを指定する）

表示操作 [設定] → [Windows] → [アプリケーション] → [アプリケーション禁止] → 一覧から対象（「許可するアプリケーションを指定する」）を選択



項番	項目	説明
1	パス名で許可するデスクトップアプリケーション	パス名で許可するアプリを指定します。 + をクリックし、300 件まで登録できます。 <input checked="" type="checkbox"/> 動作するために必要なアプリをすべて「対象アプリケーション」として指定する必要があります。
	アプリケーション名	アプリ名を 60 文字以内入力します。
	パス名	パス名を 260 文字以内で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> パスはフルパス、変数名が指定できます。利用可能な変数名は以下を参照してください。 📄 「利用可能な変数名」725 ページ <input checked="" type="checkbox"/> 指定できるファイルは exe、com、ps1、bat、cmd、vbs、js ファイルのみです。 <input checked="" type="checkbox"/> 「*」（アスタリスク）によるワイルドカードが利用できます。

項番	項目	説明
2	パッケージ名で許可するパッケージアプリケーション	<p>パッケージ名で許可するアプリを指定します。  をクリックし、300件まで登録できます。</p> <p> 動作するために必要なアプリをすべて「対象アプリケーション」として指定する必要があります。</p>
	アプリケーション名	アプリ名を 60 文字以内で入力します。
	パッケージ名	<p>パッケージ名を 3 文字から 50 文字以内で入力します。</p> <p> 半角英数字と「.」（ピリオド）、「-」（ハイフン）で入力してください。</p> <p> パッケージ名については、以下を参照してください。</p> <p> 「パッケージファミリー名およびパッケージ名の探し方」 729 ページ</p>

◆利用可能な変数名

項番	Windows のディレクトリまたはドライブ	変数名
1	Windows フォルダー	%WINDIR%
2	System32 フォルダー	%SYSTEM32%
3	Windows インストールドライブ	%OSDRIVE%
4	Program Files フォルダー (x86 も含む)	%PROGRAMFILES%
5	リムーバブルメディア (例: CD、DVD)	%REMOVABLE%
6	リムーバブル記憶装置 (例: USB フラッシュ ドライブ)	%HOT%

◆画面（禁止するアプリケーションを指定する）

表示操作 [設定] → [Windows] → [アプリケーション] → [アプリケーション禁止] → 一覧から対象（「禁止するアプリケーションを指定する」の設定）を選択

設定

設定

設定名

アプリケーション禁止
禁止するアプリケーションを指定する (指定されていないアプリケーションは許可)

編集

対象アプリケーション

1 実行ファイル名またはパッケージファミリー名で禁止するアプリケーション

アプリケーション名	実行ファイル名またはパッケージファミリー名	
(+ボタンで追加: 300件まで)		+

※禁止できる実行ファイルはexeファイルのみです。
 ※実行ファイル名には拡張子(.exe)を含めないでください。
 例)ペイント(実行ファイル名がmspaint.exe)を禁止する場合は「mspaint」と入力します。
 ※UWPアプリケーションの場合にはパッケージファミリー名で指定してください。

2 ウィンドウ名で禁止するアプリケーション

アプリケーション名	ウィンドウ名	条件	
(+ボタンで追加: 300件まで)			+

項番	項目	説明
1	実行ファイル名またはパッケージファミリー名で禁止するアプリケーション	<p>実行ファイル名で禁止対象となるアプリを指定します。 <input type="checkbox"/> をクリックし、300 件まで登録できます。</p>
	アプリケーション名	<p>アプリ名を 60 文字以内入力します。</p>
	実行ファイル名またはパッケージファミリー名	<p>実行ファイル名またはパッケージファミリー名を 255 文字以内で入力します。「¥」、「/」、「<」、「>」、「*」、「?」、「"」、「 」、「:」は入力できません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 指定できるファイルは exe ファイルのみです。拡張子は入力しないでください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> パッケージファミリー名については、以下を参照してください。  「パッケージファミリー名およびパッケージ名の探し方」 729 ページ</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 禁止できるファイルは exe ファイルのみです。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 実行ファイル名またはパッケージファミリー名に拡張子 (.exe) を含めないでください。例えば、ペイント (実行ファイル名が mspaint.exe) を禁止する場合は「mspaint」と入力します。</p>
2	ウインドウ名で禁止するアプリケーション	<p>ウインドウ名で禁止対象となるアプリを指定します。 <input type="checkbox"/> をクリックし、300 件まで登録できます。</p>
	アプリケーション名	<p>アプリ名を 60 文字以内で入力します。</p>
	ウインドウ名	<p>ウインドウ名を 255 文字以内で入力します。アプリを起動したときにタイトルバーに表示される文字列から指定してください。</p>
	条件	<p>指定するウインドウ名のマッチング条件を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● と一致する 指定したウインドウ名と完全に一致する場合に、禁止対象にします。 例えば、ウインドウ名に「abc.png - ペイント」を指定して、条件で「と一致する」を選択すると、名称が「abc.png - ペイント」のウインドウだけが禁止対象になります。 ● を含む 指定したウインドウ名が含まれているに、禁止対象にします。 例えば、ウインドウ名に「ペイント」を指定して、条件で「を含む」を選択すると、名称に「ペイント」が含まれるウインドウすべてが禁止対象になります。

◆ホワイトリスト形式の利用に関する重要な注意事項

「新規作成」画面の「アプリケーション禁止」で [許可するアプリケーションを指定する(指定されていないアプリケーションは禁止)] を選択し、ホワイトリスト形式を利用して設定を行う場合は、必ず以下の注意事項をお読みください。

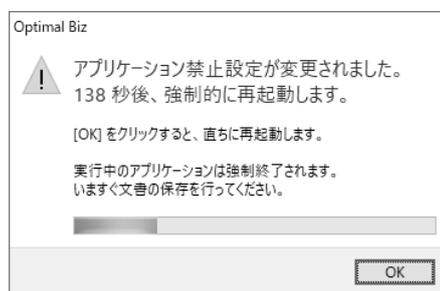
● ホワイトリストへの設定を切り替えるとき、必ず再起動が必要です。

- ・設定なし→ホワイトリスト設定あり
- ・ホワイトリスト設定あり (例：設定 A) →ホワイトリスト設定あり (例：設定 B)
- ・ホワイトリスト設定あり→設定なし

☑ 以下のケースでは、再起動は求められません。

- ・ホワイトリスト設定あり (例：設定 A) →ホワイトリスト設定あり (例：設定 A)

☑ 設定切替のタイミングで以下の通知メッセージが表示され、3 分後に強制的に再起動が行われ、実行中のアプリは強制終了します。再起動はキャンセルできませんので、通知メッセージが表示されましたら必要な作業およびファイルについては必ず保存を行うように、事前に利用者へのご連絡をお願いいたします。



☑ 通知メッセージの表示中にアプリを強制終了させるなどして、意図的に再起動の回避を試みた場合は、即時強制的に再起動が行われることがあります。

● 企業であれば就業時間中に、学校であれば授業時間中に、再起動の設定内容の変更、割り当てる設定セットの変更 (Zone Management による自動切替含む) を行いますと、強制的に再起動されます。

☑ 就業時間外や授業時間外に設定変更や同期を行ってください。

● 端末が最低限動作するために必要な Windows システムアプリ (Microsoft の証明書が付与されたアプリ) や、本製品が動作するために必要な本製品のエージェントなどは、管理者がホワイトリストに設定せずとも、許可されている状態になっています。それ以外のウイルス対策ソフト (Windows Defender 含む) など必要なアプリは、管理者が設定してください。

● ホワイトリスト形式のアプリケーション禁止のご利用時は、テスト機 1 台にまずは設定を割り当て、端末利用者の運用に沿った動作確認を行い問題ないことを確認してから、対象端末全台への割り当てを行ってください。

● ホワイトリスト形式のアプリケーション禁止では、Windows OS に搭載されている App Locker 機能を使用しています。ホワイトリスト形式の設定を端末に適用した時点で、管理者が本製品を使用しないで設定した AppLocker 設定は、削除されます。元に戻すことはできません。

● 管理サイトの「アプリケーション禁止ログ」の表示では設定が正しく行われたことになっていても、ドメイン側で異なるアプリケーション禁止設定が反映されている場合は、以下の問題が発生する可能性があります。

- ・利用を許可しているアプリが利用できない。

☑ 上記の問題が発生した場合は、ドメイン側の設定を確認してください。

パッケージファミリー名およびパッケージ名の探しかた

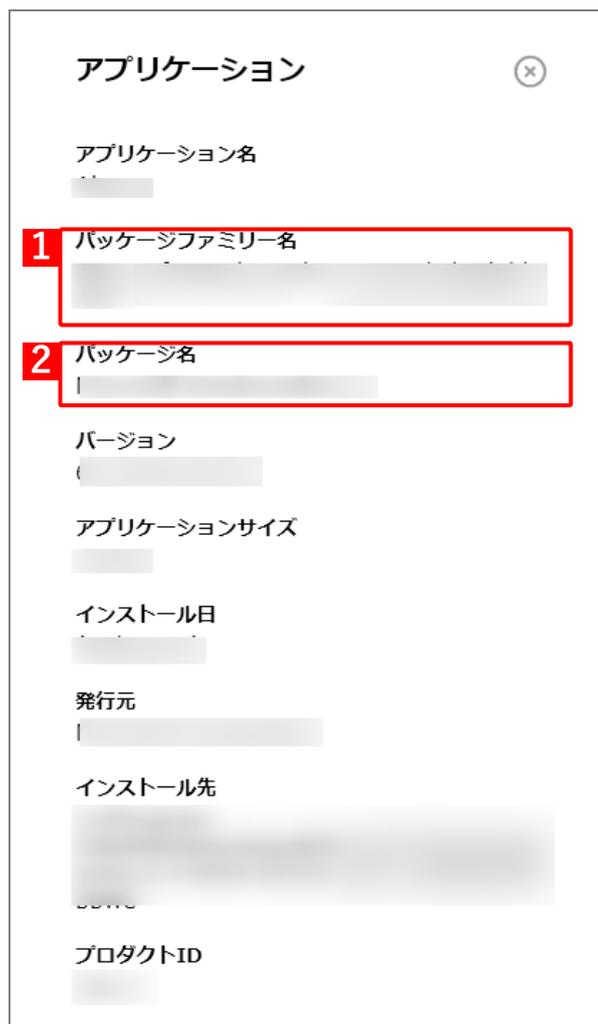
パッケージファミリー名、およびパッケージ名は、Windows 端末にすでに登録されているアプリ一覧で確認できます。

📌 端末の詳細画面のアプリ一覧の詳細については、以下を参照してください。

🔗 「(情報 - Windows) アプリケーション」 225 ページ

◆画面

表示操作 [機器] → [一覧] → Windows 端末の「詳細」の ⓘ → 詳細画面の「情報」の [アプリケーション] → 一覧から対象のアプリの ⓘ



項番	項目	説明
1	パッケージファミリー名	設定に必要なとなるパッケージファミリー名が表示されています。
2	パッケージ名	設定に必要なとなるパッケージ名が表示されています。

10.4.2 アプリケーション配信

指定したアプリを自動配布するための設定セットを作成します。

配信対象のファイルは、サイレントインストールオプションに対応している以下のファイルです。

- MSI ファイル
- exe ファイル
- bat ファイル
- com ファイル
- cmd ファイル

 MSI ファイル以外は、「起動オプション」でサイレントインストールオプションを明示的に指定する必要があります。

 サイレントインストールオプションに未対応のアプリは、本機能で利用できません。

 サイレントインストールオプションの対応可否については、アプリの提供元にお問い合わせください。

 アプリを削除する機能はありません。

 アプリケーション禁止については、以下を参照してください。

 「アプリケーション禁止」 721 ページ

 アプリケーション配信のリトライ回数は 10 回です。ただし、以下の操作を行った場合は、回数がリセットされます。

- ・リトライ中に管理サイトと Windows 端末の同期を行った場合
- ・パソコンを再起動した場合

 リトライ回数が上限（10 回）に達すると、同一の設定セットは再配信されません。ただし、異なる設定セットを再度割り当てた場合は、配信結果に関わらず再配信されます。

 以下の場合は配信完了と判断されます。

- ・アプリケーション配信に成功した場合
- ・アプリケーション配信に失敗して、リトライ回数が上限（10 回）に達した場合

 同じ URL、同じ起動オプションで再配信したい場合は、設定セットを作成し直して Windows 端末に割り当ててください。

 CD や USB などの媒体で提供されているアプリは、本機能が使用できない場合があります。

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [アプリケーション] → [アプリケーション配信] → **+** (一覧から対象を選択 → [編集])

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	アプリケーション一覧	<p>端末へ配信するアプリを登録します。1 つの設定セットにつき、50 件まで登録できます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> + をクリックすると、入力欄が追加されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> X をクリックすると、入力欄が削除されます。</p>
	URL	<p>アプリの公開先 URL 情報を 200 文字以内の半角英数字、記号で入力します。先頭は、「http://」または「https://」を入力します。</p>
	起動オプション	<p>アプリケーション配信後、インストールするときの任意のコマンドオプション（引数）を 200 文字以内で入力します。特殊文字は入力できません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> MSI ファイル以外は、サイレントインストールオプションの指定が必須です。通常のアプリケーション配信のときは、入力しません。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 起動オプションは上級者向けの機能となっております。十分機能を理解した上でご利用ください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 使用できるコマンドオプションは対象のファイルによって異なります。詳細については、アプリの提供元へお問い合わせください。</p>

10.4.3 MS Office ライセンス管理

MS Office ライセンスを集計して一覧表示することができます。

保有数や使用数の確認のほか、ライセンスの移行や項目の並び換えなどの編集を行うことができます。

また、集計された管理ライセンスの一覧を CSV ファイルとしてダウンロードすることもできます。

 ソフトウェアのダウングレードなどでライセンスの調整を行い、実際のライセンス数と管理サイトで管理しているライセンス数が異なる場合は、ライセンス数を調整することができます。

 「ライセンスの移行」 733 ページ

◆画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [アプリケーション] → [MS Office ライセンス管理] → [集計]

項番	項目	説明
1	[CSV ダウンロード]	クリックするとライセンス管理情報を CSV ファイルに出力されます。任意の場所に CSV ファイルを保存してください。  件数によってはダウンロードに時間がかかる場合があります。
2	[集計]	クリックするとライセンスを集計します。
3	移行元 ID : 移行先 ID : 移行するライセンス数 : [実行]	移行元のアプリケーション ID を「移行元 ID :」の入力欄に、移行先のアプリケーション ID を「移行先 ID :」の入力欄に、移行するライセンス数を「移行するライセンス数 :」に入力し、[実行] をクリックするとライセンスを移行します。
4	ID	アプリ固有の ID が表示されます。
5	アプリケーション名	保有するライセンスのアプリ名が表示されます。
6	ライセンス形態	ライセンスの形態が表示されます。
7	保有数	保有するライセンスの数を表示します。使用数をクリックすると該当する製品名でフィルターされたアプリケーションレポート画面が表示されます。
8	使用数	保有するライセンスのうち、機器に使用されているライセンス数が表示されます。  ライセンス数のリンクをクリックすると、アプリケーションレポートの画面に遷移できます。  「アプリケーションレポート」 293 ページ
9	残数	保有するライセンスから使用数を差し引いたライセンスの残数が表示されます。
10	未認証数	未認証の機器数を表示します。未認証機器の数は赤色で表示されます。

項番	項目	説明
11	移行元 ID	ライセンスの移行が行われた場合、ライセンスの移行元 ID が表示されます。
12	調整数	ライセンスの移行が行われた場合の調整数(例:「-5」「15」)を表示します。
13	過不足数	「残数」に表示されたライセンスから調整数を差し引いた数が表示されます。
14		クリックすると、「保有数」の数字を編集できます。

ライセンスの移行

ソフトウェアのダウングレードなどでライセンスの調整を行うと、実際のライセンス数と管理サイトで管理している本画面のライセンス数が異なる場合があります。そのようなときに、ライセンス数を移行して調整することができます。

 MS Office のライセンス数は、「アプリケーション」画面に表示される情報から自動的に集計されます。

 「(情報 - Windows) アプリケーション」 225 ページ

表示操作 [設定] → [Windows] → [アプリケーション] → [MS Office ライセンス管理]

CSVダウンロード
集計

MS Officeライセンス管理

1

2

3

移行元ID:
 移行先ID:
 移行するライセンス数:

ID	アプリケーション名	ライセンス形態	保有数	使用数	残数	未認証数	移行元ID	調整数	過不足数	
1	Microsoft Office Standard 2007	製品版または OEM 版	100	110 	-10	0	3	10	0	
2										
3	Microsoft Office Standard 2010	製品版または OEM 版	100	90 	10	0	(なし)	-10	0	

項番	項目	説明
1	移行元 ID	移行元のアプリケーション ID を入力します。
2	移行先 ID	移行先のアプリケーション ID を入力します。
3	移行するライセンス数	移行するライセンス数を入力し、[実行] をクリックします。

◆実際のライセンス調整の例

MS Office 2007 のライセンスを 100 本持っていて 10 本不足しています。

MS Office 2010 のライセンスを 100 本持っていて 10 本余計に保有しています。

この状況を解消するために、過剰に保有している 2010 のライセンスを用いて 2007 をアクティベートしました。その結果、MS Office 2007 の保有数は「100」、使用数は「110」としてカウントされます。「残数」は「保有数」から「使用数」を差し引いた数値となるので、「-10」としてカウントされます。このままの状態ですと帳簿として不正に見えてしまうので、実際のライセンス調整オペレーションを「MS Office ライセンス管理」ページに反映できるように、MS Office 2010 から 2007 に 10 ライセンス移動します。

CSVダウンロード
集計

MS Officeライセンス管理

実行

ID	アプリケーション名	ライセンス形態	保有数	使用数	残数	未認証数	移行元ID	調整数	過不足数	
1	Microsoft Office Standard 2007	製品版または OEM 版	100	110	-10	0	(なし)	-	-	
2										
3	Microsoft Office Standard 2010	製品版または OEM 版	100	90	10	0	(なし)	-	-	

この調整を「MS Office ライセンス管理」に反映するため、「移行元 ID: [] から移動先 ID: [] へライセンス数 [] 個を移行」フィールドを使用して調節を行います。

MS Office 2007 の ID が「1」、MS Office 2010 の ID が「3」だと仮定します。この例では編集フィールドに「ID 3 から ID 1 へライセンス 10 個を移行」と入力して [実行] ボタンをクリックします。正しく調整が完了すると、「残数」から「調整数」が差し引かれ、「過不足数」が「0」となります。

CSVダウンロード
集計

MS Officeライセンス管理

実行

ID	アプリケーション名	ライセンス形態	保有数	使用数	残数	未認証数	移行元ID	調整数	過不足数	
1	Microsoft Office Standard 2007	製品版または OEM 版	100	110	-10	0	3	10	0	
2										
3	Microsoft Office Standard 2010	製品版または OEM 版	100	90	10	0	(なし)	-10	0	

調整の導入により、ライセンスの状態は以下の 2 つに分類されます。

項番	項目	説明
1	調整なし	調整数が未入力。
2	調整済み	調整数が入力されており、過不足数が「0」。

ライセンス一覧の並び替え

MS Office ライセンス一覧表の表頭項目を入れ替えることができます。

表示操作 [設定] → [Windows] → [アプリケーション] → [MS Office ライセンス管理]

CSVダウンロード
集計

MS Officeライセンス管理

実行

1	アプリケーション名	ライセンス形態	保有数	使用数	残数	未認証数	移行元ID	調整数	過不足数	
1	Microsoft Office Standard 2007	製品版または OEM 版	100	110	-10	0	(なし)	-	-	
2										
3	Microsoft Office Standard 2010	製品版または OEM 版	100	90	10	0	(なし)	-	-	

項番	項目	説明
1	項目の見出し	クリックすると、各項目内容でソートできます。 「保有数」と「移行元 ID」は並び替えできません。

10.5 インターネット

インターネットに関連する設定を行います。

Wi-Fi の設定、Wi-Fi フィルタリング、プロキシ設定、端末のブラウザへのお気に入り追加を設定することができます。

10.5.1 Wi-Fi

オプション

Wi-Fi の接続先ネットワークの設定を、管理サイトから制御するための設定セットを作成します。

- ☑ 端末を機内モードに設定していると、本機能は端末に反映されません。
- ☑ 誤ってプロファイルを削除してしまった場合は、以下のいずれかの対応を行ってください。Wi-Fi の設定があらためて配信されます。
 - 本製品のエージェントを停止し、再度起動してから同期する
 - OS の再起動を行ったあとに同期する
 - 管理サイトから前回と異なる設定セット、または [設定なし] を適用し同期し、あらためて元の設定セットを適用して同期する
- ✍ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 - 🔗 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ
 - 🔗 「全機器一括設定」 248 ページ
- ✍ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [インターネット] → [Wi-Fi] → **+** (一覧から対象を選択 → [編集])

新規作成

設定

設定 - 編集中

1 設定名

2 ネットワーク一覧

SSID	セキュリティ	パスワード / 詳細設定	Hidden
	なし		<input type="checkbox"/> Hidden

(+ボタンで追加: 5件まで)

保存

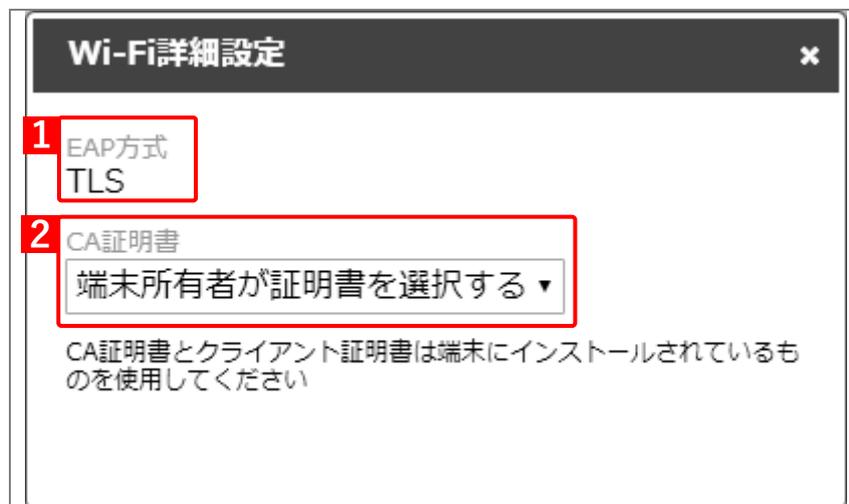
項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字以内で入力します。
2	ネットワーク一覧	<p>端末へ設定する Wi-Fi 情報の設定を行います。</p> <p> 1 設定に 5 件まで登録できます。</p>
	SSID	端末へ配布する Wi-Fi 設定の SSID の名称を 32 文字以内の半角英数記号で入力します。
	セキュリティ	<p>端末へ配布する Wi-Fi 設定のセキュリティ方式を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●なし ●WPA/WPA2-PSK ●802.1x EAP
	パスワード / 詳細設定	<p>端末へ配布する Wi-Fi 設定のセキュリティパスワードを登録します。セキュリティの設定によって入力文字数が変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「なし」の場合 パスワードは設定しません。 ●「WPA/WPA2-PSK」の場合 文字の種類によって、以下のように入力文字数が異なります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ASCII 文字のときは、8 文字以上 63 文字以下で入力します。 ・16 進数のときは、64 文字で入力します。 ●「802.1x EAP」の場合 [Wi-Fi 詳細設定] をクリックして、Wi-Fi 詳細設定画面で詳細を設定します。  「Wi-Fi 詳細設定画面」738 ページ
	Hidden	Hidden SSID の場合に、チェックを入れます。

Wi-Fi 詳細設定画面（セキュリティが「802.1x EAP」の場合）

「ネットワーク一覧」の「セキュリティ」で [802.1x EAP] を選択した場合に、「パスワード／詳細設定」設定に表示される [Wi-Fi 詳細設定] をクリックすると表示されます。

EAP 方式での設定の場合は、アクセスポイント切り替えに伴う OS の挙動により、アクセスポイントの設定時に瞬断（端末により瞬断ではない時間）が発生します。

◆画面



項番	項目	説明
1	EAP 方式	「TLS」と表示されます。 <input checked="" type="checkbox"/> 変更はできません。
2	CA 証明書	ご自身で CA 証明書を端末にインストールする場合は、「端末所有者が証明書を選択する」を選択します。 <input checked="" type="checkbox"/> 本製品に事前に登録している CA 証明書を使用する場合は、プルダウンに表示されますので、該当の CA 証明書を選択します。CA 証明書のアップロードについては、以下を参照してください。 🔗 「CA 証明書管理」 754 ページ <input checked="" type="checkbox"/> CA 証明書をあとから配信する場合は、同期に失敗して CA 証明書の配信ができない可能性があります。 <input checked="" type="checkbox"/> CA 証明書だけでなくクライアント証明書も端末にインストールされている必要がございます。ご自身でインストールするか、もしくは本製品のクライアント証明書管理機能をご利用ください。 🔗 「クライアント証明書管理」 747 ページ

10.5.2 Wi-Fi フィルタリング

オプション

特定の無線 LAN アクセスポイントのみに端末の接続を許可する設定セットを作成します。他の SSID、または MAC アドレス以外への Wi-Fi 接続はできなくなります。

- ☑ 誤った設定を行うと Wi-Fi モデルでは一切ネットワークに接続できなくなりますのでご注意ください。
- ☑ 本製品を解約されても、端末に行った設定はそのまま保持されるのでご注意ください。解約のときは事前に各種設定セットに [設定なし] を適用してください。
- ☑ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 - 📄 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ
 - 📄 「全機器一括設定」 248 ページ
- ☑ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [インターネット] → [Wi-Fi フィルタリング] → **+** (一覧から対象を選択 → [編集])


新規作成

設定

設定 - 編集中

1

設定名

2

許可するネットワーク

SSID	MACアドレス	
		✕

(+ボタンで追加: 300件まで)

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字以内で入力します。
2	許可するネットワーク	<p>端末に接続を許可するネットワークの情報を登録します。  をクリックして、最大 300 件まで登録できます。</p> <ul style="list-style-type: none">●SSID 端末で接続を許可する Wi-Fi の SSID を 32 文字以内の半角英数字、記号（「-」、「_」、「@」）で入力します。<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> ホワイトリストにない SSID は切断されます。切断した SSID は自動的に接続されないのので、手動で接続してください。●MAC アドレス 必要に応じてアクセスポイントの MAC アドレスを入力します。「XX:XX:XX:XX:XX:XX」（X は大文字の 16 進数）という形式で入力してください。<ul style="list-style-type: none"><input checked="" type="checkbox"/> MAC アドレスは、アクセスポイントの BSSID を意味します。<input checked="" type="checkbox"/> 同一の SSID に複数の MAC アドレスを指定できます。

10.5.3 プロキシ

インターネット接続に利用するプロキシサーバーの設定を行うための設定セットを作成します。

作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

📁 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ

📁 「全機器一括設定」 248 ページ

✍️ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [インターネット] → [プロキシ] → **+** (一覧から対象を選択 → [編集])

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 自動構成

設定を自動的に検出する

自動構成スクリプトを使用する

3 自動構成スクリプトのアドレス

4 プロキシ設定の利用

利用する 利用しない

5 プロキシサーバー設定

	種別	プロキシサーバーアドレス	ポート
<input type="checkbox"/>	HTTP	<input style="width: 90%;" type="text"/>	<input style="width: 90%;" type="text"/>
<input type="checkbox"/>	Secure	<input style="width: 90%;" type="text"/>	<input style="width: 90%;" type="text"/>
<input type="checkbox"/>	FTP	<input style="width: 90%;" type="text"/>	<input style="width: 90%;" type="text"/>
<input type="checkbox"/>	Socks	<input style="width: 90%;" type="text"/>	<input style="width: 90%;" type="text"/>
<input type="checkbox"/> 全てのプロトコルに同じプロキシサーバーを使用する			

6 例外設定

アドレス	
<input style="width: 95%;" type="text"/>	<input style="width: 5%;" type="text"/>

(+ボタンで追加: 10件まで)

※設定を誤った場合通信不能となり、制御できなくなってしまうため十分ご確認ください。

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字以内で入力します。
2	自動構成	<p>プロキシサーバーの自動構成を利用する場合に、利用方法に応じてチェックを入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●設定を自動的に検出する 利用するプロキシ設定を自動的に検出します。 ●自動構成スクリプトを利用する 自動構成スクリプトを利用してプロキシ設定を行います。
3	自動構成スクリプトのアドレス	「自動構成」で「自動構成スクリプトを利用する」にチェックを入れた場合は、自動構成ファイル（PAC ファイル）の URL を入力します。
4	プロキシ設定の利用	<p>プロキシ設定の利用を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●利用する プロキシを利用し、接続先のプロキシサーバーを指定します。 選択すると、「プロキシサーバー設定」と「例外設定」が設定できます。 ●利用しない プロキシを利用しません。
5	プロキシサーバー設定	<p>プロキシサーバーの以下の項目について設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●種別 プロトコル種別ごとにプロキシサーバーを指定します。 HTTP、Secure、FTP、Socks プロトコルでの指定ができます。各種別のチェックボックスにチェックを入れると「プロキシサーバーアドレス」と「ポート」が入力できるようになります。 ●プロキシサーバーアドレス プロキシサーバーのアドレスを 200 文字以内の半角英数字、記号で入力します。先頭は、「http://」または「https://」を入力します。  誤ったプロキシ設定を行った場合は、インターネット接続や自動での Windows Update が接続不可となる可能性があります。 ●ポート 各プロトコルで利用するポート番号を 0 から 65,535 の半角数字で入力します。 ●全てのプロトコルに同じプロキシサーバーを使用する チェックを入れると、すべてのプロトコル種別に「HTTP」に指定した「プロキシサーバーアドレス」と「ポート」と同じ設定が適用されます。
6	例外設定	例外として許可するプロキシサーバーアドレスを指定します。  をクリックして、最大 10 件まで登録できます。

10.5.4 お気に入り

端末のブラウザに、お気に入りの追加やホームページ設定（Windows 端末にのみ適用）を行うための設定セットを作成します。作成した設定セットは、Android、iOS、Windows で共有することができます。

- 🔍 本機能は、Internet Explorer 11 のみ有効です。
- 🔍 Windows 10、Windows 11 の Internet Explorer 11 は、サポートを終了しました。
- 🔍 本機能を Windows で使用する場合、オプションの申し込みは必要ありません。
- 📄 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 - 📄 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ
 - 📄 「全機器一括設定」 248 ページ
- ✍️ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [インターネット] → [お気に入り] → **+** (一覧から対象を選択 → [編集])


新規作成

設定

設定 - 編集中

1
設定名

2
お気に入り

タイトル	URL	
<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	<input style="width: 95%; height: 20px;" type="text"/>	✕

(+ボタンで追加: 300件まで)

+

3
ホームページ

※ホームページの設定はWindowsのみ適用されます。

※お気に入り設定はWindows 11以降には対応していません。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字以内で入力します。
2	お気に入り	お気に入りとして、以下の項目を入力します。  をクリックして、最大 300 件まで登録できます。 ●タイトル お気に入りのタイトル名を 100 文字以内の半角英数字と記号 (「-」、「_」、「@」) で入力します。 ●URL URL 情報を 200 文字以内の半角英数字、記号で入力します。先頭は、「http://」または「https://」を入力します。  「お気に入り」の設定は行わず、「ホームページ」の設定のみ行う設定セットを作成する場合は、お気に入りの入力欄は  をクリックして削除したあとに、「保存」をクリックしてください。
3	ホームページ	ブラウザのホームページに設定するサイトの URL を 200 文字以内の半角英数字、記号で入力します。先頭は、「http://」または「https://」を入力します。  ホームページの設定は Windows 端末にだけ有効です。

10.6 便利機能

パフォーマンスを最適化するために、システムの設定や診断を行います。

10.6.1 パフォーマンス最適化／システム設定・診断

Windows のシステムに設定および診断を行うための設定セットを作成します。

問題がある場合は、ログに出力します。ログの確認は、以下を参照してください。

📄 「ログ」 784 ページ

✎ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

📄 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ

📄 「全機器一括設定」 248 ページ

✎ 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆ 画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [便利機能] → [パフォーマンス最適化] → [システム設定・診断]
→ + (一覧から対象を選択 → [編集])

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 システム設定・診断

項目	設定	診断
ドライブ空き容量診断	-	<input type="checkbox"/> 診断
デフラグを自動実行する	<input type="checkbox"/> 設定	-
システムドライブの復元を有効化する	<input type="checkbox"/> 設定	-
CPU温度診断	-	<input type="checkbox"/> 診断
ハードディスク異常診断	-	<input type="checkbox"/> 診断
Internet Explorerの新しいバージョンを自動的にインストールしない(*1)	<input type="checkbox"/> 設定	-

*1 Windows 8以降は非対応。
*システムによりグループポリシーが設定されている場合、グループポリシーが優先されるため、設定が正しく行われない場合があります。
*グループポリシーについては、御社のシステム管理者にご相談ください。

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字以内で入力します。
2	システム設定・診断	<p>項目ごとに「設定」または「診断」にチェックを入れて、必要なシステム設定や診断を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ドライブ空き容量診断 「診断」にチェックを入れるとドライブ空き容量の状態を診断します。チェックを外すと何も行いません。 <input checked="" type="checkbox"/> 診断結果でシステムドライブの空き容量が以下の場合は、機器ログが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・ Windows XP 以前: 200MB 未満 ・ Windows Vista 以降: 950MB 未満 ● デフラグを自動実行する 「設定」にチェックを入れるとデフラグの自動実行を有効にします。すでに有効な場合は何も行いません。チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。 <input checked="" type="checkbox"/> Windows のグループポリシーが設定済みの場合は何も行いません。 ● システムドライブの復元を有効化する 「設定」にチェックを入れるとシステムドライブの復元を有効にします。すでに有効な場合は何も行いません。チェックを外すと設定セット適用前の状態に設定を復元します。 <input checked="" type="checkbox"/> Windows のグループポリシーが設定済みの場合は何も行いません。 ● CPU 温度診断 「診断」にチェックを入れると CPU 温度を診断します。チェックを外すと何も行いません。 ● ハードディスク異常診断 「診断」にチェックを入れるとハードディスク異常を診断します。チェックを外すと何も行いません。 ● Internet Explorer の新しいバージョンを自動的にインストールしない 「設定」にチェックを入れると Internet Explorer の新しいバージョンの自動インストールが無効になります。チェックを外すと何も行いません。 <input checked="" type="checkbox"/> Windows Server および Windows 8 以上の OS は、Internet Explorer の自動更新抑止に対応していません。

10.7 証明書管理

クライアント証明書の管理や一括アップロード、一括削除のほか、CA 証明書の管理を行います。

10.7.1 クライアント証明書管理

クライアント証明書を管理サイトに 1 ファイルずつアップロードして保存し、端末に配信するための設定セットを作成します。

本機能で作成したクライアント証明書の設定セットは、Android 端末、iOS 端末、Windows 端末で共有することができます。

 [画面 \(新規作成\)](#)

 [画面 \(管理\)](#)

 [画面 \(編集\)](#)

 事前にクライアント証明書を取得してください。

 本機能はクライアント証明書の配信までを行います。端末内に保存されるクライアント証明書の場所やインストール方法については、端末メーカーへお問い合わせください。

 アップロード済みのクライアント証明書を差し替える場合は、以下を参照してください。

 [「画面 \(編集\)」 750 ページ](#)

 クライアント証明書をまとめてアップロードする場合は、以下を参照してください。

 [「クライアント証明書一括アップロード」 751 ページ](#)

 管理サイトにアップロードしたクライアント証明書は、以下の設定で利用します。

 [「\(設定 - Android\) クライアント証明書」 116 ページ](#)

 [「\(設定 - iOS\) クライアント証明書」 123 ページ](#)

 [「\(設定 - iOS\) Exchange \(ActiveSync\) 設定」 126 ページ](#)

 [「\(設定 - iOS\) VPN 設定」 131 ページ](#)

 [「\(設定 - Windows\) クライアント証明書」 143 ページ](#)

 設定セットは、最大で 250,000 件まで作成できます。

◆画面（新規作成）

表示操作 [設定] → [Windows] → [証明書管理] → [クライアント証明書管理] → +

新規作成

クライアント証明書

設定 - 編集

1

証明書ファイル

ファイルを選択

選択されていません

※PKCS #12形式の証明書ファイルを指定してください。

2

証明書を保護するパスワード

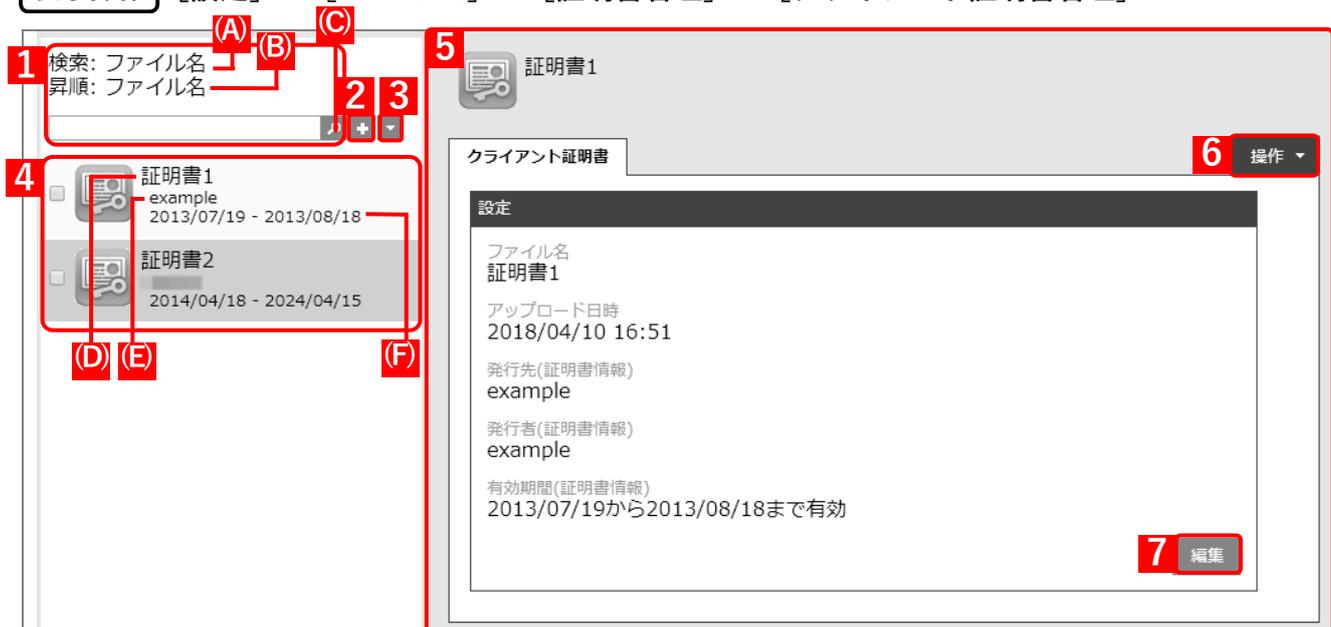
※証明書がパスワードで保護されている場合、保護する際に設定したパスワードを入力してください。
 ※証明書がパスワードで保護されていない場合は、指定したパスワードが設定されます。
 ※パスワードが指定されていない場合、ランダムに生成されたパスワードが設定されます。

保存

項番	項目	説明
1	証明書ファイル	アップロードするクライアント証明書を指定します。[ファイルを選択] をクリックし、クライアント証明書ファイルを選択します。 <input checked="" type="checkbox"/> PKCS #12 形式のクライアント証明書を指定してください。 <input checked="" type="checkbox"/> ファイル名は 30 文字以内で設定してください。
2	証明書を保護するパスワード	パスワードで保護されているクライアント証明書をアップロードする場合は、設定されているパスワードを 255 文字以内の半角英数字で入力します。 <input checked="" type="checkbox"/> パスワード未設定の場合は入力不要です。

◆画面 (管理)

表示操作 [設定] → [Windows] → [証明書管理] → [クライアント証明書管理]



項番	項目	説明
1	検索/並び替え	(A) に検索対象項目、(B) に並び替えの対象項目が表示されます。検索する場合は、検索するキーワードを (C) に入力し、[検索] をクリックします。検索したあとに、すべてのクライアント証明書を再表示するにはブラウザを再読み込み、または (C) を空欄にし、再度 [検索]  をクリックします。
2		クリックするとクライアント証明書情報欄に入力欄が表示されます。  「画面 (新規作成)」 453 ページ
3		クリックすると以下のメニューが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 全てにチェックを入れる 選択するとクライアント証明書一覧にあるすべての証明書のチェックボックスにチェックが入ります。 ● 全てのチェックをはずす 選択するとクライアント証明書一覧にあるすべての証明書のチェックボックスのチェックが外れます。 ● 検索対象 検索対象をファイル名、発行先 (証明書情報) のいずれかに変更できます。 ● 並び替え 昇順 ユーザー一覧をファイル名、発行先 (証明書情報)、有効期間の開始、有効期間の終了のいずれかで昇順に並び替えます。 ● 並び替え 降順 ファイル名、発行先 (証明書情報)、有効期間の開始、有効期間の終了のいずれかで降順に並び替えます。 ● 一括削除 クライアント証明書一覧でチェックの入っている証明書を削除します。
4	クライアント証明書一覧	登録されている証明書一覧が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> ● (D) クライアント証明書のファイル名です。 ● (E) 発行先 (クライアント証明書情報) です。 ● (F) 有効期間です。

項番	項目	説明
5	クライアント証明書情報	クライアント証明書一覧から選択したクライアント証明書情報が表示されます。
6	[操作]	クリックすると、以下のメニューが表示されます。 ●削除 クライアント証明書を削除します。
7	[編集]	クリックすると、登録されているクライアント証明書の情報を編集できます。

◆画面（編集）

アップロード済みのクライアント証明書の差し替えやパスワードを変更する場合に内容を修正します。
設定項目は新規作成と同様です。

表示操作 [設定] → [Windows] → [証明書管理] → [クライアント証明書管理] → 一覧から対象を選択 → [編集]

項番	項目	説明
1	証明書ファイル	クライアント証明書一覧から再アップロードする証明書を指定します。
2	証明書を保護するパスワード	パスワードで保護されているクライアント証明書をアップロードする場合は、設定されているパスワードを入力します。パスワード未設定の場合は入力不要です。

10.7.2 クライアント証明書一括アップロード

複数のクライアント証明書を ZIP ファイルにまとめて管理サイトにアップロードし、端末に配信するための設定セットを作成します。

本機能で作成したクライアント証明書の設定セットは、Android 端末、iOS 端末、Windows 端末で共有することができます。

-  事前にクライアント証明書を取得してください。
-  アップロードする複数のクライアント証明書は、まとめて zip ファイル形式で保存してください。
-  アップロード済みのクライアント証明書を差し替える場合は、以下を参照してください。
 -  「画面（編集）」 750 ページ
-  管理サイトにアップロードしたクライアント証明書は、以下の設定で利用します。
 -  「(設定 - Android) クライアント証明書」 116 ページ
 -  「(設定 - iOS) クライアント証明書」 123 ページ
 -  「(設定 - iOS) Exchange (ActiveSync) 設定」 126 ページ
 -  「(設定 - iOS) VPN 設定」 131 ページ
 -  「(設定 - Windows) クライアント証明書」 143 ページ

◆画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [証明書管理] → [クライアント証明書一括アップロード] → [パスワード付きの証明書を一括アップロードする]

1 パスワード付きの証明書を一括アップロードする。

2 証明書パスワード入力用CSVファイルを用意します。

「ダウンロード」ボタンをクリックしてCSVファイルをダウンロードします。
ダウンロードしたファイルの内容を編集して保存してください。

3 証明書パスワード入力用CSVファイルをアップロードします。

選択されていません

4 証明書ファイルを一括アップロードします。

PKCS #12形式の証明書をzipアーカイブ化したファイルを指定して「アップロード」ボタンをクリックしてください。

選択されていません

ZIPアーカイブのパスワード

5

項番	項目	説明
1	パスワード付きの証明書を一括アップロードする。	<p>チェックを入れると、証明書パスワード入力用 CSV ファイルをアップロードできます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> パスワード付きのクライアント証明書でない場合は、チェックを入れません。</p>
2	証明書パスワード入力用 CSV ファイルを用意します。	<p>証明書パスワード入力用 CSV ファイルをアップロードする場合、[ダウンロード] をクリックし、任意の場所に証明書パスワード入力用 CSV ファイルを保存します。保存したファイルを Excel やメモ帳で開き、クライアント証明書に設定されているパスワードを入力して保存します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> CSV ファイルの「[S]ファイル名」には、拡張子を除いたクライアント証明書のファイル名を入力してください。</p>
3	証明書パスワード入力用 CSV ファイルをアップロードします。	<p>[ファイルを選択] をクリックし、証明書パスワード入力用 CSV ファイルを選択します。</p>
4	証明書ファイルを一括アップロードします。	<p>[ファイルを選択] をクリックし、アップロードする ZIP ファイルを選択します。パスワードで保護された ZIP ファイルを選択した場合は、「ZIP アーカイブのパスワード」に設定されているパスワードを 255 文字以内の半角英数字で入力します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 一括でアップロードする PKCS #12 形式のクライアント証明書のファイルは、あらかじめ ZIP ファイルにまとめておく必要があります。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ファイル名は 30 文字以内で設定してください。</p>
5	[アップロード]	<p>クリックすると、ZIP ファイルに含まれるクライアント証明書の一覧が表示されます。表示内容に問題がないことを確認し、[アップロードを実行] をクリックします。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> アップロード済みの同名クライアント証明書を上書きする場合は「同じファイル名の証明書がすでに存在した場合は上書き保存する」にチェックを入れます。</p>

10.7.3 クライアント証明書一括削除

管理サイトにアップロードされているクライアント証明書を、CSV ファイルを利用して一括で削除します。操作手順については、以下を参照してください。

 「CSV ファイルの共通操作」 67 ページ

-  端末に紐づけられているクライアント証明書を削除した場合は、端末に割り当てられている設定が動作しなくなることがあります。
-  削除対象のクライアント証明書は、管理サイトからのみ削除され、Windows 端末からは削除されません。

◆画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [証明書管理] → [クライアント証明書一括削除]

1. CSVファイルを準備します

「ダウンロード」ボタンをクリックしてCSVファイルをダウンロードします。

1 ダウンロード

2. CSVファイルを編集します

CSVファイルを開き、削除対象の証明書と同じ行にある「削除フラグ」カラムに、「D」を入力してください。CSVファイルを編集後、保存してください。

3. CSVファイルをアップロードします

編集したCSVファイルを指定して「アップロード」ボタンをクリックしてください。アップロード完了後、削除の確認画面に移動します。

2 ファイルを選択 選択されていません

3 アップロード

項番	項目	説明
1	[ダウンロード]	任意の場所にクライアント証明書を削除するための CSV ファイルを保存します。保存した CSV ファイルを Excel やメモ帳で開き、削除したいクライアント証明書名の右側にある「[S]削除フラグ」列に「D」と入力して保存します。
2	[ファイルを選択]	項番 1 で保存した CSV ファイルを選択します。
3	[アップロード]	CSV ファイルのアップロードが開始されます。アップロードが完了すると、インポート画面が表示されます。

10.7.4 CA 証明書管理

Windows 端末にインストールする CA 証明書をアップロードし、端末に適用する設定セットを作成します。
本機能でアップロードした CA 証明書は、Android、Windows で共有することができます。

画面 (新規作成)

画面 (CA 証明書の情報)

作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ

「全機器一括設定」 248 ページ

設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面 (新規作成)

表示操作 [設定] → [Windows] → [証明書管理] → [CA 証明書管理] →

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	証明書ファイル	<p>[ファイルを選択] をクリックし、アップロードする CA 証明書を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> PEM または DER 形式の CA 証明書ファイルを指定してください。 CA 証明書を Android 端末にインストールするには、PIN またはパスワードなどのスクリーンロック設定が必要です。機器でスクリーンロック設定がされていない場合は、設定を要求するメッセージが表示されます。 スクリーンロック設定を無効にするには、CA 証明書をアンインストールする必要があります。

◆画面 (CA 証明書の情報)

表示操作 [設定] → [Windows] → [証明書管理] → [CA 証明書管理] → 一覧から対象を選択

CA証明書管理A

設定

操作 ▾

設定

- 1 設定名
CA証明書管理A
- 2 ファイル名
[redacted]
- 3 アップロード日時
2018/04/10 17:51
- 4 発行先(証明書情報)
[redacted]
- 5 発行者(証明書情報)
[redacted]
- 6 有効期限(証明書情報)
2013/07/03から2016/07/02まで有効

編集

項番	項目	説明
1	設定名	設定した CA 証明書の名称が表示されます。
2	ファイル名	CA 証明書のファイル名が表示されます。
3	アップロード日時	CA 証明書ファイルのアップロード日時が表示されます。
4	発行先(証明書情報)	CA 証明書の発行先が表示されます。
5	発行者(証明書情報)	CA 証明書の発行者が表示されます。
6	有効期限(証明書情報)	CA 証明書の有効期限が表示されます。

10.8 Zone Management

特定のネットワーク・位置・時間帯を設定したゾーン設定と、Android 端末と Windows 端末に適用する各機能の設定セットを選択したポリシー設定を組み合わせ、ゾーンポリシー構成の設定セットを作成します。

学校や職場など、特定の条件下で使用する端末を設定する場合に有効な機能です。

 本機能を Windows 端末に割り当てると、タスクトレイアイコンメニューに「ゾーン確認」、ツールバーに「ゾーン」のアイコンが表示されます。

 『Windows クライアント リファレンスマニュアル』の「エージェントの基本操作」 - 「タスクトレイアイコンメニューを表示する」、「ツールバーを表示する」

10.8.1 ゾーン

接続先のネットワーク・位置情報・時間帯を組み合わせ、ゾーン設定として保存します。

保存したゾーン設定をポリシー設定と組み合わせ、ゾーンポリシー構成の設定セットを作成します。

 「ポリシー」 759 ページ

 「ゾーンポリシー構成」 761 ページ

この設定は、Android と Windows で共有することができます。

 単一のゾーンに複数の SSID を設定した場合は、いずれかの SSID が検知された場合に「ゾーン内」となります。また複数の位置情報とスケジュール設定も、いずれかの設定が満たされた場合に「ゾーン内」となります。SSID と位置情報、SSID とスケジュールなど異なる設定を複数組み合わせる場合は、すべての設定を満たした場合に「ゾーン内」となります。

【複数の条件を組み合わせた場合】

- 場所：SSID1、SSID2、SSID3
- 時間：月曜 17:00~18:00、土曜 16:00~17:30

上記のゾーン設定では SSID が「SSID1」「SSID2」「SSID3」のいずれかに一致し、さらに日時が「月曜 17:00~18:00」「土曜 16:00~17:30」のいずれかに一致した場合に「ゾーン内」となります。

 ゾーン設定は、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [Zone Management] → [ゾーン] → +


新規作成

管理

設定 - 編集集中

1 ゾーン名

2 ネットワーク
 設定を有効にする

SSID	MACアドレス	ステルス	
<input style="width: 95%;" type="text"/>	<input style="width: 95%;" type="text"/>	<input type="checkbox"/>	

(+ボタンで追加: 50件まで)

3 位置情報
 設定を有効にする

※Windows、Androidのみ対応。
 ※位置情報管理で設定される測位間隔でゾーン判定を行います。
 ※端末の位置情報の無線ネットワークとGPSが無効の場合、測位を行わず、ゾーン不明となります。
 ※位置情報によるゾーンの判定精度は端末や場所に依存します。半径を300m以下に設定した場合、精度が著しく低下します。

緯度	経度	半径(m)	備考
<input style="width: 95%;" type="text"/>	<input style="width: 95%;" type="text"/>	<input style="width: 95%;" type="text"/>	

(+ボタンで追加: 10件まで)

4 スケジュール
 設定を有効にする

ゾーン判定に使用するタイムゾーン:

(UTC) 協定世界時 ▼

曜日	開始時刻	終了時刻	
<input style="width: 95%;" type="text"/>	<input style="width: 95%;" type="text"/>	<input style="width: 95%;" type="text"/>	

(+ボタンで追加: 10件まで)

項番	項目	説明
1	ゾーン名	ゾーンの名称を 1 文字から 30 文字で入力します。  先頭が「S」で始まる名称は設定できません。
2	ネットワーク	ゾーンに設定するネットワークの SSID、MAC アドレスの設定を行います。ネットワークは、50 件まで登録できます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 設定を有効にする チェックを入れると、Zone Management で、以降で設定するネットワークが有効になります。  をクリックし、必要なネットワークを追加します。 ● SSID ネットワークの SSID を 32 文字以内の半角英数字、「-」、「_」、「@」で入力します。 ● MAC アドレス アクセスポイントの MAC アドレスを入力します。「XX:XX:XX:XX:XX:XX」(X は大文字の 16 進数) という形式で入力してください。 ● ステルス SSID ステルスを有効としたネットワークの場合は、チェックを入れます。  SSID と MAC アドレスは重複しないものを入力してください。
3	位置情報	ゾーンに設定する位置の緯度と経度、エリアの範囲を指定します。位置情報は 10 件まで登録できます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 設定を有効にする チェックを入れると、Zone Management で、以降で設定する位置情報が有効になります。  をクリックし、必要な位置情報を追加します。 ● 緯度 -90 から 90 の範囲の値を入力します。 ● 経度 -180 から 180 の範囲の値を入力します。 ● 半径 (m) 1 から 20037500 の範囲の値を入力します。 ● 備考 備考が必要な場合は、30 文字以内で入力します。  端末の位置情報の無線ネットワークと GPS が無効な場合、または管理サイトの時刻と端末時刻の間に大幅な差がある場合は、測位を行わず「ゾーン不明」となります。 「ゾーン不明」と判定された端末に特定のポリシーを適用できます。  「ゾーンポリシー構成」761 ページ  位置情報の測位間隔の詳細については、以下を参照してください。  「位置情報管理」689 ページ
4	スケジュール	ゾーンに設定するスケジュールを登録します。スケジュールは 10 件まで登録できます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 設定を有効にする チェックを入れると、Zone Management で以降で設定するスケジュールが有効になります。  をクリックし、必要なスケジュールを追加します。 ● ゾーン判定に使用するタイムゾーン タイムゾーンをリストボックスから選択します。 ● 曜日 スケジュール設定を有効にする曜日にチェックをいれます。 ● 開始時刻 開始時刻をリストボックスから選択して指定します。00:00 から 23:59 の間で指定します。 ● 終了時刻 終了時刻をリストボックスから選択して指定します。00:00 から 35:59 の間で指定します。  土曜日に日またがりでの Zone Management を設定する場合は、xx:xx から 24:00 までの設定と、日曜日 0:00 から 35:59 までの設定の 2 つを実施すると、日またがり後の制御ができます。

10.8.2 ポリシー

Android 端末と Windows 端末に適用する各機能の設定セットを選択し、ポリシー設定として保存します。
保存したポリシー設定をゾーン設定と組み合わせ、ゾーンポリシー構成の設定セットを作成します。

🔗 「ゾーン」 756 ページ

🔗 「ゾーンポリシー構成」761 ページ

この設定は、Android と Windows で共有することができます。

✍️ ポリシー設定は、最大 50 件まで作成できます。

10.8.2.1 [管理] タブ

◆画面（新規作成）

表示操作 [設定] → [Windows] → [Zone Management] → [ポリシー] → +

The screenshot shows the 'New Policy' (新規作成) screen. At the top left, there is a gear icon and the text '新規作成'. Below this, there is a 'Management' (管理) tab. The main content area is titled 'Management - Editing' (管理 - 編集) and contains a text input field for 'Policy Name' (ポリシー名), which is highlighted with a red box and labeled '1'. To the right of the input field is a 'Save' (保存) button.

項番	項目	説明
1	ポリシー名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。

10.8.2.2 [Windows 設定] タブ

◆画面

表示操作 [設定] → [Android] → [Zone Management] → [ポリシー] →作成したポリシーを選択
→ [Windows 設定] タブをクリック→ [編集]



項番	項目	説明
1	設定	<p>ポリシーにおける Windows の設定セットの使用設定を行います。各機能に設定する内容を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各機能の設定名 選択した設定セットを適用します。 ●(機器の設定に従う) ゾーンポリシー以外で設定されている設定が継承されます。 ●(所属組織に従う) 所属している組織の設定が適用されます。組織に所属していない場合は「(設定なし)」が適用されます。 ●(設定なし) 設定を変更しません。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合、端末の動作については、以下を参照してください。</p> <p> 「各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作」 844 ページ</p>

10.8.3 ゾーンポリシー構成

ゾーン設定とポリシー設定を組み合わせ、ゾーンポリシー構成の設定セットを作成します。ゾーンポリシー構成を端末に適用すると、さまざまな場所や時間、ネットワークでの端末の動作を管理できます。

この設定は、Android と Windows で共有することができます。

 事前にゾーンとポリシーを作成してください。

 「ゾーン」 756 ページ

 「ポリシー」 759 ページ

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [設定] → [Windows] → [Zone Management] → [ゾーンポリシー構成] → 


新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 ゾーンポリシー構成

優先度	ゾーン	ポリシー
(+ボタンで追加: 1件まで)		
		

※どのゾーンでもない場合、機器の設定に従います。
機器の設定によりゾーン判定ができない場合、ゾーン不明となります。

3 ゾーン不明時

- 機器の設定に従う
- 直前の設定に従う
- ポリシーを設定する

(選択してください)


4 ゾーン変更通知

ユーザーにゾーン変更を通知する

保存

項番	項目	説明
1	設定名	設定の名称を 1 文字から 30 文字で入力します。
2	ゾーンポリシー構成	<p>ゾーンに設定するゾーン優先度、ゾーン、ゾーンポリシーを登録します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ゾーン優先度 ゾーン優先度を入力します。 ●ゾーン ゾーンを選択します。  「ゾーン」 756 ページ ●ポリシー ゾーンのポリシーを選択します。  「ポリシー」 759 ページ
3	ゾーン不明時	<p>ゾーン不明と判定された場合に適用される設定を以下から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●機器の設定に従う ●直前の設定に従う ●ポリシーを設定する この設定を選択した場合は、適用するポリシーをリストボックスから選択します。 <p> ゾーンで設定した項目ごとに以下の条件が当てはまる場合は、端末は「ゾーン判定不可」を検知して、管理サイトに「ゾーン不明」のステータスを送信します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール 同期時にサーバーと端末の時刻が著しく異なる。 ・ネットワーク 機器設定により Wi-Fi が OFF に設定されている。 ・位置情報 「位置情報 OFF」に設定されている、または位置情報設定が「バッテリー節約」かつ「ネットワーク接続無し」に設定されている。 <p>ゾーンの設定については、以下を参照してください。  「ゾーン」 756 ページ</p>
4	ゾーン変更通知	<p>端末のゾーンが変更されたときに、端末上に通知を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none">  Android 端末では、通知領域、Windows 端末ではステータスバー上のバルーンに通知が表示されます。  スケジュールと位置情報によるゾーン設定によっては、大量の通知が発生する可能性があります。過度な情報通知により、ユーザーの利便性を下げてしまう可能性があるため慎重に設定してください。

11 サービス環境設定

この章では、サブヘッダーメニューの [サービス環境設定] 画面に表示される、各種の設定について説明します。

11.1 通知設定

ログメール通知と無通信検知について設定します。

 画面（ログメール通知の新規作成）

 画面（無通信検知の新規作成）

◆画面（ログメール通知の新規作成）

確認したいログをメールで通知します。

メールを通知するタイミング、対象となるログ、送信先などを指定することができます。

 通知メールは「no-reply-biz@optim.co.jp」から送信されます。

表示操作 [設定] → [サービス環境設定] → [通知設定] → 「ログメール通知」の [新規作成]

項番	項目	説明
1	メール通知タイミング	メールで通知するタイミングを設定します。以下の項目から選択します。 ●随時 10分ごとにメール通知を行います。 ●1日1回 午前3時にメール通知を行います。 ●一時停止 メール通知を行いません。

項番	項目	説明
2	メール通知対象ログ	<p>通知対象とするログを指定します。必要な項目のチェックボックスにチェックを入れます。項目は複数指定できます。</p> <p> 以下に記載のないログについて、メール通知は行えません。</p> <p> ログが通知される対象 OS は以下を参照してください。</p> <p style="text-align: center;"> 「メール通知対象ログの対象 OS 一覧」 766 ページ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● リモートロック ● リモートワイプ ● スクリーンロック設定のパスワード変更 ● 無通信検知 ● root 化状態検知 ● Jailbreak 状態検知  「Jailbreak 状態検知」は iOS エージェントがインストールされていない場合は表示されません。 ● 管理外検知  「管理外検知」は、プロファイルをアンインストールした iOS 端末を検知する機能です。検知した場合はログに出力されます。また、機器画面に表示している通信日時に「管理外」の文字が付与され、赤字で表示します。検知対象は「プロファイルをアンインストールしたか」で判断しているため、リモートワイプなど、アンインストール以外の方法でプロファイルを削除しても検知対象となりません。 ● Microsoft Update 未実施 ● Office 更新プログラムの未適用 ● Windows 更新プログラムの未適用 ● ウイルス対策ソフト ● スパイウェア対策ソフト ● アプリケーション検知 ● 機器検出 ● Apple Push 証明書有効期限 Apple Push 証明書の有効期間が一定の日数以内となったときに出力するログです。通知タイミングは、60 日前、30 日前、14 日前、7 日前から有効期限前日までの毎日です。 ● ADE トークン有効期限 ADE トークンの有効期間が一定の日数以内となったときに出力するログです。通知タイミングは、60 日前、30 日前、14 日前、7 日前から有効期限前日までの毎日です。 ● シングル APP モードの適用延期 ● スクリーンロック解除失敗時のリモートロック・ワイプ ● Windows の SIM 抜き差し監視 ● Windows のファイアウォール診断 ● Windows の Guest アカウント診断 ● Windows の自動アップデート診断 ● Windows 以外の Microsoft 製品のアップデート診断 ● Windows のスクリーンセーバー診断 ● Windows Defender のリアルタイム保護診断 ● Windows Defender のクラウド提供の保護診断 ● Windows Defender のサンプルの自動送信診断 ● Windows Defender のコントロールされたフォルダーアクセス診断 ● システムセキュリティの Office 設定結果 ● システムセキュリティのブラウザー設定結果 ● ドライブ空き容量診断 ● CPU 温度診断 ● ハードディスク異常診断

項番	項目	説明
		<ul style="list-style-type: none"> ● アカウントのロックアウト ● アプリケーション使用禁止 ● 外部デバイス・CD/DVD/ブルーレイ禁止 ● 位置情報設定の変更 ● エージェント認証解除時の機器削除 ● デバイス管理者権限の無効化 ● ゼロタッチ利用規約更新 ● Android/iOS の SIM ステータス変更検知
3	メール送信先	<p>メール通知の送信先を以下の項目から選択します。送信先は複数選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 管理者 ユーザー種別が管理者として登録されているユーザーのメールアドレスに送信します。 ● 機器のユーザー 機器に登録されているユーザーのメールアドレスに送信します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 初期値は [管理者] のみ、選択されています。[管理者] 以外のメールアドレスにもメールを送信したい場合は、[機器のユーザー] にチェックを入れてください。</p>
4	メール送信先(カスタム)	<p>「メール送信先」以外にも送信したいときに設定します。自由にメールアドレスを指定できます。「メール送信先(カスタム)」は 255 文字以内の半角英数字と記号で入力してください。@の前後にそれぞれ 1 文字以上入力してください。送信先は 30 箇所まで設定できます。また、「メール送信先」と併用できます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>  をクリックすると、入力欄が追加されます。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>  をクリックすると、入力欄が削除されます。</p>
5	言語	<p>通知されるメールは、「ログ内容」と「その他の文言(件名やフッターなど)」の組み合わせで構成されています。当項目では、「その他の文言」に用いる言語を指定できます。リストボックスに表示される以下の言語から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「日本語」、「English」、「簡体中文」、「繁體中文」

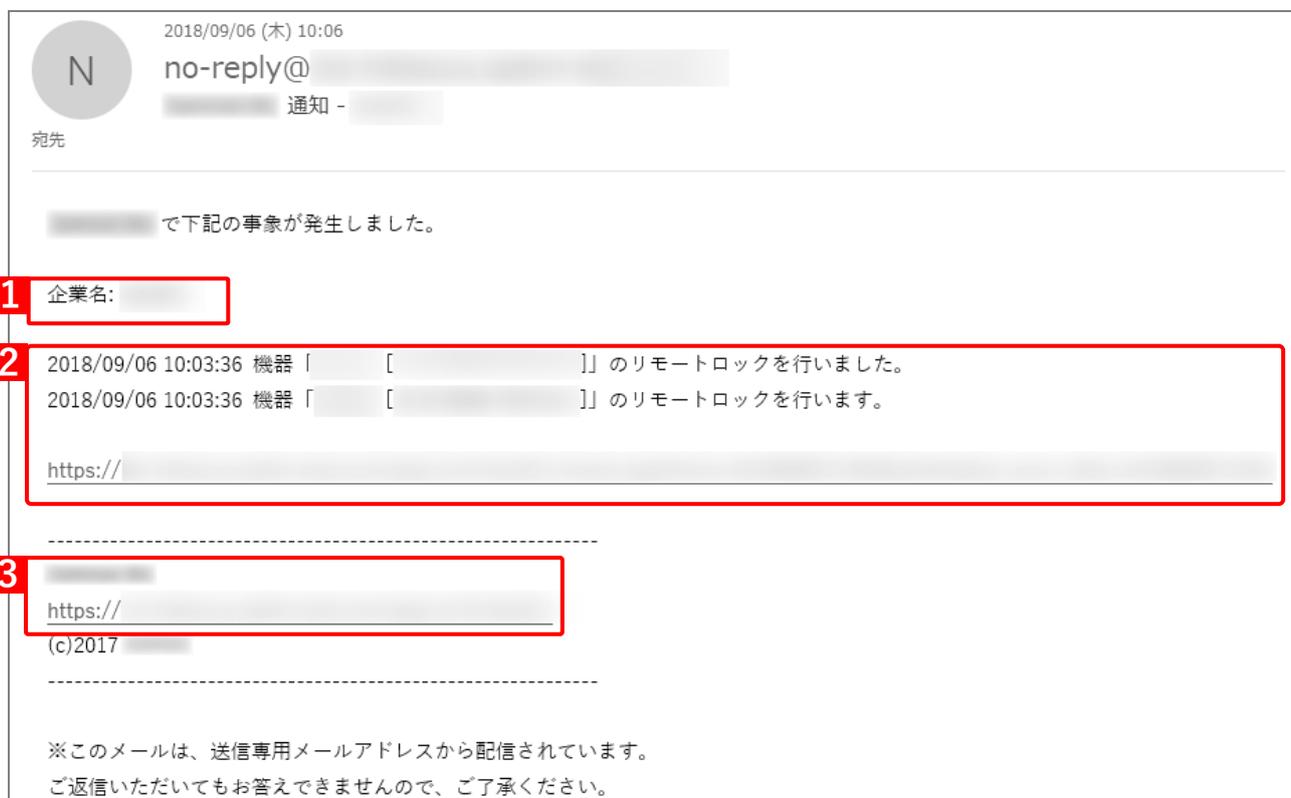
◆メール通知対象ログの対象 OS 一覧

メール通知対象ログ	Android	iOS	Mac OS	Windows
リモートロック	○	○	○	○
リモートワイプ	○	○	○	○
スクリーンロック設定のパスワード変更	○	-	-	-
無通信検知	○	○	○	○
root 化状態検知	○	-	-	-
Jailbreak 状態検知	-	○	-	-
管理外検知	-	○	○	-
Microsoft Update 未実施	-	-	-	○
Office 更新プログラムの未適用	-	-	-	○
Windows 更新プログラムの未適用	-	-	-	○
ウイルス対策ソフト	○	-	-	○
スパイウェア対策ソフト	-	-	-	○
アプリケーション検知	○	○	-	-
機器検出	-	-	-	○
Apple Push 証明書有効期限	-	○	○	-

メール通知対象ログ	Android	iOS	Mac OS	Windows
ADE トークン有効期限	-	○	-	-
シングル APP モードの適用延期	-	○	-	-
スクリーンロック解除失敗時のリモートロック・ワイプ	○	-	-	○
Windows の SIM 抜き差し監視	-	-	-	○
Windows のファイアウォール診断	-	-	-	○
Windows の Guest アカウント診断	-	-	-	○
Windows の自動アップデート診断	-	-	-	○
Windows 以外の Microsoft 製品のアップデート診断	-	-	-	○
Windows のスクリーンセーバー診断	-	-	-	○
Windows Defender のリアルタイム保護診断	-	-	-	○
Windows Defender のクラウド提供の保護診断	-	-	-	○
Windows Defender のサンプルの自動送信診断	-	-	-	○
Windows Defender のコントロールされたフォルダーアクセス診断	-	-	-	○
システムセキュリティの Office 設定結果	-	-	-	○
システムセキュリティのブラウザ設定結果	-	-	-	○
ドライブ空き容量診断	-	-	-	○
CPU 温度診断	-	-	-	○
ハードディスク異常診断	-	-	-	○
アプリケーション使用禁止	○	-	-	○
外部デバイス・CD/DVD/ブルーレイ禁止	-	-	-	○
位置情報設定の変更	○	-	-	-
エージェント認証解除時の機器削除	-	-	-	○
デバイス管理者権限の無効化	○	-	-	-
ゼロタッチ利用規約更新	○	-	-	-
Android/iOS の SIM ステータス変更検知	○	○	-	-

◆ログメール通知のサンプル

ログメール通知設定の「メール通知対象ログ」で対象とした事象が発生した場合に、以下のようなメールが「メール送信先」および「メール送信先(カスタム)」で設定した送信先に届きます。



項番	項目	説明
1	企業名	企業名が表示されます。
2	ログ	発生した事象についてのログが表示されます。表示される内容は以下のとおりです。 ●日時 ●端末名 ●メール通知対象ログ ●URL URL をクリックするとログ画面にアクセスし、該当のログが表示されます。
3	管理サイト	URL をクリックすると管理サイトログイン画面が表示されます。

◆画面（無通信検知の新規作成）

指定した間隔で管理サーバーと通信が行われていない端末を検知します。検知した場合はログに出力されます。また、[機器]の一覧画面に表示している通信日時を赤字で表示します。

☑ 無通信検知の対象は「指定した間隔で管理サーバーと通信が行われているか」で判断しているため、端末の通信状態が良好でも管理サーバーと通信を行っていないければ検知対象となります。また、一般的なメールやインターネットの利用も管理サーバーと通信を行っていることになりません。

表示操作 [設定] → [サービス環境設定] → [通知設定] → 「無通信検知」の [新規作成]

項番	項目	説明
1	無通信検知	<p>無通信と判断する間隔を指定します。以下の項目から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 指定時間通信がない機器を検知 選択した場合、時間を 1 から 23 の間の半角数字で入力してください。 ● 指定日数通信がない機器を検知 選択した場合、日数を 1 から 365 の間の半角数字で入力してください。 ● なにもしない 無通信検知を行いません。

11.2 アカウントポリシー

パスワードの発行や制限、ロックアウトするまでの入力回数を設定します。

◆画面

表示操作 [設定] → [サービス環境設定] → [アカウントポリシー] → [編集]

アカウントポリシー設定 - 編集

- 1 パスワードの長さ
 文字以上
- 2 過去のパスワード禁止
 禁止する 回
 禁止しない
- 3 複雑なパスワードを要求
 設定する
 設定しない
- 4 パスワードの有効期間
 設定する 日
 設定しない
- 5 アカウントのロックアウト
 パスワード入力失敗回数 回
 期間 分
 設定しない
- 6 パスワードリマインダー
 有効
 無効

項番	項目	説明
1	パスワードの長さ	ログインパスワードの長さを 4 文字以上 32 文字以内で指定します。
2	過去のパスワード禁止	以前使用したパスワードの利用可否の設定です。以下の項目から選択します。 ●禁止する 一度使用したパスワードを指定回数禁止するときに使用します。選択すると回数の設定が必須となり、「再利用できるまでに必要な新しいパスワードの設定回数」を設定します。回数は 1 から 100 の整数で入力してください。指定した変更回数を超えない限り、以前使用したパスワードは利用できません。例えば 3 回とした場合、新しいパスワードが 3 回設定されるまで以前のパスワードは利用できません。 ●禁止しない 以前使用したパスワードの再利用を禁止しません。即座に再利用できます。
3	複雑なパスワードを要求	パスワードの設定に複雑なパスワードを要求するかどうかの設定です。以下の項目から選択します。 ●設定する 複雑なパスワードの規則を適用します。設定した場合、新しく設定するパ

項番	項目	説明
		<p>パスワードは、以下の複雑さの要件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> •ユーザーのアカウント名またはメールアドレスに含まれる3文字以上連続する文字列を使用しない。 •長さは8文字以上。 •以下の4つのカテゴリのうち3つから文字を使う。 <ul style="list-style-type: none"> •英大文字 (A から Z)。 •英小文字 (a から z)。 •10進数の数字 (0 から 9)。 •記号 (32個) : !"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{ }~ <p>●設定しない 複雑なパスワードの規則を適用しません。</p>
4	パスワードの有効期間	<p>パスワードの有効期間を指定します。以下の項目から選択します。</p> <p>●設定する パスワードの有効期間を日数で指定します。日数を1から999の整数で入力してください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 設定した場合、パスワードの有効期間が切れるとログイン時にパスワード再設定画面が表示されますので、新しいパスワードを設定してください。</p> <p> 「期限切れパスワードの更新」44 ページ</p> <p>●設定しない パスワードの有効期間を指定しません。</p>
5	アカウントのロックアウト	<p>パスワードの入力を失敗したときにアカウントをロックアウト（ログインできない状態）するかどうか指定します。以下の項目から選択します。</p> <p>●パスワード入力失敗回数 設定した回数、パスワードの入力を失敗するとアカウントをロックアウトします。ロックアウトまでの連続ログイン失敗回数を1から10の間で入力してください。</p> <p>•期間 チェックを入れると、自動でロックアウトが解除されるまでの分数を指定できます。チェックを入れない場合は、自動でロックアウトの解除は行われません。手動でロックアウトの解除を行ってください。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> ロックされたアカウントの解除は以下を参照してください。</p> <p> 「[操作] タブ」322 ページ</p> <p>●設定しない パスワードの入力を失敗してもアカウントをロックアウトしません。</p>
6	パスワードリマインダー	<p>以下の項目から選択します。</p> <p>●有効 ログイン画面に「初めてご利用の方、パスワードを忘れた方はこちら」へのリンクが表示されます。リンク先からパスワード設定用のメールを送信できます。</p> <p> 「パスワードの新規発行／再発行」39 ページ</p> <p>●無効 「初めてご利用の方、パスワードを忘れた方はこちら」は利用できません。</p>

11.3 機器認証制御

すべての端末にライセンス認証を行うか、認証待ち機器として事前登録されている端末のみにライセンス認証を行うかを設定します。

✍️ 端末の事前登録については、以下を参照してください。

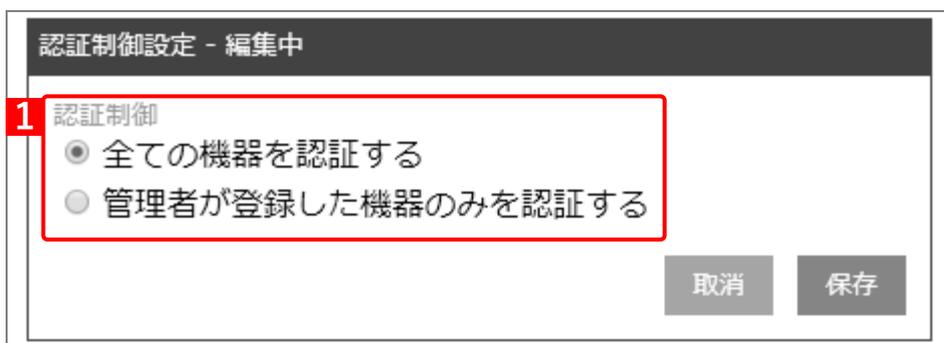
🔗 「機器の新規作成」 86 ページ

✍️ 設定を保存した時点ですべての端末に適用されます。ただし、設定が端末に反映されるまでの時間は、サーバーや端末の通信状態に依存します。

✍️ OS ごとに機器認証制御を設定することはできません。

◆画面

表示操作 [設定] → [サービス環境設定] → [機器認証制御] → [編集]



項番	項目	説明
1	認証制御	認証制御について以下の項目から選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 全ての機器を認証する すべての機器でライセンス認証が行えます。認証待ち機器としての事前登録は不要です。 ● 管理者が登録した機器のみを検証する 認証待ち機器として事前登録されている機器でのみライセンス認証が行えます。

11.4 ポータル表示

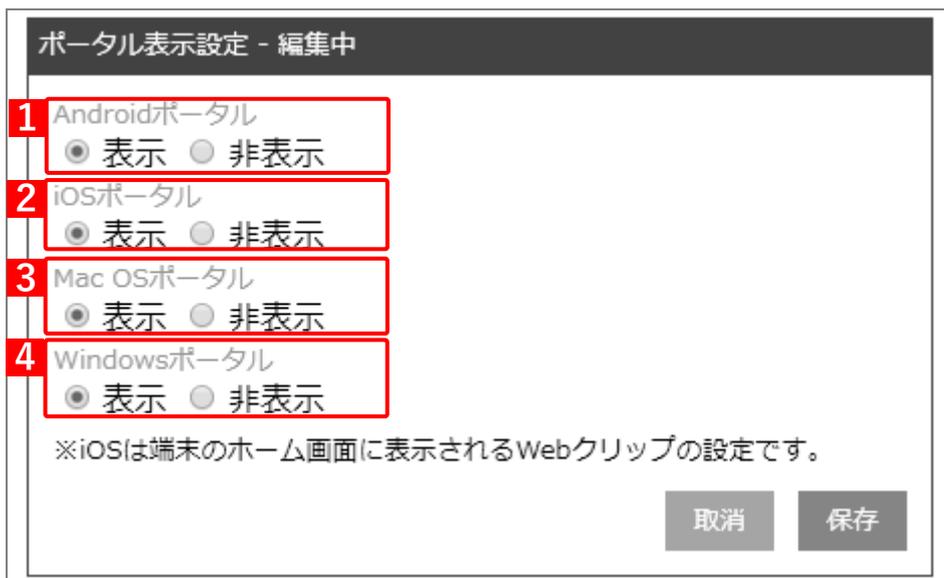
端末のポータルメニュー（端末から直接、ユーザーや機器カスタム項目の選択などを行うための機能）を表示するか非表示を設定します。

設定は OS ごとに行います。端末単位での設定はできません。

設定を保存した時点ですべての端末に適用されます。ただし、設定が端末に反映されるまでの時間は、サーバーや端末の通信状態に依存します。

◆画面

表示操作 [設定] → [サービス環境設定] → [ポータル表示] → [編集]



項番	項目	説明
1	Android ポータル	Android ポータルの表示または非表示を指定します。 ●表示 ●非表示
2	iOS ポータル	iOS ポータルの表示または非表示を指定します。 ●表示 ●非表示
3	Mac OS ポータル	Mac OS ポータルの表示または非表示を指定します。 ●表示 ●非表示 <input checked="" type="checkbox"/> ポータル設定を「表示」から「非表示」に変更した場合、Mac OS 端末の Dock に追加されたポータルのアイコンは削除されません。ユーザーが手動で Dock から削除する必要があります。 <input checked="" type="checkbox"/> MDM 構成プロファイルを削除した場合にもポータルは削除されないため、ユーザーが手動で Dock から削除する必要があります。
4	Windows ポータル	Windows ポータルの表示または非表示を指定します。 ●表示 ●非表示

11.5 Android Enterprise (企業アカウント登録)

Android Enterprise は、端末やアプリを従業員に配備し、企業データを安全に保つために Google が提供している法人向けプログラムです。

Android Enterprise で利用できる主な機能のうち、本製品では Work-managed device に対応しました。Work-managed device の機能を利用すると、社用端末をより強固なセキュリティで保護しつつ、端末のキッティング、Google Play ストアアプリのサイレントインストールといった業務が効率的に行えます

Android Enterprise を利用したアプリケーション配信の詳細については、以下を参照してください。

 『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』

 企業アカウントは以下の場合に必要になります。

- Android エージェントをキッティングするとき

 『Android キッティングマニュアル』

- Android Enterprise でアプリを配信するとき

 『Android Enterprise アプリケーション配信 手順書』

 上記以外で、企業アカウントの必要はありませんが、今後のバージョンアップで対象機能が追加される場合がありますので、企業アカウントの登録を推奨します。

11.6 Apple Push 証明書

iOS 端末や Mac OS 端末の管理に必要な、Apple Push 証明書を登録します。

Apple Push 証明書の詳細については以下を参照してください。

 『Apple Push 証明書登録・更更新手順 管理者マニュアル』

11.7 Windows 情報保護共通設定

Windows 情報保護 (WIP) は、企業データの漏洩を防止する機能です。Windows 情報保護を設定するには、Windows 情報保護共通設定でプライマリ企業 ID とデータ回復証明書を登録します。Windows 情報保護の設定の詳細については、以下を参照してください。

🔗 「Windows 情報保護」 700 ページ

🔍 本機能は、Windows 11 Pro/Enterprise/Education の 32 ビット版と 64 ビット版、および Windows 10 Pro (1803 以上)、Windows 10 Enterprise (1709 以上)、Windows 10 Education (1709 以上) に対応しています。

🔍 Windows 情報保護の詳細については、Microsoft 社の Web サイトを参照してください。

🔗 <https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/security/information-protection/windows-information-protection/protect-enterprise-data-using-wip>

◆ 設定手順

以下の手順で、コマンドプロンプトから取得したデータ回復証明書を管理サイトに設定します。

[1] スタートメニューから、コマンドプロンプトを起動します。

[2] コマンド「\$ CIPHER /R:xxxx」を実行します。

🔍 「xxxx」は任意の文字列を入力してください。

[3] 任意のパスワードを 2 回入力して実行します。

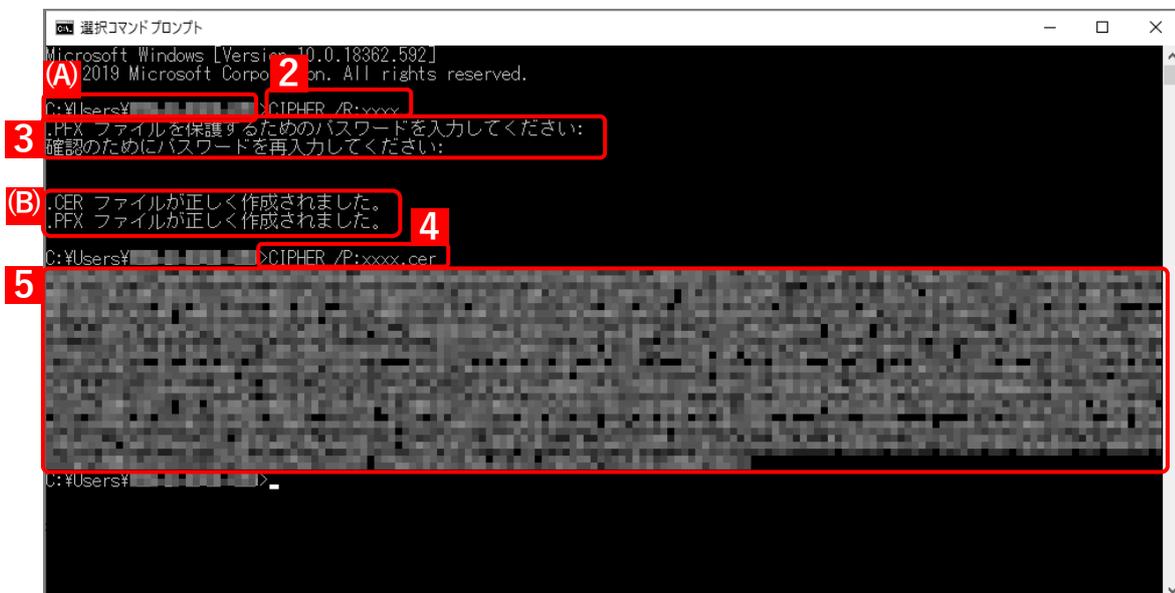
🔍 パスワードは Windows 端末で保護対象アプリの暗号化解除に必要です。忘れないように管理してください。

⇒ (B) 「xxxx.CER」と「xxxx.PFX」ファイルが作成されます。

(A) ローカルフォルダーを確認してください。

[4] コマンド「\$ CIPHER /P:xxxx.cer」を実行します。

[5] データ回復証明書が表示されます。文字列をコピーしてください。



- 【6】** 管理サイトの [設定] → [サービス環境設定] → [Windows 情報保護共通設定] → [編集] をクリックします。

Windows情報保護共通設定

プライマリ企業ID

データ回復証明書

※Windows情報保護が設定されている機器がない場合のみ編集できます。

6 編集

- 【7】** プライマリ企業 ID を入力します。

- 企業の使用しているメールアドレスのドメイン (@マーク以降) を入力してください。
- プライマリ企業 ID は、自動的に保護対象ドメインになります。詳細については、以下を参照してください。

「Windows 情報保護」 700 ページ

- 【8】** データ回復証明書に **【5】** でコピーした文字列を貼り付けます。

- 【9】** [保存] をクリックします。

Windows情報保護共通設定 - 編集

7 プライマリ企業ID

8 データ回復証明書

取消 **9** 保存

【10】 (A) プライマリ企業 ID と (B) データ回復証明書が表示されます。

- Windows 情報保護の設定が割り当てられている機器がない場合のみ、(C) [編集] が表示します。
- 基本的にプライマリ企業 ID を変更することは、本機能では考慮していません。
- データ回復証明書は、パスワードを失脚した場合のみ、変更してください。
ただし、変更するとリカバリーができなく可能性がありますので、ご注意ください。
- やむを得ず変更した場合は、Windows 端末での保護対象アプリのファイルが表示されなくなることがあります。その場合は、設定セットなしで同期をしてから、再度、変更後の設定を割り当ててください。



11.8 かんたん初期設定

本製品導入時の初期設定作業を簡略化するウィザードです。この機能を利用すると、端末のパスワードポリシーやバックアップなどのさまざまな設定を一括して行えます。

- ☑ 本設定は、新規作成した企業で、認証している端末が1台もない状態で行ってください。
- ☑ 本機能で作成された設定セットは、以下の機能に「EasySetup」という設定名で設定セットが作成されます。かんたん初期設定で設定された内容を変更する場合は、各機能の「EasySetup」を変更してください。

- Android

- ☞ 「設定テンプレート」 364 ページ
- ☞ 「暗号化」 377 ページ
- ☞ 「ウイルス対策機能」 384 ページ

- iOS

- ☞ 「設定テンプレート」 499 ページ

- Windows

- ☞ 「設定テンプレート」 676 ページ
- ☞ 「暗号化」 686 ページ

◆設定手順

以下の手順でかんたん初期設定ウィザードを開始します。

【1】 [設定] → [サービス環境設定] → [かんたん初期設定] → [開始] をクリックします。

 かんたん初期設定を中止する場合は、(A) [終了] をクリックします。

かんたん初期設定の開始

スマートフォンやPCなどの機器の管理を始めるために、おすすめの設定を行います。
※設定内容はメニューからいつでも変更できます。



セキュリティの設定 機器にアプリをインストール 完了!!

(A) 終了 1 開始

 iOS 端末と Mac OS 端末をご利用で、Apple Push 証明書が未登録の場合、Apple Push 証明書の登録を促す画面が表示されます。画面が表示された場合は、[Apple Push 証明書の設定] をクリックし、Apple Push 証明書の登録を行ってください。

Apple Push証明書の設定

iOSまたはMacOSをご利用の場合は、以下のリンクからApple Push証明書を登録してください。

[Apple Push証明書の設定](#)

戻る スキップ

[2] おすすめセキュリティ画面で、[設定する] をクリックします。

設定しない場合は、(A) [スキップ] をクリックします。

前の画面に戻る場合は、(B) [戻る] をクリックします。

おすすめセキュリティ

以下のセキュリティ機能を管理対象の機器に設定します。

パスワード	暗号化	バックアップ	ウイルス対策機能
パスワードの入力 必須 パスワードの文字数 8文字以上 ロックまでの時間 5分	機器の暗号化 する	機器のバックアップ する バックアップの周期 毎週月曜日 <small>※Androidのみ対応</small>	ウイルススキャン する リアルタイムスキャン する スキャン時刻 毎週金曜日12時 <small>※Androidのみ対応</small>

(B) 戻る (A) スキップ 2 設定する

[3] メール通知の送信先設定画面が表示されます。

⇒管理者のメールアドレスや端末を管理する部署のメーリングリストを入力します。

入力欄を追加するときは、(A) [追加] をクリックします。

管理対象の機器で問題が発生したときにメールで通知できます。

[4] [設定する] をクリックします。

⇒機器の認証画面が表示されます。

1 2 3 4

メール通知の送信先設定

管理対象の機器において問題が発生した場合に、メールでお知らせします。

(例1) 機器から通信が来なくなった時
(例2) 機器にリモートロックを行った時

送信先メールアドレス(30件まで)

3 staff.001@example.com

メール通知のサンプル
下記の事象が発生しました。

企業名: 株式会社〇〇

2016/10/19 20:43:23 機器「端末A」の通信が2016/04/18 09:30:13から1時間以上ありませんでした。
2016/10/19 20:43:23 機器「端末B」のリモートロックを行いました。

4

[5] 端末にエージェントをキッティングおよびライセンス認証を行っている場合は、[完了] をクリックします。

 エージェントのキッティングおよびライセンス認証の詳細は、以下を参照してください。

 『Android キッティングマニュアル』

 『iOS キッティングマニュアル』

 『Mac OS キッティングマニュアル』

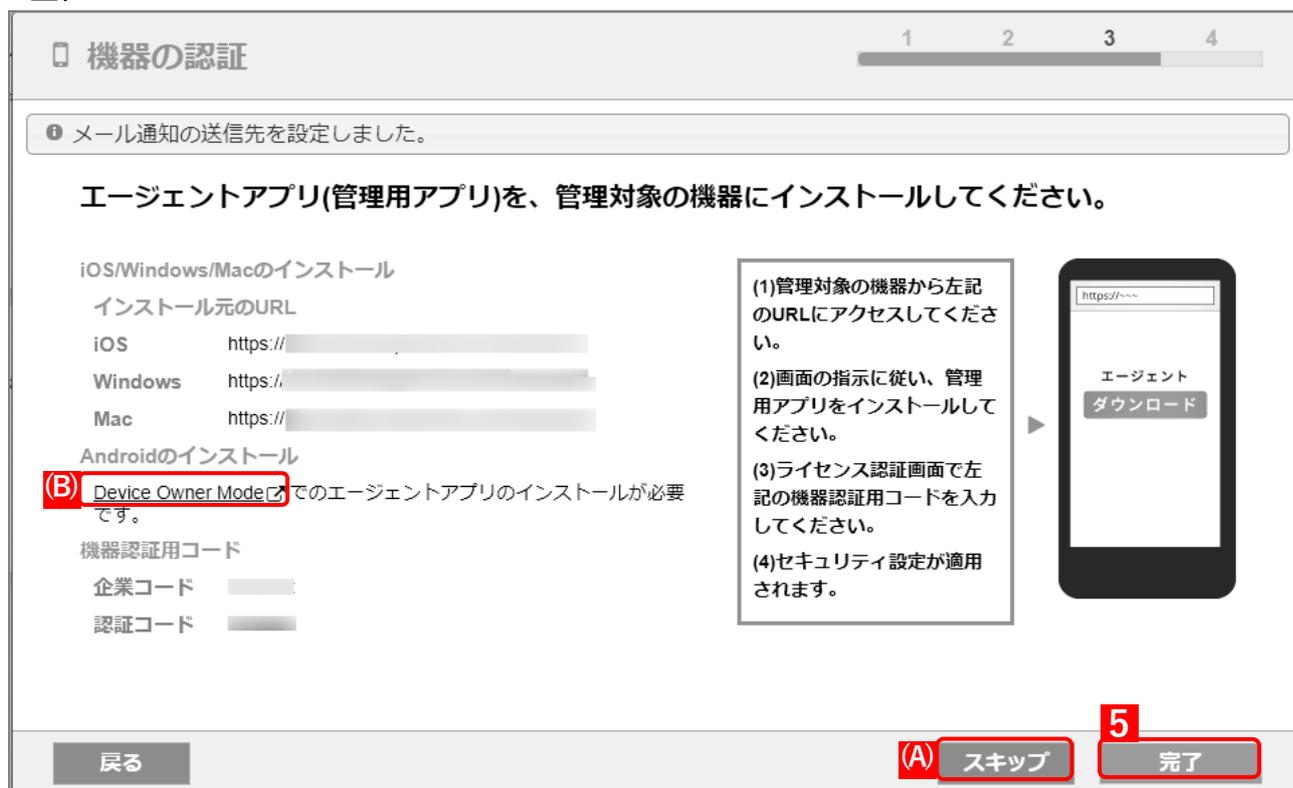
 『Windows キッティングマニュアル』

 ライセンス認証が完了している端末は、手順【3】で設定した内容が端末へ反映されます。

 エージェントアプリのインストールおよびライセンス認証を別の機会で行う場合は、(A) [スキップ] をクリックします。

 (B) [Device Owner Mode] をクリックすると、以下のマニュアルが表示されます。

 『Android キッティングマニュアル』



機器の認証

1 2 3 4

メール通知の送信先を設定しました。

エージェントアプリ(管理用アプリ)を、管理対象の機器にインストールしてください。

iOS/Windows/Macのインストール

インストール元のURL

iOS https://

Windows https://

Mac https://

Androidのインストール

(B) Device Owner Modeでのエージェントアプリのインストールが必要です。

機器認証用コード

企業コード

認証コード

(1)管理対象の機器から左記のURLにアクセスしてください。

(2)画面の指示に従い、管理用アプリをインストールしてください。

(3)ライセンス認証画面で左記の機器認証用コードを入力してください。

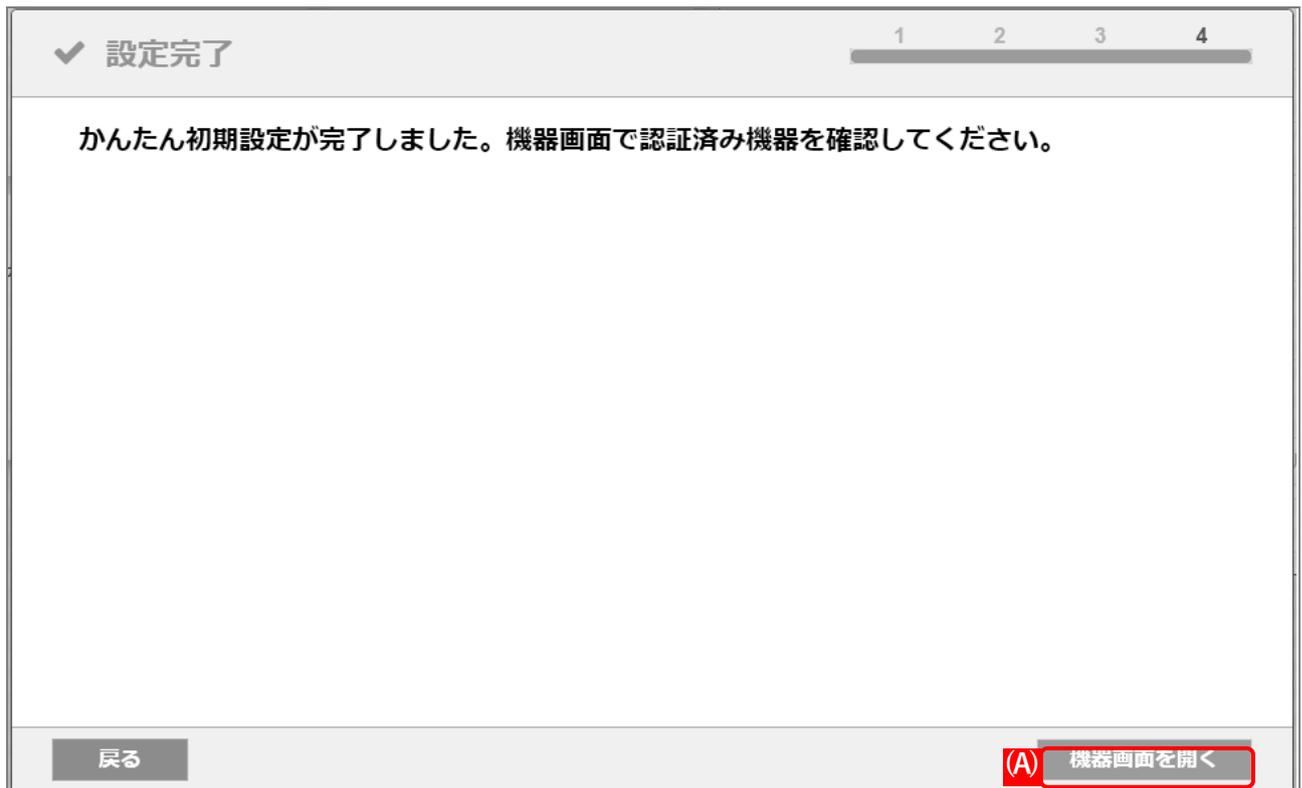
(4)セキュリティ設定が適用されます。

エージェント
ダウンロード

戻る (A) スキップ (5) 完了

【6】 設定完了画面が表示されます。

 (A) [機器画面を開く] をクリックすると機器の認証状況を確認できます。



12 ログ

この章では、ヘッダーメニューの [ログ] 画面に表示される、各種の項目について説明します。

12.1 ログ画面の見かた

ログ画面では、管理サイトの操作状況や端末の設定、操作の発生時間、操作概要を確認できます。また、端末に対する設定や操作が正常に行われたかどうかを確認する場合も、本画面から確認することができます。

検索機能で特定の端末を検索すると、設定のバックアップを行った端末の復元コードを確認したり、ログの一覧をCSVファイルにダウンロードすることができます。

画面

画面 (ログの絞り込み)

画面 (ログのダウンロード)

- 直近一年間のログを確認できます。ログの保存期間は一年間で、それ以前のログは削除されます。
- [機器] → [一覧] → → [ログ] で確認するログは、一覧で選択した端末のログのみを表示します。
- 1回のログに最大 255 文字が出力されます。機器の一括操作を行った場合は、機器数により、すべての機器名がログに表示されないことがあります。

◆ 画面

表示操作 [ログ]

ログ画面のスクリーンショット。検索条件設定、検索ボタン、CSVダウンロードボタン、ログ一覧表が示されています。

種別	通知	発生日時	受信日時	概要	詳細
高		2018/04/11 18:32:35	2018/04/11 18:32:35	Android Enterpriseのアプリ配信が失敗しました。: 配信対象アプリを確認後、もう一度機器同期を行ってください(機器: [redacted]、プロダクトID: [redacted]、エラーメッセージ: notFound: No device was found for the given id.)	
高		2018/04/11 18:32:33	2018/04/11 18:32:33	Android Enterpriseのアプリ配信が失敗しました。: 配信対象アプリを確認後、もう一度機器同期を行ってください(機器: [redacted]、プロダクトID: [redacted]、エラーメッセージ: notFound: No device was found for the given id.)	
高		2018/04/11 18:32:22	2018/04/11 18:32:22	Android Enterpriseのアプリ配信が失敗しました。: 配信対象アプリを確認後、もう一度機器同期を行ってください(機器: [redacted]、プロダクトID: [redacted]、エラーメッセージ: notFound: No device was found for the given id.)	
高		2018/04/11 18:32:20	2018/04/11 18:32:20	Android Enterpriseのアプリ配信が失敗しました。: 配信対象アプリを確認後、もう一度機器同期を行ってください(機器: [redacted]、プロダクトID: [redacted]、エラーメッセージ: notFound: No device was found for the given id.)	
高		2018/04/11 18:31:35	2018/04/11 18:32:05	機器「[redacted]」のエージェントが即時バックアップを行いました。	詳細
高		2018/04/11 18:21:03	2018/04/11 18:21:03	機器「[redacted]」のエージェントがログ画面を解除しました。	
高		2018/04/11 18:19:25	2018/04/11 18:19:25	ユーザー「[redacted]」がログインしました。	
高		2018/04/11 17:34:16	2018/04/11 17:34:16	ユーザー「[redacted]」がメッセージ「あああ」を変更しました。	
高		2018/04/11 17:31:10	2018/04/11 17:31:10	Android Enterpriseのアプリ配信が失敗しました。: 配信対象アプリを確認後、もう一度機器同期を行ってください(機器: [redacted]、プロダクトID: [redacted]、エラーメッセージ: notFound: No device was found for the given id.)	
高		2018/04/11 17:31:08	2018/04/11 17:31:08	Android Enterpriseのアプリ配信が失敗しました。: 配信対象アプリを確認後、もう一度機器同期を行ってください(機器: [redacted]、プロダクトID: [redacted]、エラーメッセージ: notFound: No device was found for the given id.)	

項番	項目	説明
1	検索条件	表示するログを絞り込むための条件を設定できます。絞り込みについては、以下を参照してください。 🔗 「画面 (ログの絞り込み)」 787 ページ
2	[検索]	クリックすると、項番【1】で設定した検索条件でログの絞り込みが実行されます。絞り込みについては、以下を参照してください。 🔗 「画面 (ログの絞り込み)」 787 ページ
3	[CSV ダウンロード]	クリックすると、ログの CSV ダウンロードを行います。詳細については、以下を参照してください。 🔗 「画面 (ログのダウンロード)」 789 ページ
4	ログ一覧	管理サイトの操作ログや端末の操作や動作のログが表示されます。 ●種別 ・管理サイト操作ログの場合は  が表示されます。 ・エージェントの動作ログの場合は  が表示されます。 ●通知 ・メール通知済みの場合は  が表示されます。 ・メール未通知の場合は  が表示されます。  メール通知対象外の場合は何も表示されません。 ●発生日時 該当アクションが発生したときのエージェント(端末)の日時が表示されます。 ●受信日時 該当アクションが発生し、サーバーで受信した日時が表示されます。 ●概要 アクションの概要が表示されます。 ●詳細 詳細情報がある場合は、「詳細」のリンクが表示されます。クリックすると、対象のログの詳細情報が表示されます。

◆画面（ログの絞り込み）

検索条件を指定して、表示するログを絞り込みます。

期間のみ入力されている場合は、指定した期間のログがすべて表示されます。

検索キーワードのみ入力されている場合は、そのキーワードを含むログがすべて表示されます。

表示操作 [ログ]

The screenshot shows a web interface for log management. At the top, there are navigation tabs for '機器' (Device), 'ユーザー' (User), '組織' (Organization), '設定' (Settings), and 'ログ' (Log). The current user is 'testcompany user2'. Below the navigation, there are search filters:

- 1** 種別: 管理ログ 機器ログ オプション: 通知対象のみ
- 期間: [発生日時] から [] まで
- 検索: []

Below the filters, there are buttons for '検索' (Search) and 'CSVダウンロード' (Download CSV). A table of log entries is displayed below:

種別	通知	発生日時	受信日時	概要	詳細
高		2018/04/11 18:32:35	2018/04/11 18:32:35	Android Enterpriseのアプリ配信が失敗しました。: 配信対象アプリを確認後、もう一度機器同期を行ってください(機器: [], プロダクトID: [], エラーメッセージ: notFound: No device was found for the given id.)	
高		2018/04/11 18:32:33	2018/04/11 18:32:33	Android Enterpriseのアプリ配信が失敗しました。: 配信対象アプリを確認後、もう一度機器同期を行ってください(機器: [], プロダクトID: [], エラーメッセージ: notFound: No device was found for the given id.)	
高		2018/04/11 18:32:22	2018/04/11 18:32:22	Android Enterpriseのアプリ配信が失敗しました。: 配信対象アプリを確認後、もう一度機器同期を行ってください(機器: [], プロダクトID: [], エラーメッセージ: notFound: No device was found for the given id.)	
高		2018/04/11 18:32:20	2018/04/11 18:32:20	Android Enterpriseのアプリ配信が失敗しました。: 配信対象アプリを確認後、もう一度機器同期を行ってください(機器: [], プロダクトID: [], エラーメッセージ: notFound: No device was found for the given id.)	
高		2018/04/11 18:31:35	2018/04/11 18:32:05	機器「[]」のエージェントが即時バックアップを行いました。	詳細
高		2018/04/11 18:21:03	2018/04/11 18:21:03	機器「[]」のエージェントがログ画面を解除しました。	
高		2018/04/11 18:19:25	2018/04/11 18:19:25	ユーザー「[]」がログインしました。	
高		2018/04/11 17:34:16	2018/04/11 17:34:16	ユーザー「[]」がメッセージ「あああ」を変更しました。	
高		2018/04/11 17:31:10	2018/04/11 17:31:10	Android Enterpriseのアプリ配信が失敗しました。: 配信対象アプリを確認後、もう一度機器同期を行ってください(機器: [], プロダクトID: [], エラーメッセージ: notFound: No device was found for the given id.)	
高		2018/04/11 17:31:08	2018/04/11 17:31:08	Android Enterpriseのアプリ配信が失敗しました。: 配信対象アプリを確認後、もう一度機器同期を行ってください(機器: [], プロダクトID: [], エラーメッセージ: notFound: No device was found for the given id.)	

At the bottom of the page, there are links for '利用規約' (Terms of Use), 'プライバシーポリシー' (Privacy Policy), and 'サイトマップ' (Sitemap), along with a 'マニュアル' (Manual) button.

項番	項目	説明
1	検索条件	<p>絞り込み条件を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●種別 <p>種別を指定します。以下のいずれか 1 つまたは両方にチェックを入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> •  管理ログ 管理サイトで行われた操作についてのログを表示します。 •  機器ログ 端末で行われた操作および端末の挙動についてのログを表示します。管理サイトの操作により端末で行われた挙動も該当します。 ●オプション <ul style="list-style-type: none"> •  通知対象のみ チェックするとログメール通知の対象となっているログのみを表示します。  「画面」785 ページ ●期間 <p>検索対象の日時の種類を選択し、日時の範囲を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 発生日時 発生日時で期間を絞り込む場合に選択し、絞り込む日時の期間を設定します。 • 受信日時 受信日時で期間を絞り込む場合に選択し、絞り込む日時の期間を設定します。 ☑ 日時の期間は「[] から [] まで」の形式で指定できます。「[] から」のみ、「[] まで」のみの指定もできます。 ☑ 日時の入力欄をクリックするとカレンダーが表示され、日付、時間を設定できます。入力欄に直接入力もできます。 ●検索 <p>ログの「概要」に表示されるキーワードで内容で絞り込みます。入力した文字列が概要に含まれるログを表示します。</p>
2	[検索]	<p>クリックすると、条件に合ったログの絞り込み検索が実行され、検索結果がログの一覧に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 再度すべてのログを表示するには、以下のいずれかを行う必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> • ログの一覧で、キーボードの [F5] キーでブラウザを再読み込みします。 • 検索条件の「期間」、「検索」を空欄にし、[検索] をクリックします。

◆画面（ログのダウンロード）

現在ログ画面に表示されているすべてのログを、CSV ファイルとしてダウンロードします。最大 100,000 件のログをダウンロードできます。

表示操作 [ログ]

The screenshot shows a web interface for log management. At the top, there are navigation tabs for '機器' (Device), 'ユーザー' (User), '組織' (Organization), '設定' (Settings), and 'ログ' (Log). The 'ログ' tab is active. Below the tabs, there are filters for '種別' (Type) with '管理ログ' (Management Log) and '機器ログ' (Device Log) selected, and 'オプション' (Options) with '通知対象のみ' (Only notification targets) selected. There are also fields for '期間' (Period) and '検索' (Search). A red box highlights a button labeled '1 CSVダウンロード' (1 CSV Download). Below this is a table of log entries with columns for '種別' (Type), '通知' (Notification), '発生日時' (Occurrence Time), '受信日時' (Reception Time), '概要' (Summary), and '詳細' (Details). The table contains several entries, including Android Enterprise app distribution failures and system events. At the bottom right, there is a 'マニュアル' (Manual) button.

項番	項目	説明
1	[CSV ダウンロード]	クリックし、確認画面で [OK] をクリックすると、対象のログが CSV ファイルでダウンロードされます。 📄 件数によってはダウンロードに時間がかかる場合があります。

12.2 ログ一覧

ログ画面で確認できるログを、種類別に説明します。

◆操作ログ

管理サイトの操作に関するログの一覧です。

🔴 「SAML SSO ログイン成功ログ」(808 ページ) は、ベーシックパックプラスをご利用時にのみ出力されます。

ログ名	契機	種別	ログ
ログインログ	(代行操作)	管理	企業「(対象企業)」に対してユーザー「(ログインユーザー)」が～ 🔴 他の企業の画面で操作
	(画面遷移)	管理	(なし) 🔴 存在しないコントローラーにアクセス
		管理	(なし) 🔴 未ログイン状態で、ログインが必要なコントローラーにアクセス
		管理	(なし) 🔴 ログイン状態で、セッションの有効期限を過ぎた
		管理	(なし) 🔴 ログイン状態で、存在しないリソースや表示権限のないリソースにアクセス
		管理	(なし) 🔴 Ajax のみで使用される URL にブラウザでアクセス
ログアウト	管理	“ユーザー名”がログアウトしました。 🔴 ベーシックパックプラスをご利用の場合は、「ユーザー「ユーザー名」がログアウトしました。」と出力されます。	
ログイン	管理	“ユーザー名”がログインしました。	
パスワード設定	パスワード変更	管理	“ユーザー名”パスワードを変更してログインしました。
ユーザー管理ログ	ユーザー作成	管理	“ユーザー名”がユーザー「(ユーザー名)」を作成しました。 🔴 ベーシックパックプラスをご利用の場合は、「[KDDI Business ID]ユーザー「(ユーザー名)」を作成しました。」と出力されます。
	ユーザー管理情報変更	管理	“ユーザー名”がユーザー「(ユーザー名)」を変更しました。 🔴 ユーザー名を変更しない場合
		管理	“ユーザー名”がユーザー「(旧ユーザー名)」を「(新ユーザー名)」に変更しました。 🔴 ユーザー名を変更する場合
	ユーザーパスワード変更	管理	“ユーザー名”がユーザー「(ユーザー名)」のパスワードを変更しました。
	ユーザー削除	管理	“ユーザー名”がユーザー「(ユーザー名)」を削除しました。 🔴 ベーシックパックプラスをご利用の場合は、「[KDDI Business ID]ユーザー「(ユーザー名)」を削除しました。」と出力されます。

ログ名	契機	種別	ログ
	ユーザー一括削除	管理	“ユーザー名”がユーザーを一括削除しました: 「(ユーザー名 1)」, 「(ユーザー名 2)」, ...
	「App とブック」設定作成	管理	“ユーザー名”がユーザー「(ユーザー名)」の「App とブック」設定を作成しました。
	「App とブック」設定更新	管理	“ユーザー名”がユーザー「(ユーザー名)」の「App とブック」設定を変更しました。
	「App とブック」設定削除	管理	“ユーザー名”がユーザー「(ユーザー名)」の「App とブック」設定を削除しました。
	ASM 設定更新	管理	ユーザー「(ユーザー名)」の Apple School Manager の設定を変更しました。
組織ログ	組織作成	管理	“ユーザー名”が組織「(組織名)」を作成しました。
	組織更新	管理	“ユーザー名”が組織「(組織名)」を変更しました。 ☑ 組織名を変更しない場合
		管理	“ユーザー名”が組織「(旧組織名)」を「(新組織名)」に変更しました。 ☑ 組織名を変更する場合
	組織削除	管理	“ユーザー名”が組織「(組織名)」を削除しました。
	組織一括削除	管理	“ユーザー名”が組織を一括削除しました: 「(組織名 1)」, 「(組織名 2)」, ...
	設定テンプレート適用	管理	“ユーザー名”が組織「(組織名)」の Android 機器に対して設定テンプレート「(テンプレート名)」を適用しました。
		管理	“ユーザー名”が組織「(組織名)」の iOS 機器に対して設定テンプレート「(テンプレート名)」を適用しました。
		管理	“ユーザー名”が組織「(組織名)」の Windows 機器に対して設定テンプレート「(テンプレート名)」を適用しました。
	設定変更	管理	“ユーザー名”が組織「(組織名)」の Android 機器に対する設定を変更しました。
		管理	“ユーザー名”が組織「(組織名)」の iOS 機器に対する設定を変更しました。
		管理	“ユーザー名”が組織「(組織名)」の Windows 機器に対する設定を変更しました。
	「App とブック」設定作成	管理	“ユーザー名”が組織「(組織名)」の「App とブック」設定を作成しました。
	「App とブック」設定更新	管理	“ユーザー名”が組織「(組織名)」の「App とブック」設定を更新しました。
「App とブック」設定削除	管理	“ユーザー名”が組織「(組織名)」の「App とブック」設定を削除しました。	
マップログ	除外	管理	“ユーザー名”が MAC アドレス「(MAC アドレス)」の機器を除外しました。
	除外解除	管理	“ユーザー名”が MAC アドレス「(MAC アドレス)」の機器を除外から解除しました。
機器ログ	ライセンス認証待ち iOS 機器作成	管理	“ユーザー名”がライセンス認証待ち iOS 機器「(機器名)」を作成しました。
	ライセンス認証待ち Android 機器作成	管理	“ユーザー名”がライセンス認証待ち Android 機器「(機器名)」を作成しました。
	ライセンス認証待ち Windows 機器作成	管理	“ユーザー名”がライセンス認証待ち Windows 機器「(機器名)」を作成しました。

ログ名	契機	種別	ログ
	パッケージ	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」のライセンスを変更しました。
	機器管理情報変更	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」を変更しました。 ☑機器名を変更しない場合
		管理	“ユーザー名”が機器「(旧機器名)」を「(新機器名)」に変更しました。 ☑機器名を変更する場合
	機器設定変更 (各機能ごと)	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」の(機能名)の設定を「(設定名)」に変更しました。
	機器削除	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」を削除しました。
	機器一括削除	管理	“ユーザー名”が機器を一括削除しました: 「(機器名 1)」, 「(機器名 2)」, ...
	同期開始	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」に同期を通知しました。 ☑Android, iOS 共通
	同期完了	管理	(なし) ☑Android のみ
	同期失敗	管理	(なし) ☑Android のみ
	ADE と同期	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」の同期を行いました。
	Push 通知無効時	管理	(なし)
	リモートロック通知	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」にリモートロックを通知しました。
	ロック解除	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」にロック解除を通知しました。
	リモートワイプ通知	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」にリモートワイプを通知しました。
	パスコード削除通知	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」にパスコード削除を通知しました。
	アクティベーションロック解除通知	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」にアクティベーションロック解除を通知しました。
	OS ダウンロードまたはインストール通知	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」に OS ダウンロードまたはインストールを通知しました。
	OS ダウンロード通知	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」に OS ダウンロードを通知しました。
	OS インストール通知	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」に OS インストールを通知しました。
	同期 リモートロック通知 リモートワイプ通知 パスコード削除通知	管理	(なし) ☑iOS のみ: 証明書が登録されていない or 有効期限切れの場合
	Exchange 設定作成	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」の Exchange 設定を作成しました。
	Exchange 設定変更	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」の Exchange 設定を変更しました。
	Exchange 設定削除	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」の Exchange 設定を削除しました。

ログ名	契機	種別	ログ
	「App とブック」 設定作成	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」の「App とブック」設定を作成しました。
	「App とブック」 設定変更	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」の「App とブック」設定を変更しました。
	「App とブック」 設定削除	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」の「App とブック」設定を削除しました。
	Google Play ストアのキャッシュ削除	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」に Google Play ストアのキャッシュ削除を指示しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが Google Play ストアのキャッシュ削除を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが Google Play ストアのキャッシュ削除に失敗しました。
	リモート再起動	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」にリモート再起動を指示しました。
リモートシャットダウン	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」にリモートシャットダウンを指示しました。	
インポート共通ログ	アップロード	管理	“ユーザー名”が(インポート対象)の新規インポートの CSV ファイルをアップロードしました。 ✔️ 新規の場合
		管理	“ユーザー名”が(インポート対象)の変更インポートの CSV ファイルをアップロードしました。 ✔️ 変更の場合
		管理	(なし) ✔️ 指定されたファイルがサーバー上で見つからない場合
		管理	(なし) ✔️ ファイルが空(0 バイト)の場合
		管理	(なし) ✔️ ファイルサイズが 10MB を超えている場合
		管理	(なし) ✔️ 拡張子が「.csv」でない場合
		管理	(なし) ✔️ タブ・改行以外の制御文字が含まれている場合
		管理	(なし) ✔️ 文字コードが正しくない場合
		管理	(なし) ✔️ CSV として正しい形式でない場合
		管理	(なし) ✔️ CSV にヘッダ 1 行しかない場合
	バリデーション	管理	(なし) ✔️ エラーが 1 つ以上ある場合
		管理	(なし) ✔️ 中断した場合
	インポート	管理	“ユーザー名”が(インポート対象)の新規インポートを開始しました。
		管理	“ユーザー名”が(インポート対象)の変更インポートを開始しました。

ログ名	契機	種別	ログ
		管理	“ユーザー名”が(インポート対象)の新規インポートを中断しました。(成功 n 件、失敗 n 件) ☑ 中断した場合
		管理	“ユーザー名”が(インポート対象)の変更インポートを中断しました。(成功 n 件、失敗 n 件) ☑ 中断した場合
		管理	“ユーザー名”がインポートで(インポート対象)を一括作成しました。(成功 n 件、失敗 n 件) ☑ 成功とエラーの両方の行がある場合 ☑ すべての行がエラーの場合
		管理	“ユーザー名”がインポートで(インポート対象)を一括変更しました。(成功 n 件、失敗 n 件) ☑ 成功とエラーの両方の行がある場合 ☑ すべての行がエラーの場合
レポートログ(機器 / アプリ)	レポート作成	管理	(なし)
	レポート更新	管理	(なし)
一括機器設定ログ (Android)	機器設定一括変更 (各機能ごと)	管理	“ユーザー名”が全ての Android 機器の(機能名)の設定を「(設定名)」に一括変更しました。 ☑ すべての機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の Android 機器の(機能名)の設定を「(設定名)」に一括変更しました。 ☑ グループの機器に一括変更した場合
	リモートロック通知	管理	“ユーザー名”が全ての Android 機器にリモートロックを通知しました。 ☑ すべての機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の Android 機器にリモートロックを通知しました。 ☑ グループの機器に一括変更した場合
	ロック解除	管理	“ユーザー名”が全ての Android 機器にロック解除を通知しました。 ☑ すべての機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の Android 機器にロック解除を通知しました。 ☑ グループの機器に一括変更した場合
	リモートワイプ通知	管理	“ユーザー名”が全ての Android 機器にリモートワイプを通知しました。 ☑ すべての機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の Android 機器にリモートワイプを通知しました。 ☑ グループの機器に一括変更した場合
	Google Play ストアのキャッシュ削除	管理	“ユーザー名”が全ての Android 機器に Google Play ストアのキャッシュ削除を指示しました。 ☑ すべての機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が機器分類「(分類名)」の「(分類グループ)」に所属する Android 機器に Google Play ストアのキャッシュ削除を指示しました。 ☑ グループの機器に一括変更した場合

ログ名	契機	種別	ログ
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが Google Play ストアのキャッシュ削除を行いました。 ☑ 機器の数だけ表示されます。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが Google Play ストアのキャッシュ削除に失敗しました。 ☑ 機器の数だけ表示されます。
一括機器設定ログ (iOS)	機器設定一括変更(各機能ごと)	管理	“ユーザー名”が全ての iOS 機器の(機能名)の設定を「(設定名)」に一括変更しました。 ☑ すべての機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の iOS 機器の(機能名)の設定を「(設定名)」に一括変更しました。 ☑ グループの機器に一括変更した場合
	リモートロック通知	管理	“ユーザー名”が全ての iOS 機器にリモートロックを通知しました。 ☑ すべての機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の iOS 機器にリモートロックを通知しました。 ☑ グループの機器に一括変更した場合
	リモートワイプ通知	管理	“ユーザー名”が全ての iOS 機器にリモートワイプを通知しました。 ☑ すべての機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の iOS 機器にリモートワイプを通知しました。 ☑ グループの機器に一括変更した場合
	パスコード削除通知	管理	“ユーザー名”が全ての iOS 機器にパスコード削除を通知しました。 ☑ すべての機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の iOS 機器にパスコード削除を通知しました。 ☑ グループの機器に一括変更した場合
	紛失モード	管理	“ユーザー名”が全ての iOS 機器に紛失モードへの移行を通知しました。 ☑ すべての機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の iOS 機器に紛失モードへの移行を通知しました。 ☑ グループの機器に一括変更した場合
	位置情報取得	管理	“ユーザー名”が全ての iOS 機器に位置情報取得を通知しました。 ☑ すべての機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の iOS 機器に位置情報取得を通知しました。 ☑ グループの機器に一括変更した場合
	紛失モード解除	管理	“ユーザー名”が全ての iOS 機器に紛失モード解除を通知しました。 ☑ すべての機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の iOS 機器に紛失モード解除を通知しました。 ☑ グループの機器に一括変更した場合

ログ名	契機	種別	ログ
	リモート再起動	管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の iOS 機器にリモート再起動を指示しました。 ✔ グループの機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が全ての iOS 機器にリモート再起動を指示しました。 ✔ すべての機器に一括変更した場合
	リモートシャットダウン	管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の iOS 機器にリモートシャットダウンを指示しました。 ✔ グループの機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が全ての iOS 機器にリモートシャットダウンを指示しました。 ✔ すべての機器に一括変更した場合
	ダウンロードまたはインストール	管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の iOS 機器に OS ダウンロードまたはインストールを通知しました。 ✔ グループの機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が全ての iOS 機器に OS ダウンロードまたはインストールを通知しました。 ✔ すべての機器に一括変更した場合
	ダウンロード	管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の iOS 機器に OS ダウンロードを通知しました。 ✔ グループの機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が全ての iOS 機器に OS ダウンロードを通知しました。 ✔ すべての機器に一括変更した場合
	インストール	管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の iOS 機器に OS インストールを通知しました。 ✔ グループの機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が全ての iOS 機器に OS インストールを通知しました。 ✔ すべての機器に一括変更した場合
一括機器設定ログ (Windows)	機器設定一括変更 (各機能ごと)	管理	“ユーザー名”が全ての Windows 機器の(機能名)の設定を「(設定名)」に一括変更しました。 ✔ すべての機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の Windows 機器の(機能名)の設定を「(設定名)」に一括変更しました。 ✔ グループの機器に一括変更した場合
	リモートロック通知	管理	“ユーザー名”が全ての Windows 機器にリモートロックを通知しました。 ✔ すべての機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の Windows 機器にリモートロックを通知しました。 ✔ グループの機器に一括変更した場合
	ロック解除	管理	“ユーザー名”が全ての Windows 機器にロック解除を通知しました。 ✔ すべての機器に一括変更した場合

ログ名	契機	種別	ログ
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の Windows 機器にロック解除を通知しました。 <input checked="" type="checkbox"/> グループの機器に一括変更した場合
	リモートワイプ通知	管理	“ユーザー名”が全ての Windows 機器にリモートワイプ(BitLocker)を通知しました。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての機器に括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の Windows 機器にリモートワイプ(データ削除)を通知しました。 <input checked="" type="checkbox"/> グループの機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が全ての Windows 機器にリモートワイプ(PC 初期化)を通知しました。 <input checked="" type="checkbox"/> すべての機器に一括変更した場合
		管理	“ユーザー名”が「(機器分類名)」が「(グループ名)」の Windows 機器にリモートワイプ(PC 初期化)を通知しました。 <input checked="" type="checkbox"/> グループの機器に一括変更した場合
ユーザー分類ログ	ユーザー分類作成	管理	“ユーザー名”がユーザー分類「(ユーザー分類名)」を作成しました。
	ユーザー分類変更	管理	“ユーザー名”がユーザー分類「(ユーザー分類名)」を変更しました。 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザー分類名を変更しない場合
		管理	“ユーザー名”がユーザー分類「(旧ユーザー分類名)」を「(新ユーザー分類名)」に変更しました。 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザー分類名を変更する場合
	ユーザー分類削除	管理	“ユーザー名”がユーザー分類「(ユーザー分類名)」を削除しました。
	ユーザー分類一括削除	管理	“ユーザー名”がユーザー分類を一括削除しました: 「(ユーザー分類名 1)」, 「(ユーザー分類名 2)」, ...
ユーザー自由入力項目ログ	ユーザー自由入力項目作成	管理	“ユーザー名”がユーザー自由入力項目「(ユーザー自由入力項目名)」を作成しました。
	ユーザー自由入力項目変更	管理	“ユーザー名”がユーザー自由入力項目「(ユーザー自由入力項目名)」を変更しました。 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザー自由入力項目名を変更しない場合
		管理	“ユーザー名”がユーザー自由入力項目「(旧ユーザー自由入力項目名)」を「(新ユーザー自由入力項目名)」に変更しました。 <input checked="" type="checkbox"/> ユーザー自由入力項目名を変更する場合
	ユーザー自由入力項目削除	管理	“ユーザー名”がユーザー自由入力項目「(ユーザー自由入力項目名)」を削除しました。
	ユーザー自由入力項目一括削除	管理	“ユーザー名”がユーザー自由入力項目を一括削除しました: 「(ユーザー自由入力項目名 1)」, 「(ユーザー自由入力項目名 2)」, ...
機器分類ログ	機器分類作成	管理	“ユーザー名”が機器分類「(機器分類名)」を作成しました。
	機器分類変更	管理	“ユーザー名”が機器分類「(機器分類名)」を変更しました。 <input checked="" type="checkbox"/> 機器分類名を変更しない場合

ログ名	契機	種別	ログ
		管理	“ユーザー名”が機器分類「(旧機器分類名)」を「(新機器分類名)」に変更しました。 ☑機器分類名を変更する場合
	機器分類削除	管理	“ユーザー名”が機器分類「(機器分類名)」を削除しました。
	機器分類一括削除	管理	“ユーザー名”が機器分類を一括削除しました: 「(機器分類名 1)」, 「(機器分類名 2)」, ...
機器自由入力項目ログ	機器自由入力項目作成	管理	“ユーザー名”が機器自由入力項目「(機器自由入力項目名)」を作成しました。
	機器自由入力項目変更	管理	“ユーザー名”が機器自由入力項目「(機器自由入力項目名)」を変更しました。 ☑機器自由入力項目名を変更しない場合
		管理	“ユーザー名”が機器自由入力項目「(旧機器自由入力項目名)」を「(新機器自由入力項目名)」に変更しました。 ☑機器自由入力項目名を変更する場合
	機器自由入力項目削除	管理	“ユーザー名”が機器自由入力項目「(機器自由入力項目名)」を削除しました。
	機器自由入力項目一括削除	管理	“ユーザー名”が機器自由入力項目を一括削除しました: 「(機器自由入力項目名 1)」, 「(機器自由入力項目名 2)」, ...
エージェント共通管理ログ	設定変更	管理	“ユーザー名”がエージェント共通管理の設定を変更しました。
設定バックアップログ	設定変更	管理	“ユーザー名”が設定バックアップの設定を変更しました。
個人設定ログ	環境設定変更	管理	“ユーザー名”が自分の環境設定を変更しました。
	パスワード変更	管理	“ユーザー名”が自分のパスワードを変更しました。
	アプリケーションメモクリア	管理	“ユーザー名”が自分のアプリケーションメモをクリアしました。
SD カード使用制限ログ	設定作成	管理	“ユーザー名”が(機能名)の設定「(設定名)」を作成しました。
	設定変更	管理	“ユーザー名”が(機能名)の設定「(設定名)」を変更しました。 ☑設定名を変更しない場合
		管理	“ユーザー名”が(機能名)の設定「(旧設定名)」を「(新設定名)」に変更しました。 ☑設定名を変更する場合
	設定削除	管理	“ユーザー名”が(機能名)の設定「(設定名)」を削除しました。
	設定一括削除	管理	“ユーザー名”が(機能名)の設定を一括削除しました: 「(設定名 1)」, 「(設定名 2)」, ...
カメラ使用制限ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
アプリケーション禁止ログ	設定作成	管理	(SD カードと同様)
	設定変更	管理	(SD カードと同様)
	設定削除	管理	(SD カードと同様)
	設定一括削除	管理	(SD カードと同様)
	対象アプリケーション追加	管理	“ユーザー名”が(機能名)の設定「(設定名)」に対象アプリケーションを追加しました。

ログ名	契機	種別	ログ
	対象アプリケーション変更	管理	“ユーザー名”が(機能名)の設定「(設定名)」の対象アプリケーションを変更しました。
	対象アプリケーション削除	管理	“ユーザー名”が(機能名)の設定「(設定名)」の対象アプリケーションを削除しました。
	対象アプリケーションをメモから追加	管理	“ユーザー名”が(機能名)の設定「(設定名)」にアプリケーションメモから対象アプリケーションを追加しました。
	インポート		管理
“ユーザー名”が(機能名)の設定「(設定名)」の対象アプリケーションの変更インポートを開始しました。			
“ユーザー名”が(機能名)の設定「(設定名)」の対象アプリケーションの変更インポートを中断しました。 (成功 n 件、失敗 n 件)			
“ユーザー名”がインポートで(機能名)の設定「(設定名)」の対象アプリケーションを一括変更しました。 (成功 n 件、失敗 n 件)			
アプリケーション配信ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
お気に入りログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
Web フィルタリングログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
Wi-Fi ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
Wi-Fi フィルタリングログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
Bluetooth 使用制限ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
スクリーンロックログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
リモートロックログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
リモートワイプログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
発信先制限ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
ウイルス対策機能ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
アプリケーション検知ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
「App とブック」ライセンスログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
位置情報管理ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
外部デバイスログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
CD/DVD/ブルーレイログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
システム診断ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
システムセキュリティログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
暗号化ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)

ログ名	契機	種別	ログ
プロキシログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
デバイス制限ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
CA 証明書管理ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
NFC キットニング 設定ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
Android Enterprise アプリ配信設定ロ グ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
Android Enterprise アプリ個別設定ロ グ	設定作成	管理	“ユーザー名”が Android Enterprise アプリ個別設定 「(設定名)」を作成しました。
	設定更新	管理	“ユーザー名”が Android Enterprise アプリ個別設定 「(設定名)」を変更しました。
	設定削除	管理	“ユーザー名”が Android Enterprise アプリ個別設定 「(設定名)」を削除しました。
	設定一括削除	管理	“ユーザー名”が Android Enterprise アプリ個別設定 を一括削除しました: 「(設定名 1)」, 「(設定名 2)」, ...
Android Enterprise アプリ権限ポリ シーログ	更新	管理	“ユーザー名”が Android Enterprise アプリ権限ポリ シーの設定を変更しました。
Android Enterprise 企業許可アプリロ グ	追加	管理	“ユーザー名”が Android Enterprise 企業許可アプリ に「(アプリ名)」を追加しました。
	削除	管理	“ユーザー名”が Android Enterprise 企業許可アプリ から「(アプリ名)」を削除しました。
Android Enterprise (企業アカウント 登録) 登録ログ	Android Enterprise (企業ア カウント登録) 登録	管理	“ユーザー名”が Android Enterprise(企業アカウント 登録)を登録しました。
	Android Enterprise (企業ア カウント登録) 削除	管理	“ユーザー名”が Android Enterprise(企業アカウント 登録)を削除しました。
セキュリティ設定 (DOM)	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
ゼロタッチ (Android)ログ	Google API 認証登録成功	管理	“ユーザー名”が Google API 認証登録を行いました。
	Google API 認証登録削除	管理	“ユーザー名”が Google API 認証登録を削除しまし た。
	Google API 認証登録失敗	管理	“ユーザー名”が Google API 認証登録を失敗しまし た。
	設定登録作成	管理	“ユーザー名”がゼロタッチの設定登録を作成しまし た。
	設定登録変更	管理	“ユーザー名”がゼロタッチの設定登録を変更しまし た。
機器一覧ログ	同期成功	管理	“ユーザー名”がゼロタッチ登録サーバとの同期を行 いました。
	同期失敗	管理	“ユーザー名”がゼロタッチ登録サーバとの同期を行 いましたが一部の機器が同期に失敗しました。
	ライセンス不足	管理	“ユーザー名”がゼロタッチ登録サーバとの同期を行 いましたが機器ライセンスを超えたため処理を中断 しました。
ゼロタッチ利用規 約ログ	ゼロタッチ利用規約更新	管理	ゼロタッチを使用するためには、最新の利用規約同 意が必要です。
Knox 認証情報ログ	Knox 認証情報作成	管理	“ユーザー名”が Knox 認証情報を作成しました。
	Knox 認証情報変更	管理	“ユーザー名”が Knox 認証情報を変更しました。

ログ名	契機	種別	ログ
	Knox 認証情報削除	管理	“ユーザー名”が Knox 認証情報を削除しました。
	Knox プロファイル情報作成	管理	“ユーザー名”が Knox プロファイル情報を作成しました。
	Knox プロファイル情報変更	管理	“ユーザー名”が Knox プロファイル情報を変更しました。
	Knox プロファイル情報削除	管理	“ユーザー名”が Knox プロファイル情報を削除しました。
機器一覧ログ	Knox サーバ同期 成功	管理	“ユーザー名”が Knox サーバとの同期を行いました。
	Knox サーバ同期 同期失敗	管理	“ユーザー名”が Knox サーバとの同期を行いましたが一部の機器が同期に失敗しました。
	Knox 認証情報 ライセンス数超過	管理	“ユーザー名”が Knox サーバとの同期を行いましたが機器ライセンスを超えたため処理を中断しました。
Secure Shield ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
連絡先ログ	設定作成	管理	(SD カードと同様)
	設定変更	管理	(SD カードと同様)
	設定削除	管理	(SD カードと同様)
	連絡先追加	管理	“ユーザー名”が(機能名)の設定「(設定名)」に連絡先を追加しました。
	連絡先変更	管理	“ユーザー名”が(機能名)の設定「(設定名)」の連絡先を変更しました。
	連絡先削除	管理	“ユーザー名”が(機能名)の設定「(設定名)」の連絡先を削除しました。
	インポート	管理	“ユーザー名”が(機能名)の設定「(設定名)」の連絡先の変更インポートの CSV ファイルをアップロードしました。
		管理	“ユーザー名”が(機能名)の設定「(設定名)」の連絡先の変更インポートを開始しました。
管理		“ユーザー名”が(機能名)の設定「(設定名)」の連絡先の変更インポートを中断しました。(成功 n 件、失敗 n 件)	
管理		“ユーザー名”がインポートで(機能名)の設定「(設定名)」の連絡先を一括変更しました。(成功 n 件、失敗 n 件)	
エージェント個別管理ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
構成プロファイルログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
構成プロファイルアップロードログ	構成プロファイル作成	管理	“ユーザー名”が構成プロファイル「(プロファイル名)」を作成しました。
	構成プロファイル変更	管理	“ユーザー名”が構成プロファイル「(プロファイル名)」を変更しました。 📌 プロファイル名を変更しない場合
		管理	“ユーザー名”が構成プロファイル「(旧プロファイル名)」を「(新プロファイル名)」に変更しました。 📌 プロファイル名を変更する場合
	構成プロファイル削除	管理	“ユーザー名”が構成プロファイル「(プロファイル名)」を削除しました。

ログ名	契機	種別	ログ
	構成プロファイル一括削除	管理	“ユーザー名”が構成プロファイルを一括削除しました: 「(プロファイル名 1)」, 「(プロファイル名 2)」, ...
個別構成プロファイルログ	個別構成プロファイルを作成	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」の個別構成プロファイルを作成しました。
	個別構成プロファイルを変更	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」の個別構成プロファイルを変更しました。
	個別構成プロファイルを削除	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」の個別構成プロファイルを削除しました。
Apple Push 証明書登録ログ	証明書登録	管理	“ユーザー名”が Apple Push 証明書を登録しました。
	証明書削除	管理	“ユーザー名”が Apple Push 証明書を削除しました。
	証明書変更	管理	“ユーザー名”が Apple Push 証明書を変更しました。
	証明書設定変更	管理	“ユーザー名”が Apple Push 証明書の設定を変更しました。
	Apple Push 証明書の有効期限アラート	管理	Apple Push 証明書の有効期限が YYYY/mm/mm HH:MM:SS に切れます。ご利用の Apple ID を使用して手順に従って更新してください。
ライセンス認証ログ	表示	管理	(なし) 🚫 iPhone、iPad 以外の場合
		管理	(なし) 🚫 Safari 以外の場合
初期登録ログ(ポータル)	ログイン	管理	“機器のユーザー名”が初期登録画面を開きました。
	ユーザー登録	管理	“機器のユーザー名”がユーザー「(ユーザー名)」を作成して登録しました。 🚫 ユーザーを新規作成して紐づけた場合
		管理	“機器のユーザー名”がユーザー「(ユーザー名)」を登録しました。 🚫 既存ユーザーに紐づけた場合
	機器情報登録	管理	“機器のユーザー名”が機器情報を登録しました。
ポータルホームログ	ログイン	管理	“機器のユーザー名”がポータルホーム画面を開きました。
ポータル同期ログ	ポータルからの同期	管理	“機器のユーザー名”がポータルから同期の要求を行いました。
ユーザー登録ログ(ポータル)	ユーザー登録	管理	“機器のユーザー名”がユーザー「(ユーザー名)」を作成して登録しました。 🚫 ユーザーを新規作成して紐づけた場合
		管理	“機器のユーザー名”がユーザー「(ユーザー名)」を登録しました。 🚫 既存ユーザーに紐づけた場合
機器情報登録ログ(ポータル)	機器情報登録	管理	“機器のユーザー名”が機器情報を登録しました。
オリジナルアプリ登録ログ	設定作成	管理	“ユーザー名”がオリジナルアプリ「(アプリ名)」を作成しました。
	設定変更	管理	“ユーザー名”がオリジナルアプリ「(旧アプリ名)」を「(新アプリ名)」に変更しました。 🚫 設定名を変更しない場合
		管理	“ユーザー名”がオリジナルアプリ「(アプリ名)」を変更しました。 🚫 設定名を変更する場合

ログ名	契機	種別	ログ
	設定削除	管理	“ユーザー名”がオリジナルアプリ「(アプリ名)」を削除しました。
	設定一括削除	管理	“ユーザー名”がオリジナルアプリを一括削除しました: 「(アプリ名 1)」, 「(アプリ名 2)」, ...
ADE トークン登録ログ	トークン登録	管理	“ユーザー名”がトークンを登録しました。
	トークン削除	管理	“ユーザー名”がトークンを削除しました。
	トークン更新	管理	“ユーザー名”がトークンを変更しました。
	トークン以外更新	管理	“ユーザー名”がトークンの設定を変更しました。
	ADE トークンの有効期限アラート	管理	ADE トークンの有効期限が YYYY/mm/dd HH:MM:SS に切れます。ご利用の Apple ID を使用して手順に従って更新してください。
	ASM 情報再読込	管理	ASM ポータルのクラス「(クラス名)」の読み込みができません。該当クラスの削除後に再度読み込みを行ってください。  ASM のクラスデータに一部設定がない場合
ADE 機器管理ログ	ADE と同期ボタン押下	管理	“ユーザー名”が ADE と同期を行いました。
	除外	管理	“ユーザー名”が ADE 対象機器を除外しました: 「(機器名 1)」, 「(機器名 2)」, ...
	除外解除	管理	“ユーザー名”が ADE 対象機器を除外から解除しました: 「(機器名 1)」, 「(機器名 2)」, ...
アプリカタログログ	作成	管理	“ユーザー名”がオリジナルアプリ「(アプリ名)」のアプリカタログ設定を作成しました。
	更新	管理	“ユーザー名”がオリジナルアプリ「(アプリ名)」のアプリカタログ設定を変更しました。
	削除	管理	“ユーザー名”がオリジナルアプリ「(アプリ名)」のアプリカタログ設定を削除しました。
証明書管理ログ	証明書作成	管理	“ユーザー名”が証明書「(ファイル名)」を作成しました。
	証明書変更	管理	“ユーザー名”が証明書「(ファイル名)」を変更しました。  ファイル名を変更しない場合
		管理	“ユーザー名”が証明書「(旧ファイル名)」を「(新ファイル名)」に変更しました。  ファイル名を変更する場合
	証明書削除	管理	“ユーザー名”が証明書「(ファイル名)」を削除しました。
	証明書一括削除	管理	“ユーザー名”が証明書を一括削除しました: 「(ファイル名 1)」, 「(ファイル名 2)」, ...
証明書一括アップロードログ	証明書一括作成	管理	“ユーザー名”が証明書を一括作成しました: 「(ファイル名 1)」, 「(ファイル名 2)」, ...
通知設定ログ	ログメール通知設定作成	管理	“ユーザー名”がログメール通知設定を作成しました。
	ログメール通知設定変更	管理	“ユーザー名”がログメール通知設定を変更しました。
	ログメール通知設定削除	管理	“ユーザー名”がログメール通知設定を削除しました。
	無通信検知設定作成	管理	“ユーザー名”が無通信検知設定を作成しました。
	無通信検知設定変更	管理	“ユーザー名”が無通信検知設定を変更しました。
	無通信検知設定削除	管理	“ユーザー名”が無通信検知設定を削除しました。

ログ名	契機	種別	ログ
メッセージ通知ログ	メッセージ作成	管理	“ユーザー名”がメッセージ「(メッセージ名)」を作成しました。
	メッセージ変更	管理	“ユーザー名”がメッセージ「(メッセージ名)」を変更しました。 ☑メッセージ名を変更しない場合
		管理	“ユーザー名”がメッセージ「(旧メッセージ名)」を「(新メッセージ名)」に変更しました。 ☑メッセージ名を変更する場合
	メッセージ削除	管理	“ユーザー名”がメッセージ「(メッセージ名)」を削除しました。
	メッセージ配信	管理	“ユーザー名”がメッセージ「(メッセージ名)」を配信しました。
	メッセージ一括削除	管理	“ユーザー名”がメッセージを一括削除しました: 「(メッセージ名 1)」, 「(メッセージ名 2)」, ...
ネットワークログ	設定作成	管理	“ユーザー名”がネットワーク「(ネットワーク名)」を作成しました。
	設定変更	管理	“ユーザー名”がネットワーク「(ネットワーク名)」を変更しました。 ☑ネットワーク名を変更しない場合
		管理	“ユーザー名”がネットワーク「(旧ネットワーク名)」を「(新ネットワーク名)」に変更しました。 ☑ネットワーク名を変更する場合
	設定削除	管理	“ユーザー名”がネットワーク「(ネットワーク名)」を削除しました。
	設定一括削除	管理	“ユーザー名”がネットワークを一括削除しました: 「(ネットワーク名 1)」, 「(ネットワーク名 2)」, ...
	ネットワーク上限	管理	ネットワークは最大数(1,000)までしか作成できないため、ライセンス認証オプションを「なし」に変更しました。
アカウントポリシー設定ログ	設定変更	管理	“ユーザー名”がアカウントポリシー設定を変更しました。
ポータル表示設定ログ	設定変更	管理	“ユーザー名”がポータル表示設定を変更しました。
App Manager ログ	設定変更	管理	“ユーザー名”が App Manager の設定を変更しました。
機器認証設定ログ	機器認証設定の変更	管理	“ユーザー名”が認証制御設定を変更しました。
設定テンプレートログ	設定テンプレート作成	管理	“ユーザー名”が設定テンプレート「(テンプレート名)」を作成しました。
	設定テンプレート変更	管理	“ユーザー名”が設定テンプレート「(テンプレート名)」を変更しました。 ☑設定名を変更しない場合
		管理	“ユーザー名”が設定テンプレート「(旧テンプレート名)」を「(新テンプレート名)」に変更しました。 ☑設定名を変更する場合
	設定テンプレート削除	管理	“ユーザー名”が設定テンプレート「(テンプレート名)」を削除しました。
	設定テンプレート一括削除	管理	“ユーザー名”が設定テンプレートを一括削除しました: 「(テンプレート名 1)」, 「(テンプレート名 2)」, ...

ログ名	契機	種別	ログ
	設定テンプレート適用	管理	“ユーザー名”が機器「(機器名)」に設定テンプレート「(テンプレート名)」を適用しました。
ゾーンログ	設定作成	管理	“ユーザー名”がゾーン「(ゾーン名)」を作成しました。
	設定更新	管理	“ユーザー名”がゾーン「(ゾーン名 1)」を「(ゾーン名 2)」に変更しました。
		管理	“ユーザー名”がゾーン「(ゾーン名)」を変更しました。
	設定削除	管理	“ユーザー名”がゾーン「(ゾーン名)」を削除しました。
	設定一括削除	管理	“ユーザー名”がゾーンを一括削除しました: (ゾーン名)
「App とブック」ライセンス更新ログ	「App とブック」ライセンス同期指示	管理	「(アプリ名)」のライセンスの更新を要求しました。
	「App とブック」ライセンスユーザ登録完了	管理	ユーザー「(ユーザ名)」を「App とブック」に登録しました。((ユーザの GUID))
	「App とブック」ライセンスユーザ登録完了(ユーザーが既に削除されていた場合)	管理	ユーザーを「App とブック」に登録しました。((ユーザの GUID))
	「App とブック」ライセンスユーザ削除完了	管理	ユーザー「(ユーザ名)」を「App とブック」から削除しました。((ユーザの GUID))
	「App とブック」ライセンスユーザ削除完了(ユーザーが既に削除されていた場合)	管理	ユーザーを「App とブック」から削除しました。((ユーザの GUID))
	ライセンス不足	管理	「(アプリ名)」のライセンス数が足りないため割り当てに失敗しました。
	「App とブック」ライセンスユーザ登録指示	管理	ユーザー「(ユーザ名)」を「App とブック」に登録するよう指示しました。((ユーザの GUID))
	「App とブック」ライセンスユーザ削除指示	管理	ユーザー「(ユーザ名)」を「App とブック」から削除するよう指示しました。((ユーザの GUID))
	「App とブック」ライセンスユーザ削除指示(ユーザーが既に削除されていた場合)	管理	ユーザーを「App とブック」から削除するよう指示しました。((ユーザの GUID))
「App とブック」設定テンプレートログ	「App とブック」設定テンプレート作成	管理	“ユーザー名”が「App とブック」設定テンプレート「(テンプレート名)」を作成しました。 🔴 「App とブック」ライセンスを利用しているとき
	「App とブック」設定テンプレート変更	管理	“ユーザー名”が「App とブック」設定テンプレート「(テンプレート名)」を変更しました。 🔴 「App とブック」ライセンスを利用しているとき
		管理	“ユーザー名”が「App とブック」設定テンプレート「(旧テンプレート名)」を「(新テンプレート名)」に変更しました。 🔴 「App とブック」ライセンスを利用しているとき
	「App とブック」設定テンプレート削除	管理	“ユーザー名”が「App とブック」設定テンプレート「(テンプレート名)」を削除しました。 🔴 「App とブック」ライセンスを利用しているとき
	「App とブック」設定テンプレート一括削除	管理	“ユーザー名”が「App とブック」設定テンプレートを一括削除しました: 「(テンプレート名 1)」, 「(テンプレート名 2)」, … 🔴 「App とブック」ライセンスを利用しているとき
管理対象アプリポリシーログ	設定作成	管理	“ユーザー名”が管理対象アプリポリシー「(設定名)」を作成しました。

ログ名	契機	種別	ログ
	設定更新	管理	“ユーザー名”が管理対象アプリポリシー「(設定名)」を変更しました。
	設定更新	管理	“ユーザー名”が管理対象アプリポリシー「(旧設定名)」を「(新設定名)」に変更しました。
	設定削除	管理	“ユーザー名”が管理対象アプリポリシー「(設定名)」を削除しました。
	設定一括削除	管理	“ユーザー名”が管理対象アプリポリシー「(設定名)」を一括削除しました: 「(設定名 1)」, 「(設定名 2)」, ...
ホーム画面レイアウトログ	設定作成	管理	“ユーザー名”がホーム画面レイアウトの設定「(設定名)」を作成しました。
	設定変更	管理	“ユーザー名”がホーム画面レイアウトの設定「(設定名)」を変更しました。
		管理	“ユーザー名”がホーム画面レイアウトの設定「(旧設定名)」を「(新設定名)」に変更しました。
	設定削除	管理	“ユーザー名”がホーム画面レイアウトの設定「(設定名)」を削除しました。
	設定一括削除	管理	“ユーザー名”がホーム画面レイアウトの設定を一括削除しました: 「(設定名 1)」, 「(設定名 2)」, ...
	Page 新規作成	管理	“ユーザー名”がホーム画面レイアウト「(設定名)」の Page を作成しました。
	レイアウト設定変更(Dock)	管理	“ユーザー名”がホーム画面レイアウト「(設定名)」の Dock を変更しました。
	レイアウト設定変更(Page)	管理	“ユーザー名”がホーム画面レイアウト「(設定名)」の Page を変更しました。
	Page 削除	管理	“ユーザー名”がホーム画面レイアウト「(設定名)」の Page を削除しました。
ポリシーログ	設定作成	管理	“ユーザー名”がポリシー「(ポリシー名)」を作成しました。
	設定更新	管理	“ユーザー名”がポリシー「(ポリシー名 1)」を「(ポリシー名 2)」に変更しました。
		管理	“ユーザー名”がポリシー「(ポリシー名)」を変更しました。
	設定削除	管理	“ユーザー名”がポリシー「(ポリシー名)」を削除しました。
	設定一括削除	管理	“ユーザー名”がポリシーを一括削除しました: (ポリシー名)
ゾーンポリシー構成ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
+ browser Safety Manager ログ	お気に入り・Web フィルタリング(操作)	管理	“ユーザー名”が「(機能名)」の設定「(設定名)」を作成しました。
		管理	“ユーザー名”が「(機能名)」の設定「(設定名)」を変更しました。
		管理	“ユーザー名”が「(機能名)」の設定「(旧設定名)」を「(新設定名)」に変更しました。
		管理	“ユーザー名”が「(機能名)」の設定「(設定名)」を削除しました。
		管理	“ユーザー名”が「(機能名)」の設定を一括削除しました: 「(設定名 1)」, 「(設定名 2)」, ...
	お気に入り	機器	機器「(機器名)」のブラウザーがお気に入りの設定を行いました。(n 件スキップ)

ログ名	契機	種別	ログ
		機器	機器「(機器名)」のブラウザがお気に入りの設定に失敗しました。(n 件中 n 件失敗、n 件スキップ)
	Web フィルタリング	機器	機器「(機器名)」のブラウザが Web フィルタリングの設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のブラウザが Web フィルタリングの設定に失敗しました。
	閲覧履歴	機器	機器「(機器名)」の操作者が「(URL)」にアクセスしました (累計(回数)回)。
		機器	機器「(機器名)」のブラウザが Web 閲覧履歴を削除しました
MS Office ライセンス管理ログ	更新	管理	“ユーザー名”が MS Office ライセンス管理でアプリケーション名「(アプリ名)」の保有数を変更しました。
		管理	“ユーザー名”が MS Office ライセンス管理でアプリケーション名「(アプリ名)」からアプリケーション名「(アプリ名)」にライセンス数を移行しました。
初期設定ウィザードおすすめセキュリティの設定ログ	Android 設定テンプレートデフォルト変更	管理	かんたん初期設定により Android 設定テンプレートのデフォルトを「(設定名)」から「(設定名)」に変更しました。
	iOS 設定テンプレートデフォルト変更	管理	かんたん初期設定により iOS 設定テンプレートのデフォルトを「(設定名)」から「(設定名)」に変更しました。
	Windows 設定テンプレートデフォルト変更	管理	かんたん初期設定により Windows 設定テンプレートのデフォルトを「(設定名)」から「(設定名)」に変更しました。
	かんたん初期設定の Android 設定バックアップ変更	管理	かんたん初期設定により“ユーザー名”が Android 設定バックアップを変更しました。
初期設定ウィザードメール通知の送信先設定ログ	かんたん初期設定のログメール通知設定作成	管理	かんたん初期設定により“ユーザー名”がログメール通知設定を作成しました。
	かんたん初期設定のログメール通知設定変更	管理	かんたん初期設定により“ユーザー名”がログメール通知設定を変更しました。
「App とブック」書籍配信機能ログ	書籍インストール実行	管理	機器「(機器名)」に Book 「(書籍 ID)」を配信します。
	書籍インストール成功	管理	機器「(機器名)」に Book「(書籍 ID)」を配信しました。
	書籍インストール失敗	管理	機器「(機器名)」に Book 「(書籍 ID)」の配信に失敗しました。:(エラードメイン:エラーコード)
	書籍削除実行	管理	機器「(機器名)」に Book 「(書籍 ID)」を削除します。
	書籍削除成功	管理	機器「(機器名)」に Book「(書籍 ID)」を削除しました。
	書籍削除失敗	管理	機器「(機器名)」に Book 「(書籍 ID)」の削除に失敗しました。:(エラードメイン:エラーコード)
お知らせ/プロモーション設定ログ	(SD カードと同様)	管理	(SD カードと同様)
デバイス管理者権限ログ	デバイス管理者権限有効化	管理	機器「(機器名)」の操作者がデバイス管理者権限を有効化しました。
	デバイス管理者権限無効化	管理	機器「(機器名)」の操作者がデバイス管理者権限を無効化しました。
Windows 情報保護ログ	削除	管理	1 年以上が経過した Windows 情報保護イベントログ n 件を削除しました。
機器一括削除ログ	削除	管理	"ユーザー名"が機器の削除取り消しを中断しました。(成功 n 件、失敗 n 件)

ログ名	契機	種別	ログ
	一括削除	管理	"ユーザー名"が機器の一括削除を中断しました。 (成功 n 件、失敗 n 件)
	インポート	管理	"ユーザー名"がインポートで機器の削除を取り消しました。 (成功 n 件、失敗 n 件)
		管理	"ユーザー名"がインポートで機器を一括削除しました。 (成功 n 件、失敗 n 件)
		管理	"ユーザー名"が機器の一括削除インポートを開始しました。
		管理	"ユーザー名"が機器の一括削除インポートの CSV ファイルをアップロードしました。
シングル APP モードログ	設定作成	管理	"ユーザー名"がシングル APP モードの設定「(設定名)」を作成しました。(識別 ID= (識別 ID))
	設定変更	管理	"ユーザー名"がシングル APP モードの設定「(設定名)」を変更しました。(識別 ID= (識別 ID))
		管理	"ユーザー名"がシングル APP モードの設定「(旧設定名)」を「(新設定名)」に変更しました。(識別 ID= (識別 ID))
	設定削除	管理	"ユーザー名"がシングル APP モードの設定「(設定名)」を削除しました。
	設定一括削除	管理	"ユーザー名"がシングル APP モードの設定を一括削除しました: 「(設定名 1)」, 「(設定名 2)」, …
	機器削除	管理	"ユーザー名"が機器「(機器名)」の削除に失敗しました。該当機器にシングル APP モードの設定が割り当てられています。  iOS 端末にシングル APP モードの設定が適用されている状態で削除しようとした場合
	機器一括削除	管理	"ユーザー名"が機器の一括削除に失敗しました。該当機器にシングル APP モードの設定が割り当てられています: 「(機器名 1)」, 「(機器名 2)」, …  iOS 端末にシングル APP モードの設定が適用されている状態で削除しようとした場合、削除できた機器は「機器一括削除」のログで出力します。
SAML SSO ログイン成功ログ (※1)	SAML SSO ログイン成功	管理	[KDDI Business ID] "ユーザー名"がログインしました。

※1: ベーシックパックプラスをご利用時にのみ出力されます。

◆システムログ

ログメール通知および検知に関するログの一覧です。

ログ名	契機	種別	ログ
ログメール通知ログ	ログメール通知	管理	ログメール通知に失敗しました。送信先を確認してください: 「<送信先メールアドレス 1>」, 「<送信先メールアドレス 2>」, …  メール送信に失敗した場合
		機器	機器「(機器名)」の通信が(最終通信日時)から(指定期間)以上ありませんでした。  無通信状態になった場合
		機器	機器「(機器名)」の通信が回復しました。  無通信状態から回復した場合
同期完了ログ	手動同期完了	機器	機器「(機器名)」の同期を行いました。  管理サイトから手動同期した場合

ログ名	契機	種別	ログ
未保護ログ	未保護	機器	機器「(機器名)」がウイルス対策ソフトで保護されていません。
脅威検知ログ	脅威検知	機器	機器「(機器名)」のウイルス対策ソフトが脅威を検出しました: 「脅威名 1 (ファイルパス 1)」, 「脅威名 2 (ファイルパス 2)」, ...
推奨アプリ非検知ログ	推奨アプリ非検知	機器	機器「(機器名)」にインストール推奨アプリケーション「(アプリ名)」がインストールされていません。
非推奨アプリ検知ログ	非推奨アプリ検知	機器	機器「(機器名)」にインストール非推奨アプリケーション「(アプリ名)」がインストールされています。
推奨アプリ検知ログ	推奨アプリ検知	機器	機器「(機器名)」にインストール推奨アプリケーション「(アプリ名)」がインストールされました。
非推奨アプリ非検知ログ	非推奨アプリ非検知	機器	機器「(機器名)」からインストール非推奨アプリケーション「(アプリ名)」がアンインストールされました。
アプリ検知対象外ログ	アプリ検知対象外	機器	機器「(機器名)」のアプリケーション「(アプリ名またはアプリ識別名)」が検知対象外となりました。
Apple Push 証明書の有効期限アラートログ	バッチ処理	管理	Apple Push 証明書の有効期限が yyyy/mm/dd HH:MM:SS に切れま す。ご利用の Apple ID を使用して手順に従って更新してください。  60 日前、30 日前、14 日前、7 日前～有効期限の 1 日前
「App とブック」参加依頼ログ	「App とブック」参加依頼	機器	機器「%{asset}」に参加依頼を送付しました。
		機器	機器「%{asset}」への参加依頼が失敗しました:
		機器	機器「%{asset}」に参加依頼を送付します。
APNs フィードバックログ	エージェント同期不可検知	機器	機器「(機器名)」のエージェント同期ができなくなりました。エージェントを再度認証してください。
	構成プロファイル同期不可検知	機器	機器「(機器名)」の MDM 構成プロファイルについて同期ができなくなりました。機器の再認証を行ってください。

◆Apple MDM ログ

Apple が提供する MDM に関するログの一覧です。

 以下 Apple MDM ログの他にログが出力されることがあります。ログの詳細については Apple と Apple Developer Enterprise Program の契約をすると入手できる「MDM Protocol Reference」に記載されています。

。ログ名	契機	種別	ログ
ライセンス認証ログ	ライセンス認証	機器	機器「(機器名)」を認証しました。
		機器	機器「(機器名)」の認証に失敗しました。ライセンス数が足りません。  ライセンス数を超えて機器を認証しようとした場合
		機器	機器「(機器名)」の認証に失敗しました。既に組織と紐付いています。
		機器	機器「(機器名)」の認証に失敗しました。非対応端末の可能性が あります。対応端末は「iPhone/iPad」です。  Mac OS 機器を iOS 機器として認証しようとした場合
		機器	機器「(機器名)」の認証に失敗しました。機器が除外されています。
リモートロックログ	リモートロックコマンド取得	機器	機器「(機器名)」のリモートロックを行います。

。ログ名	契機	種別	ログ
	リモートロックコマンド完了	機器	機器「(機器名)」のリモートロックを行いました。
	リモートロックコマンド失敗	機器	機器「(機器名)」のリモートロックが失敗しました: “エラーメッセージ”(“エラードメイン”:“エラーコード”)
リモートワイプログ	リモートワイプコマンド取得	機器	機器「(機器名)」のリモートワイプを行います。
	リモートワイプコマンド完了	機器	機器「(機器名)」のリモートワイプを行いました。
	リモートワイプコマンド失敗	機器	機器「(機器名)」のリモートワイプが失敗しました: “エラーメッセージ”(“エラードメイン”:“エラーコード”)
パスコード削除ログ	パスコード削除コマンド取得	機器	機器「(機器名)」のパスコード削除を行います。
	パスコード削除コマンド完了	機器	機器「(機器名)」のパスコード削除を行いました。
	パスコード削除コマンド失敗	機器	機器「(機器名)」のパスコード削除が失敗しました: “エラーメッセージ”(“エラードメイン”:“エラーコード”)
重要な iOS バージョンのリリースログ	重要な iOS バージョンのリリース情報取得	機器	重要な iOS バージョンのリリースがあります: バージョン「バージョン番号」
紛失モードログ	紛失モード通知	機器	機器「(機器名)」を紛失モードに移行します。
	紛失モード実行	機器	機器「(機器名)」を紛失モードに移行しました。
	紛失モード失敗	機器	機器「(機器名)」の紛失モードへの移行が失敗しました。: “エラーメッセージ”(“エラードメイン”:“エラーコード”)
位置情報取得ログ	位置情報取得通知	機器	機器「(機器名)」に位置情報の取得を行います。
	位置情報取得実行	機器	機器「(機器名)」の位置情報を取得を行いました。
	位置情報取得失敗	機器	機器「(機器名)」の位置情報の取得に失敗しました。: “エラーメッセージ”(“エラードメイン”:“エラーコード”)
紛失モード解除ログ	紛失モード解除通知	機器	機器「(機器名)」に紛失モード解除を行います。
	紛失モード解除実行	機器	機器「(機器名)」に紛失モード解除を行いました。
	紛失モード解除失敗	機器	機器「(機器名)」の紛失モード解除が失敗しました。: “エラーメッセージ”(“エラードメイン”:“エラーコード”)
リモート再起動ログ	リモート再起動コマンド取得	機器	機器「(機器名)」にリモート再起動を指示しました。
	リモート再起動コマンド完了	機器	機器「(機器名)」のリモート再起動を行いました。
	リモート再起動コマンド失敗	機器	機器「(機器名)」のリモート再起動に失敗しました。: “エラーメッセージ”(“エラードメイン”:“エラーコード”)
リモートシャットダウンログ	リモートシャットダウンコマンド取得	機器	機器「(機器名)」にリモートシャットダウンを指示しました。
	リモートシャットダウンコマンド完了	機器	機器「(機器名)」のリモートシャットダウンを行いました。
	リモートシャットダウンコマンド失敗	機器	機器「(機器名)」のリモートシャットダウンに失敗しました。: “エラーメッセージ”(“エラードメイン”:“エラーコード”)
構成プロファイルインストールログ	構成プロファイルインストールコマンド取得	機器	機器「(機器名)」に構成プロファイル「(プロファイル名)」をインストールします。

。ログ名	契機	種別	ログ
	構成プロファイルインストール コマンド完了	機器	機器「(機器名)」に構成プロファイル「(プロファイル名)」をインストールしました。
	構成プロファイルインストール コマンド延期	機器	機器「(機器名)」への構成プロファイル「(プロファイル名)」のインストールが一時的に延期されました。 🔴 iOS 端末の仕様によりスクリーンロックされている間は、インストールされないため表示されます。
	構成プロファイルインストール コマンド失敗	機器	機器「(機器名)」への構成プロファイル「(プロファイル名)」のインストールが失敗しました: “エラーメッセージ”(“エラーコード”)
	構成プロファイルインストール コマンド失敗(教育プロファイル ユーザー無所属)	機器	機器「(機器名)」への構成プロファイル「(プロファイル名)」のインストールが失敗しました: 機器のユーザー「(ユーザー名)」がクラスに所属していないため、構成プロファイルのインストールが行われませんでした。
構成プロファイル削除ログ	構成プロファイル削除コマンド取得	機器	機器「(機器名)」から構成プロファイル「(プロファイル名)」を削除します。
	構成プロファイル削除コマンド完了	機器	機器「(機器名)」から構成プロファイル「(プロファイル名)」を削除しました。
	構成プロファイル削除コマンド延期	機器	機器「(機器名)」からの構成プロファイル「(プロファイル名)」の削除が一時的に延期されました。
	構成プロファイル削除コマンド失敗	機器	機器「(機器名)」からの構成プロファイル「(プロファイル名)」の削除が失敗しました: “エラーメッセージ”(“エラーコード”)
ローミング設定ログ	ローミング設定コマンド取得	機器	機器「(機器名)」にローミング設定の変更を行います。
	ローミング設定コマンド完了	機器	機器「(機器名)」にローミング設定の変更を行いました。
	ローミング設定コマンド延期	機器	機器「(機器名)」のローミング設定が一時的に延期されました。
	ローミング設定コマンド失敗	機器	機器「(機器名)」のローミング設定が失敗しました。
Per app VPN 設定	Per app VPN コマンド取得	機器	機器「(機器名)」に Per app VPN の設定を行います。
	Per app VPN コマンド完了	機器	機器「(機器名)」に Per app VPN の設定を行いました。
	Per app VPN コマンド延期	機器	機器「(機器名)」の Per app VPN の設定が一時的に延期されました。
	Per app VPN コマンド失敗	機器	機器「(機器名)」の Per app VPN の設定が失敗しました。
Shared iPad ユーザー最大数設定ログ	Shared iPad ユーザー最大数設定 コマンド取得	機器	機器「(機器名)」にユーザー最大数の設定を行います。
	Shared iPad ユーザー最大数設定 コマンド完了	機器	機器「(機器名)」にユーザー最大数の設定を行いました。
	Shared iPad ユーザー最大数設定 コマンド延期	機器	機器「(機器名)」のユーザー最大数の設定が一時的に延期されました。

。ログ名	契機	種別	ログ
	Shared iPad ユーザー最大数設定 コマンド失敗	機器	機器「(機器名)」のユーザー最大数の設定が失敗しました。
アプリケーションのインストールログ	アプリケーションのインストール コマンド取得	機器	機器「(機器名)」にアプリケーション「(アプリ名)」をインストールします。
	アプリケーションのインストール コマンド完了	機器	機器「(機器名)」にアプリケーション「(アプリ名)」のインストールを通知しました。
	アプリケーションのインストール コマンド失敗	機器	機器「(機器名)」にアプリケーション「(アプリ名)」のインストールを通知できませんでした: エラー内容(エラードメイン:エラーコード)
	アプリケーションのインストール コマンド失敗(有料アプリ)	機器	機器「(機器名)」にアプリケーション「(アプリ名)」のインストールを通知できませんでした: 有料アプリのためインストールに失敗しました。
アプリケーションのバージョンアップログ	アプリケーションのバージョンアップコマンド取得	機器	機器「(機器名)」のアプリケーション「(アプリ名)」をバージョンアップします。
	アプリケーションのバージョンアップコマンド完了	機器	機器「(機器名)」にアプリケーション「(アプリ名)」のバージョンアップを通知しました。
	アプリケーションのバージョンアップコマンド失敗	機器	機器「(機器名)」にアプリケーション「(アプリ名)」のバージョンアップを通知できませんでした: エラー内容(エラードメイン:エラーコード)
	アプリケーションのバージョンアップコマンド失敗(有料アプリ)	機器	機器「(機器名)」にアプリケーション「(アプリ名)」のバージョンアップを通知できませんでした: 有料アプリのためバージョンアップに失敗しました。
アプリケーションの強制バージョンアップログ	アプリケーションの強制バージョンアップコマンド取得	機器	機器「(機器名)」のアプリケーション「(アプリ名)」を強制バージョンアップします。
	アプリケーションの強制バージョンアップコマンド完了	機器	機器「(機器名)」にアプリケーション「(アプリ名)」の強制バージョンアップを通知しました。
	アプリケーションの強制バージョンアップコマンド失敗	機器	機器「(機器名)」にアプリケーション「(アプリ名)」の強制バージョンアップを通知できませんでした: エラー内容(エラードメイン:エラーコード)
	アプリケーションの強制バージョンアップコマンド失敗(有料アプリ)	機器	機器「(機器名)」にアプリケーション「(アプリ名)」の強制バージョンアップを通知できませんでした: 有料アプリのため強制バージョンアップに失敗しました。
アプリケーション設定コマンドログ	アプリケーション設定コマンド コマンド失敗	機器	機器「(機器名)」のアプリケーション設定が失敗しました。
Bypass Code 設定コマンドログ	Bypass Code 設定コマンド取得	機器	機器「(機器名)」からバイパスコードを取得します。
	Bypass Code 設定コマンド完了	機器	機器「(機器名)」からバイパスコードを取得しました。(「バイパスコード」)
	Bypass Code 設定コマンド失敗	機器	機器「(機器名)」からのバイパスコードの取得に失敗しました: “エラーメッセージ”(“エラードメイン”:“エラーコード”)

。ログ名	契機	種別	ログ
OSアップデートのスキップログ	OS アップデートのスキップ (非対応 OS かつ非監視対象端末)	機器	機器「(機器名)」が非対応の OS バージョンかつ非監視対象であるため、OS ダウンロードまたはインストールをスキップしました。OS バージョンアップは「iOS 12.3」以上の監視対象端末でのみ実施可能です。
		機器	機器「(機器名)」が非対応の OS バージョンかつ非監視対象端末であるため、OS ダウンロードをスキップしました。OS バージョンアップは「iOS 12.3」以上の監視対象端末でのみ実施可能です。
		機器	機器「(機器名)」が非対応の OS バージョンかつ非監視対象端末であるため、OS インストールをスキップしました。OS バージョンアップは「iOS 12.3」以上の監視対象端末でのみ実施可能です。
	OS アップデートのスキップ (非対応 OS)	機器	機器「(機器名)」が非対応の OS バージョンであるため、OS ダウンロードまたはインストールをスキップしました。OS バージョンアップは「iOS 12.3」以上の監視対象端末でのみ実施可能です。
		機器	機器「(機器名)」が非対応の OS バージョンであるため、OS ダウンロードをスキップしました。OS バージョンアップは「iOS 12.3」以上の監視対象端末でのみ実施可能です。
		機器	機器「(機器名)」が非対応の OS バージョンであるため、OS インストールはスキップしました。OS バージョンアップは「iOS 12.3」以上の監視対象端末でのみ実施可能です。
	OS アップデートのスキップ (非監視対象端末)	機器	機器「(機器名)」が非監視対象端末のため、OS ダウンロードまたはインストールをスキップしました。OS バージョンアップは「iOS 12.3」以上の監視対象端末でのみ実施可能です。
		機器	機器「(機器名)」が非監視対象端末のため、OS ダウンロードをスキップしました。OS バージョンアップは「iOS 12.3」以上の監視対象端末でのみ実施可能です。
		機器	機器「(機器名)」が非監視対象端末のため、OS インストールをスキップしました。OS バージョンアップは「iOS 12.3」以上の監視対象端末でのみ実施可能です。
OSダウンロードまたはインストールログ	OS ダウンロードまたはインストール取得	機器	機器「(機器名)」の OS ダウンロードまたはインストール指示を行います。
	OS ダウンロードまたはインストール完了	機器	機器「(機器名)」の OS ダウンロードまたはインストール指示を行いました。
	OS ダウンロードまたはインストール失敗	機器	機器「(機器名)」の OS ダウンロードまたはインストール指示が失敗しました。(「エラーメッセージ」:「エラーコード」)
OSダウンロードログ	OS ダウンロード取得	機器	機器「(機器名)」の OS ダウンロード指示を行います。
	OS ダウンロード完了	機器	機器「(機器名)」の OS ダウンロード指示を行いました。
	OS ダウンロード失敗	機器	機器「(機器名)」の OS ダウンロード指示が失敗しました。(「エラーメッセージ」:「エラーコード」)
OSインストールログ	OS インストール取得	機器	機器「(機器名)」の OS インストール指示を行います。
	OS インストール完了	機器	機器「(機器名)」の OS インストール指示を行いました。
	OS インストール失敗	機器	機器「(機器名)」の OS インストール指示が失敗しました。(「エラーメッセージ」:「エラーコード」)

。ログ名	契機	種別	ログ
アプリカタログ強制アップデートログ	アプリカタログ強制アップデート取得	機器	機器「(機器名)」のアプリケーション「(アプリケーション ID)」を強制バージョンアップします。
		機器	機器「(機器名)」にアプリケーション「(アプリケーション ID)」をインストールします。
	アプリカタログ強制アップデート完了	機器	機器「(機器名)」にアプリケーション「(アプリケーション ID)」の強制バージョンアップを通知しました。
シングル APP モードの適用失敗ログ	適用延期	機器	機器「(機器名)」に対象アプリケーション「(アプリケーション ID)」がインストールされていないため、構成プロファイル「(プロファイル名)」のインストールが一時的に延期されました。((試行回数) / (試行上限) 回目) <input checked="" type="checkbox"/> シングル APP モードで指定したアプリが機器にインストールされていない場合
	適用延期回数超過	機器	機器「(機器名)」の構成プロファイル「(プロファイル名)」の延期が一定回数を超えたため、シングル APP モードの設定に失敗しました。 <input checked="" type="checkbox"/> シングル APP モードの適用延期が試行上限に達した場合
	削除フラグあり	機器	機器「(機器名)」が削除予約の対象として指定されているため、シングル APP モードの設定に失敗しました。 <input checked="" type="checkbox"/> CSV 削除で削除フラグを付与した機器にシングル APP モード設定を割り当て同期した場合
	実行可能：いいえ	機器	機器「(機器名)」の対象アプリケーション「(アプリケーション ID)」が実行可能ではないため、構成プロファイル「(プロファイル名)」のインストールに失敗しました。 <input checked="" type="checkbox"/> 対象アプリケーションが、機器画面のアプリ詳細で「実行可能：いいえ」となっている場合
SIM ステータス変更検知ログ	SIM 取出し時	機器	機器「(機器名)」の SIM ステータス変更検知 - 電話番号/ICCID:「(電話番号)/(ICCID)」の取り出しを検知しました。
	SIM 挿入時	機器	機器「(機器名)」の SIM ステータス変更検知 - 電話番号/ICCID:「(電話番号)/(ICCID)」の挿入を検知しました。

◆Android エージェントログ

Android エージェントの動作に関するログの一覧です。

ログ名	契機	種別	ログ
ライセンス認証ログ	ライセンス認証	機器	機器「(機器名)」のエージェントを認証しました。
即時バックアップログ	即時バックアップ	機器	機器「(機器名)」のエージェントが即時バックアップに失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが即時バックアップを行いましたが、前回のバックアップから変更がありませんでした: 復元コード「<復元コード>」
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが即時バックアップを行いました: 復元コード「<復元コード>」
定期バックアップログ	定期バックアップ	機器	機器「(機器名)」のエージェントが定期バックアップに失敗しました。

ログ名	契機	種別	ログ
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが定期バックアップを行いました。前回のバックアップから変更がありませんでした: 復元コード「<復元コード>」
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが定期バックアップを行いました: 復元コード「<復元コード>」
アプリケーション禁止ログ	アプリケーション禁止	機器	機器「(機器名)」のエージェントがアプリケーション「(アプリ名(パッケージ名))」をアプリケーション禁止により終了させました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがアプリケーション「(アプリ名(パッケージ名))」をインストール禁止により終了させました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがアプリケーション「(アプリ名(パッケージ名))」をカメラ禁止により終了させました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがアプリケーション「(アプリ名(パッケージ名))」の画面「(画面名(アクティビティ名))」をアプリケーション禁止により終了させました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが画面「(共通画面名)」をアプリケーション禁止により終了させました。
リモートワイプログ	リモートワイプ	機器	機器「(機器名)」のエージェントがリモートワイプを行います。
		機器	機器「(機器名)」でリモートワイプが実行されませんでした。
スクリーンロックログ	スクリーンロック	機器	機器「(機器名)」のエージェントがスクリーンロックの設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがスクリーンロックの設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが端末が非対応 OS のためスクリーンロックの設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」の操作者が指定回数連続でのパスワードの入力に失敗したため、端末をロックします。
		機器	機器「(機器名)」の操作者が指定回数連続でのパスワードの入力に失敗したため、端末をワイプしました。
		機器	機器「(機器名)」の指定回数連続でのパスワード入力失敗による端末ロックを解除します。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがリモートロック警告音の鳴動に失敗しました。
スクリーンロックのパスワード変更ログ	スクリーンロックのパスワード変更	機器	機器「(機器名)」のエージェントがスクリーンロックのパスワードを変更しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがスクリーンロックのパスワード変更失敗しました。
リモートロックログ	リモートロック	機器	機器「(機器名)」のエージェントがロック画面を表示しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがロック画面を解除しました。
		機器	機器「(機器名)」の操作者が正しい解除コードを入力しました。
		機器	機器「(機器名)」の操作者が不正な解除コードを入力しました。

ログ名	契機	種別	ログ
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがリモートロック有効の設定を受信しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがリモートロック無効の設定を受信しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントと管理サーバーの通信が一定時間途絶えました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントと管理サーバーの通信が回復しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが Android システムロックコマンドを受信しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが Android システムロック画面を表示しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが Android システムロック画面の表示に失敗しました。
暗号化ログ	暗号化	機器	機器「(機器名)」のエージェントが暗号化の設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが暗号化の設定に失敗しました。
root 化状態検知ログ	root 化状態検知	機器	機器「(機器名)」のエージェントが端末の root 化を検知しました。
Bluetooth 使用制限ログ	Bluetooth 使用制限	機器	機器「(機器名)」のエージェントが端末が機内モードのため Bluetooth の設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが Bluetooth の設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが Bluetooth の設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが端末が非対応 OS のため Bluetooth の設定に失敗しました。
ウイルス対策機能ログ	ウイルス対策機能	機器	機器「(機器名)」がウイルス対策ソフトで保護されていません。
		機器	機器「(機器名)」のウイルス対策ソフトが脅威を検出しました: 「(脅威名 1 (ファイルパス 1))」, 「(脅威名 2 (ファイルパス 2))」, ...
お気に入りログ	お気に入り	機器	機器「(機器名)」のエージェントがお気に入りの設定を行いました。(n 件スキップ)
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがお気に入りの設定に失敗しました。(n 件中 n 件失敗、n 件スキップ)
カメラ使用制限ログ	カメラ使用制限	機器	機器「(機器名)」のエージェントがカメラの設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがカメラの設定に失敗しました。
通知設定ログ	無通信検知	機器	機器「(機器名)」の通信が回復しました。
		機器	機器「(機器名)」の通信が”最終通信時間”から”設定したタイムアウト間隔”以上ありませんでした。
連絡先ログ	連絡先	機器	機器「(機器名)」のエージェントが連絡先の設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが連絡先の設定に失敗しました。(n 件中 n 件失敗)
エージェント個別管理ログ	エージェント個別管理	機器	機器「(機器名)」のエージェントがエージェント個別管理の設定を行いました。

ログ名	契機	種別	ログ
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがエージェント個別管理の設定に失敗しました。
位置情報ログ	位置情報管理	機器	機器「(機器名)」のエージェントが位置情報管理の設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが位置情報管理の設定に失敗しました。
	位置情報	機器	機器「(機器名)」のエージェントが位置情報の設定を行いました。(無線ネットワーク: 結果、GPS 機能: 結果)
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが位置情報の設定に非対応です。
	GPS 機能の設定変更	機器	機器「(機器名)」の GPS 機能設定が「(変更前)」から「(変更後)」に変更されました。
	無線ネットワークの設定変更	機器	機器「(機器名)」の無線ネットワーク設定が「(変更前)」から「(変更後)」に変更されました。
SD カード使用制限ログ	SD カード使用制限	機器	機器「(機器名)」のエージェントが SD カードの設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが SD カードの設定に失敗しました。
Web フィルタリングログ	Web フィルタリング	機器	機器「(機器名)」のエージェントが Web フィルタリングの設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが Web フィルタリングの設定に失敗しました。
Wi-Fi ログ	Wi-Fi	機器	機器「(機器名)」のエージェントが端末が機内モードのため Wi-Fi の設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが Wi-Fi の設定を行いました。(n 件スキップ)
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが Wi-Fi の設定に失敗しました。(n 件中 n 件失敗、n 件スキップ)
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが端末の Wi-Fi が無効になっているため Wi-Fi の設定に失敗しました。
Wi-Fi フィルタリングログ	Wi-Fi フィルタリング	機器	機器「(機器名)」のエージェントが Wi-Fi フィルタリングの設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが Wi-Fi フィルタリングの設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが端末が非対応 OS のため Wi-Fi フィルタリングの設定に失敗しました。
Web 閲覧履歴管理ログ	Web 閲覧履歴管理	機器	機器「(機器名)」の操作者が「(URL)」にアクセスしました(累計(回数)回)。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが Web 閲覧履歴を削除しました。
発信先制限ログ	発信先制限	機器	機器「(機器名)」のエージェントが電話番号「<電話番号>」の発信を禁止しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが発信先制限の設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが発信先制限の設定に失敗しました。
Secure Shield ログ	Secure Shield	機器	機器「(機器名)」のエージェントの Secure Shield の設定を行いました。

ログ名	契機	種別	ログ
		機器	機器「(機器名)」のエージェントの Secure Shield の設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントの Secure Shield がメニューリストの取得を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントの Secure Shield がメニューリストの取得に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントは Secure Shield に対応していません。
NFC キットティング設定ログ	NFC キットティング設定	機器	機器「(機器名)」のエージェントが NFC キットティングの設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが NFC キットティングの設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが端末が非対応 OS のため NFC キットティングの設定に失敗しました。
Android Enterprise アプリ配信設定ログ	Android Enterprise アプリ配信設定	機器	機器「(機器名)」のエージェントがアプリのパーミッション設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがアプリのパーミッション設定に失敗しました。
Android Enterprise アプリ権限ポリシーログ	Android Enterprise アプリ権限ポリシー	機器	機器「(機器名)」のエージェントが Google EMM API の実行に失敗しました。
Android Enterprise アカウント登録ログ	Android Enterprise アカウント登録	機器	機器「(機器名)」のエージェントがデフォルトのランタイムパーミッション設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがデフォルトのランタイムパーミッション設定に失敗しました。
セキュリティ設定 (DOM) ログ	セキュリティ設定 (DOM)	機器	機器「(機器名)」のエージェントがセキュリティ設定 (DOM) を行いました。 機器「(機器名)」のエージェントがセキュリティ設定 (DOM) に失敗しました。 機器「(機器名)」のエージェントが Device Owner Mode ではないためセキュリティ設定 (DOM) に失敗しました。
スクリーンロックパスワードトークンログ	スクリーンロックパスワードトークンの設定状況を保存に成功	機器	機器「(機器名)」のスクリーンロックのパスワード変更の事前設定が完了しました。
	スクリーンロックパスワードトークンの設定のユーザーによる認証拒否	機器	機器「(機器名)」のスクリーンロックのパスワード変更の事前設定が拒否されました。
	スクリーンロックパスワードトークンの設定状況を保存に失敗	機器	機器「(機器名)」のスクリーンロックのパスワード変更の事前設定が失敗しました。
スクリーンロックパスワードログ	スクリーンロック PW リセット成功	機器	機器「(機器名)」のエージェントがスクリーンロックのパスワードを変更しました。
	スクリーンロック PW リセット失敗	機器	機器「(機器名)」のエージェントがスクリーンロックのパスワード変更失敗しました。
	スクリーンロックパスワードのリセット	機器	機器「(機器名)」のエージェントが Device Owner Mode ではないため、スクリーンロックのパスワード変更失敗しました。
機器		機器「(機器名)」のエージェントがスクリーンロックのパスワード変更の事前設定を完了していないため、スクリーンロックのパスワード変更失敗しました。	

ログ名	契機	種別	ログ
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがスクリーンロックのパスワード変更の事前設定の承認を得ていないため、スクリーンロックのパスワード変更に失敗しました。
マイグレーション失敗ログ	マイグレーション失敗	機器	機器「(機器名)」のエージェントのデータ移行に失敗しました。
従来版からストア版への移行機能ログ	[成功]デバイス管理者の移行が成功	機器	機器「(機器名)」のエージェントの移行が完了しました。
	[失敗]エージェントにDOM権限がない	機器	機器「(機器名)」のエージェントの移行が失敗しました。エージェントにDOM権限がありません。
	[失敗]使用端末がAndroidP未満のため	機器	機器「(機器名)」エージェントの移行が失敗しました。対応OSはAndroid9以降です。
	[失敗]移行先エージェントがない	機器	機器「(機器名)」のエージェントの移行が失敗しました。移行先エージェントがありません。
	[失敗]移行先エージェントが正しくない	機器	機器「(機器名)」のエージェントの移行が失敗しました。移行先エージェントが正しくありません。
OSアップデート設定(DOM)ログ	OS アップデート設定(DOM)	機器	機器「(機器名)」がOSアップデート設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」がOSアップデート設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」Device Owner ModeではないためOSアップデート設定に失敗しました。
クライアント証明書ログ	クライアント証明書	機器	機器「(機器名)」のエージェントがクライアント証明書の設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがクライアント証明書の設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが端末が非対応OSのためクライアント証明書の設定に失敗しました。
認証情報修復ログ	認証情報修復	機器	機器「(機器名)」の認証情報の修復を行います。
位置情報ログ	位置情報	機器	機器「(機器名)」の正確な位置情報設定が(設定値)から(設定値)に変更されました。
OSアップデートログ	OSアップデート	機器	エージェントがOSアップデート設定を行いました。
アプリの通知設定変更ログ	アプリの通知設定変更	機器	機器「(機器名)」のエージェントの通知権限が許可に変更されました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントの通知権限が不許可に変更されました。
SIMステータス変更検知ログ	SIM 取出し時	機器	機器「(機器名)」のSIMステータス変更検知 - 電話番号/ICCID:「(電話番号)/(ICCID)」の取り出しを検知しました。
	SIM 挿入時	機器	機器「(機器名)」のSIMステータス変更検知 - 電話番号/ICCID:「(電話番号)/(ICCID)」の挿入を検知しました。

◆iOS エージェントログ

iOS エージェントの動作に関するログの一覧です。

ログ名	契機	種別	ログ
ライセンス認証ログ	ライセンス認証	機器	機器「(機器名)」のエージェントを認証しました。
		機器	機器「(機器名)」の認証に失敗しました。ライセンス認証待ち機器ではありません。
構成プロファイルチェックアウト検知ログ	構成プロファイルチェックアウト検知	機器	機器「(機器名)」の MDM 構成プロファイルが削除され管理から外れました。
	構成プロファイル同期不可復帰	機器	機器「(機器名)」が再認証されたため、MDM 構成プロファイルについて同期ができるようになりました。
Jailbreak 検知ログ	エージェント共通管理(iOS)	機器	機器「(機器名)」のエージェントが端末の Jailbreak を検知しました。
エージェント同期不可ログ	エージェント同期不可復帰	機器	機器「(機器名)」から通信があったため、エージェント同期不可状態から復帰しました。
構成プロファイル同期不可検知ログ	構成プロファイル同期不可検知	機器	機器「(機器名)」の MDM 構成プロファイルについて同期ができなくなりました。機器の再認証を行ってください。
アクティベーションロック解除ログ	アクティベーションロック解除成功	機器	機器「(機器名)」のアクティベーションロックが解除されました。(「バイパスコード」)
	アクティベーションロック解除失敗	機器	機器「(機器名)」のアクティベーションロック解除が失敗しました: “エラーメッセージ”(“エラードメイン”: “エラーコード”)
クライアント証明書ログ	クライアント証明書設定成功	機器	機器「(機器名)」のエージェントがクライアント証明書の設定を行いました。
	クライアント証明書設定失敗	機器	機器「(機器名)」のエージェントがクライアント証明書の設定に失敗しました。
	クライアント証明書設定非対応	機器	機器「(機器名)」のエージェントが端末が非対応 OS のためクライアント証明書の設定に失敗しました。
ADE 定義プロファイルログ	非対象機器エラー	管理	端末が ADE に登録されていないため、ADE 定義プロファイル「(ADE 定義プロファイル名)」の割り当てに失敗しました: 「(デバイスの Serial Number1)」, 「(デバイスの Serial Number2)」, …
	設定失敗エラー	機器	ADE 定義プロファイル「(ADE 定義プロファイル名)」の割り当てに失敗しました: 「(デバイスの Serial Number1)」, 「(デバイスの Serial Number2)」, …
	非対象機器エラー	管理	端末が ADE に登録されていないため、ADE 定義プロファイルの割り当て解除に失敗しました: 「(デバイスの Serial Number1)」, 「(デバイスの Serial Number2)」, …
	設定失敗エラー	機器	ADE 定義プロファイルの割り当て解除に失敗しました: 「(デバイスの Serial Number1)」, 「(デバイスの Serial Number2)」, …

◆Mac OS プロファイルログ

Mac OS プロファイルの動作に関するログの一覧です。

ログ名	種別	ログ
Mac OS 全機器一括リモートロック	管理	ユーザー「ユーザー名」が全ての Mac OS 機器にリモートロックを通知しました。
Mac OS 一括リモートロック	管理	ユーザー「ユーザー名」が「分類名」が「グループ名」の Mac OS 機器にリモートロックを通知しました。
Mac OS 全機器一括リモートワイプ	管理	ユーザー「ユーザー名」が全ての Mac OS 機器にリモートワイプを通知しました。
Mac OS 一括リモートワイプ	管理	ユーザー「ユーザー名」が「分類名」が「グループ名」の Mac OS 機器にリモートワイプを通知しました。
リモートロック通知	管理	ユーザー「ユーザー名」が機器「(機器名)」にリモートロックを通知しました。
リモートワイプ通知	管理	ユーザー「ユーザー名」が機器「(機器名)」にリモートワイプを通知しました。
更新	管理	ユーザー「ユーザー名」がエージェント共通管理の設定を変更しました。
コマンド取得	機器	機器「(機器名)」のリモートロックを行います。(PIN コード:PIN コード)
コマンド完了	機器	機器「(機器名)」のリモートロックを行いました。
コマンド失敗	機器	機器「(機器名)」のリモートロックが失敗しました: LocalizedDescription(ErrorDomain:ErrorCode)
コマンド取得	機器	機器「(機器名)」のリモートワイプを行います。(PIN コード:PIN コード)
コマンド完了	機器	機器「(機器名)」のリモートワイプを行いました。
コマンド失敗	機器	機器「(機器名)」のリモートワイプが失敗しました: LocalizedDescription(ErrorDomain:ErrorCode)
Mac OS 一括リモートロック	管理	Mac OS 機器にリモートロックを一括通知しました。
Mac OS 一括リモートワイプ	管理	Mac OS 機器にリモートワイプを一括通知しました。
リモートロック通知	管理	機器にリモートロックを通知しました。
リモートワイプ通知	管理	機器にリモートワイプを通知しました。
更新	管理	エージェント共通管理の設定を変更しました。

◆Windows エージェントログ

Windows エージェントの動作に関するログの一覧です。

ログ名	契機	種別	ログ
ライセンス認証ログ	ライセンス認証	機器	機器「(機器名)」のエージェントを認証しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントの認証を解除しました。
リモートロックログ	リモートロック	機器	機器「(機器名)」のリモートロックを行います。
		機器	機器「(機器名)」のリモートロックを行いました。
		機器	機器「(機器名)」のリモートロックが失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のロック解除を行います。
		機器	機器「(機器名)」のロック解除を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のロック解除が失敗しました。
リモートワイプログ	リモートワイプ	機器	機器「(機器名)」のエージェントがリモートワイプ(BitLocker)を行います。

ログ名	契機	種別	ログ
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがリモートワイプ(データ削除)を行います。
		機器	機器「(機器名)」でリモートワイプ(BitLocker)が実行されました。
		機器	機器「(機器名)」でリモートワイプ(BitLocker)が実行されませんでした。
		機器	機器「(機器名)」でリモートワイプ(データ削除)が実行されました。
		機器	機器「(機器名)」でリモートワイプ(データ削除)が実行されませんでした。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがリモートワイプ(PC 初期化)を行います。
		機器	機器「(機器名)」でリモートワイプ(PC 初期化)が実行されました。
		機器	機器「(機器名)」でリモートワイプ(PC 初期化)が実行されませんでした。
外部デバイス使用制限ログ	外部デバイス使用制限	機器	機器「(機器名)」のエージェントが外部デバイスの設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが外部デバイスの設定に失敗しました。
	外部デバイス使用検知	機器	機器「(機器名)」のエージェントが外部デバイスの禁止を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが外部デバイスの禁止に失敗しました。
	外部デバイスの禁止設定の変更検知	機器	機器「(機器名)」が外部デバイスの書き込み禁止設定の変更を検知しました。
CD/DVD/ブルーレイ使用制限ログ	CD/DVD/ブルーレイ使用制限	機器	機器「(機器名)」のエージェントが CD/DVD/ブルーレイの設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが CD/DVD/ブルーレイの設定に失敗しました。
アプリケーション禁止ログ	アプリケーション禁止	機器	機器「(機器名)」のエージェントがアプリケーション禁止の設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがアプリケーション禁止の設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが「(アプリ名(対象名))」を禁止しました。 <input checked="" type="checkbox"/> アプリケーション名ありの場合
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが「(対象名)」を禁止しました。 <input checked="" type="checkbox"/> アプリケーション名なしの場合
		機器	機器「(機器名)」は「アプリケーション禁止(許可するアプリケーションを指定する)」の設定に対応していません。
アプリケーション禁止ログ	アプリケーション禁止	機器	機器「(機器名)」のエージェントがアプリケーション禁止の設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがアプリケーション禁止の設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが「(アプリケーション名(対象名))」を禁止しました。
管理外機器ログ	管理外機器	機器	管理外機器「(管理外機器名)」がネットワーク「(ネットワーク名)」で検出されました。

ログ名	契機	種別	ログ
		機器	管理外機器「(管理外機器名)」がネットワーク「(ネットワーク名)」から検出されなくなりました。
		機器	管理外機器「(管理外機器名)」がネットワーク「(ネットワーク名1)」からネットワーク「(ネットワーク名2)」に移動しました。
		機器	管理外機器「(管理外機器名)」がネットワーク「(ネットワーク名)」から検出されなくなりました。
システム診断ログ	システム診断	機器	機器「(機器名)」のエージェントがシステム診断の設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがシステム診断の設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがシステム診断の項目「(設定項目)」の設定に成功しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがシステム診断の項目「(設定項目)」の設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」はシステム診断の項目「(設定項目)」の設定に対応していません。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがシステム診断の項目「(設定項目)」の設定をスキップしました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがアラートを検出しました:「(アラート項目)」
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがアラートを検出しなくなりました。診断結果に問題はありません:「(アラート項目)」
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがシステム診断の項目「(設定項目)」の診断に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」はシステム診断の項目「(設定項目)」の診断に対応していません。
システムセキュリティログ	システムセキュリティ	機器	機器「(機器名)」のエージェントがシステムセキュリティの設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがシステムセキュリティの設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがシステムセキュリティの項目「(設定項目)」の設定に成功しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがシステムセキュリティの項目「(設定項目)」の設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」がシステムセキュリティの項目「(設定項目)」の設定に対応していません。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがシステムセキュリティの項目「(設定項目)」の設定をスキップしました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがアラートを検出しました:「(アラート項目)」
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがアラートを検出しなくなりました。診断結果に問題はありません:「(アラート項目)」
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがシステムセキュリティの項目「(設定項目)」の診断に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」はシステムセキュリティの項目「(設定項目)」の診断に対応していません。

ログ名	契機	種別	ログ
暗号化ログ	暗号化	機器	機器「(機器名)」のエージェントが暗号化の設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが暗号化の設定に失敗しました。
プロキシログ	プロキシ	機器	機器「(機器名)」のエージェントがプロキシの設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがプロキシの設定に失敗しました。
Wi-Fi フィルタリングログ	Wi-Fi フィルタリング	機器	機器「(機器名)」のエージェントが Wi-Fi フィルタリングの設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが Wi-Fi フィルタリングの設定に失敗しました。
Zone Management ログ	Zone Management	機器	機器「(機器名)」の操作者がゾーン「zone」に入りました。ポリシー「(ポリシー名)」を適用します。
		機器	機器「(機器名)」の操作者がゾーン外に出ました。機器の設定を適用します。
		機器	Wi-Fi を有効にしてください。
		機器	端末が Wi-Fi に対応していません。
		機器	GPS とネットワーク位置情報が無効になっています。
		機器	GPS と Wi-Fi とモバイルネットワークが無効になっています。
		機器	端末が位置情報取得に対応していません。
		機器	端末の時刻が大きすぎています。
位置情報取得	位置情報管理の設定反映	機器	機器「(機器名)」のエージェントが位置情報の設定を行いました。
	位置情報管理の設定反映失敗	機器	機器「(機器名)」のエージェントが位置情報の設定に失敗しました。
スクリーンロックログ	スクリーンロック	機器	機器「(機器名)」のエージェントがスクリーンロックの設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがスクリーンロックの設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントが端末が非対応 OS のためスクリーンロックの設定に失敗しました。
		機器	機器「(機器名)」の操作者が指定回数連続でのパスワードの入力に失敗したため、端末をロックします。
		機器	機器「(機器名)」の指定回数連続でのパスワード入力失敗による端末ロックを解除します。
		機器	機器「(機器名)」の操作者が指定回数連続でのパスワードの入力に失敗したため、端末をワイプしました。
		機器	機器「(機器名)」の操作者が指定回数連続でのパスワードの入力に失敗しましたが、ワイプ(BitLocker)が実行されませんでした。
		機器	機器「(機器名)」の操作者が指定回数連続でのパスワードの入力に失敗しましたが、ワイプ(データ削除)が実行されませんでした。
		機器	機器「(機器名)」の操作者が指定回数連続でのパスワードの入力に失敗しましたが、ワイプ(PC 初期化)が実行されませんでした。
Windows 更新プログラムログ	Windows 更新プログラムの未適用存在	機器	機器「(機器名)」で Windows 更新プログラムの未適用が存在します。

ログ名	契機	種別	ログ
	Windows 更新プログラムの未適用アラート解除	機器	機器「(機器名)」で Windows 更新プログラムの未適用がなくなりました。
	Office 更新プログラムの未適用存在	機器	機器「(機器名)」で Office 更新プログラムの未適用が存在します。
	Office 更新プログラムの未適用アラート解除	機器	機器「(機器名)」で Office 更新プログラムの未適用がなくなりました。
SIM 抜き差し監視ログ	SIM 挿抜監視 ON 設定投入	機器	機器「(機器名)」の SIM 抜き差し監視設定を行います。
	SIM 挿抜監視 OFF 設定投入	機器	機器「(機器名)」の SIM 抜き差し監視設定の解除を行います。
	SIM 挿抜監視, 監視対象 SIM 登録の通知	機器	機器「(機器名)」の抜き差し監視対象 SIM として「ICCID」を登録しました。 ☑監視対象 SIM 固定化
	正 SIM 抜去によるロック受信	機器	機器「(機器名)」の登録済み SIM が抜去されたためロックしました。 ☑監視対象 SIM 挿抜監視
	不正 SIM 挿入によるロック受信	機器	機器「(機器名)」に未登録 SIM が挿入されたためロックしました。 ☑監視対象 SIM 挿抜監視
	正 SIM 抜去と不正 SIM 挿入によるロック受信	機器	機器「(機器名)」に登録済み SIM 抜去と未登録 SIM 挿入が同時に行われたためロックしました。 ☑監視対象 SIM 挿抜監視
	監視対象 SIM の状態復帰によるアンロック受信	機器	機器「(機器名)」に正しく登録済み SIM が挿入されたためロックを解除しました。 ☑監視対象 SIM 挿抜監視
クライアント証明書ログ	クライアント証明書設定成功	機器	機器「(機器名)」のエージェントがクライアント証明書の設定を行いました。
	クライアント証明書設定失敗	機器	機器「(機器名)」のエージェントがクライアント証明書の設定に失敗しました。
	クライアント証明書設定非対応	機器	機器「(機器名)」のエージェントが端末が非対応 OS のためクライアント証明書の設定に失敗しました。
お気に入りログ	お気に入り	機器	機器「(機器名)」のエージェントがお気に入りの設定を行いました。
		機器	機器「(機器名)」のエージェントがお気に入りの設定に失敗しました。(n 件中 n 件失敗)
		機器	機器「(機器名)」がお気に入り設定に対応していません。

13 サイトマップ

この章では、ダッシュボードの [サイトマップ] 画面にのみ表示される一部の機能について説明します。
サイトマップへのアクセス方法については、以下を参照してください。

 「管理サイト画面の構成」46 ページ

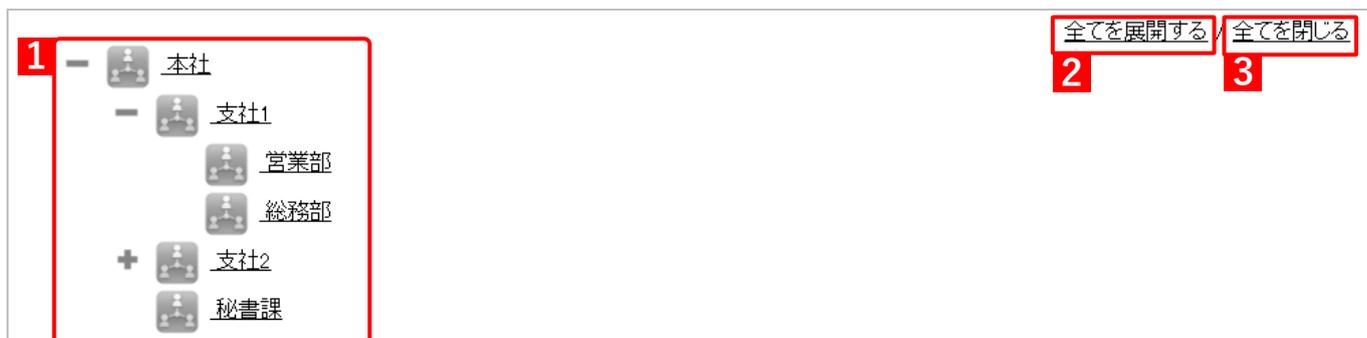
13.1 組織図

登録されている組織をツリー状の組織図で表示します。組織構造を視覚的に確認することができます。また、各組織アイコンをクリックすると、[組織] 画面が表示されます。組織の詳細については、以下を参照してください。

🏠 「一覧」 344 ページ

◆画面

表示操作 [サイトマップ] → [組織図]



項番	名称	説明
1	組織図	登録されている組織をツリー状に表示します。 + をクリックすると直下の組織を表示します。 - をクリックすると表示されている直下の組織を非表示にします。
2	全てを展開する	クリックするとすべての組織を表示します。 組織図中のすべての + をクリックした場合と同様の動きです。
3	全てを閉じる	クリックすると最上位の組織のみを表示します。 組織図中のすべての - をクリックした場合と同様の動きです。

13.2 管理外機器エクスポート

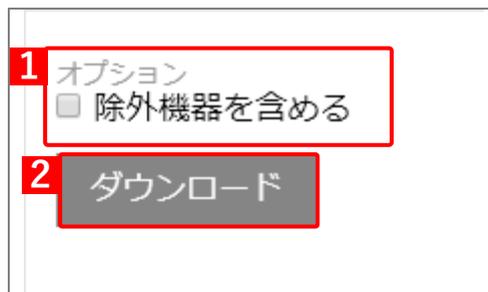
管理外機器の一覧を出力（エクスポート）します。管理外機器の詳細については、以下を参照してください。

[🔗 「機器の種類」 238 ページ](#)

出力時の文字コードは日本語環境では SHIFT-JIS (cp932)、その他の環境では UTF-8 です。

◆画面

表示操作 [サイトマップ] → [管理外機器エクスポート]



項番	名称	説明
1	オプション	<ul style="list-style-type: none"> ● 除外機器を含める ダウンロードするファイルに除外機器を含める場合は、チェックボックスにチェックを入れます。除外機器の詳細については、以下を参照してください。 🔗 「機器の種類」 238 ページ
2	[ダウンロード]	クリックするとファイルのダウンロードが開始されます。任意の場所に CSV ファイルを保存します。

13.3 ネットワーク

マップで検出されたネットワークに、ネットワーク名の設定や管理外機器の検出の設定を行うことができます。ネットワークは、グローバルネットワークとローカルエリアネットワークの 2 種類があり、グローバルネットワークは新規作成や編集が行えます。また、ローカルエリアネットワークは編集のみ行えます。

-  画面
-  画面 (新規作成)
-  画面 (ローカルネットワークの編集)

◆画面

表示操作 [サイトマップ] → [ネットワーク]

以下の画面は、特定のネットワーク設定をネットワーク一覧から選択すると表示されます。



項番	名称	説明
1	検索／表示条件	ネットワーク一覧から絞り込む、「検索」(検索項目)、「フィルター」(フィルター項目)、「昇順」または「降順」(並べ替え項目)が表示されます。各項目は  をクリックして選択します。
2		クリックするとネットワーク設定の「新規作成」画面が表示されます。  「画面 (新規作成)」 831 ページ

項番	名称	説明
3		<p>クリックすると以下のメニューが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全てにチェックを入れる 選択すると、ネットワーク一覧にあるすべてのネットワーク設定のチェックボックスにチェックが入ります。 ● 全てのチェックをはずす 選択すると、ネットワーク一覧にあるすべてのネットワーク設定のチェックボックスのチェックが外れます。 ● 検索対象 検索対象をネットワーク名、グローバル IP アドレス、ネットワークアドレス、ローカルネットワーク、備考のいずれかに変更します。 ● フィルター フィルターの対象をグローバルネットワーク、ローカルエリアネットワーク、全てのいずれかに変更します。 ● 並べ替え 昇順 ネットワーク一覧をネットワーク名、グローバル IP アドレス、ネットワークアドレス、検出日時のいずれかで、昇順に並び替えます。 ● 並べ替え 降順 ネットワーク一覧をネットワーク名、グローバル IP アドレス、ネットワークアドレス、検出日時のいずれかで、降順に並び替えます。 ● 一括削除 ● ネットワーク一覧でチェックの入っているネットワーク設定を削除します。
4	検索キーワード入力ボックス	<p>検索するキーワードを入力して  をクリックすると、ネットワーク一覧からキーワードで絞り込まれたネットワーク設定が表示されます。 検索したあとにすべてのネットワーク設定を再表示するには、ブラウザを再読み込み、またはボックスを空欄にして再度  をクリックします。</p>
5	ネットワーク一覧	保存されているネットワーク設定の一覧が表示されます。
6	管理情報	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバルネットワーク名 グローバルネットワークの名称が表示されます。 ● 管理外機器の検出 管理外機器を検出してマップに表示する、管理外機器の検出の設定内容が表示されます。 ● 管理外機器のアラート 管理外機器をマップ上で赤く表示する、管理外機器のアラートの設定内容が表示されます。 ● 備考 備考欄です。 <p><input checked="" type="checkbox"/> 管理情報の設定内容については、以下を参照してください。</p> <p> 「画面（新規作成）」 831 ページ</p>
7	グローバル IP アドレス	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバル IP アドレス グローバル IP アドレスが表示されます。 ● 検出日時 検出日時が表示されます。
8	ローカルネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ● デフォルトゲートウェイの MAC アドレス デフォルトゲートウェイの MAC アドレスを入力します。 <p> をクリックして 300 件まで登録できます。</p>

◆画面（新規作成）

表示操作 [サイトマップ] → [ネットワーク] →  （一覧から対象を選択 → [編集]）

項番	名称	説明
1	グローバルネットワーク名	グローバルネットワークの名称を 1 文字から 30 文字以内で入力します。
2	管理外機器の検出	管理外機器検出の有効または無効を設定します。 ●有効 管理外機器を検出し、マップに表示します。  「有効」に設定してもネットワーク内に Windows エージェントが入っている機器がない場合、管理外機器の検出は行えません。 ●無効 管理外機器の検出はせず、マップにも表示しません。
3	管理外機器のアラート	管理外機器アラートの有効または無効を設定します。 ●有効 管理外機器をマップ上で赤く表示します。 ●無効 管理外機器をマップ上で赤く表示することなく、その他の機器と同様に表示します。
4	備考	備考があれば 255 文字以内で入力します。

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
▲ 配下の管理ネットワークが存在するため削除できません。	削除しようとしているネットワークの配下にローカルネットワークが存在している。	削除したいネットワークの配下にある全てのローカルネットワークを先に削除してください。
▲ 配下の管理ネットワークが存在するため一括削除できません。	一括削除対象のネットワークのうち、配下にローカルネットワークが存在するネットワークが含まれている。	一括削除対象のネットワーク配下にローカルネットワークが存在しないように、先に削除してください。

◆画面（ローカルネットワークの編集）

ローカルエリアネットワークを編集します。

 ローカルエリアネットワークの新規作成はできません。編集のみ行えます。

表示操作 [サイトマップ] → [ネットワーク] → 一覧から対象を選択 → [編集]


新規作成

管理

管理情報 - 編集

1 グローバルネットワーク名

2 ローカルエリアネットワーク名

3 備考

保存

サブネット

4 ネットワークアドレス

項番	名称	説明
1	グローバルネットワーク名	グローバルネットワークの名称が表示されます。このグローバルネットワーク名を変更する場合は、該当の「グローバルネットワーク」をネットワーク一覧から選択して編集します。
2	ローカルエリアネットワーク名	ローカルエリアネットワークの名称を 1 文字から 30 文字以内で入力してください。
3	備考	備考を 255 文字以内で入力してください。
4	ネットワークアドレス	ローカルエリアネットワークのネットワークアドレスが表示されます。

◆エラー一覧

文言	発生契機	対処方法
<p>▲ ネットワークアドレスは既存のネットワークアドレスと重複しないものを入力してください。</p>	登録しようとしたネットワークアドレスの情報が、既に管理サイト上に存在している。	既に管理サイト上に存在しているネットワークアドレスとは重複しない情報を入力し、登録してください。

13.4 Android エージェント個別管理

Android エージェントに、Push 通知に関する設定を行うための設定セットを作成します。

本機能では、Push 通知の利用や停止、Wi-Fi 接続時のみ利用を停止するなどの設定を行うことができます。

 エージェント個別管理が未設定の場合は、Push 通知を [利用する] に設定した場合と同じ動作になります。

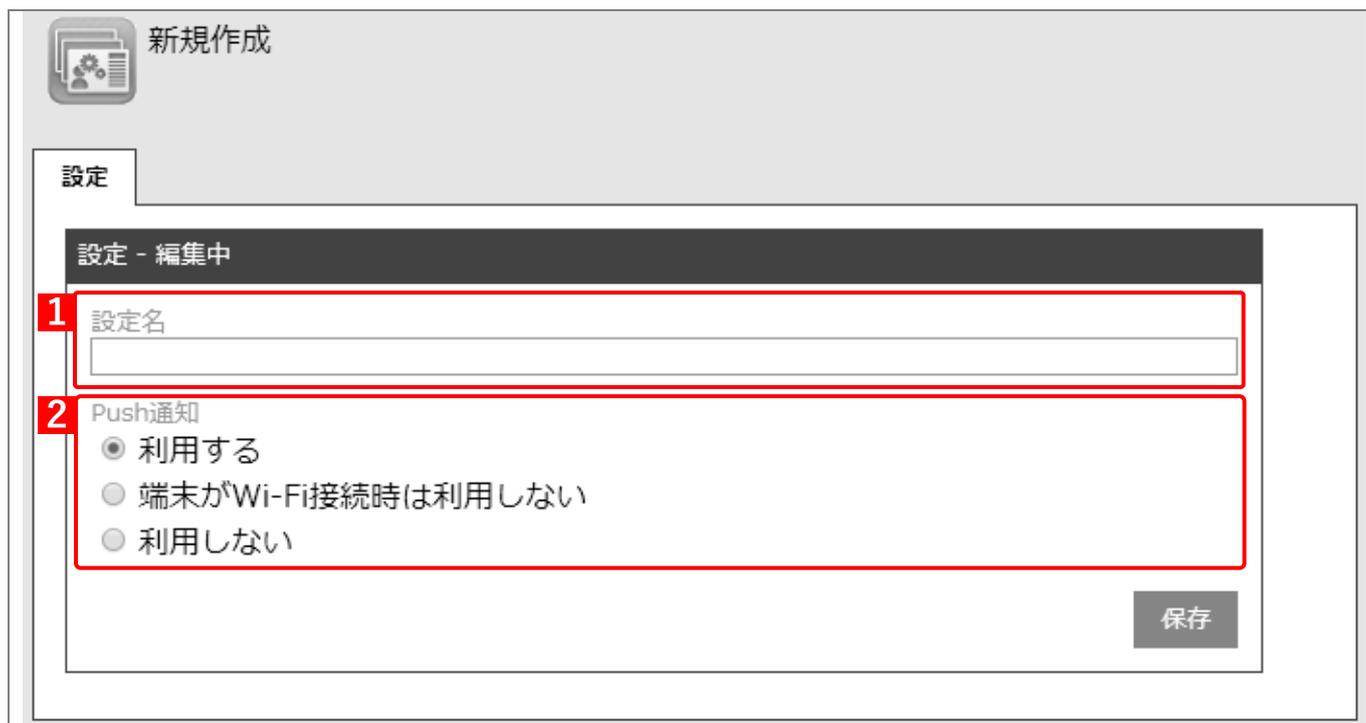
 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

◆画面

表示操作 [サイトマップ] → 「Android」の [エージェント個別管理] →  または [編集]



項番	名称	説明
1	設定名	設定セットの名称を 1 文字から 30 文字以内で入力します。
2	Push 通知	Push 通知の利用可否を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 利用する ● 端末が Wi-Fi 接続時は利用しない Push 通知を利用します。ただし、Wi-Fi 接続時は利用しません。 ● 利用しない

13.5 Android リモートロック

対象の Android 端末をリモートロックするための設定セットを作成します。

リモートロックの設定セットを割り当てておくと、同期するたびに端末がロックされるため、定期的リモートロックを行いたい場合に有効です。

リモートロックを行うと本製品独自のロック画面が表示され、端末を操作できなくなります。また、ロック画面に表示させるメッセージや、警告音の有無なども設定できます。

リモートロックの解除は、「リモートロック」項目で [ロックしない] を選択した設定セットを作成し、端末に同期します。

 「ロック解除」機能で、本リモートロックを解除することもできます。ただし、「リモートロック」機能で端末をロックしている場合は、本機能で [ロックしない] を選択した設定セットを作成し、端末に同期しても、ロックは解除されません。「ロック解除」機能については、以下を参照してください。

 「(操作 - Android) ロック解除」 151 ページ

 「リモートロック」機能で端末をロックすることもできます。ただし、本機能よりも「リモートロック」機能が優先されるため、「リモートロック」機能で端末がロックされている場合に本機能でロックを行っても、本機能のロック内容は端末に反映されません。また、本機能でロック中に「リモートロック」機能のロックが行われた場合は、「リモートロック」機能のロック内容に変更されます。「リモートロック」機能については、以下を参照してください。

 「(操作 - Android) リモートロック」 148 ページ

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

◆画面

表示操作 [サイトマップ] → 「Android - 使用制限」の [リモートロック] → **+** (一覧から対象を選択 → [編集])

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 リモートロック
ロックする ロックしない

3 ロックメッセージ

4 ロック時の警告音
鳴動する 鳴動しない

保存

項番	名称	説明
1	設定名	設定セットの名称を 1 文字から 30 文字以内で指定します。
2	リモートロック	<p>端末のリモートロック設定を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ロックする 端末のリモートロック設定を有効設定します。 ●ロックしない 端末のリモートロック設定を無効または解除設定します。 <p><input checked="" type="checkbox"/> Android 5.0~6.0 では、リモートロックを行ってもリモートロック中にマルチユーザー切り替えができるため、別アカウントとして操作できます。</p>
3	ロックメッセージ	端末のリモートロック設定時に端末に表示させるメッセージを 200 文字以内で設定します。空白類（タブ、改行など）は入力できません。
4	ロック時の警告音	<p>リモートロックした端末から警告音を鳴らすかどうかを、以下から選択します。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 本機能は Android 4.0 以上に対応しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●鳴動する リモートロックされた端末で、警告音を鳴らします。 <input checked="" type="checkbox"/> ロック画面が表示されている間、警告音として端末に設定されている通知音が最大音量で鳴り続けます。本設定にする場合は、十分に注意してください。 <input checked="" type="checkbox"/> イヤホン利用時の動作は機種によって異なります。 <input checked="" type="checkbox"/> ハードウェアスイッチによりサイレントモードになっている端末は鳴動しませんのでご注意ください。 ●鳴動しない リモートロックされた端末で、警告音を鳴らしません。

13.6 Android リモートワイプ

対象の Android 端末にリモートワイプを行うための設定セットを作成します。

本機能を実行すると対象の端末が初期化されます。

- ✔ 本機能を実行すると操作を取り消すことはできません。十分に注意してください。
- ✔ リモートワイプで端末を初期化した場合、端末の OS は初期化したときと同じバージョンになります。ただし、アップデートの方法や仕様により、初期化する直前の OS バージョンにならない場合もあります。
- ✔ リモートロックの設定セットと本機能で [SD カードで初期化する] を設定した設定セットを作成し、同時に同期した場合、いずれかの設定が端末に反映されない場合があります。同期を再び実行し、両方の設定が反映されていることを確認してください。
- ✔ 同期タイミングのたびにリモートワイプが指示されるため、リモートワイプを行ったあとは、[設定割り当て] の [リモートワイプ] から設定セットを外してください。
 - 📄 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ
- ✔ 「リモートワイプ」機能でリモートワイプを行うこともできます。「リモートワイプ」機能については、以下を参照してください。
 - 📄 「(操作 - Android) リモートワイプ」 152 ページ
- ✍ 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。
 - 📄 「(設定 - Android) 設定の割り当て」 112 ページ
 - 📄 「全機器一括設定」 248 ページ

◆ 画面

表示操作 [サイトマップ] → 「Android - 使用制限」の [リモートワイプ] → **+** (一覧から対象を選択 → [編集])

新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 端末初期化
 初期化する 初期化しない

3 オプション
 SDカードを初期化する
 ファクトリーリセット保護を無効化する

保存

項番	名称	説明
1	設定名	設定セットの名称を 1 文字から 30 文字以内で指定します。
2	端末初期化	端末のリモートワイプ設定を行います。 ●初期化する チェックを入れることで端末を初期化する設定とします。 ●初期化しない チェックを入れることで端末を初期化しない設定とします。
3	オプション	●SD カードを初期化する チェックを入れることで端末の初期化時に SD カードも初期化を行います。 ●ファクトリーリセット保護を無効化する チェックを入れることでファクトリーリセット保護を無効化にします。 <input checked="" type="checkbox"/> ファクトリーリセット保護とは、Android 端末を初期化したとき、Google アカウントの認証が必要になることで、キッティングが完了できないようにする機能です。Android 端末の盗難防止になります。

13.7 Windows エージェント個別管理

Windows エージェントに、管理外機器の検出に関する設定を行うための設定セットを作成します。

本機能では、管理外機器の検出機能を有効、または無効に設定することができます。

 作成した設定セットは、端末ごと、または全端末に一括で割り当てることで、端末に反映されます。

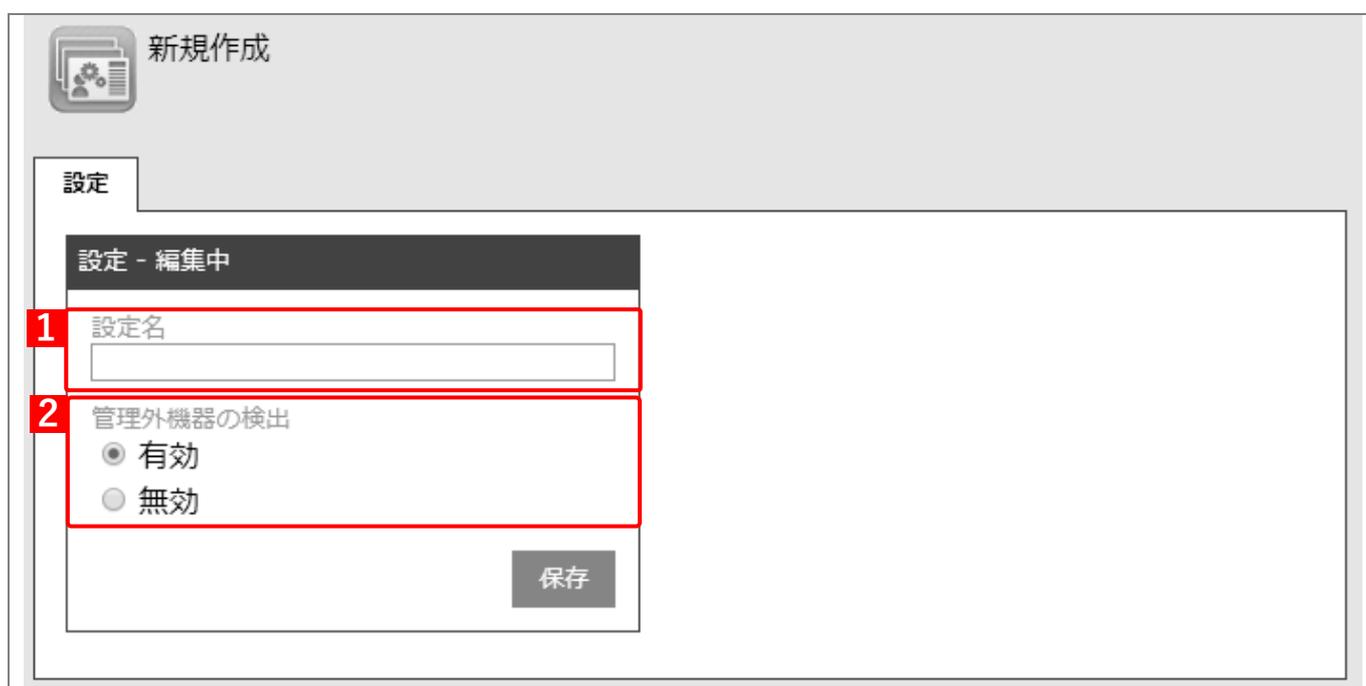
 「(設定 - Windows) 設定セットの割り当て」 140 ページ

 「全機器一括設定」 248 ページ

 設定セットは、最大 50 件まで作成できます。

◆画面

表示操作 [サイトマップ] → 「Windows」の [エージェント個別管理] →  (一覧から対象を選択 → [編集])



新規作成

設定

設定 - 編集

1 設定名

2 管理外機器の検出

有効

無効

保存

項番	名称	説明
1	設定名	設定セットの名称を 1 文字から 30 文字以内で指定します。
2	管理外機器の検出	管理外機器の検出の利用可否を以下の項目から指定します。 ●有効 ●無効

13.8 Windows 情報保護イベントログ

Windows 情報保護で保護されたファイルの操作状況や操作概要のログを CSV ファイルとしてダウンロードします。Windows 情報保護については、以下を参照してください。

📖 「Windows 情報保護」 700 ページ

🔍 本機能は、Windows 11 Pro/Enterprise/Education の 32 ビット版と 64 ビット版、および Windows 10 Pro (1803 以上)、Windows 10 Enterprise (1709 以上)、Windows 10 Education (1709 以上) に対応しています。

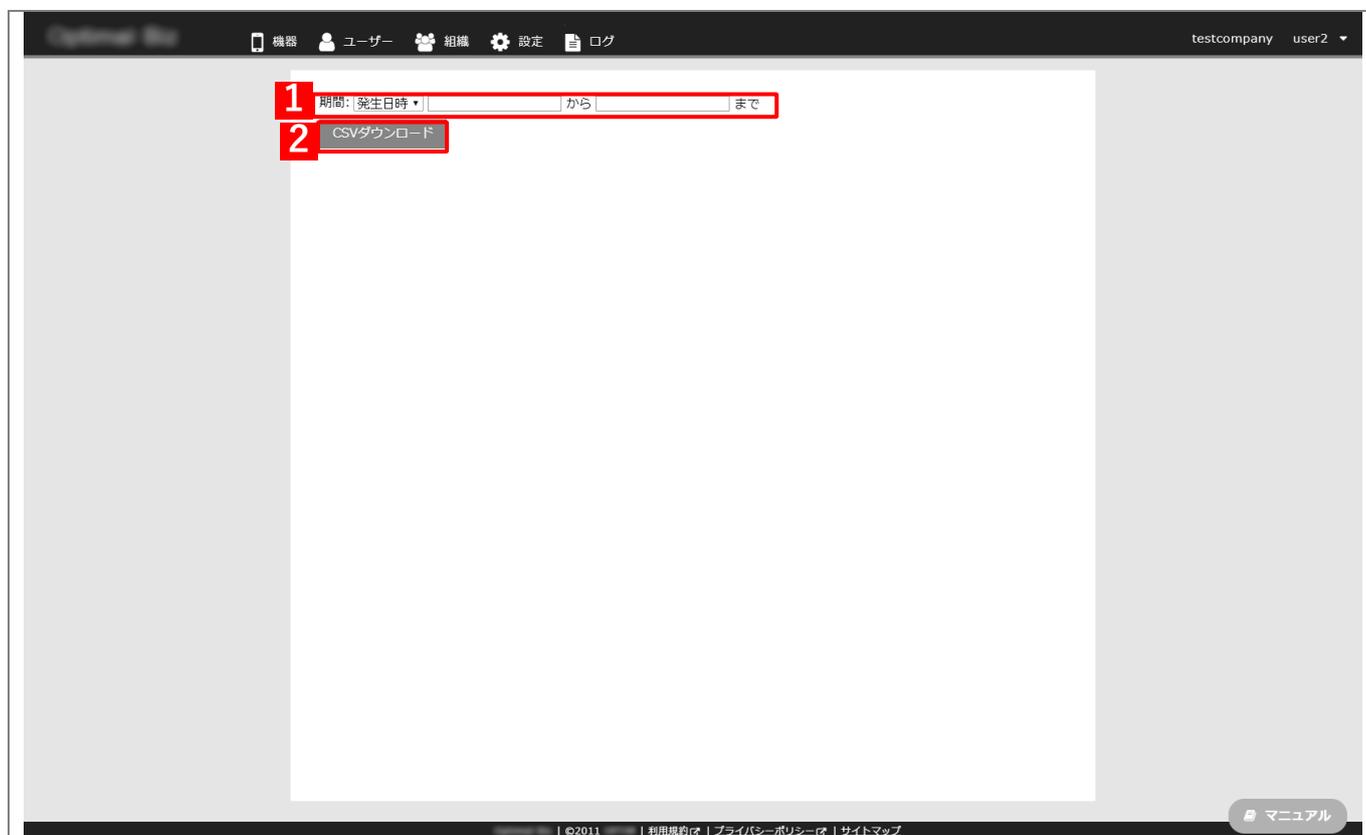
🔍 Windows 情報保護の詳細については、Microsoft 社の Web サイトを参照してください。

📖 <https://docs.microsoft.com/ja-jp/windows/security/information-protection/windows-information-protection/protect-enterprise-data-using-wip>

◆画面

表示操作 [サイトマップ] → 「Windows」 の [Windows 情報保護イベントログ]

🔍 画面にログ一覧は表示されません。



項番	項目	説明
1	期間	<p>検索対象の日時の種類を選択し、日時の範囲を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">●発生日時 発生日時で期間を絞り込む場合に選択し、絞り込む日時の期間を設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> 端末での発生日時と管理サイトで検知した日時は、端末により数秒の差が発生する場合があります。●受信日時 受信日時で期間を絞り込む場合に選択し、絞り込む日時の期間を設定します。 <input checked="" type="checkbox"/> 日時の期間は「[] から [] まで」の形式で指定できます。「[] から」のみ、「[] まで」のみの指定もできます。 <input checked="" type="checkbox"/> 日時の入力欄をクリックするとカレンダーが表示され、日付、時間を設定できます。入力欄に直接入力もできます。
2	[CSV ダウンロード]	<p>クリックし、確認画面で [OK] をクリックすると、対象のログが CSV ファイルでダウンロードされます。</p> <p>件数によってはダウンロードに時間がかかる場合があります。</p>

14 付録

[設定の割り当て] の各項目で、[(設定なし)] を端末に反映した場合の動作を、Android 端末、iOS 端末、Windows 端末別に説明します。

14.1 各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合の端末の動作

各機能を設定後に設定内容を [(設定なし)] に変更した場合に、各機能がどのような動作となるかを表で説明します。また、以下の操作で、各機能の設定を [(設定なし)] に変更した場合、操作方法によって、各機能の動作が異なります。

- 全機器一括設定で各機能の設定を [(設定なし)] に変更し、端末と同期した場合
 - 機器の設定の [設定の割り当て] で各機能の設定を [(設定なし)] に変更し、端末と同期した場合
 - 設定テンプレートの各機能の設定で [(設定なし)] に変更し、機器の設定の [設定テンプレートの割り当て] で端末と同期した場合
 - Zone Management のポリシーの各機能の設定を [(設定なし)] に変更し、端末と同期した場合
-  実際の端末の動作は OS に依存するため、表に記載されている動作とは異なる場合があります。

◆ Android 端末の場合

[(設定なし)] を割り当てた場合の、Android 端末の挙動を記載しています。

-  「そのまま設定値が継続される」設定については、[(設定なし)] を割り当てたあと、手動で各機能の設定を復元してください。

項番	機能名 (設定セット名)	元に戻る	そのまま設定値が継続される
1	エージェント個別管理	○	—
2	位置情報管理	○	—
3	アプリケーション禁止	○	—
4	SD カード  Android 5.0 未満の場合は「そのまま設定値が継続される」動作となります。	○	—
5	カメラ	○	—
6	Bluetooth	—	○
7	スクリーンロック	—	○
8	リモートロック  エージェントバージョン 5.7.0 未満の場合は「元にもどる」動作となります。	—	○
9	リモートワイプ	○	—
10	Wi-Fi フィルタリング	○	—
11	Web フィルタリング	○	—
12	Web 閲覧履歴	—	○
13	発信先制限	○	—
14	アプリケーション検知	○	—
15	Secure Shield	○	—
16	USB	○	—
17	ウイルス対策機能	○	—
18	アプリケーション配信	○	—
19	Wi-Fi	—	○
20	お気に入り	—	○
21	連絡先	—	○
22	暗号化	○	—
23	CA 証明書管理	—	○

項番	機能名 (設定セット名)	元に戻る	そのまま設定値が継続される
24	ゾーンポリシー構成	○	—
25	OS アップデート設定 (DOM)	○	—
26	NFC キットティング設定	○	—
27	セキュリティ設定 (DOM)	○	—
28	アプリケーション非表示設定 (DOM)	○	—

◆iOS 端末の場合

[(設定なし)] を割り当てた場合の、iOS 端末の挙動を記載しています。

「そのまま設定値が継続される」設定については、[(設定なし)] を割り当てたあと、手動で各機能の設定を復元してください。

項番	機能名 (設定セット名)	元に戻る	そのまま設定値が継続される
1	構成プロファイル	○	—
2	ローミング設定	—	○
3	アプリケーション配信	○	—
4	アプリケーション検知	○	—
5	Web フィルタリング	○	—
6	Web 閲覧履歴	○	—
7	ホーム画面レイアウト	○	—

◆Windows 端末の場合

[(設定なし)] を割り当てた場合の、Windows 端の挙動を記載しています。

「そのまま設定値が継続される」設定については、[(設定なし)] を割り当てたあと、手動で各機能の設定を復元してください。

項番	機能名 (設定セット名)	元に戻る	そのまま設定値が継続される
1	エージェント個別管理	○	—
2	アプリケーション禁止	○	—
3	USB	○	—
4	CD/DVD/ブルーレイ	○	—
5	Wi-Fi フィルタリング	○	—
6	システム設定・診断	○	—
7	システムセキュリティ	○	—
8	暗号化 <input checked="" type="checkbox"/> 暗号化を解除するには「無効化」を設定し割り当てるか、端末側で解除してください。	—	○
9	プロキシ	○	—
10	お気に入り <input checked="" type="checkbox"/> 設定したホームページやお気に入りなどは削除されません。	—	○
11	アプリケーション配信 <input checked="" type="checkbox"/> 端末に配信されたアプリは削除されません。	—	○
12	Wi-Fi	○	—

項番	機能名 (設定セット名)	元に戻る	そのまま設定値が 継続される
13	CA 証明書管理  配信した CA 証明書は、端末側で削除してください。	-	○
14	スクリーンロック  スクリーンセーバー、パスワードポリシー、ロック解除時の失敗についても継続されます。	-	○
15	位置情報管理	○	-
16	SIM 抜き差し監視	○	-
17	ゾーンポリシー構成  ゾーン設定、ポリシー設定も元に戻ります。	○	-
18	Windows 情報保護	○	-